

医 学 部

呼吸器内科学教室	1	放射線腫瘍学教室	111
腎臓・リウマチ膠原病内科学教室	5	麻酔科学教室	111
脳神経内科学教室	11	臨床検査医学教室	114
循環器内科学教室	13	予防医学教室	116
不整脈先進治療学研究講座	22	臨床感染症学教室	117
血液内科学教室	24	総合医療学教室	119
消化器内科学教室	25	リハビリテーション医学教室	121
糖尿病・内分泌・代謝内科学教室	43	脳卒中医学教室	122
腫瘍内科学教室	46	医学教育学教室	126
高齢医学教室	50	肉眼解剖学教室	126
精神神経科学教室	51	顕微解剖学教室	128
小児科学教室	56	統合生理学教室	129
消化器・一般外科学教室	60	病態生理学教室	130
呼吸器・甲状腺外科学教室	65	代謝生化学教室	131
乳腺外科学教室	67	細胞生化学教室	131
小児外科学教室	69	薬理学教室	131
救急医学教室	69	病理学教室	132
脳神経外科学教室	70	感染症学教室	136
心臓血管外科学教室	73	衛生学公衆衛生学教室	137
整形外科教室	74	法医学教室	139
皮膚科学教室	80	共同研究施設RI部門	139
形成外科学教室	85	共同研究施設フローサイトメトリー部門	139
泌尿器科学教室	90	共同研究施設実験動物施設部門	140
眼科学教室	94	生物学教室	140
耳鼻咽喉科学教室	101	物理学教室	140
産科婦人科学教室	103	化学教室	140
放射線医学教室	109	英語学教室	140

呼吸器内科学教室

講演

1. 石井晴之：肺胞蛋白症における新たな標準的治療-GM-CSF吸入療法-. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
2. 皿谷健：重症喘息治療のup-to-date～バイオ製剤を“決断”メポリズマブを“選択”する理由. Mepolizumab Severe Asthma Seminar. 東京. 2024年4月.
3. 皿谷健：呼吸器内科がさらに好きになる!呼吸器診療の超スキルアップ(聴診/身体所見)五感で学ぶ呼吸器疾患のphysical diagnosis:実際の音源を含めて. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
4. 皿谷健：Year in Review 臨床諸問題. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
5. 石田学, 石田裕美, 秋澤孝虎, 阿部太郎, 高木涼, 家城恵梨子, 石川周成, 麻生純平, 布川寛樹, 中元康雄, 佐田充, 中本啓太郎, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之：自己免疫性肺胞蛋白症における胸部X線動態画像の有用性. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
6. 宮岡智花, 渡辺雅人, 中本啓太郎, 佐田充, 吉田悠貴, 麻生純平, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之：A.alternataを投与したPPE誘発肺気腫モデルマウスでは肺内IL-33の増加と2型気道炎症の抑制が生じる. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
7. 阿部太郎, 皿谷健, 秋澤孝虎, 高木涼, 家城恵梨子, 石川周成, 黒川のぞみ, 小林史, 布川寛樹, 麻生純平, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 中本啓太郎, 高田佐織, 石井晴之：コロナ禍に於ける市中肺炎の原因菌の変遷：単施設の後方視的検討. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
8. 家城恵梨子, 高田佐織, 秋澤孝虎, 石川周成, 阿部太郎, 高木涼, 麻生純平, 布川寛樹, 小林史, 中本啓太郎, 佐田充, 石田学, 皿谷健, 石井晴之：当院における進展型小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の有効性と安全性の検討. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
9. 高木涼, 皿谷健, 石井晴之, 高田佐織, 中本啓太郎, 佐田充, 石田学, 中元康雄, 麻生純平, 布川寛樹, 小林史, 黒川のぞみ, 石川周成, 家城恵梨子, 秋澤孝虎, 阿部太郎：コロナ禍前後における当院の間質性肺炎急性増悪症例の多角的検討. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
10. 本多紘二郎, 麻生純平, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 中本啓太郎, 大谷咲子, 高田佐織, 皿谷健, 橋俊一, 石井晴之：PF-ILDに対する抗線維化薬の有用性の検討. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
11. 中元康雄, 皿谷健, 高木涼, 阿部太郎, 秋澤孝虎, 家城恵梨子, 石川周成, 黒川のぞみ, 小林史, 布川寛樹, 麻生純平, 石田学, 佐田充, 中本啓太郎, 高田佐織, 石井晴之：COVID-19パンデミックにおける気管支喘息発作及びCOPD急性増悪症例の多角的検討. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
12. 中本啓太郎, 渡辺雅人, 齊藤正興, 春日啓介, 宮岡智花, 吉田悠貴, 布川寛樹, 麻生純平, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 本多紘二郎, 皿谷健, 下田真史, 田中良明, 早乙女幹朗, 大田健, 石井晴之：喘息, COPD, ACOにおける血清酸化ストレスの検討. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
13. 齊藤正興, 麻生純平, 春日啓介, 小林史, 布川寛樹, 石田学, 佐田充, 中本啓太郎, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之：消毒済の気管支スコープ内腔における細菌DNAの解析. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
14. 小林史, 皿谷健, 阿部太郎, 秋澤孝虎, 高木涼, 家城恵梨子, 石川周成, 黒川のぞみ, 布川寛樹, 麻生純平, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 中本啓太郎, 高田佐織, 石井晴之：気管支鏡における安全性の検証—鎮静・鎮痛・鎮咳の重要性—. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
15. 秋澤孝虎, 阿部太郎, 高木涼, 家城恵梨子, 石川周成, 黒川のぞみ, 小林史, 麻生純平, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 中本啓太郎, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之：当院における非小細胞肺癌に対するPD-1/PD-L1抗体±化学療法投与例の有効性と安全性の後方視的検討. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
16. 石川周成, 高田佐織, 秋澤孝虎, 阿部太郎, 高木涼, 家城恵梨子, 麻生純平, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 中本啓太郎, 皿谷健, 石井晴之：当院における進行・再発非小細胞肺癌に対するニボルマブ+イピリムマブ併用療法使用例の後方視的検討. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
17. 麻生純平：症例検討会CPC1. 両肺に多発する嚢胞・すりガラス陰影の一例. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜. 2024年4月.
18. 石井晴之：杏林大学医学部付属杉並病院の目指す医療連携について. 城西地区吸入療法研究会. オンライン. 2024年4月.
19. 石井晴之：特発性間質性肺炎の知見-新たな重症度分類に注目-. 杉並内科医会学術講演会. 東京. 2024年5月.
20. 石井晴之：新しいIIPs難病申請基準における画像診断ポイント. Experts on Pulmonary Fibrosis. 東京. 2024年5月.
21. 皿谷健：急性呼吸不全の成人入院症例における当院での原因微生物の検討. 第51回マイコプラズマ学会. つくば. 2024年5月.
22. 飯田翔, 石川周成, 秋澤孝虎, 阿部太郎, 高木涼, 家城恵梨子, 麻生純平, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 中本啓太郎, 高田佐織, 皿谷健, 藤原正親, 石井晴之：左房内浸潤を伴い左中大脳動脈への腫瘍塞栓/脳梗塞で発症した肺腺癌の一例. 第259回日本呼吸器学会関東地方会. 東京. 2024年5月.
23. 麻生純平 (パネリスト)：実症例から考える術後再発/進行非小細胞肺癌治療～抗CTLA-4抗体の位置づけ～. AZ Immuno-Oncology Seminar. オンライン. 2024年5月.
24. 皿谷健：COVID-19パンデミック後の呼吸器ウイルス感染症の現状と対策 成人のRSウイルス感染症の疫学とその予防. 第98回日本感染症学会学術講演会. 神戸. 2024年6月.
25. 石井晴之：自己免疫性肺胞蛋白症の克服にむけて-GM-CSF吸入療法的重要性-. 第260回日本呼吸器学会関東地方会. 東京. 2024年7月.
26. 石井晴之：IIPs早期治療介入の重要性と指定難病の診断基準. 弘前ILDセミナー. 弘前. 2024年7月.
27. 皿谷健：感染症のスペシャリストから診たCOPDの診断、治療、その注意点. みんなで学ぶCOPDを考

- える会. 京都. 2024年7月.
28. 田代隼基, 家城恵梨子, 麻生純平, 阿部太郎, 高木涼, 秋澤孝虎, 石川周成, 布川寛樹, 小林史, 黒川のぞみ, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 中本啓太郎, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之, 倉田麻衣子, 大山学, 磯村杏那: 肺腺癌治療中に水疱性類天疱瘡を含む多彩なirAEを発症した一例. 第260回日本呼吸器学会関東地方会. 東京. 2024年7月.
 29. 石井晴之: 抗線維化薬がもたらした間質性肺疾患診療への意義. 呼吸器サマーセミナーin多摩-専門医に聞く呼吸器疾患のポイント-. オンライン. 2024年8月.
 30. 石井晴之: IIPs早期治療介入の重要性と指定難病の診断基準. 間質性肺疾患 Webセミナーin船橋エリア. オンライン. 2024年8月.
 31. 皿谷健: 珠玉の症例集から学ぶ呼吸器診療サバイバル術~呼吸器内科こそ, General medicineだ!!~. 呼吸器サマーセミナーin多摩. 東京. 2024年8月.
 32. 石井晴之: 間質性肺疾患を理解する~早期診断・治療の重要性~. 北関東ILD Wwbセミナー. オンライン. 2024年9月.
 33. 石井晴之: 『慢性咳嗽の診断と治療』~何を考え何を必要とするか~. 東久留米市医師会学術講演会. オンライン. 2024年9月.
 34. 石井晴之: 特発性間質性肺炎における早期治療の重要性. 第4回日本びまん性肺疾患研究会. 東京. 2024年9月.
 35. 皿谷健: バイオ製剤を決断 メボリズマブを選択する理由. 重症喘息治療のup-to-date. 東京. 2024年9月.
 36. 中本啓太郎, 平野愛, 伊藤優志, 藤原啓司, 古内浩司, 下田真史, 森本耕三, 國東博之, 田中良明, 奥村昌夫, 吉山崇, 早乙女幹朗, 大田健: 肺 *Mycobacterium seoulense* 症の一例. 第186回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会第261回日本呼吸器学会関東地方会合同学会. 東京. 2024年9月.
 37. 吉橋莉央, 皿谷健, 高木涼, 田代隼基, 土井和之, 中嶋啓, 秋澤孝虎, 石川周成, 黒川のぞみ, 小林史, 麻生純平, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 高田佐織, 石井晴之, 宮内亮輔, 小野澤志郎: 縦隔型気管支動脈瘤の破裂に対し待機的に気管支動脈塞栓術(BAE)を施行した一例. 第186回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会第261回日本呼吸器学会関東地方会合同学会. 東京. 2024年9月.
 38. 石田学: 長期の治療経過で肺線維症を伴った自己免疫性肺胞蛋白症の1例. On-Line Multi-directional Communication Seminar. オンライン. 2024年9月.
 39. 皿谷健: 身体所見のエッセンスとピットフォール (PartI). 沖縄県立中部病院/ハワイ大学事務局. うるま. 2024年10月.
 40. 皿谷健: 画像診断のエッセンスとピットフォール (PartII). 沖縄県立中部病院/ハワイ大学事務局. うるま. 2024年10月.
 41. 皿谷健: 病歴のエッセンスとピットフォール (PartIII). 沖縄県立中部病院/ハワイ大学事務局. うるま. 2024年10月.
 42. 皿谷健: 呼吸器疾患のピットフォール: 研修医がサバイブするために~肺音を中心に~. 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター. 南風原町. 2024年10月.
 43. 中本啓太郎, 渡辺雅人, 齋藤正興, 春日啓介, 宮岡智花, 吉田悠貴, 布川寛樹, 麻生純平, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 本多紘二郎, 高田佐織, 皿谷健, 下田真史, 田中良明, 早乙女幹朗, 大田健, 石井晴之: 気管支喘息における血清活性酸素代謝物と呼吸機能との関連. 第73回日本アレルギー学会学術大会. 京都. 2024年10月.
 44. 宮岡智花, 中本啓太郎, 春日啓介, 齋藤正興, 麻生純平, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 高田佐織, 皿谷健, 石井晴之: 当院における重症喘息治療に対する初回生物学的製剤導入の臨床的検討. 第73回日本アレルギー学会学術大会. 京都. 2024年10月.
 45. 石井晴之: 疾患啓発を意識した難病法改正の意義. 明日の呼吸器診療を考える会. オンライン. 2024年11月.
 46. 石井晴之: 実臨床におけるILD急性増悪の管理. Kyoto Respiratory Medical Network. 京都. 2024年11月.
 47. 石井晴之: IIPs早期治療介入の重要性と指定難病改定の意義. ILD Web Academy. オンライン. 2024年11月.
 48. 皿谷健: 市中肺炎/医療・介護関連肺炎の最前線. 感染症ベーシック・スクール2024抗菌薬適正使用編関東地区. 東京. 2024年11月.
 49. 下田真史, 麻生純平, 田中良明, 平野愛, 森本耕三, 吉森浩三, 石井晴之, 太田健, 皿谷健: 片耳聴診と両耳聴診の比較. 第49回肺音(呼吸音)研究会/ILSA2024. 名古屋. 2024年11月.
 50. 皿谷健: 肺音のピットフォール: 実際の症例から. 第49回肺音(呼吸音)研究会・呼吸に関わる身体所見と肺聴診セミナー(第14回). 名古屋. 2024年11月.
 51. 皿谷健: 気管支喘息治療における各種生物学的製剤の使い分け. 小平医師会学術講演会. 小平. 2024年11月.
 52. 皿谷健: 喘息診療におけるLAMAの使い所を紐解く. GSK Asthma Winter Seminar. 国立. 2024年11月.
 53. 石田学: 難治例に対する治療戦略の立て方. 第60回日本肺サーファクタント・界面医学会. 福岡. 2024年11月.
 54. 後藤道忠, 皿谷健, 麻生純平, 中嶋啓, 土井和之, 山田祥, 秋澤孝虎, 高木涼, 石川周成, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 高田佐織, 藤原正親, 石井晴之: 多発結節影を呈しMTX休薬により自然消退したMTX関連リンパ腫の一例. 第262回日本呼吸器学会関東地方会. 東京・オンライン. 2024年11月.
 55. 渡邊浩太郎, 皿谷健, 馬上伊織, 山田祥, 中嶋啓, 高木涼, 土井和之, 秋澤孝虎, 石川周成, 布川寛樹, 麻生純平, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 高田佐織, 橋啓盛, 藤原正親, 石井晴之: 肺単結節影の健診発見を契機に, VATSで診断した硬化性肺胞上皮腫の1例. 第262回日本呼吸器学会関東地方会. 東京・オンライン. 2024年11月.
 56. 石井晴之: 呼吸器内科医から診るCTD-ILD-胸部CT所見の重要性. 4th膠原病と合併症Update Seminar. 東京. 2024年12月.
 57. 皿谷健: 実地医家のための呼吸器疾患のHot Topics 呼吸器領域の様々なCase Study Series2. 医療技術セミナー. 日本メディカルスキルアップ 第788回医療技術セミナー. 東京. 2024年12月.
 58. 皿谷健: 呼吸器領域の漢方治療. 病院勤務医が伝える漢方実践セミナー. 武蔵野. 2024年12月.
 59. 石田学: 呼吸器疾患合併患者の術前評価と周術期管

- 理. Kyorin Perioperative Medicine Ground Round. 東京. 2024年12月.
60. 石井晴之: 呼吸器内科医が求めるMDDの本質的な意義とは. For Respiratory disease&Interstitial Lung Disease Expert&Residents Educational&NetWork Meeting. 東京. 2025年1月.
 61. 石井晴之: 抗線維化薬治療のあるILD診療: 現在, 過去, 未来. 大分県間質性肺炎セミナー-病診連携・チーム医療を考える-. オンライン. 2025年2月.
 62. 皿谷健: 呼吸器疾患の身体所見の取り方, 考え方～実際の肺音を含めて～. ランチョンセミナーRST・合同研修会. 大阪. 2025年2月.
 63. 阿部太郎, 中本啓太郎, 家城恵梨子, 小田未来, 平田佳史, 片岡功, 須田一晴, 谷口浩和, 柴原純二, 鈴木裕: 肺結核との鑑別を要した筋上皮腫の一例. 第187回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会第263回日本呼吸器学会関東地方会合同学会. 2025年2月.
 64. 菅野直大, 皿谷健, 山田祥, 中嶋啓, 土井和之, 高木涼, 秋澤孝虎, 石川周成, 黒川のぞみ, 小林史, 麻生純平, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 高田佐織, 石井晴之: 頭部造影MRIで著明な増強効果を伴う広範な硬膜肥厚を認めた肺大細胞神経内分泌癌の硬膜播種の一例. 第263回日本呼吸器学会関東地方会・第187回日本結核/非結核性抗酸菌症学会関東支部会. 東京. 2025年2月.
 65. 石井晴之: Progressive Pulmonary fibrosisを意識したCTD-ILD診療へ. 城南CTD-ILD講演会. 東京・オンライン. 2025年3月.
 66. 皿谷健: 呼吸器診療のエッセンス～肺音を含む身体所見にfocusして～. 第120回日本呼吸器学会東北地方会第150回日本結核・非結核性抗酸菌症学会東北支部学会第19回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会東北支部会. 山形. 2025年3月.
 67. 皿谷健: 重症喘息治療のup to date～バイオ製剤を“決断”メボリズムマップを“選択”する理由～. Mepolizumab Severe Asthma Seminar. 東京. 2025年3月.
 68. 皿谷健: 呼吸器疾患とウイルス感染のOverview. アストラゼネカ社内教育講習会. 三鷹. 2025年3月.
 69. Nakamoto K, Watanabe M, Saito M, Kasuga K, Miyaoka C, Yoshida Y, Kobayashi F, Nunokawa H, Aso J, Nakamoto Y, Ishida M, Sada M, Honda K, Takata S, Saraya T, Shimoda M, Tanaka Y, Saotome M, Ohta K, Ishii H: Serum derivatives-reactive oxygen metabolites levels in patients with bronchial asthma, COPD, and asthma-COPD overlap. The 28th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (APSR). Chaina. November. 2024.
- 論文**
1. Miyaoka C, Watanabe M, Nakamoto K, Yoshida Y, Hirata A, Aso J, Nunokawa H, Ishida M, Honda K, Takata S, Saraya T, Ishii H: Association of IL-33 in modeling type-2 airway inflammation and pulmonary emphysema in mice. *Immun Inflamm Dis*. 2024;12(4):e1252. doi:10.1002/iid.3.1252.
 2. Takagi R, Saraya T, Yamada S, Nakajima K, Doi K, Akizawa T, Ishikawa N, Kurokawa N, Kobayashi F, Nunokawa H, Aso J, Nakamoto Y, Ishida M, Sada M, Honda K, Nakamoto K, Takata S, Ishii H: Clinical Evaluation of Acute Exacerbation of Interstitial Lung Disease in a Single Tertiary Center. *J Clin Med*. 2024;13(19):5733. doi:10.3390/jcm13195733.
 3. Nakamoto K, Watanabe M, Saito M, Kasuga K, Miyaoka C, Yoshida Y, Kobayashi F, Nunokawa H, Aso J, Nakamoto Y, Ishida M, Sada M, Honda K, Takata S, Saraya T, Shimoda M, Tanaka Y, Saotome M, Ohta K, Ishii H: Serum Derivatives-Reactive Oxygen Metabolite Levels as a Marker of Clinical Conditions in Patients with Bronchial Asthma, COPD, or Asthma-COPD Overlap: A Prospective Study. *J Clin Med*. 2024;13(19):6022. doi:10.3390/jcm13196022.
 4. Nakamoto K, Fujiwara K, Morimoto K, Ohta K: Nontuberculous mycobacterial pulmonary disease caused by Mycobacterium seoulense. *Respirol Case Rep*. 2024;12(10):e70049. doi:10.1002/rrcr.2.70049.
 5. Shimoda M, Tanaka Y, Ohe T, Ishiguro T, Suzuki A, Kurahara Y, Shimatani Y, Matsushima H, Kusano K, Ohta H, Yanagisawa S, Kozu Y, Yui T, Igarashi S, Kimizuka Y, Honda K, Otani S, Chiba S, Xu D, Mitsui M, Waseda Y, Ishii H: Validation of a diagnostic flowchart for tuberculous pleurisy in pleural fluid with high levels of adenosine deaminase. *Respir Investig*. 2024;62(6):963-969. doi: 10.1016/j.resinv.2024.08.010. Epub.
 6. Sasa N, Kojima S, Koide R, Hasegawa T, Namkoong H, Hirota T, Watanabe R, Nakamura Y, Oguro-Igashira E, Ogawa K, Yata T, Sonehara K, Yamamoto K, Kishikawa T, Sakaue S, Edahiro R, Shirai Y, Maeda Y, Nii T, Chubachi S, Tanaka H, Yabukami H, Suzuki A, Nakajima K, Arase N, Okamoto T, Nishikawa R, Namba S, Naito T, Miyagawa I, Tanaka H, Ueno M, Ishitsuka Y, Furuta J, Kunimoto K, Kajihara I, Fukushima S, Miyachi H, Matsue H, Kamata M, Momose M, Bito T, Nagai H, Ikeda T, Horikawa T, Adachi A, Matsubara T, Ikumi K, Nishida E, Nakagawa I, Yagita-Sakamaki M, Yoshimura M, Ohshima S, Kinoshita M, Ito S, Arai T, Hirose M, Tanino Y, Nikaido T, Ichiwata T, Ohkouchi S, Hirano T, Takada T, Tazawa R, Morimoto K, Takaki M, Konno S, Suzuki M, Tomii K, Nakagawa A, Handa T, Tanizawa K, Ishii H, Ishida M, Kato T, Takeda N, Yokomura K, Matsui T, Uchida A, Inoue H, Imaizumi K, Goto Y, Kida H, Fujisawa T, Suda T, Yamada T, Satake Y, Ibata H, Saigusa M, Shirai T, Hizawa N, Nakata K; Japan COVID-19 Task Force; Imafuku S, Tada Y, Asano Y, Sato S, Nishigori C, Jinnin M, Ihn H, Asahina A, Saeki H, Kawamura T, Shimada S, Katayama I, Poisner HM, Mack TM, Bick AG, Higasa K, Okuno T, Mochizuki H, Ishii M, Koike R, Kimura A, Noguchi E, Sano S, Inohara H, Fujimoto M, Inoue Y, Yamaguchi E, Ogawa S, Kanai T, Morita A, Matsuda F, Tamari M, Kumanogoh A, Tanaka Y, Ohmura K, Fukunaga K, Imoto S, Miyano S, Parrish N, Okada Y: Blood DNA virome associates with autoimmune diseases and COVID-19. *Nat Genet*. 2025;57(1):65-79. doi:10.1038/s41588-024-02022-z. Epub.
 7. Yasuoka H, Waseda Y, Kaneko Y, Okazaki M, Iwasaki R, Nagata S, Small M, Ishii H: Treatment patterns and clinical profile in progressive pulmonary fibrosis: a Japanese cross-sectional survey. *Front Med (Lausanne)*. 2025;11:1526531. doi: 10.3389/fmed.2024.1526531. eCollection 2024.

8. Kobayashi F, Saraya T, Kurokawa N, Aso J, Yamada S, Nakajima K, Doi K, Akizawa T, Takagi R, Ishikawa N, Kasuga K, Saito M, Yamaguchi C, Nunokawa H, Nakamoto Y, Ishida M, Sada M, Nakamoto K, Takata S, Ishii H: Predictors of Severe Coughing and Its Impact on Bronchoalveolar Lavage and Transbronchial Lung Biopsy in Patients with Diffuse Lung Disease: Evaluation of Bronchoscopy Safety. *J Clin Med.* 2025;14(3):893. doi: 10.3390/jcm14030893.
9. Ishimoto H, Sakamoto N, Yura H, Takazono T, Kido T, Matsumoto K, Morimoto K, Nishino T, Nakata K, Mukae H; PAGE II clinical trial coordinating committee(Nakata K, Akasaka K, Ishii H, Suzuki T): Successful granulocyte-macrophage colony-stimulating factor inhalation therapy for recurrent autoimmune pulmonary alveolar proteinosis after lung transplantation: A case report. *Respir Investig.* 2025;63(1):180-182. doi: 10.1016/j.resinv.2024.12.001. Epub.
10. Shirai T, Mizukoshi F, Kimura R, Matsuoka R, Sada M, Shirato K, Ishii H, Ryo A, Kimura H: Molecular Evolution of the Fusion (F) Genes in Human Parainfluenza Virus Type 2. *Microorganisms.* 2025;13(2):399. doi: 10.3390/microorganisms13020399.
11. Okuda R, Ogura T, Hisata S, Baba T, Kondoh Y, Suda T, Johkoh T, Iwasawa T, Tomioka H, Bando M, Azuma A, Inoue Y, Ishikawa N, Arai N, Takihara T, Hamaguchi M, Arai T, Nakamura Y, Miyamoto A, Tomii K, Miyazaki Y, Chiba H, Ishii H, Hamada N, Terasaki Y, Fukuoka J, Sakai F, Egashira R, Fujimoto K, Sumikawa H, Suzuki T, Sakamoto S, Nishioka Y, Hattori N, Hashimoto N, Morita S, Ichihara N, Miyata H, Hagiwara K, Kobayashi K, Nukiwa T; JIPS registry collaborators: Prognostic prediction for newly diagnosed patients with idiopathic interstitial pneumonia: JIPS Registry (NEJ030). *Respir Investig.* 2025;63(3):365-372. doi: 10.1016/j.resinv.2025.02.009. Epub.
12. 高木愛美, 米谷正太, 井田陽子, 荒木光二, 宮城博幸, 春日啓介, 皿谷健, 大西宏明: Gram染色像でかすがい連結を認めたSchizophyllum communeによるアレルギー性気管支肺真菌症の一例. *医学検査.* 2024;73(4):869-874.
13. 石田学: 疫学: 過敏性肺炎の患者はどのくらいいるのか?. *呼吸器ジャーナル.* 2024. Vol. 72 No.4. 553-559.

著書

1. 石井晴之(分担執筆): 肺胞蛋白症. 呼吸器内科 特集 希少肺疾患はどこまで解明されたか vol.45 NO.4.呼吸器内科編集委員会. 科学評論社. 2024年. 45(4): 343-348.
2. 石井晴之(分担執筆): 肺胞蛋白症 自己免疫性, 二次性. 呼吸器疾患ペディア. 出雲雄大, 大曲貴夫, 権寧博, 杉浦弘明, 宮崎泰成 編集. 南江堂. 2024年. s302-s303.
3. 石井晴之(分担執筆): 急性上気道炎(かぜ症候群など), 急性気管支炎. 最新ガイドラインに基づく呼吸器疾患 診療指針 第6版. 弦間昭彦 編集. 総合医学社. 2024年. 48-55.
4. 石井晴之(分担執筆): 肺胞蛋白症. 今日の治療指針2025. 福井次矢, 高木誠, 小室一成 総編集. 医学

書院. 2025年. 321-322.

5. 皿谷健(分担執筆): 身体診察 胸部(聴診含む). 呼吸器内科診療の掟. 中島啓 編著. 中外医学社. 2024. 10-18.
6. 皿谷健(分担執筆): 主な臓器別感染症 呼吸器感染症III, 百日咳. 感染症最新の治療2025-2027. 舘田一博, 大毛宏喜, 石井誠 編集. 南江堂. 2024. 115-117.
7. 皿谷健(分担執筆): 胸部呼吸器系の徴候 肺音の異常. 今日診断指針第9版. 永井良三 著. 医学書院. 2025. 309-311.
8. 皿谷健(連載/分担執筆): 第19回黄色爪症候群「数年前から息切れがひどくなり, 足もむくんできました」. 臨床雑誌内科 イメージで捉える呼吸器疾患. 南江堂. 2024. 134:161-167.
9. 皿谷健(連載/分担執筆): 第20回肺癌に伴う傍腫瘍症候群(Cushing症候群)「全身がむくみっぽく下肢の脱力感がときどきあります」. 臨床雑誌内科 イメージで捉える呼吸器疾患. 南江堂. 2024. 134:339-344.
10. 皿谷健(連載/分担執筆): 第21回肺膿瘍「熱でうごけません」. 臨床雑誌内科 イメージで捉える呼吸器疾患. 南江堂. 2024. 134(4): 961-966.
11. 皿谷健(連載/分担執筆): 第22回インフルエンザ後の二次感染「インフルエンザ後に熱と咳が続いています」. 臨床雑誌内科 イメージで捉える呼吸器疾患. 南江堂. 2024. 134:1141-1146.
12. 皿谷健(分担執筆): 特集 新たな肺炎ガイドラインを読み解く マイコプラズマ肺炎. 呼吸器内科. 科学評論社. 第46巻第4号. 387-390. 2024.
13. 皿谷健(分担執筆): Part1 ベッドサイドの検査&評価 聴診. みんなの呼吸器 Respica 2024年冬季増刊 まるごと学びなおし 呼吸の検査と評価 これ1冊! 佐藤晋, 今戸美奈子 編著. メデイカ出版. 2024. 19-23.
14. 皿谷健(連載/分担執筆): 第23回レジオネラ肺炎「自転車に乗ったら, ふらついて倒れました」. 臨床雑誌内科 イメージで捉える呼吸器疾患. 南江堂. 2024. 134:1347-1351.
15. 皿谷健(連載/分担執筆): 第24回 Bordetella bronchiseptica肺炎「犬に口移して食べ物をあげていました」. 臨床雑誌内科 イメージで捉える呼吸器疾患. 南江堂. 2025. 135:157-161. 2025.
16. 皿谷健(連載/分担執筆): 第25回急性膿胸「急に息苦しさで胸の痛みを感じるようになりました」. 臨床雑誌内科 イメージで捉える呼吸器疾患. 南江堂. 2025. 135:327-331.
17. 皿谷健(連載/分担執筆): 第26回肺炎随伴性胸水「息が深く吸えません」. 臨床雑誌内科 イメージで捉える呼吸器疾患. 南江堂. 2025. 135:497-502.
18. 皿谷健(分担執筆): RSV肺炎. iPac Letter vol.16. 松本哲也 編集. 杏林製薬株式会社. 2025.

その他

1. 皿谷健: マイコプラズマ肺炎. 「NHKニュース7」, 「ニュースウォッチ9」. 2024年8月.
2. 皿谷健: マイコプラズマ肺炎. NHK NEWS WEB. 2024年8月. <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240823/k10014556781000.html>.
3. 皿谷健: マイコプラズマ肺炎. NHK首都圏ニュース. 2024年10月.

4. 皿谷健：マイコプラズマ肺炎．朝日新聞．2024年10月．
5. 皿谷健：ニュースアップ『感染者が増加 マイコプラズマ肺炎』．Nらじ（NHKラジオ）．2024年10月．
6. 皿谷健：冬の感染症の季節到来「頑固な咳と高熱が長く続いたら」要注意．龍角散のど研究室/ NHKエデュケーショナル 特集記事．2024年11月．
<https://www.ryukakusan.co.jp/nodolabo/column/article/60>．
7. 皿谷健：ILD診療における呼吸器症状の確認方法と聴診の重要性．ベーリンガープラス．2025年3月．
<https://pro.boehringer-ingenheim.com/jp/product/ofev/identify-respiratory-symptom-ild-auscultation-importance>．
8. 中本啓太郎：「ブラックジャックを探せ」．タ刊フジ．2024年10月．

patients with active non-radiographic axial spondyloarthritis: 2-year data from the phase 3 SELECT-AXIS 2 study. EULAR 2024. Austria. Jun. 2024

7. Soriano E, Kishimoto M, et al: Efficacy of guselkumab in early-onset and late-onset psoriatic arthritis: post hoc pooled analyses of two phase 3 randomized controlled trials in patients with active psoriatic arthritis. EULAR 2024. Austria. Jun. 2024.
8. Komagata Y, Kawashima S, Yokota R, Hibino T, Date Y, Usui K, Yamamoto J, Ayuzawa N, Ikegaya N, Kawakami T, Kishimoto M, et al: Analysis of clinical outcomes in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis (EGPA) treated with mepolizumab over 2 years for remission induction or maintenance: a single center experience in Japan. EULAR 2024. Austria. Jun. 2024.
9. Fukui S, Okada M, Shinozaki T, Nakai T, Ozawa H, Tamaki H, MD2, Kishimoto M, et al: Body weight changes and serum urate levels: a longitudinal study using a large medical examination database in Japan. EULAR 2024. Austria. Jun. 2024.
10. Kishimoto M: How to read plain-Xray?. APLAR2024. Singapore. Aug.2024.
11. Kishimoto M: SAPHO syndrome and pustulotic arthro-osteitis (PAO) unity or diversities-. APLAR2024. Singapore. Aug.2024.
12. Kishimoto M: SAPHO, differences in East and West. APLAR2024. Singapore. Aug.2024.
13. Soriano ER, Kishimoto M, Rampakakis E, Nantel F, Shawi M, Lavie F, Mease O, Gladman DD: Efficacy of Guselkumab in Early-Onset and Late-Onset Psoriatic Arthritis: Post hoc Pooled Analyses of Two Phase 3 Randomized Controlled Trials in Patients with Active PsA. Poster presentation at the APLAR2024. Singapore. Aug.2024.
14. Kishimoto M, van den Bosch F, Poddubnyy D, Deodhar A, Maksymowych WP, van der Heijde D, Kim TW, Duan Y, Li Y, Pangan AL, Wung P, Song IH: Efficacy and safety of upadacitinib in patients with active non-radiographic axial spondyloarthritis: 2-year data from the phase 3 SELECT-AXIS 2 study. Poster presentation at the APLAR2024. Singapore. Aug. 2024.
15. Leung YY, Pual Bird,Haroon M, Kishimoto M, Shin K, Mathew AJ, Reyes H, Chau J, Neuen D, Chiowchanwisawakit P, Ridha AA, Yahya F, So H, Fukui S, van Hung N, Soroosh SG, Taylor W, Xu C, Wahono S, Pok LSL, Gonzales JR, Yeo YE, Dandeniya C, Morita A, Aditya P, Basim S, Deshapriya K, Satti E, Phong ND, Kim MJ, Jha A, Cackamvalli PM, Rafique A, Islam N, Tam LS: The management principles for psoriatic arthritis: the APLAR treatment guideline for psoriatic arthritis. the APLAR2024. Singapore. Aug. 2024.
16. van den Bosch F, Deodhar A, Poddubnyy D, Maksymowych WP, van der Heijde D, Kim TH, Kishimoto K, Baraliakos X, Li,Y Lagunes-Galindo I, Song IH, Wung P, Shmagel A:Efficacy and Safety of Upadacitinib in Patients with Active

腎臓・リウマチ膠原病内科学教室

講演

英語発表

1. Kawashima S, Kunitomo R, Kishimoto M, Komagata Y, Kaname S: Efficacy of avacopan for ANCA-associated vasculitis: a single center experience in Japan. The 21st International Vasculitis Workshop. Spain. April. 2024.
2. Kunitomo R, Kawashima S, Ayuzawa N, Ikegaya N, Kawakami T, Kishimoto M, Komagata Y, Kaname S. Analysis of clinical features in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis treated with Mepolizumab: a single center experience. The 21st International Vasculitis Workshop. Spain. April. 2024.
3. Winter E, Dekkers OM, Andreassen C, d'Angelo S, Appelman-Dijkstra N, Appenzeller S, Assmann G, Bubbear J, Bulaicon-Danila O, Chapurlat R, Choida V, Clunie G, Daoussis D, Diekhoff T, Flendrie M, Fogel O, Ghossan R, Girschick H, van Haalen F, Hamdy N, Hauser B, Hedrich C, Helliwell P, Hermann K, Insalaco A, Jurik AG, Kishimoto M, et al: Points to consider for the diagnosis and management of chronic nonbacterial osteitis (CNO) in adults. EULAR 2024. Austria. Jun. 2024.
4. Gossec L, Coates L, Gladman D, Ogdie-Beatty A, Wells A, Merola J, Gisoni P, Pinter A, Kishimoto M, et al: Apremilast treatment in early oligoarticular psoriatic arthritis (PsA) improves clinical and patient-reported outcomes for up to 48 weeks-data from the FORMOST Study. EULAR 2024. Austria. Jun. 2024.
5. Ramiro S, Proft F, Sengupta R, van Tubergen A, Moltó A, Gensler L, Kishimoto M, et al: Bimekizumab treatment was efficacious to 2 years regardless of duration of axSpA symptoms: 2-year results from two phase 3 studies. EULAR 2024. Austria. Jun. 2024.
6. van den Bosch F, Poddubnyy D, Deodhar A, Maksymowych WP, van der Heijde D, Kim TW, Kishimoto M, Duan Y, Li Y, Pangan AL, Wung P, Song IH: Efficacy and safety of upadacitinib in

- Non-Radiographic Axial Spondyloarthritis: 2-Year Data from the Phase 3 SELECT-AXIS 2 Study. Der Deutsche Rheumatologiekongress 2024. Germany. September.2024.
17. Ramiro S, Proft F, Sengupta R, van Tubergen A, Moltó A, Gensler LS, Kishimoto M, Taieb V, Voiniciuc D, Fleurinck C, Massow U, de Peyrecave N, Navarro-Compán V: Efficacy of bimekizumab in patients with axial spondyloarthritis with shorter versus longer symptom duration: 1-year results from two phase 3 studies. Der Deutsche Rheumatologiekongress 2024. Germany. September.2024.
 18. Ramiro S, Proft F, Sengupta R, van Tubergen A, Moltó A, Gensler LS, Kishimoto M, Taieb V, Voiniciuc D, Fleurinck C, Massow U, de Peyrecave N, Navarro-Compán V: Efficacy of bimekizumab in patients with axial spondyloarthritis with shorter versus longer symptom duration: 1-year results from two phase 3 studies. 14th International Congress of Spondyloarthritis. Belgium. Sep. 2024.
 19. Nakai T, Fukui S, Ikeda Y, Tamaki H, Kishimoto M, Okada M: Impact of hydroxychloroquine and belimumab on early glucocorticoid reduction in new-onset systemic lupus erythematosus: a retrospective analysis of risk and protective factors. the ACR Convergence 2024. USA, Nov. 2024.
 20. Gossec L, Sharaf M, Baraliakos X, Kishimoto M, Lubrano E, Rahman P, Rampakakis E, Köleséri L, Koivunen M, Lavie F, Soriano ER, Silva RQ, Behrens F, Siebert S: Guselkumab and IL-17 inhibitors show comparable treatment persistence and effectiveness in psoriatic arthritis: 6-month interim results of the PsABIONd observational cohort study. the ACR Convergence 2024. USA. Nov. 2024.
 21. Gossec L, Coates L, Gladman D, Ogdie A, Wells AF, Merola J, Gisoni P, Pinter A, Kishimoto M, Reddy J, Amouzadeh H, Wang R, Jardon S, Brunori M, Mease P: Apremilast treatment in early oligoarticular psoriatic arthritis improves clinical and patient-reported outcomes for up to 48 weeks – data from a phase 4 trial. the ACR Convergence 2024. USA. Nov. 2024.
 22. Ramiro S, Proft F, Sengupta R, van Tubergen A, Molto A, Gensler LS, Kishimoto M, Taieb V, Voiniciuc D, Massow U, Compán VN: Bimekizumab treatment was efficacious to 2 years regardless of duration of axSpA symptoms: results from two phase 3 studies. the ACR Convergence 2024. USA. Nov.2024.
 23. Gossec L, Balanescu A, D'Agostino MA, Ogdie A, Sewerin P, Deng Y, Shi L, Sugimoto Y, Zhong S, Xing Y, Lippe R, Kishimoto M: Efficacy of risankizumab across distinct PsA phenotypes identified with machine learning analytics using data from biologic DMARD-naive patients in two phase 3 clinical trials. the ACR Convergence 2024. USA. Nov.2024.
 24. Siebert S, Sharaf M, Selmi C, Rahman P, Kishimoto M, Soriano ER, Rampakakis E, Köleséri L, Koivunen M, Lavie F, Silva RQ, Behrens F, Lubrano E, Gossec L: Guselkumab and IL-17 Inhibitors Improve Patient-perceived Impact of Psoriatic Arthritis Similarly: 6-month Interim Results of the PsABIONd Observational Cohort Study. the ACR Convergence 2024. USA. Nov. 2024.
 25. Kaname S: Anti-GBM disease: pathogenesis, diagnosis and treatment. APLAR SHORT COURSE. Vasculitis Foundation Course 2024. Online. September. 2024.
 26. Kaname S: Importance of multidisciplinary team care in dietary education for CKD patients. International Workshop on Dietary Therapy for CKD 2025. Naha. March, 2025.
- 国 内
1. 川嶋聡子, 國友理恵, 鮎澤信宏, 池谷紀子, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 当院におけるANCA関連血管炎に対するアバコバン療法の臨床像の解析. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 2. 國友理恵, 川嶋聡子, 鮎澤信宏, 池谷紀子, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 当院における好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対するメボリズマブ療法の臨床像の解析. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 3. 岸本暢将: 乾癬性関節炎の早期診断と個別化医療におけるアプレミラストの有用性. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 4. 岸本暢将: リウマチ性疾患の身体所見のとおり方(日常診療で行う関節痛(炎)患者のアプローチ). 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 5. 岸本暢将, Van Den Bosch FE, Deodhar A, Li Y, Wung P, Shmage A: X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎患者を対象とした1年間のプラセボ対照試験におけるウパダシチニブの有効性及び安全性: 全体集団及び日本人集団の結果. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 6. 岸本暢将, 亀田秀人, Van Den Bosch F, Baraliakos X, 池田公俊, 古澤祐樹, Li Y, Shmagel A: X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎患者を対象とした1年間のプラセボ対照試験におけるウパダシチニブの有効性及び安全性: 本邦の診断ガイドランスに類似した部分集団の解析. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 7. 辻成佳, 松井聖, 谷口義典, 大久保ゆかり, 金子祐子, 田村直人, 亀田秀人, 岸本暢将, 土橋浩章, 川上純, 渥美達也, 岡本奈美, 小田良, 門野夕峰, 高窪祐弥, 中島亜矢子, 中島康晴, 藤尾圭志, 藤本学, 松野博明, 松原優里, 宮川一平, 森雅亮, 森田明理, 山村昌弘, 渡邊玲, 野崎太希, 玉城雅史, 富田哲也: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ”SPARKLE-J”について. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 8. 辻成佳, 亀田秀人, 岸本暢将, 渥美達也, 大久保ゆかり, 岡本奈美, 川上純, 藤本学, 宮川一平, 森雅亮, 森田明理, 渡邊玲, 富田哲也: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ”SPARKLE-J”における乾癬性関節炎の臨床的特徴について. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 9. 岸本暢将, Poddubnyy D, Parikh B, Elewaut D, Navarro-compán V, Siebert S, Paley M, Coombs D, Mccaskill R, Biljan A, Wung P, Lubrano E: ウパダシチニブ投与を受けた乾癬性関節炎(PsA),

- 強直性脊椎炎(AS)又はX線基準を満たさない脊椎関節炎(nr-axSpA)患者における関節外症状の発現. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
10. 川合聡史, 福井翔, 田巻弘道, 野崎太希, 岸本暢将, 岡田正人: 乾癬性関節炎におけるWhole spine MRIの有効性. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 11. 岸本暢将: PsAとPPP治療におけるIL-23阻害剤の可能性. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 12. 大久保ゆかり, 辻成佳, 岸本暢将, 田村誠朗, 小林里実, 石原陽子, 谷口義典, 高窪祐弥, 渡邊玲, 藤本学, 富田哲也: 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO症候群を対象とした新しいレジストリ”SPARKLE-J”における掌蹠膿疱症性骨関節炎の臨床的特徴について. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 13. 軽部美穂, 松野裕樹, 戸瀬颯斗, 早川哲, 岸本暢将, 駒形嘉紀: D2T RA患者におけるオゾラリズマブ治療の効果と安全性. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 14. 岸本暢将, Soliman AM, Nunag D, Lippe R, Davis M, Kristensen LE: 日本の実臨床における活動性乾癬性関節炎患者に対する生物学的抗リウマチ薬治療の変更および中止に関する解析. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 15. 要伸也: AAVの腎病変および血漿交換療法. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 16. 羽多野美香, 磯島咲子, 磯崎健男, 岡田随象, 藤尾圭志, 村島温子, 天野宏一, 伊藤健司, 草薙恭圭, 大野 滋, 要伸也, 金子祐子, 亀田秀人, 桐野洋平, 松下雅和, 中島裕史, 落合萌子, 平松ゆり, 松本功, 三村俊英, 森本真司, 保田晋助, 矢嶋宣幸: SLE合併妊娠の妊娠合併症・妊娠転帰の検討 多施設共同コホート研究. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 17. 谷脇光一, 川嶋聡子, 井上望帆, 須原夕貴, 鮎澤信弘, 池谷紀子, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀: 診断に苦慮した長期維持透析患者の多発関節炎の一例. 第82回三多摩腎疾患治療医会. 三鷹市. 2024年5月.
 18. 川上貴久: 生活習慣病と腎臓病. 第15回三鷹市民公開講座. 三鷹市. 2024年5月.
 19. 有村義宏, 佐藤綾, 渡邊カンナ, 大和恒恵, 坂川英一郎, 矢野卓郎, 野口智永, 小山雄太, 安田隆, 要伸也: 当院(透析施設)で経験したANCA関連血管炎維持透析入院例の解析. 第82回三多摩腎疾患治療医会. 三鷹市. 2024年5月.
 20. 岸本暢将: ヒドロキシクロロキンの有用性. 第123回日本皮膚科学会総会. 京都. 2024年6月.
 21. 岸本暢将: 乾癬性関節炎のアップデート. 第123回日本皮膚科学会総会. 京都. 2024年6月.
 22. 渡辺めぐみ, 濱井章, 押川愛, 要伸也: 多摩PDN活動報告(第4報). 第69回日本透析医学会学術集会・総会. 横浜. 2024年6月.
 23. 薄井晃一, 小林知志, 川嶋聡子, 池谷紀子, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也, 徳嶺讓芳: 短期型バスキュラーカテーテルが心膜横隔静脈に迷入し縦隔内に留置された1例. 第69回日本透析医学会学術集会・総会. 横浜. 2024年6月.
 24. 新井詩織, 川嶋聡子, 久木元光, 日比野智, 渡邊カ
ンナ, 川上貴久, 岸本暢将, 大浦紀彦, 駒形嘉紀, 有村義宏, 要伸也: 非外傷性腸腰筋出血を生じた透析患者の1例. 第69回日本透析医学会学術集会・総会. 横浜. 2024年6月.
 25. 池谷紀子, 川嶋聡子, 新井詩織, 日比野智, 久木元光, 正路久美, 鮎澤信宏, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 維持透析期のANCA関連血管炎におけるリツキシマブ治療例の検討. 第69回日本透析医学会学術集会・総会. 横浜. 2024年6月.
 26. 小野慶介, 川上貴久, 宮本彩子, 鮎澤信宏, 川嶋聡子, 池谷紀子, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 柳井秀元, 柳田素子, 要伸也: 近位尿細管特異的HMGB1ノックアウトは虚血再灌流誘発AKIを増悪させる. 第67回日本腎臓学会学術総会. 横浜. 2024年6月.
 27. 軽部美穂, 早川哲, 松野裕樹, 戸瀬颯斗, 要伸也: ANCA関連血管炎の寛解維持治療におけるアバコパン導入の有効性と安全性. 第67回日本腎臓学会学術総会. 横浜. 2024年6月.
 28. 要伸也: AvacopanとANCA関連血管炎. 第67回日本腎臓学会学術総会. 横浜. 2024年6月.
 29. 要伸也: 三多摩地区の透析災害対策体制について. 吉祥寺あさひ病院患者会. 三鷹市. 2024年6月.
 30. 鮎澤信宏, 川嶋聡子, 池谷紀子, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 非糖尿病のCKD患者におけるDapagliflozinの効果と食塩摂取量の関連性の解析. 第67回日本腎臓学会学術総会. 横浜. 2024年6月.
 31. 小野慶介, 川上貴久, 宮本彩子, 鮎澤信宏, 川嶋聡子, 池谷紀子, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 柳井秀元, 柳田素子, 要伸也: 近位尿細管特異的HMGB1ノックアウトは虚血再灌流誘発AKIを増悪させる. 第67回日本腎臓学会学術総会. 横浜. 2024年6月.
 32. 軽部美穂, 早川哲, 松野裕樹, 戸瀬颯斗, 要伸也: ANCA関連血管炎の寛解維持治療におけるアバコパン併用の有効性と安全性. 第67回日本腎臓学会学術総会. 横浜. 2024年6月.
 33. 丸茂丈史, 吉田修士, 井上典子, 山内真之, 乳原善文, 河原崎和歌子, 西本光宏, 鮎澤信宏, 広浜大五郎, 星野純一, 藤田敏郎: 糖尿病性腎症で生じる近位尿細管脱分化に伴うDNAメチル化異常. 第67回日本腎臓学会学術総会. 横浜. 2024年6月.
 34. 宮本彩子, 山本陣, 小松達也, 伊達友香, 佐世光, 川嶋聡子, 池谷紀子, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀: 大動脈周囲炎と縦郭炎を伴ったANCA陽性腎炎の1例. 第64回関東リウマチ研究会. 東京. 2024年7月.
 35. 岸本暢将: Management of Late-onset RA. 日本リウマチ学会international school2024. 軽井沢. 2024年7月.
 36. 要伸也: ANCA関連血管炎診療update~新しいガイドラインをふまえて~. AAV Specialist Web Seminar. オンライン. 2024年7月.
 37. 要伸也: CKD対策と診療Update. Tokyo IMAGINE Project Web Seminar. オンライン. 2024年7月.
 38. 要伸也: 補体介在性TMAを紐解く~atypical HUS診療ガイド2023~. 岩手aHUSセミナー. 盛岡. 2024年7月.
 39. 小野慶介, 岸本暢将, 川合聡史, 多田久里守, 田村直人, 谷口義典, 亀田秀人, 辻成佳, 金子祐子, 土橋浩章, 岡野匡志, 土師陽一郎, 森田明理, 岡田正人, 富田哲也: 炎症性腸疾患の既往歴・合併がある脊椎関節炎患者の臨床的特徴と炎症性腸疾患関連脊椎関節炎の診断について. ASAS-PerSpA研究か

- らの報告. 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会. 大阪. 2024年8月.
40. 岸本暢将: 乾癬性関節炎/掌蹠膿疱症の基礎と臨床 PsAとPPP治療におけるIL-23阻害剤の可能性 リサンキズマブの臨床試験から紐解く. 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会. 大阪. 2024年8月.
 41. 岸本暢将, van den Bosch F, Deodhar A, Poddubnyy D, Maksymowych WP, van der Heijde D, Kim TH, Baraliakos X, Li, Y Lagunes-Galindo I, Song IH, Wung P, Shmagel A: Efficacy and Safety of Upadacitinib in Patients with Active Non-Radiographic Axial Spondyloarthritis: 2-Year Data from the Phase 3 SELECT-AXIS 2 Study. 日本脊椎関節炎学会第34回学術集会. 大阪. 2024年8月.
 42. 駒形嘉紀: 最新のANCA関連血管炎診療. 船橋市立医療センター・船橋市医師会合同研修会. 千葉. 2024年9月.
 43. 岸本暢将: RA治療におけるABTを使用した個別化診療. 第35回中部リウマチ学会. 津市. 2024年9月.
 44. 山本陣, 鮎澤信宏, 川嶋聡子, 池谷紀子, 川上貴久, 岸本暢将, 磯村杏耶, 長濱清隆, 駒形嘉紀: Light chain proximal tubulopathy(LCPT)の合併が考慮されたALアミロイドーシスの1例. 第54回日本腎臓学会東部学術大会. 宇都宮. 2024年9月.
 45. 小松達矢, 松野裕樹, 戸瀬颯斗, 早川哲, 軽部美德: G-CSF製剤投与後に薬剤誘発性血管炎を発症した1例. 第54回日本腎臓学会東部学術大会. 宇都宮. 2024年9月.
 46. 日比野智, 池谷紀子, 新井詩織, 久木元光, 鮎澤信宏, 川嶋聡子, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀: 難治性多発血管炎性肉芽腫症に対するリツキシマブ治療を10年間継続した維持血液透析の1例. 第54回日本腎臓学会東部学術大会. 宇都宮. 2024年9月.
 47. 要伸也: 腎臓病療養指導士育成の今後の展望. 第54回日本腎臓学会東部学術大会. 宇都宮. 2024年9月.
 48. 元山勇士, 柳町竜徳, 小山雄太, 要伸也, 有村義宏: レオカーナ受け入れ体制の構築～病院からクリニックへ～. 第18回日本透析クリアランスギャップ研究会学術集会. 札幌. 2024年9月.
 49. 宮本彩子, 川上貴久, 國友理恵, 鮎澤信宏, 川嶋聡子, 池谷紀子, 岸本暢将, 磯村杏耶, 長濱清隆, 駒形嘉紀, 要伸也: 膜性腎症とIgA腎症の合併が疑われたIgG4関連腎臓病の一例. 第27回腎間質障害研究会. 東京. 2024年9月.
 50. 要伸也: CKD診療における多職種連携と腎臓病療養指導士の役割と課題. 第5回神奈川CKD対策セミナー. 横浜. 2024年9月.
 51. 要伸也: 腎臓病療養指導士制度の役割と今後の展望. 第17回CKDチーム医療研究会. 東京. 2024年9月.
 52. 元山勇士, 柳町竜徳, 今村沙織, 西島菜美子, 細谷妙子, 齋藤和枝, 泉朋子, 安田隆, 要伸也, 有村義宏: 臨床工学技士の腹膜透析診療への参画～当院の取り組みと現況～. 第17回CKDチーム医療研究会. 東京. 2024年9月.
 53. 駒形嘉紀: SLE診療の現状と課題. 第52回日本臨床免疫学会. 東京. 2024年10月.
 54. 鮎澤信宏: ミネラルコルチコイド受容体を介した遠位ネフロン機能の制御に関する最近の知. 第46回日本高血圧学会総会. 福岡. 2024年10月.
 55. 元山勇士, 柳町竜徳, 今村沙織, 細谷妙子, 齋藤和枝, 要伸也, 有村義宏: 腎代替療法選択における臨床工学技士の関わり～当院の取り組みと現況～. 第28回日本透析アクセス医学学術集会・総会. 京都. 2024年10月.
 56. 要伸也: CKD診療における多職種連携と腎臓病療養指導士の役割と課題. 実践的なCKD医療連携を考える会in岐阜. 岐阜. 2024年10月.
 57. 久木元光, 岸本暢将, 駒形嘉紀: 神経ペーチェット病の鑑別と治療. 第74回多摩リウマチ研究会. 東京. 2024年10月.
 58. 川上貴久: 腎臓ってなにをしているの?. みんなのじんぞう教室, 杏林大学医学部付属病院. 三鷹市. 2024年11月.
 59. 要伸也: CKD診療における多職種連携と腎臓病療養指導士の役割と課題～新しい診療報酬の話題も含めて～. 第2回大阪メトロポリタンCKDネットワーク. 大阪. 2024年11月.
 60. 鮎澤信宏, 川嶋聡子, 池谷紀子, 川上貴久, 岸本暢将, 要伸也, 駒形嘉紀: 当院での非糖尿病CKD患者におけるdapagliflozinの効果の検証. 第83回三多摩腎疾患治療医会研究会. 三鷹市. 2024年11月.
 61. 元山勇士, 柳町竜徳, 今村沙織, 細谷妙子, 齋藤和枝, 要伸也, 有村義宏: 腎代替療法選択における臨床工学技士の関わり～当院の取り組みと現況～. 第30回日本腹膜透析医学会学術集会・総会. 福岡. 2024年11月.
 62. 八田真希, 高橋正矩, 柳町竜徳, 齋藤和枝, 要伸也: 落差返血による災害訓練の取り組みについて. 第46回善仁会研究報告会. 横浜. 2024年11月.
 63. 多和田初枝, 山田和幸, 西島菜美子, 小田真公子, 齋藤和枝, 柳町竜徳, 要伸也: うつ血性心不全を繰り返す独居透析患者への支援～社会資源を整えたことでの行動変容を経験して～. 第46回善仁会研究報告会. 横浜. 2024年11月.
 64. 要伸也: 補体介在性TMAを紐解く～非典型溶血性尿毒症症候群(aHUS)診療ガイド2023～. 東北aHUS Webセミナー. 仙台. 2024年11月.
 65. 山本陣, 池谷紀子, 鮎澤信宏, 久木元光, 川嶋聡子, 川上貴久, 岸本暢将, 長濱清隆, 磯村杏耶, 大石知瑞子, 駒形嘉紀: 三叉神経痛を発症した全身性エリテマトーデスの1例. 第53回杏林医学会総会. 三鷹市. 2024年11月.
 66. 要伸也: 情報提供2: 慢性腎臓病透析予防指導管理加算の新設について. 第83回三多摩腎疾患治療医会研究会. 三鷹市. 2024年11月.
 67. 岸本暢将: 高齢発症RAのコンセンサスステートメントを踏まえた治療戦略. 第39回日本臨床リウマチ学会. 浜松市. 2024年11月.
 68. 駒形嘉紀: ANCA関連血管炎治療におけるアバコパンの役割. 第34回日本リウマチ学会関東支部学術集会. 東京. 2024年12月.
 69. 池田慶人, 池谷紀子, 木村直仁, 吉崎彩織, 海永光洋, 徳重真一, 加藤憲一郎, 磯村杏耶, 川嶋聡子, 川上貴久, 岸本暢将, 市川弥生子, 藤原正親, 柴原純二, 駒形嘉紀: Focal myositisの臨床像を呈した抗ARS抗体陽性の1例. 第34回日本リウマチ学会関東支部学術集会. 東京. 2024年12月.
 70. 岸本暢将: ぶどう膜炎合併リウマチ性疾患鑑別診断. 第34回日本リウマチ学会関東支部学術集会. 東京. 2024年12月.
 71. 要伸也: 膠原病に合併するTMAの診断と治療. 第39回日本臨床リウマチ学会. 浜松. 2024年12月.
 72. 川上貴久: 透析療法の基礎&慢性腎臓病・透析患者の薬物療法. 三鷹市薬剤師会講演会. 三鷹市. 2024

年12月.

73. 要伸也: CKD診療における多職種連携と腎臓病療養指導士の今後の展望. CKDチーム医療を考える会in 東海. 名古屋. 2024年12月.
74. 要伸也: 慢性腎臓病 (CKD) の発症・重症化予防について～望ましい生活習慣や早期発見・治療のポイントを学ぶ～. 令和6年度健康づくり事業推進指導者育成研修【テーマ21】オンライン研修. オンライン. 2024年12月.
75. 駒形嘉紀: ANCA関連血管炎治療におけるアバコパンの役割. 第1回ANCA関連血管炎を考える会. 横浜. 2025年1月.
76. 要伸也: 厚生労働科学研究費補助金 (腎疾患政策研究事業) 「慢性腎臓病(CKD)患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究」in 2024年度JSN公的研究班研究成果合同発表会. 東京. 2025年1月.
77. 要伸也: 最新ガイドラインをふまえたCKDの治療戦略-カリウム管理を中心に-. Cardio-Renal Symposium Online Seminar. 東京. 2025年2月.
78. 要伸也: CKDと脂質異常症～高TG血症とその治療を中心に～. 興和製薬アドバイザリー会議. 東京. 2025年2月.

論文

英文

1. Baraliakos X, Gladman DD, Chakravarty SD, Gong C, Shawi M, Rampakakis E, Kishimoto M, Soriano ER, Mease PJ: BASDAI versus ASDAS in evaluating axial involvement in patients with psoriatic arthritis: a pooled analysis of two phase 3 studies. *Rheumatol Adv Pract.* 2024;8(2):rkae058. doi: 10.1093/rap/rkae058.
2. Rios Rodriguez V, Duran TI, Torgutalp M, López-Medina C, Dougados M, Kishimoto M, Ono K, Protopopov M, Haibel H, Rademacher J, Poddubnyy D, Proft F: Comparing clinical profiles in spondyloarthritis with Crohn's disease or ulcerative colitis: insights from the ASAS-PerSpA study. *Rheumatol Adv Pract.* 2024;8(2):rkae064. doi: 10.1093/rap/rkae064.
3. Ono K, Matsumoto H, Komagata Y.: Acute Kidney Injury and Ascites in a Patient with a History of Cervical Cancer. *Kidney360.* 2024;5(8):1226-1227. doi: 10.34067/KID.000000000000500.
4. Van den Bosch F, Deodhar A, Poddubnyy D, Maksymowych WP, van der Heijde D, Kim TH, Kishimoto M, Baraliakos X, Li Y, D'Silva K, Wung P, Song IH: Upadacitinib in Active Non-radiographic Axial Spondyloarthritis: 1-Year Data From a Double-Blind, Randomized, Placebo-Controlled, Phase 3 Trial. *ACR Open Rheumatol.* 2024;6(8):470-480. doi: 10.1002/acr2.11669.
5. Marumo T, Yoshida N, Inoue N, Yamanouchi M, Ubara Y, Urakami S, Fujii T, Takazawa Y, Ohashi K, Kawarazaki W, Nishimoto M, Ayuzawa N, Hirohama D, Nagae G, Fujimoto M, Arai E, Kanai Y, Hoshino J, Fujita T: Aberrant proximal tubule DNA methylation underlies phenotypic changes related to kidney dysfunction in patients with diabetes. *Am J Physiol Renal Physiol.* 2024;327(3):F397-F411. doi: 10.1152/ajprenal.00124.2024.
6. Uchida HA, Nakaoka Y, Sugihara T, Yoshifuji H, Maejima Y, Watanabe Y, Nagafuchi H, Okazaki T, Komagata Y, Tanaka Y, Amiya E, Atsumi T, Tanemoto K, Takeuchi T, Naniwa T, Komatsuda A, Dobashi H, Amano K, Ogawa N, Murakawa Y, Hasegawa H, Hayashi T, Arimura Y, Isoe M, Harigai M; Japan Research Committee of the Ministry of Health, Labour, and Welfare for Intractable Vasculitis (JPVAS): Clinical Characteristics and Treatment Outcomes of Patients With Newly Diagnosed Takayasu Arteritis in Japan During the First 2 Years of Treatment: A Nationwide Retrospective Cohort Study. *Circ J.* 2025;89(5):612-619. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0178. Epub ,
7. Ono K, Kishimoto M: Is JAK inhibitor the option to prevent difficult-to-manage axial spondyloarthritis?. *Int J Rheum Dis.* 2024;27(9):e15329. doi: 10.1111/1756-185X.15329.
8. Nagase M, Ando H, Beppu Y, Kurihara H, Oki S, Kubo F, Yamamoto K, Nagase T, Kaname S, Akimoto Y, Fukuhara H, Sakai T, Hirose S, Nakamura N: Glomerular endothelial cell receptor adhesion G-protein-coupled receptor F5 (ADGRF5) and the integrity of the glomerular filtration barrier. *J Am Soc Nephrol.* 2024;35(10):1366-1380. doi: 10.1681/ASN.0000000000000427.
9. Furer V, Kishimoto M, Tomita T, Elkayam O, Helliwell PS: Current and future advances in practice: SAPHO syndrome and chronic non-bacterial osteitis (CNO). *Rheumatol Adv Pract.* 2024;8(4):rkae114. doi: 10.1093/rap/rkae114.
10. Tanaka Y, Kishimoto M, Sonomoto K, Amano K, Harigai M, Onofrei A, O'Brien J, Margolin Z, Barr C, Mizuno Y, Agarwal E, Sugiyama N, Yamanaka H: Methotrexate, tofacitinib, and biologic disease-modifying antirheumatic drug safety and effectiveness among patients with rheumatoid arthritis in Japan: CorEvitas registry observational study. *Rheumatol Ther.* 2024;11(5):1237-1253. doi: 10.1007/s40744-024-00700-2.
11. Maruyama S, Ikeda Y, Kaname S, Kato N, Matsumoto M, Ishikawa Y, Shimono A, Miyakawa Y, Nangaku M, Shibagaki Y, Okada H : Eculizumab for adult patients with atypical haemolytic-uraemic syndrome: full dataset analysis of Japanese post-marketing surveillance. *J Nephrol.* 2024;37(8):2181-2190. doi: 10.1007/s40620-024-01921-y.
12. Kotwal SS, Perkovic V, Jardine MJ, Kim D, Shah NA, Lin E, Coggan S, Billot L, Vart P, Wheeler DC, de Boer IH, Zhang H, Hou FF, Sugawara Y, Marion J, Lewis RJ, Berry LR, McGlothlin A, Jha V, De Nicola L, Gorris JL, Heerspink HJL; GKPTN and CAPTIVATE Investigators: The Global Kidney Patient Trials Network and the CAPTIVATE Platform Clinical Trial Design: A Trial Protocol. *JAMA Netw Open.* 2024;7(12):e2449998. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2024.49998.
13. Takanashi S, Kaneko Y, Kawahito Y, Kida T, Sugihara T, Kojima T, Harada R, Ishitoku M, Hirata S, Hashimoto M, Hidaka T, Abe A, Ishikawa H, Ito H, Kishimoto M, Matsui K,

- Matsui T, Matsushita I, Onishi A, Morinobu A, Nishida K, Asai S, Tanaka E, Harigai M, Kojima M: A preliminary survey of rheumatologists on the management of late-onset rheumatoid arthritis in Japan. *Intern Med.* 2024;63(24):3299-3306. doi: 10.2169/internalmedicine.3288-23.
14. Sugihara T, Harigai M, Uchida HA, Yoshifuji H, Maejima Y, Ishizaki J, Watanabe Y, Dobashi H, Komagata Y, Tamura N, Nakaoka Y; Japan Research Committee of the Ministry of Health, Labour, and Welfare for Intractable Vasculitis (JPVAS): Performance of the modified 2022 ACR/EULAR giant cell arteritis classification criteria without age restriction for discriminating from Takayasu arteritis. *Arthritis Res Ther.* 2025;27(1):19. doi: 10.1186/s13075-025-03486-y.
 15. Harigai M, Kaneko Y, Tanaka E, Hirata S, Kameda H, Kaneko K, Kishimoto M, Kohno M, Kojima M, Kojima T, Morinobu A, Nakajima A, Sugihara T, Fusama M, Yajima N, Yanai R, Kawahito Y: 2024 Update of the Japan College of Rheumatology Clinical Practice Guidelines for the Management of Rheumatoid Arthritis: secondary publication. *Mod Rheumatol.* 2025;35(3):387-401. doi: 10.1093/mr/roaf006. Epub.
 16. Van den Bosch F, Deodhar A, Poddubnyy D, Maksymowych WP, van der Heijde D, Kim TH, Kishimoto M, Baraliakos X, Bu X, Lagunes-Galindo I, Song IH, Wung P, Kato K, Shmagel A: Upadacitinib in active non-radiographic axial spondyloarthritis: 2-year data from the phase 3 SELECT-AXIS 2 study. *Arthritis Res Ther.* 2025;27(1):23. doi: 10.1186/s13075-024-03441-3.
 17. Kaname S, Ong M-L, Mathiasc J, Gattad F, Lawe L, Wang Y: Outcomes in patients with thrombotic microangiopathy associated with a trigger following plasma exchange: a systematic literature review. *Transfus Apher Sci.* 2025;64(1):104048. doi: 10.1016/j.transci.2024.104048.
 18. Miyamae T, Manabe Y, Sugihara T, Umezawa N, Yoshifuji H, Tamura N, Abe Y, Furuta S, Nagafuchi H, Ishizaki J, Nakano N, Atsumi T, Karino K, Amano K, Kurasawa T, Ito S, Yoshimi R, Ogawa N, Banno S, Naniwa T, Ito S, Hara A, Hirahara S, Uchida HA, Onishi Y, Murakawa Y, Komagata Y, Nakaoka Y, Harigai M: Pregnancy and childbirth in Takayasu arteritis in Japan: A nationwide retrospective study. *Mod Rheumatol.* 2025;35(2):339-344. doi: 10.1093/mr/roae068.
 19. Yamamoto H, Taniguchi Y, Tsuji S, Helliwell PS, Kishimoto M: Efficacy of IL-23 inhibitors in axial involvements of chronic non-bacterial osteitis with palmoplantar pustulosis: a case series. *Rheumatology (Oxford).* 2025;64(6):4081-4083. doi: 10.1093/rheumatology/keaf088. Epub.
 20. Poddubnyy D, Navarro-Compán V, Torgutalp M, Arends S, Aydin SZ, Battista S, van den Bosch F, Bundy C, Cauli A, Davies J, Dougados M, Duruöz T, El-Zorkany B, Fong W, van Gaalen F, Garcia-Salinas R, Garrido Cumbre M, Géher P, Gensler L, Grazio S, Huang F, Kishimoto M, Landewé R, Leung YY, Machado PM, Marzo-Ortega H, Meghnaithi B, Molto A, Nikiphorou E, Ramiro S, Rudwaleit M, Saad CGS, Sepriano A, Wei J, Baraliakos X, van der Heijde D; ASAS. the Assessment of SpondyloArthritis International Society (ASAS) consensus-based expert definition of difficult-to-manage, including treatment-refractory, axial spondyloarthritis. *Ann Rheum Dis.* 2025;84(4):538-546. doi: 10.1016/j.ard.2025.01.035. Epub.
 21. Okubo Y, Murakami M, Kobayashi S, Tsuji S, Kishimoto M, Ikeda K, Jibiki M, Neimark E, Padilla B, Shen J, Peters S, Terui T: Risankizumab in Japanese patients with moderate-to-severe palmoplantar pustulosis: Results from the randomized, phase 3 JumPPP study. *J Dermatol.* 2025;52(4):593-602. doi: 10.1111/1346-8138.17659. Epub.
 22. Katsumata Y, Sada KE, Kameda T, Dobashi H, Kaname S, Tsuboi N, Matsumoto Y, Amano K, Tamura N, Harigai M: Comparison of different ANCA detection methods in a predominantly MPO-ANCA-associated vasculitis cohort. *Immunol Med.* 2025;48(1):47-57. doi: 10.1080/25785826.2024.2408054. Epub.
 23. Nakai T, Fukui S, Ozawa H, Kitada A, Okada M, Kishimoto M: Management of pregnant with rheumatoid arthritis: Preconception care, pregnancy and lactation strategies, and maternal-fetal outcomes. *Best Pract Res Clin Rheumatol.* 2025;39(1):102022. doi: 10.1016/j.berh.2024.102022.
 24. Fukui S, Okada M, Shinozaki T, Suzuki T, Nakai T, Ozawa H, Tamaki H, Kishimoto M, Hasegawa H, Matsuda T, Marrugo J, Tedeschi SK, Choi HK, Solomon DH: Weight Reduction and Target Serum Urate Level: A Longitudinal Study of Annual Medical Examination. *Arthritis Rheumatol.* 2025;77(3):346-355. doi: 10.1002/art.43027.
- 邦文
1. 要伸也：病診連携と多職種で取り組む日本のCKD対策 CKD対策における多職種ケアの重要性. *日本医師会雑誌.* 2024. 153(4):407-411.
 2. 要伸也：慢性腎臓病に対するチーム医療と慢性腎臓病透析予防指導管理料の新設. *日本透析医会雑誌.* 2024. 39(3):472-479.
 3. 要伸也：リウマチ性疾患に合併する非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) の診療. *リウマチ科.* 2024. 71(4): 437-443.
 4. 駒形嘉紀：肥厚性硬膜炎. *リウマチ科.* 2024. 72(2):148-153.
 5. 要伸也：血管炎の新規治療. *皮膚科.* 2024. 5(4):330-335.
 6. 川上貴久, 要伸也：【腎機能を考慮した内科疾患の診療】腎機能が病態・治療に関係する疾患 膠原病全身性エリテマトーデス (SLE) ループス腎炎治療の最近の進歩. *Medicina.* 2024. 61巻5号. 688-694.
 7. 川上貴久, 要伸也：血液透析患者の血圧を再考する レオカーナと血圧低下. *臨床透析.* 2024. 40巻2号. 215-217.
 8. 川上貴久: そのほかの膠原病に伴う腎障害(シェーグレン症候群, 混合性結合組織病, 関節リウマチ). *腎と透析.* 2024. 97巻増刊. 175-180.
 9. 薄井晃, 小林知志, 池谷紀子, 鮎澤信宏, 川嶋聡子, 川上貴久, 岸本暢将, 駒形嘉紀, 要伸也: 水腎症を

合併した大動脈周囲炎の一例. 関東リウマチ2024. 56巻. Page72-75

10. 駒形嘉紀: 血管炎. Pharma Medica. 42(1):19-23. 2025.
11. 駒形嘉紀: 検体検査のポイントとピットフォール診察室にこの1冊 ANCA. 診断と治療. 113 Supple. 263-266. 2025.

著書

1. 要伸也(監修): 教えて, 要先生! ~血栓性微小血管症(TMA)診療に対するチーム医療とその有用性~. アレクシオンファーマ合同会社 my MSL君. 2024.
2. 川嶋聡子, 要伸也(分担執筆): V血管炎 4小型血管炎 (1) ANCA関連血管炎 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症. 日本臨床82巻増刊5 動脈・静脈の疾患 2024(下). 日本臨床社. 2024. 280-285.
3. 要伸也(分担執筆): ANCA関連血管炎. 腎と透析 97(増刊号). 東京医学社. 2024. 140-145
4. 駒形嘉紀(分担執筆): アルドラーゼ. 臨床検査ガイド2025年改訂版. 大西宏明, Medical Practice編集委員会 編集. 文光堂. 2024. P112-113.
5. 駒形嘉紀(分担執筆): 抗好中球細胞質抗体(ANCA). 臨床検査ガイド2025年改訂版. 大西宏明, Medical Practice編集委員会 編集. 文光堂. 2024. P677-680.
6. 駒形嘉紀(分担執筆): 抗RNP抗体(抗U1RNP抗体), 抗Sm抗体. 臨床検査ガイド2025年改訂版. 大西宏明, Medical Practice編集委員会 編集. 文光堂. 2024. P713-715.
7. 駒形嘉紀(分担執筆): 免疫複合体. 臨床検査ガイド2025年改訂版. 大西宏明, Medical Practice編集委員会 編集. 文光堂. 2024. P722-723.
8. 要伸也(分担執筆): カリウム. 臨床検査ガイド2025年改訂版. 大西宏明, Medical Practice編集委員会 編集. 文光堂. 2024. 171-176.
9. 岸本暢将(分担執筆, 編集): 内分泌疾患(糖尿病, 甲状腺疾患など)に伴う筋骨格系症状. リウマチ膠原病疾患Up To date. Medicina2024年8月号特集. 医学書院. 2024年. 61(9). 1455-1459.
10. 岸本暢将(分担執筆): 2022年ASAS-EULAR recommendationによる体軸性脊椎関節炎の管理. リウマチ科. 科学評論社. 2024. 72. 99-103.
11. 岸本暢将(分担執筆): 専門科による私の治療-脊椎関節炎. 日本医事新報. 日本医事新報社. 2024年. 5235号. 48-49.
12. 岸本暢将(分担執筆): 脊椎関節炎に対するIL23阻害薬の使い方を教えてください. リウマチクリニック. メディカルレビュー社. 2024年. 9月号. 21-23.
13. 岸本暢将(分担執筆): 乾癬性関節炎/掌蹠膿疱症の基礎と臨床(PsAとPPP治療におけるIL23阻害薬の可能性). PS Japan. 三雲社. 2024. 32巻22.
14. 岸本暢将(分担執筆): 乾癬性関節炎の診断と治療. 臨床リウマチ. 2024年. 36(4). 244-250.
15. 要伸也(分担執筆): 顕微鏡的多発血管炎(MPA). 膠原病診療 実践バイブル. 竹内勤 監修. 南江堂. 2025. 209-213.
16. 要伸也(分担執筆): 症候編: アルカローシス. 今日の診断指針第9版. 永井良三 総編集. 医学書院. 2025. 106-107.
17. 要伸也(分担執筆): 疾患編: 腎疾患 急速進行性腎炎. 今日の診断指針第9版. 永井良三 総編集. 医学書院. 2025. 959-962.

18. 要伸也(分担執筆): (Chapter 5)CKD×合併症のギモン 代謝性アシドーシス 重曹投与は透析に移行したらやめてもいい?. 月刊薬事【腎薬マネジメントの知恵袋 エキスパートが教える腎臓病薬物療法の投与戦略】. 竹内裕紀 編. じほう. 67巻3号. 2025. 633-638.
19. 駒形嘉紀(分担執筆): IV 疾患別の最新診療指針 B. 血管炎 7. ANCA関連血管炎:EGPA. 膠原病診療実践バイブル. 金子祐子, 齋藤俊太郎 編集. 南江堂. 2025. P218-222.
20. 岸本暢将(分担執筆): II.治療につながる診断力-02 膠原病の臨床所見. 竹内勤 監修. 膠原病診療実践バイブル. 南江堂. 2025. 14-22.

報告書

1. 要伸也(研究代表者): 厚生労働科学研究費補助金腎疾患政策研究事業「慢性腎臓病(CKD)患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究」(23FD1001)令和5年度研究報告書(16ページ)
2. 要伸也(研究分担者, 分担執筆), 和田健彦: 人材育成. 厚生労働科学研究費補助金(腎疾患政策研究事業)期間(年度): 2022年度-2024年度研究課題名: 腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築(研究代表者: 柏原直樹).
3. 要伸也(研究分担者, 分担執筆): 人材育成. 厚生労働科学研究費補助金(腎疾患政策研究事業)期間(年度): 2022年度-2024年度研究課題名: 腎疾患対策検討会報告書に基づく慢性腎臓病(CKD)対策の推進に資する研究(研究代表者: 岡田浩一)

その他

1. 要伸也: 序論 特集 社会・経済と腎臓. 日本腎臓財団. 雑誌腎臓 第46巻, p3, 2024.

脳神経内科学教室

講演

1. 岸川桃子, 海永光洋, 岡崎太一, 平山健次, 上月直樹, 徳重真一, 内堀歩, 大石知瑞子, 平野照之, 市川弥生子: COVID-19罹患を契機に発症したIgG class GaINAc-GD1a抗体陽性脱髄型ギラン・バレー症候群の一例. 第121回日本内科学会総会. 東京. 2024年4月.
2. 市川弥生子: 国際標準の家系図の書き方. 第65回日本神経学会学術大会. 東京. 2024年5月.
3. 菊地茉莉, 中村雄, 大塚弘毅, 北村盾二, 宮川仁平, 道津千春, 原田和沙, 小倉航, 田嶋敦, 桶川隆嗣, 市川弥生子, 滝智彦, 福原浩, 大西宏明: 転移性去勢抵抗性前立腺癌における分子標的薬の治療効果と遺伝性腫瘍診療の実態. 第30回日本遺伝性腫瘍学会学術集会. 仙台市. 2024年5月.
4. 徳重真一: 当科におけるNMOSD診療の現状と生物学的製剤に期待すること. Meet the Expert Seminar in Tokyo. オンライン. 2024年5月.
5. 徳重真一, 松田俊一, 大山彦光, 下泰司, 梅村淳, 濱田雅, 宇川義一, 辻省次, 服部信孝, 寺尾安生: パーキンソン病患者に対する脳深部刺激療法による瞳孔面積の拡大. 第65回日本神経学会学術大会. 東京. 2024年5月.
6. 大石知瑞子, 星野哲, 神林隆道, 東原真奈, 小林俊輔, 市川弥生子, 園生雅弘: 脛骨神経最小F波潜時に

- 対する身長・年齢・性別の影響. 第65回日本神経学会総会. 東京. 2024年5月.
7. 山本董, 中田遼志, 福島僚子, 大石知瑞子, 宮川晋治, 香取美津治, 西脇嘉一, 谷口洋: リンパ形質細胞性リンパ腫による近位部優位の末梢神経障害にイブランチニフブが奏功した58歳男性例. 第249回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京. 2024年6月.
 8. 清水大輔, 海永光洋, 平山健次, 上月直樹, 内堀歩, 小野田凌, 佐々木重嘉, 市川弥生子: 脳生検後にビタミンK欠乏性の易出血性が問題となったバロー同心円硬化症の48歳男性例. 第249回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京. 2024年6月.
 9. Uchibori A, Gyohda A, Chiba A: Ca²⁺-DEPENDENT ANTI-GANGLIOSIDE ANTIBODY IN SERONEGATIVE GUILLAIN-BARRÉ SYNDROME. PERIPHERAL NERVE SOCIETY ANNUAL MEETING 2024. CANADA. JUNE. 2024
 10. 大石知瑞子, 藤井勇基, 市川弥生子, 平野照之, 小林俊輔, 園生雅弘: 突然発症の麻痺の診断に電気生理検査は役に立つ. 第38回日本神経救急学会学術集会. 鴨川市. 2024年6月.
 11. 徳重真一: 当科のNMOSD診療の現状とサトラリズム導入時に肝障害を来した一例. NMOSD Seminar in 多摩 2024. 立川. 2024年6月.
 12. 菊地茉莉, 谷垣伸治, 小林千絵, 松島実徳, 田嶋敦, 大荷満生, 小倉航, 滝智彦, 大西宏明, 市川弥生子: 臨床的に診断・治療されていた家族性高コレステロール血症例へのプレコンセプションケア. 第48回日本遺伝カウンセリング学会学術集会. 東京. 2024年8月.
 13. Awasaki T, Sato S, Orihara M, Ushimaru M, Kato K, Ichikawa Y: Functional analysis of pollux, Drosophila homolog of the human TBC1D4, a gene associated with increased risk of T2D in Inuit. The 16th Japanese Drosophila Research Conference (JDRC16). Sendai. 2024年9月.
 14. 前田瑞恵, 吉崎彩織, 海永光洋, 大石知瑞子, 内堀歩, 小林英資, 水川良子, 市川弥生子: ラモトリギンによる薬剤性過敏症候群の経口ステロイド治療慢性期に重症ギラン・バレー症候群を発症した29歳女性例. 第250回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京. 2024年9月.
 15. Oishi C, Hoshino S, Kanbayashi T, Higashihara M, Kobayashi S, Ichikawa Y, Sonoo M: Effect of the height, age and sex on the minimal F-wave latency of the tibial nerve. International Congress of Clinical Neurophysiology. Indonesia. September. 2024.
 16. 大石知瑞子: タスクシフトによる医師から技師への神経伝導検査範囲拡大の要望～神経伝導検査を技師にどこまで任せる?～. 第54回日本臨床神経生理学学会学術大会. 札幌. 2024年10月.
 17. 大石知瑞子: SEPはどのような場面で必要か?. 第54回日本臨床神経生理学学会学術大会. 札幌. 2024年10月.
 18. 山本董, 中田遼志, 福島僚子, 大石知瑞子, 宮川晋治, 香取美津治, 西脇嘉一, 谷口洋: 脛骨神経SEPにより末梢神経近位部の障害を疑ったリンパ形質細胞性リンパ腫の1例. 第54回日本臨床神経生理学学会学術大会. 札幌. 2024年10月.
 19. 藤井勇基, 北國圭一, 高橋和沙, 川上真吾, 松倉清司, 大石知瑞子, 小林俊輔, 園生雅弘: 下垂足を呈した79歳女性例. 第54回日本臨床神経生理学学会学術大会. 札幌. 2024年10月.
 20. Ichikawa Y, Sumitani Y, Gyohda A, Tokushige S, Uchibori A, Ishiura H, Mitsui J, Tsuji S, Toda T, Yasuda K: Japanese carriers of a high-risk variant of type 2 diabetes in Inuit population. 日本人類遺伝学会第69回大会. 札幌市. 2024年10月.
 21. Tajima A, Kikuchi M, Matsushima M, Taki T, Ohnishi H, Ichikawa Y, Tanigaki S, Kobayashi Y: A case of Emanuel syndrome diagnosed prenatally following NIPT at a non-certified facility. 日本人類遺伝学会第69回大会. 札幌市. 2024年10月.
 22. 徳重真一, 寺尾安生, 内尾直裕, 辻省次, 湯本真人: 脳磁図で発作焦点を同定しえた, てんかんによる失語発作の一例. 第54回日本臨床神経生理学学会学術大会. 札幌市. 2024年10月.
 23. 菊地茉莉, 大塚弘毅, 森定徹, 百村麻衣, 田嶋敦, 小倉航, 柳田千佳子, 村田彩音, 市川弥生子, 滝智彦, 小林陽一, 大西宏明: 当院における進行卵巣癌症例における遺伝子異常とゲノム医療-がんゲノムプロファイリング検査症例の経験-. 第71回日本臨床検査医学会学術集会. 大阪市. 2024年11月.
 24. 前田瑞恵, 吉崎彩織, 海永光洋, 内堀歩, 大石知瑞子, 小林英資, 水川良子, 市川弥生子: 薬剤性過敏症候群治療中に重症ギラン・バレー症候群を発症した29歳女性. 第53回杏林医学会総会. 三鷹. 2024年11月.
 25. 池田慶人, 池谷紀子, 木村直仁, 吉崎彩織, 海永光洋, 徳重真一, 加藤憲一郎, 磯村杏耶, 川嶋聡子, 川上貴久, 岸本暢将, 市川弥生子, 藤原正親, 柴原純二, 駒形嘉紀: Focal myositisの臨床像を呈した抗ARS抗体陽性の1例. 第34回日本リウマチ学会 関東支部学術集会. 東京. 2024年12月.
 26. 市川弥生子: 地域で支えるパーキンソン病を中心とした高齢者診療-当院における在宅医療連携-. 三鷹市医師会在宅医療・高齢者疾患研究会学術講演会. 三鷹市. 2024年12月.
 27. 前田瑞恵, 木村直仁, 吉崎彩織, 松田悠, 海永光洋, 内堀歩, 大石知瑞子, 市川弥生子: 胸腰髄多発神経根症を体性感覚誘発電位で検出し, 耳下腺生検で病理診断した神経サルコイドーシスの58歳女性例. 第251回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京. 2024年12月.
 28. 内堀歩: 神経免疫疾患. ノバルティス研修会. 三鷹市. 2024年12月.
 29. 大石知瑞子, 藤井勇基, 市川弥生子, 平野照之, 小林俊輔, 園生雅弘: 突然発症の麻痺の診断に電気生理検査は役に立つ. 第43回脊髄機能診断学会. 仙台. 2025年2月.
 30. 大石知瑞子: CIDP診断関連(電気整理)について. CIDP Seminar 2025～CIDP診療の明日を描く～. 立川. 2025年2月.
 31. 木村直仁, 吉崎彩織, 北尾英毅, 齊藤幹人, 海永光洋, 徳重真一, 内堀歩, 大石知瑞子, 平野照之, 市川弥生子: 歩行障害を急性発症し, 橋中心部病変および胸髄長大病変を認めた83歳女性例. 第10回若手神経内科医のためのShort Clinical Conference. 東京. 2025年2月.
 32. 木村直仁, 吉崎彩織, 北尾英毅, 齊藤幹人, 佐藤範英, 佐々木重嘉, 海永光洋, 徳重真一, 内堀歩, 大石知瑞子, 平野照之, 市川弥生子: 歩行障害を急性発症し, 橋中心部病変および胸髄長大病変を認めた83歳女性例. 第84回三鷹ニューロ. 三鷹. 2025年2月.
 33. 木村直仁, 吉崎彩織, 北尾英毅, 海永光洋, 市川弥生子, 齊藤幹人, 佐藤範英, 佐々木重嘉: 歩行障害

で脳幹脊髄病変を急性発症し、脳脊髄液にてMYD88 L265P変異が確認されたBing-Neel症候群の83歳女性例。第252回日本神経学会関東・甲信越地方会。東京。2025年3月。

34. Yoshizaki S, Kainaga M, Kitao H, Uchibori A, Kagiwata H, Ikeda K, Maruyama K, Nakatomi H, Satomi K, Shibahara J, Hirano T, Ichikawa Y: The Role of Susceptibility-Weighted Imaging in Early Diagnosis of Cerebral Amyloid Angiopathy-Related Inflammation: A Case Report. The 12th Korea-Japan Joint Stroke Conference (KJJS 2025). Osaka. March. 2025.

論文

1. 中島昌典, 吉寄彩織, 上月直樹, 澁谷裕彦, 岡田啓, 今井大也, 中富浩文, 平野照之, 市川弥生子: 齧歯を契機として感染性を疑う脳動脈瘤が顕在化した海綿静脈洞症候群の1例。Journal of Japan Society of Neurological Emergencies & Critical Care. Vol. 36 No.2. 46-52. 2024.
2. 茂呂直紀, 中島昌典, 所澤任修, 永井健太郎, 内堀歩, 市川弥生子: 当院で経験したleucine-rich glioma-inactivated 1(LGI1)抗体陽性脳炎の臨床的特徴。臨床神経学。64巻10号。p.714-718. 2024.
3. 河村理恵, 荒川玲子, 市川弥生子, 川崎秀徳, 徳富智明, 真里谷奨, 吉田玲子, 秋山奈々, 金子実基子, 柴田有花, 西山深雪, 福田令, 渡辺基子, 古庄知己: 遺伝カウンセリングの研究で論文を書こう!(第2弾) 遺伝カウンセリング学会誌に論文を投稿してみよう 研究立案から学会発表, そして論文文化までの道のり。日本遺伝カウンセリング学会誌。44(4)。293-297. 2024.
4. 徳重真一: 小脳疾患における時間認知障害。脳神経内科。100(6)。602-606. 2024.
5. 大石知瑞子^{1,2}, 星野哲³, 神林隆道², 東原真奈⁴, 小林俊輔², 市川弥生子¹, 園生雅弘² (1杏林大学医学部神経内科, 2帝京大学医学部脳神経内科, 3帝京大学附属病院耳鼻咽喉科, 4東京都健康長寿医療センター神経内科): 脛骨神経最小F波潜時に対する身長・年齢・性別の影響 重回帰による検討。脊髄機能診断学。45巻。25-27. 2024.

著書

1. 内堀歩(分担執筆): 第2章ギラン・バレー症候群<臨床的事項>。ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン2024。ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン作成委員会 編集。南江堂。2024。16-27。

循環器内科学教室

講演

学会(国内)

1. 三浦佑介, 泉圭一, 渡部晃佑, 中田千穂, 永松佑基, 三浦陽平, 福士圭, 舟橋紗耶華, 山崎博之, 斉藤竜平, 小山幸平: 重度石灰化病変に対してrotational atherectomyとintravascular lithotripsyを用いた二期の治療戦略が有効だった一例。日本心血管インターベンション治療学会第63回関東甲信越地方会。東京。2024年5月。
2. 三浦佑介, 浦田翔一, 渡部晃佑, 中田千穂, 永松佑基, 三浦陽平, 福士圭, 舟橋紗耶華, 山崎博之, 斉藤竜平, 小山幸平: 院外心停止で搬送された中年女

性の急性冠症候群の一例。日本心血管インターベンション治療学会第63回関東甲信越地方会。東京。2024年5月。

3. 副島京子: 心室頻拍アブレーション治療成績向上のために: 心外膜アプローチ。日本循環器学会第272回関東甲信越地方会。東京。2024年6月。
4. 細田善弘, 合田あゆみ, 泉圭一, 永松佑基, 三浦佑介, 毛利崇人, 福士圭, 小山幸平, 河野隆志, 副島京子: Student Award神経線維腫症1型に合併した急性冠症候群の1例。第272回日本循環器学会関東甲信越地方会。東京。2024年6月。
5. 西山敬文, 池脇宏嗣, 秋葉隆介, 毛利崇人, 西智子, 野々口紀子, 南島俊徳, 合田あゆみ, 河野隆志, 副島京子, 峯岸祥人, 窪田博, 藤原正親, 柴原純二: 右房内へ浸潤した巨大胸腺腫に対して準緊急手術を行い救命しえた一例。第272回日本循環器学会関東甲信越地方会。東京。2024年6月。
6. 舟橋紗耶華: Trailblazing as a Woman: Overcoming Challenges in CLTI fighter. Japan Endovascular Treatment Conference (JET) 2024. 福岡。2024年6月。
7. 舟橋紗耶華: まだまだ不完全なCLTI診療チーム ~ 大学病院編 ~。Japan Endovascular Treatment Conference (JET) 2024. 福岡。2024年6月。
8. 舟橋紗耶華: Lp(a)高値を再考する「Lp(a)をなぜ測定すべきか?」。第56回日本動脈硬化学会総会・学術集会。神戸。2024年7月。
9. 舟橋紗耶華: 家族性高コレステロール血症の心血管疾患一次予防におけるリスク層別化法の検証。第56回日本動脈硬化学会総会・学術集会。神戸。2024年7月。
10. 舟橋紗耶華: EVT Course CLT「緩和医療のコツと落とし穴」。Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference (TOPIC) 2024. 東京。2024年7月。
11. 舟橋紗耶華: EVT Course Practical Workshop Basic編「ガイディングシースの種類・サイズとその選択」。Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference (TOPIC) 2024. 東京。2024年7月。
12. 村田裕康, 飛田和基, 合田あゆみ, 松嶋真哉, 坂本勇斗, 清水大貴, 副島京子, 河野隆志: 中高齢の慢性血栓性肺高血圧症患者におけるダイナペニアおよびサルコペニアとQoLの関連: 横断研究。第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会。神戸。2024年7月。
13. 飛田和基, 坂本勇斗, 宮田一弘, 合田あゆみ, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 副島京子, 河野隆志: 慢性血栓性肺高血圧症患者におけるバルーン肺動脈形成術後の6分間歩行距離の最小重要差。第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会。神戸。2024年7月。
14. 野々口紀子: A case with huge left atrial thrombus after pulmonary vein isolation successfully treated with surgical resection. 第70回日本不整脈心電学会学術大会。金沢。2024年7月。
15. Soejima.K: Patient profile and procedural characteristics of Japanese patients undergoing atrioventricular synchronous leadless pacemaker implant in the real-world setting. 第70回日本不整脈心電学会学術大会。金沢。2024年7月18日。
16. 副島京子: HeartInsight のエビデンスを究める。第70回日本不整脈心電学会学術大会。金沢。2024年7月。

17. 副島京子：リードレスペースメーカーの適応と進化．第70回日本不整脈心電学会学術大会．金沢．2024年7月．
18. 副島京子：心臓突然死って何？助けられないの？．第70回日本不整脈心電学会学術大会．金沢．2024年7月．
19. Mohri T, Sato T, Ikewaki H, Katsume Y, Mika T, Nonoguchi N, Hoshida K, Togashi I, Ueda A, Matsuo S, Shibahara J, Soejima K: Current of injury on the right ventricular septal surface detected before successful lead deployment for left bundle branch area pacing. 第70回日本不整脈心電学会学術総会．金沢．2024年7月．
20. Nishio S, Taniguchi R, Tsuzuki I, Makino K, Ozawa E, Yamaguchi Y, Takimura H, Takimura Y, Nakano M, Tsukahara J: Repeated recurrence ventricular arrhythmias (VAs) originating from near His-bundle region -The more we performed catheter ablation for the Vas, the closer the VAs were to His-bundle region. The 70th Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society. Kanazawa. July. 2024.
21. Nishio S, Taniguchi R, Tsuzuki I, Makino K, Ozawa E, Yamaguchi Y, Takimura H, Takimura Y, Nakano M, Tsukahara R: Focal Atrial tachycardia with urgent catheter ablation. The 70th Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society. Kanazawa. July. 2024.
22. Miura Y, Watabe K, Urata S, Izumi K, Nakata C, Nagamatsu Y, Miura Y, Fukushi K, Funabashi S, Yamazaki H, Saito R, Koyama K, Soejima K: Clinical characteristics and outcome of cardiac arrest patients with initial pulseless electrical activity rhythm receiving extracorporeal cardiopulmonary resuscitation. 第32回日本心血管インターベンション治療学会学術集会;CVIT2024. 札幌．2024年7月
23. 合田あゆみ：肺高血圧症における運動誘発試験の意義．第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会．久留米．2024年8月．
24. 合田あゆみ：PH患者の妊娠 Class III? : Con. 第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会．久留米．2024年8月．
25. 伊波巧：CTEPH診療2024～薬物治療の可能性～．第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会．久留米．2024年8月．
26. 河野隆志，飛田和基，竹内かおり，菊池華子，合田あゆみ，伊波巧：肺高血圧症における共同意思決定に対する患者の視点．第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会．久留米．2024年8月．
27. 飛田和基，合田あゆみ，伊波巧，河野隆志，副島京子：肺高血圧症患者における運動および活動に対するつらさへの対応．第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会．久留米．2024年8月．
28. 伊波巧：「3D-MIP CTPAガイド下BPA」．第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会．久留米．2024年8月．
29. 松尾征一郎：長期持続性の心房細動にケミカルアブレーションをしない．第70回日本不整脈心電学会学術大会．金沢市．2024年8月．
30. 近藤彩春，千木良寛子，飛田和基，増田桃子，高橋英里華，竹内真介，合田あゆみ，河野隆志：心不全患者が望む対話のタイミングをチームで共有してACPを実践する．第28回日本心不全学会学術集会．大宮．2024年10月．
31. 河野隆志：CKD合併HFpEFにおけるレニン・アンジオテンシン系阻害薬使用を考える．第28回日本心不全学会学術集会．さいたま．2024年10月．
32. 河野隆志：心不全予防・治療における睡眠呼吸障害 Up to date-最新のガイドラインを踏まえて-．第28回日本心不全学会学術集会．さいたま．2024年10月．
33. 千木良寛子，近藤彩春，合田あゆみ，増田桃子，坂口智美，高橋英里華，竹内真介，河野隆志：セルフケアに対する患者自信度を踏まえた心不全外来管理．第28回日本心不全学会学術集会．さいたま．2024年10月．
34. 増田桃子，合田あゆみ，竹田紘崇，前田明子，渡邊寿彦，千木良寛子，近藤彩春，高橋英里華，鈴木豪，副島京子，河野隆志：院内・院外のケア移行を踏まえた心臓リハビリテーションの提供．第28回日本心不全学会学術集会．さいたま．2024年10月．
35. 高橋英里華，竹内真介，田村勝彦，千木良寛子，近藤彩春，増田桃子，合田あゆみ，河野隆志：心不全予防も含めた薬物治療適正化における薬剤師の役割．第28回日本心不全学会学術集会．さいたま．2024年10月．
36. 田代身佳，合田あゆみ，柳澤良晃，中丸遼，舟橋紗耶香，竹内真介，副島京子，河野隆志：HFpEF患者における運動時心拍数と最大酸素脈を用いた予後予測に関する検討．第28回日本心不全学会学術集会．さいたま．2024年10月．
37. 合田あゆみ，西智子，柳澤良晃，中丸遼，田代身佳，舟橋紗耶香，竹内真介，副島京子，河野隆志：運動負荷試験による急性心不全後左室逆リモデリングの予測．第28回日本心不全学会学術集会．さいたま．2024年10月．
38. 毛利崇人，上田明子，西尾智，池脇宏嗣，勝目有美，田代身佳，野々口紀子，星田京子，富樫郁子，松尾征一郎，佐藤俊明，副島京子：洞調律時最遅延部位に最早期興奮部位が記録され低電位領域内をPreferential伝導した後，正常電位部位からBreakthroughする心室期外収縮の1例．カテーテルアブレーション関連秋季大会2024．大阪．2024年10月．
39. 松尾征一郎：心房頻拍アブレーションのABC．カテーテルアブレーション関連秋季大会2024．大阪市．2024年10月．
40. 副島京子：非虚血性心疾患に伴う心室頻拍（心外膜含む）．カテーテルアブレーション関連秋季大会2024．大阪，2024年10月．
41. 舟橋紗耶華：CLTI いつEVTする？どこまでEVTする？．第64回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会．東京．2024年10月．
42. 西尾智：発作性心房細動治療後のBlanking内に繰り返し心房粗動・心房頻拍が出現し心不全を合併し治療に難渋した1例．カテーテルアブレーション関連秋季大会2024．大阪．2024年10月．
43. 舟橋紗耶華：A Case of Successful Treatment of Severely Calcified Occlusive Lesions in Difficult Approach Sites . Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT) 2024. 神戸．2024年10月．
44. 舟橋紗耶華：EVTに挑む前に．Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT) 2024. 神戸．2024年10月．
45. 合田あゆみ：肺動脈性肺高血圧および慢性血栓塞栓性肺高血圧症の病態とリハビリテーションの効果．

- 第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会。名古屋。2024年10月。
46. 合田あゆみ：肺高血圧症における心臓リハビリテーションの実際。第9回関東甲信越支部地方会。東京。2024年11月。
 47. 竹内真介，河野隆志，合田あゆみ，副島京子：心不全治療における個別化アプローチ：併存疾患管理と身体活動能力の評価。第53回杏林医学会総会。三鷹。2024年11月。
 48. 毛利崇人，合田あゆみ，佐藤俊明，河野隆志，副島京子：心不全におけるウェアラブルデバイスによるカテーテルアブレーション前後での心房細動の検出並びに活動量評価。第53回杏林医学会総会。三鷹。2024年11月。
 49. 坂本勇斗，飛田和基，村田裕康，清水大貴，合田あゆみ，副島京子，河野隆志：在宅酸素療法を使用する肺動脈性肺高血圧症患者の患者特性ならびに在宅酸素療法の有無によるQOL関連因子の検討。第89回日本循環器理学療法学会学術大会。仙台。2024年11月。
 50. 舟橋紗耶華，河野隆志，千木良寛子，合田あゆみ，副島京子：CLTIの緩和ケア介入のタイミングについて考える。第5回日本フットケア・足病医学会年次学術集会。神戸。2024年11月。
 51. 副島京子：デバイスの選択法：フォーカスアップデートを踏まえて。第125回日本循環器学会四国地方会。松山。2024年12月。
 52. 河野隆志：エンドオブライフ・ケアに対する心不全患者の意向を尊重するためのシステム構築。第31回ヘルスリサーチフォーラム。東京。2024年12月。
 53. 木島優太，毛利崇人，浦田翔一，金澤悠，渡邊貴之，西智子，南島徳徳，合田あゆみ，松尾征一郎，河野隆志，佐藤俊明，坂田好美，副島京子：左側臥位で僧帽弁逆流が重症化し血行動態が破綻する心膜部分欠損が疑われた1例。第274回日本循環器学会関東甲信越地方会。東京。2024年12月。
 54. 川松直人，水野篤，立野滋，河野隆志，東谷迪昭，北井豪，柴田龍宏，武井眞，後岡広太郎，中澤学，塩見紘樹，石津智子：急性期心疾患遺族調査からみたACHD患者の「良い死」。第26回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会。大阪。2025年1月。
 55. 舟橋紗耶華：TAIアプローチで著明な両側石灰化CFA-SFA閉塞病変の治療に成功した一例。第17回Japan Peripheral Revascularization(JPR)。東京。2024年1月。
 56. 舟橋紗耶華：下肢閉塞性動脈疾患(LEAD)診療・研究に関わる循環器内科女性医師。第275回日本循環器学会関東甲信越地方会。東京。2025年2月。
 57. 奥田奈央，菊池華子，竹内かおり，伊波巧，合田あゆみ，河野隆志，副島京子：経カテーテル生検により診断に至った肺動脈内膜肉腫の一例。第275回日本循環器学会関東甲信越地方会。東京。2025年2月。
 58. 副島京子：抜去への考え。第17回植込みデバイス関連冬季大会。福岡。2025年2月。
 59. 河野隆志：心腎連関とフレイルを踏まえた心不全薬物治療の新たな視点。第15回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会。横浜。2025年3月。
 60. 水野篤，河野隆志，塩見紘樹，舟橋紗耶華，宮下光令，中澤葉宇子，小川朝生：心疾患におけるEnd-of-life discussion アドバンス・ケア・プランニングの実際・遺族調査より考える。第52回日本集中治療医学会学術集会。福岡。2025年3月。
 61. 近藤彩春，千木良寛子，増田桃子，飛田和基，吉田信子，今村弥生，竹内真介，合田あゆみ，副島京子，河野隆志：緩和ケアにおける包括的評価尺度を用いて，心不全患者の精神的問題にチームで取り組む。第89回日本循環器学会学術集会。横浜。2025年3月。
 62. Inami T, Momose R, Takeuchi K, Kikuchi H, Goda A, Kohno T, Soejima K, Satoh T: Provocative testing for diagnostic and therapeutic approach in elderly patients with pulmonary arterial hypertension, Symposium 7 New pathophysiology, early diagnosis and treatment strategies of pulmonary hypertension. 第89回日本循環器学会学術集会。横浜。2025年3月。
 63. 柳澤良晃，合田あゆみ，中丸遼，竹内真介，竹内かおり，菊池華子，伊波巧，河野隆志，副島京子：Association of DLCO with Oxygenation and Exercise Hemodynamics in Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. 第89回日本循環器学会学術集会。横浜。2025年3月。
 64. Fujimoto Y, Shiraishi Y, Nogi K, Ueda T, Ishihara S, Nakada Y, Kawakami R, Kitai T, Ohishi S, Akiyama K, Suzuki S, Yamamoto M, Kida K, Okumura T, Nagatomo Y, Kohno T, Nakano S, Kohsaka S, Yoshikawa T, Saito Y, Matsue Y: Prognostic Implications of Mineralocorticoid Receptor Antagonist Use with Creatinine Elevation in Patients with Acute Heart Failure and Reduced Ejection Fraction. 第89回日本循環器学会学術集会。横浜。2025年3月。
 65. Takeuchi S, Kohno T, Goda A, Shiraishi Y, Nakamaru R, Kitamura M, Nagatomo Y, Mizuno A, Nomoto M, Sakamoto M, Miyamoto K, Soejima K, Kohsaka S, Yoshikawa T: Worsening Renal Function at 1 Year after Acute Heart Failure: A Report from the WET-HF2 Registry. 第89回日本循環器学会学術集会。横浜。2025年3月。
 66. 舟橋紗耶華：HDL-mediated Cholesterol Efflux Capacity Predicts All-cause Mortality Following Endovascular therapy in Patients with Peripheral Artery Disease. 第89回日本循環器学会学術集会。横浜。2024年3月。
 67. Inami T, Momose R, Takeuchi K, Kikuchi H, Goda A, Kohno T, Soejima K, Satoh T: Provocative Testing for Diagnostic and Therapeutic Approach in Elderly Patients with Pulmonary Arterial Hypertension. 第89回日本循環器学会学術集会。横浜。2025年3月。
 68. 山崎雄友，白石泰之，池上翔梧，河野隆志，長友祐司，北村光信，坂本宗久，野本美智留，水野篤，高橋寿由樹，家田真樹，香坂俊，吉川勉：Temporal Relationship between Hemoglobin Levels and Ischemic Stroke Risk in Acute Decompensated Heart Failure Patients. 第89回日本循環器学会学術集会。横浜。2025年3月。
 69. 泉圭一，河野隆志，中丸遼，合田あゆみ，白石泰之，竹内真介，北村光信，長友祐司，水野篤，野本美智留，坂本宗久，宮本和享，副島京子，香坂俊，吉川勉：Phenotyping of Patients with Clinical Feature of Advanced Heart Failure: Insight from a Multicenter Registry. 第89回日本循環器学会学術集会。横浜。2025年3月。
 70. 福岡良磨，香坂俊，中丸遼，白石泰之，長友祐司，水野篤，河野隆志，北村光信，野本美智留，家田真樹，河村朗夫，吉川勉：Temporal Trends in Incidence of Sudden Cardiac Death after Acute Decompensation in Japanese HFREF Patients

from 2011 to 2021. 第89回日本循環器学会学術集会. 横浜. 2025年3月.

71. 河野隆志: 心不全におけるアドバンス・ケア・プランニング. 第89回日本循環器学会学術集会. 横浜. 2025年3月.
72. 増田桃子, 合田あゆみ, 中西りか, 齋藤優子, 千木良寛子, 近藤彩春, 高橋英里華, 竹内真介, 副島京子, 河野隆志: 急性冠症候群患者の外來心臓リハビリテーションに対する選好に関する横断的研究. 第89回日本循環器学会学術集会. 横浜. 2025年3月.
73. 坂本勇斗, 合田あゆみ, 田代祥一, 村田裕康, 松嶋真哉, 増田桃子, 河村菜月, 飛田和基, 清水大貴, 清水和敬, 伊波巧, 副島京子, 河野隆志: 肺高血圧症患者におけるRespiratory sarcopeniaの有病率と運動耐容能との関連. 第89回日本循環器学会学術集会. 横浜. 2025年3月.
74. Tanaka T, Shiraishi Y, Kang R, Kohno T, Shoji S, Okuyama T, Oi Y, Goda A, Nakamaru R, Nagatomo Y, Kitamura M, Sakamoto M, Nomoto M, Mizuno A, Nagoshi T, Kohsaka S, Yoshikawa T: Residual Pulmonary Hypertension and Clinical Outcomes in Acute Decompensated Heart Failure Patients Stratified by Left Ventricular Ejection Fraction. 第89回日本循環器学会学術集会. 横浜. 2025年3月.
75. Matsubara H, Tanabe N, Ogo T, Abe K, Inami T, Maeda Y, Arano I, Shirakawa M, Sakai R, Alexandra G. participants with pulmonary arterial hypertension, Late breaking clinical trial 3 PAH, WATCHMAN and Heart Failure. 第89回日本循環器学会学術集会. 東京. 2025年3月.
76. 副島京子: Atrial Fibrillation in Women. 第89回日本循環器学会学術集会. 横浜. 2025年3月.

学会 (海外)

1. Soejima.K : High-density mapping to identify targets for VT ablation. European Heart Rhythm Association 2024. Germany. April 2024.
2. Soejima.K : Challenging Epicardial Access in Patients with Previous Cardiac Surgery. Heart Rhythm 2024. USA. May 2024.
3. Urata S, Inami T, Takeuchi K, Kikuchi H, Goda A, Kohno T, Soejima K, Satoh T: THE STRATEGY OF COMBINATION THERAPY FOR PULMONARY ARTERIAL HYPERTENSION IN HIGH-RISK PATIENTS. The 7th World Symposium on Pulmonary Hypertension. Spain. June 2024.
4. Momose R, Inami T, Takeuchi K, Kikuchi H, Goda A, Kohno T, Soejima K, Satoh T: DIFFERENCES IN RESPONSE TO TREATMENT OF PULMONARY ARTERIAL HYPERTENSION WITH AND WITHOUT CARDIOPULMONARY COMORBIDITIES. The 7th World Symposium on Pulmonary Hypertension. Spain. June 2024.
5. Kanazawa Y, Kikuchi H, Goda A, Mohri T, Takeuchi S, Takeuchi K, Inami T, Soejima K, Kohno T: THE EXERCISE PULMONARY HYPERTENSION IN PATIENTS WITH SYSTEMIC SCLEROSIS BASED ON UPDATED GUIDELINES. The 7th World Symposium on Pulmonary Hypertension. Spain. June. 2024.
6. Nagamatsu Y, Inami T, Takeuchi K, Kikuchi H, Goda A, Kohno T, Soejima K, Satoh T: THE USEFULNESS OF PERIPHERAL-PRESSURE-DIRECTED BALLOON PULMONARY

ANGIOPLASTY FOR CHRONIC THROMBOEMBOLIC PULMONARY HYPERTENSION. The 7th World Symposium on Pulmonary Hypertension. Spain. July 2024.

7. Naka Y, Inami T, Takeuchi K, Kikuchi H, Goda A, Kohno T, Soejima K, Satoh T: a EFFICACY OF BALLOON PULMONARY ANGIOPLASTY IN CHRONIC THROMBOEMBOLIC PULMONARY DISEASE PATIENTS WITH EXERCISE PULMONARY HYPERTENSION AND/OR HYPOXEMIA. The 7th World Symposium on Pulmonary Hypertension. Spain. July 2024.
8. Nishiyama T, Goda A, Kikuchi H, Takeuchi K, Inami T, Soejima K, Kohno T: RELATIONSHIP BETWEEN EXERCISE PULMONARY HYPERTENSION AND RV-PA UNCOUPLING IN CHRONIC THROMBOEMBOLIC PULMONARY HYPERTENSION WITH NORMALIZED HEMODYNAMICS AFTER BALLON PULMONARY ANGIOPLASTY. The 7th World Symposium on Pulmonary Hypertension. Spain. July 2024.
9. Soejima.K : My approach to substrate VT ablation. 72ND ANNUAL SCIENTIFIC MEETING OF THE CARDIAC SOCIETY OF AUSTRALIA AND NEW ZEALAND. Australia. August 2024.
10. Soejima.K : PVC related cardiomyopathy – the chicken or the egg. 72ND ANNUAL SCIENTIFIC MEETING OF THE CARDIAC SOCIETY OF AUSTRALIA AND NEW ZEALAND. Australia. August 2024.
11. Soejima.K : Ablation of VT in non-ischemic cardiomyopathy. 72ND ANNUAL SCIENTIFIC MEETING OF THE CARDIAC SOCIETY OF AUSTRALIA AND NEW ZEALAND. Australia. August 2024
12. Funabashi S: Apolipoprotein B and the Regression of Lipidic Plaque in Statin-treated Type 2 DM Patients with Coronary Artery Disease: The Pre-specified Sub-analysis from the OPTIMAL Randomized Controlled Trial. European Society of Cardiology (ESC) Congress 2024. UK. August. 2024.
13. Fukuoka R, Kohsaka S, Nakamaru R, Shiraishi Y, Nagatomo Y, Mizuno A, Kohno T, Kitamura M, Nomoto M, Ieda M, Kawamura A, Yoshikawa T: Temporal trends in sudden cardiac death after acute decompensation in HFrEF patients: a 13-year Japanese multicentre registry study. European Society of Cardiology Congress. UK. September 2024.
14. Soejima.K : Leadless. 17th Asia Pacific Heart Rhythm Society 2024. Australia. September 2024.
15. Mohri T, Sato T, Ikewaki H, Katsume Y, Tashiro M, Nonoguchi N, Hoshida K, Togashi I, Ueda A, Matsuo S, Shibahara J, Soejima K: Current of injury on the right ventricular septal surface detected before successful lead deployment for left bundle branch area pacing. The 18th Asia Pacific Heart Rhythm Society (APHRs). Australia. September 2024 .
16. Kawai A, Nagatomo Y, Iwashita M, Ikegami Y, Takei M, Goda A, Kohno T, Mizuno A, Kitamura M, Nakano S, Sakamoto M, Shiraishi Y, Kohsaka

S, Adachi T, Yoshikawa T: WET-HF Investigators: Sex-Related Differences in Long-Term Outcomes Across the Spectrum of Left Ventricular Ejection Fraction in Acute Decompensated Heart Failure Patients. American Heart Association Scientific Sessions. USA. November. 2024.

17. Soejima.K : Epicardial VT Ablation : Tips And Tricks . Asia Pacific Heart Rhythm Society Summit 2025. Malaysia.February 2025.
18. Soejima K : Ablating LV Summit Ventricular Arrhythmia: A Comprehensive Guide. Taiwan Heart Rhythm Society Annual Conference. Taiwan. March 2025.

研究会・講演会

1. 副島京子: Shock Reductionの重要性. ICDの適応について再考する～1次予防だからこそ必要なデバイス治療戦略とは～. 弘前. 2024年4月.
2. 副島京子: 心房細動の早期発見・早期治療の重要性. 三条市医師会学術講演会. オンライン. 2024年4月.
3. 南島俊徳: 日常診療で注意すべき発熱について. 第14回多摩三科懇話会. 調布. 2024年4月.
4. 副島京子: 本邦におけるMicraの立ち位置と今後の展望. Micra2発売記念講演会 これからのリードレスペースメーカを考える. オンライン. 2024年4月.
5. 三浦佑介: CTO case series. CTO Group Meeting. オンライン. 2024年4月.
6. 河野隆志: 演題患者中心の意思決定支援を考える・心不全治療とアドバンスケアプランニング・. TOYOHIRA Heart Forum 2024. オンライン. 2024年4月.
7. 副島京子: 本邦におけるリードレスペースメーカの立ち位置とMicra2への期待. Micra2発売記念講演 in 山口. オンライン. 2024年5月.
8. 伊波巧: 肺高血圧症の治療戦略～最新の診療ガイドラインの内容を含めて～. PH医療連携セミナー～息切れに潜む難治性疾患～. 東京. 2024年5月.
9. 松尾征一郎: Simple Transseptal Puncture AccuSafe® 0.032 wireとNavigo®シースを用いた心房中隔穿刺法の初期使用経験. KOKURA LIVE 2024. 福岡. 2024年5月.
10. 伊波巧: CTEPHにおける薬物治療の役割とセレキシバグの使用経験. ウブトラビWebカンファレンス. オンライン. 2024年5月.
11. 副島京子: 心室頻拍治療のこつ. 次世代不整脈エキスパート講座 in 佐賀・長崎. 佐賀. 2024年5月.
12. 伊波巧: CTEPH診療 Up-to-date. 新潟CTEPHセミナー. 新潟. 2024年5月.
13. 伊波巧: 心疾患併存PAHでの診断・治療戦略, 心疾患併存PAHのマネジメント～左心疾患を中心とした原疾患を管理した上でのPAH治療を考える. オンライン. 2024年6月.
14. 副島京子: 不整脈治療の魅力. 第127回三重循環器研究会. 津. 2024年6月.
15. 伊波巧: がんと肺血栓塞栓症の治療戦略～TBIPの概念とOnco-cardiologyガイドライン～. がんと血栓症を考える in Tama. オンライン. 2024年6月.
16. 副島京子: 心房細動を早く見つけて治療することの意義. 南多摩心電図勉強会. オンライン. 2024年6月.
17. 河野隆志: 心不全とACSの地域連携～最新の話題～心不全治療・予防を併存疾患から考える・高血圧管理

の最近の話題も踏まえて・. 第29回動脈硬化危険因子研究会. さいたま. 2025年6月.

18. 副島京子: 不整脈治療ガイドライン改訂でデバイス治療はどう変わるか?. 高知ペーシングフォーラム. 高知. 2024年7月.
19. 伊波巧: 肺動脈性肺高血圧症の治療戦略～当院での副作用マネジメント～. 碓氷峠PH seminar. 群馬. 2024年7月.
20. 伊波巧: 心肺併存疾患を伴う肺動脈性肺高血圧症の治療戦略. 肺高血圧症Webセミナー. オンライン. 2024年7月.
21. 副島京子: 心房細動の早期発見と治療. 第60回川口循環器研究会. オンライン. 2024年7月.
22. 副島京子: これからのリードレスペースメーカを考える. 新潟エリアMicra講演会. 新潟. 2024年7月.
23. 三浦佑介: 治療に難渋したCTO症例. 多摩エリアPCIセミナー. オンライン. 2024年7月.
24. 野々口紀子: 心房細動のスクリーニング～各種デジタルデバイスを使いこなして～. 循環器治療Up to Date. 三鷹. 2024年7月.
25. 三浦佑介: 心不全ステージに基づくARNIの使用と期待. Collaboration Meeting 心臓と脳 ～高血圧診療を考える～. 三鷹. 2024年8月.
26. 松尾征一郎: RFは生き残れるか?. 一般向け公開講座. 東京. 2024年8月.
27. 副島京子: これからのリードレス時代を考える. 北海道Micra2発売記念講演会. オンライン. 2024年8月.
28. 副島京子: 大切な人を救うためにAEDを使えますか?. 第6回千葉県民公開講座. 千葉. 2024年8月.
29. 伊波巧: 膠原病の心肺病変に対する循環器内科の役割. 膠原病診療で知っておきたい心肺病変Web Seminar. オンライン. 2024年8月.
30. 野々口紀子: 心電図, 読影力をパワーアップ. 三鷹市医師会生涯教育研究会 第1回三鷹市医師会 心電図勉強会. オンライン. 2024年9月.
31. 副島京子: リードレスペースメーカの現状と将来. 第45回山梨不整脈勉強会. 甲府. 2024年9月.
32. 副島京子: 心不全患者に不整脈医ができること. 第4回Toyama Heart Failure. 富山. 2024年9月.
33. 斉藤竜平: TGを考慮した冠動脈疾患のリスク管理について. 冠動脈疾患予防を考える会 in 多摩. オンライン. 2024年9月.
34. 河野隆志: 心不全予防・治療を踏まえて 睡眠呼吸障害マネジメントを再考する. 第4回心不全呼吸療法講演会. オンライン. 2024年9月.
35. 小山幸平: 冠動脈疾患リスクへの新たなアプローチ～Dual Energy CTによる高尿酸血症評価の可能性～. 西東京市医師会学術講演会. オンライン. 2024年9月.
36. 副島京子: 心室頻拍のカテーテルアブレーション. 第2回徳洲会 国際心臓血管セミナー in 葉山. 葉山町. 2024年9月.
37. 副島京子: 明日から役立つVYアブレーションの基礎. Nagoya Ablation Basic 2024 Autumn. 名古屋. 2024年9月.
38. 小山幸平: “心雑音”患者さんいませんか～当院における僧帽弁閉鎖不全症への新しい取り組み～. 弁膜症治療地域連携Webセミナー. オンライン. 2024年9月.
39. 小山幸平: 循環器病の診療実態と現状の課題. TAMA

- Cardiologist Seminar. オンライン. 2024年9月.
40. 三浦佑介:異なる機序により二度の合併症をきたした一例. Tokyo coronary intervention. conference (TCIC). 東京. 2024年9月.
 41. 福土圭:「当院における循環器疾患の急性期治療と血圧管理」. 虚血性心疾患のTopics. オンライン. 2024年9月
 42. 伊波巧:循環器内科から見たPH診療のポイント.PH Seminar in Tama. オンライン. 2024年10月.
 43. 松尾征一郎:パルスフィールドアブレーションは、高周波アブレーションに取ってかわるか?. 一般向け公開講座. オンライン. 2024年10月.
 44. 副島京子: The Next Generation of Micra Leadless Pacemaker: How it Benefits the Patients. THRS 秋季学術研究会. オンライン. October 2024.
 45. 小山幸平: NIRS-IVUSを用いたACS不安定プラーク治療戦略 ~ Drug Intervention ~. ACS Management Seminar. オンライン. 2024年10月.
 46. 河野隆志:心不全治療・予防を併存疾患から再考する-CKDとカリウム異常の管理も踏まえて-. Frontier primary care. オンライン. 2024年10月.
 47. 小山幸平: 実地医家の先生と弁膜症診療を考える. 北多摩循環器webセミナー. オンライン. 2024年10月.
 48. 松尾征一郎: 循環器Expert Seminar in Okinawa. 一般向け公開講座. 那覇市. 2024年10月.
 49. 三浦佑介: Aperta NSEへの期待. Monthly Aperta NSE. オンライン. 2024年10月.
 50. 河野隆志:薬剤師による心不全マネジメント-服薬管理指導の手引きを踏まえて-. Sapporo Heart failure Premium Webinar. オンライン. 2024年11月.
 51. 小山幸平:狭心症・心筋梗塞はどんな病気?~最新の診断・治療から予防まで~. 三鷹ネットワーク大学杏林大学公開講座. オンライン. 2024年11月.
 52. 伊波巧: PAH診療の最前線~最適な治療をエビデンスより考察する~. ADEMPAS Expert Forum. オンライン. 2024年11月.
 53. 副島京子: 心房細動早期発見と治療の重要性. 城西循環器カンファレンス. オンライン. 2024年11月.
 54. 伊波巧: 肺動脈性肺高血圧症における新たなエビデンス-ERAとPDE5阻害薬併用療法A DUE studyを読み解く. PAH Academy Webセミナー. オンライン. 2024年11月.
 55. 舟橋紗耶華: LEAD (下肢閉塞性動脈疾患). 第4回学術委員会主催セミナー. オンライン. 2024年11月.
 56. 伊波巧: 肺高血圧症の治療戦略~最新の診療ガイドラインの内容を含めて~. PH Update seminar. 東京. 2024年11月.
 57. 河野隆志: 心不全plus併存疾患診療はどうあるべきか?-SGLT2阻害薬を軸にした最新の考え方-. 循環器疾患を考える会~心不全, 弁膜症を中心に~. オンライン. 2024年11月.
 58. 松尾征一郎: パルスフィールド新時代. 一般向け公開講座. 名古屋市. 2024年11月.
 59. 竹内真介:高尿酸血症と心不全診療. ユリスwebチャンネル. オンライン. 2024年11月.
 60. 伊波巧:CTEPH診療 Up-to-date. CTEPH Clinical Conference. 東京. 2024年11月.
 61. 三浦佑介: Aperta NSEを用いたlesion prep. Lesion Prep Conference. オンライン. 2024年11月
 62. 副島京子: CKDと循環器疾患: 心室性不整脈の治療の意義. 心腎連関 学術Webセミナー2024~CKD患者の救命のために~. 浦安. 2024年12月.
 63. 副島京子: 心室性不整脈の現状と未来. 日本医師会生涯教育講座 不整脈治療の現状と未来の展望. 札幌. 2024年12月.
 64. 斎藤哲也, 村田直隆, 小山幸平: ASCVD患者の厳格なLDL管理について. 実地臨床戦略を考える. オンライン. 2024年12月.
 65. 河野隆志: より良い心不全チーム医療を追求する. 東京都心不全サポート事業 北多摩南北医療圏地域連携交流会Heartリンク第5回. 東京. 2024年12月.
 66. 松下健一, 原田和昌, 河野隆志, 中野宏己, 北野大輔, 松田淳也, 武井眞, 吉野英朗, 山本剛, 長尾健, 高山守正: 急性心不全における糖尿病性心筋症の病理像. 第44回東京CCU研究会. 東京. 2024年12月.
 67. 神馬崇宏, 小寺聡, 香坂俊, 大塚俊昭, 原田和昌, 進藤彰人, 白石泰之, 河野隆志, 武井眞, 中野宏己, 松田淳也, 山本剛, 長尾健, 高山守正: 深層学習による気候データを用いた急性心不全発症予測モデルの構築. 第44回東京CCU研究会. 東京. 2024年12月.
 68. 副島京子: 患者QOLの観点から再考するICD治療戦略. Capital-Region ICD Summit~患者様がより快適な生活を送るために検討すべきこと~. 東京. 2025年1月.
 69. 三浦佑介: 虚血性心疾患診療を考える. 北多摩循環器webセミナー. オンライン. 2025年1月.
 70. 舟橋紗耶華: いまさら聞けない脂質異常症「高Lp(a)血症: まずは測定から始めましょう」. 日本動脈硬化学会セミナー. 松山. 2025年1月.
 71. 竹内真介:健康寿命を伸ばすために知っておきたい心不全の基礎知識. 第58回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会 市民公開講座. オンライン. 2025年1月.
 72. 伊波巧: CTEPHの早期診断と治療のポイント. CTEPH診療フォーラムin多摩. オンライン. 2025年2月.
 73. 副島京子: これからの循環器医師のキャリア創生. Medtronic Expert Meeting. 東京. 2025年2月.
 74. 伊波巧: CTEPH診療2025~薬物治療の可能性~. BPA Meeting in Winter. オンライン. 2025年2月.
 75. 河野隆志: ACP (Advance Care Planning・人生会議)って何?取り組み紹介. 令和6年度東京都多摩府中保健所 医療安全支援センター講演会. オンライン. 2025年3月.
 76. 副島京子: 心室頻拍治療の最近の進歩: 心室頻拍から徐脈まで. 不整脈アカデミー. オンライン. 2025年3月.
 77. 野々口紀子: 心電図, 読影力をパワーアップ. 三鷹市医師会生涯教育研究会 第2回三鷹市医師会 心電図勉強会. オンライン. 2025年3月.
 78. 舟橋紗耶華: CLTI ~ Community Linkage for Timely Intervention~. 救急のためのCLTI診療ネットワーク~杏林大学編~. オンライン. 2025年3月.

論文 和文

1. 川松直人, 水野篤, 立野滋, 河野隆志, 東谷迪昭, 北井豪, 柴田龍宏, 武井眞, 後岡広太郎, 中澤学, 塩見紘樹, 千葉義郎, 石津智子: 急性期心疾患遺族調査からみたACHD患者の「良い死」. 日本成人先天性心疾患学会雑誌. 第14巻第2号. Page 1-9. 2025.

英文

1. Soejima K, Nogami A, Kumagai K, Uno K, Kurita T, Morishima I, Miura F, Kato R, Kimura T, Takita A, Goshō M, Aonuma K; RYOUMA Investigators: Impact of frailty in patients with non-valvular atrial fibrillation undergoing catheter ablation. *J Arrhythm.* 2024;40(3):463-471. doi: 10.1002/joa3.13038.
2. Watabe K, Goda A, Tobita K, Yokoyama S, Kikuchi H, Takeuchi K, Inami T, Soejima K, Kohno T: Determinants of physical quality of life in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension after treatment: Insights from invasive exercise stress test. *J Heart Lung Transplant.* 2024 43(8):1278-1287.. doi: 10.1016/j.healun.2024.04.001.
3. Nemoto N, Inami T, Onozawa S, Kohno T, Nagahama K, Soejima K, Hisamatsu T: A case report of limitation of transcatheter hepatic arterial embolization for hereditary hemorrhagic telangiectasia type 2 with pulmonary arterial hypertension. *Int J Surg Case Rep.* 2024;119:109634. doi: 10.1016/j.ijscr.2024.109634.
4. Miura Y, Koyama K, Kohno T, Soejima K, Torii S, Nakazawa G: Rapid progression of a coronary artery aneurysm caused by IgG4-related disease. *Cardiovasc Pathol.* 2024;71:107647. doi: 10.1016/j.carpath.2024.107647.
5. Tamura Y, Kumamaru H, Tsujino I, Suda R, Abe K, Inami T, Horimoto K, Adachi S, Yasuda S, Sera F, Taniguchi Y, Kuwana M, Tatsumi K; Japan Pulmonary Hypertension Registry Network: Switching from Beraprost to Selexipag in the Treatment of Pulmonary Arterial Hypertension: Insights from a Phase IV Study of the Japanese Registry (The EXCEL Study: EXChange from bEraprost to seLexipag Study). *Pharmaceuticals (Basel).* 2024;17(5):555. doi: 10.3390/ph17050555.
6. Kawai A, Nagatomo Y, Yukino-Iwashita M, Ikegami Y, Takei M, Goda A, Kohno T, Mizuno A, Kitamura M, Nakano S, Sakamoto M, Shiraishi Y, Kohsaka S, Adachi T, Yoshikawa T; As WET-HF investigators: Supra-normal and mildly reduced ejection fraction in women -An overlooked vulnerable subpopulation in heart failure. *Int J Cardiol.* 2024. :409:132166. doi: 10.1016/j.ijcard.2024.132166.
7. Takeuchi S, Kohno T, Goda A, Shiraishi Y, Kitamura M, Nagatomo Y, Takei M, Nomoto M, Soejima K, Kohsaka S, Yoshikawa T; West Tokyo Heart Failure Registry Investigators: Renin-angiotensin system inhibitors for patients with mild or moderate chronic kidney disease and heart failure with mildly reduced or preserved ejection fraction. *Int J Cardiol.* 2024 :409:132190. doi: 10.1016/j.ijcard.2024.132190.
8. Kanazawa Y, Goda A, Mohri T, Takeuchi S, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Soejima K, Kohno T: Exercise pulmonary hypertension in patients with systemic sclerosis based on updated guidelines. *Sci Rep.* 2024;14(1):13358. doi: 10.1038/s41598-024-63823-0.
9. Soejima K, Hilpisch K, Samec ML, Temple RL, Bonner MD: Jugular Approach for the Transcatheter Pacemaker Implant - Better Access for Smaller Hearts?. *Circ J.* 2024;88(7):1127-1134. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0083.
10. Masaki K, Hosokawa K, Funakoshi K, Taniguchi Y, Adachi S, Inami T, Yamashita J, Ogino H, Tsujino I, Hatano M, Yaoita N, Ikeda N, Shimokawahara H, Tanabe N, Kubota K, Shigeta A, Ogihara Y, Horimoto K, Dohi Y, Kawakami T, Tamura Y, Tatsumi K, Abe K: CTEPH AC Registry Study Group. Outcomes of Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension After Balloon Pulmonary Angioplasty and Pulmonary Endarterectomy. *JACC Asia.* 2024;4(8):577-589. doi: 10.1016/j.jacasi.2024.05.007.
11. Noma S, Kato K, Otsuka T, Nakao YM, Aoyama R, Nakayama A, Mizuno A, Kanki S, Wada Y, Watanabe Y, Aoki-Kamiya C, Hoshina K, Takahashi S, Bando Y, Ide T, Honye J, Harada-Shiba M, Saito A, Nakano Y, Sakata Y, Soejima K, Maemura K, Tetsuo Tsukada Y; JROAD-DIVERSITY Investigators: Sex Differences in Cardiovascular Disease-Related Hospitalization and Mortality in Japan - Analysis of Health Records From a Nationwide Claim-Based Database, the Japanese Registry of All Cardiac and Vascular Disease (JROAD). *Circ J.* 2024;88(8):1332-1342. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0960.
12. Suzuki T, Miyashita M, Kohno T, Rewley J, Igarashi N, Aoyama M, Higashitani M, Kawamatsu N, Kitai T, Shibata T, Takei M, Nochioka K, Nakazawa G, Shiomi H, Tateno S, Anzai T, Mizuno A: Bereaved family members' perspectives on quality of death in deceased acute cardiovascular disease patients compared with cancer patients - a comparison of the J-HOPE3 study and the quality of palliative care in heart disease (Q-PACH) study. *BMC Palliat Care.* 2024; 23(1): 188. doi: 10.1186/s12904-024-01521-4.
13. Funabashi S, Kataoka Y, Hori M, Ogura M, Doi T, Morita Y, Kiyoshige E, Nishimura K, Noguchi T, Harada-Shiba M: Asymptomatic Intracranial Artery Stenosis/Occlusion in Heterozygous Familial Hypercholesterolemia: Its Frequency and Implications for Cerebrovascular and Cardiovascular Events. *J Am Heart Assoc.* 2024;13(15):e033972. doi: 10.1161/JAHA.123.033972.
14. Mitsuyama Y, Goda A, Kikuchi H, Takeuchi K, Inami T, Soejima K, Kohno T: Pulmonary Arterial Hypertension Associated With Idiopathic Hypereosinophilic Syndrome: Importance of Eosinophilia Control With Steroid Therapy. *CJC Open.* 2024;7(1):123-125. doi: 10.1016/j.cjco.2024.09.009.
15. Miura Y, Koyama K, Izumi K, Yamazaki H, Soejima K: Staged strategy of combined rotational atherectomy and intravascular lithotripsy for severely calcified lesions: an evaluation using multimodality intracoronary imaging-a case report. *Eur Heart J Case Rep.* 2024;8(10):ytae504. doi: 10.1093/ehjcr/ytae504.
16. Thanh Nguyen PN, Katsume Y, Ueda A, Matsuo S, Nonoguchi N, Ikewaki H, Mohri T, Hoshida K, Tashiro M, Sato T, Togashi I, Soejima K: Analysis

- of junctional beats during slow pathway ablation: Illuminating the mechanism of typical and atypical AV nodal re-entrant tachycardia. *Heart Rhythm* 02. 2024;5(12):910-916. doi: 10.1016/j.hrthm.2024.09.021.
17. Kasai T, Kohno T, Shimizu W, Ando S, Joho S, Osada N, Kato M, Kario K, Shiina K, Tamura A, Yoshihisa A, Fukumoto Y, Takata Y, Yamauchi M, Shiota S, Chiba S, Terada J, Tonogi M, Suzuki K, Adachi T, Iwasaki Y, Naruse Y, Suda S, Misaka T, Tomita Y, Naito R, Goda A, Tokunou T, Sata M, Minamino T, Ide T, Chin K, Hagiwara N, Momomura S: Japanese Circulation Society: JCS 2023 Guideline on Diagnosis and Treatment of Sleep Disordered Breathing in Cardiovascular Disease. *Circ J*. 2024;88(11):1865-1935. doi: 10.1253/circj. CJ-23-0489.
 18. Toyoda K, Kusano K, Iguchi Y, Ikeda T, Morishima I, Tomita H, Asano T, Yamane T, Nakahara I, Watanabe E, Koyama J, Kato R, Morita H, Hirano T, Soejima K, Owada S, Abe H, Yasaka M, Nakamura T, Kasner S, Natale A, Beinart S, Amin AN, Pouliot E, Franco N, Hidaka K, Okumura K: Global Results of Implantable Loop Recorder for Detection of Atrial Fibrillation After Stroke: Reveal LINQ Registry. *J Am Heart Assoc*. 2024;13(21):e035956. doi: 10.1161/JAHA.124.035956.
 19. Momoi M, Katsumata Y, Hiraide T, Shinya Y, Goto S, Inami T, Kosaki K, Kataoka M: Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension as RNF213-Associated Vascular Disease. *JACC Asia*. 2024;4(12):1017-1019. doi: 10.1016/j.jacasi.2024.09.012.
 20. Tashiro M, Goda A, Yanagisawa Y, Nakamaru R, Funabashi S, Takeuchi S, Soejima K, Kohno T: Prognostic value of heart rate and oxygen pulse response in heart failure with left ventricular ejection fraction over 40. *Clin Res Cardiol*. 2024. doi: 10.1007/s00392-024-02577-1. Online ahead of print.
 21. Izumi K, Kohno T, Goda A, Takeuchi S, Shiraishi Y, Higuchi S, Nakamaru R, Nagatomo Y, Kitamura M, Takei M, Sakamoto M, Mizuno A, Nomoto M, Soejima K, Kohsaka S, Yoshikawa T: Effect of basic activities of daily living independence on home discharge and long-term outcomes in patients hospitalized with heart failure. *Heart Vessels*. 2024. doi: 10.1007/s00380-024-02486-3. Online ahead of print.
 22. Himeno Y, Kitakata H, Kohno T, Hashimoto S, Fujisawa D, Shiraishi Y, Nakano N, Hiraide T, Kishino Y, Katsumata Y, Yuasa S, Kohsaka S, Ieda M: Post-Discharge Self-Care Confidence and Performance Levels in Patients Hospitalized due to Heart Failure. *J Card Fail*. 2024;S1071-9164(24)00927-8. doi: 10.1016/j.cardfail.2024.10.441.
 23. Nonoguchi NM, Soejima K, Katsume Y, Hoshida K, Togashi I, Goda A, Ueda A, Matsuo S, Sato T, Takano Y, Koyama F, Fujita S, Nishimura K, Kohno T: Wristwatch pulse wave monitoring: assessing daily activity post-catheter ablation for atrial fibrillation. *Eur Heart J Digit Health*. 2024;6(1):96-103. doi: 10.1093/ehjdh/ztae091.
 24. Tamura Y, Hosokawa K, Horimoto K, Ikeda S, Inami T, Kubota K, Nakanishi N, Shirai Y, Tanabe N, Tsujino I, Matsubara H: Development and Validation of Quality Indicators for Pulmonary Arterial Hypertension Management in Japan: A Modified Delphi Consensus Study. *Diagnostics (Basel)*. 2024;14(23):2656. doi: 10.3390/diagnostics14232656.
 25. Naka Y, Inami T, Takeuchi K, Kikuchi H, Goda A, Kataoka M, Kohno T, Soejima K, Satoh T: Efficacy of balloon pulmonary angioplasty in patients with chronic thromboembolic pulmonary disease and exercise pulmonary hypertension. *Respir Med*. 2024;234:107848. doi: 10.1016/j.rmed.2024.107848.
 26. Momoi M, Katsumata Y, Kunimoto H, Inami T, Miya F, Anzai A, Goto S, Miura A, Shinya Y, Hiraide T, Shirakawa K, Endo J, Fukuda K, Ieda M, Kosaki K, Nakajima H, Kataoka M: Clonal Hematopoiesis in Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. *J Am Heart Assoc*. 2024;13(23):e035498. doi: 10.1161/JAHA.124.035498.
 27. Nguyen PNT, Ueda A, Katsume Y, Nonoguchi N, Mohri T, Hirata Y, Kondo H, Watanabe K, Soejima K: A case of dilated cardiomyopathy successfully managing refractory electrical storm through sympathetic modulation. *J Cardiol Cases*. 2024;31(3):68-71. doi: 10.1016/j.jccase.2024.11.008.
 28. Katsume Y, Hasegawa K, Limprasert S, Ueda A, Kanagasundram AN, Richardson TD, Stevenson WG, Soejima K: Termination Without Global Propagation in Re-Entrant Ventricular Tachycardia: Electrophysiologic Characteristics and 3D-Electroanatomical Mapping Analysis. *JACC Clin Electrophysiol*. 2024;10(12):2545-2553. doi: 10.1016/j.jacep.2024.08.004.
 29. Masuda M, Tobita K, Goda A, Fujisawa D, Takeuchi S, Koyama K, Tashiro S, Yamada S, Soejima K, Kohno T: Knowledge of Illness Trajectory and Symptoms of Heart Failure in Patients with Acute Coronary Syndrome. *J Card Fail*. 2024 Dec;S1071-9164(24)00968-0. doi: 10.1016/j.cardfail.2024.11.013.
 30. Huang YS, Pak HN, Hiroshima K, Yamaguchi T, Chen YL, Fukaya H, Soejima K, Yan BP, Morishima I, Shizuta S, Okubo K, Zheng Q, Choi JI, Jiang C, Ieda M, Horvath EE, Lo LW: High-density mapping in catheter ablation for atrial fibrillation in Asia Pacific region: An observational study. *J Arrhythm*. 2024 Dec;41(1):e13168. doi: 10.1002/joa3.13168.
 31. Richardson TD, Attia ZI, Chorin E, Delmar M, Di Biase L, Ellenbogen KA, Ernst S, Gollob MH, Indik JH, Kannankeril PJ, Rosso R, Santangeli P, Soejima K, Stevenson WG, Swerdlow CD, Tung R, Vijayaraman P, Wilde AAM, Zipes DP, Viskin S: Describing cardiac anatomy: The truth is staring us in the face. *Heart Rhythm*. 2024 Dec;21(12):2386-2387. doi: 10.1016/j.hrthm.2024.07.125.
 32. Miura Y, Higuchi S, Kohno T, Shiraishi Y, Kitamura M, Nagatomo Y, Kawakubo Ichihara Y,

- Mizuno A, Nakano S, Soejima K, Goda A, Kohsaka S, Yoshikawa T: West Tokyo Heart Failure (WET-HF) Registry Investigators: Cachectic biomarkers as confounders behind the obesity paradox in patients with acute decompensated heart failure. *Int J Obes (Lond)*. 2025. doi: 10.1038/s41366-025-01716-6.
33. Shiraishi Y, Niimi N, Kohsaka S, Harada K, Kohno T, Takei M, Jimba T, Nakano H, Matsuda J, Shindo A, Kitano D, Tsukamoto S, Koba S, Yamamoto T, Takayama M: Hospital Variability in the Use of Vasoactive Agents in Patients Hospitalized for Acute Decompensated Heart Failure for Clinical Phenotypes. *Circ Cardiovasc Qual Outcomes*. 2025:e011270. doi: 10.1161/CIRCOUTCOMES.124.011270. Online ahead of print.
 34. Hosoda Y, Goda A, Yanagisawa Y, Miura Y, Nakamaru R, Funabashi S, Tashiro M, Nishi T, Takeuchi S, Soejima K, Kohno T: Prediction of left ventricular reverse remodeling in patients with heart failure with reduced ejection fraction using cardiopulmonary exercise testing. *J Cardiol*. 2025:S0914-5087(25)00021-8. doi: 10.1016/j.jjcc.2025.01.021. Epub ahead of print.
 35. Iwasaki YK, Noda T, Akao M, Fujino T, Hirano T, Inoue K, Kusano K, Nagai T, Satomi K, Shinohara T, Soejima K, Sotomi Y, Suzuki S, Yamane T, Kamakura T, Kato H, Katsume A, Kondo Y, Kuroki K, Makimoto H, Murata H, Oka T, Tanaka N, Ueda N, Yamasaki H, Yamashita S, Yasuoka R, Yodogawa K, Aonuma K, Ikeda T, Minamino T, Mitamura H, Nogami A, Okumura K, Tada H, Kurita T, Shimizu W; Japanese Circulation Society and Japanese Heart Rhythm Society Joint Working Group: JCS/JHRS 2024 Guideline Focused Update on Management of Cardiac Arrhythmias. *Circ J*. 2025. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0073. Epub ahead of print.
 36. Suzuki T, Kitai T, Kohno T, Kohsaka S, Mizuno A: Quality Metrics for Heart Failure - A Guideline-Driven Indicator Development Using a Modified Delphi Process and Its Applicability to Contemporary Japanese Practice. *Circ J*. 2025. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0971. Online ahead of print.
 37. Tsukada YT, Aoki-Kamiya C, Mizuno A, Nakayama A, Ide T, Aoyama R, Honye J, Hoshina K, Ikegame T, Inoue K, Bando YK, Kataoka M, Kondo N, Maemura K, Makaya M, Masumori N, Mito A, Miyauchi M, Miyazaki A, Nakano Y, Nakao YM, Nakatsuka M, Nakayama T, Oginosawa Y, Ohba N, Otsuka M, Okaniwa H, Saito A, Saito K, Sakata Y, Harada-Shiba M, Soejima K, Takahashi S, Takahashi T, Tanaka T, Wada Y, Watanabe Y, Yano Y, Yoshida M, Yoshikawa T, Yoshimatsu J, Abe T, Dai Z, Endo A, Fukuda-Doi M, Ito-Hagiwara K, Harima A, Hirakawa K, Hosokawa K, Iizuka G, Ikeda S, Ishii N, Izawa KP, Kagiya N, Umeda-Kameyama Y, Kanki S, Kato K, Komuro A, Konagai N, Konishi Y, Nishizaki F, Noma S, Norimatsu T, Numao Y, Oishi S, Okubo K, Ohmori T, Otaki Y, Shibata T, Shibuya J, Shimbo M, Shiomura R, Sugiyama K, Suzuki T, Tajima E, Tsukihashi A, Yasui H, Amano K, Kohsaka S, Minamino T, Nagai R, Setoguchi S, Terada K, Yumino D, Tomoike H; Japanese Circulation Society Joint Working Group: JCS/JCC/JACR/JATS 2024 Guideline on Cardiovascular Practice With Consideration for Diversity, Equity, and Inclusion. *Circ J*. 2025. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0890. Epub ahead of print.
 38. Ada H, Soejima K: Digital Transformation in Cardiology - Mobile Health. *Circ J*. 2025. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0654. Epub ahead of print.
 39. Mitsuyama Y, Goda A, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Soejima K, Kohno T: Prevalence and Determinants of Depression and Anxiety in Patients With Pulmonary Arterial Hypertension and Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. *Circ Rep*. 2025 ;7(4):285-292. doi: 10.1253/circrep.CR-24-0113.
 40. Matsushita K, Harada K, Jimba K, Kohno T, Nakano H, Kitano D, Takei M, Kohsaka S, Yoshino H, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M: Specific phenotypes of heart failure with preserved/reduced ejection fraction according to Body Mass Index. *Minerva Cardiol Angiol*. 2025. doi: 10.23736/S2724-5683.24.06633-X. Online ahead of print.
 41. Takeuchi S, Kohno T, Goda A, Kohsaka S, Yoshikawa T: West Tokyo Heart Failure Registry Investigators:Reply to "Renin-angiotensin system inhibitors for patients with mild or moderate chronic kidney disease and heart failure with mildly reduced or preserved ejection fraction. *Int J Cardiol*. 2025:422:132982. doi: 10.1016/j.ijcard.2025.132982. Epub.
 42. Nakamura J, Tsujino I, Masaki K, Hosokawa K, Funakoshi K, Taniguchi Y, Adachi S, Inami T, Yamashita J, Ogino H, Hatano M, Yaoita N, Ikeda N, Shimokawahara H, Tanabe N, Kubota K, Shigeta A, Ogihara Y, Horimoto K, Dohi Y, Kawakami T, Tamura Y, Tatsumi K, Abe K: Cancer as an independent mortality risk in chronic thromboembolic pulmonary hypertension. *J Heart Lung Transplant*. 2025;Mar;44(3):339-348.doi: 10.1016/j.healun.2024.10.022.
 43. Epstein LM, El-Chami MF, Steinwender C, Soejima K: Ten years of leadless pacing. *Eur Heart J Suppl*. 2025;27(Suppl 2):ii3-ii7. doi: 10.1093/eurheartjsupp/suae102.
 44. Arya A, Di Biase L, Bazán V, Berruezo A, d'Avila A, Della Bella P, Enriquez A, Hocini M, Kautzner J, Pak HN, Stevenson WG, Zeppenfeld K, Sepelri Shamloo A, Meyer C, de Chillou C, Deneke T, de Riva M, Porta-Sanchez A, Sapp J, Schmidt B, Shivkumar K, Sommer P, Soejima K, Supple GE, Wilde A, Zucchelli G: Epicardial ventricular arrhythmia ablation: a clinical consensus statement of the European Heart Rhythm Association of the European Society of Cardiology and the Heart Rhythm Society, the Asian Pacific Heart Rhythm Society, the Latin American Heart Rhythm Society, and the Canadian Heart Rhythm Society. *Europace*. 2025;27(4):euaf055. doi: 10.1093/europace/euaf055.
 45. Kitai T, Kohsaka S, Kato T, Kato E, Sato K, Teramoto K, Yaku H, Akiyama E, Ando M, Izumi C, Ide T, Iwasaki Y, Ohno Y, Okumura T, Ozasa

N, Kaji S, Kashimura T, Kitaoka H, Kinugasa Y, Kinugawa S, Toda K, Nagai T, Nakamura M, Hikoso S, Minamisawa M, Wakasa S, Anchi Y, Oishi S, Okada A, Obokata M, Kagiya N, Kato N P, Kohno T, Sato T, Shiraishi Y, Tamaki Y, Tamura Y, Nagao K, Nagatomo Y, Nakamura N, Nochioka K, Nomura A, Nomura S, Horiuchi Y, Mizuno A, Murai R, Inomata T, Kuwahara K, Sakata Y, Tsutsui H, Kinugawa K: JCS/JHFS 2025 Guideline on Diagnosis and Treatment of Heart Failure. J Card Fail. 2025:S1071-9164(25)00100-9. doi: 10.1016/j.cardfail.2025.02.014.

著書

1. 副島京子：女性の心房細動リスクと早期発見のポイント～更年期症状による見過ごしを防ぐ家庭での心電図記録～。オムロンヘルスケアニュースレター。オムロンヘルスケア。2024。1-4。
2. 河野隆志(編著・分担執筆)：1章心臓の基本 心臓と主要な血管の解剖。ハートナーシング2024年夏季増刊 Update 循環器の病気図鑑。2024年。10-14。
3. 市原裕美子, 河野隆志(編著・分担執筆)：6章心不全, ハートナーシング2024年夏季増刊 Update 循環器の病気図鑑。2024年。136-145。
4. 副島京子：[医療ルネサンス] 不整脈。受けた医療2025年版。読売新聞医療部。読売新聞社。2024年。77。
5. 河野隆志：心不全における緩和ケア。今日の治療指針2025。医学書院。2025年。362。
6. 副島京子：脈拍の乱れ...危険な不整脈?心配いらない不整脈?。Health & Life。株式会社研友企画出版。2025年。6-11。
7. 小山幸平(分担執筆)：ACSの発症予測。急性冠症候群(ACS)から心臓と生命をまもる。循環器ジャーナルVol.73 No.1。中川義久 企画。医学書院。2025。48-53。

その他

1. 副島京子：女性もご用心 心房細動。東京新聞(夕刊)。2024年4月。
2. 副島京子：医療ルネサンス・不整脈治療編。読売新聞(朝刊)。2024年5月。
3. 副島京子：女性の心房細動リスク啓発動画。YouTube, SNSアカウント, ホームページにて配信。オムロンヘルスケア。2024年。
4. 伊波巧(作成委員)：PCPHS肺高血圧症診療ガイドランス2024年。
5. 合田あゆみ(協力員)：日本肺高血圧・肺循環学会肺高血圧症診療ガイドランス。2024年。
6. 河野隆志(作成メンバー)：薬剤師による心不全服薬管理指導の手引き第1版。日本心不全学会 日本薬剤師会 編。2024年。
7. 舟橋紗耶華(分担執筆)：9章 血管疾患 3. 末梢動脈疾患, 6. リンパ浮腫。HEART nursing 2024年夏季増刊 病態・治療を押さえてケアの根拠に自信をプラス! Update! 循環器の病気図鑑。河野隆志 編著。メディカ出版。2024年。186-191, 200-104。
8. 副島京子：脈の日, 心房細動週間について。「ドクターDJ」大人のラヂオ。ラヂオNIKKEI第一放送。2025年。
9. 福士圭(分担筆者)：特殊BLS/ACLS(カテ室、補助循環中, 開心術後)。循環器集中治療CICUテキスト。宮地秀樹, 山本剛 編著。日本医事新報社。2025

年。155頁-160頁。

10. 河野隆志(協力員)：日本循環器学会/日本肺高血圧・肺循環学会合同ガイドライン2025年改訂版肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症および肺高血圧症に関するガイドライン。
11. 伊波巧(協力員)：日本循環器学会/日本肺高血圧・肺循環学会合同ガイドライン2025年改訂版肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症および肺高血圧症に関するガイドライン。
12. 合田あゆみ(協力員)：日本循環器学会/日本肺高血圧・肺循環学会合同ガイドライン2025年改訂版肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症および肺高血圧症に関するガイドライン。
13. 舟橋紗耶華：アンダー40発表賞：TAIアプローチで著明な両側石灰化CFA-SFA閉塞病変の治療に成功した一例。第17回 Japan Peripheral Revascularization(JPR)。東京。2024年1月。

不整脈先進治療学研究講座

講演

学会(国内)

1. 佐藤俊明：CRT適応に対する左脚ペーシング。第70回日本不整脈心電学会学術集会。金沢。2024年7月。
2. Mohri T, Sato T, Ikewaki H, Katsume Y, Tashiro M, Nonoguchi N, Hoshida K, Togashi I, Ueda A, Matsuo S, Soejima K: Current of injury on the right ventricular septal surface detected before successful lead deployment for left bundle branch area pacing. 第70回日本不整脈心電学会学術集会。金沢。2024年7月。
3. 佐藤俊明：徐脈性不整脈あるいは左室収縮能低下症例における左脚領域ペーシング。第17回植込みデバイス関連冬季大会。福岡。2025年2月。
4. 佐藤俊明：Stylet-driven leads あるいは lumenless leadによる刺激伝導系ペーシング。第17回植込みデバイス関連冬季大会。博多。2025年2月。
5. 富樫郁子, 佐藤俊明, 前田明子, 池脇宏嗣, 毛利崇人, 田代身佳, 野々口紀子, 星田京子, 西尾智, 上田明子, 松尾征一郎, 副島京子：スネアを併用しリードスペースメーカーの右室挿入に成功した, 三尖弁輪狭小化を伴う一例。第17回植込みデバイス関連冬季大会。福岡。2025年2月。
6. Kim S, Sato T, Mohri T, Ikewaki H, Katsume Y, Nonoguchi N, Hoshida K, Togashi I, Nishio S, Ueda A, Matsuo S, Soejima K: Stepwise Implantation of the Conduction System Pacing Lead to Complement Left Bundle Branch Block in a Case with Sinus Bradycardia. 第89回日本循環器学会学術集会。横浜。2025年3月。
7. 佐藤俊明：Feasibility and Safety of Left Bundle Branch Area Pacing in Patients with Bradycardia and/or Heart Failure. 第89回日本循環器学会学術集会。横浜。2025年3月。
8. 佐藤俊明：2025 ペーシング治療の変換点：デュアルチャンバーリードレスと刺激伝導系ペーシング。第89回日本循環器学会学術集会。横浜。2025年3月。

学会(国際)

1. Sato T: Diverse QRS morphology reflecting variations in lead placement for left bundle

branch area pacing. The 7th Symposium of His-Purkinje Conduction System Pacing. Online. April. 2024.

2. Sato T: Updates on Leadless Pacemaker. Leadless Pacemaker for Dual Chamber Pacing. The 16th Annual Scientific Session of the Korean Heart Rhythm Society. Korea. June. 2024.
3. Sato T: Innovation in EP. Future Perspectives on Physiological Pacing. The 16th Annual Scientific Session of the Korean Heart Rhythm Society. Korea. June. 2024.
4. Ueda A: Best practice share: Ventricle arrhythmia Ischemic VT. Asian Pacific Heart Rhythm Society2024. Australia. September. 2024.
5. Ueda A : Efficacy of corticosteroid therapy following initial sustained ventricular arrhythmia associated with cardiac sarcoidosis. Asian Pacific Heart Rhythm Society2024. Australia. September. 2024.
6. Mohri T, Sato T, Ikewaki H, Katsume Y, Tashiro M, Nonoguchi N, Hoshida K, Togashi I, Ueda A, Matsuo S, Soejima K: Current of injury on the right ventricular septal surface detected before successful lead deployment for left bundle branch area pacing. The 17th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. Australia. September. 2024.
7. Sato T: Feasibility and Safety of LBBAP in Patients with Bradycardia and/or Heart Failure. 2025 THRS Annual Conference in Conjunction with Ventricular Arrhythmia Forum and Taipei-Tokyo-Seoul Arrhythmia Joint Conference. Taiwan. March. 2025.

研究会・講演会

1. 上田明子：若手医師のための楽しい臨床不整脈学! カテーテルアブレーション治療入門編 第7回器質的心疾患に合併する心室不整脈の診断と治療 Part III. Ecasebook. オンライン. 2024年4月.
2. 上田明子：副伝導路-1：Interventional EP Curriculum SVT module 2024. オンライン. 2024年4月.
3. 上田明子：VASCADE MVPの初期使用経験. 小倉LIVE2024. オンライン. 2024年5月.
4. 上田明子：心房細動の診断と治療. 循環器疾患研修会. 東京. 2024年6月.
5. 上田明子：若手医師のための楽しい臨床不整脈学! カテーテルアブレーション治療入門編 第8回心房細動診療の進歩. Ecasebook. オンライン. 2024年6月.
6. 上田明子：副伝導路-2：Interventional EP Curriculum SVT module 2024. 東京. 2024年6月.
7. 上田明子：若手医師のための楽しい臨床不整脈学! カテーテルアブレーション治療入門編 第9回抗不整脈薬の使い方. Ecasebook. オンライン. 2024年10月.
8. 富樫郁子：Aveir LPの知っておくべき知見. Abbott Device Webinar. オンライン. 2024年10月.
9. 富樫郁子：当院での安全なMicra植込みTipsについて. Women Arrhythmia Device Conference. オンライン. 2024年10月.

10. 上田明子：安全で確実な手技に必要なEPSの基礎と患者管理. The 3rd 筑波VT camp. オンライン. 2024年11月.
11. 上田明子：症例から振り返る心室マッピングにおけるEnSite X活用法. Central Line Ablation Conference. オンライン. 2024年11月.
12. 上田明子：特発性心室性不整脈へのGateway. 不整脈プロフェッショナルへのGateway. JLL special webinar. オンライン. 2024年11月.
13. Ueda A : Five Key Skills to Manage LV Summit VT. Global international EP curriculum. Tokyo. November. 2024.
14. 上田明子：若手医師のための楽しい臨床不整脈学! カテーテルアブレーション治療入門編 第10回2回目以降のアブレーション治療戦略：再発不整脈を克服するためのケーススタディー. Ecasebook. オンライン. 2025年2月.
15. 上田明子：CARTO V8 CSI moduleを活用した心房細動治療戦略. Women's EP College -AF-. オンライン. 2025年3月.

論文

(英文)

1. Katsume Y, Hasegawa K, Limprasert S, Ueda A, Kanagasundram AN, Richardson T, Stevenson WG, Soejima K: Termination Without Global Propagation in Re-Entrant Ventricular Tachycardia: Electrophysiologic Characteristics and 3D-Electroanatomical Mapping Analysis. *JACC Clin Electrophysiol.* 2024;10(12):2545-2553. doi: 10.1016/j.jacep.2024.08.004.
2. Thanh Nguyen PN, Katsume Y, Ueda A, Matsuo S, Nonoguchi N, Ikewaki H, Mohri T, Hoshida K, Tashiro M, Sato T, Togashi I, Soejima K: Analysis of junctional beats during slow pathway ablation: Illuminating the mechanism of typical and atypical AV nodal re-entrant tachycardia. *Heart Rhythm* 2024;5(12):910-916. doi: 10.1016/j.hrtho.2024.09.021.
3. Nonoguchi N, Soejima K, Katsume Y, Hoshida K, Togashi I, Goda A, Ueda A, Matsuo S, Sato T, Takano Y, Koyama F, Fujita S, Nishimura K, Kohno T: Wristwatch pulse wave monitoring: assessing daily activity post-catheter ablation for atrial fibrillation. *Eur Heart J Digit Health.* 2024;6(1):96-103. doi: 10.1093/ehjdh/ztae091.
4. Nguyen PNT, Ueda A, Katsume Y, Nonoguchi N, Mohri T, Hirata Y, Kondo H, Watanabe K, Soejima K: A case of dilated cardiomyopathy successfully managing refractory electrical storm through sympathetic modulation. *J Cardiol Cases.* 2024 ;31(3):68-71. doi: 10.1016/j.jccase.2024.11.008.
5. Kato H, Sato T, Shimeno K, Nishida T, Mito S, Soejima K: Left bundle branch area pacing for atrioventricular block and mild to moderately reduced left ventricular systolic function. *Journal of Cardiovascular Electrophysiology.* 2024; 35(12):2444-2451. doi: 10.1111/jce.16434.

著書

1. 上田明子：5 PVCアブレーション RVOT起源のPVCアブレーション. 必ずできる! 実践的カテーテルアブレーション. 池田隆徳 編集. 日本医事新報. 2024. p211-218.

- Ueda A, Soejima K : Chapter 8. Fundamentals of Catheter three-dimensional mapping systems. Huang's Catheter Ablation of Cardiac Arrhythmias, 5th Edition. Huang S, Bradfield J, and Shivkumar K. (Ed.). Elsevier. 2024. p135-145.
- 佐藤俊明 (分担執筆) : リードレスペースメーカーの基礎知識(解説). 検査と技術. 医学書院. 51巻12号. 2023. 1342-1344.
- 佐藤俊明 : 【注意点を押さえてケアにつなげる!3コマで学びなおす!不整脈のリズム】特集(3)房室ブロック(解説). ハートナーシング. メディカ出版. 37巻5号. 2024. 428-439.

血液内科学教室

講演

- 高山信之 : 当施設における高齢者急性骨髄性白血病に対するVEN+AZA療法の実績. AML WEB Seminar in Yokoyama. オンライン. 2024年5月.
- 高山信之 : DLBCLにおける中枢神経再発予防に関する最近の話題. 第48回多摩悪性リンパ腫研究会. 三鷹. 2024年6月.
- 小林誠 : ALアミロイドーシスに対してDaratumumab含有レジメンを実施した症例. 第7会 Myeloma Case Conference. オンライン. 2024年6月.
- 大貫朋也, 辻野千聖, 桑原彩子, 小林誠, 雨宮咲織, 関雅史, 吉森恵未, 日比谷孝志, 柴原純二, 佐藤範英, 高山信之 : 形質細胞腫瘍に対する自家末梢血幹細胞移植後二次性急性リンパ芽球性を発症した1例. 第21回日本血液学会関東甲信越地方会. 箱根. 2024年7月.
- 大貫朋也, 吉森恵未, 小林誠, 佐藤範英, 日比谷孝志, 柴原純二, 吉敷智和, 須並英二, 高山信之 : 小腸穿孔を合併するも腹腔ドレナージにて加療し, 自家移植を施行し得た単形生上皮向性腸管T細胞リンパ腫. 第86回日本血液学会学術集会. 京都. 2024年10月.
- 関雅史, 小林誠, 佐藤範英, 藤原正親, 高山信之 : シクロスボリンが奏効した高齢者自己免疫性好中球減少症. 第86回日本血液学会学術集会. 京都. 2024年10月.
- 増田萌, 関雅史, 小林誠, 佐藤範英, 日比谷孝志, 柴原純二, 高山信之 : 節性辺縁帯リンパ腫に対するベンダムスチン+リツキシマブ療法後にPRCAを発症し自然寛解した1例. 第86回日本血液学会学術集会. 京都. 2024年10月.
- 雨宮咲織, 小林誠, 佐藤範英, 吉森恵未, 大貫朋也, 藤原正親, 三井達也, 久松理一, 高山信之 : アザシチジン投与後に血液学的所見とともに消化器症状の改善がみられた腸管ペーチェット病合併MDS. 第86回日本血液学会学術集会. 京都. 2024年10月.
- 小林誠, 吉森恵未, 関雅史, 桑原彩子, 佐藤範英, 高山信之 : 同種末梢血幹細胞移植後再発に対し, Dara-Ld療法により長期寛解を維持している多発性骨髄腫. 第86回日本血液学会学術集会. 京都. 2024年10月.
- 名藤佑真, 宮崎香奈, 丸山大, 高橋寛行, 角南一貴, 村上五月, 根来英樹, 宮澤悠里, 崔日承, 岡田隆宏, 高山信之, 富田直人, 百瀬修二, 金田裕人, 吉田全宏, 五明広志, 外山耕太郎, 錦織桃子, 俵功, 浅野

直子, 大島孝一, 伊豆津宏二, 加藤光次, 鈴木律朗, 山口素子 : 未治療CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の診療実態と予後に関する国内多機関共同観察研究. 第86回日本血液学会学術集会. 京都. 2024年10月.

- 高山信之 : 再生不良性貧血の治療に関する最近の話題. 第49回多摩悪性リンパ腫研究会. オンライン. 2024年11月.
- Fukuhara N, Maruyama D, Isahizawa K, Sano Y, Machida R, Makita S, Munakata W, Ichikawa S, Aizawa K, Miyazaki K, Kameoka Y, Rai S, Yagi Y, Takahashi N, Mushino T, Kato T, Miyazawa Y, Saito T, Shimada K, Kuroda J, Uryu H, Mishima Y, Takayama N, Suzuki Y, Uchida T, Nakamura N, Tabayashi T, Minami Y, Dobashi N, Tsukasaki K, Nagai H: Randomized phase III study of watchful waiting vs. rituximab as first-line treatment in patients with advanced stage low tumor burden follicular lymphoma: JCOG1411/Flora study. The 66th ASH Annual Meeting and Exposition. USA. December. 2024.
- 荒井俊也 : AML Web Seminar. オンライン. 2025年1月.
- 小林誠, 桑原彩子, 関雅史, 吉森恵未, 大貫朋也, 雨宮咲織, 増田萌, 辻野千聖, 佐藤範英, 久松理一, 須並英二, 柴原純二 : 消化管病変を主とした臍帯血移植後の移植後リンパ増殖性疾患の3症例. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 大阪. 2025年2月.
- 関雅史, 佐藤範英, 小林誠, 桑原彩子, 吉森恵未, 慶野博, 日比谷孝志, 柴原純二, 高山信之 : 眼, 中枢神経病変が先行し, 精巣腫瘍摘除術で診断された免疫特権部位原発リンパ腫に対し自家移植を施行した1例. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会. 大阪. 2025年2月.
- 杉山陽香, 大貫朋也, 吉森恵未, 小林誠, 雨宮咲織, 長濱清隆, 日比谷孝志, 柴原純二, 佐藤範英, 荒井俊也, 高山信之 : 全身の節性病変および多発皮下腫瘍を始めとする多彩な節外病変で発症したEBV陽性T細胞リンパ腫. 第22回日本血液学会関東甲信越地方会. 東京. 2025年3月.

論文

- Jo T, Ueda T, Akahoshi Y, Kondo T, Uchida N, Tanaka M, Nakamae H, Doki N, Ota S, Sawa M, Ohigashi H, Maruyama Y, Takayama N, Nishida T, Hiramoto N, Katayama Y, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Arai Y; Japanese Society of Transplantation and Cellular Therapy (JSTCT): First Complete remission favours haploidentical haematopoietic stem cell transplantation with post-transplant cyclophosphamide over cord blood transplantation in acute lymphoblastic leukaemia. *Br J Haematol.* 2024;204(5):1913-1919. doi: 10.1111/bjh.19372.
- Shimada K, Ohmachi K, Machida R, Ota S, Itamura J, Tsujimura H, Takayama N, Shimada T, Kurosawa M, Tabayashi T, Shimoyama T, Ohshima K, Miyazaki K, Maruyama D, Kinoshita T, Ando K, Hotta T, Tsukasaki K, Nagai H: Secondary central nervous system involvement in patients with diffuse large B-cell lymphoma treated with rituximab combined CHOP therapy. a supplementary analysis of JCOG0601. *Ann Hematol.* 2024;103(6):2021-2031. doi: 10.1007/s00277-024-05620-3.

3. Nishikubo M, Shimomura Y, Nakaya Y, Shinohara A, Uchida N, Takayama N, Kobayashi H, Uehara Y, Ishikawa J, Ishiwata K, Hiramoto N, Nakazawa H, Kataoka K, Kanda J, Nagafuji K, Kozai Y, Matsuhashi Y, Ishimaru F, Kim SW, Fukuda T, Kanda Y, Atsuta Y, Kondo E, Kato S: Haploidentical transplantation with post-transplant cyclophosphamide versus single cord blood transplantation in adults with relapsed/refractory non-Hodgkin lymphoma. *Bone Marrow Transplant.* 2024;59(12):1735-1743. doi: 10.1038/s41409-024-02423-y.
4. Nato Y, Miyazaki K, Maruyama D, Takahashi H, Sunami K, Murakami S, Negoro E, Miyazawa Y, Choi I, Okada T, Takayama N, Tomira N, Momose S, Kaneda Y, Yoshida M, Gomyo H, Toyama K, Nishikori M, Saito A, Hiraga J, Masunari T, Takahashi N, Makiyama J, Suzuki T, Tsunemine H, Takizawa J, Kato T, Masaki Y, Fukuhara N, Okamoto M, Tawara I, Asano N, Oshima K, Izutsu K, Kato K, Suzuki R, Yamaguchi M: Treatment and Outcomes of newly diagnosed CD5-positive diffuse large B-cell lymphoma: A multi-institutional observational study. *Hematol Oncol.* 2025;43(2):e70047. doi: 10.1002/hon.70047.
5. Shinohara A, Shindo M, Yamasaki S, Kato K, Yoshihara S, Yamamoto G, Kataoka K, Ikeda T, Kobayashi H, Serizawa K, Mori Y, Takayama N, Nakazawa H, Ito A, Katayama Y, Kanda Y, Yoshimitsu M, Fukuda T, Atsuta Y, Kondo E: Fludarabine plus myeloablative dose of busulfan regimen was associated with high nonrelapse mortality in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for malignant lymphoma: A propensity score-matched comparison study with fludarabine plus high-dose melphalan. *Transplant Cell Ther.* 2025;31(6):382.e1-382.e17. doi: 10.1016/j.jct.2025.03.008. Epub 2025 Mar 15.
- Afzali A, Reinisch W, Panés J, Rubin D, Andrews J, Hisamatsu T, Terry N, Salese L, Van Rampelbergh R, Frustaci ME, Yang Z, Johanns J, Wan K, Yee J, Sands B: EFFICACY AND SAFETY OF GUSELKUMAB THERAPY IN PATIENTS WITH MODERATELY TO SEVERELY ACTIVE CROHN'S DISEASE: RESULTS OF THE GALAXI 2 & 3 PHASE 3 STUDIES. *Digestive Disease Week (DDW) 2024. USA. May. 2024.*
6. Panés J, Dignass A, Lichtenstein G, Huang K-H, Germinaro M, Houck N, Han C, Miao Y, Zhang H, Abu Farsakh N, Patel B, Owczarek D, Hisamatsu T, Sands B, Bressler B: GUSELKUMAB IMPROVES HEALTH-RELATED QUALITY OF LIFE AS MEASURED BY PROMIS-29 IN PATIENTS WITH MODERATELY TO SEVERELY ACTIVE ULCERATIVE COLITIS: PHASE 3 QUASAR INDUCTION STUDY. *Digestive Disease Week (DDW) 2024. USA. May. 2024.*
7. Panaccione R, Melmed G, Drobne D, Kaur M, Danese S, Hisamatsu T, Levine P, Neimark E, Chen S, Cheng L, Duan WR, Vladea R, Hecht P, Louis E: ADDITIONAL RISANKIZUMAB THERAPY IS EFFECTIVE IN PATIENTS WITH MODERATELY TO SEVERELY ACTIVE ULCERATIVE COLITIS WHO DID NOT ACHIEVE CLINICAL RESPONSE TO INITIAL 12-WEEK INDUCTION THERAPY: AN ANALYSIS OF PHASE 3 INSPIRE AND COMMAND STUDIES. *Digestive Disease Week (DDW) 2024. USA. May. 2024.*
8. Fischer M, Ghosh S, Chen M, Fischer M, Dubinsky M, Jairath V, Hisamatsu T, Ferrante M, Peyrin-Biroulet L, Siegmund B, Gobble T, Lin Z, Protic M, Morris N, Travis S: MIRIKIZUMAB IMPROVES FATIGUE, BOWEL URGENCY, AND QUALITY OF LIFE IN PATIENTS WITH MODERATELY TO SEVERELY ACTIVE CROHN'S DISEASE: RESULTS FROM A PHASE 3 CLINICAL TRIAL. *Digestive Disease Week (DDW) 2024. USA. May. 2024.*
9. D'Haens G, Danese S, Sands B, Bossuyt P, Farraye F, Ferrante M, Hisamatsu T, Kaser A, Kierkus J, Laharie D, Reinisch W, Siegmund B, Bragg S, Hon E, Lin Z, Lopes M, Morris N, Protic M, Jairath V: EFFICACY OF MIRIKIZUMAB IN COMPARISON TO USTEKINUMAB IN PATIENTS WITH MODERATE-TO-SEVERE CROHN'S DISEASE: RESULTS FROM THE PHASE 3 VIVID 1 STUDY. *Digestive Disease Week (DDW) 2024. USA. May. 2024.*
10. Sands B, Danese S, Chen M, D'Haens G, Ghosh S, Hisamatsu T, Jairath V, Kierkus J, Peyrin-Biroulet L, Siegmund B, Bragg S, Crandall W, Gobble T, Lin Z, Lopes M, Morris N, Carlier H, Ferrante M: PRIMARY EFFICACY AND SAFETY OF MIRIKIZUMAB IN MODERATE TO SEVERE CROHN'S DISEASE: RESULTS OF THE TREAT-THROUGH VIVID 1 STUDY. *Digestive Disease Week (DDW) 2024. USA. May. 2024.*
11. Nakase H, Fujii T, Hisamatsu T, Suzuki Y, Watanabe M, Uchikawa Y, Goto S, Fujimoto G, Zhang C, Hibi T: OZANIMOD AS INDUCTION AND MAINTENANCE THERAPY FOR ULCERATIVE COLITIS: A RANDOMIZED, DOUBLE-BLIND, PLACEBO-CONTROLLED

消化器内科学教室

講演

国際学会・シンポジウム発表

1. Hisamatsu T: The role of imaging when making a diagnosis. 5th APAGE Clinical Forum on Inflammatory Bowel Disease. Vietnam. April. 2024.
2. Miyoshi J: Host-Microbial Interaction in IBD. Korea. April. 2024
3. Hisamatsu T: Recent advance in inflammatory bowel disease. The 3rd International Symposium of Clinical Immunology. Hakodate. May. 2024.
4. Rubin D, Allegretti J, Panés J, Shipitofsky N, Yarandi S, Huang K-H, Germinaro M, Wilson R, Zhang H, Feagan B, Hisamatsu T, Lichtenstein G, Bressler B, Peyrin-Biroulet L, Sands B, Dignass A: The efficacy and safety of guselkumab as maintenance therapy in patients with moderately to severely active ulcerative colitis: Results from the phase 3 QUASAR maintenance study. *Digestive Disease Week (DDW) 2024. USA. May. 2024.*
5. Panaccione R, Danese S, Feagan B, D'Haens G,

- STUDY IN JAPAN (J-TRUE NORTH). *Digestive Disease Week (DDW) 2024*. USA. May. 2024.
12. Schreiber S, Panaccione R, Parkes G, Peyrin-Biroulet L, Ferrante M, Hisamatsu T, Siegmund B, Kalabic J, Levine P, Neimark E, Wallace K, Chen S, Cheng L, Duan WR, Armuzzi A, Biedermann L, Loftus E, Melmed G, Louis E: RISANKIZUMAB MAINTENANCE THERAPY IN PATIENTS WITH MODERATELY TO SEVERELY ACTIVE ULCERATIVE COLITIS: EFFICACY AND SAFETY IN THE RANDOMIZED PHASE 3 COMMAND STUDY. *Digestive Disease Week (DDW) 2024*. USA. May. 2024.
 13. Matsuoka K, Motoya S, Yamamoto T, Matsuura M, Fujii T, Shinzaki S, Mikami Y, Arai S, Oshima J, Endo Y, Yuasa H, Hoshi M, Sato K, Hisamatsu T: POST-MARKETING SURVEILLANCE OF TOFACITINIB IN PATIENTS WITH ULCERATIVE COLITIS IN JAPAN: A FINAL REPORT OF SAFETY AND EFFECTIVENESS DATA. *Digestive Disease Week (DDW) 2024*. USA. May. 2024.
 14. Esaki M, Omori T, Watanabe K, Sagami S, Takeda T, Takedomi H, Umeno J, Torisu T, Yamamoto S, Fujiya M, Shiga H, Hayashida M, Koyama F, Kanmura S, Matsuoka K, Kobayashi T, Nagahori M, Takeuchi K, Nakase H, Hirai F, Matsumoto T, Hisamatsu T: INTERIM ANALYSIS OF PROSPECTIVE MULTICENTER OBSERVATIONAL STUDY FOR THE ASSESSMENT OF POSTOPERATIVE RECURRENCE IN CROHN'S DISEASE WITH THE COMBINATION OF SMALL BOWEL CAPSULE ENDOSCOPY AND ILEOCOLONOSCOPY IN JAPAN (J-PROSPECT STUDY). *Digestive Disease Week (DDW) 2024*. USA. May. 2024.
 15. Schreiber S, Danese S, Colombel JF, Hisamatsu T, Irving P, Park H, Kim DH, Lee YN, Hanauer S: NETWORK META-ANALYSIS TO EVALUATE THE COMPARATIVE EFFICACY OF ADVANCED THERAPIES AS FIRST LINE FOR MAINTENANCE TREATMENT OF ADULT PATIENTS WITH MODERATE-TO-SEVERE CROHN'S DISEASE. *Digestive Disease Week (DDW) 2024*. USA. May. 2024.
 16. Ferrante M, Panaccione R, Colombel JF, Dubinsky M, Hisamatsu T, Lindsay J, Song A, Neimark E, Zhang Y, Kligys K, Crowley J, Duan WR, D'Haens G: EFFICACY AND SAFETY UP TO THREE YEARS OF RISANKIZUMAB TREATMENT IN PATIENTS WITH MODERATE TO SEVERE CROHN'S DISEASE: RESULTS FROM THE FORTIFY OPEN-LABEL LONG-TERM EXTENSION. *Digestive Disease Week (DDW) 2024*. USA. May. 2024.
 17. Naganuma M, Kobayashi T, Hisamatsu T: INCREASED DOSE OF STEROIDS IS LESS EFFECTIVE THAN ADVANCED THERAPIES AS THE FIRST-LINE IN PATIENTS WITH HOSPITALIZED ACUTE SEVERE UC WHO HAVE A HISTORY OF STEROID-REFRACTORY DISEASE. *Digestive Disease Week (DDW) 2024*. USA. May. 2024.
 18. Kakuta Y, Makuuchi M, Nagai H, Shimoyama Y, Naito T, Moroi R, Shiga H, Kinouchi Y, Andoh A, Hisamatsu T, Masamune A: OPTIMIZING THIOPURINE TREATMENT IN JAPANESE PATIENTS WITH INFLAMMATORY BOWEL DISEASE: A REAL-WORLD ANALYSIS OF NUDT15 CODON 139 GENOTYPING AND GENOTYPE-DRIVEN STRATEGIES. *Digestive Disease Week (DDW) 2024*. USA. May. 2024.
 19. Mikami Y, Matsuoka K, Aoki Y, Miyazaki Y, Tsuchiya H, Yoshigoe S, Kanai T, Hisamatsu T: CLINICAL CHARACTERISTICS AND IMPACT ON DAILY LIFE IN JAPANESE CROHN'S DISEASE PATIENTS: A MULTICENTER REGISTRY STUDY. *Digestive Disease Week (DDW) 2024*. USA. May. 2024.
 20. Ohno A, Miyamoto N, Hiratsuka T, Kaji R, Shirakawa T, Watanabe M, Sumi R, Miyoshi J, Hisamatsu T: DOES THE USE OF RDI IMPROVE BLOOD VESSEL VISIBILITY DURING ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION IN ENDOSCOPISTS WITH CONGENITAL COLOR VISION DEFICIENCY? -DEVELOPMENT OF COLOR VISION ACCESSIBILITY IN ENDOSCOPY-. *Digestive Disease Week (DDW)*. USA. May. 2024.
 21. Miyoshi J: IUS in UC. IBUS Module 1 Workshop. Tokyo. June. 2024.
 22. Akiyama S, Park SH, Ishikawa N, Beak JE, Park SJ, Kim DH, Jung SA, Naganuma M, Matsuura M, Gu YB, Zhang H, Ni YH: Epidemiology of primary sclerosing cholangitis among patients with inflammatory bowel disease in Asian countries: An international multicenter retrospective study. The 12th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis. China. June. 2024.
 23. Nishioka M, Okano N, Saito Y, Hayashi M, Sato T, Mizutani T, Uchida N, Tokuhira M, Sumi R, Mochizuki M, Yamada T, Kaji R, Seki S, Ohno A, Kawamura N, Mori H, Nagashima F, Hisamatsu T, Hironaka S: A case of hepatocellular carcinoma with Vp4 treated with durvalumab plus tremelimumab after lenvatinib plus hepatic artery infusion chemotherapy. *APASL Oncology 2024*. Chiba. September. 2024.
 24. Panaccione R, Danese S, Feagan B, D'Haens G, Afzali A, Reinisch W, Panés J, Rubin DT, Andrews J, Hisamatsu T, Terry NA, Salese L, Van Rempelbergh R, Frustaci ME, Yang Z, Johanns J, Wan KY, Hakansson H, Yee J, Sands BE: Efficacy and Safety of Guselkumab as Maintenance Therapy in Patients with Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis: Results From the Phase 3 QUASAR Maintenance Study. *Congress of Clinical Rheumatology-West (CCR-W)*. USA. September. 2024.
 25. Jairath V, Magro F, De Hertogh G, Feagan B, Harpaz N, Hisamatsu T, D'Haens G, Pai R, Lin Z, Morris N, Protic M, Hon E, Owen C, Escobar R, Reinisch W: Effects of Mirikizumab Versus Placebo on Histologic Inflammation Evaluated by Comprehensive Assessment in 5 Intestinal Segments in a Randomized Controlled Phase 3 Trial of Participants With Crohn's Disease. *United European Gastroenterology Week (UEGW) 2024*. Austria. October. 2024.

26. Jairath V, Magro F, De Hertogh G, Feagan B, Harpaz N, Hisamatsu T, D'Haens G, Pai R, Lin Z, Morris N, Protic M, Hon E, Owen C, Escobar R, Reinisch W: Effects of Mirikizumab and Ustekinumab on Histologic Inflammation Evaluated by Comprehensive Assessment in 5 Intestinal Segments in a Randomized Controlled Phase 3 Trial of Participants With Crohn's Disease. United European Gastroenterology Week (UEGW) 2024. Austria. October. 2024.
27. Sands BE, Chen MH, Danese S, Fischer M, Hisamatsu T, Hoque S, Peyrin-Biroulet L, Seibold F, Durand F, Lin Z, Lopes MU, Morris N, Hon E, D'Haens G: Early Symptomatic Improvement With Mirikizumab Induction Therapy in Patients With Moderately to Severely Active Crohn's Disease: Results From the Phase 3 VIVID-1 Study. United European Gastroenterology Week (UEGW) 2024. Austria. October. 2024.
28. Bossuyt P, Regueiro M, Fisher M, Traxler K, Yu G, Nedeljkovic-Protic M, Tsilkos K, Vadhariya A, Hisamatsu T, Juillerat P: Improvement in Fatigue With Mirikizumab Therapy and Associations With Clinical Outcomes in Patients With Moderately to Severely Active Crohn's Disease: Results From the Phase 3 VIVID-1 Study. United European Gastroenterology Week (UEGW) 2024. Austria. October. 2024.
29. Bossuyt P, Regueiro M, Fisher M, Traxler K, Yu G, Protic MN, Tsilkos K, Vadhariya A, Hisamatsu T, Juillerat P: Impact of Mirikizumab on Clinically Meaningful Improvements in Fatigue as Measured by FACIT-F in Patients With Moderately to Severely Active Crohn's Disease. United European Gastroenterology Week (UEGW) 2024. Austria. October. 2024.
30. Jairath V, Magro F, De Hertogh G, Feagan B, Harpaz N, Hisamatsu T, D'Haens G, Pai R, Lin Z, Morris N, Protic M, Hon E, Owen C, Escobar R, Reinisch W: Effects of Mirikizumab and Ustekinumab on Histologic Inflammation Evaluated by Comprehensive Assessment in 5 Intestinal Segments in a Randomized Controlled Phase 3 Trial of Participants With Crohn's Disease. United European Gastroenterology Week (UEGW) 2024. Austria. October. 2024.
31. Sands BE, D'Haens G, Clemow DB, Irving PM, Johns JT, Gibble TH, Abreu MT, Lee S, Hisamatsu T, Kobayashi T, Dubinsky MC, Vermeire S, Siegel CA, Peyrin-Biroulet L, Moses RE, Milata J, Arora V, Panaccione R, Dignass A: Long-term Efficacy and Safety of Mirikizumab Following 152 Weeks of Continuous Treatment: Lucent-3 Open-label Extension Study Results. United European Gastroenterology Week (UEGW) 2024. Austria. October. 2024.
32. Rubin DT, Allegretti J, Panés J, Shipitofsky N, Yarandi S, Huang K-H, Germinaro M, Wilson R, Zhang H, Feagan BG, Hisamatsu T, Lichtenstein G, Bressler B, Peyrin-Biroulet L, Sands BE, Dignass A: The Efficacy and Safety of Guselkumab as Maintenance Therapy in Patients with Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis: Results from the Phase 3 QUASAR Maintenance Study. United European Gastroenterology Week (UEGW) 2024. Austria. October. 2024.
33. Panés J, Dignass A, Hisamatsu T, Yarandi S, Huang K-H, Germinaro M, Sridhar S, Branigan P, Wilson R, Zhang H, Magro F, Jairath V, Feagan BG, Lichtenstein GR, Rubin DT, Sands BE: Impact of Guselkumab Maintenance Therapy on Histologic and Combined Histologic and Endoscopic Outcomes in Patients with Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis: Week 44 Results from the Phase 3 QUASAR. United European Gastroenterology Week (UEGW) 2024. Austria. October. 2024.
34. Allegretti J, Panés J, Peyrin-Biroulet L, Sands BE, Yarandi S, Huang K-H, Germinaro M, Zhan J, Zhang H, Begun J, Kierkus J, Kravchenko T, Hisamatsu T, Rubin DT, Bressler B, Dignass A: The Efficacy of Maintenance Treatment with Guselkumab in Patients with Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis: Phase 3 QUASAR Maintenance Study Results at Week 44 by Biologic/Janus Kinase Inhibitor. United European Gastroenterology Week (UEGW) 2024. Austria. October. 2024.
35. Rubin DT, Dignass A, Allegretti J, Yarandi S, Huang K-H, Germinaro M, Zhan J, Zhang H, Rayyan Y, Saruta M, Balderramo D, Bressler B, Peyrin-Biroulet L, Hisamatsu T (presenter): Efficacy and Safety of Guselkumab Maintenance Therapy Among Guselkumab Induction Week 24 Clinical Responders: Results from the Phase 3 QUASAR Maintenance Study. United European Gastroenterology Week (UEGW) 2024. Austria. October. 2024.
36. Sands BE, D'Haens G, Danese S, Hisamatsu T, Reinisch W, Terry NA, Salese L, Van Rampelbergh R, Yang Z, Johanns J, DuVall G, Abu Farsakh N, Panaccione R: Efficacy of Guselkumab Versus Placebo in Crohn's Disease Based on Prior Response/Exposure to Biologic Therapy: Results of the GALAXI 2 & 3 Phase 3 Studies. United European Gastroenterology Week (UEGW) 2024. Austria. October. 2024.
37. Oguri N, Miyoshi J, Nemoto N, Kawamura N, Matsuura M, Hisamatsu T: *Akkermansia mucinipila* in the Small Intestine Improves Liver Fibrosis and Hyperammonemia. United European Gastroenterology Week (UEGW) 2024. Austria. October. 2024.
38. Panaccione R, Danese S, Feagan B, D'Haens G, Afzali A, Reinisch W, Panés J, Rubin DT, Andrews J, Hisamatsu T, Terry NA, Salese L, Van Rampelbergh R, Frustaci ME, Yang Z, Johanns J, Wan KYY, Yee J, Sands BE: Efficacy and Safety of Guselkumab Therapy in Patients With Moderately to Severely Active Crohn's Disease: Results of the GALAXI 2 & 3 Phase 3 Studies. American College of Rheumatology. USA. November. 2024.
39. Hisamatsu T: The Role of Image Enhanced Endoscopy in Inflammatory Bowel Disease. TSIBD Annual Meeting. Taiwan. December. 2024.
40. Peyrin-Biroulet L, Sands BE, Danese S, Dulai PS, Dubinsky M, Tilg H, Siegmund B, Hisamatsu T, Nitcheu J, Sloan S, Rabbat C, Vermeire S: Impact of Obefazimod Induction Therapy on Histologic

- and Combined Histologic and Endoscopic Outcomes in Patients with Moderately to Severely Active Ulcerative Colitis: Week 8 Results from the Phase 2b Induction Trial. AIBD 2024. USA. December. 2024.
41. Vermeire S, Peyrin-Biroulet L, Danese S, Dulai PS, Dubinsky M, Tilg H, Siegmund B, Hisamatsu T, Nitcheu J, Sloan S, Rabbat C, Sands BE: Corticosteroid-Free Efficacy and Safety of UC Patients Receiving Once Daily Obefazimod in an Open Label 96-Week Maintenance Study Among Patients Who Were Receiving Concomitant Corticosteroids at Induction Baseline. AIBD 2024. USA. December. 2024.
 42. Sands BE, Peyrin-Biroulet L, Danese S, Dulai PS, Dubinsky M, Tilg H, Siegmund B, Hisamatsu T, Nitcheu J, Sloan S, Rabbat C, Vermeire S: Efficacy and Safety of Obefazimod in UC Patients at Week 48 of an Open-Label Maintenance Study Among Clinical Non-Responders at Week 8 of the Phase 2b Induction Trial. AIBD 2024. USA. December. 2024.
 43. Schreiber S, Danese S, Colombel JF, Hisamatsu T, Irving PM, Park H, Kim DH, Lee YN, Hanauer SB: Network Meta-Analysis to Evaluate the Comparative Efficacy of Advanced Therapies as First-Line for Maintenance Treatment of Adult Patients with Moderate-to-Severe Crohn's Disease. AIBD 2024. USA. December. 2024.
 44. Nakase H, Hisamatsu T, Matsuoka K, Saruta M, Uchikawa Y, Fujimoto G, Zhang C, Toriyama K, Hibi T: Subgroup Analysis of Ozanimod Efficacy by Prior Biologic Exposure in Japanese Patients With Ulcerative Colitis From the Phase 2/3 J-True North Study. AIBD 2024. USA. December. 2024.
 45. Watanabe K, Nojima M, Nakase H, Tamano S, Matsuura M, Aoyama N, Kobayashi T, Sakuraba H, Nishishita M, Yokoyama K, Esaki M, Hirai F, Nagahori M, Nanjo S, Omori S, Tanida S, Yokoyama Y, Moriya K, Maemoto A, Handa O, Ohmiya N, Shinzaki S, Kato S, Tanaka H, Uraoka T, Takatsu N, Suzuki H, Nishida A, Umeno J, Mishima Y, Tsuchida K, Fujiya M, Hiraoka S, Okabe M, Toyonaga T, Ando A, Hisamatsu T, on behalf of the J-COMBAT study group: Trajectory analyses to optimise third booster COVID-19 vaccination in patients with Inflammatory Bowel Disease: final analyses of the J-COMBAT trial. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
 46. Wada H, Omori T, Mitsui T, Hayashida M, Matsuura M, Hisamatsu T: The effects of reading experience on small intestine capsule endoscopy scoring of Crohn's disease. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
 47. Nakase H, Chen B, Cao Q, Matsuoka K, Hisamatsu T, Park DI, Wahking B, Yiu WC, Zhuo J, Chen M: Guselkumab efficacy and safety in East Asian participants with moderate to severely active Crohn's disease: Subgroup analysis of the GALAXI 2 & 3 Phase 3 studies. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
 48. Takeuchi H, Nakase H, Hisamatsu T, Matsuoka K, Arai S, Yuasa H, Oe M, Ono R, Keating M, Gu G, Lazin K, McDonnell A, Fokuta K, Hibi T: Efficacy and safety of etrasimod in Japanese UC patients: results of a phase 2 dose-ranging study. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
 49. Danese S, Sands BE, Afzali A, Hisamatsu T, Armuzzi A, Wolf D, Duvall G, Van Rampelbergh R, Olurinde M, Terry NA, Yee J, Li H, Rosas Ballina M, D'Haens G, Rubin DT, Panaccione R: Safety of intravenous and subcutaneous guselkumab induction administration: Results from the GALAXI and GRAVITI studies in participants with Crohn's Disease. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
 50. Panés J, Hisamatsu T, Armuzzi A, Terry NA, Salese L, Van Rampelbergh R, Yee J, Wan KY, Yang Z, Pin S, Sands BE, Rubin DT: Corticosteroid sparing effects of treatment with guselkumab in patients with moderate to severely active Crohn's disease: Phase 3 GALAXI 2/3 results through week 48. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
 51. Danese S, Sands BE, Dulai PS, Peyrin-Biroulet L, Dubinsky M, Tilg H, Siegmund B, Hisamatsu T, Shan K, Ploncard P, Jacobstein D, Cataldi F, Rabbat C, Vermeire S: Efficacy and safety of obefazimod for the fourth and sixth year of open-label maintenance treatment in patients with moderately to severely active ulcerative colitis (UC): 2-year interim analysis after dose de-escalation to 25 mg. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
 52. Sands BE, Panaccione R, Danese S, Panés J, Hisamatsu T, D'Haens G, Van Rampelbergh R, Olurinde M, Yee J, Baker T, Yarandi S, Germinaro M, Vetter ML, Li H, Rosas Ballina M, Allegretti J, Afzali A, Rubin DT: Safety of guselkumab in Inflammatory Bowel Disease up to 1 year: Integrated safety analysis of phase 2 and 3 studies in Crohn's Disease and Ulcerative Colitis. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
 53. Hart A, Hisamatsu T, Steinwurz F, D'Haens G, Liu W, Olurinde M, Ngqawa P, Yang Z, Merrall E, Terry NA, Panaccione R, Sands BE: Efficacy of subcutaneous guselkumab induction therapy by baseline demographics and concomitant medications in participants with moderately to severely active Crohn's disease: Results from the phase 3 GRAVITI study. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
 54. Danese S, Sands BE, Afzali A, Hisamatsu T, Armuzzi A, Wolf D, Duvall G, Van Rampelbergh R, Olurinde M, Terry NA, Yee J, Li H, Rosas Ballina M, D'Haens G, Rubin DT, Panaccione R: Safety of intravenous and subcutaneous guselkumab induction administration: Results from the GALAXI and GRAVITI studies in participants with Crohn's Disease. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
 55. Liu W, Guo H, Kim TO, Takeuchi K, Hisamatsu T, Fable J, Olurinde M, Wahking B, Zhuo J, Cao Q: Efficacy and safety of subcutaneous guselkumab in East Asian participants with moderately to severely active Crohn's disease: Subgroup analysis of the Phase 3 GRAVITI study. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.

56. Chen B, Ye BD, Cao Q, Hirai F, Saruta M, Chen M, Pelak S, Shipitofsky N, Wahking B, Zhuo J, Hisamatsu T: Guselkumab efficacy and safety in East Asian participants with moderate to severely active Ulcerative Colitis: Subgroup analysis of the Phase 2b/3 QUASAR induction and maintenance studies. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
57. Magro F, Peyrin-Biroulet L, Biedermann L, Sands BE, Danese S, Dulai PS, Dubinsky M, Tilg H, Siegmund B, Hisamatsu T, Shan K, Jacobstein D, Cataldi F, Rabbat C, Vermeire S: Impact of obefazimod treatment on histologic and combined histologic and endoscopic outcomes in patients with moderately to severely active ulcerative colitis: results from the Phase 2b open-label maintenance study. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
58. Jairath V, Ananthakrishnan A, Ben-Horin S, D'Haens G, Hisamatsu T, Sands B, Fisher DA, Protic M, Moses R, Yu G, Chan-Diehl F, Vermeire S: Lack of significance of treatment-emergent anti-drug antibodies on efficacy of mirikizumab in patients with moderately-to-severely active Crohn's Disease: Results from the VIVID-1 study. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
59. Atreya R, Louis E, Loftus EV Jr, Rubin DT, Dubinsky M, Hisamatsu T, Kalabic J, Mendez P, Chen S, Shah S, Morisset P, Duan WR, Panaccione R: Efficacy and safety up to 3 years of risankizumab maintenance treatment in patients with moderately to severely active ulcerative colitis: interim results from phase 3 COMMAND open-label extension study. ECCO. Germany. February. 2025.
60. Ferrante M, Panaccione R, Colombel JF, Dubinsky MC, Hisamatsu T, Lindsay JO, Song A, Yao Y, Zhang Y, Zambrano J, Aponte F, Duan WR, D'Haens G: Efficacy and Safety of Risankizumab in Patients With Moderate to Severe Crohn's Disease With 3 Years of Treatment: Results From the FORTIFY Open-Label Long-Term Extension. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
61. Vermeire S, Sands BE, D'Haens G, Hisamatsu T, Kelly CR, Lu N, Morris N, Moses R, Durand F, Protic M, Hozak RR, Lopes MU, Regueiro M, Laharie D: Long-term efficacy and safety of mirikizumab treatment for Crohn's Disease: Results from the VIVID-2 open-label extension study. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
62. Danese S, Sands BE, Dulai PS, Peyrin-Biroulet L, Dubinsky M, Tilg H, Siegmund B, Hisamatsu T, Shan K, Ploncard P, Jacobstein D, Cataldi F, Rabbat C, Vermeire S: Efficacy and safety of dose de-escalation from 50 mg to 25 mg QD of obefazimod maintenance treatment: Analysis of a subset of patients with moderately to severely active ulcerative colitis (UC) who have completed 2 years with 25mg QD. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
63. Magro F, Jairath V, De Hertogh G, Feagan B, Harpaz N, Hisamatsu T, D'Haens G, Pai R, Yu G, Luo WT, Protic M, Hon E, Moses R, Escobar R, Reinisch W: Early histologic response and remission are associated with objective control of inflammation after one year of treatment with mirikizumab in moderately-to-severely active Crohn's disease. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
64. Atreya R, Louis E, Loftus EV, Rubin DT, Dubinsky M, Hisamatsu T, Kalabic J, Mendez P, Chen S, Shah S, Morisset P, Duan WR, Panaccione R: Efficacy and safety up to 3 years of risankizumab maintenance treatment in patients with moderately to severely active ulcerative colitis: interim results from phase 3 COMMAND open-label extension study. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
65. Peyrin-Biroulet L, Allegretti JR, Danese S, Germinaro M, Baker T, Alvarez Y, Jörgens S, Jiang L, Zhang H, Hisamatsu T, Rubin DT, Long M: Efficacy and safety of subcutaneous guselkumab induction therapy in patients with Ulcerative Colitis: Results through week 12 from the phase 3 ASTRO study. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
66. Hart A, Panaccione R, Steinwurz F, Danese S, Hisamatsu T, Cao Q, Olurinde M, Vetter ML, Yang Z, Wang Y, Johanns J, Terry NA, Sands BE, D'Haens G: Efficacy and safety of subcutaneous guselkumab induction therapy in patients with moderately to severely active Crohn's disease: Results through Week 48 from the phase 3 GRAVITI study. 20th Congress of ECCO. Germany. February. 2025.
67. Omori T, Saruta M, Nagaki A, Kuramoto K, Suzuki Y: Examination of the safety and effectiveness of budesonide rectal foam for patients with Ulcerative Colitis: Final report of post-marketing surveillance in Japan. 20th Congress of ECCO. Germany. Feb. 2025.
68. Miyoshi J, Morikubo H, Komatsu H, Kimura Y, Yonezawa H, Matsuura M, Hisamatsu T: Intestinal ultrasound for ulcerative colitis: monitoring and prediction. The 18th International Gastrointestinal Consensus Symposium. Tokyo. February. 2025.

国内学会発表、厚生労働省班会議等発表

- 齋藤隆文, 藤麻武志, 木村容子, 荻原良太, 日比則孝, 三井達也, 宮内亮輔, 土岐真朗, 小野澤志郎, 久松理一: 正中弓状韌帯圧迫症候群による前下膝十二指腸動脈瘤破裂後に十二指腸狭窄を来した一例. 学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ2024. 東京. 2024年4月.
- 亀谷早紀, 鍛治諒介, 壽美竜太郎, 白川貴大, 渡邊もえぎ, 平塚智也, 宮本尚彦, 大野亜希子, 久松理一: 弾性線維性仮性黄色腫に合併した上部消化管出血に対して、内視鏡的止血により救命し得た1例. 学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ2024. 東京. 2024年4月.
- 木村容子, 三好潤, 小松悠香, 米澤広美, 森久保拓, 松浦稔, 久松理一: 潰瘍性大腸炎診療における腸管超音波検査による分子標的治療薬の効果予測. 第121回日本内科学会総会・講演会. 東京. 2024年4月.
- 久松理一: 炎症性腸疾患の病態解明と分子標的治療のUp To Date. 第121回日本内科学会総会・講演会. 東京. 2024年4月.
- 松倉渉子, 三井達也, 木村容子, 日比則孝, 森久保

- 拓, 箕輪慎太郎, 大森春佑, 林伶匡, 三浦みき, 齋藤大祐, 林田真理, 三好潤, 松浦稔, 阿部展次, 柴原純二, 久松理一: 小腸内視鏡で粘膜下腫瘍が疑われたメックル憩室の一例. 第379回日本消化器病学会関東支部例会. 東京. 2024年4月.
- 6 日比則孝, 松浦稔, 小松悠香, 藤麻武志, 荻原良太, 三浦みき, 齋藤大祐, 林田真理, 三好潤, 久松理一: 当院におけるクローン病病態と生物学的製剤使用実態の解析. 第110回日本消化器病学会総会. 徳島. 2024年5月.
- 7 森久保拓, 木村容子, 三好潤, 米澤広美, 小松悠香, 松浦稔, 久松理一: 腸管エコーによる潰瘍性大腸炎寛解導入療法後の内視鏡的改善の予測. 第110回日本消化器病学会総会. 徳島. 2024年5月.
- 8 久松理一: 日本人でのJAK阻害剤の使用について考える. 基調講演ORAL Surveillanceとは何か. 第110回日本消化器病学会総会. 徳島. 2024年5月.
- 9 松浦稔: 潰瘍性大腸炎に対するトファシチニブ5年の使用経験から見た日本人における安全性. 第110回日本消化器病学会総会. 徳島. 2024年5月.
- 10 三好潤: 潰瘍性大腸炎診療における腸管超音波検査の実際. 第110回消化器病学会総会. 徳島. 2024年5月.
- 11 久松理一: 「それぞれの場・疾患における成人移行支援～厚生労働難病政策研究班における取り組み～」難治性炎症性腸管障害に関する調査研究. 日本消化器病学会附置研究会 第1回成人移行支援のあり方研究会. 徳島. 2024年5月.
- 12 得平雅英, 關里和, 友近瞬, 落合一成, 里見介史, 川村直弘, 阪本良弘, 柴原純二, 森秀明, 久松理一: 腹部超音波検査が診断の一助となった神経内分泌腫瘍の1例. 日本超音波医学会第97回学術集会. 横浜. 2024年5月.
- 13 三好潤, 森久保拓, 小松悠香, 米澤広美, 久松理一: 潰瘍性大腸炎・クローン病の診断における腸管超音波検査の役割. シンポジウム. 日本超音波医学会第97回学術集会. 横浜. 2024年5月.
- 14 久松理一: 内科外科連携下の内視鏡治療: 下部消化管疾患に対する内科・外科連携下での内視鏡治療. 第107回日本消化器内視鏡学会総会. 東京. 2024年5月.
- 15 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療におけるゼルヤンツのエビデンス～日本人PMSデータを含めて～. 第107回日本消化器内視鏡学会総会. 東京. 2024年5月.
- 16 大野亜希子, 宮本尚彦, 久松理一: 色覚特性による内視鏡的粘膜下層剥離術時の血管視認性の違いとRDI有用性の検討. 第107回日本消化器内視鏡学会総会. 東京. 2024年5月.
- 17 落合一成, 土岐真朗, 山田貴大, 川本翔, 神林孔明, 権藤興一, 渡邊俊介, 久松理一: 内視鏡的結石除去が困難な巨大総胆管結石に対するMTW POWER CATCHの使用経験. 第107回日本消化器内視鏡学会総会. 東京. 2024年5月.
- 18 Saito D, Matsuura M, Hisamatsu T: Clinical significance of endoscopic assessment at week 24 after initiation of vedolizumab for ulcerative colitis. 第107回日本消化器内視鏡学会総会. 東京. 2024年5月.
- 19 Shibuta H, Nakamura K, Hisamatsu T: Endoscopic lithotripsy combined with colonoscopy and cholangioscopy in patients with surgically altered anatomy. 第107回日本消化器内視鏡学会総会. 東京. 2024年5月.
- 20 Yamada T, Toki M, Hisamatsu T: Common bile duct lithiasis with postoperative intestinal by endoscopic stone removal using the rendezvous technique: A report of two cases. 第107回日本消化器内視鏡学会総会. 東京. 2024年5月.
- 21 大森鉄平: クローン病におけるリンヴォックのEvidenceとExperience—適応追加から1年を振り返って—. 第107回日本消化器内視鏡学会総会. 東京. 2024年6月.
- 22 小松悠香, 森久保拓, 松浦稔, 三好潤, 久松理一: 潰瘍性大腸炎の内視鏡的改善を推定するulcerative colitis intestinal ultrasound (UC-IUS) indexカットオフ値の検討. 第118回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 東京. 2024年6月.
- 23 内田直洋, 鍛冶諒介, 壽美竜太郎, 白川貴大, 望月もえぎ, 平塚智也, 宮本尚彦, 大野亜希子, 日比谷孝志, 磯村杏耶, 藤原正親, 柴原純二, 久松理一: 胃結晶蓄積性組織球症から発症した胃MALTリンパ腫の一例. 第118回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 東京. 2024年6月.
- 24 大森鉄平: 症例検討セッション「十二指腸・小腸」症例提示. 第118回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 東京. 2024年6月.
- 25 津端しおり, 關里和, 友近瞬, 権藤興一, 柴山孝弘, 川村直弘, 阪本良弘, 柴原純二, 森秀明, 久松理一: 腹部超音波検査で診断し得た胆嚢軸捻転症の2症例. 日本超音波医学会第97回学術集会. 横浜. 2024年6月.
- 26 馬上知尋, 日比則孝, 稲田絢子, 江藤晃一朗, 荻本直亮, 羽田裕, 池崎修, 齋藤大祐, 高橋信一, 久松理一, 大森鉄平: 5-アミノサリチル酸製剤の関与が疑われる胸膜炎を生じた潰瘍性大腸炎の1例. 第380回日本消化器病学会関東支部例会. 東京. 2024年7月.
- 27 高田華瑠, 關里和, 友近瞬, 小松悠香, 森久保拓, 箕輪慎太郎, 磯村杏那, 川村直弘, 柴原純二, 森秀明, 久松理一: 画像診断が困難であった好酸球形肝炎炎症性偽腫瘍の1例. 第380回日本消化器病学会関東支部例会. 東京. 2024年7月.
- 28 荻原良太, 松浦稔, 藤麻武志, 日比則孝, 森久保拓, 三井達也, 齋藤大祐, 林田真理, 三好潤, 大森鉄平, 久松理一: 当院における入院高齢潰瘍性大腸炎患者の高齢発症と非高齢発症の比較検討. 第26回日本高齢消化器病学会総会. さいたま. 2024年7月.
- 29 村上義孝, 筒井杏奈, 朝倉敬子, 松岡克善, 大藤さとこ, 福島若葉, 西脇祐司, 久松理一: 潰瘍性大腸炎およびクローン病の有病者数推計に関する全国調査2023. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 30 松岡克善, 松浦稔, 加藤順, 水島恒和, 熊谷秀規, 村上義孝, 朝倉敬子, 久松理一, 西脇祐司: 新規診断炎症性腸疾患患者を対象とした全国規模レジストリ構築. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 31 秋山慎太郎, 長沼誠, 松浦稔, 新崎信一郎, 中本伸宏, 持田智, 伊佐山浩通, 高原楠晃, Park SH, Jung SA, Gu YB, Zhang H, Ni YH, Jang BI, Kim DH, Park SJ, Oh SJ, Oh EH, Liang J, Wei SC, Yen HH, Tan M, Lim WC, Hilmi I, Mak J, Lam ST, Cheng TF, Midha V, Gupta GK, Ahuja V, Puri A, Desai

- D, Almadi MA, Eshraghian A: アジア諸国の炎症性腸疾患患者における原発性硬化性胆管炎の疫学調査: 国際多機関共同後方視的観察研究. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 32 池内浩基, 内野基, 杉田昭, 石原聡一郎, 猿田雅之, 渡辺和宏, 大森鉄平, 板橋道朗, 安西紘幸, 辰巳健志, 木村英明, 大北喜基, 小山文一, 水島恒和, 渡谷祐介, 東大二郎, 上床崇吾, 須並英二: 炎症性腸疾患外科手術例のレジストリ. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 33 松本主之, 梁井俊一, 久部高司, 川崎啓祐, 江崎幹宏, 志賀永嗣, 前田康晴, 吉田直久, 岡志郎, 斎藤豊, 新崎信一郎, 浦岡俊夫, 国崎玲子, 石原聡一郎, 加藤元彦, 久松理一: 潰瘍性大腸炎関連腫瘍性病変に対する内視鏡的切除術の有効性に関する登録研究. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 34 小林拓, 松岡克善, 藤谷幹浩, 竹内健, 東山正明, 新崎信一郎, 藤井俊光, 三好潤, 山崎大, 内野基, 野島正寛, 久松理一: 高齢者IBD患者データベース(レジストリ)作成. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 35 松岡克善, 小林拓, 新崎信一郎, 高津典孝, 藤井俊光, 三好潤, 山崎大, 内野基, 岩間達, 岩田直美, 野島正寛, 長沼誠, 村上義孝, 朝倉敬子, 西脇祐司, 久松理一: 炎症性腸疾患に対する分子標的薬レジストリの構築. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 36 平井郁仁, 竹中健人, 藤井俊光, 馬場重樹, 芦塚伸也, 渡辺憲治, 飯島英樹, 大北宗由, 松井茂之, 久松理一: クロウン病小腸病変の内視鏡的寛解を示すLRGカットオフ値の決定のための研究. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 37 江崎幹宏, 松本主之, 鳥巢剛弘, 梅野淳嗣, 冬野雄太, 平井郁仁, 芦塚伸也, 武田輝之, 二見喜太郎, 中村志郎, 渡辺憲治, 池内浩基, 新崎信一郎, 大宮直木, 中村正直, 仲瀬裕志, 山本修司, 藤谷幹浩, 志賀永嗣, 大森鉄平, 飯島英樹, 平岡佐規子, 蔵原晃一, 山本章二郎, 猿田雅之, 小山文一, 細江直樹, 緒方晴彦, 金井隆典, 小林拓, 日比紀文, 長堀正和, 渡辺守, 竹内健, 久松理一: クロウン病術後再発評価に関するカプセル内視鏡評価の意義—多施設前向きコホート研究—. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 38 江崎幹宏, 大森鉄平, 貞島健人, 松浦稔, 久松理一: クロウン病初発例を対象とした小腸カプセル内視鏡所見に関する追跡研究. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 39 杉本健, 新崎信一郎, 尾関啓司, 志賀永嗣, 横山陽子, 良原丈夫, 大澤恵, 渡辺憲治, 仲瀬裕志, 小林清典, 安藤朗, 久松理一: Webinarによるコロナ禍で学んだ適正なIBD診療の情報発信. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 40 新崎信一郎, 杉本健, 尾関啓司, 志賀永嗣, 横山陽子, 良原丈夫, 大澤恵, 渡辺憲治, 仲瀬裕志, 小林清典, 安藤朗, 久松理一: ニューノーマル時代における適正なIBD診療の広報活動. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 41 渡辺憲治, 久松理一, 仲瀬裕志, 松浦稔, 横山佳浩, 高橋憲一郎, 藤谷幹浩, 前本篤男, 田中浩紀, 櫻庭裕丈, 橋本悠, 浦岡俊夫, 鈴木英雄, 土屋輝一郎, 松岡克善, 加藤真吾, 長堀正和, 吉村直樹, 豊永貴彦, 猿田雅之, 大森鉄平, 佐上晋太郎, 小林拓, 横山薫, 南條宗八, 北村和哉, 杉本健, 大宮直木, 中村正直, 谷田諭史, 土田研司, 横山正, 山本修司, 守屋圭, 深田憲将, 長沼誠, 新崎信一郎, 山下正和, 青山伸郎, 佐藤寿行, 河合幹夫, 上小鶴孝二, 横山陽子, 平岡佐規子, 半田修, 塩谷昭子, 三島義之, 石原俊治, 船越禎広, 平井郁仁, 武富啓展, 江崎幹宏, 高津典孝, 梅野淳嗣, 野島正寛, 安藤朗: 日本人炎症性腸疾患患者におけるCOVID-19ワクチン接種に対する免疫応答と安全性の検討によるワクチン接種の適正化: 多施設共同前向き研究(J-COMBAT). 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 42 長堀正和, 安藤朗, 馬場重樹, 本澤有介, 斎藤大祐, 矢野悦子, 加藤真吾, 須田紗耶香, 河口貴昭, 鶴岡ななえ, 吉田篤史, 櫻庭裕丈, 白倉大毅, 渡辺知佳子, 山崎大: PPIを活用した、IBD患者へ向けての食事指導の提案. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 43 平岡佐規子, 櫻庭裕丈, 藤井俊光, 長堀正和, 永田昌子, 江口尚, 立石清一郎, 布谷麻耶, 小島健太郎, 酒見亮介, 林智之, 宮寄孝子, 井口俊博, 村崎美和, 横山正, 安藤朗, 久松理一: IBD患者の就労に関する課題の抽出と対応. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 44 櫻庭裕丈, 長堀正和, 平岡佐規子, 桂田武彦, 大森鉄平, 山崎大, 加藤真吾, 太田真二, 蓮井桂介, 菊池英純, 平賀寛人, 安藤朗, 久松理一: 便意切迫(感) bowel urgencyの啓発と社会サポートの促進. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 45 福井寿朗, 長沼誠, 国崎玲子, 桐野洋平, 上野伸展, 梅野淳嗣, 安藤朗, 馬場重樹, 三上洋平, 大井充, 細見周平, 松本主之, 渡辺知佳子, 長堀正和, 井上詠, 田中良哉, 平井郁仁, 内野基, 松岡克善, 渡辺憲治, 松浦稔, 久松理一, 根本泰宏, 岡本隆一: 腸管ペーチェット病における重症度基準作成. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 46 梅野淳嗣, 鳥巢剛弘, 内田恵一, 江崎幹宏, 梁井俊一, 大宮直木, 久松理一, 渡辺憲治, 細江直樹, 緒

- 方晴彦, 平井郁仁, 久部高司, 松井敏幸, 八尾恒良, 松本主之, CEAS study group: 非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候の調査. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 47 渡辺憲治, 松本主之, 仲瀬裕志, 久松理一, 平井郁仁, 小林清典, 国崎玲子, 長堀正和, 竹内健, 大藤さとこ, 福島若葉, 梁井俊一, 林田真理, 稲場勇平, 藤谷幹浩, 櫻庭裕丈, 角田洋一, 勝野達郎, 大森鉄平, 小林拓, 秋山純一, 本田穰, 佐藤公, 佐々木誠人, 谷田論史, 加賀谷尚史, 馬場重樹, 安藤朗, 深田憲将, 長沼誠, 細見周平, 鎌田紀子, 山本修司, 平田敬, 石田哲也, 松本吏弘, 金城福則, 金城徹, 田中信治, 穂苺量太, 高橋索真, 北村和哉, 山下真幸, 金井隆典, 櫻井俊之, 猿田雅之, 本谷聡, 邊見慎一郎, 安川重義, 高津典孝, 宮川一平, 田中良哉, 日暮琢磨, 中島淳, 桐野洋平, 水木信久, 山田哲弘, 松岡克善, 鈴木康夫, 上野文昭, 日比紀文, 渡辺守: 特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為比較試験Castle Study: 国内多施設共同試験. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 48 中村志郎, 渡辺憲治, 江崎幹宏, 平井郁仁, 細見周平, 柿本一城, 三上洋平, 西田淳史, 平岡佐規子, 高木智久, 竹内健, 長堀正和, 内野基, 小金井一隆, 東大二郎, 新井勝大, 清水泰岳, 井上幹大, 長沼誠, 仲瀬裕志, 久松理一: 治療の標準化を目指したクローン病治療指針の改訂. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 49 平井郁仁, 渡辺憲治, 櫻庭裕丈, 中村正直, 高津典孝, 久松理一: 無症候性の小腸狭窄を有するクローン病患者に対する内視鏡的バルーン拡張術の有用性に関する多施設前向き試験. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 50 松浦稔, 猿田雅之, 小林拓, 平井郁仁, 松岡克善, 加藤真吾, 渡辺憲治, 内野基, 上野伸展, 新崎信一郎, 長沼誠, 高木智久, 加藤順, 藤井俊光, 新井勝大, 岸本暢将, 虻川大樹, 樋口哲也, 慶野博, 中村志郎, 久松理一: IBD腸管外合併症治療指針の改訂. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年6月.
- 51 松本主之, 江崎幹宏, 大森鉄平, 櫻庭裕丈, 新崎新一郎, 杉本健, 竹中健人, 大塚和朗, 長沼誠, 馬場重樹, 久部高司, 平岡佐規子, 藤谷幹浩, 松浦稔, 梁井俊一, 渡辺憲治, 仲瀬裕志, 平井郁仁, 緒方晴彦, 久松理一: 炎症性腸疾患内視鏡診療ガイドライン作成進捗状況. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 52 石原聡一郎, 品川貴秀, 野口竜剛, 小松更一, 船越薫子, 味岡洋一, 池内浩基, 板橋道朗, 内野基, 浦岡俊夫, 大北喜基, 岡林剛史, 河内洋, 小金井一隆, 斎藤豊, 下田将之, 杉田昭, 菅井有, 高橋賢一, 高丸博之, 田中信治, 仲瀬裕志, 長沼誠, 畑啓介, 東大二郎, 藤井俊光, 二見喜太郎, 松浦稔, 松田圭二, 松本主之, 水島恒和, 渡辺憲治, 渡谷祐介, 山口直比古, 吉田雅博, 杉原健一, 久松理一: 炎症性腸疾患関連消化管腫瘍診療ガイドラインの作成について. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 53 新井勝大, 水落建輝, 清水泰岳, 虻川大樹, 工藤孝広, 熊谷秀規, 石毛崇, 岩間達, 井上幹大, 齋藤武, 萩原真一郎, 梶恵美里, 清水俊明, 国崎玲子, 長沼誠, 渡辺憲治, 中村志郎, 久松理一: 小児潰瘍性大腸炎・小児クローン病治療指針の改訂. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 54 日衛嶋栄太郎, 新井勝大, 塩川雅広, 岩間達, 工藤孝広, 水落建輝, 梶恵美里, 梅津守一郎, 萩原真一郎, 田中孝之, 国崎玲子, 堀之内智子, 栗田威, 清水泰岳, 竹内一朗, 山本修司, 山崎大, 野島正寛, 久松理一, 大植啓史, 井澤和司, 滝田順子: 小児炎症性腸疾患の病勢評価における特異的バイオマーカー抗インテグリン $\alpha v\beta 6$ 抗体の有用性に関する多機関共同研究. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 55 新井勝大, 野村智実, 熊谷秀規, 南部隆亮, 水落建輝, 工藤孝広, 石毛崇, 井上幹大, 齋藤武, 角田文彦, 倉沢伸吾, 金子詩子, 今川和生, 細井賢二, 堤範吾, 今川智之, 梅津守一郎, 宇佐美雅章, 萩原真一郎, 梶恵美里, 堀之内智子, 虫明聡太郎, 日衛嶋栄太郎, 津下充, 岡田賢, 佐藤友紀, 村上潤, 橋本邦生, 垣内俊彦, 高木祐吾, 西川拓朗, 小池勇樹, 江花涼, 清水泰岳, 横尾実華子, 清水俊明, 久松理一: 超早期発症型炎症性腸疾患の子どもをもつ親の子育ての特徴, 心理社会的特徴, 支援ニーズに関する横断研究 (VIP study). 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 56 南部隆亮, 新井勝大, 熊谷秀規, 虻川大樹, 岩間達, 萩原真一郎, 工藤孝広, 石毛崇, 水落建輝, 清水泰岳, 中山佳子, 清水俊明, 久松理一: RESPECT IBD: 小児IBD患者のレジリエンスを育むために必要なサポートの検討. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 57 熊谷秀規, 新井勝大, 工藤孝広, 岩間達, 萩原真一郎, 南部隆亮, 高橋美智子, 齋藤武, 星雄介, 国崎玲子, 内野基, 平岡佐規子, 長沼誠, 杉本健, 三好潤, 澁谷智義, 鈴鴨由美子, 横尾実華子, 清水俊明, 小山みどり, 笠原沙耶香, 久松理一: IBD患者の成人移行支援 (トランジション) における課題: 移行準備とアウトカム. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 58 虻川大樹, 南部隆亮, 熊谷秀規, 水落建輝, 清水泰岳, 倉沢伸吾, 高木祐吾, 井上幹大, 齋藤武, 国崎玲子, 平岡佐規子, 清水俊明, 新井勝大, 久松理一: 小児IBD患者と保護者への説明資料「こどものIBDガイド」(旧「IBDの君へ」)改訂. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 59 我妻康平, 井戸川雅史, 江崎幹宏, 小林拓, 平井郁仁, 新井勝大, 西小森隆太, 右田清志, 古賀智裕,

- 久松理一, 仲瀬裕志: インフラマソーム関連腸炎の病態解明ならびに診断法確立. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 60 久松理一, 松浦稔, 山本修司, 塩川雅広, 岡部誠, 栗田威, 千葉勉, 松岡克善, 岡本隆一, 角田洋一, 新崎信一郎, 長沼誠, 平井郁仁, 江崎幹宏, 松本主之, 仲瀬裕志, 小林拓, 日比紀文, 金井隆典, 安藤朗: ALL JAPAN 体制での抗インテグリンav86抗体研究推進の枠組みについて. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 61 岡部誠, 中西梨紗, 大井充, 星奈美子, 山本修司, 栗田威, 塩川雅弘, 山崎大, 野島正寛, 佐々木誠, 藤谷幹浩, 金城福則, 柿本一城, 平岡佐規子, 上村修司, 長沼誠, 横山薫, 鳥巢剛弘, 高木智久, 久松理一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 安藤朗, 澁谷智義, 土屋輝一郎, 竹内健, 藤井俊光, 猿田雅之, 松岡克善, 守屋圭, 平賀寛人, 平井郁仁, 大宮直木, 穂苅量太, 国崎玲子, 竹原徹郎, 児玉裕三, 妹尾浩: 潰瘍性大腸炎の診断における特異的バイオマーカー抗インテグリンav86抗体の有用性に関する多施設共同研究 (UCV6 Dx study). 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 62 三好潤, 仲瀬裕志, 角田洋一, 小林拓, 渡辺憲治, 新崎信一郎, 江崎幹宏, 山崎大, 久松理一: 抗インテグリンav86抗体の抗体価測定と潰瘍性大腸炎発症の追跡調査—医療系学生を対象にした国内多施設前向き観察研究—. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第1回総会. オンライン. 2024年7月.
- 63 久松理一: 小腸クローン病変の診療のトピックス. 第48回日本消化器内視鏡学会関東セミナー. オンライン. 2024年8月.
- 64 江藤晃一郎, 権藤興一, 荻本直堯, 山田貴大, 川本翔, 神林孔明, 落合一成, 渡邊俊介, 柴山隆宏, 林玲匡, 土岐真朗, 柴原純二, 大森鉄平, 久松理一: 超音波内視鏡下組織採取が診断に有用であった同時性多発膵管癌の1例. 第381回日本消化器病学会関東支部例会. 東京. 2024年9月.
- 65 友近瞬, 關里和, 小松悠香, 森久保拓, 宮内亮輔, 川村直弘, 小野澤志郎, 森秀明, 國分茂博, 久松理一: 腹水の治療中に肝静脈-肝静脈短絡が診断の契機となったBudd-Chiari症候群の一例. 第31回日本門脈圧亢進症学会総会/第27回BRTO・TIPS研究会. 高知. 2024年9月.
- 66 根本展希, 三好潤, 小栗典明, 松浦稔, 久松理一: 慢性炎症による腸管マクロファージのDNAメチル化と免疫学的機能の変化の検討. 第52回日本臨床免疫学会総会. 東京. 2024年10月.
- 67 権藤興一, 土岐真朗, 荻本直堯, 山田貴大, 川本翔, 神林孔明, 吉池信哉, 磯村杏耶, 落合一成, 林玲匡, 松木亮太, 小暮正晴, 阪本良弘, 柴原純二, 久松理一: 胆道鏡下生検により術前診断し得た肝外胆管原発神経内分泌腫瘍 (NET G2) の1例. 第60回日本胆道学会総会. 名古屋. 2024年10月.
- 68 小栗典明, 三好潤, 根本展希, 川村直弘, 松浦稔, 久松理一: 小腸微生物叢を標的とした*Akkermansia muciniphila*経口投与による肝硬変・高アンモニア血症の改善促進効果. 第62回日本小腸学会学術集会. 東京. 2024年10月.
- 69 三好潤: クローン病の小腸病変に対する腸管超音波検査. 第62回日本小腸学会学術集会. 東京. 2024年10月.
- 70 三好潤: 潰瘍性大腸炎診療におけるヤヌスキナーゼ (JAK) 阻害剤. 第4回妊娠と薬情報研究会学術集会. 東京. 2024年10月.
- 71 久松理一: 肝線維化・肝性脳症を*Akkermansia muciniphila*は改善する—小腸腸内細菌叢の重要性—. JDDW 2024. 神戸. 2024年10月.
- 72 川本翔, 権藤興一, 江藤晃一郎, 荻本直堯, 山田貴大, 神林孔明, 野坂岳志, 落合一成, 渡邊俊介, 土岐真朗, 久松理一: 当院における無症候性総胆管結石に対する治療成績. JDDW 2024. 神戸. 2024年10月.
- 73 大野亜希子, 鍛冶諒介, 久松理一: 色覚の多様性に配慮した表在型食道癌の内視鏡診断. JDDW 2024. 神戸. 2024年10月.
- 74 小栗典明, 三好潤, 久松理一: 肝硬変, 肝性脳症における小腸微生物叢dysbiosisと治療的介入の可能性. JDDW 2024. 神戸. 2024年10月.
- 75 藤井俊光, 仲瀬裕志, 久松理一, 松岡克善, 猿田雅之, 内川葉子, 藤本豪, 張長亮, 鳥山和宏, 日比紀文: 日本人潰瘍性大腸炎患者に対するオザニモドの1日1回投与による寛解導入および維持療法: 第2/3相試験 (J-True North) における生物学的製剤治療歴の有無によるサブグループ解析. JDDW 2024. 神戸. 2024年10月.
- 76 久松理一, 今枝彩, 森岡千早, 仲瀬裕志: 潰瘍性大腸炎患者におけるリサンキズマブ維持療法. JDDW 2024. 神戸. 2024年10月.
- 77 大野亜希子: 『大腸内視鏡治療のエッセンスとは?』～RDIを用いた最適アプローチ～. JDDW 2024. 神戸. 2024年10月.
- 78 竹内健, 今枝彩, 森岡千早, 久松理一: 潰瘍性大腸炎患者に対する不耐容又は効果不十分であったAdvanced therapyの薬剤数及び種類別のリサンキズマブの有効性. JDDW 2024. 神戸. 2024年10月.
- 79 仲瀬裕志, 佐藤真弘, 池田公俊, 久松理一: 潰瘍性大腸炎における投与中断後のウバダシチニブ再投与の有効性及び安全性. JDDW 2024. 神戸. 2024年10月.
- 80 日比紀文, 田中大, 大佐賀智, 久松理一: 日本人クローン病患者における便意切迫感の負担: CONFIDE調査結果から. JDDW 2024. 神戸. 2024年10月.
- 81 森久保拓, 松浦稔, 久松理一: 潰瘍性大腸炎におけるUstekinumab導入6ヶ月後の内視鏡的評価の臨床的意義に関する検討. JDDW 2024. 神戸. 2024年10月.
- 82 三好潤, 小栗典明, 久松理一: 血清サイトカイン・ケモカインプロファイルに基づく炎症性腸疾患の新規分類と治療効果. JDDW 2024. 神戸. 2024年10月.
- 83 板橋真子, 川村直弘, 得平雅英, 友近瞬, 關里和, 田島崇, 鈴木裕, 柴原純二, 森秀明, 久松理一: 腸間膜脱分化型脂肪肉腫の1例. 日本超音波医学会第36回関東甲信越地方会学術集会. 東京. 2024年10月.
- 84 林玲匡, 土岐真朗, 田邊一成, 岸本浩次, 柴原純二: 膵細胞診が重要な疾患～新たな視点, 組織との対比～臨床像・組織診の対比を中心とした膵癌の細胞診におけるポイントとその限界. 第63回日本臨床細胞

- 学会秋期大会．千葉．2024年11月．
- 85 横山楓，落合一成，荻本直亮，山田貴大，川本翔，権藤興一，松本亮太，小暮正晴，林，土岐真朗，柴原純二，阪本良弘，久松理一：EUS-FNAにて術前診断に至った退形成膵癌の1例．第53回杏林医学会総会．三鷹市．2024年11月．
 - 86 仲瀬裕志，佐藤真弘，新山勇人，久松理一：中等症から重症の活動性クローン病患者におけるウパダシチニブの長期有効性と安全性：長期継続投与期．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 87 久松理一，佐藤真弘，大野浩太，仲瀬裕志：中等症から重症のクローン病患者における最長3年間の投与によるリサンキズマブの長期有効性及び安全性．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 88 久松理一，日比紀文，渡辺守，Travis S, Fischer M, Dubinsky M, Jairath V, Chen M, Ferrante M, Vadhariya A, Protic M, Morris N, 里井洋一，田中大，Ghosh S：日本人を含むクローン病患者の疲労，便意切迫感，QOLへのミリキズマブの効果：VIVID-1試験結果．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 89 久松理一，日比紀文，渡辺守，Ferrante M, Danese S, Chen M, D'Haens G, Ghosh S, Jairath V, 田中大，山本千詠，里井洋一，Morris N, Escobar R, Sands B：クローン病患者（日本人含む）でのミリキズマブの有効性・安全性：VIVID-1試験の主要結果．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 90 久松理一，Panaccione R, Hart A, Steinwurz F, Danese S, Cao Q, Olurinde M, Vetter M, Yang Z, Wang Y, Johanns J, Terry N, 坂本武彦，吉越真一，佐々木絢子，Sands B, D'Haens G：中等症から重症のクローン病患者に対するグセルクマブ皮下導入療法の有効性と安全性：GRAVITI試験．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 91 久松理一，Panaccione R, Danese S, Feagan B, D'Haens G, Afzali A, Reinisch W, Panés J, Rubin D, Andrews J, Terry N, Salese L, Van Rampelbergh R, Frustaci M, Yang Z, Johanns J, Wan K, Yee J, 坂本武彦，吉越真一，佐々木絢子，Sands B：中等症から重症のクローン病患者に対するグセルクマブの有効性と安全性：GALAXI 2&3試験．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 92 久松理一，Rubin D, Allegretti J, Panés J, Shipitofsky N, Yarandi S, Huang K, Germinaro M, Wilson R, Zhang H, 坂本武彦，吉越真一，佐々木絢子，Feagan B, Lichtenstein G, Bressler B, Peyrin-Biroulet L, Sands B, Dignass A：中等症から重症の活動期潰瘍性大腸炎患者に対するグセルクマブの有効性と安全性：QUASAR寛解維持試験．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 93 猿田雅之，Rubin D, Dignass A, Allegretti J, Yarandi S, Huang K, Germinaro M, Zhang J, Zhang H, 吉越真一，佐々木絢子，Rayyan Y, Balderramo D, Bressler B, Peyrin-Biroulet L, 久松理一：中等症から重症の活動期潰瘍性大腸炎患者に対するグセルクマブの有効性と安全性：QUASAR寛解維持試験．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 94 竹内健，今枝彩，森岡千早，久松理一：中等症から重症の潰瘍性大腸炎患者におけるリサンキズマブによる早期の症状改善：第3相導入試験の事後解析．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 95 仲瀬裕志，久松理一，松岡克善，猿田雅之，小林拓，王棟，鳥山和宏，内川葉子，藤本豪，張長亮，日比紀文：日本人潰瘍性大腸炎患者を対象としたozanimod投与による12週間での炎症性バイオマーカーの改善．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 96 久松理一，小林拓，石黒佳織，廣瀬理沙，日比紀文：高齢の潰瘍性大腸炎患者におけるvedolizumabの有効性と安全性．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 97 松岡克善，本谷聡，新崎信一郎，三上洋平，足立ちひろ，新井祥子，遠藤穰，佐藤慶子，湯浅博俊，水野泰志，久松理一：潰瘍性大腸炎を対象としたトファシチニブ特定使用成績調査における生物学的製剤使用歴別事後解析結果．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 98 松岡克善，本谷聡，山本隆行，松浦稔，藤井俊光，新崎信一郎，三上洋平，新井祥子，大島純一，遠藤穰，湯浅博俊，星雅人，佐藤慶子，久松理一：潰瘍性大腸炎を対象としたトファシチニブ特定使用成績調査（全例調査）最終報告．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 99 藤麻武志，松浦稔，森久保拓，木村容子，小松悠香，和田晴香，荻原良太，日比則孝，三井達也，齋藤大祐，林田真理，三好潤，大森鉄平，久松理一：新規IBD患者における腸管外合併症の発症時期と臨床経過に与える影響．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 100 荻原良太，松浦稔，木村容子，小松悠香，藤麻武志，和田晴香，日比則孝，森久保拓，三井達也，齋藤大祐，林田真理，三好潤，大森鉄平，久松理一：潰瘍性大腸炎におけるステロイド強力静注療法の最適化：有効性の判断時期と中長期予後．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 101 松岡克善，山本隆行，松浦稔，藤井俊光，新井祥子，遠藤穰，佐藤慶子，湯浅博俊，水野泰志，小林祐希，久松理一：潰瘍性大腸炎を対象としたトファシチニブ特定使用成績調査（全例調査）における年齢層別事後解析結果．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 102 長沼誠，竹中健人，藤井俊光，志賀永嗣，松浦稔，久松理一：活動性潰瘍性大腸炎に対する生物学的製剤の有用性を評価するための多施設共同無作為比較臨床試験．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 103 久松理一，仲瀬裕志，松岡克善，猿田雅之，小林拓，片山貴博，鳥山和宏，内川葉子，藤本豪，張長亮，日比紀文：免疫調節薬・先端治療未投与潰瘍性大腸炎患者に対するOzanimodの効果：国内第2/3相試験サブ解析．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 104 大森鉄平：理想的なクローン病診療とは何か、スキリージとともに考える．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会．東京．2024年11月．
 - 105 久松理一：病態・サイトカインから診た炎症性腸疾患診療の進歩と横断的診療の勧め．日本内科学会第700回関東地方会記念講演会．東京．2024年11月．
 - 106 我妻康平，中村友哉，林優希，齋藤大祐，森久保拓，井戸川雅史，松浦稔，久松理一，仲瀬裕志：MEFV

- 遺伝子変異が日本人の炎症性腸疾患の臨床像に与える影響. 第61回日本消化器免疫学会総会. 長崎. 2024年12月.
- 107 三好潤, 田村哲嗣, 小栗典明, 齋藤大祐, 西成田悠, 和田晴香, 根本展希, 松浦稔, 久松理一: 機械学習を用いた血清サイトカイン・ケモカインプロファイルに基づく炎症性腸疾患の新規分類と治療効果予測. 第61回日本消化器免疫学会総会. 長崎. 2024年12月.
- 108 田中佑治, 井出麻友美, 中山快貴, 小島洋平, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次, 森久保拓, 久松理一, 鬼塚裕美, 柴原純二: 短期間に小腸再発した多発小腸がんの1例. 第382回日本消化器病学会関東支部例会. 東京. 2024年12月.
- 109 倉野将彰, 白川貴大, 壽美竜太郎, 津端しおり, 渡邊もえぎ, 鍛冶諒介, 大野亜希子, 磯村杏耶, 柴原純二, 久松理一: Serrated polyposis syndromeを背景として粘膜下層浸潤を呈した大腸癌の一例. 第382回日本消化器病学会関東支部例会. 東京. 2024年12月.
- 110 奥村俊彦, 江藤晃一郎, 稲田絢子, 馬上知尋, 荻本直堯, 日比則孝, 羽田裕, 池崎修, 齋藤大祐, 高橋信一, 大森鉄平, 中本啓太郎: 特異的検査が陰性であった腹膜炎の一例. 第382回日本消化器病学会関東支部例会. 東京. 2024年12月.
- 111 荻原良太, 森久保拓, 三好潤, 松浦稔, 久松理一: クロウン病の小腸狭窄病変に対する腸管エコーとダブルバルーン内視鏡所見の対比. 第119回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 東京. 2024年12月.
- 112 得平雅英, 川村直弘, 友近瞬, 關里和, 西岡真理子, 小暮正晴, 磯村杏取, 宮内亮輔, 小野澤志郎, 廣中秀一, 柴原純二, 阪本良弘, 森秀明, 久松理一: 肝細胞癌術後再発に対しTACEと化学療法にて奏功した高齢男性の1例. 第58回日本成人病学会学術集会. 東京. 2025年1月.
- 113 村上義孝, 筒井杏奈, 朝倉敬子, 大藤さとし, 福島若葉, 松岡克善, 西脇祐司, 久松理一: 潰瘍性大腸炎・クローン病の有病者数推計に関する全国疫学調査. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会. 東京. 2025年1月.
- 114 秋山慎太郎, 長沼誠, 松浦稔, 新崎信一郎, 中本伸宏, 持田智, 伊佐山浩通, 高原楠晃, Park SH, Jung SA, Gu YB, Zhang H, Ni YH, Jang BI, Kim DH, Park SJ, Oh SJ, Oh EH, Liang J, Wei SC, Yen HH, Tan M, Lim WC, Hilmi I, Mak J, Lam ST, Cheng TF, Midha V, Gupta GK, Ahuja V, Puri A, Desai D, Almadi MA, Eshraghian A: アジア諸国の炎症性腸疾患患者における原発性硬化性胆管炎の疫学調査: 国際多機関共同後方視的観察研究. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会. 東京. 2025年1月.
- 115 池内浩基, 内野基, 杉田昭, 石原聡一郎, 猿田雅之, 渡辺和宏, 大森鉄平, 板橋道朗, 安西紘幸, 辰巳健志, 木村英明, 大北喜基, 小山文一, 水島恒和, 渡谷祐介, 東大二郎, 上床崇吾, 須並英二: 炎症性腸疾患外科手術例のレジストリ. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会. 東京. 2025年1月.
- 116 松本主之, 梁井俊一, 久部高司, 川崎啓祐, 江崎幹宏, 志賀永嗣, 前田康晴, 吉田直久, 岡志郎, 齋藤豊, 新崎信一郎, 浦岡俊夫, 国崎玲子, 石原聡一郎, 加藤元彦, 久松理一: 潰瘍性大腸炎関連腫瘍性病変に対する内視鏡的切除術の有効性に関する登録研究. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会. 東京. 2025年1月.
- 117 新井勝大, 野村智実, 熊谷秀規, 南部隆亮, 水落建輝, 工藤孝広, 石毛崇, 井上幹大, 齋藤武, 角田文彦, 倉沢伸吾, 金子詩子, 今川和生, 細井賢二, 堤範音, 今川智之, 梅津守一郎, 宇佐美雅章, 萩原真一郎, 梶恵美里, 堀之内智子, 虫明聡太郎, 日衛嶋栄太郎, 津下充, 岡田賢, 佐藤友紀, 村上潤, 橋本邦生, 垣内俊彦, 高木祐吾, 西川拓朗, 小池勇樹, 江花涼, 清水泰岳, 横尾実華子, 清水俊明, 久松理一: 超早期発症型炎症性腸疾患の子どもをもつ親の子育ての特徴、心理社会的特徴、支援ニーズに関する横断研究 (VIP study). 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会. 東京. 2025年1月.
- 118 南部隆亮, 新井勝大, 熊谷秀規, 虻川大樹, 岩間達, 萩原真一郎, 工藤孝広, 石毛崇, 水落建輝, 清水泰岳, 中山佳子, 清水俊明, 久松理一: RESPECT IBD: 小児IBD患者のレジリエンスを育むために必要なサポートの検討. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会. 東京. 2025年1月.
- 119 熊谷秀規, 新井勝大, 工藤孝広, 岩間達, 萩原真一郎, 南部隆亮, 高橋美智子, 齋藤武, 星雄介, 国崎玲子, 内野基, 平岡佐規子, 長沼誠, 杉本健, 三好潤, 澁谷智義, 鈴鴨由美子, 横尾実華子, 清水俊明, 小山みどり, 笠原沙耶香, 久松理一: IBD患者の成人移行支援 (トランジション): 成人患者への調査・紹介状雛形作成. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会. 東京. 2025年1月.
- 120 虻川大樹, 南部隆亮, 熊谷秀規, 水落建輝, 清水泰岳, 倉沢伸吾, 高木祐吾, 井上幹大, 齋藤武, 国崎玲子, 平岡佐規子, 清水俊明, 新井勝大, 久松理一: 小児IBD患者と保護者への説明資料「こどものIBDガイド」(旧「IBDの君へ」)改訂. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会. 東京. 2025年1月.
- 121 長堀正和, 安藤朗, 馬場重樹, 本澤有介, 齋藤大祐, 矢野悦子, 加藤真吾, 河口貴昭, 鶴岡ななえ, 吉田篤史, 櫻庭裕丈, 白倉大毅, 渡辺知佳子, 山崎大, 須田紗耶香, 三上絵里: PPIを活用した、IBD患者へ向けての食事指導の提案. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会. 東京. 2025年1月.
- 122 平岡佐規子, 櫻庭裕丈, 藤井俊光, 長堀正和, 永田昌子, 江口尚, 立石清一郎, 布谷麻耶, 小島健太郎, 酒見亮介, 林智之, 宮崎孝子, 井口俊博, 村崎美和, 横山正, 安藤朗, 久松理一: IBD患者の就労に関する課題の抽出と対応. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会. 東京. 2025年1月.
- 123 櫻庭裕丈, 長堀正和, 平岡佐規子, 桂田武彦, 大森鉄平, 山崎大, 加藤真吾, 太田真二, 蓮井桂介, 菊池英純, 平賀寛人, 安藤朗, 久松理一: 便意切迫(感) bowel urgencyの啓発と社会サポートの促進. 厚生

- 労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 124 竹中健人, 大塚和朗, 岡本隆一, 安藤朗, 大宮直木, 小林拓, 猿田雅之, 林亮平, 久松理一, 松浦稔, 平井郁仁, 松岡克善, 松本主之, 山本博徳, 矢野智則, 長沼誠, 今枝博之, 渡辺憲治, 渡辺守: クロウン病に対する生物学的製剤による小腸粘膜治療検討(SEBIO study)。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 125 長沼誠, 福井寿朗, 伊藤友佳, 佐野泰樹, 八木直人, 本澤有介, 深田憲将, 桐野洋平, 久松理一: 腸管ペーチェット病・単純性潰瘍に対する疾患活動性を評価するための新規内視鏡スコア作成の試み(ペーチェット班との共同研究)。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 126 渡辺憲治, 松本主之, 仲瀬裕志, 久松理一, 平井郁仁, 小林清典, 国崎玲子, 長堀正和, 竹内健, 大藤さとし, 福島若葉, 梁井俊一, 林田真理, 稲場勇平, 藤谷幹浩, 櫻庭裕丈, 角田洋一, 勝野達郎, 大森鉄平, 小林拓, 秋山純一, 本田稔, 佐藤公, 佐々木誠人, 谷田諭史, 加賀谷尚史, 馬場重樹, 安藤朗, 深田憲将, 長沼誠, 細見周平, 鎌田紀子, 山本修司, 平田敬, 石田哲也, 松本吏弘, 金城福則, 金城徹, 田中信治, 穂苺量太, 高橋素真, 北村和哉, 山下真幸, 金井隆典, 櫻井俊之, 猿田雅之, 本谷聡, 邊見慎一郎, 安川重義, 高津典孝, 宮川一平, 田中良哉, 日暮琢磨, 中島淳, 桐野洋平, 水木信久, 山田哲弘, 松岡克善, 鈴木康夫, 上野文昭, 日比紀文, 渡辺守: 特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為比較試験Castle Study: 国内多施設共同試験。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 127 平井郁仁, 竹中健人, 藤井俊光, 馬場重樹, 芦塚伸也, 渡辺憲治, 飯島英樹, 大北宗由, 松井茂之, 久松理一: クロウン病小腸病変の内視鏡的寛解を示すLRGカットオフ値の決定のための研究。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 128 江崎幹宏, 大森鉄平, 貞島健人, 松浦稔, 久松理一: クロウン病初発例を対象とした小腸カプセル内視鏡所見に関する追跡研究。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 129 江崎幹宏, 松本主之, 鳥巢剛弘, 梅野淳嗣, 冬野雄太, 平井郁仁, 芦塚伸也, 武田輝之, 二見喜太郎, 中村志郎, 渡辺憲治, 池内浩基, 新崎信一郎, 大宮直木, 中村正直, 仲瀬裕志, 山本修司, 藤谷幹浩, 志賀永嗣, 大森鉄平, 飯島英樹, 平岡佐規子, 蔵原晃一, 山本章二郎, 猿田雅之, 小山文一, 細江直樹, 緒方晴彦, 金井隆典, 小林拓, 日比紀文, 長堀正和, 渡辺守, 竹内健, 久松理一: クロウン病術後再発評価に関するカプセル内視鏡評価の意義-多施設前向きコホート研究-。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 130 中村志郎, 渡辺憲治, 江崎幹宏, 平井郁仁, 細見周平, 柿本一城, 三上洋平, 西田淳史, 平岡佐規子, 高木智久, 竹内健, 長堀正和, 内野基, 小金井一隆, 東大二郎, 新井勝大, 清水泰岳, 井上幹大, 肥沼幸, 長沼誠, 仲瀬裕志, 久松理一: 治療の標準化を目指したクローン病治療指針の改訂。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 131 平井郁仁, 渡辺憲治, 櫻庭裕丈, 中村正直, 高津典孝, 久松理一: 無症候性の小腸狭窄を有するクローン病患者に対する内視鏡的バルーン拡張術の有用性に関する多施設前向き試験。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 132 長沼誠, 中村志郎, 深田憲将, 松岡克善, 小林拓, 松浦稔, 猿田雅之, 加藤真吾, 加藤順, 横山薫, 石原俊治, 志賀永嗣, 秋山慎太郎, 中村正直, 小金井一隆, 内野基, 水落建輝, 虻川大樹, 渡辺憲治, 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療指針改訂。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 133 松浦稔, 猿田雅之, 小林拓, 平井郁仁, 松岡克善, 加藤真吾, 渡辺憲治, 内野基, 上野伸展, 新崎信一郎, 長沼誠, 高木智久, 加藤順, 藤井俊光, 新井勝大, 岸本暢将, 虻川大樹, 樋口哲也, 慶野博, 中村志郎, 久松理一: IBD腸管外合併症治療指針の改訂。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 134 松本主之, 江崎幹宏, 大森鉄平, 櫻庭裕丈, 新崎新一郎, 杉本健, 竹中健人, 大塚和朗, 長沼誠, 馬場重樹, 久部高司, 平岡佐規子, 藤谷幹浩, 松浦稔, 梁井俊一, 渡辺憲治, 仲瀬裕志, 平井郁仁, 緒方晴彦, 久松理一: 炎症性腸疾患内視鏡診療ガイドライン作成進捗状況。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 135 石原聡一郎, 品川貴秀, 野口竜剛, 小松更一, 船越薫子, 味岡洋一, 池内浩基, 板橋道朗, 内野基, 浦岡俊夫, 大北喜基, 岡林剛史, 河内洋, 小金井一隆, 斎藤豊, 下田将之, 杉田昭, 菅井有, 高橋賢一, 高丸博之, 田中信治, 仲瀬裕志, 長沼誠, 畑啓介, 東大二郎, 藤井俊光, 二見喜太郎, 松浦稔, 松田圭二, 松本主之, 水島恒和, 渡辺憲治, 渡谷祐介, 山口直比古, 吉田雅博, 杉原健一, 久松理一: 炎症性腸疾患関連消化管腫瘍診療ガイドラインの作成について。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 136 新井勝大, 水落建輝, 清水泰岳, 虻川大樹, 工藤孝広, 熊谷秀規, 石毛崇, 岩間達, 井上幹大, 齋藤武, 萩原真一郎, 梶惠美里, 清水俊明, 国崎玲子, 長沼誠, 渡辺憲治, 中村志郎, 久松理一: 小児潰瘍性大腸炎・小児クローン病治療指針の改訂。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 137 石毛崇, 徳原大介, 新井勝大, 長沼誠, 渡辺憲治, 清水泰岳, 北村和哉, 肥沼幸, 篠崎浩平, 高木祐吾, 肥塚慶之助, 藤川皓基, 細見周平, 本澤有介, 三上洋平, 三好潤, 八木龍介, 横山陽子: 炎症性腸疾患患者さんのワクチン接種についてQ&Aの作成。厚生

- 労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 138 日衛嶋栄太郎, 新井勝大, 塩川雅広, 岩間達, 工藤孝広, 水落建輝, 梶恵美里, 梅津守一郎, 萩原真一郎, 田中孝之, 国崎玲子, 堀之内智子, 栗田威, 清水泰岳, 竹内一朗, 山本修司, 山崎大, 野島正寛, 久松理一, 大植啓史, 井澤和司, 滝田順子: 小児炎症性腸疾患の病勢評価における特異的バイオマーカー抗インテグリン α v β 6抗体の有用性に関する多機関共同研究。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 139 杉本健, 新崎信一郎, 尾関啓司, 志賀永嗣, 横山陽子, 良原丈夫, 大澤恵, 渡辺憲治, 仲瀬裕志, 小林清典, 安藤朗, 久松理一: Webinarによるコロナ禍で学んだ適正なIBD診療の情報発信。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 140 新崎信一郎, 杉本健, 尾関啓司, 志賀永嗣, 横山陽子, 良原丈夫, 大澤恵, 渡辺憲治, 仲瀬裕志, 小林清典, 安藤朗, 久松理一: ニューノーマル時代における適正なIBD診療の広報活動。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 141 渡辺憲治, 久松理一, 仲瀬裕志, 松浦稔, 横山佳浩, 高橋憲一郎, 藤谷幹浩, 前本篤男, 田中浩紀, 櫻庭裕丈, 橋本悠, 浦岡俊夫, 鈴木英雄, 土屋輝一郎, 松岡克善, 加藤真吾, 長堀正和, 吉村直樹, 豊永貴彦, 猿田雅之, 大森鉄平, 佐上晋太郎, 小林拓, 横山薫, 南條宗八, 北村和哉, 杉本健, 大宮直木, 中村正直, 谷田諭史, 土田研司, 横山正, 山本修司, 守屋圭, 深田憲将, 長沼誠, 新崎信一郎, 西下正和, 青山伸一郎, 佐藤寿行, 河合幹夫, 上小鶴孝二, 横山陽子, 平岡佐規子, 半田修, 塩谷昭子, 三島義之, 石原俊治, 船越禎広, 平井郁仁, 武富啓展, 江崎幹宏, 高津典孝, 梅野淳嗣, 野島正寛, 安藤朗: 日本人炎症性腸疾患患者におけるCOVID-19ワクチン接種に対する免疫応答と安全性の検討によるワクチン接種の適正化: 多施設共同前向き研究 (J-COMBAT)。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 142 我妻康平, 井戸川雅史, 江崎幹宏, 小林拓, 平井郁仁, 新井勝大, 西小森隆太, 右田清志, 古賀智裕, 久松理一, 仲瀬裕志: インフラマソーム関連腸炎の病態解明ならびに診断法確立。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 143 岡部誠, 中西梨紗, 大井充, 星奈美子, 山本修司, 栗田威, 塩川雅弘, 山崎大, 野島正寛, 佐々木誠, 藤谷幹浩, 金城福則, 柿本一城, 平岡佐規子, 上村修司, 長沼誠, 横山薫, 鳥巢剛弘, 高木智久, 久松理一, 江崎幹宏, 仲瀬裕志, 西田淳史, 澁谷智義, 土屋輝一郎, 竹内健, 藤井俊光, 猿田雅之, 松岡克善, 守屋圭, 平賀寛人, 平井郁仁, 大宮直木, 徳苺量太, 国崎玲子, 竹原徹郎, 児玉裕三, 妹尾浩: 潰瘍性大腸炎の診断における特異的バイオマーカー抗インテグリン α v β 6抗体の有用性に関する多施設共同研究 (UCV6 Dx study)。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 144 吉松裕介, 杉本真也, 清原裕貴, 三上洋平, 筋野智久, 高林馨, 渡辺憲治, 平井郁仁, 久松理一, 金井隆典: 抗インテグリン α v β 6抗体価を用いた内視鏡的寛解UC症例の再燃予測。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 145 下森雄太, 仲瀬裕志, 石原俊治, 磯本一, 江崎幹宏, 櫻庭裕丈, 新崎信一郎, 杉本健, 高橋索真, 田中浩紀, 長沼誠, 中村正直, 野島正寛, 久部高司, 平井郁仁, 平岡佐規子, 藤谷幹浩, 前本篤男, 松浦稔, 松岡克善, 松本主之, 水上一弘, 山本修司, 渡辺憲治, 久松理一: 新規に治療を開始した潰瘍性大腸炎患者における治療反応性と抗インテグリン α v β 6抗体価の推移・多施設共同前向き試験。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 146 佐藤寿行, 新崎信一郎, 池内浩基, 堀尾勇規, 藤谷幹浩, 柿本一城, 細見周平, 荻野崇之, 平岡佐規子, 山本修司, 江崎幹宏, 石原聡一郎, 野島正寛, 松岡克善, 渡辺和宏, 高橋賢一, 水島恒和, 渡辺憲治, 中山吾郎, 杉本健, 櫻庭裕丈, 岡志郎, 間山裕二, 辰巳健志, 木村英明, 久松理一: 潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘術前後の経過と血清抗インテグリン α v β 6抗体価の推移・多施設共同前向き研究。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 147 三好潤, 仲瀬裕志, 角田洋一, 小林拓, 渡辺憲治, 新崎信一郎, 江崎幹宏, 山崎大, 久松理一: 抗インテグリン α v β 6抗体の抗体価測定と潰瘍性大腸炎発症の追跡調査—医療系学生を対象にした国内多施設前向き観察研究—。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和6年度第2回総会。東京。2025年1月。
- 148 木島武恒, 藤麻武志, 君塚拓也, 木村容子, 小松悠香, 和田晴香, 荻原良太, 小栗典明, 森久保拓, 三井達也, 麻生喜祥, 里見介史, 吉敷智和, 林田真理, 三好潤, 松浦稔, 柴原純二, 須並英二, 久松理一: 術前診断に難渋し, 繰り返す小腸イレウスを契機に診断した腸管子宮内膜症の一例。第383回日本消化器病学会関東支部例会。東京。2025年2月。
- 149 内田恵一, 梅野淳嗣, 中山圭子, 大宮直木, 細江直樹, 江崎幹宏, 久松理一, 松本主之: 非特異性多発性小腸潰瘍症に対する難治性疾患等政策研究事業における2つの研究班の共同グループの取り組み。第21回日本消化管学会総会。東京。2025年2月。
- 150 前本篤男, 久松理一, Allegretti JR, Panes J, Peyrin-Bioroulet L, Sands BE, Yarandi S, Huang K-G, Germinaro M, Zhang J, Zhang H, 吉越真一, 佐々木絢子, Begun J, Kierkus J, Kravchenko T, Rubin DT, Bressler B, Dignass A: 生物学的製剤/JAK阻害剤治療歴別の中等症から重症の活動期潰瘍性大腸炎患者に対するグセルクマブの有効性 (アンコール演題)。第21回日本消化管学会総会。東京。2025年2月。
- 151 平井郁仁, 久松理一, Panes J, Dignass A, Yarandi S, Huang K-G, Germinaro M, Sridhar S, Branigan P, Wilson R, Zhang H, 吉越真一, 佐々木絢子, Magro F, Jairath V, Feagan BG, Lichtenstein GR, Rubin DT, Sands BE: 中等症から重症の活動期潰瘍性大腸炎に対するグセルクマブの組織学のおよび組織学的内視鏡的粘膜評価への影響 (アンコール

- 演題)。第21回日本消化管学会総会。東京。2025年2月。
- 152 小松悠香, 三好潤, 森久保拓, 木村容子, 米澤広美, 松浦稔, 久松理一: 腸管超音波検査による潰瘍性大腸炎モニタリング: 内視鏡的改善推定におけるUC-IUS indexの有用性。第21回日本消化管学会総会。東京。2025年2月。
 - 153 三好潤: 潰瘍性大腸炎診療における腸管エコー。第21回日本消化管学会総会。東京。2025年2月。
 - 154 三井達也, 大森鉄平, 和田晴香, 林田真理, 三好潤, 松浦稔, 久松理一: クロウン病カプセル内視鏡スコアに与える読影経験の影響について。第18回日本カプセル内視鏡学会。東京。2025年2月。
 - 155 久松理一: クロウン病の診断とモニタリングにおけるカプセル内視鏡の役割。第18回日本カプセル内視鏡学会。東京。2025年2月。
 - 156 大森鉄平, 大宮直木, 平井郁仁, 渡辺憲治: 有害事象の観点から見た本邦におけるパテンシーカプセルの適正使用。第18回日本カプセル内視鏡学会学術集会。東京。2025年2月。
 - 157 土岐真朗, 権藤興一, 石田拓也, 澁田秀則, 荻本直亮, 山田貴大, 川本翔, 落合一成, 三好潤, 久松理一: 高齢者中等症胆石性急性胆管炎における緊急胆管ドレナージについての検討。第61回日本腹部救急医学会総会。愛知。2025年3月。
- 研究会等発表**
1. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療におけるゼルヤンツのエビデンス。Xeljanz全国講演会。東京。2024年4月。
 2. 三好潤: IBD腸管超音波検査をはじめめるにあたってー検査の有用性・評価項目ー。IUS Primer 2024。オンライン。2024年4月23日。
 3. 久松理一: 日本発のクロウン病治療におけるTreat to Target (T2T)~T2T実践を加速させるために~。T2Tワークショップin関西。オンライン。2024年4月。
 4. 松浦稔: 肛門病変を有するCD患者の治療強化基準は何か。T2Tワークショップin関西。大阪。2024年4月。
 5. 三好潤: 炎症性腸疾患診療における腸管超音波検査。IPBD Meeting in Sapporo。札幌。2024年5月。
 6. 久松理一: UCの基本治療について~5-ASA製剤, プデソニド製剤も含めて~。第214回弘前消化器病研究会。オンライン。2024年5月。
 7. 三好潤: 炎症性腸疾患診療における腸管超音波検査。ファイザー株式会社消化器領域医療推進部社内勉強会。東京。2024年5月。
 8. 大森鉄平: 中等症の潰瘍性大腸炎に対するJAK阻害剤。UC Expert Meeting in 東京。オンライン。2024年5月。
 9. 大森鉄平: ゼルヤンツの用量調整の実際~減量とその先~。ファイザー潰瘍性大腸炎診療セミナー。オンライン。2024年5月。
 10. 大森鉄平: 炎症性腸疾患診療におけるカプセル内視鏡とバイオマーカー。第2回山梨臨床免疫を語る会。山梨。2024年6月。
 11. 大森鉄平: クロウン病の内科的治療戦略~ゼンタコート的位置付けも含めて~。ゼンタコートWEB講演会。オンライン。2024年6月。
 12. 大森鉄平: カプセル内視鏡から診たクロウン病診療。IBD Next Generation Meeting in Miyagi 2024。仙台。2024年6月。
 13. 大森鉄平: 炎症性腸疾患における病診連携~新規治療薬の使い方も含めて~。越谷消化器疾患カンファレンス。越谷。2024年6月。
 14. Miyoshi J: Intestinal ultrasound for IBD: monitoring and prediction. International Clinical Conference on IBD. Tokyo. June. 2024.
 15. Miyoshi J, Oguri N, Nishinarita Y, Wada H, Nemoto N, Kawamura N, Matsuura M, Osaki T, Hisamatsu T: Akkermansia muciniphila improves liver fibrosis and hyperammonemia in a murine liver cirrhosis model. The 51st Naito Conference. Sapporo. June. 2024.
 16. 久松理一: Outline of Skyrizi UC clinical trial program. Skyrizi Speaker Bureau. 弘前。2024年6月。
 17. 久松理一: 第15回炎症性腸疾患と免疫を語る会。横浜。2024年6月。
 18. 久松理一: 令和5年度潰瘍性大腸炎・クロウン病診断基準・治療指針改定のポイント。名古屋。2024年6月。
 19. 三好潤: 機械学習を用いた潰瘍性大腸炎におけるウステキスマブの治療効果予測。IBD Janssen Medical Seminar。東京。2024年6月。
 20. 松浦稔: 潰瘍性大腸炎の最新治療ー生物学的製剤・JAK阻害薬ー。三鷹市薬剤師会勉強会。オンライン。2024年6月。
 21. 松浦稔: 潰瘍性大腸炎治療におけるTNF阻害薬を再考するー薬剤選択と感染症リスク管理の観点からー。ヤンセンファーマ社内勉強会。オンライン。2024年6月。
 22. 齋藤大祐: 軽症から中等症の潰瘍性大腸炎について。三鷹市薬剤師会勉強会。オンライン。2024年6月。
 23. 齋藤大祐: 潰瘍性大腸炎における分子標的治療薬の選択。第304回松戸市医師会消化器研修会~潰瘍性大腸炎治療のUp To Date~。松戸市。2024年6月。
 24. 松浦稔: Best of 2023. Part 2. 第14回Kitasato Institute Webinars on IBD (KIWI)。オンライン。2024年7月。
 25. 三好潤: IBD腸管超音波検査における評価項目。IUS Primer 2024 Hands-on Training。東京。2024年7月。
 26. 久松理一: 令和5年度潰瘍性大腸炎・クロウン病診断基準・治療指針。Ulcerative Colitis Tokyo Web Seminar 多様化したUC治療について考える。オンライン。2024年7月。
 27. 齋藤大祐: 潰瘍性大腸炎におけるmirikizumabの位置付け。オンボー発売1周年記念講演会。オンライン。2025年7月。
 28. 齋藤大祐: 潰瘍性大腸炎の診断と治療。Meet the expert web seminar。オンライン。2024年7月。
 29. 大森鉄平: カプセル内視鏡を活用したクロウン病の小腸病変モニタリング ~クロウン病初の経口JAK阻害剤リンヴォックの使用経験を踏まえて~。札幌Crohn Diseaseセミナー。札幌。2024年7月。
 30. 大森鉄平: スペシャリストに学ぶシリーズー消化器内科医が押さえておきたい内視鏡関連のtopicsー使いこなそう!小腸カプセル内視鏡。Kyorin WEBサロン。オンライン。2024年7月。
 31. 久松理一: リアルワールドデータとフレキシビリティから考えるベドリズマブの可能性。Ulcerative Colitis 全国Webセミナー。オンライン。2024年8月。
 32. 久松理一: 『令和5年度潰瘍性大腸炎診断基準・治療指針』改定のポイント。消化器病セミナー2024。オンライン。2024年8月。
 33. 三好潤: 潰瘍性大腸炎診療における腸管超音波検査。GIUS Hands-on Seminar in Chiba。千葉市。2024

- 年8月.
34. 久松理一：CDの診断と治療を中心に～早期CD治療の実際～. 武田薬品工業社外講師勉強会. 三鷹市. 2024年8月.
 35. 松浦稔：日本人全例調査結果から考えるゼルヤンツの安全性. 潰瘍性大腸WEBシンポジウム. オンライン. 2024年8月.
 36. 齋藤大祐：地域で取り組む潰瘍性大腸炎の長期治療. 地域で診るIBD診療Webセミナー. オンライン. 2024年8月.
 37. 大森鉄平：外来診療を中心とした潰瘍性大腸炎の現在. 北多摩地区UCカンファレンス. 多摩. 2024年8月.
 38. 大森鉄平：地域で診るクローン病のモニタリング. 地域で診るIBD診療Webセミナー. オンライン. 2024年8月.
 39. 三好潤：機械学習を用いた潰瘍性大腸炎における分子標的治療薬の治療効果予測. 持田製薬株式会社社内講演会. オンライン. 2024年9月.
 40. 久松理一：炎症性腸疾患と栄養管理. 東京都難病医療講演会. オンライン. 2024年9月.
 41. 久松理一：臨床医が基礎・臨床研究をやる意味～自身の体験から～. 東京医科大学大学院特別講義. 東京. 2024年9月.
 42. 三好潤：潰瘍性大腸炎診療におけるモニタリングー腸管超音波検査を含めて～. IBD診療スキルアップセッションin FUKUSHIMA. 郡山市. 2024年9月.
 43. 久松理一：潰瘍性大腸炎診療のトピックス～令和5年度診断基準・治療指針を含めて～. 静岡. 2024年9月.
 44. 松浦稔：潰瘍性大腸炎に対する分子標的治療を整理する. The 7th Kobe IBD Clinical Conference. 神戸. 2024年9月.
 45. 松浦稔：肛門病変を有するCD患者の治療強化基準は何か. T2Tワークショップin東京. 東京. 2024年9月.
 46. 大森鉄平：2/3の潰瘍性大腸炎治療に対する治療 up-to-date カログラの立ち位置を考える. 城北・城西消化器疾患Webセミナー. オンライン. 2024年9月.
 47. 大森鉄平：潰瘍性大腸炎治療におけるリアルワールドエビデンスからみるゼルヤンツの有用性. RA/UC クロストークカンファレンス. オンライン. 2024年9月.
 48. 松浦稔：UC患者さんの最適な治療を考える～ベドリズムのリアルワールドデータを踏まえて～. Vedolizumab-SC 1st anniversary. 東京. 2024年10月.
 49. 齋藤大祐：潰瘍性大腸炎治療における mirikizumab の位置付け. VOICE of the Ulcerative Colitis Patients. オンライン. 2024年10月.
 50. 大野亜希子：夕方トーク～大腸内視鏡について. 挿入から治療までを語り合おう～. e-casebook. オンライン. 2024年10月.
 51. 三好潤：幼少期のマイクロバイオームの発達とIBD. IBD Frontier Meeting 2024. オンライン. 2024年10月.
 52. 久松理一：UC既存治療の最適化. 5-ASA, チオプリン, ステロイド. IBD Forum. 富山. 2024年10月.
 53. 大森鉄平：クローン病のモニタリングと治療介入～効果予測因子の考え方も含めて～. Crohn's Disease 全国Webセミナー. クローン病 ベドリズマブの治療効果予測. オンライン. 2024年10月.
 54. 大森鉄平：リンヴォックの内視鏡関連エビデンスを紐解く. リンヴォック クローン病インターネットライブセミナー. オンライン. 2024年10月.
 55. 大森鉄平：肛門病変を見据えたクローン病の内科治療. クローン病肛門病変の診療について考える. オンライン. 2024年10月.
 56. 久松理一：IBD最新の話～ウパダシチニブを含めて～. Johoku D×R×G Assembly. 東京. 2024年11月.
 57. 久松理一：IBD診療のトピックス～令和5年度治療指針を踏まえて～. Ulcerative Colitis Hybrid Seminar. 厚木. 2024年11月.
 58. 久松理一：安全性からみた潰瘍性大腸炎治療におけるゼルヤンツのエビデンス. ゼルヤンツ潰瘍性大腸炎インターネットシンポジウム. オンライン. 2024年11月.
 59. 三好潤：炎症性腸疾患診療における腸管超音波検査. アップイ合同会社Lecture Meeting. 東京. 2024年11月.
 60. 齋藤大祐：RCTとRWEからみるTofacitinibの有用性. ゼルヤンツ潰瘍性大腸炎Web講演会. オンライン. 2024年11月.
 61. 齋藤大祐：潰瘍性大腸炎における分子標的治療薬の選択. GastroEnterology Forum 2024. オンライン. 2024年11月.
 62. 齋藤大祐：潰瘍性大腸炎の治療戦略. Ulcerative Colitis Tama Web Seminar. オンライン. 2024年11月.
 63. 齋藤大祐：成人IBD診療における現状. IBD Transition Symposium～専門施設と考える移行期医療. 東京. 2024年11月.
 64. 齋藤大祐：潰瘍性大腸炎の治療戦略～基本治療薬からベドリズマブまで～. Ulcerative Colitis Tama Web Seminar. オンライン. 2024年11月.
 65. 大森鉄平：外来診療を中心とした潰瘍性大腸炎の現在. 八王子IBD病診連携研究会. 八王子. 2024年11月.
 66. 大森鉄平：潰瘍性大腸炎治療に対する治療 up-to-date カログラの立ち位置を踏まえて. 潰瘍性大腸炎の治療戦略-カログラ錠の好適症例について. オンライン. 2024年11月.
 67. 川村直弘：知っておいて損はない肝臓病の画像診断. 第5回多職種で考える肝臓病の会. 東京. 2024年11月.
 68. 松浦稔：スペシャルシチュエーションにおけるIBD診療. IBD LeAP 2024. オンライン. 2024年12月.
 69. 松浦稔：炎症性腸疾患の腸管外合併症. 第61回神奈川IBDミニ勉強会. 横浜. 2024年12月.
 70. 大野亜希子：これからの胃癌診療～ボノプラザン最新の話も含めて～. 多摩消化管治療セミナー. 東京. 2024年12月.
 71. 久松理一：分子標的薬とGMAのベストエビデンスの将来～基礎から臨床まで～. 岐阜IBDフォーラム 2024. 岐阜. 2024年12月.
 72. 齋藤大祐：リアルワールドデータから見る潰瘍性大腸炎の治療戦略. Ulcerative Colitis 全国Webセミナー. オンライン. 2024年12月.
 73. 大森鉄平：非難治UC治療におけるカログラ錠の役割～ちょっと待って！そのステロイド今必要？～. UC Internet Live Seminar非難治潰瘍性大腸炎の

- Total managementを再考する-カログラ錠とレクタブル注腸フォーム剤を使いこなすには?- オンライン. 2024年12月.
74. 大森鉄平: CD治療におけるベドリズマブ～最適なタイミングとは～. Crohn's Disease全国Webセミナー実臨床におけるT2Tの実践. オンライン. 2024年12月.
 75. 久松理一: リアルワールドデータから見えてきたエンタビオの可能性～多施設共同研究 UCチャートレビューの結果から～. Ulcerative Colitis 全国Webセミナー. オンライン. 2025年1月.
 76. 三好潤: IBD診療における腸管エコー: 臨床現場での実践を目指して. IBD匠. オンライン. 2025年1月.
 77. 久松理一: 第二部「炎症」UCの診断. 大腸画像アカデミー (CIA). 東京. 2025年1月.
 78. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療の新展開2025-S1P受容体調節剤 ゼボジア登場の臨床的意義 -. ゼボジアWebセミナー. オンライン. 2025年1月.
 79. 松浦稔: Best of 2024. Part 1. 第17回Kitasato Institute Webinars on IBD (KIWI). オンライン. 2025年1月.
 80. 松浦稔: 潰瘍性大腸炎に対する新たな寛解維持療法: スキリージ. スキリージ適応追加記念講演会 UC SUMMIT in TOKYO. 東京. 2025年1月.
 81. 松浦稔: IBDの腸管外合併症. 持田製薬 社内IBD勉強会. オンライン. 2025年1月.
 82. 齋藤大祐: 潰瘍性大腸炎の治療戦略～基本治療薬からベドリズマブまで～. 潰瘍性大腸炎を考える会～北多摩北西部～. 三鷹市. 2025年1月.
 83. 大森鉄平: ゼルヤンツの用量調整の実際ー減量とその先ー. ゼルヤンツ潰瘍性大腸炎インターネットシンポジウム. オンライン. 2025年1月.
 84. 大森鉄平: 日常臨床からCQを考える～カプセル内視鏡検査を通じて学んだこと～. 第56回東京女子医科大学消化器病センター例会記念公演. 東京. 2025年1月.
 85. 三好潤: 潰瘍性大腸炎診療における腸管超音波検査. IBD Net Forum Special Project University & College Conference. オンライン. 2025年2月.
 86. 三好潤: 機械学習を用いた潰瘍性大腸炎における分子標的治療薬の治療効果予測. Ulcerative Colitis全国Webセミナー. オンライン. 2025年2月.
 87. 三好潤: IBDにおける分子標的治療薬の有効性予測法の探求ー機械学習を用いた新規アプローチの試みー. Shiga Next-Gen IBD Seminar. 京都. 2025年2月.
 88. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療におけるゼルヤンツのエビデンス. IBD Meet The Expert. 新潟. 2025年2月.
 89. 大森鉄平: 小腸病変を有するクローン病患者さんのタイトモニタリング. Crohn's Disease全国Webセミナー小腸病変を有するクローン病における治療戦略. オンライン. 2025年2月.
 90. 大森鉄平: 非難治UC治療におけるカログラ錠の最適なポジショニング. NAGANO UC Seminar. 長野. 2025年2月.
 91. 大森鉄平: クローン病診療における抗TNF α 抗体製剤と小腸カプセル内視鏡検査の勘どころ. Kumamoto IBD Conference for the YOUNG "KIC-Y". 熊本. 2025年2月.
 92. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療のベーシック&トピックス. 第44回長崎炎症性腸疾患研究会. 長崎. 2025年3月.
 93. 久松理一: ゼボジアWebセミナー. オンライン. 2025年3月.
 94. 久松理一: 各適応症におけるIL-23製剤のポジショニング～有効性、安全性について～. Immuno-Clinician Bridging Agora 2025. 東京. 2025年3月.
 95. 松浦稔: Best of 2024. Part 2. 第18回Kitasato Institute Webinars on IBD (KIWI). オンライン. 2025年3月.
 96. 大森鉄平: 外来診療を中心とした潰瘍性大腸炎の現在. UC Web Seminar. オンライン. 2025年3月.
- 社会活動・公開講座等**
1. 大森鉄平: ミヤリサン製薬プレゼンツ 腸から始まる健康ライフ. TBSラジオ. オンライン. 2024年8月.
 2. 大野亜希子: タ方トーク ～大腸内視鏡について、挿入から治療までを語り合おう～. e-casebook. Web講演会. 2024年10月.
 3. 三好潤: 腸内細菌叢: 「隠れた臓器」の不思議に迫る. 第53回杏林医学会市民公開講座. 三鷹市. 2024年11月.
 4. 川村直弘: B型肝炎について～de novo 肝炎を回避するために～. 令和6年度杏林大学医学部付属病院医療安全推進週間講習会. 三鷹市. 2024年11月.
 5. 松浦稔: 炎症性腸疾患の腸管外合併症について. 2024年度日本炎症性腸疾患市民公開講座. オンライン. 2024年12月.
 6. 大野亜希子: 消化管がんを乗り越えて長生きしよう!. 第1回日本消化管学会関東支部市民公開講座. 東京. 2024年12月.
- 論文**
- 英文原著・総説(original article, review)
1. Naganuma M, Nakamura N, Kunisaki R, Matsuoka K, Yamamoto S, Kawamoto A, Saito D, Kobayashi T, Nanki K, Narimatsu K, Shiga H, Esaki M, Yoshioka S, Kato S, Saruta M, Tanaka S, Yasutomi E, Yokoyama K, Moriya K, Tsuzuki Y, Ooi M, Fujiya M, Nakazawa A, Takagi T, Omori T, Tahara T, Hisamatsu T: Japanese UC Study Group. Medical treatment selection and outcomes for hospitalized patients with severe ulcerative colitis as defined by the Japanese criteria. *J Gastroenterol.* 2024;59(4):302-314. doi: 10.1007/s00535-024-02079-x.
 2. Horanai C, Hashimoto H, Hisamatsu T, Ikeuchi H, Watanabe K, Nanjo S, Nezu R, Itabashi M, Hokari R, Higashi D, Matsuura M, Ogino T, Takahashi K, Andoh A, Shinozaki M, Sugita A: Association Between Sense of Coherence, Disease-Specific Symptoms, and Health-Related Quality of Life Among Japanese Patients with Ulcerative Colitis: A Cross-Sectional Study. *Digestion.* 2024;105(4):257-265. doi: 10.1159/000538618.
 3. Kimura Y, Miyoshi J, Morikubo H, Komatsu H, Moue C, Yonezawa H, Matsuura M, Hisamatsu T: Early sonographic improvement predicts clinical remission and mucosal healing with molecular-targeted drugs in ulcerative colitis. *Gastro Hep Advances* 2024 23;3(6):703-710. doi: 10.1016/j.gastha.2024.04.007.
 4. Nemoto N, Inami T, Onozawa S, Kohno T, Nagahama K, Soejima K, Hisamatsu T: A case report of limitation of transcatheter hepatic

- arterial embolization for hereditary hemorrhagic telangiectasia type 2 with pulmonary arterial hypertension. *Int J Surg Case Rep.* 2024;119:109634. doi: 10.1016/j.ijscr.2024.109634.
5. Afif W, Arasaradnam RP, Abreu MT, Danese S, Sandborn WJ, Miao Y, Zhang H, Panaccione R, Hisamatsu T, Scherl EJ, Leong RW, Rowbotham DS, Peyrin-Biroulet L, Sands BE, Marano C: Efficacy and Safety of Ustekinumab for Ulcerative Colitis Through 4 Years: Final Results of the UNIFI Long-Term Maintenance Study. *Am J Gastroenterol.* 2024 ;119(5):910-921. doi: 10.14309/ajg.0000000000002621.
 6. Shibayama T, Hayashi A, Toki M, Kitahama K, Ho YJ, Kato K, Yamada T, Kawamoto S, Kambayashi K, Ochiai K, Gondo K, Okano N, Melchor JP, Iacobuzio-Donahue CA, Sakamoto Y, Hisamatsu T, Shibahara J: Combination immunohistochemistry for CK5/6, p63, GATA6, and HNF4a predicts clinical outcome in treatment-naïve pancreatic ductal adenocarcinoma. *Sci Rep.* 2024;14(1):15598. doi: 10.1038/s41598-024-65900-w.
 7. Ohno A, Miyamoto N, Kaji R, Shirakawa T, Watanabe M, Sumi R, Jinbo Y, Kusuhara M, Miyoshi J, Hisamatsu T: The influence of color vision deficiency on vessel visibility during colorectal endoscopic submucosal dissection and the potential advantage of red dichromatic imaging to achieve color vision barrier-free. *DEN Open.* 2024;5(1):e410. doi: 10.1002/deo2.410.
 8. Louis E, Schreiber S, Panaccione R, Bossuyt P, Biedermann L, Colombel JF, Parkes G, Peyrin-Biroulet L, D'Haens G, Hisamatsu T, Siegmund B, Wu K, Boland BS, Melmed GY, Armuzzi A, Levine P, Kalabic J, Chen S, Cheng L, Shu L, Duan WR, Pivorunas V, Sanchez Gonzalez Y, D'Cunha R, Neimark E, Wallace K, Atreya R, Ferrante M, Loftus EV Jr; INSPIRE and COMMAND Study Group: Risankizumab for Ulcerative Colitis: Two Randomized Clinical Trials. *JAMA.* 2024;332(11):881-897. doi: 10.1001/jama.2024.12414.
 9. Oguri N, Miyoshi J, Nishinarita Y, Wada H, Nemoto N, Hibi N, Kawamura N, Miyoshi S, Lee STM, Matsuura M, Osaki T, Hisamatsu T: Akkermansia muciniphila in the small intestine improves liver fibrosis in a murine liver cirrhosis model. *NPJ Biofilms Microbiomes.* 2024;10(1):81. doi: 10.1038/s41522-024-00564-y.
 10. Takeuchi K, Hisamatsu T, Nakase H, Matsuoka K, Keating M, Yuasa H, Oe M, Arai S, Mazur R, Hibi T: Efficacy and safety of etrasimod in patients with ulcerative colitis in Japan: data from the phase 3 ELEVATE UC 12 and ELEVATE UC 40 JAPAN trials. *Digestion.* 2024;1-9. doi: 10.1159/000541383.
 11. Sands BE, D'Haens G, Clemow DB, Irving PM, Johns JT, Gibble TH, Abreu MT, Lee SD, Hisamatsu T, Kobayashi T, Dubinsky MC, Vermeire S, Siegel CA, Peyrin-Biroulet L, Moses RE, Milata J, Panaccione R, Dignass A: Three-Year Efficacy and Safety of Mirikizumab Following 152 Weeks of Continuous Treatment for Ulcerative Colitis: Results From the LUCENT-3 Open-Label Extension Study. *Inflamm Bowel Dis.* 2024:izae253. doi: 10.1093/ibd/izae253.
 12. Schreiber S, Feagan BG, Louis E, Hisamatsu T, Hibi T, Dron L, Jamoul C, Patel H, Harris K, Taliadouros V, Oortwijn A, Peyrin-Biroulet L: Distinct trajectories of symptomatic response in ulcerative colitis during filgotinib therapy: A post hoc analysis from the SELECTION study. *United European Gastroenterol J.* 2024;12(9):1243-1255. doi: 10.1002/ueg2.12686.
 13. Atreya R, Ferrante M, Panaccione R, Feagan B, Shchukina O, Jairath V, Rieder F, Hisamatsu T, Siegmund B, Kligys K, Song A, Zambrano J, Mallick M, Zhang Y, Armuzzi A, D'Haens G: Risankizumab Is Associated With Normalization of Biomarkers in Patients With Crohn's Disease: Results From the Phase 3 ADVANCE, MOTIVATE, and FORTIFY Studies. *J Crohns Colitis.* 2024;jjae164. doi: 10.1093/ecco-jcc/jjae164.
 14. Hibi T, Hirohata S, Hisamatsu T, Kikuchi H, Takeno M, Sato N, Mizuno N, Tashiro M, Susuta Y, Ishigatsubo Y: Real-World Safety and Effectiveness of Infliximab in 255 Patients with Intestinal, Neurological, and Vascular Behçet's Disease: A Post-Marketing Surveillance. *Adv Ther.* 2024;41(12):4476-4497. doi: 10.1007/s12325-024-02993-9.
 15. Nakase H, Wagatsuma K, Kobayashi T, Matsumoto T, Esaki M, Watanabe K, Kunisaki R, Takeda T, Arai K, Ibuka T, Ishikawa D, Matsuno Y, Sakuraba H, Ueno N, Yokoyama K, Saruta M, Hokari R, Yokoyama J, Tamano S, Nojima M, Hisamatsu T: MEFV-IBDU Group. Involvement of Mediterranean fever gene mutations in colchicine-responsive enterocolitis: a retrospective cohort study. *EBioMedicine.* 2024;110:105454. doi: 10.1016/j.ebiom.2024.105454.
 16. Ferrante M, D'Haens G, Jairath V, Danese S, Chen M, Ghosh S, Hisamatsu T, Kierkus J, Siegmund B, Bragg SM, Crandall W, Durand F, Hon E, Lin Z, Lopes MU, Morris N, Protic M, Carlier H, Sands BE: VIVID Study Group. Efficacy and safety of mirikizumab in patients with moderately-to-severely active Crohn's disease: a phase 3, multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled and active-controlled, treat-through study. *Lancet.* 2024;404(10470):2423-2436. doi: 10.1016/S0140-6736(24)01762-8.
 17. Takenaka K, Hisamatsu T, Kobayashi T, Yamamoto H, Ohmiya N, Hayashi R, Matsuoka K, Saruta M, Andoh A, Fukata N, Watanabe K, Imaeda H, Hirai F, Matsumoto T, Hirakawa A, Yano T, Matsuura M, Okamoto R, Ohtsuka K, Watanabe M: Inadequate Efficacy of Biologics for Treating Proximal Ileal Lesions in Crohn's Disease; a prospective multicenter study. *Clin Gastroenterol Hepatol.* 2024:S1542-3565(24)01084-X. doi: 10.1016/j.cgh.2024.10.030.
 18. Naganuma M, Takeno M, Çelik AF, Moots R, Pinton P, Hisamatsu T: Assessment of IL-6 Pathway Inhibition in Gastrointestinal Behçet's Disease from Immunological and Clinical

- Perspectives. *Biomedicines*. 2025;13(1):247. doi: 10.3390/biomedicines13010247.
19. Okabe M, Yamamoto S, Shiokawa M, Hisamatsu T, Yamazaki H, Nakanishi R, Hamada K, Kitamoto H, Kuwada T, Uza N, Sakatani A, Fujii T, Ohno M, Matsuura M, Shibuya T, Ohmiya N, Ooi M, Hoshi N, Moriya K, Tsuchiya K, Yamaguchi Y, Kunisaki R, Takahara M, Takagi T, Takehara T, Hirai F, Kakimoto K, Esaki M, Nakase H, Kinjo F, Torisu T, Kanmura S, Narimatsu K, Matsuoka K, Hiraga H, Yokoyama K, Honzawa Y, Naganuma M, Saruta M, Kodama Y, Chiba T, Seno H: Anti-integrin α v β 6 antibody as a biomarker for diagnosing ulcerative colitis: a nationwide multicenter validation study. *J Gastroenterol*. 2025;60(1):86-95. doi: 10.1007/s00535-024-02176-x.
 20. Rubin DT, Allegretti JR, Panés J, Shipitofsky N, Yarandi SS, Huang KG, Germinaro M, Wilson R, Zhang H, Johans J, Feagan BG, Hisamatsu T, Lichtenstein GR, Bressler B, Peyrin-Biroulet L, Sands BE, Dignass A: QUASAR Study Group. Guselkumab in patients with moderately to severely active ulcerative colitis (QUASAR): phase 3 double-blind, randomised, placebo-controlled induction and maintenance studies. *Lancet*. 2025;405(10472):33-49. doi: 10.1016/S0140-6736(24)01927-5.
 21. Kobayashi T, Hisamatsu T, Motoya S, Fujii T, Kunisaki R, Shibuya T, Matsuura M, Takeuchi K, Hiraoka S, Yasuda H, Yokoyama K, Takatsu N, Maemoto A, Tahara T, Tominaga K, Shimada M, Kuno N, Fernandez JL, Ishiguro K, Cavaliere M, Deguchi H, Hibi T: Factors affecting 1-year persistence with vedolizumab for ulcerative colitis: a multicenter, retrospective real-world study. *Intest Res*. 2025. doi: 10.5217/ir.2024.00063.
 22. Komatsu H, Morikubo H, Kimura Y, Moue C, Yonezawa H, Matsuura M, Miyoshi J, Hisamatsu T: Determination of optimal cutoff value of ulcerative colitis intestinal ultrasound index to estimate endoscopic improvement in ulcerative colitis. *J Gastroenterol*. 2025;60(2):166-173. doi: 10.1007/s00535-024-02172-1.
 23. Miyoshi J, Hisamatsu T: Effect of maternal exposure to antibiotics during pregnancy on the neonatal intestinal microbiome and health. *Clin J Gastroenterol*. 2025;18(1):1-10. doi: 10.1007/s12328-024-02088-6.
 24. Panaccione R, Ferrante M, Dotan I, Panés J, Hisamatsu T, Bossuyt P, Danese S, Song A, Kalabic J, Joshi N, Zambrano J, Zhang Y, Duan WR, Kligys K, Dubinsky MC, Lindsay JO, Vermeire S, Siegmund B, Irving PM, D'Haens G: Extended Risankizumab Treatment in Patients With Crohn's Disease Who Did Not Achieve Clinical Response to Induction Treatment. *Clin Gastroenterol Hepatol*. 2025;S1542-3565(25)00082-5. doi: 10.1016/j.cgh.2024.12.023.
 25. Miyoshi J, Yoon A, Matsuura M, Hisamatsu T. Real-world use of biologics during the first year of treatment for newly diagnosed Crohn's disease in Japan: a claims analysis from 2010 to 2021. *Intest Res*. 2025 Jan 23. doi: 10.5217/ir.2024.00082.
 26. Tsuzuki Y, Shiotani A, Miyaguchi K, Ono S, Saito Y, Sugimoto M, Naito Y, Nomura S, Handa O, Hisamatsu T, Fujishiro M, Matsuda T, Morita Y, Yahagi N, Chan FKL, Ang TL, Abdullah M, Tablante MC, Prachayakul V, Li B, Jung HY, Matsumoto H, Shiomi R, Imaeda H: Questionnaire Survey on the Diagnosis and Treatments of Eosinophilic Gastrointestinal Diseases (EGID) in Asia. *Digestion*. 2025;1-14. doi: 10.1159/000544725.
 27. Hibi T, Kobayashi T, Tanaka M, Osaga S, Potts Bleakman AJ, Hunter Gibble T, Nedeljkovic Protic M, Redondo I, Matsuo K, Hisamatsu T: Patient and Health Care Professional Perspectives on the Burden and Daily Life Impact of Ulcerative Colitis and Crohn's Disease: Results from the Japanese CONFIDE Study. *Adv Ther*. 2025. doi: 10.1007/s12325-024-03078-3.
 28. Hisamatsu T, Naganuma M, Pinton P, Takeno M: Behçet's disease: incidence, prevalence, and real-world data on the use of biologic agents in Japan. *J Gastroenterol*. 2025 ;60(3):294-305. doi: 10.1007/s00535-024-02191-y.
 29. Matsumoto T, Hisamatsu T, Esaki M, Omori T, Sakuraba H, Shinzaki S, Sugimoto K, Takenaka K, Naganuma M, Bamba S, Hisabe T, Hiraoka S, Fujiya M, Matsuura M, Yanai S, Watanabe K, Ogata H, Andoh A, Nakase H, Ohtsuka K, Hirai F, Fujishiro M, Igarashi Y, Tanaka S: Guidelines for endoscopic diagnosis and treatment of inflammatory bowel diseases. *Dig Endosc*. 2025. doi: 10.1111/den.15002.
 30. Ogino Y, Sadashima K, Yoshida Y, Takedomi H, Tsuruoka N, Sakata Y, Takamori A, Hisamatsu T, Matsumoto T, Esaki M: Development of a capsule endoscopy scoring system for the early diagnosis of small bowel Crohn's disease. *J Gastroenterol*. 2025. doi: 10.1007/s00535-025-02235-x.
 31. Hart A, Panaccione R, Steinwurz F, Danese S, Hisamatsu T, Cao Q, Ritter T, Seidler U, Olurinde M, Vetter ML, Yee J, Yang Z, Wang Y, Johans J, Han C, Sahoo A, Terry NA, Sands BE, D'Haens G. Efficacy and Safety of Guselkumab Subcutaneous Induction and Maintenance in Participants with Moderately to Severely Active Crohn's Disease: Results from the Phase 3 GRAVITY Study. *Gastroenterology*. 2025;S0016-5085(25)00522-0. doi: 10.1053/j.gastro.2025.02.033.
- 邦文総説（学会誌等）
1. 久松理一：第112回日本内科学会講演会パネルディスカッション《免疫疾患の病態解明と治療フロンティア》炎症性腸疾患の病態解明と分子標的治療のUp To Date. *日本内科学会雑誌*. 113(9). 1672-1676. 2024.
 2. 久松理一：特集：炎症性腸疾患（IBD）診療の現況 IBDの疾患概念と病態. *日本内科学会雑誌*. 114(1). 10-15. 2025.
- 邦文総説（商業誌）
1. 久松理一：腸管Behçet病・単純性潰瘍特集：感染症を鑑別した後は？非感染性腸炎を見極める！. 診断と治療. 112(3). 329-332. 2024.
 2. 久松理一，三好潤，三上洋平，林玲匡：これからの

消化器病学研究に必要な新しい研究テクニック! 消化器病学サイエンス. 8(2). 61-69. 2024.

- 久松理一：多角化するIBD診療の最適化に向けて炎症性腸疾患-分子標的治療開発につながった基礎研究を知る-。Medical Science Digest. 50. 19-23. 2024.
- 久松理一：《総説》炎症性腸疾患の病態・診療の最前線炎症性腸疾患診療の概況と診断・治療指針の改訂-新たな診断法・治療薬の位置づけ-特集テーマ「炎症性腸疾患-躍進の時代を迎えた炎症性腸疾患診療-」。Medical Practice. 41(11). 1634-1643. 2024.
- 松浦稔：炎症性腸疾患診療を支える病態の理解と診断法のポイント 腸管外合併症の診断と治療。Medical Practice. 41 (11) . 1690-1695. 2024.
- 松浦稔, 齋藤大祐, 大森鉄平, 久松理一：炎症性腸疾患の診断 1) 炎症性腸疾患の診断基準と鑑別診断。胃と腸. 59 (10) . 1356-1365. 2024.
- 大森鉄平：炎腸疾患の画像所見 炎症性腸疾患におけるカプセル内視鏡。胃と腸. 59(10). 1356-1365. 2024.
- 大森鉄平：IBD注目のKey論文144 新たに診断されたクローン病患者に対するトップダウン治療戦略と加速ステップアップ治療戦略のバイオマーカー層別比較(PROFILE):多施設共同非盲検ランダム化対象試験。IBD Research. 18 (4) . 325. 2024.
- 大森鉄平：小腸疾患に対する最新の内視鏡臨床 7. カプセル内視鏡を用いたクローン病モニタリング。臨床消化器内科. 39 (12) . 1519-1527. 2024.
- 松浦稔：【十二指腸・小腸アトラス】Crohn病の十二指腸病変。消化器内視鏡. 36(4). 590-591. 2024.
- 土岐真朗, 砂村眞琴, 阿部展次, 杉本昌弘, 久松理一：《Topics》膵癌の早期発見におけるメタボロームの可能性。消化器内視鏡. 36(5). 788-789. 2024.
- 大森鉄平：【消化管粘膜下腫瘍のすべて】空腸/回腸バルーン内視鏡とカプセル内視鏡を中心とした空腸・回腸粘膜下腫瘍の診断。消化器内視鏡. 36(7) . 1046-1054. 2024.
- 久松理一, 渡辺守, 山本千詠, 里井洋一, 田中大, Morris N, Protic M, Escobar R, 日比紀文：クローン病患者でのミリキズマブの有効性・安全性：第3相試験 (VIVID-1試験) 全体集団および日本人集団の主要結果。新薬と臨床. 74 (3) . 221-246. 2025.
- 三好潤, 森久保拓, 小松悠香, 久松理一：腸管超音波検査によるモニタリングを極める!。IBD Research. 19(1). 17-22. 2025.

著書

- 久松理一(共著)：I疾患編 3.消化器疾患 潰瘍性大腸炎。今日の診断指針第9版。永井良三, 松本主之編。医学書院。2025. 676-678.
- 谷村和哉, 室繁郎, 林田真理, 久松理一(共著)：臨床検査ガイド2025年改訂版。Medical Practice 編集委員会(矢崎義雄, 小池和彦, 小室一成, 須永眞司, 山内敏正)大西宏明 編。文光堂。2024. 628-631.
- 久松理一(共著)：B.糞便検査便カルプロテクチン。臨床検査ガイド2025年改訂版。Medical Practice 編集委員会(矢崎義雄, 小池和彦, 小室一成, 須永眞司, 山内敏正)大西宏明 編。文光堂。2024. 1018-1021.
- 久松理一(共編著)：第1章炎症性腸疾患における腸管エコー炎症性腸疾患診療において腸管エコーが

注目される理由。杏林大学ICIBD直伝!IBD腸管エコーマニュアル。三好潤 共編。南江堂。2024. 1-4.

- 三好潤(共編著)：第3章・炎症性腸疾患の評価。杏林大学ICIBD直伝!IBD腸管エコーマニュアル。久松理一 共編。南江堂。2024. 40-70, 76-81.
- 久松理一(共著)：Aスクリーニングに用いる検査便潜血・便カルプロテクチン「検体検査のポイントとビットフォール診察室にこの1冊」。診断と治療113巻増刊号。診断と治療社。2025. 172-174.
- 久松理一(共著)：「腸管ペーチェット病/単純性潰瘍」。私の治療第5版。日本医事新報社。2025.
- 久松理一(共著)：腸疾患治療薬治療薬ハンドブック2025。堀正二, 菅野健太郎, 門脇孝, 乾賢一, 林昌洋, 株式会社じほう。2025. 512-534.

その他

ハンズオンセミナー

- 土岐真朗：ERCPハンズオンセミナー6(カニューレション, 内視鏡的乳頭括約筋切開術)。第107回日本消化器内視鏡学会総会。東京。2024年6月。
- 大野亜希子：JETS胃ESD/大腸挿入法と大腸EMRハンズオンセミナー。東京。2024年7月。
- 三好潤：第2回杏林ICIBD腸管エコーハンズオンセミナー。東京。2024年9月。
- 森久保拓：第2回杏林ICIBD腸管エコーハンズオンセミナー。東京。2024年9月。
- 大野亜希子：大腸ESDトレーニングプログラムin千葉。千葉。2025年1月。
- 三好潤：第3回杏林ICIBD腸管エコーハンズオンセミナー。東京。2025年1月。
- 森久保拓：第3回杏林ICIBD腸管エコーハンズオンセミナー。東京。2025年1月。
- 大野亜希子：第12回大腸ESDトレーニングプログラム。東京。2025年2月。

特許

- 土岐真朗, 品川裕希, 嶋田真也：発明の名称 チューブステント。特許第7534734号。2024年8月。

糖尿病・内分泌・代謝内科学教室

講演

- 佐々木美緒, 竹脇史絵, 恩田智子, 久場起志, 七条裕孝, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 島田智子, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一, 安田和基：妊娠早期に診断された妊娠糖尿病(GDM)の特徴と妊娠分娩転帰についての検討。第67回日本糖尿病学会年次学術集会。東京。2024年5月。
- 澤井梓, 高橋和人, 北原敦子, 石本麻衣, 近藤健, 近藤琢磨, 安田和基：脂肪細胞におけるTNF α 関連性のインスリン抵抗性と炎症誘導およびオートファジー調節機構に関する検討。第67回日本糖尿病学会年次学術集会。東京。2024年5月。
- 脇裕典, 清水辰徳, 平池勇雄, 斎藤楓, 大口弥里, 青山倫久, 堤修一, 安田和基, 戸邊一之, 成田伸太郎, 羽瀧友則, 山内敏正：褐色・ベージュ・白色脂肪細胞の新展開 脂肪細胞NFIAによるエネルギー代謝制御とエピゲノムの役割。第67回日本糖尿病学会年次学術集会。東京。2024年5月。
- 橋恵, 今川彰久, 阿比留教生, 栗田卓也, 三浦順之助, 及川洋一, 島田朗, 大澤春彦, 梶尾裕, 川崎英

- 二, 小澤純二, 高橋和眞, 中條大輔, 能宗伸輔, 福井智康, 安田和基, 安田尚史: 1型糖尿病の根治へ向けて: from basic mechanisms to translational medicine 抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後に発症する1型糖尿病に関する疫学調査(第4報). 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京. 2024年5月.
5. 戎野朋子, 橘恵, 今川彰久, 金網規夫, 寺前純吾, 阿比留教生, 栗田卓也, 池上博司, 及川洋一, 大澤春彦, 香月健志, 川崎英二, 小澤純二, 小林哲郎, 島田朗, 高橋和眞, 中條大輔, 土屋恭一郎, 長澤幹, 福井智康, 安田和基, 安田尚史, 梶尾裕, 花房俊昭: 日本人急性発症1型糖尿病患者における甲状腺関連自己抗体と発症後の内因性インスリン分泌能TIDE-J研究. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京. 2024年5月.
 6. 杉山雄大, 山岡巧弥, 今井健二郎, 井花庸子, 大杉満, 池上博司, 梶尾裕, 中島直樹, 南昌江, 安田和基, 松久宗英, 山内敏正, 植木浩二郎, 田嶋尚子, 島田朗: 匿名医療保険等関連情報データベース(NDB)を用いた本邦における1型糖尿病患者数と属性分布の検討. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京. 2024年5月.
 7. 宇田川陽秀, 舟橋伸昭, 平本正樹, 上番増喬, 川口美穂, 朝日理久, 中島滋, 南茂隆生, 西村渉, 安田和基: グルココルチコイド受容体を介したNECAB1の発現増強はインスリン分泌を抑制する. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京. 2024年5月.
 8. 中島泰, 武内寛子, 山本直之, 近藤琢磨: 西東京地域における介護職を対象とした糖尿病ネットワークの構築に向けて(第1報) 国分寺市での取り組み. 東京. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京. 2024年5月.
 9. 大澤美香, 山本直之, 小池真由美, 天川淑宏, 近藤琢磨: 西東京地域における介護職を対象とした糖尿病ネットワークの構築に向けて(第2報) 八王子市での取り組み. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京. 2024年5月.
 10. 町田景子, 宮内諒, 深澤敦, 大槻忠司, 細江学, 満山華子, 鈴木一字, 谷口由紀子, 福島琴美, 熊倉淳, 近藤琢磨: 西東京地域における介護職を対象とした糖尿病ネットワークの構築に向けて(第2報) 東村山市での取り組み. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京. 2024年5月.
 11. 新井信晃, 中里陽子, 鳥羽麻友子, 石本麻衣, 田中利明, 磯村杏耶, 林玲匡, 藤原正親, 三ツ間智也, 平野浩一: AFTNとPHPTの希少な合併症例に対し甲状腺左葉切除と副甲状腺摘出術を施行した1例. 第36回日本内分泌外科学会総会. 福岡. 2024年5月.
 12. 中里陽子, 新井信晃, 鳥羽麻友子, 三ツ間智也, 石本麻衣, 田中利明, 磯村杏耶, 藤原正親, 平野浩一: 当科で経験した甲状腺疾患による気道狭窄症例の検討. 第36回日本内分泌外科学会総会. 福岡. 2024年5月.
 13. 宇田川陽秀, 舟橋伸昭, 平本正樹, 上番増喬, 川口美穂, 朝日理久, 中島滋, 南茂隆生, 西村渉, 安田和基: グルココルチコイドによるNECAB1の発現調節はインスリンの分泌を負に調節する. 第78回日本栄養・食糧学会大会. 福岡. 2024年5月.
 14. 白井美希, 竹脇史絵, 野田香奈子, 野村慶三, 山崎幸, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 安田和基: 随時採血で診断困難であった続発性副腎皮質機能低下症の1例. 第97回日本内分泌学会学術総会. 横浜. 2024年6月.
 15. 恩田智子, 竹脇史絵, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 伊藤紗智子, 安田和基: 経口セマグルチドの服薬理解に対するアンケート調査. 第97回日本内分泌学会学術総会. 横浜. 2024年6月.
 16. 田中利明, 板垣英二, 近藤健, 石本麻衣, 高橋和人, 炭谷由計, 近藤琢磨, 安田和基: 両側肺転移を来した悪性腫瘍性骨軟化症に対するプロスタブ治療の効果. 第97回日本内分泌学会学術総会. 横浜. 2024年6月.
 17. 安田和基: 糖尿病に関する遺伝子解析の最新の話題. 第30回日本糖尿病眼学会. 東京. 2024年6月.
 18. 安田和基: 2型糖尿病の薬物療法～新旧のくすりを概観する～. 住友ファーマWebセミナーオンライン. 2025年7月.
 19. 近藤琢磨: 糖尿病治療の過去・現在・未来～一医師から臨床検査技師への期待～. 第8回西東京臨床検査研修会 2024年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群). オンライン. 2024年7月.
 20. 近藤琢磨: 糖尿病に潜むスティグマの問題. 西東京CDEの会 第22回例会. オンライン. 2024年8月.
 21. 宮野祐輔, 竹脇史絵, 小和田敬子, 島矢沙規子, 藤井隆史郎, 近藤健, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 石川周成, 皿谷健, 石井晴之, 谷口浩和, 藤原正親, 安田和基: 下垂体腫瘍を認めCushing病との鑑別に難渋した肺小細胞癌による異所性ACTH症候群の1例. 第50回日本神経内分泌学会学術集会. さいたま. 2024年10月.
 22. 玉城航平, 竹脇史絵, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 安田和基: PPGL既往歴と家族歴を有する糖負荷反応性インスリンノーマの一例. 第34回臨床内分泌代謝Update. 名古屋. 2024年11月.
 23. 近藤健: 糖尿病の診療 update. 第8回医療連携フォーラム. 三鷹. 2024年11月.
 24. 安田和基: 多因子疾患. 第8回臨床遺伝研修会. 三鷹. 2025年1月.
 25. 安田和基: 2型糖尿病の遺伝素因:現状と展望. 第62回日本糖尿病学会関東甲信越地方会. 宇都宮. 2025年2月.
 26. 増山七海, 竹脇史絵, 竹内壽紀, 和田祥佳, 佐々木美緒, 高木祐司, 近藤健, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 安田和基: 遷延性低血糖を合併した維持血液透析中の2型糖尿病の一例. 第62回日本糖尿病学会関東甲信越地方会. 宇都宮. 2025年2月.
 27. 金光潤貴, 竹脇史絵, 高木裕司, 七条裕孝, 近藤健, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 安田和基: 自殺企図でインスリンを過量投与した発達障害・知的障害を有する若年1型糖尿病の一例. 第62回日本糖尿病学会関東甲信越地方会. 宇都宮. 2025年2月.
 28. 竹内壽紀, 竹脇史絵, 増山七海, 和田祥佳, 佐々木美緒, 高木祐司, 近藤健, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 安田和基: 高浸透圧高血糖状態と敗血症性ショックを呈した高齢者2型糖尿病の一例. 第62回日本糖尿病学会関東甲信越地方会. 宇都宮. 2025年2月.
 29. 小野大輝, 東海俊史, 西原澄芳, 松本将吾, 阿部善彦, 荒井悌子, 池田和穂, 三橋順子, 村嶋俊隆, 田中利明, 安田和基: GLP-1受容体作動薬により血糖が改善した, インスリン抗体陽性の2型糖尿病患者. 第62回日本糖尿病学会関東甲信越地方会. 宇都宮. 2025年2月.
 30. 龍加那子, 月山秀一, 酒井健輔, 常見真吾, 窪田珠理, 三原祥平, 林南帆, 木内善太郎, 曾根正勝, 方波見卓行: セマグルチドが有用と考えられる

Alstrom症候群(AS)の1例. 第62回日本糖尿病学会
関東甲信越地方会. 宇都宮. 2025年2月.

31. 玉城航平, 高木祐司, 竹脇史絵, 安倍恵太, 和田祥佳, 佐々木美緒, 近藤健, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 安田和基: バセドウ病と急性発症1型糖尿病を同時期に診断しえた1例. 第40回甲状腺病態生理研究会. 東京. 2025年2月.
32. 石本麻衣: 健康長寿をめざして 糖尿病の予防や管理と生活習慣. 日本成人病(生活習慣病)学会学術集会. オンライン. 2025年1月-2月.
33. 安田和基: 免疫チェックポイント阻害剤と1型糖尿病. 西東京CDEの会 第23回症例検討会. オンライン. 2025年2月.

論文

1. Shimada A¹, Kawasaki E², Abiru N³, Awata T⁴, Oikawa Y¹, Osawa H⁵, Kajio H⁶, Kozawa J⁷, Takahashi K⁸, Chujo D⁹, Noso S¹⁰, Fukui T¹¹, Miura J¹², Yasuda K, Yasuda H¹³, Imagawa A¹⁴, Ikegami H¹⁰(¹Saitama Medical University, ²Shin-Koga Hospital, ³Midori Clinic, ⁴National Center for Global Health and Medicine, ⁵Ehime University Graduate School of Medicine, ⁶National Center for Global Health and Medicine Hospital, ⁷Osaka University Graduate School of Medicine, ⁸Iwate Prefectural University, Takizawa, ⁹Toyama University Hospital, ¹⁰Kindai University Faculty of Medicine, ¹¹Showa University, ¹²Tokyo Women's Medical University School of Medicine, ¹³Kobe University Graduate School of Health Sciences, ¹⁴Osaka Medical and Pharmaceutical University): Practice guideline: Statement regarding treatment for suspected slowly progressive type 1 diabetes (SPIDDM; probable) cases (English Version). *Diabetol Int.* 2024;16(1):1-6. doi: 10.1007/s13340-024-00753-2.
2. Takewaki F¹, Hosaka T², Ishitobi M¹, Kinjo M³, Ishida H⁴, Yasuda K¹ (¹Department of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Kyorin University School of Medicine, ²University of Shizuoka, ³Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, ⁴Nagahama City Hospital): Characteristics of storage and voiding symptoms in adult patients with type 2 diabetes with lower urinary tract symptoms. *J Med Invest.* 2024;71(3.4):237-245. doi: 10.2152/jmi.71.237.
3. Nammo T^{1 2}, Funahashi N^{1 3}, Udagawa H^{1 4}, Kozawa J², Nakano K¹, Shimizu Y¹, Okamura T¹, Kawaguchi M¹, Uebanso T^{1 5}, Nishimura W^{1 6 7}, Hiramoto M^{3 8}, Shimomura¹, Yasuda K (¹National Center for Global Health and Medicine, ²Osaka University Graduate School of Medicine, ³Tokyo Institute of Technology, ⁴Bunkyo University, ⁵Tokushima University Graduate School, ⁶International University of Health and Welfare School of Medicine, ⁷Jichi Medical University, ⁸Tokyo Medical University) : Single-housing-induced islet epigenomic changes are related to polymorphisms in diabetic KK mice. *Life Sci Alliance.* 2024;7(8):e202302099. doi: 10.26508/lsa.202302099.
4. Fukuda H^{1 2}, Arai K^{1 3}, Mizuno H⁴, Nishito Y⁴, Motoi N⁵, Arai Y¹, Hiraoka N¹, Shibata T¹, Sonobe Y⁴, Kayukawa Y⁴, Hashimoto E⁴, Takahashi M⁴, Fujii E⁴, Maruyama T⁴, Kuwabara K⁴, Nishizawa T⁴, Mizoguchi Y¹, Yoshida Y⁵, Watanabe SI⁵,

Yamashita M⁶, Kitano S⁶, Sakamoto H¹, Nagata Y^{7 9}, Mitsumori R⁷, Ozaki K⁷, Niida S⁷, Kanai Y⁹, Hirayama A⁹, Soga T⁹, Tsukada K⁴, Yabuki N⁴, Shimada M⁴, Kitazawa T⁴, Natori O⁴, Sawada N⁴, Kato A⁴, Yoshida T¹⁰, Yasuda K, Ochiai A¹¹, Tsunoda H⁴, Aoki K¹(¹National Cancer Center Research Institute, ²Tokyo Women's Medical University, ³Tokyo Medical and Dental University, ⁴Chugai Pharmaceutical Co. Ltd, ⁵National Cancer Center Hospital, ⁶Cancer Research Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, ⁷National Center for Geriatrics and Gerontology, ⁸Tokyo Medical and Dental University, ⁹Keio University, ¹⁰National Center for Global Health and Medicine, ¹¹National Cancer Center): Molecular subtypes of lung adenocarcinoma present distinct immune tumor microenvironments. *Cancer Sci.* 2024;115(6):1763-1777. doi: 10.1111/cas.16154.

5. Kawasaki E¹, Awata T², Ikegami H³, Imagawa A⁴, Oikawa Y, ⁵Osawa H⁶, Katsuki T⁷, Kanatsuna N⁴, Kawamura R⁶, Kozawa J⁸, Kodani N⁹, Kobayashi T¹⁰, Shimada A⁵, Shimoda M², Takahashi K¹¹, Chujo D¹², Tsujimoto T¹³, Tsuchiya K¹⁴, Terakawa A⁹, Terasaki J⁴, Nagasawa K¹⁵, Noso S³, Fukui T¹⁶, Horie I¹⁷, Yasuda K, Yasuda H¹⁸, Yanai H², Hanafusa T¹⁸, Kajio H¹⁹; Japanese Type 1 Diabetes Database Study (TIDE-J): (¹Shin-Koga Hospital, Kurume, ²National Center for Global Health and Medicine, ³Kindai University Faculty of Medicine, ⁴Osaka Medical and Pharmaceutical University, ⁵Saitama Medical University, ⁶Ehime University Graduate School of Medicine, ⁷Tokyo Saiseikai Central Hospital, ⁸Osaka University, ⁹Center Hospital of the National Center for Global Health and Medicine, ¹⁰Okinaka Memorial Institute for Medical Research, ¹¹Iwate Prefectural University, ¹²Toyama University Hospital, ¹³Toranomon Hospital Kajigaya, ¹⁴University of Yamanashi Hospital, ¹⁵Iwate Medical University, ¹⁶Showa University School of Medicine, ¹⁷Nagasaki University Hospital, ¹⁸Kobe University Graduate School of Health Sciences, ¹⁹Sakai City Medical Center): Prediction of future insulin-deficiency in glutamic acid decarboxylase autoantibody enzyme-linked immunosorbent assay-positive patients with slowly-progressive type 1 diabetes. *J Diabetes Investig.* 2024;15(7):835-842. doi: 10.1111/jdi.14178.
6. Seki H¹, Kuratani N², Shiga T³, Iwasaki Y⁴, Karita K⁵, Yasuda K, Yamamoto N⁶, Nakanishi Y⁷, Shigematsu K⁸, Kobayashi K⁹, Saito J¹⁰, Kondo I¹¹, Yaida N¹², Watanabe H¹³, Higashi M¹⁴, Shirasaka T¹⁵, Doshu-Kajiura A¹⁶, Edanaga M¹⁷, Tanaka S¹⁸, Ikumi S⁴, Ito S¹⁹, Okada M²⁰, Yorozu T¹³; SAPKA Investigators(¹Department of Anesthesiology, Kyorin University School of Medicine, ²Saitama Children's Medical Center, Saitama, ³International University of Health and Welfare, ⁴Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁵Department of Hygiene and Public Health, Kyorin University School of Medicine, ⁶Akita University, ⁷University of Fukui Hospital, ⁸Fukuoka University School of Medicine, ⁹Hamamatsu University School of Medicine, ¹⁰Hirosaki University Graduate School of Medicine, ¹¹The Jikei University School of

Medicine, ¹²Kawasaki Medical School, ¹³Department of Anesthesiology, Kyorin University School of Medicine, ¹⁴Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ¹⁵University of Miyazaki, ¹⁶Nihon University School of Medicine, ¹⁷Sapporo Medical University School of Medicine, ¹⁸Shinshu University School of Medicine, ¹⁹Tokyo Dental College Ichikawa General Hospital, ²⁰Yamagata University): Incidence of sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor-associated perioperative ketoacidosis in surgical patients: a prospective cohort study. *J Anesth.* 2024;38(4):464-474. doi: 10.1007/s00540-024-03335-3.

7. Ebisuno T¹, Tachibana M¹, Imagawa A¹, Kanatsuna N¹, Terasaki J¹, Abiru N², Awata T³, Ikegami H⁴, Oikawa Y⁵, Osawa H⁶, Katsuki T⁷, Kawasaki E⁸, Kozawa J⁹, Kobayashi T¹⁰, Shimada A⁵, Takahashi K¹¹, Chujo D¹², Tsuchiya K¹³, Nagasawa K¹⁴, Fukui T¹⁵, Yasuda K, Yasuda H¹⁶, Kajio H³, Hanafusa T¹⁷ (Osaka Medical and Pharmaceutical University, ²Nagasaki University Graduate School of Biomedical Science, ³National Center for Global Health and Medicine, ⁴Kindai University, ⁵Saitama Medical University, ⁶Ehime University Graduate School of Medicine, ⁷Tokyo Saiseikai Central Hospital, ⁸Shin-Koga Hospital, ⁹Osaka University, ¹⁰Okinaka Memorial Institute for Medical Research, ¹¹Iwate Prefectural University, ¹²Toyama University Hospital, ¹³University of Yamanashi Hospital, ¹⁴Iwate Medical University, ¹⁵Showa University School of Medicine, ¹⁶Kobe University Graduate School of Health Sciences, ¹⁷Sakai City Medical Center): Analysis of thyroid autoantibodies and the risk of insulin depletion after the clinical onset of acute-onset type 1 diabetes in Japanese patients: the TIDE-J study. 2024; *Diabetol Int.* 2024. 16(1):39-49.
8. 泉亮介, 小林庸子, 炭谷由計, 吉田正, 安田和基, 石田均: 2型糖尿病患者の教育入院前における服薬アドヒアランスと退院後血糖コントロールの関連性. *くすり*と糖尿病. 2024; 13巻2号: 148-154.
9. 三ツ間智也, 平野浩一, 鳥羽麻友子, 新井信晃, 中里陽子, 石本麻衣, 田中利明, 菅間博: 診断に難渋した甲状腺リンパ上皮性嚢胞の1例. *杏林医学会雑誌.* 2024; 55巻4号: 105-110.
10. 西村一弘, 豊島麻美, 佐藤文紀, 近藤琢磨, 一般社団法人臨床糖尿病支援ネットワーク: 今こそ, 大災害に備えよう!. *月刊糖尿病ライフ さかえ.* 2024; 64巻9号: 5-11.
11. 安田和基: 糖尿病の発症を遺伝情報からひも解く. *月刊糖尿病ライフ さかえ.* 2024; 64巻12号: 33-37.
12. 安田和基: 【糖尿病・ゲノム・遺伝子】2型糖尿病感受性ゲノム領域研究の現状. *月刊糖尿病.* 2024; 16巻2号: 59-66.
13. Shimada A¹, Kawasaki E², Abiru N³, Awata T⁴, Oikawa Y¹, Osawa H⁵, Kajio H⁶, Kozawa J⁷, Takahashi K⁸, Chujo D⁹, Noso S¹⁰, Fukui T¹¹, Miura J¹², Yasuda K, Yasuda H¹³, Imagawa A¹⁴, Ikegami H¹⁰ (Saitama Medical University, ²Shin-Koga Hospital, ³Midori Clinic, ⁴National Center for Global Health and Medicine, ⁵Ehime University Graduate School of Medicine, ⁶National Center for Global Health and Medicine

Hospital, ⁷Osaka University Graduate School of Medicine, ⁸Iwate Prefectural University, ⁹Toyama University Hospital, ¹⁰Kindai University Faculty of Medicine, ¹¹Showa University, ¹²Tokyo Women's Medical University School of Medicine, ¹³Kobe University Graduate School of Health Sciences, ¹⁴Osaka Medical and Pharmaceutical University): Practice guideline): Statement regarding treatment for suspected slowly progressive type 1 diabetes (SPIDDM; probable) cases (English Version). *J Diabetes Investig.* 2025;16(1): 163-168. doi: 10.1111/jdi.14267.

腫瘍内科学教室

講演

1. 齊藤裕史, 水谷友紀, 林雅人, 西岡真理子, 佐藤太龍, 岡野尚弘, 長島文夫, 廣中秀一: 肺腺癌術後アテゾリズマブ単剤療法中に発熱し免疫関連有害事象との鑑別に難渋した1例. *医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ2024.* 東京. 2024年4月.
2. 廣中秀一: 食道癌薬物治療セミナー. MSD株式会社主催. 東京. 2024年4月.
3. 長島文夫: 高齢者の化学療法について. 第111回日本泌尿器科学会総会ランチョンセミナー. 横浜. 2024年4月.
4. 岡野尚弘: 胆道癌一次治療これまでとこれから. 胆道癌治療セミナー in Yamagata. 山形. 2024年4月.
5. 岡野尚弘: 胆道癌一次治療の深化と進化. Biliary Tract Cancer Expert Meeting. オンライン. 2024年5月.
6. Kudo-Saito C, Boku N, Shoji H, Imazeki H, Nagashima K, Tsugaru K, Takahashi N, Kawakami T, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Aoki K, Muro K: IL33-ST2 axis as a diagnostic and therapeutic biomarker in nivolumab therapy for advanced gastric cancer. *ASCO*2024. USA. May-June. 2024.
7. Matsuoka A, Fujimori M, Narikazu B, Takashima A, Okusaka T, Kato K, Maruki Y, Ohba A, Hirano H, Mori K, Akechi T, Tsubata Y, Nishijima T, Shimazu T, Miyaji T, Majima Y, Sakiyama T, Obama K, Nagashima F, Uchitomi Y: Geriatric assessment and management with question prompt list using a web-based application for elderly patients with cancer to communicate aging-related concerns: A randomized clinical trial (J-SUPPORT 2101 study). *ASCO Annual Meeting.* USA. May-June. 2024.
8. Takahashi N, Hara H, Nagashima K, Hirata K, Masuishi T, Matsumoto T, Kawakami H, Yamazaki K, Hironaka S, Boku N, Muro K: Randomized phase II trial of trifluridine/tipiracil plus ramucirumab versus trifluridine/tipiracil for pre-treated patients with advanced gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma (RETRIEVE study, WJOG15822G). *ESMO Gastrointestinal Cancers Congress 2024.* Germany, Jun. 2024.
9. 廣中秀一: 食道癌薬物療法セミナー. MSD株式会社主催. 盛岡. 2024年6月.
10. 尾阪将人, 上野誠, 池田公史, 清水怜, 仲地耕平,

- 長島文夫, 古瀬純司: 切除不能/再発・進行性膵がんに対するアルカリ化剤DFP-17729の第I/II相試験. 第55回日本膵臓学会大会. 宇都宮. 2024年7月
11. 須藤研太郎, 中村能章, 上野誠, 池田公史, 川本泰之, 岡野尚弘, 古川正幸, 吉野孝之, 森實千種: HRD関連遺伝子に対するプラチナ含有レジメンの治療. 第55回日本膵臓学会大会. 宇都宮. 2024年7月. 日本
 12. 丸木雄太, 池澤賢治, 佐々木満仁, 小林智, 戸高明子, 津村英隆, 岡野尚弘, 寺島健志, 山下竜也, 川本泰之, 小島康志, 今岡大, 細井寛子, 森実千種, 上野誠, 池田公史, 奥坂拓志: MSI-H肝胆膵癌に対するペムプロリズマブの治療成績. 第55回日本膵臓学会大会. 宇都宮. 2024年7月.
 13. 長島文夫: 高齢者における垂直的咬合の欠失と術後合併症発生率の関連性について. 日本外科代謝栄養学会第61回学術集会. 大阪. 2024. 7月.
 14. Shiraishi K, Kito Y, Shoji H, Yamada T, Tsushima T, Mitani S, Yasui H, Hara H, Shimozaki K, Esaki T, Shinohara Y, Tsuzuki T, Kajiura S, Izawa N, Murata K, Yoshimura K, Kawakami H, Hironaka S, Yamazaki K, Muro K: Impact of age and single heterozygous UGT1A1 on the safety and efficacy of first-line FOLFIRI or FOLFOXIRI in combination with ramucirumab (RAM) for metastatic colorectal cancer (mCRC): Subgroup analyses of WJOG9216G. ESMO Congress 2024. Spain. Sep. 2024.
 15. Yamazaki K, Kito Y, Shoji H, Yamada T, Tsushima T, Mitani S, Shiraishi K, Yasui H, Hara H, Shimozaki K, Esaki T, Shinohara Y, Tsuzuki T, Kajiura S, Yoshimura K, Sakai K, Nishio K, Kawakami H, Hironaka S, Muro K: Update analysis of the randomized phase II study comparing FOLFIRI plus ramucirumab (RAM) versus FOLFOXIRI plus RAM as first-line treatment for patients with metastatic colorectal cancer: WJOG9216G (RECAST). ESMO Congress 2024. Spain. Sep. 2024.
 16. Kobayashi S, Ohba A, Ozaka M, Mizusawa J, Okusaka T, Yamashita T, Ikeda M, Yasuda I, Sugimori K, Sasahira N, Ikezawa K, Miki I, Okano N, Mizuno N, Furukawa M, Shirakawa H, Sano Y, Katayama H, Furuse J, Ueno M, Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group of Japan Clinical Oncology Group (JCOG), Japan: EGnP vs. mFOLFIRINOX or S-IROX in metastatic pancreatic cancer: 1-year follow-up updated data from the GENERATE (JCOG1611). ESMO Congress 2024. Spain. Sep. 2024.
 17. Imaoka H, Ikeda M, Ozaka M, Oshima K, Okano N, Shimizu S, Tsumura H, Komatsu Y, Yamashita T, Kataoka S, Nagano H, Hisano T, Sasaki M, Kobayashi S, Fukushima T, Mitsunaga S, Furukawa T, Hamauchi S, Biville F, Ueno M: Efficacy and safety of liposomal irinotecan plus S-1 inpatients with metastatic pancreatic cancer after failure of first-line gemcitabine-based chemotherapy: Results of a phase I/II study. ESMO Congress 2024. Spain. Sep. 2024.
 18. Nishioka M, Okano N, Saito Y, Hayashi M, Sato T, Mizutani T, Uchida N, Tokuhira M, Sumi R, Mochizuki M, Yamada T, Kaji R, Seki S, Ohno A, Kawamura N, Mori H, Nagashima F, Hisamatu T, Hironaka S: A case of hepatocellular carcinoma with Vp4 treated with durvalumab plus tremelimumab after lenvatinib plus hepatic artery infusion chemotherapy. Urayasu. Sep. 2024.
 19. 廣中秀一, 君嶋悠矢, 真野祐輔, 西山英児, 菊香順史, 山本恒久, Bruno Casaes Teixeira, 吉川貴己: 診療データベースを用いたHER2陰性進行・再発胃癌における時代別治療パターン解析. 第62回日本癌治療学会学術集会. 福岡. 2024年10月.
 20. Shibuki T, Morizane C, Ueno M, Boku S, Furukawa M, Shimizu S, Kawamoto Y, Horita Y, Matsuhashi N, Itoh S, Okano N, Ohta T, Ohtsubo K, Hashimoto T, Fujisawa T, Imai M, Nakamura Y, Bando H, Yoshino T, Ikeda M: Impact of tissue factor on clinical and biological characteristics inpatients with advanced pancreatic cancer. ESMO MAP 2024. UK. Oct. 2024.
 21. Hashimoto T, Iida N, Kadowaki S, Makiyama A, Ueno M, Boku S, Hara H, Kudo T, Oki E, Okano N, Ohtsubo K, Yamazaki K, Shibuki T, Imai M, Fujisawa T, Nakamura Y, Bando H, Shitara K, Yoshino T: Uncovering the prognostic potential of FGFR2c isoform expression in advanced gastroesophageal cancer through MONSTAR-SCREEN-2 analysis. ESMO MAP 2024. UK. Oct. 2024.
 22. 廣中秀一: 進行胃癌に対する化学療法 個別化医療の進歩. 地域で診る消化器疾患連携セミナー2024. オンライン. 2024年11月.
 23. 長島文夫: 都市部における医療DXの必要性 がん薬物療法の工夫において. 八幡平市メディテックバレーシンポジウム. 八幡平. 2024年11月.
 24. 廣中秀一: 上部消化管癌薬物療法セミナー. MSD株式会社主催. 東京. 2024年12月.
 25. Ushiyama S, Matsubara Y, Hashimoto T, Mishima S, Kadowaki S, Okano N, Ohtsubo K, Ueno M, Otsuka T, Sunakawa Y, Denda T, Makiyama A, Esaki T, Kagawa Y, Takahashi N, Boku S, Fujisawa T, Nakamura Y, Bando H, Yoshino T: Molecular landscape of neuroendocrine neoplasms using tissue and blood-based genotyping in MONSTAR-SCREEN-2. ESMO Asia 2024. Singapore. Dec. 2024.
 26. 廣中秀一: 胃癌薬物治療セミナー. MSD株式会社主催. 東京. 2025年1月.
 27. 長島文夫: 生活習慣病と外科・腫瘍 超高齢社会のがん薬物療法. 第58回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会. 東京. 2025年1月.
 28. Abidoye O, Chang I, Hoyek C, Pirozzi A, Okano N, Zheng-Lin B, Kosiorek HE, Eslinger C, Sonbol MB, Ahn DH, Wu C, Yoshino T, Ikeda M, Morizane C, Bando H, Nakamura Y, Fujisawa T, Shibuki T, Borad MJ, Bekaii-Saab TS: Clinical and genomic characteristics of hepatocellular carcinoma-cholangiocarcinoma: Insights from real-world data. ASCO-GI 2025. USA. Jan. 2025.
 29. Pirozzi A, Hoyek C, Zheng-Lin B, Okano N, Abidoye O, Eslinger C, Babiker HM, Majeed U, Tran NH, Rimassa L, Bekaii-Saab TS, Shah S, Borad MJ: MYC, HER2/ERBB2 and FGFR2 alterations are Molecular Predictors for Cancer Associated Venous-Thromboembolism (CAT) in Biliary Tract Cancer (BTC). ASCO-GI 2025. USA. Jan. 2025.

30. Nakachi K, Kobayashi S, Yamamoto K, Ueno M, Maruki Y, Ikezawa K, Terashima T, Shimizu S, Ohshima K, Tsuji K, Nakase H, Hidetaka T, Shibuki T, Ozaka M, Okano N: Analysis of a multicenter, prospective observational study of chemotherapy in elderly patients with biliary tract cancer. *ASCO-GI 2025*. USA. Jan. 2025.
31. Shibuki T, Okuyama H, Okano N, Mizukami T, Yanagimoto H, Ohba A, Kita E, Kobayashi N, Kobayashi S, Furukawa T, Asama H, Tsumura H, Kamata K, Umemoto K, Suzuki Y, Kojima M, Imaoka H, Terashima T, Ueno M, Ikeda M: Multicenter, retrospective, observational study of outcomes of treatment for unresectable neuroendocrine tumors G3 of gastroenteropancreatic or unknown primary origin. *ASCO-GI 2025*. USA. Jan. 2025.
32. Ushiyama S, Matsubara Y, Hashimoto T, Mishima S, Kadowaki S, Okano N, Ohtsubo K, Ueno M, Otsuka T, Sunakawa Y, Denda T, Makiyama A, Esaki T, Kagawa Y, Takahashi N, Boku S, Fujisawa T, Nakamura Y, Bando H, Yoshino T: Molecular landscape of neuroendocrine neoplasms using tissue and blood-based genotyping in MONSTAR-SCREEN-2. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会. 神戸. 2025年3月.
33. 扇屋大輔, 後藤知之, 木澤莉香, 岡野尚弘, 土橋賢司, 上原悠治, 御崎由記範, 近藤千紘, 高見澤重賢, 寺田満男, 山口祐平, 植松真生, 瀬口京介, 虎澤匡洋, 久野真弘, 北野滋久: 医学生・研修医のための腫瘍内科セミナーにおけるSNSの利活用. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会. 神戸. 2025年3月.
34. Okuyama H, Shibuki T, Okano N, Mizukami T, Yanagimoto H, Ohba A, Kita E, Kobayashi N, Kobayashi S, Furukawa T, Asama H, Tsumura H, Kamata K, Hamamoto Y, Suzuki Y, Kojima M, Imaoka H, Terashima T, Ueno M, Ikeda M: Outcomes of chemotherapy for unresectable gastroenteropancreatic and primary unknown neuroendocrine tumor G3. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会. 神戸. 2025年3月.
35. 林雅人, 岡野尚弘, 齊藤裕史, 西岡真理子, 佐藤太龍, 水谷友紀, 高木涼, 林田真理, 林玲匡, 長濱清隆, 柴原純二, 久松理一, 長島文夫, 廣中秀一: MSI-HまたはTMB-H腫瘍に対するペムプロリズマブ療法による有害事象中止後に持続的奏効が得られた胆道癌の2例. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会. 神戸. 2025年3月.
36. Chin K, Ishizuka N, Kawabata R, Hosaka H, Muto O, Shindo Y, Nagata N, Yabusaki H, Imamura H, Endo S, Kashiwada T, Nakamura M, Hihara J, Kobayashi M, Nagashima F, Takahari D, Yamaguchi K: 高齢者転移進行胃癌に対するCapeOX第2相試験(TCOG GI-1601)予後予測G8 cut offの探索. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会. 神戸. 2025年3月.
37. 廣中秀一: BTC Expert Seminar. アストラゼネカ株式会社主催. オンライン. 2025年3月.
2. Wakatsuki T, Ishizuka N, Hironaka S, Minashi K, Kadowaki S, Goto M, Shoji H, Hirano H, Nakayama I, Osumi H, Ogura M, Chin K, Yamaguchi K, Takahari D: Exploratory analysis of serum HER2 extracellular domain for HER2 positive gastric cancer treated with SOX plus trastuzumab. *Int J Clin Oncol*. 2024;29(6): 801-812. doi: 10.1007/s10147-024-02509-z.
3. Hashimoto T, Nakamura Y, Komatsu Y, Yuki S, Takahashi N, Okano N, Hirano H, Ohtsubo K, Ohta T, Oki E, Nishina T, Yasui H, Kawakami H, Esaki T, Machida N, Doi A, Boku S, Kudo T, Yamamoto Y, Kanazawa A, Denda T, Goto M, Iida N, Ozaki H, Shibuki T, Imai M, Fujisawa T, Bando H, Naito Y, Yoshino T: Different efficacy of tyrosine kinase inhibitors by KIT and PGFRA mutations identified in circulating tumor DNA for the treatment of refractory gastrointestinal stromal tumors. *BJC Rep*. 2024; 2(1): 54. doi: 10.1038/s44276-024-00073-7.
4. Shibayama T, Hayashi A, Toki M, Kitahama K, Ho YJ, Kato K, Yamada T, Kawamoto S, Kambayashi K, Ochiai K, Gondo K, Okano N, Melchor JP, Iacobuzio-Donahue CA, Sakamoto Y, Hisamatsu T, Shibahara J: Combination immunohistochemistry for CK5/6, p63, GATA6, and HNF4a predicts clinical outcome in treatment-naïve pancreatic ductal adenocarcinoma. *Sci Rep*. 2024;14(1):15598. doi: 10.1038/s41598-024-65900-w.
5. Yoshikawa T, Kikko Y, Makino R, Kimijima Y, Nishiyama E, Matsuda Y, Casaes Teixeira B, Tejada M, Carroll R, Hironaka S: Adjuvant and post-recurrent treatment patterns in patients with resectable gastric cancer in Japan: a retrospective database cohort study. *Gastric Cancer*. 2024;27(4):827-839. doi: 10.1007/s10120-024-01501-w.
6. Ikeda M, Hijioka S, Ito T, Matsumoto S, Honma Y, Ueno M, Okano N, Aoki T, Furuse J: Multicenter validation study of a treatment selection MAP for pancreatic neuroendocrine tumors. *Jpn J Clin Oncol*. 2024; 54(8):880-886. doi: 10.1093/jjco/hyae052.
7. Takashima A, Hamaguchi T, Mizusawa J, Nagashima F, Ando M, Ojima H, Denda T, Watanabe J, Shinozaki K, Baba H, Asayama M, Hasegawa S, Masuishi T, Nakata K, Tsukamoto S, Katayama H, Nakamura K, Fukuda H, Kanemitsu Y, Shimada Y: Colorectal Cancer Study Group in Japan Clinical Oncology Group (JCOG): Oxaliplatin Added to Fluoropyrimidine/Bevacizumab as Initial Therapy for Unresectable Metastatic Colorectal Cancer in Older Patients: A Multicenter, Randomized, Open-Label Phase III Trial (JCOG1018). *J Clin Oncol*. 2024 ;42(33):3967-3976. doi: 10.1200/JCO.23.02722.
8. Furuse J, Ikeda M, Ueno M, Furukawa M, Morizane C, Takehara T, Nishina T, Todaka A, Okano N, Hara K, Nakai Y, Ohkawa K, Sasaki T, Sugimori K, Yokoyama N, Yamamoto K: A Phase II Placebo-Controlled Study of the Effect and Safety of Nanvuranlat in Patients with Advanced Biliary Tract Cancers Previously Treated by

論文 欧文

1. Okano N, Mizutani T, Hironaka S: Promising Objective Response Rates and Progression-Free Survival but Modest Overall Survival in the TAB Study. *J Clin Oncol*. 2024;42(14):1726-1727. doi:

- Systemic Chemotherapy. *Clin Cancer Res.* 2024 ; 30(18):3990-3995. doi: 10.1158/1078-0432.CCR-24-0461..
9. Ohba A, Morizane C, Kawamoto Y, Komatsu Y, Ueno M, Kobayashi S, Ikeda M, Sasaki M, Furuse J, Okano N, Hiraoka N, Yoshida H, Kuchiba A, Sadachi R, Nakamura K, Matsui N, Nakamura Y, Okamoto W, Yoshino T, Okusaka T: Trastuzumab Deruxtecan in Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Expressing Biliary Tract Cancer (HERB; NCCH1805): A Multicenter, Single-Arm, Phase II Trial. *J Clin Oncol.* 2024; 42(27):3207-3217. doi: 10.1200/JCO.23.02010.
 10. Imaoka H, Sasaki K, Machida R, Nagano H, Satoi S, Ikeda M, Kobayashi S, Yamashita T, Okusaka T, Ido A, Hatano E, Miwa H, Ueno M, Nakao K, Shimizu S, Kuramochi H, Sakamori R, Tsumura H, Okano N, Shioji K, Shirakawa H, Akutsu N, Tsuji K, Ishii H, Umemoto K, Asagi A, Ueno M: JCOG Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group: Current status of the cost burden of first-line systemic treatment for patients with advanced hepatocellular carcinoma in Japan, 2021-22. *Jpn J Clin Oncol.* 2024; 54(10):1071-1077. doi: 10.1093/jjco/hyae048.
 11. Ueno M, Morizane C, Ikeda M, Ozaka M, Nagashima F, Kataoka T, Mizusawa J, Ohba A, Kobayashi S, Imaoka H, Kasuga A, Okano N, Nagasaka Y, Sasaki M, Furuse J, Okusaka T: Phase I/II study of nivolumab plus lenvatinib for advanced biliary tract cancer (JCOG1808/NCCH1817, SNIPE). *ESMO Open.* 2024; 9(10):103919. doi: 10.1016/j.esmoop.2024.103919.
 12. Sudo K, Nakamura Y, Ueno M, Furukawa M, Mizuno N, Kawamoto Y, Okano N, Umemoto K, Asagi A, Ozaka M, Ohtsubo K, Shimizu S, Matsuhashi N, Itoh S, Matsumoto T, Satoh T, Okuyama H, Goto M, Hasegawa H, Yamamoto Y, Odegaard JI, Bando H, Yoshino T, Ikeda M, Morizane C: Clinical utility of BRCA and ATM mutation status in circulating tumour DNA for treatment selection in advanced pancreatic cancer. *Br J Cancer.* 2024;131(7):1237-1245. doi: 10.1038/s41416-024-02834-0.
 13. Takashima A, Ishiguro M, Sasaki K, Machida R, Nagashima F, Imaizumi J, Hamaguchi T, Yamamoto Y, Masuishi T, Asayama M, Ueno H, Shinozaki K, Kudo T, Machida N, Matsuoka H, Ishida H, Yamaguchi T, Nogami H, Yamada T, Takegawa N, Kito Y, Tonoike Y, Sawada R, Tsukamoto S, Kanemitsu Y: Colorectal Cancer Study Group (CCSG) of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG). Real-world treatment costs of first-line treatment for metastatic colorectal cancer: a survey of the JCOG colorectal cancer study group. *Jpn J Clin Oncol.* 2024;54(10):1107-1114. doi: 10.1093/jjco/hyae110.
 14. Hashimoto T, Nakamura Y, Fujisawa T, Imai M, Shibuki T, Iida N, Ozaki H, Nonomura N, Morizane C, Iwata H, Okano S, Yamagami W, Yamazaki N, Kadowaki S, Taniguchi H, Ueno M, Boku S, Oki E, Komatsu Y, Yuki S, Makiyama A, Otsuka T, Hara H, Okano N, Nishina T, Sakamoto Y, Miki I, Kobayashi S, Yuda J, Kageyama S, Nagamine M, Sakashita S, Sakamoto N, Yamashita R, Koga Y, Bando H, Ishii G, Kuwata T, Park WY, Ohtsu A, Yoshino T: The SCRUM-MONSTAR Cancer-Omics Ecosystem: Striving for a Quantum Leap in Precision Medicine. *Cancer Discov.* 2024; 14(11):2243-2261. doi: 10.1158/2159-8290.CD-24-0206.
 15. Shoji H, Kudo-Saito C, Nagashima N, Imazeki H, Tsugaru K, Takahashi N, Kawakami T, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Muro K, Aoki K, Boku N: Myeloid subsets impede the efficacy of anti-PD1 therapy in patients with advanced gastric cancer (WJOG10417GTR study). *J Immunother Cancer.* 2024;12(11):e010174. doi: 10.1136/jitc-2024-010174.
 16. Okano N, Kawai M, Ueno M, Yu X, Inoue Y, Takahashi S, Wang W, Takahashi H, Okamura Y, Morinaga S, Matsumoto I, Shimizu Y, Yoshida K, Yamamoto T, Ohtsuka M, Inokawa Y, Nara S, Tamura J, Shinoda S, Yamamoto K, Yamae H, Furuse J, PC-CURE-1 study group: Outcomes of patients with initially unresectable pancreatic cancer who underwent conversion surgery after FOLFIRINOX or gemcitabine plus nab-paclitaxel chemotherapy: A multicenter retrospective cohort study (PC-CURE-1). *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 2024; 31(11):816-829. doi: 10.1002/jhbp.12066.
 17. Mitsunaga S, Ikeda M, Nomura S, Morizane C, Todaka A, Yamamoto N, Kamata K, Yanagibashi H, Mizuno N, Kawamoto Y, Gotoh K, Shirakawa H, Okano N, Nomura T, Tanaka K, Takahashi A, Yagi S, Ohta K, Takayama Y, Miwa H, Nagano H, Kojima Y, Hisano T, Tahara M, Sakuma Y, Arai H, Nakamura I, Katayama H, Konishi M, Ueno M: Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HBPOG): 5-Fluorouracil metabolic pathway genes predict recurrence risk following adjuvant S-1 therapy: Results of an ancillary analysis from a phase III trial of resected biliary tract cancer (JCOG1202A1). *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 2024; 31(12):886-896. doi: 10.1002/jhbp.12071.
 18. Nakamura Y, Ozaki H, Ueno M, Komatsu Y, Yuki S, Esaki T, Taniguchi H, Sunakawa Y, Yamaguchi K, Kato K, Denda T, Nishina T, Takahashi N, Satoh T, Yasui H, Satake H, Oki E, Kato T, Ohta T, Matsuhashi N, Goto M, Okano N, Ohtsubo K, Yamazaki K, Yamashita R, Iida N, Yuasa M, Bando H, Yoshino T: Targeted therapy guided by circulating tumor DNA analysis in advanced gastrointestinal tumors. *Nat Med.* 2025; 31(1):165-175. doi: 10.1038/s41591-024-03244-8.
 19. Imaoka H, Ikeda M, Kobayashi S, Ohba A, Ueno M, Suzuki Y, Tsumura H, Kimura N, Kawaguchi S, Kawamoto Y, Nakachi K, Tsuji K, Kobayashi N, Ashida R, Okano N, Umemoto K, Murohisa G, Hosokawa A, Asagi A, Nebiki H, Suzuki R, Terashima T, Shibata R, Kawata K, Doi T, Ohyama H, Kitano Y, Shioji K, Okuyama H, Nagamura A, Negoro Y, Sakamoto Y, Shimizu S, Morizane C, Ueno M, Furuse J, Nagano H: Japan Oncology Network in Hepatobiliary and Pancreas : Efficacy of liposomal irinotecan + 5-FU/LV vs. S-1 in gemcitabine-refractory metastatic pancreatic cancer: a real-world study using inverse probability of treatment weighting.

J Gastroenterol. 2025; 60(3):356-367. doi: 10.1007/s00535-024-02186-9.

20. Komori A, Hironaka S, Kadowaki S, Mitani S, Furuta M, Kawakami T, Makiyama A, Takegawa N, Sugiyama K, Hirano H, Ando T, Matsushima T, Chida A, Kashiwada T, Komoda M, Matsumoto T, Oda H, Yabusaki H, Kawakami H, Yamazaki K, Boku N, Hyodo I, Yoshimura K, Muro K, West Japan Oncology Group (WJOG): Prevalence and clinicopathological features of microsatellite instability-high metastatic or recurrent gastric and esophagogastric junction cancer: WJOG13320GPS. Gastric Cancer. 2025 ;28(2):301-308. doi:10.1007/s10120-024-01579-2.

和文

1. 林雅人, 岡野尚弘, 齊藤裕史, 西岡真理子, 佐藤太龍, 長島文夫, 廣中秀一: 治療困難な膵・胆道癌の薬物療法 黄疸合併例への胆膵癌の薬物療法. 胆と膵. 45(11). 1657-1611. 2024.

著書

- 廣中秀一(分担執筆): 消化器がん薬物療法 副作用・有害事象へのあんしんケア~ナ-スができる寄り添いサポート~. 消化器ナーシング. メディカ出版. 29(12)1101-1101. 2024.
- 廣中秀一(分担執筆): 1胃がん 二次治療 ①weekly PTX+RAM. 消化器がん化学療法副作用マネジメント プロのコツ改訂第3版. 小松嘉人 編集. 株式会社メジカルビュー社. 2024. 53-56.
- 佐藤太龍, 廣中秀一(分担執筆): 薬物療法 周術期の化学療法. 日本臨牀 第82巻増刊号3 食道癌2024—基礎・臨床の動向—. 2024. 407-412.
- 岸千鶴, 長島文夫(分担執筆): セツキシマブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 上野誠, 古瀬純司 監修. メディカ出版. 2025. 117-118.
- 岸千鶴, 長島文夫(分担執筆): EGFR抗体パニツムマブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 上野誠, 古瀬純司 監修. メディカ出版. 2025. 121-122.
- 岸千鶴, 長島文夫(分担執筆): VEGF抗体ベバシズマブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 上野誠, 古瀬純司 監修. メディカ出版. 2025. 134-135.
- 岡野尚弘(分担執筆): ゲムシタピン. がん化学療法の薬はや調ベノート. 上野誠, 古瀬純司 監修. メディカ出版. 2025. 47-48.
- 岡野尚弘(分担執筆): パンデタニブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 上野誠, 古瀬純司 監修. メディカ出版. 2025. 65-66.
- 岡野尚弘(分担執筆): ドセタキセル. がん化学療法の薬はや調ベノート. 上野誠, 古瀬純司 監修. メディカ出版. 2025. 69-70.
- 岡野尚弘(分担執筆): レゴラフェニブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 上野誠, 古瀬純司 監修. メディカ出版. 2025. 196.
- 岡野尚弘(分担執筆): エヌトレクチニブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 上野誠, 古瀬純司 監修. メディカ出版. 2025. 212-213.
- 岡野尚弘(分担執筆): オラパリブ. がん化学療法の薬はや調ベノート. 上野誠, 古瀬純司 監修. メディカ出版. 2025. 230-231.
- 岡野尚弘(分担執筆): 当院における進行肝細胞癌に対するデュルマルマブ・トレメリムマブ併用療法の使用経験. デュルマルマブ・トレメリムマブ併用療

法による肝細胞癌治療. 工藤正俊 監修. アークメディア. 2025. 166-170.

報告書

1. 岡野尚弘: 第13回杏林医学会研究奨励賞受賞報告

その他

- 廣中秀一: がんを知る~がんの知識を深め共生を学ぶ~. 杏林大学市民講座.
- 今泉美佳, 長島文夫: 人との出会い, そして情熱と好奇心で続けてきた研究. 杏林医学会雑誌. インタビュー. 2024年6月.
- 後藤田貴也, 長島文夫: Physician scientistとして医学・医療に携わることの楽しさと意義. 杏林医学会雑誌. インタビュー. 2024年6月.
- 坪下幸寛, 長島文夫: デジタル社会で生きていくために必要不可欠なデータサイエンスのスキル. 杏林医学会雑誌. インタビュー. 2024年9月.
- 大木紫, 長島文夫: 物理学的観点で人間の身体を解明し, ニューロリハビリテーションの開発を目指す. 杏林医学会雑誌. インタビュー. 2024年12月.
- 松田剛明, 近藤晴彦, 市村正一, 高橋信一, 楊國昌, 長島文夫: 築き上げてきた杏林大学の医療文化を武器に挑む 200万人の医療圏 安心かつ高度な診療と地域に密着した医療を目指して. 杏林医学会雑誌座談会. 2025年3月.

高齢医学教室

講演

- 神崎恒一: 高齢者の多様な認知症とその対応. 第121回日本内科学会総会・講演会. 東京. 2024年4月.
- 神崎恒一: 今後の日本老年医学会の活動. 第66回日本老年医学会学術集会. 名古屋. 2024年6月.
- 神崎恒一: 老年医学の成果の社会実装をめざして. 第66回日本老年医学会学術集会. 名古屋. 2024年6月.
- 神崎恒一: 第二次5か年計画の基本概念. 第66回日本老年医学会学術集会. 名古屋. 2024年6月.
- 輪千安希子, 輪千督高, 永井久美子, 海老原孝枝, 神崎恒一: もの忘れ外来患者における脳血流SPECT結果の認知症診断に対する有用性について. 第66回日本老年医学会学術集会. 名古屋. 2024年6月.
- 玉田真美, 永井久美子, 輪千安希子, 神崎恒一: もの忘れ外来初診患者における身体機能と認知機能の10年間の推移. 第66回日本老年医学会学術集会. 名古屋. 2024年6月14日.
- 永井久美子, 玉田真美, 輪千安希子, 海老原孝枝, 神崎恒一: 高齢者の運転に対する意識調査: 本人と家族の認識の相違について. 第66回日本老年医学会学術集会. 名古屋. 2024年6月.
- 神崎恒一: 高齢者の多様な認知症. 第8回日本脳神経外科認知症学会学術集会. 名古屋. 2024年6月.
- 永井久美子, 玉田真美, 神崎恒一: コグニティブフレイルと脳小血管病の関連. 第56回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 神戸. 2024年7月.
- 神崎恒一: これからの老年医学を見据えた今後の長寿医療研究. 国立長寿医療研究センター20周年記念シンポジウム. 名古屋. 2024年7月.
- 神崎恒一: 高齢者の血管障害と認知症—予防から治療まで—. アリドネWEBカンファレンス. オンライン

ン。2024年7月。

12. 佐藤健太, 高附里江, 輪千督高, 神崎恒一: COVID-19肺炎および急性期脳梗塞で入院し消化器穿孔を来した一例。第76回日本老年医学会関東甲信越地方会。東京。2024年9月。
13. 神崎恒一: 認知症に伴う体の衰え。第48回日本高次脳機能学会学術総会。八王子。2024年11月。
14. 永井久美子, 玉田真美, 輪千安希子, 神崎恒一: もの忘れ外来患者における自動車運転への意識および家族間の相違: 男女別検討。第43回日本認知症学会学術集会。郡山。2024年11月。
15. 玉田真美, 永井久美子, 嘉村衣莉, 神崎恒一: 公認心理師教育課程大学院生の認知症外来での実習2年目の考察。第43回日本認知症学会学術集会。郡山。2024年11月。
16. 神崎恒一: 高齢者の血管障害と認知症—予防から治療まで—。アリドネパッチWEBカンファレンス。オンライン。2025年2月。

論文

1. 神崎恒一: コグニティブフレイルの概念と介入方法の提案。理学療法福岡。2024; 37巻: 15-18。
2. 神崎恒一: コグニティブフレイル。老年精神医学雑誌。2024; 35巻(6号): 540-546。
3. 神崎恒一: 高齢者医療の抱える課題とその対策 高齢者の多様な認知症とその対応。日本内科学会雑誌。2024; 113巻(9号): 1634-1639。
4. Tanaka T^{1,2}, Hirano H^{1,3}, Ikebe K^{1,4}, Iwasaki M^{1,3,6}, Ueda T^{1,5}, Minakuchi S^{1,7}, Arai H^{1,8}, Kozaki K^{1,9}, Iijima K^{1,2,10} (¹Joint Working Committee on Oral Frailty by the Japan Geriatrics Society, Japanese Society of Gerodontology, and Japanese Association on Sarcopenia and Frailty, ²Institute of Gerontology, The University of Tokyo, ³Tokyo Metropolitan Institute for Geriatrics and Gerontology, ⁴Department of Removable Prosthodontics and Gerodontology, Graduate School of Dentistry, Osaka University, Osaka, ⁵Department of Removable Prosthodontics and Gerodontology, Tokyo Dental College, ⁶Department of Preventive Dentistry, Faculty of Dental Medicine and Graduate School of Dental Medicine, Hokkaido University, ⁷Department of Gerodontology and Oral Rehabilitation, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University, ⁸National Center for Geriatrics and Gerontology, ⁹Department of Geriatric Medicine, Kyorin University School of Medicine, ¹⁰Institute for Future Initiatives, The University of Tokyo) : Consensus statement on “Oral frailty” from the Japan Geriatrics Society, the Japanese Society of Gerodontology, and the Japanese Association on Sarcopenia and Frailty. *Geriatr Gerontol Int.* 2024; 24巻(11号): 1111-1119. DOI: 10.1111/ggi.14980.

報告書

1. 神崎恒一: 長寿医療研究開発費 フレイル高齢者のレジストリ研究及びロコモ、サルコペニアを含めた病態解明及び予防介入法の確立を目指した臨床ならびに関連研究(令和6年度) 分担研究報告書。
2. 神崎恒一: 日本医療研究開発機構委託研究開発費(予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業)サルコペニア・フレイルの予防に関するヘルスケアサービスのためのガイドライン開発研究(令和6年度) 成果報告書。

3. 神崎恒一: 厚生労働行政推進調査事業費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業) かかりつけ医機能報告のための医師の研修項目の詳細な整理等を行う研究(令和6年度) 分担研究報告書。

その他

1. 神崎恒一: 認知症の理解と予防～家族と地域のサポート～。ケーブルTV J:COM 番組「学びの杜」2024年11月。

精神神経科学教室

講演

1. 坪井貴嗣: 遅発性ジスキネジアの治療(統合失調症薬物治療ガイドライン2022を中心に)。第18回日本統合失調症学会。徳島。2024年4月。
2. 長島泉, 早坂友成, 星野未来, 照屋浩司, 片桐建志, 今村弥生, 松本泰幸, 村尾昌美, 栗原真理子, 大江悠樹, 吉田信子, 青鹿由紀, 坪井貴嗣, 櫻井準, 渡邊衛一郎: 社会活動参加が困難な統合失調症入院患者の退院後の社会活動状況を予測する要因。第18回日本統合失調症学会。徳島。2024年4月。
3. 今村弥生: マングの精神医学～ONE PIECEに学ぶ発達障害。日本精神科看護協会 北海道支部研修会。札幌。2024年4月。
4. Ochi S, Kodaka F, Hasegawa N, Iga J, Kashiwagi H, Komatsu H, Tagata H, Tsuoi T, Numata S, Iida H, Igarashi S, Ohi K, Fukumoto K, Muraoka H, Matsumoto J, Miura K, Ueno S, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R, Yasui-Furukori N: Associations of clozapine available institution and the diagnosis of subgroups about treatment-resistant schizophrenia or not with a higher rate of antipsychotic monotherapy and lower other concomitant psychotropics in overall schizophrenia treatment: A real-world nationwide study. 35th World Congress of Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum. Tokyo. May. 2024.
5. Tsuboi T, Nakayama T, Horie J, Tokuda F, Moriguchi Y, Hoshino T: A survey of patient-physician communication regarding treatment prospects and goal setting in the management of major depressive disorder in Japan. 35th World Congress of Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum. Tokyo. May. 2024.
6. Matsumoto Y, Sakurai H, Aoki Y, Takaesu Y, Okajima I, Tachimori H, Murao M, Maruki T, Tsuboi T, Watanabe K: Relationship between severity of depressive symptoms and continuous employment in patients with mood disorders. 35th World Congress of Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum. Tokyo. May. 2024.
7. Kubo K, Sakurai H, Tani H, Watanabe K, Uchida H: Predicting relapse from the time to remission during the acute treatment of depression: A re-analysis of the STAR*D data. 35th World Congress of Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum. Tokyo. May. 2024.
8. 中江佳一朗, 渡邊菜保子, 橋本幸亮, 山下太誠, 浦田実, 小谷万葉, 青鹿由紀, 櫻井準, 坪井貴嗣, 渡邊衛一郎: 脳血管攣縮症候群の合併によりラモトリ

- ギンで治療を行なったうつ病の一例. 第54回日本神経精神薬理学会 第34回日本臨床精神神経薬理学会合同年会. 東京. 2024年5月.
9. 浦田実, 上野文彦, 内田貴仁, 松本泰幸, 村尾昌美, 丸木拓, 富田真幸, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎, 櫻井準: 軽症うつ病における薬物療法の有用性: 系統的レビュー. 第54回日本神経精神薬理学会 第34回日本臨床精神神経薬理学会 合同年会. 東京. 2024年5月.
 10. 坪井貴嗣: うつ病患者のパーソナルリカバリー達成を目指す上で, いかに治療し, いかに測定するか. 第54回日本神経精神薬理学会 第34回日本臨床精神神経薬理学会 合同年会. 東京. 2024年5月.
 11. 坪井貴嗣: 遅発性ジスキネジアの疫学, 危険因子, そして予防. 第54回日本神経精神薬理学会 第34回日本臨床精神神経薬理学会 合同年会. 東京. 2024年5月.
 12. 坪井貴嗣: 就労を含む社会的リカバリー達成に最適な薬物療法とは何か. 第54回日本神経精神薬理学会 第34回日本臨床精神神経薬理学会 合同年会. 東京. 2024年5月.
 13. 櫻井準: うつ病薬物治療の新時代~モノアミンの先にある挑戦~. 第54回日本神経精神薬理学会 第34回日本臨床精神神経薬理学会 合同年会. 東京. 2024年5月.
 14. 櫻井準, 稲田健, 青木裕見, 竹島正浩, 家研也, 喜瀬守人, 吉田絵理子, 坪井貴嗣, 山田恒, 堀輝, 稲田泰之, 清水栄司, 三島和夫, 渡邊衡一郎, 高江洲義和: 特定不能の不安症に対する対応: エキスパートコンセンサス. 第54回日本神経精神薬理学会 第34回日本臨床精神神経薬理学会 合同年会. 東京. 2024年5月.
 15. 丸木拓: うつ病治療において双極症の可能性をいかに判断・検討すべきか? 躁的因子を有するうつ病の治療. 第54回日本神経精神薬理学会 第34回日本臨床精神神経薬理学会 合同年会. 2024年5月.
 16. 今村弥生: 医学的モデルによる対象理解 精神科診断治療学F5-F9. 精神科認定看護師研修会 オンライン. 2024年5月.
 17. 本間陽一郎, 森永康平, 石黒一美, 今村弥生, 岡崎三枝子: 医療を護るのはAIか, 地に足のついた対話のデザインか~わかるよりも気づきを変える, 対話型鑑賞を体験しよう~. 第15回プライマリ・ケア連合学会学術総会. 浜松. 2024年6月.
 18. 家研也, 森屋淳子, 新野青那, 宮本侑達, 坂田昌嗣, 若林英樹, 喜瀬守人, 相原菜里, 横谷省治, 高島育: JPCAメンタルヘルス委員会 presents 公開ケースカンファレンス~学び合いの時間~. 第15回プライマリ・ケア連合学会学術総会. 浜松. 2024年6月.
 19. 櫻井準, 中嶋雅之, 坪井貴嗣, 野坂忠史, 馬場健次, 渡邊衡一郎, 川上浩司: 先行するうつ病の診断が双極症の転帰に及ぼす影響: レセプトデータを用いたレトロスペクティブコホート研究. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 20. 坪井貴嗣, 中嶋雅之, 櫻井準, 野坂忠史, 馬場健次, 渡邊衡一郎, 川上浩司: 双極性障害に対する薬物治療の変遷: レセプトデータを用いた記述疫学研究. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 21. 渡邊雅子, 櫻井準, 神田優太, 坪井貴嗣, 中島亨, 渡邊衡一郎: 精神疾患を合併する閉塞型睡眠時無呼吸症候群患者の持続陽圧呼吸療法アドヒアランス: 後方視点カルテ調査. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 22. 村尾昌美, 櫻井準, 大江悠樹, 栗原真理子, 長島泉, 早坂友成, 青鹿由紀, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: 難治性うつ病患者における診断と薬剤治療歴の調査. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 23. 持田拓昌, 松本泰幸, 小谷万葉, 山下太誠, 中江佳一朗, 橋本亮幸, 青鹿由紀, 櫻井準, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: 当初精神疾患と考えられたが, 最終的に進行性非流暢性失語と診断した1例. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 24. 渡邊衡一郎: 「患者満足度の高い精神科診療とは?」共同意思決定 (Shared Decision Making: SDM) によって当事者が満足する精神科診療につなげる. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 25. 日吉史一, 藤井猛, 竹田和良, 金田匠海, 久我弘典, 小居秀紀, 鬼頭伸輔, 飯島由佳, 岩田遼, 大庭真梨, 村上桂太郎, 吉見明香, 菊地俊暁, 中尾智博, 渡邊衡一郎, 中込和幸: メンタルヘルスケアシステムKOKOROBOの現状とオンライン相談の実際. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 26. 長島泉, 早坂友成, 星野未来, 照屋浩司, 片桐建志, 今村弥生, 松本泰幸, 村尾昌美, 栗原真理子, 大江悠樹, 吉田信子, 青鹿由紀, 坪井貴嗣, 櫻井準, 渡邊衡一郎: 入院精神疾患患者における退院後の社会活動状況を予測する作業療法要因. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 27. 多田照生, 櫻井準, 岩田祐輔, 久保田正春, 鈴木健文, 渡邊衡一郎: 重度の行動・心理症状を有する認知症患者における抗精神病薬投与量推移の後方視的調査. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 28. 渡邊衡一郎: 「改めて当事者・家族中心の多職種協働を考える~当事者中心の治療・支援の実現に向けて~」パーソナルリカバリーを意識して当事者中心の治療・支援に向ける. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 29. 渡邊衡一郎: 「オンラインメンタルヘルスケアシステムの現在と未来~メンタル・ウェルビーイングを高める仕組み」オンラインメンタルヘルスシステムは市民にどう映るだろうか. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 30. 坪井貴嗣: 職域を中心とした検討すべき精神医療的対応について. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 31. 坪井貴嗣, 中嶋雅之, 櫻井準, 野坂忠史, 馬場健次, 渡邊衡一郎, 川上浩司: 双極性障害に対する薬物治療の変遷: レセプトデータを用いた記述疫学研究. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 32. 坪井貴嗣: 精神科領域における香蘇散の効用を考える. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 33. 坪井貴嗣: 抗精神病薬の薬剤性錐体外路症状について. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 34. 今村弥生: 当事者とともに学ぶ精神医学教育についての考察. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌. 2024年6月.
 35. 坪井貴嗣: 気分症・睡眠障害の難治化に潜むADHD. 令和6年度城西精神科診療所講演会. 東京. 2024年6月.
 36. 坪井貴嗣: 鑑別の難しいうつ病・双極症への実践的対策について考える (心身医学の観点も含めて). 第65回日本心身医学会総会・学術講演会. 東京. 2024

- 年6月.
37. 今村弥生：マンガ「ゴールデンカムイ」の病跡学 異文化を生き回復した帰還兵の物語. 第71回日本病跡学会学術総会. 東京. 2024年7月.
 38. 青木裕見, 高江洲義和, 松本泰幸, 櫻井準, 坪井貴嗣, 岡島義, 立森久照, 駒田陽子, 渡邊衛一郎, Zimmerman M: うつ病の重症度評価および不安性苦痛の特定のための自記式質問紙「日本語版 CUDOS-A」の信頼性・妥当性の検討. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024年7月.
 39. 橋本幸亮, 松本泰幸, 中江佳一朗, 山下大誠, 持田拓昌, 小谷万葉, 渡邊菜保子, 青鹿由紀, 櫻井準, 坪井貴嗣, 中島亨, 渡邊衛一郎: ログチンが奏効した老年期うつ病とストレスレッグス症候群の併発例. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024年7月.
 40. 山下大誠, 松本泰幸, 小谷万葉, 持田拓昌, 中江佳一朗, 橋本幸亮, 青鹿由紀, 櫻井準, 坪井貴嗣, 渡邊衛一郎: うつ病からレビー小体型認知症への移行時に緊張病を呈した一例. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024年7月.
 41. 多田照夫, 内田貴仁, 浦田実, 上野文彦, 松本泰幸, 村尾昌美, 丸木拓, 富田真幸, 坪井貴嗣, 渡邊衛一郎, 櫻井準: 軽症から中等症うつ病に対する非薬物療法の有用性: システマティックレビュー. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024年7月.
 42. 小清水俊行, 村尾昌美, 渡邊菜保子, 長島泉, 早坂有成, 大江悠樹, 栗原真理子, 青鹿由紀, 櫻井準, 坪井貴嗣, 渡邊衛一郎: 多職種による評価で自閉スペクトラム症の併存診断に至った難治例うつ病の一例. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024年7月.
 43. 渡邊衛一郎: 「Difficult to Treat Depression (DTD) を考える」TRDからDTDへ. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 7月.
 44. 渡邊衛一郎: 日本うつ病学会にとってこの1-2年を振り返って. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 7月.
 45. 坪井貴嗣: うつ病のリカバリー達成と難治性うつ病への処方せんはあるのか?. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024年7月.
 46. 坪井貴嗣: 軽症うつ病 (閾値下うつ状態を含む). 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024年7月.
 47. 坪井貴嗣: 診療ガイドラインと資料としての当事者ガイド. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024年7月.
 48. 櫻井準: なぜ, 気分障害で遅発性ジスキネジアなのか?. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024年7月.
 49. 村尾昌美: Difficult to Treat Depression (DTD) を考える. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024年7月.
 50. 坪井貴嗣: 異質性・多様性に富むうつ病へのアプローチ (不安症状を中心に). 第24回日本認知療法・認知行動療法学会 第16回日本不安症学会学術大会合同開催. 福岡. 2024年7月.
 51. 櫻井準: DSM-5うつ病特定用語「不安性の苦痛」をどう考え, いかに関係するか. 第24回日本認知療法・認知行動療法学会 第16回日本不安症学会学術大会合同開催. 福岡. 2024年7月.
 52. 坪井貴嗣: 当事者の望むうつ病治療を実現するために. 令和6年度武蔵野市医師会学術講演会. 武蔵野. 2024年7月.
 53. 中島亨, 神田優太, 圓谷和輝, 櫻井準: 終夜睡眠ポリグラフ検査における抗うつ薬投与の影響. 日本睡眠学会第48回定期学術集会. 神奈川. 2024年7月.
 54. 中島亨, 神田優太, 圓谷和輝, 渡邊雅子, 櫻井準: 抗うつ薬が終夜睡眠ポリグラフ検査に与える影響. 第26回日本薬物脳波学会学術集会. 京都. 2024年7月.
 55. 大江悠樹: 慢性疼痛に対する認知行動療法の例: 心理士による実践から. 第21回整形外科痛みを語る会. 新潟. 2024年7月.
 56. 坪井貴嗣: 当事者の望むうつ病治療を実現するために. 第22回新都心・精神科臨床フォーラム. 東京. 2024年9月.
 57. Maruki T, Tsuboi T, Maeshima H, Tada T, Matsumoto Y, Watanabe K: A Preliminary Cross-Sectional Study of Bipolarity and Primary Pharmacotherapy in Long-Term Stable Patients with Major Depressive Disorder. 37th European Congress of Neuropsychopharmacology (ECNP) Congress. Milano. September. 2024.
 58. 櫻井準: DSM-5うつ病特定用語「不安性の苦痛」をどう考え, いかに関係するか. 第8回日本精神薬学会総会・学術集会. 東京. 2024年9月.
 59. 家研也, 今村弥生, 稲田泰之, 山田恒, 新野青那, 河田祥吾, 宮本侑達: 不安症のエキスパートに学ぶ! プライマリケアにおける「不安」への対応. 第21回プライマリ・ケア連合学会秋季生涯教育セミナー. 大阪. 2024年9月.
 60. 栗原真理子: 摂食障害における, 作業療法を含めた多職種連携の方法. 第27回日本摂食障害学会学術集会. 東京. 2024年9月.
 61. 坪井貴嗣: 双極症のうつ症状に対するルラシドンへの期待 (双極症ガイドラインを踏まえて). 第51回多摩精神科臨床研究会. 三鷹. 2024年10月.
 62. 坪井貴嗣: 当事者の望むうつ病治療を実現するために. 令和6年度東京精神神経科診療所協会例会. 東京. 2024年10月.
 63. 坪井貴嗣: 医療現場におけるメンタルヘルスの課題と対策. 第148回関東東連産科婦人科学会学術総会. 松本. 2024年10月.
 64. 渡邊衛一郎: うつがよくならない時に考えること. 新宿フレンズ家族会. 東京. 2024年11月.
 65. 渡邊衛一郎: うつ病の治療ゴールを究める-3つのリカバリーの観点から-. 第27回日本精神保健・予防学会学術総会. 2024年11月.
 66. 坪井貴嗣: 異質性・多様性に富むうつ病へのアプローチ (不安症状を中心に). 令和6年度福精診・福精協合同学術講演会. 郡山. 2024年11月.
 67. 坪井貴嗣: 遅発性ジスキネジア啓発の重要性と実臨床における治療戦略. 第23回武蔵野地域精神医療懇話会. 武蔵野. 2024年11月.
 68. 坪井貴嗣: ガイドラインを総合病院でどう活かすか. 第37回日本総合病院精神医学会総会. 熊本. 2024年11月.
 69. 櫻井準: エキスパートコンセンサスを総合病院でどう活かすか. 第37回日本総合病院精神医学会総会. 熊本. 2024年11月.
 70. 相馬貴彦, 渡邊雅子, 浦田実, 橋本幸亮, 石井里佳, 岩崎悠一, 野村泰平, 青鹿由紀, 坪井貴嗣, 櫻井準, 渡邊衛一郎: 自閉, 引きこもりの精査から多系統萎縮症の診断に至った軽度知的発達症の一例. 第37回日本総合病院精神医学会総会. 熊本. 2024年11月.
 71. 大石和史, 丸木拓, 櫻井準, 坪井貴嗣, 中野正寛, 渡邊衛一郎: 下垂体卒中とそれによる低Na血症から

- 精神病症状を呈した1例. 第37回日本総合病院精神医学会総会. 熊本. 2024年11月.
72. 渡邊衡一郎: 気分障害の最近の話題「難治性うつ病の新しい考え方の紹介とそれにどう取り組めば良いのか」. 2024年度NCNP気分障害センターオンライン市民公開講座. オンライン. 2024年12月.
 73. 坪井貴嗣: 産業メンタルヘルスとセルフケア. 第58回日本成人病(生活習慣病)学会学術総会. 東京. 2025年1月.
 74. 坪井貴嗣: 統合失調症維持期薬物療法をいかに適正にするか(ガイドラインと薬理学を中心に考える). 令和6年度松沢病院精神薬理学講座. 東京. 2025年2月.
 75. 今村弥生, 喜瀬守人, 香田将英, 新野青那, 森屋淳子, 山田隆一, 横谷省治, 若林英樹: 総合診療の中の神経発達症 Up to Date. 第20回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー. 広島. 2024年2月.
 76. 今村弥生: ルフィのレジリエンス マンガONE PIECEから学ぶADHD特性の活かし方. 日本ADHD学会第16回総会. 東京. 2025年3月.
 77. 坪井貴嗣: 精神科臨床でいかに漢方治療を用いるか. 令和6年度埼玉精神神経科診療所協会. さいたま. 2025年3月.
 78. 石井里佳, 渡邊雅子, 岩崎悠一, 野村泰平, 相馬貴彦, 橋本幸亮, 浦田実, 青鹿由紀, 櫻井準, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: 入院治療を契機にひきこもりを脱した思春期統合失調症の一例. 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.
 79. 越智紳一郎, 小高文總, 長谷川尚美, 坪井貴嗣, 大井一高, 五十嵐俊, 福本健太郎, 伊賀淳一, 村岡寛之, 飯田仁志, 田形弘実, 柏木宏子, 沼田周助, 松本純弥, 上野修一, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太, 古郡規雄: クロザピン処方体制と治療抵抗性統合失調症に関する診断の有無が抗精神病薬単剤療法率に及ぼす影響. 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.
 80. 多田照生, Wang K, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎, 櫻井準: うつ病に対するセルフヘルプ心理療法の有用性: システマティックレビュー. 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.
 81. 竹山直希, 松本泰幸, 圓谷和輝, 北田農人, 梶山貴史, 小清水俊行, 國部亜希, 青鹿由紀, 櫻井準, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: 軽度知的発達症の若年女性に対してDecision Aidsを用いた社会的支援を行った一例. 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.
 82. 下山彩里成, 村尾昌美, 星あゆむ, 三木結貴, 山下赳史, 中江佳一郎, 大原光人, 青鹿由紀, 野崎和博, 櫻井準, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: 心理教育と行動療法により社会復帰を果たした, 神経発達症とゲーム行動症を併存するひきこもりの一例. 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.
 83. 北田農人, 圓谷和輝, 櫻井準, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎, 中島亨: 睡眠障害に対する社会的支援と合理的配慮について検討した特発性過眠症の一例. 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.
 84. 長島泉, 早坂友成, 西崎亜美, 星野未来, 照屋浩司, 片桐建志, 今村弥生, 松本泰幸, 村尾昌美, 栗原真理子, 大江悠樹, 吉田信子, 青鹿由紀, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎, 櫻井準: 入院精神疾患患者における社交不安と関連要因. 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.
 85. 村岡寛之, 越智紳一郎, 今村弥生, 市橋香代, 田形弘実, 柏木宏子: EGUIDEプロジェクト 自殺念慮のあるうつ病患者の対応方法. 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.
 86. 渡邊衡一郎: 多様化する社会の今, 我々はどう対応するか. 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.
 87. 渡邊衡一郎: 「当事者たちが語る, 双極症と付き合いながらの働き方・生き方」双極症におけるパーソナルリカバリー“POETIC”について考える. 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.
 88. 長島泉, 早坂友成, 西崎亜美, 星野未来, 照屋浩司, 片桐建志, 今村弥生, 松本泰幸, 村尾昌美, 栗原真理子, 大江悠樹, 吉田信子, 青鹿由紀, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎, 櫻井準: 入院精神疾患患者における社交不安と関連要因. 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.
 89. 豊田彩香, 坪井貴嗣, 大江悠樹, 加藤典子, 細越寛樹, 伊藤正哉, 久我弘典, 渡邊衡一郎: 統一プロトコルを用いて身体症状を伴う不安が改善し就労に至ったうつ病患者の一例. 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.
 90. 坪井貴嗣: リカバリーを目指すうつ病治療戦略(Decision Aidをいかに用いるか). 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.
 91. 坪井貴嗣: 精神科主治医と産業医の視点の違い(何が一緒で何が違って何が必要か?). 第43回日本社会精神医学会. 東京. 2025年3月.

論文

1. Nagano M, Susuta Y, Masui H, Watanabe Y, Watanabe K: Efficacy and Safety of Valbenazine in Japanese Patients With Tardive Dyskinesia and Schizophrenia/Schizoaffective Disorder or Bipolar Disorder/Depressive Disorder: Primary Results and Post Hoc Analyses of the J-KINECT Study. *J Clin Psychopharmacol.* 2024;44(2):107-116. doi: 10.1097/JCP.0000000000001811.
2. Matsumoto Y, Sakurai H, Aoki Y, Takaesu Y, Okajima I, Tachimori H, Muraio M, Maruki T, Tsuboi T, Watanabe K: Assessing the Quick Inventory of Depressive Symptomatology Self-Report scores to predict continuous employment in mood disorder patients. *Front Psychiatry.* 2024;15:1321611. doi:10.3389/fpsy.2024.1321611.
3. 渡邊衡一郎, 渡邊雅子: 【Measurement Based Careのススメ-忙しい臨床で評価するには】うつ病におけるMeasurement Based Care(MBC)を実践しやすくするには. *臨床精神薬理.* 27巻(4). 323-331. 2024.
4. Nakamura T, Furihata R, Hasegawa N, Kodaka F, Muraoka H, Ichihashi K, Ochi S, Numata S, Tsuboi T, Makinodan, M Iida H, Onitsuka T, Kashiwagi H, Takeshima M, Hashimoto N, Nagasawa T, Usami M, Yamagata H, Takaesu Y, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yamada H, Hori H, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R, Yasui-Furukori N: The effect of education regarding treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders on psychiatrists' hypnotic medication prescribing behavior: a multicenter study. *BMC Psychiatry.* 2024;24(1):399. doi: 10.1186/s12888-024-05816-x.
5. Aoki Y, Takaesu Y, Matsumoto Y, Sakurai H, Tsuboi T, Okajima I, Tachimori H, Komada Y, Watanabe K, Zimmerman M: A psychometric analysis of the Japanese version of the clinically

- useful depression outcome scale supplemented with questions for the DSM-5 anxious distress specifier (CUDOS-A). *Neuropsychopharmacol Rep.* 2024;44(3):526-533. doi: 10.1002/npr2.12432.
6. Takeshima M, Sakurai H, Inada K, Aoki Y, Ie K, Kise M, Yoshida E, Matsui K, Utsumi T, Shimura A, Okajima I, Kotorii N, Yamashita H, Suzuki M, Kuriyama K, Shimizu E, Mishima K, Watanabe K, Takaesu Y: Treatment strategies for insomnia in Japanese primary care physicians' practice: A Web-based questionnaire survey. *BMC Prim Care.* 2024;25(1):219. doi: 10.1186/s12875-024-02449-7.
 7. Tada T, Suzuki T, Iwata Y, Kubota M, Watanabe K, Sakurai H: A Trajectory of Long-Term Antipsychotic Medication Dosage in Inpatients with Severe Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia: A Retrospective Study. *Pharmacopsychiatry.* 2024;57(6):275-282. doi: 10.1055/a-2336-3317.
 8. Sakurai H, Nakashima M, Tsuboi T, Baba K, Nosaka T, Watanabe K, Kawakami K: Effect of prior depression diagnosis on bipolar disorder outcomes: A retrospective cohort study using a medical claims database. *Neuropsychopharmacol Rep.* 2024;44(3):591-598. doi: 10.1002/npr2.12457.
 9. Murao M, Matsumoto Y, Mariko K, Oe Y, Nagashima I, Hayasaka T, Tsuboi T, Watanabe K, Sakurai H: Sociodemographic and clinical characteristics of suspected difficult-to-treat depression. *Front Psychiatry.* 2024;15:1371242. doi: 10.3389/fpsy.2024.1371242.
 10. Kato T, Ogasawara K, Motomura K, Kato M, Tanaka T, Takaesu Y, Nio S, Kishi T, So M, Nemoto K, Suzuki E, Watanabe K, Matsuo K: JSMD Bipolar Disorder Guidelines Revision Working Group; JSMD Bipolar Disorder Committee; JSMD Guidelines Committee. Practice Guidelines for Bipolar Disorder by the JSMD (Japanese Society of Mood Disorders). *Psychiatry Clin Neurosci.* 2024;78(11):633-645. doi: 10.1111/pcn.13724.
 11. Kanata T, Takeda K, Fujii T, Iwata R, Hiyoshi F, Iijima Y, Nakao T, Murayama K, Watanabe K, Kikuchi T, Mimura M, Yoshimi A, Hishimoto A, Hirata H, Ozaki N, Kito S, Kuga H, Oba M, Oi H, Nakagome K: Gender differences and mental distress during COVID-19 a cross-sectional study in Japan. *BMC Psychiatry.* 2024;24(1):776. doi: 10.1186/s12888-024-06200-5.
 12. 渡邊 衡一郎, 村尾昌美: 【「難治例」の臨床—治療に難渋する時の診断, 治療, そして予防】難治性うつをどう考えるか. *精神医学.* 66巻(11). 1390-1400. 2024.
 13. 日吉 史一, 菊地 俊暁, 高田 みほ, 竹田 和良, 金田 匠海, 下條 杏納, 飯島 由佳, 岩田 遼, 藤井 猛, 大庭 真梨, 小居 秀紀, 鬼頭 伸輔, 久我 弘典, 吉見 明香, 渡邊 衡一郎, 村山 桂太郎, 中尾 智博, 中込 和幸: 「新しい技術を用いた精神医療の可能性」遠隔メンタルシステムKOKOROBOの開発. *最新精神医学.* 30巻(1). 3-9. 2025.
 14. Urata M, Sakurai H, Ueno F, Maruki T, Tada T, Uchida T, Matsumoto Y, Murao M, Tomita M, Baba H, Kato M, Tsuboi T, Watanabe K: Efficacy of Pharmacological Interventions in Milder Depression: A Systematic Review and Meta-Analysis. *Neuropsychopharmacol Rep.* 2025;45(1):e70008. doi: 10.1002/npr2.70008.
 15. 渡邊 衡一郎, 坪井 貴嗣, 松浦 秀俊, ゆま: 当事者とともに気分症のリカバリーについて考える. *精神科臨床Legato.* 2024; 10 (1): 4-11.
 16. 坪井 貴嗣: 双極Ⅱ型障害うつ病相寛解後の抗うつ薬継続. *The Mainichi Medical Journal.* 2024; 20 (19): 12.
 17. 松本 泰幸, 坪井 貴嗣: うつ病への就労支援. *日本社会精神医学会雑誌.* 2024; 33 (2) 154-161.
 18. 坪井 貴嗣: 統合失調症診療におけるEBM普及推進の意義について. *日本精神科病院協会雑誌.* 2024; 43 (6): 6-11.
 19. 丸木 拓, 坪井 貴嗣: 向精神薬服用患者の便秘診療. *治療.* 2024; 106 (8), 894-897.
 20. Nagashima I, Hayasaka T, Teruya K, Hoshino M, Murao M, Matumoto Y, Maruki T, Katagiri T, Imamura Y, Kurihara M, Oe Y, Tsuboi T, Watanabe K, Sakurai H: Factors encouraging participation in social activities after hospital discharge in people with severe mental illness who received occupational therapy. *Front Psychiatry.* 2024;15:1421390. doi: 10.3389/fpsy.2024.1421390.
 21. 坪井 貴嗣: 第54回日本神経精神薬理学会/第34回日本臨床精神神経薬理学会合同年会. *精神科臨床Legato.* 2024; 10 (2): 138-139.
 22. 坪井 貴嗣: 双極症～レジデントに役立つ臨床の最前線での診断や治療の極意!～治療の基本治療導入. *精神科Resident.* 2024; 5 (2): 108-110.
 23. Hayasaka T, Nagashima I, Hoshino M, Teruya K, Matumoto Y, Murao M, Maruki T, Watanabe M, Katagiri T, Imamura Y, Kurihara M, Oe Y, Takaesu Y, Tsuboi T, Watanabe K, Sakurai H: Discriminant analysis of occupational performance characteristics in patients with major depressive disorders and healthy individuals. *PCN Rep.* 2024;3(4):e70038. doi: 10.1002/pcn5.70038.
 24. Tokumitsu K, Sugawara N, Adachi N, Kubota Y, Watanabe Y, Miki K, Azekawa T, Edagawa K, Katsumoto E, Hongo S, Goto E, Ueda H, Kato M, Yoshimura R, Nakagawa A, Kikuchi T, Tsuboi T, Watanabe K, Yasui-Furukori N: Real-world clinical determinants of alcohol dependence in outpatients with bipolar disorder: a multicenter treatment survey for bipolar disorder in psychiatric outpatient clinics with 2,392 participants. *Front Psychiatry.* 2024;15:1434810. doi: 10.3389/fpsy.2024.1434810.
 25. Ochi S, Tsuboi T, Hasegawa N, Hori H, Ichihashi K, Imamura Y, Okada T, Kodaka F, Saito Y, Iga JI, Onitsuka T, Atake K, Ueno SI, Hashimoto R, Yasui-Furukori N: The association between benzodiazepine prescriptions and the risk of laxative use in schizophrenia treatment. *Neuropsychopharmacol Rep.* 2025;45(1):e12499. doi: 10.1002/npr2.12499. Epub 2024 Nov 7.
 26. 丸木 拓, 大石 和史, 坪井 貴嗣: うつ病治療におけるオフラベル使用を考える. *臨床精神薬理.* 2024; 27 (12). 1291-1298.
 27. Takekita Y, Suwa T, Yasuda K, Kawashima H, Omori W, Kurimoto N, Tsuboi T, Noda T, Aoki N, Wada K, Inada K, Takebayash M: Expert

Consensus Development Working Group; Electroconvulsive Therapy Committee; Japanese Society of General Hospital Psychiatry. Approaches for difficult-to-induce-seizures electroconvulsive therapy cases (DEC): a Japanese expert consensus. *Ann Gen Psychiatry*. 2025;24(1):2. doi: 10.1186/s12991-024-00543-9.

28. 坪井貴嗣：医療ガイドラインの普及で何が変わりますか？. *こころの元気+*. 2025 ; 19 (1) : 30-31.
29. Tsuboi T, Nakayama T, Horie J, Tokuda F, Moriguchi Y, Hoshino T: A survey of patient-physician communication regarding treatment prospects and goal setting in the management of major depressive disorder in Japan. *BMC Psychiatry*. 2025;25(1):255. doi: 10.1186/s12888-025-06606-9.
30. Sakurai H, Noma H, Watanabe K, Uchida H, Furukawa TA : Cumulative remission rate after sequential treatments in depression: reappraisal of the STAR*D trial data. *World Psychiatry*. 2024. 23. 156-157.
31. 櫻井準:抗うつ薬の使い分け. *臨床精神薬理*. 28(3). 257-264. 2025.
32. 大江悠樹, 渡邊衡一郎: 双極症を抱えながら働くための支援. *こころの科学*. 238. 42-46. 2024.
33. 今村弥生: プライマリ・ケアでみる睡眠の悩み 総論 睡眠治療のアップデート 睡眠薬長期服用者への対応について. *治療*. 106(4). 400-401. 2024.
34. 今村弥生: 続・Quality Indicatorの実装とその改善 日々の診療に役立つ診療評価指標 不安の評価指標ープライマリ・ケアにおける不安診療のQuality Indicatorの葛藤. *Medicina*. 61(11). 1925-1931. 2024.
35. Ito M, Katayanagi A, Miyamae M, Inomata T, Takagishi Y, Kikuchi A, Makino M, Matsuda Y, Yamaguchi K, Nakayama C, Kaneko K, Yokoyama C, Imamura F, Kanie A, Oba M, Tanaka S, Nakajima S, Narisawa T, Akutsu K, Konno R, Oe Y, Hirabayashi N, Furukawa TA, Resick PA, Horikoshi M : Cognitive Processing Therapy for Posttraumatic Stress Disorder in Japan: A Randomized Clinical Trial. *JAMA Netw Open*. 2025.8(2) e2458059.
36. Matsui K, Utsumi T, Aoki Y, Maruki T, Takeshima M, Takaesu Y : Human-Comparable Sensitivity of Large Language Models in Identifying Eligible Studies Through Title and Abstract Screening: 3-Layer Strategy Using GPT-3.5 and GPT-4 for Systematic Reviews. *J Med Internet Res*. 2024;26:e52758. doi: 10.2196/52758.
37. Maruki T, Takeshima M, Yoshizawa K, Maeda Y, Otsuka N, Aoki Y, Utsumi T, Matsui K, Tajika A, Takaesu Y : Efficacy and safety of each class of sleep medication for major depressive disorder with insomnia symptoms: A systematic review and meta-analysis of double-blind randomized controlled trials. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2025. doi: 10.1111/pcn.13811. Epub ahead of print.
38. 松本泰幸: 休職・復職はどの様に判定すべきか うつ病の復職判断はどうすべきか(解説). *日本社会精神医学会雑誌*. 2025; 34巻1号 : 94-98.

著 書

1. 渡邊衡一郎(分担執筆): 第2章各論 6統合失調症. 実践 シェアード・ディシジョンメイキング改題改訂第2版. 中山健夫, 藤本修平 編集. 日本医事新報社. 2024. 171-178.

訂第2版. 中山健夫, 藤本修平 編集. 日本医事新報社. 2024. 171-178.

2. 渡邊衡一郎(分担執筆): 第2章各論 7うつ病. 実践 シェアード・ディシジョンメイキング改題改訂第2版. 中山健夫, 藤本修平 編集. 日本医事新報社. 2024. 179-187.
3. 渡邊衡一郎(分担執筆): 第2章 いまはこうする! ガイドラインのトリセツ 4. うつ病. 月間薬事10月臨時増刊号 向精神薬のエビデンスベースドプラクティス. 橋本亮太, 井出健太 編集. じほう. 2024. 59-66.
4. 渡邊衡一郎(分担執筆): 精神疾患 難治性うつ病(治療抵抗性うつ病). *今日の治療指針* 2025. 医学書院, 2025. 1049-1051.
5. 渡邊衡一郎(分担執筆): 抗精神病薬 抗うつ薬 その他, 抗不安薬 睡眠薬. *今日の治療薬 2025解説と便覧*. 南江堂. 2025. 859-901, 902-921.
6. 坪井貴嗣(分担執筆): A30, A47, B20, C24, E43-44, F25. 第118回医師国家試験問題解説. 国試対策問題編集委員会 編集. メディックメディア. 2024.
7. 坪井貴嗣(分担執筆): 治療 薬物療法. *こころの健康が見える*. 医療情報科学研究所 編集. メディックメディア. 2024. 378-397.
8. 櫻井準(分担執筆): 神経疾患と精神症状. *精神科研修ノート改訂第3版*. 笠井清登, 村井俊哉, 内田裕之, 近藤伸介, 大島紀人, 永井良三. 診断と治療社. 東京. 2024. 532-538.
9. 櫻井準(分担執筆): 不安症. 服薬指導・疑義照会・症例報告に役立つ精神科の手引き. 椎崇. メジカルビュー社. 2024. 170-176.
10. 菅さくら, 今村弥生(分担執筆): 3. はたらく世代のメンタルヘルス (3)仕事を休んでいる間の関わり. プライマリ・ケア医のための働く世代のみかた. 日本プライマリ・ケア連合学会 監修, 安藤明美 編集. 南山堂. 2024. 180-187.
11. 今村弥生(分担執筆): 2. 地方の二次救急CQ57 問診で希死念慮を聴取した患者を紹介する実際のタイミングは?. 救急対応のエビデンス・エクスペリエンスをぎゅうっとまとめました. 坂本壮ら編. メジカルレビュー社. 2024. 207-209.
12. 大江悠樹(翻訳): うつと不安への認知行動療法の統一プロトコル セラピストガイド 改訂第2版. 診断と治療社. 2024.
13. 大江悠樹(翻訳): うつと不安への認知行動療法の統一プロトコル ワークブック 改訂第2版. 診断と治療社. 2024.

その他

1. 櫻井準: 先行するうつ病の診断が双極症の転帰に及ぼす影響: レセプトデータを用いたレトロスペクティブコホート研究. *日本精神神経学会学術総会優秀発表賞*. 2024年6月.

小児科学教室

講 演

学会・研究会

1. 柳下康博, 濱野翔, 木村俊彦, 濱野祥子, 森久保美保, 川原亜友美, 那須ゆかり, 増古康子, 川口明日香, 成田雅美: 卵黄による食物蛋白誘発胃腸症患者でも卵白を完全除去する必要はない. 第127回日本

- 小児科学会学術集会．福岡．2024年4月．
2. 大竹由起, 木内善太郎, 窪田仰, 小川晃汰, 三井清誉, 増古康子, 宮田世羽, 保崎明, 成田雅美: 腹膜炎を契機に血球貪食性リンパ組織球症を発症した13トリソミーの一例. 第127回日本小児科学会学術集会. 福岡. 2024年4月.
 3. 山本有希, 宮澤永尚, 保崎明, 加勢田正人, 荻原瑛由美, 大久保結子, 安藤理恵, 成田雅美: 心室中隔欠損症の経過観察中に発熱と左膝関節炎を呈し肺炎球菌による敗血症性肺塞栓症を発症した2歳女児例. 第127回日本小児科学会学術集会. 福岡. 2024年4月.
 4. 宮田世羽: 小児ジストニアの治療アルゴリズム. 第66回日本小児神経学会学術集会. 名古屋. 2024年5月.
 5. 早川桜子, 瀧浦俊彦, 柳下康博, 長堀由香里, 宮澤永尚, 吉野浩, 成田雅美: 初回のワクチン接種後に発症した免疫性血小板減少症の一例. 第140回多摩小児科臨床懇話会. 三鷹市. 2024年7月.
 6. 後藤健太, 長谷川典子, 小林智恵, 中野瑛子: 診断に注意を要した甲状腺疾患4例. 第140回多摩小児科臨床懇話会. 三鷹市. 2024年7月.
 7. 木村俊彦, 那須ゆかり, 花井彩江, 小林英資, 下田由莉江, 原田匠, 吉田憲司, 石河晃, 細井健一郎, 成田雅美: 気管軟化症を有した先天性表皮水疱症単純型Dowling-Meara型の一例. 第48回日本小児皮膚科学会学術大会. 東京. 2024年7月.
 8. 成田雅美: 乳幼児のアトピー性皮膚炎治療. 第48回日本小児皮膚科学会学術大会. 東京. 2024年7月.
 9. 成田雅美: アレルギー疾患の発症予防 日常診療でどこまで言っているの?. 第40回日本小児臨床アレルギー学会学術大会. 大阪. 2024年7月.
 10. 鴫田雅俊, 細井健一郎, 成田雅美: NAVAからの抜管の指標としてRSSは有用か?. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪. 2024年7月.
 11. 木村俊彦, 西條智子, 花井彩江, 那須ゆかり, 細井健一郎, 成田雅美, 緒方公平, 原田匠, 増本健一: 気管軟化症を伴った先天性表皮水疱症の一例. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪. 2024年7月.
 12. 成田雅美: アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2021～ガイドラインの行間を読む～. 第40回小児臨床アレルギー学会学術大会. 大阪. 2024年7月.
 13. 小澤悠里, 菊池一仁, 笹川彩, 細井健一郎, 成田雅美, 楠田聡: 新生児集中治療室 (NICU) 入室児へのベビーモニター導入におけるランダム化比較研究. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪. 2024年7月.
 14. 柳下康博, 濱野翔, 木村俊彦, 濱野祥子, 森久保美保, 川原亜友美, 那須ゆかり, 増古康子, 川口明日香, 成田雅美: 乳児の卵黄による食物蛋白誘発胃腸症患者でも卵白は食べた方が良いかもしれない. 第40回日本小児臨床アレルギー学会学術大会. 大阪. 2024年7月.
 15. 笹川彩, 菊池一仁, 小澤悠里, 細井健一郎, 成田雅美, 楠田聡: NICU入室児のベビーモニター導入における家族の不安への影響および家族イメージの変化 (ランダム化比較研究). 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪. 2024年7月.
 16. 菊池一仁, 小澤悠里, 細井健一郎, 成田雅美, 楠田聡: 新生児集中治療室 (NICU) 入室児へのベビーモニター導入における医療者と家族の思い. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪. 2024年7月.
 17. 田中絵里子: ポドサイトの発生と傷害時の分子機能. 第32回発達腎研究会. オンライン. 2024年8月.
 18. 木内善太郎, 野津寛大, 楊國昌, Harald Jüppner: 偽性副甲状腺機能低下症II型を呈し非ステロイド性抗炎症薬が奏功したBartter症候群I型の一例. 第32回発達腎研究会. オンライン. 2024年8月.
 19. 成田雅美: 小児アトピー性皮膚炎の病態からみた早期治療の重要性. 第73回日本アレルギー学会学術大会. 京都. 2024年10月.
 20. 鴫田雅俊: 超早産児のNIV-NAVA使用での抜管時期の検討. 第68回日本新生児成育医学会学術集会. 松本. 2024年11月.
 21. 栗林加奈子, 宮澤永尚, 宮田世羽, 森久保美保, 大久保結子, 窪田仰, 平岡修, 山岡寛範, 伊藤夏美, 吉野浩, 成田雅美: 初発の有熱時発作からPCDH19関連症候群の診断に至った女児例. 第141回多摩小児科臨床懇話会. 三鷹市. 2024年11月.
 22. 野村賢太郎, 大竹由起, 加勢田正人, 木村恵理子, 呉亜沙美, 渡邊雅慧, 西條智子, 高橋昌兵, 羽田伊知郎, 倉山亮太, 楊國昌: マイコプラズマによる血管炎の一例. 第141回多摩小児科臨床懇話会. 三鷹市. 2024年11月.
 23. 野村賢太郎, 田中絵里子, 木内善太郎, 成田雅美: 急性増悪時に補体低下と腎機能障害を呈した遺伝性腎疾患の一例. 第45回日本小児腎不全学会学術集会. 東京. 2024年12月.
 24. 成田雅美: 食物アレルギーのアナフィラキシーは予防できるか. 第12回日本アレルギー学会関東地方会. 東京・オンライン. 2024年12月.
 25. 吉橋誠人, 早川桜子, 後藤健太, 吉田瑠莉, 窪田仰, 大久保結子, 森久保美保, 宮澤永尚, 渡邊佳子, 浮山越史, 柴山隆宏, 成田雅美: 活気不良・便秘異常を契機に早期診断したシトリン欠損症の1か月女児例. 第142回多摩小児科臨床懇話会. 三鷹市. 2025年2月.
 26. 野村賢太郎, 大竹由起, 加勢田正人, 木村恵理子, 呉亜沙美, 渡邊雅慧, 西條智子, 高橋昌兵, 羽田伊知郎, 倉山亮太, 楊國昌: 当院で経験した新生児細菌性髄膜炎3例の検討. 第142回多摩小児科臨床懇話会. 三鷹市. 2025年2月.
 27. 成田雅美: 小児アレルギー疾患の発症予防とアレルギーマーチ. 第95回日本衛生学会学術総会. さいたま市. 2025年3月.
- 国際学会**
1. Tanaka E: IgA Vasculitis and IgAV Nephritis in Children: Based on a National Survey and Guidelines in Japan. The 20th China-Japan-Korea Pediatric Nephrology Seminar. China. April. 2024.
- 講演会**
1. 成田雅美: アトピー性皮膚炎. 日本小児臨床アレルギー学会 小児アレルギーエデュケーター オンライン基礎講習. オンライン. 2024年5月-8月.
 2. 成田雅美: アレルギーセンターの歩み. 小児アレルギーエキスパートカンファレンス. 東京. 2024年5月.
 3. 成田雅美: 小児アレルギー疾患～従来の常識を覆す臨床研究の面白さ～. 第20回医学生・若手医師のための小児科診療最前線. 大阪. 2024年6月.
 4. 成田雅美: アレルギー疾患の発症予防 日常診療でどこまですすめられるか?. 多摩小児科懇話会. 狛江

市。2024年9月。

5. 鴫田雅俊：NAVAの基本 実際の症例。第1回Super NAVA ナース養成塾。東京。2024年9月。
6. 成田雅美：アレルギーマーチを見据えたアトピー性皮膚炎の外用療法～モイゼルト軟膏の臨床における活かし方～。府中市医師会学術講演会。府中市。2024年10月。
7. 成田雅美：知っておきたい食物アレルギーの基礎知識。東京都保健医療局 飲食店における食物アレルギー対策の支援に係る講習会。オンライン。2024年11月。
8. 成田雅美：小児アトピー性皮膚炎の病態とかゆみ治療の重要性。第4回小児アトピー性皮膚炎地域連携セミナーin宮城。オンライン。2024年11月。
9. 成田雅美：「小児のためのアトピー性皮膚炎の予防と治療の手引き～小児アトピー性皮膚炎治療・管理ガイドライン (PADGL) 2024～」のポイント～リンヴォックを含めて～。第31回栃木県小児アレルギー・感染免疫研究会学術講演会。宇都宮。2024年12月。
10. 成田雅美：「小児のためのアトピー性皮膚炎の予防と治療の手引き」の行間を読む。第22回西間会。筑紫野市。2025年1月。
11. 成田雅美：小児アトピー性皮膚炎の最新治療と今後の病診連携～PADBL2024を踏まえて～。アトピー性皮膚炎治療Web Live Seminar。オンライン。2025年2月。
12. 成田雅美：これからのアトピー性皮膚炎の治療戦略～各ガイドライン改訂をふまえて～。福島小児ADセミナー2025。福島市。2025年2月。

一般向け公開講座等

1. 成田雅美：小児アレルギー疾患とアレルギーマーチ～食物アレルギーへの適切な対応～。第96回アトピー性皮膚炎・小児食物アレルギー・喘息講演会とQ&A専門医が伝えるアレルギー治療の変化 日本アレルギー友の会。東京。2024年5月。
2. 成田雅美：食物アレルギーについての正しい知識と対応。WEB市民公開講座 解決できるの?アレルギー～アトピー性皮膚炎や食物アレルギーのお悩みを中心に～。オンライン。2025年1月。
3. 成田雅美：アレルギー基礎知識と保育所などにおける対応。藤井寺市こども園・保育所職員研修会。オンライン。2025年1月。

論文

英語論文

1. Iio M¹, Nagata M¹, Narita M² (¹Department of Nursing, College of Nursing, Kanto-Gakuin University, ²Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine): Factors associated with positive mental health in Japanese young adults with a history of chronic diseases during childhood: A qualitative study. *J Pediatr Nurs*. 2024; 76:e9-e18. DOI: 10.1016/j.pedn.2024.01.012.
2. Kajita N¹, Kusakawa G¹, Hirao K¹, Yokoyama S¹, Morikawa E¹, Morita K¹, Narita M^{1,2}, Yoshida K¹ (¹Department of Allergy, Tokyo Metropolitan Children's Medical Center, ²Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine): High rate of tolerance for quail's egg in hen's egg FPIES patients. *Pediatr Allergy Immunol*. 2024; 35(12):e70009. DOI: 10.1111/pai.70009.

3. Masuko S¹, Inagaki S², Hamabata T¹, Ishii T¹, Nagata N¹, Yamamoto-Hanada K², Fukuie T², Narita M³, Shimosawa T⁴, Ohya Y², Murata T^{1, 5, 6} (¹Animal Radiology, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, ²Allergy Center, National Center for Child Health and Development, ³Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ⁴Department of Clinical Laboratory, International University of Health and Welfare, ⁵Food and Animal Systemics, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, ⁶Veterinary Pharmacology, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo): Urinary Lipid Production Profile of Patients With Food Allergy. *Clin Exp Allergy*. 2025; 55(3): 256-259. doi: 10.1111/cea.14636. Epub.
4. Mori M¹, Ito Y¹, Ishiwada N¹, Ito K¹, Shinjoh M¹, Tsugawa T¹, Funaki T¹, Furuichi M¹, Hoshino T¹, Miyairi I¹, Kondo T², Hinok Ai², Wada M², Okada K³, Korematsu S⁴, Tanuma N⁴, Hasegawa H⁵, Hosoi K⁵, Yoshizaki K⁵, Ishige M⁶ (¹Japanese Society for Pediatric Infectious Diseases, ²Japanese Society of Pediatric Surgeons, ³Japanese Society of Pediatric Pulmonology, ⁴Japanese Society of Child Neurology, ⁵Japan Society for Neonatal Health and Development, ⁶Japanese Society for Inherited Metabolic Diseases): Risks and prevention of severe respiratory syncytial virus infection among infants and children with pulmonary hypoplasia, airway stenosis, congenital esophageal atresia, inborn errors of metabolism, or neuromuscular diseases in Japan. *J Infect Chemother*. 2025; 31(3) :102588. DOI: 10.1016/j.jiac.2024.12.017.
5. Mikami-Saito Y¹, Wada Y¹, Arai-Ichinoi N², Nakajima Y³, Suzuki-Ajihara S⁴, Murayama K⁵, Tanaka T⁶, Numakura C⁷, Hamazaki T⁸, Igarashi N⁹, Esaki H¹⁰, Kagawa R¹¹, Kono T¹², Sawada T¹³, Sawada T¹⁴, Nyuzuki H¹⁵, Hirai H¹⁶, Fumoto S¹⁷, Matsuda J¹⁸, Matsunaga A¹⁹, Maruyama S²⁰, Yamaguchi K²¹, Yoshino M²², Totsune E¹, Kikuchi A¹, Ohura T²³, Kure S¹ (¹Department of Pediatrics, Tohoku University Graduate School of Medicine, ²Department of Pediatrics and Child Health, Nihon University School of Medicine, ³Department of Pediatrics, Fujita Health University School of Medicine, ⁴Department of Pediatrics and Clinical Genomics, Saitama Medical University, ⁵Department of Metabolism, Chiba Children's Hospital, ⁶Department of Pediatrics, National Hospital Organization Hokkaido Medical Center, ⁷Department of Pediatrics, Yamagata University School of Medicine, ⁸Department of Pediatrics, Osaka Metropolitan University Graduate School of Medicine, ⁹Department of Pediatrics, Toyama Prefectural Central Hospital, ¹⁰Department of Pediatrics, Sasebo City General Hospital, ¹¹Department of Pediatrics, Hiroshima University, Graduate School of Biomedical and Health Sciences, ¹²Division of Endocrinology and Metabolism, Saitama Children's Medical Center, ¹³Department of Pediatrics, Faculty of Life Sciences, Kumamoto University, ¹⁴Department of Pediatrics, Izumi City General Hospital,

- ¹⁵Division of Pediatrics, Department of Homeostatic Regulation and Development, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, ¹⁶Department of Pediatrics, Shikoku Central Hospital of the Mutual Aid Association of Public School Teachers, ¹⁷Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ¹⁸Department of Pathophysiology and Metabolism, Kawasaki Medical School, ¹⁹Department of Pediatrics, St. Marianna University School of Medicine, ²⁰Department of Pediatrics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, ²¹Department of Pediatrics, National Hospital Organization Kokura Medical Center, ²²Department of Pediatrics, Kyushu Hospital, Japan Community Healthcare Organization, ²³Division of Clinical Laboratory, Sendai City Hospital): Phenotypic and genetic spectra of galactose mutarotase deficiency: A nationwide survey conducted in Japan. *Genet Med*. 2024; 26(8) :101165. DOI: 10.1016/j.gim.2024.101165.
6. Furukawa S¹, Kato M², Ishiyama A³, Kumada T^{4,5}, Yoshida T⁶, Takeshita E³, Chong PF⁷, Yamanouchi H⁸, Kotake Y⁹, Kyoda T¹⁰, Nomura T¹¹, Miyata Y¹², Nakashima M¹, Saitsu H¹³. (1Department of Biochemistry, Hamamatsu University School of Medicine, 2Department of Pediatrics, Showa University School of Medicine, 3Department of Child Neurology, National Center Hospital, National Center of Neurology and Psychiatry, 4Department of Pediatrics, Shiga Medical Center for Children, 5Kumada Kids-Family Clinic, 6Department of Pediatrics, Kyoto University Graduate School of Medicine, 7Department of Pediatrics, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, 8Department of Pediatrics, Saitama Medical University, 9Department of Pediatrics, The Jikei University School of Medicine, 10Children's Medical Center, Showa University Northern Yokohama Hospital, 11Department of Pediatrics, Kawaguchi Municipal Medical Center, 12Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, 13Department of Biochemistry, Hamamatsu University School of Medicine) : Exploring unsolved cases of lissencephaly spectrum: integrating exome and genome sequencing for higher diagnostic yield. *J Hum Genet*. 2024; 69(12). 629-637. doi: 10.1038/s10038-024-01283-0.
7. Kiuchi Z¹, Tanaka E¹, Nunokawa S¹, Yoshida S¹, Hosaki A¹, Kogure T², Narita M¹ (1Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, 2Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University): Pediatric frequent relapsing nephrotic syndrome with multiple cerebral infarctions accompanied by patent foramen ovale and cerebral venous sinus thrombosis: a case report. *BMC Nephrology*. 2024; 25(1) :146. DOI: 10.1186/s12882-024-03579-x.
8. Yoshida S¹, Tanaka E¹, Kiuchi Z¹, Nunokawa S¹, Kawahara A¹, Iyoda S², Narita M¹ (1Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, 2Department of Bacteriology I, National Institute of Infectious Diseases): O80:H2-Associated

Hemolytic Uremic Syndrome without Hemorrhagic Colitis: A Case Report. *Case Rep Nephrol Dial*. 2024;14(1): 97-103. doi: 10.1159/000539403.

和文論文

原著

- 宮田世羽¹, 小須賀基通², 加藤光広³, 渡邊一樹⁴, 中島光子⁵, 才津浩智⁵, 阿部真麻¹, 大熊こずえ¹, 成田雅美¹ (1杏林大学医学部小児科学教室, 2国立成育医療研究センター遺伝診療科, 3昭和大学医学部小児科学講座, 4浜松医科大学医学部附属病院脳神経内科, 5浜松医科大学医化学講座) : WDR81遺伝子の新規複合ヘテロ接合性バリエーションを認めた小滑脳症の1例. 脳と発達. 57巻1号. 59-61. 2025.
- 窪田仰¹, 宮澤永尚¹, 野村優子¹, 保崎明¹, 増古康子¹, 安藤理恵¹, 渡邊佳子², 浮山越史², 成田雅美¹ (1杏林大学医学部小児科学教室, 2杏林大学医学部小児外科科学教室) : メッケル憩室シンチグラフィにH2ブロッカー前投薬が有効であった18トリソミーの長期生存例. 小児科臨床. 77巻6号. 851-855. 2024.
- 岡田賢^{1,2}, 鳴海覚志^{1,3}, 丸尾良浩^{1,4}, 滝田順子^{1,5}, 大賀正一^{1,6}, 成田雅美^{1,7}, 齋藤昭彦^{1,8}, 真部淳^{1,9} (1小児科チェアパーソンの会, 2広島大学大学院医系科学研究科 小児科学立, 3慶應義塾大学医学部小児科, 4滋賀医科大学小児科学講座, 5京都大学発達小児科学, 6九州学大学院医学研究センター成長発達医学/九州大学病院小児医療センター, 7杏林大学医学部小児科学教室, 8新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野, 9北海道大学大学院医学研究科小児科学教室) : 日本の小児科における入局者, 学位取得者, 海外留学生, 英語論文数の推移. 日本小児科学会雑誌. 129巻3号. 473-476. 2025.
- 佐伯秀久, 大矢幸弘, 荒川浩一, 市山進, 勝沼俊雄, 加藤則人, 田中暁生, 谷崎英昭, 常深祐一郎, 中原剛士, 長尾みづほ, 成田雅美, 秀道広, 藤澤隆夫, 二村昌樹, 益田浩司, 松原知代, 室田浩之, 山本貴和子, 古田淳一, 一般社団法人日本アレルギー学会, 公益社団法人日本皮膚科学会, アトピー性皮膚炎診療ガイドライン策定委員会 : アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2024. アレルギー. 73巻9号. 1025-1125. 2024.
- 佐伯秀久, 大矢幸弘, 荒川浩一, 市山進, 勝沼俊雄, 加藤則人, 田中暁生, 谷崎英昭, 常深祐一郎, 中原剛士, 長尾みづほ, 成田雅美, 秀道広, 藤澤隆夫, 二村昌樹, 益田浩司, 松原知代, 室田浩之, 山本貴和子, 古田淳一, 公益社団法人日本皮膚科学会, 一般社団法人日本アレルギー学会 アトピー性皮膚炎診療ガイドライン策定委員会 : 日本皮膚科学会ガイドライン アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2024. 日本皮膚科学会雑誌. 134巻11号. 2741-2843. 2024.

総説

- 成田雅美 : 【小児の疾患と腸内細菌との関係を探る】 腸内細菌と小児のアレルギー疾患. *Microbiome Science*. 3巻2号. 83-88. 2024.
- 細井健一郎 : 周産期の画像診断 新生児編 X線診断 A. 単純X線診断 (正常像と異常像) 胸部 air leak syndrome. *周産期医学*. 54巻増刊. 391-395. 2024.
- 田中絵里子 : 【臓器別に斬る小児の感染症 最適な抗菌薬の選択と期間とは?】 腎尿路 腎盂腎炎. *小児科診療*. 87巻秋増刊. 214-218. 2024.
- 鴫田雅俊 : 【これでわかる新生児呼吸管理2024】 呼吸管理の実際 ガス NO吸入療法 (解説). *周産期医学*. 54巻6号. 662-666. 2024.
- 鴫田雅俊¹, 菊地一仁² (1杏林大学医学部小児科学教

室, 2杏林大学医学部附属病院) : 【NAVAの"超"入門】NIV-NAVAの使い方(解説). with NEO. 37巻4号. 521-525. 2024.

6. 嶋田雅俊: 【新生児の呼吸管理超ビジュアルガイド】(第3章)赤ちゃんの人工呼吸管理の実際 回路の組み立てからモニタリングまで NAVA・NIV-NAVA赤ちゃんの自発呼吸との同期性に優れたモード(解説). with NEO. 2024秋季増刊. 203-213. 2024
7. 泉名諒¹, 成田雅美² (1万願寺こどもクリニック, 2杏林大学医学部小児科学教室) : 【アトピー性皮膚炎-新旧治療のベストバランス】新しい治療法 全身療法 小児アレルギーエデュケーター (PAE) とアレルギー疾患療養指導士 (CAI) . 小児内科. 57巻1号. 112. 2025.
8. 成田雅美: 小児アレルギー疾患と腸内細菌叢. 杏林医学会雑誌. 56巻1号. 47-49. 2025.

著書

1. 成田雅美 (監修) : 小児のためのアトピー性皮膚炎の予防と治療の手引き 小児アトピー性皮膚炎治療・管理ガイドライン2024. 日本小児皮膚科学会, 一般社団法人日本小児アレルギー学会 編. 協和企画. 2024.

報告書

1. 木内善太郎: 森永奉仕会研究奨励会 研究報告書.

その他

1. 成田雅美: ラジオNIKKEI第一放送マルホ皮膚科セミナー第48回日本小児皮膚科学会乳幼児のアトピー性皮膚炎治療. 3月.
2. 田中絵里子: 第32回発達腎研究会主催. オンライン. 2024年8月.
3. 吉野浩: がん教育授業. 三鷹第三中学校 (3年生). 三鷹. 2025年3月.
4. 宮澤永尚: がん教育授業. 東村山第一中学校 (2年生). 東村山. 2024年11月.
5. 宮沢永尚: がん教育授業. 三鷹中等教育学校 (3年生). 三鷹市. 2024年12月.
6. 宮沢永尚: がん教育授業. 福生第五小学校 (6年生). 福生市. 2025年2月.

消化器・一般外科学教室

講演

1. 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 代田利弥, 磯部聡史, 須並英二: Covid-19が大腸癌診療に与えた影響. 第57回日本成人病学会. 東京. 2024年1月.
2. 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 若松喬, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 代田利弥, 深澤智将, 山内慎一, 杉原健一, 須並英二: StageIV右側大腸癌のリンパ節郭清の現状と問題点. 第100回大腸癌研究会. 東京. 2024年1月.
3. 荻生怜奈, 百瀬博一, 工藤翔平, 蓮井宣宏, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘, 磯谷一暢, 里見介史, 柴原順二: 横行結腸固着部の生検で術前診断を得た慢性胆嚢炎の1切除例. 日本消化器病学会関東支部第378回例会. 東京, 2024年2月.
4. 高木泰介, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: 胃切除後新規同定乳酸菌投与によるdysbiosis改善効果と体重変化-RYGBラットモデルを用いた検討-. 第96回日本胃癌学会

総会. 京都. 2024年2月.

5. 鶴見賢直, 大木亜津子, 高木泰介, 小島洋平, 橋本佳和, 竹内弘久, 阿部展次: 腹腔鏡下胃切除術後の縫合不全に対する内視鏡下ポリグリコール酸シート充填法. 第96回日本胃癌学会総会. 京都. 2024年2月.
6. 橋本佳和, 井手麻友美, 高木泰介, 小島洋平, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: ロボット支援下/腹腔鏡下幽門側胃切除術に対する短期成績の比較検討. 第96回日本胃癌学会総会. 京都市. 2024年2月.
7. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 胃SMTに対する内視鏡的局所切除術の成績. 第96回日本胃癌学会総会. 京都. 2024年3月.
8. 井手麻友美, 大木亜津子, 高木泰介, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 竹内弘久, 阿部展次: 食道ESD後に縦隔気腫から縦隔膿瘍に進展した1例. 第9回ESD研究会. 京都. 2024年3月.
9. 本多五奉, 吉敷智和, 片岡功, 磯部聡史, 金翔哲, 若松喬, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 磯村杏耶, 藤原正親, 柴原純二, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 虫垂上行結腸瘻をきたした虫垂癌の1例. 第60回日本腹部救急医学会. 北九州. 2024年.
10. 吉野尚隆, 高木理子, 船越早織, 朽名貴史, 工藤翔平, 川口翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: 腹腔鏡下胆嚢摘出術中に急性膵炎を発症した膵・胆管合流異常の1例. 第871回外科集談会. 東京. 2024年3月.
11. 工藤翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: 限局性肝内胆管拡張の3切除例. 第106回城西外科研究会. 東京. 2024年3月.
12. 蓮井宣宏, 深沢智将, 工藤翔平, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: 正中弓状靱帯による腹腔動脈への強い圧排を有する症例に対する膵頭十二指腸切除. 肝胆膵外科・消化器内科合同カンファレンス. 三鷹. 2024年3月.
13. Suzuki Y: Short- and Long-term outcomes for secondary hepatolithiasis: Analysis from a nationwide cohort survey. Biliary 3. Management of postoperative biliary complications. The 33th Annual Meeting the Asian Pacific Association for the Study of the Liver. Kyoto. March. 2024.
14. Sakamoto Y, Momose H, Okano N, Matsuki R, Hasui N, Kogure M, Suzuki Y, Hironaka S: Impact of surgical resection of initially unresectable HCC after LEN or ATZ+BEV treatment. The 33th Annual Meeting the Asian Pacific Association for the Study of the Liver. Kyoto. March. 2024.
15. 小島洋平, 田中良太, 鶴見賢直, 吉敷智和, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 米国式ビギナートレーニング向けの外科基本手技短期集中トレーニングローテーションの有用性. 第124回日本外科学会定期学術集会. 常滑市. 2024年4月18日.
16. 竹内弘久, 佐藤大, 齋藤康一郎, 阿部展次: 咽喉頭癌に対する内視鏡的咽喉頭手術(ELPS)の有用性について. 第124回日本外科学会定期学術集会. 常滑市. 2024年4月.
17. 橋本佳和, 大森春佑, 深沢智将, 井手麻友美, 高木泰介, 小島洋平, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 幽門側胃切除術における各種アプローチが炎症惹起に与える影響について. 第124回日本外科学会定期学術集会. 常滑市.

- 2024年4月.
18. 麻生喜祥, 高木泰介, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 大野亜希子, 久松理一, 柴原純二, 村元喬, 大圃研, 香田弘知, 森川鉄平, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 非乳頭部十二指腸腺腫・腺癌における粘液形質別臨床病理学のおよびβ-cateninによる免疫組織化学的検討. 第124回日本外科学会定期学術集会. 常滑市. 2024年4月.
 19. 小嶋幸一郎: 腸活の力~あなたの健康を変える新たな視点~. 東京都社会適応 訓練事業による「消化器系ストーマのオストメイト講習会」. 東京. 2024年4月.
 20. 小島洋平, 田中良太, 高木泰介, 鶴見賢直, 吉敷智和, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 米国式ビギナー向けの外科基本手技短期集中トレーニングローテーションの有用性. 第124回日本外科学会定期学術集会. 常滑市. 2024年4月.
 21. 田中良太, 小島洋平, 吉敷智和, 中里陽子, 近藤晴彦: エビデンスに基づいた外科教育 本学におけるエビデンスに基づく外科教育の取り組み. 第124回日本外科学会定期学術集会. 常滑市. 2024年4月.
 22. 松木亮太, 工藤翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 小暮正晴, 鈴木裕, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 系統的肝切除術施行のためのICG蛍光法を用いた穿刺染色法 (Positive staining法) における肝区域同定成功率にかかわる因子の検討. 第124回日本外科学会定期学術集会. 常滑市. 2024年4月.
 23. 麻生喜祥, 高木泰介, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 大野亜希子, 久松理一, 柴原純二, 村元喬, 大圃研, 香田弘知, 森川鉄平, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 非乳頭部十二指腸腺腫・腺癌における粘液形質別臨床病理学のおよびβ-cateninによる免疫組織化学的検討. 第124回日本外科学会定期学術集会. 常滑市. 2024年4月.
 24. 百瀬博一, 工藤翔平, 川口翔平, 蓮井宣宏, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: 膵頭十二指腸切除におけるBraun吻合の位置とDGEの関連性. 第124回日本外科学会定期学術集会. 常滑市. 2024年4月.
 25. 船越早織, 鈴木裕, 水野英彰, 山崎彩, 工藤翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 膵頭十二指腸切除術における骨格筋脂肪化と術後合併症への影響. 第124回日本外科学会定期学術集会. 常滑市. 2024年4月.
 26. 川口翔平, 工藤翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: Resectable/BR-PV膵癌に対する術前GS療法の効果. 第124回日本外科学会定期学術集会. 常滑市. 2024年4月.
 27. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 成人女性鼠径部嚢胞性腫瘍に対する検討. 第22回日本ヘルニア学会学術集会. 横浜. 2024年5月.
 28. 竹内弘久, 高木泰介, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 放射線治療後の局所遺残・再発食道癌(c T2)に対して光線力学的療法施行した2例. 第105回日本消化器内視鏡学会総会. 東京. 2024年5月.
 29. 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: 早期胃癌に対する先行ESD+腹腔鏡下リンパ節郭清術の長期成績. 第107回日本消化器内視鏡学会総会. 東京. 2024年6月.
 30. 鍵渡宝, 小島洋平, 井手麻友美, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 日比谷孝志, 二階雪野, 長濱清隆, 柴原純二, 阿部展次: 胃癌幽門側胃切除術RY再建後十二指腸断端陽性例に対し十二指腸追加切除を行った1例. 第872回外科集談会. 東京. 2024年6月.
 31. 竹内弘久, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡的切除の治療成績-腹腔鏡下胃局所切除術との比較. 第118回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 東京. 2024年6月.
 32. 代田利弥, 吉敷智和, 金翔哲, 片岡功, 本多五奉, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 須並英二: 結腸切除後と低位前方切除(LAR)後の術後排便排尿障害の評価. 第33回骨盤外科機能温存研究会. 東京. 2024年6月.
 33. Kogure M, Kudo S, Hasui N, Kawaguchi S, Momose H, Matsuki R, Suzuki Y, Sakamoto Y: Portal venous resection and reconstruction (PVR) in hepatectomy with biliary resection -PVR should be performed as the last step of hepatic transection-. 第36回日本肝胆膵外科学会・学術集会. 広島. 2024年6月.
 34. Momose H, Kudo S, Hasui N, Matsuki R, Kogure M, Suzuki Y, Sakamoto Y: Outcome of pancreaticoduodenectomy with vascular reconstruction for pancreatic cancer. 第36回肝胆膵外科学. 広島. 2024年6月.
 35. Hasui N, Fukasawa T, Kudo S, Momose H, Kogure M, Suzuki Y, Sakamoto Y: Disappearance of hepatic arterial flow after division of IPDA during pancreaticoduodenectomy in a patient with celiac axis stenosis. 第36回日本肝胆膵外科学会学術集会. 広島. 2024年6月.
 36. Matsuki R, Omori S, Hasui N, Kudo S, Kawaguchi S, Momose H, Kogure M, Suzuki Y, Sakamoto Y: Impact of new criteria for resectability of HCC on the prognosis of surgical patients with HCC. 第36回日本肝胆膵外科学会学術集会. 広島. 2024年6月.
 37. 竹内弘久, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 食道癌CRT後局所遺残・再発に対してESDを施行した3例. 第78回日本食道学会学術集会. 東京. 2024年7月.
 38. 後藤充希, 鈴木裕, 船越早織, 山崎彩, 工藤翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 森俊幸, 阪本良弘: 腹腔鏡下胆嚢摘出術におけるReduced port surgeryの有用性の検討. 第36回日本小切開・鏡視外科学会. 東京. 2024年7月.
 39. 船越早織, 鈴木裕, 水野英彰, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 骨格筋脂肪化が高年齢膵癌患者に対する膵頭十二指腸切除術の術後成績に与える影響. 第79回日本消化器外科学会総会. 山口. 2024年7月.
 40. 大森春佑, 松木亮太, 工藤翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 小暮正晴, 鈴木裕, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 80歳以上の高齢者切除可能膵癌患者に対するUpfront 膵頭十二指腸切除術の安全な適応. 第79回日本消化器外科学会総会. 山口. 2024年7月.
 41. 工藤翔平, 鈴木裕, 阪本良弘: 明らかな腫瘍形成を伴わない限局性肝内胆管拡張の3切除例. 第79回日本消化器外科学会総会. 山口. 2024年7月.
 42. 大木亜津子, 井手麻友美, 高木泰介, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 秋元義弘, 松村譲児, 長瀬美樹, 阿部展次: 解剖体を用いた食道裂孔から下縦隔食道周囲構造の検討. 第79回日本消化器外科学会総会.

- 下関. 2024年7月.
43. 井手麻友美, 大木亜津子, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 竹内弘久, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 90歳以上超高齢者胃癌症例の手術成績の検討と周術期管理. 第79回日本消化器外科学会総会. 下関. 2024年7月.
 44. 鈴木裕, 後藤充希, 山崎彩, 新井孝明, 吉田智幸, 鍵渡宝, 中里徹矢, 坂田宏樹, 泰正二郎, 阪本良弘: 回避手術への移行を予測する術前因子を用いたノモグラムの開発と精度 - 1898例の後ろ向き多施設研究から. 第79回日本消化器外科学会総会. 山口. 2024年7月.
 45. 松木亮太, 小暮正晴, 大森春佑, 工藤翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 鈴木裕, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 切除不能膵癌に対するConversion surgeryの適応と限界当院480例の膵癌治療経験から. 第79回日本消化器外科学会総会. 山口. 2024年7月.
 46. 百瀬博一, 工藤翔平, 川口翔平, 蓮井宣宏, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: 膵癌に対する血管合併切除・再建を伴う膵頭十二指腸切除の成績. 第79回日本消化器外科学会総会. 山口. 2024年7月.
 47. 小暮正晴, 工藤翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 大量肝切除を企図した門脈塞栓術/ALPPS 1st stage後に^{99m}Tc-GSAシンチを用いた機能的肝再生の評価. 第79回日本消化器外科学会総会. 山口. 2024年7月.
 48. 竹内弘久, 井手麻友美, 小島洋平, 鶴見賢直, 大木亜津子, 阿部展次: 小児に応用可能な内視鏡および外視鏡治療. 第37回日本小児救急医学会学術集会. 三鷹. 2024年7月.
 49. 池田哲也, 関博志, 小野元彰, 里見貴史, 吉敷智和, 十文字菜穂, 金城真美, 長島文夫, 湯本愛実, 手塚里奈, 村田裕康, 川端孝典, 齋藤康一郎: 高齢者における垂直的咬合の欠失と術後合併症発生率の関連性について. 第61回日本外科代謝栄養学会. 大阪. 2024年7月.
 50. 片岡功, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 金翔哲, 代田利弥, 磯部聡史, 須並英二: 高齢者StageIII大腸癌に対する術後補助化学療法の有効性と問題点. 第101回大腸癌研究会学術集会. 名古屋. 2024年7月.
 51. 本多五奉, 吉敷智和, 磯部聡史, 代田俊弥, 金翔哲, 片岡功, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 長島文夫, 廣中秀一, 須並英二: 当院における切除不能大腸癌に対するPembrolizumabの治療成績. 第101回大腸癌研究会学術集会. 名古屋. 2024年7月.
 52. 深沢智将, 吉敷智和, 金翔哲, 片岡功, 本多五奉, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 腹腔鏡下にDST吻合された直腸癌手術における縫合不全リスク因子の検討. 第79回日本消化器外科学会総会. 下関. 2024年7月.
 53. 水野李香, 本多五奉, 吉敷智和, 磯部聡史, 金翔哲, 片岡功, 若松喬, 飯岡愛子, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 双方向からの内視鏡的アプローチにて解除し得た低位前方切除術後の吻合部完全閉塞の1例. 日本消化器病学会関東支部例会. 東京. 2024年7月.
 54. 松木亮太, 小暮正晴, 大森春佑, 工藤翔平, 吉田智幸, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 阪本良弘: 系統的肝切除術施行のための超音波ガイド下門脈穿刺色素注入法における肝区域同定成功率に関わる因子の検討. 第18回肝癌治療ナビゲーション研究会. 東京. 2024年9月.
 55. 工藤翔平, 大森春佑, 吉田智幸, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 阪本良弘: Positive stainingを利用したロボット支援下の系統的S3切除. 第18回肝癌治療ナビゲーション研究会. 東京. 2024年9月.
 56. 蓮井宣宏, 工藤翔平, 吉田智幸, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 阪本良弘: 胆管非拡張型膵・胆管合流異常の短期成績と長期成績. 第47回日本膵・胆管合流異常研究会. 愛知. 2024年9月.
 57. 長手勇樹, 松木亮太, 工藤翔平, 吉田智幸, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 小暮正晴, 林玲匡, 日比谷孝志, 長濱清隆, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 術中診断により拡大手術を回避し得た大腸癌肝転移の一切除例. 第873回外科集談会. 東京. 2024年9月.
 58. 蓮井宣宏, 大森春佑, 工藤翔平, 吉田智幸, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 阪本良弘: 腹腔動脈幹の狭窄が膵頭十二指腸切除後の合併症に与える影響. 第107回城西外科研究会. 東京. 2024年10月.
 59. 竹内弘久, 大木亜津子, 阿部展次: 胃SMTに対する内視鏡的切除後・縫合閉鎖の治療成績. JDDW2024. 神戸. 2024年10月.
 60. 大貫朋也, 吉森恵未, 小林誠, 佐藤範英, 日比谷孝志, 柴原純二, 吉敷智和, 須並英二, 高山信之: 小腸穿孔を合併するも腹腔ドレナージにて加療し, 自家移植を施行し得た単形性上皮向性腸管T細胞リンパ腫. 第86回日本血液学会学術集会. 京都. 2024年10月.
 61. 小島洋平, 田中良太, 井手麻友美, 高木泰介, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: ビギナーを対象とした外科基本手技シミュレーショントレーニングローテーションの効果. JDDW2024. 神戸. 2024年11月.
 62. 竹内弘久, 阿部展次, 井手麻友美, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子: 胃SMTに対するEFTRとLECSの棲み分け. 第28回LECS研究会. 神戸. 2024年11月.
 63. 竹内弘久, 井手麻友美, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 30mm以下/腹腔内発育型胃SMTに対する内視鏡的切除術の妥当性について(腹腔鏡下胃局所切除術との比較検討から). 第17回先進内視鏡治療研究会(J-CASE). 神戸. 2024年11月.
 64. 近藤恵里, 横山政明, 鍵渡宝, 中村康弘, 山口高史, 鈴木裕: 先天性胆道拡張症に合併したいわゆる胆のうがん肉腫の1例. 第22回日本消化器外科学会大会. 神戸. 2024年11月.
 65. 竹内弘久, 井手麻友美, 高木泰介, 小島洋平, 鶴見賢直, 大木亜津子, 阿部展次: 放射線治療後の局所遺残・再発食道癌(cT2)に対する光線力学的療法の成績. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会. 金沢. 2024年11月.
 66. 竹内弘久, 井手麻友美, 小島洋平, 鶴見賢直, 大木亜津子, 阿部展次: 食道ステント胃内脱落に対して内視鏡治療を行った食道癌の2例. 第196回日本胸部外科関東甲信越地方会. 東京. 2024年11月.
 67. 麻生喜祥, 小島洋平, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 大野亜希子, 久松理一, 柴原純二, 村元喬, 大園研, 香田弘知, 森川鉄平, 阪本良弘, 阿部展次: 非乳頭部十二指腸腫瘍 粘液形質別の免疫組織化学的検討. 第7回十二指腸腫瘍の診断と低侵襲治療に関する研究会. オンライン. 2024年11月.
 68. 大森春佑, 若松喬, 里見介史, 磯部聡史, 代田利弥, 金翔哲, 本多五奉, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 吉敷智和, 柴原純二, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 直腸間膜に原発した神経内分泌腫瘍に対して腹腔鏡下に切除した1例. 第28回外科病理学会. 東京. 2024年

- 11月.
69. 後藤充希, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松 喬, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 代田利弥, 深沢智将, 須並英二: 傍ストーマヘルニア発生のリスク因子についての検討. 第86回日本臨床外科学会学術集会. 2024年11月.
 70. 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 若松 喬, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 代田利弥, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 高齢者フレイル因子の術後経時的変化に関する研究-院内全体での取り組み-. 第86回日本臨床外科学会学術集会. 宇都宮. 2024年11月.
 71. 代田利弥, 金翔哲, 磯部聡史, 片岡功, 本多五奉, 若松喬, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 長島丈夫, 廣中秀一, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 切除不能大腸癌Conversion Surgery症例の再発リスク因子・手術時期の検討. 第86回日本臨床外科学会学術集会. 宇都宮. 2024年11月.
 72. 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 代田利弥, 深澤智将, 後藤充希, 須並英二: 合併症低減のための当院でのストーマ造設時の工夫と傍ストーマヘルニアのリスク因子の検討. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会. 横浜. 2024年11月.
 73. 代田利弥, 吉敷智和, 磯部聡史, 金翔哲, 片岡功, 本多五奉, 若松喬, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 小嶋幸一郎, 須並英二: 下部直腸癌手術後長期の排便排尿障害に術前機能が及ぼす影響. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会. 横浜. 2024年11月.
 74. 磯部聡史, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 代田利弥, 後藤充希, 須並英二: クロウン病に合併した痔瘻癌の3例. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会. 横浜. 2024年11月.
 75. 山崎彩, 坂口勝久, 蓮井宣宏, 小川徹也, 阪本良弘, 清水達也: 肝細胞風船様変性の特徴を捉えたin vitro NASHモデルの開発と創薬への応用. 第62回日本人工臓器学会. 宇都宮. 2024年11月.
 76. 工藤翔平, 大森春佑, 吉田智幸, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 林玲匡, 後藤田直人, 柴原純二, 阪本良弘: 盲腸癌術後に左肝管内に発生した乳頭状腫瘍の一切除例. 第28回日本外科病理学会学術集会. 東京. 2024年11月.
 77. 鈴木裕, 船越早織, 斎藤勇利, 高木理子, 工藤翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 片岡功, 近藤恵里, 松木亮太, 小暮正晴, 橋本佳和, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 液晶タブレットを用いたイラスト作成とオペレコの工夫-術前シミュレーションを応用したオペレコの効率化. 第86回日本臨床外科学会学術集会. 宇都宮. 2024年11月.
 78. 工藤翔平, 小暮正晴, 吉田智幸, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 門脈塞栓術およびALPPS 1st stage後のGSAシンチを用いたfunctional ICG-Kremによる残肝機能評価と安全基準. 第86回日本臨床外科学会学術集会. 宇都宮. 2024年11月.
 79. 百瀬博一, 工藤翔平, 吉田智幸, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 門脈腫瘍栓を伴うneuroendocrine tumor G3に対して臍体尾部切除術を行った一例. 第86回日本臨床外科学会学術集会. 宇都宮. 2024年11月.
 80. 松木亮太: 膵癌の早期発見のための検査方法と手術. 第8回医療連携フォーラム. 東京. 2024年11月28日.
 81. 鈴木裕, 船越早織, 水野英彰, 斎藤勇利, 高木理子, 片岡功, 近藤恵里, 百瀬博一, 工藤翔平, 川口翔平, 蓮井宣宏, 松木亮太, 小暮正晴, 橋本佳和, 阿部展次, 須並英二, 阪本良弘: 膵頭十二指腸切除術後成績における骨格筋脂肪化の影響. 第55回日本消化吸収学会総会. 名古屋. 2024年11月30日.
 82. 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 磯部聡史, 代田利弥, 深澤智将, 阪本良弘, 阿部展次, 細井温, 近藤晴彦, 須並英二: 院内全体での手術室医療安全教育への取り組み-FUSEプログラムを中心に-. 第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡. 2024年12月.
 83. 磯部聡史, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 代田利弥, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 当院での潰瘍性大腸炎手術における開腹手術と腹腔鏡手術の比較検証. 第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡. 2024年12月.
 84. 金翔哲, 吉敷智和, 代田利弥, 磯部聡史, 片岡功, 本多五奉, 若松 喬, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: T4b大腸癌術後再発のリスク因子の検討. 第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡. 2024年12月.
 85. 志村亮輔, 麻生喜祥, 吉敷智和, 中山快貴, 磯部聡史, 代田利弥, 金翔哲, 本多五奉, 若松喬, 飯岡愛子, 長濱清隆, 藤原正親, 柴原純二, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 二次性乳房外Paget病を伴う肛門管癌の1例. 第874回外科集談会. 東京. 2024年12月.
 86. 井手麻友美, 小島洋平, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: 85歳以上胃癌患者に対する腹腔鏡手術の安全性の検討. 第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡. 2024年12月.
 87. 竹内弘久, 井手麻友美, 高木泰介, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次: 30mm以下/管腔内発育型胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡的切除術と腹腔鏡下胃局所切除術との比較検討. 第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡. 2024年12月.
 88. 松木亮太, 小暮正晴, 大森春佑, 工藤翔平, 吉田智幸, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 阪本良弘: 当院における安全性を重視したMIS肝切除の導入. 第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡. 2024年12月.
 89. 小島洋平, 井手麻友美, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: ビギナーを対象とした鼠径部解剖の認識についての検討. 第37回日本内視鏡学会総会. 福岡. 2024年12月.
 90. 竹内弘久, 井手麻友美, 高木泰介, 小島洋平, 鶴見賢直, 大木亜津子, 阿部展次: 成人女性鼠径部嚢胞性病変に対してAR (Augmented Reality) 技術を使用した2例. 第37回日本内視鏡外科学会総会. 福岡. 2024年12月.
 91. 百瀬博一, 工藤翔平, 川口翔平, 蓮井宣宏, 松木亮太, 小暮正晴, 阪本良弘: 膵癌に対する血管合併切除・再建を伴う膵頭十二指腸切除の成績. 第22回世田谷区医師会医学会. 東京. 2024年12月7日.
 92. 竹内弘久, 井手麻友美, 小島洋平, 鶴見賢直, 大木亜津子, 阿部展次: 胃SMTに対する内視鏡的切除術における創部縫合閉鎖の検討. 第6回内視鏡的全層切除・縫合研究会. 三島. 2024年12月.

論文

1. Shibayama T, Hayashi A, Abe N, Ohki A, Satomi K, Shibahara J: Gastric mesenchymal tumor with gastroblastoma-like features harboring PTCH1::GLI2 fusion. *Virchows Arch.* 2024.485(3):563-567. doi: 10.1007/s00428-024-03812-w.

2. Ohki A, Takagi T, Kojima Y, Tsurumi M, Hashimoto Y, Takeuchi H, Kamma H, Sakamoto Y, Sunami E, Abe N: Intragastric free cancer cells may be attached to automatic staplers during anastomosis in patients with gastric cancer. *World J Surg Oncol.* 22, 2024;22(1):9. doi: 10.1186/s12957-023-03285-2.
3. Hashimoto Y, Abe N, Nunobe S, Kawakubo H, Sumiyoshi T, Yoshida N, Morita Y, Terashima M, Saze Z, Onimaru M, Otsuji E, Hoteya S, Yamashita H, Fujimura T, Oyama T, Ohata K, Shichijo S, Tanabe K, Shuto K, Ikeya T, Shinohara H, Tanabe S, Hiki N: Outcomes of laparoscopic and endoscopic cooperative surgery for gastric submucosal tumors: A retrospective multicenter study at 21 Japanese institutions. *Ann Gastroenterol Surg.* 2024. ;8(5):778-786. doi: 10.1002/ags3.12787.
4. 水野英彰, 白山才人, 堀合真市, 橋本佳和, 阿部展次: 大腸 治療 S状結腸軸捻転解除術の周術期はここに注意. *消化器内視鏡.* 36:277-282. 2024.
5. 橋本佳和, 井手麻友美, 小島洋平, 近藤恵里, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: 胃 胃粘膜下腫瘍の外科治療. *消化器内視鏡.* 36(7):1015-1022. 2024.
6. 土岐真朗, 砂村眞琴, 杉本昌弘, 阿部展次, 糸井隆夫, 久松理一: 膵癌の早期発見におけるメタボロームの可能性. *消化器内視鏡.* 36(5):788-789. 2024.
7. 鈴木裕, 船越早織, 工藤翔平, 蓮井宣宏, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 須並英二, 阿部展次, 阪本良弘: 総論 膵癌診療の現況. *消化器内視鏡.* 36(5):692-698. 2024.
8. 竹内弘久, 高木泰介, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: その他 憩室, 先天性形成不全 腸管重複症. *消化器内視鏡.* 36(4):664-665. 2024.
9. 高木泰介, 井手麻友美, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 阿部展次: その他 憩室, 先天性形成不全 十二指腸膜様狭窄症. *消化器内視鏡.* 36(4):662-663. 2024.
10. 井手麻友美, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 北濱圭一郎, 柴原純二, 阿部展次: 腫瘍, 腫瘍様病変 粘膜下腫瘍/粘膜下腫瘍様病変 十二指腸GIST. *消化器内視鏡.* 36(4):522-523. 2024.
11. 竹内弘久, 高木泰介, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 【十二指腸・小腸アトラス】腸管重複症. *消化器内視鏡.* 36巻4号. 664-665. 2024.
12. Saito Y, Takeuchi H, Tokumine J, Sawada R, Watanabe K, Yoroazu T: Ultrasound-guided peripheral nerve blocks for anterior cutaneous nerve entrapment syndrome after robot-assisted gastrectomy: A case report. *World J Gastrointest Surg.* 2024;16(8):2719-2723.
13. 高木泰介, 大木亜津子, 鈴木裕, 阪本良弘, 須並英二, 阿部展次: 【外科医の働き方改革を考える】育児に配慮した働き方改革とは 男性外科医の育児参加・男性育休の経験とアンケート調査から考える課題点. *手術.* 78(1). 134-139. 2024.
14. 須並英二, 吉敷智和, 本多五奉, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 片岡功, 金翔哲, 大野亜希子, 久松理一: 【大腸内視鏡のトラブルシューティング】ゲートキーパーとしての外科のトラブルシューティング. *ゲートキーパーとしての外科のトラブルシューティング. 消化器内視鏡.* 2024; 36(3): 416-420.
15. 須並英二, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 若松喬, 本多五奉, 片岡功, 金翔哲, 吉敷智和: 遺伝性大腸癌 家族に大腸癌の方がいる場合に考えること. *杏林医学会雑誌.* 2024; 55 (1) : 15-19.
16. 須並英二, 本多五奉, 若松 喬, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 吉敷智和: 【外科修練医必携 これだけは押さえておきたい外科日常診療の基礎】腹部救急の診断・治療 急性腹症 腸閉塞(診断, 輸液管理, 治療). *外科.* 2024; 86 (5) : 539-544.
17. 須並英二, 本多五奉, 若松喬, 麻生喜祥, 飯岡愛子, 吉敷智和: 【めざせ外科専門医!これだけは押さえておこう 一般・消化器外科の手術の基本(1)】基本手技. *外科.* 2024; 86(7): 757-765.
18. Funakoshi S, Suzuki Y, Yoshida M, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Abe N, Sunami E, Sakamoto Y: Advantage of postoperative inflammatory status after laparoscopic distal pancreatectomy. *Dig Surg.* 2024; 41(5-6): 213-223. doi: 10.1159/000541449.
19. Suzuki Y, Yoshida M, Fujisawa T, Shimatani M, Tsuyuguchi T, Mori T, Tazuma S, Isayama H, Tanaka A: Assessing outcomes and complications of secondary hepatolithiasis after choledochenterostomy: A nationwide survey in Japan. *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 2024; 31(10): 716 - 725. doi: 10.1002/jhbp.12061.
20. Kogure M, Hasui N, Kawaguchi S, Kudo S, Momose H, Matsuki R, Suzuki Y, Kogure K, Sakamoto Y: Vein-guided anatomical resection of liver segment III along the left hepatic vein: a feasible procedure?. *HPB (Oxford).* 2024; 26(8):1079-1081. doi: 10.1016/j.hpb.2024.05.002.
21. Kawaguchi S, Onozawa S, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Suzuki Y, Sakamoto Y: Rescue of outflow block of the remnant left liver after extended right hemihepatectomy for resection of a tumor in the caudate lobe. *Glob Health Med.* 2024; 6(3): 222-224. doi: 10.35772/ghm.2023.01105.
22. Hasui N, Momose H, Kudo S, Sakamoto Y (Department of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Kyorin University Hospital): Comment on "Celiac Axis Stenosis is an Underestimated Risk Factor for Increased Morbidity After Pancreatoduodenectomy". *Ann Surg Open.* 2024. 5(4). e519. doi: 10.1097/AS9.0000000000000519.
23. Momose H, Kudo S, Yoshida T, Hasui N, Matsuki R, Kogure M, Sakamoto Y: Trends in the treatment of advanced pancreatic cancer. *Biosci Trends.* 2024;18(3):224-232. doi: 10.5582/bst.2024.01156.
24. 百瀬博一, 大森春佑, 工藤翔平, 川口翔平, 蓮井宣宏, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: 肝胆膵 巨大肝血管腫に対する外科治療update. *外科.* 2024. 86巻4号. 355-360.
25. 松木亮太, 中澤春政, 阪本良弘: 【麻酔科医と外科医】外科医が考える麻酔科医との理想的な連携 肝切除における肝門遮断解除後のショック状態の回避(解説). *LiSA.* 31巻8号. 758-763. 2024.
26. 小暮正, 川口翔平, 蓮井宣宏, 工藤翔平, 百瀬博一, 松木亮太, 鈴木裕, 宮内亮輔, 小野澤志郎, 阪本良弘: 膵切除・肝切除後の門脈狭窄に対するステント

留置が奏功した4症例の経験. 日門充会誌. 2024;30(1):44-51.

著書

1. 百瀬博一, 工藤翔平, 吉田智幸, 蓮井宣宏, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘 (分担執筆): 第3章肝臓がん 病態・症状 肝臓がんはどんな疾患?. 消化器ナーシング 急性期から終末期まで がん看護の最新知識 消化器がんコンプリートBOOK 病態・検査・ケア. 志田大 監修. メディカ出版. 2024. 74-79.
2. 百瀬博一, 工藤翔平, 吉田智幸, 蓮井宣宏, 松木亮太, 小暮正晴, 鈴木裕, 阪本良弘: 【】第3章肝臓がん 検査・診断 どんな検査を行う? どう行動する?. 消化器ナーシング 急性期から終末期まで がん看護の最新知識 消化器がんコンプリートBOOK 病態・検査・ケア. 志田大 監修. メディカ出版. 2024. 80-84.

報告書

1. 鈴木裕, 吉田正雄, 島谷昌明, 藤沢聡郎, 高橋幸治, 伊佐山浩通, 田中篤: 厚生労働省科学研究費科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究 硬化性胆管炎・肝内結石分科会(令和6年度) 分担研究報告書.

その他

特別発言

1. 阿部展次: 「消化管粘膜下腫瘍に対する内視鏡治療」特別発言. 第107回日本消化器内視鏡学会総会. 東京都. 2024年6月.

クラウドファンディング事業

1. 小島洋平, 田中良太: 臨床研修医への外科基本手技の効率化を可能にするWebスケジューリングシステムの研究. 2024年9月-10月.

受賞

1. 志村亮輔, 麻生喜祥, 吉敷智和, 中山快貴, 磯部聡史, 代田利弥, 金翔哲, 本多五奉, 若松喬, 飯岡愛子, 長濱清隆, 藤原正親, 柴原純二, 阪本良弘, 阿部展次, 須並英二: 二次性乳房外Paget病を伴う肛門管癌の1例. 第874回外科集談会. 研修医奨励賞. 東京. 2024年12月.

呼吸器・甲状腺外科学教室

講演

国際学会

1. Hashimoto K, Kato D, Ichinose J, Matsuura Y, Nakao M, Okumura S, Kondo H, Ohtsuka T, Mun M: A Prospective Study of the Effectiveness of a Training Program for Bronchial Sleeve Resection Using Operable 3D Models of the Airway. American Association for Thoracic Surgery (AATS). (Poster presentation). Canada. April. 2024.
2. Tachibana K: Modified open-thoracotomy-view approach (OTVA) in robotic-assisted thoracoscopic lung resection. Thoracic Surgery robot Kunming Forum. China. May. 2024.
3. Tanaka R: Digital cytomorphometric and genomic analyses of lung cancer using liquid-based cytology materials. ECC2024. Leipzig. Germany. June. 2024.
4. Hashimoto K, Kondo H: Segmentectomy for pure

GGO. When and How. Sixth International Joint Meeting on Thoracic Surgery. (Invited Oral Presentation). Spain. November. 2024.

国内学会

総会

1. 田中良太, 小島洋平, 吉敷智和, 中里陽子, 近藤晴彦: 本学におけるエビデンスに基づく外科教育の取り組み. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知. 2024年4月.
2. 青山稔, 田中良太, 佐野友洋, 飯田瑠璃子, 上嶋菜摘, 金田凌, 大谷桃香, 中里陽子, 近藤晴彦: 食料素材を用いた結紮技術の向上を目的としたトレーニングの開発. 第124回日本外科学会定期学術集会. 愛知. 2024年4月.
3. 渋谷幸見, 鳥羽麻友子, 新井信晃, 三ツ間智也, 中里陽子, 平野浩一: X線動画像の定量的評価による頸部術後声帯麻痺の予後予測. 第36回日本内分泌外科学会総会. 久留米. 2024年5月.
4. 中里陽子, 新井信晃, 鳥羽麻友子, 三ツ間智也, 石本麻衣, 田中利明, 磯村杏耶, 藤原正親, 平野浩一: 当科で経験した甲状腺疾患による気道狭窄症例の検討. 第36回日本内分泌外科学会総会. 久留米. 2024年5月.
5. 菅間博, 矢野由希子, 筒井英光, 中里陽子, 矢澤華子, 千葉知宏, 小飼貴彦, 井口研子, 原尚人, 杉谷巖, 廣川満良, 渡邊奈津子, 榎田紀子, 堀口和彦, 櫻井晃洋, 菱沼昭: 臨床重要課題の経過報告 R13. 甲状腺腫瘍に特化した国産NGSパネル検査の開発. 第36回日本内分泌外科学会総会. 久留米. 2024年5月.
6. 新井信晃, 中里陽子, 鳥羽麻友子, 石本麻衣, 田中利明, 磯村杏耶, 藤原正親, 平野浩一: AFTNとPHPTの希少な合併症例に対し甲状腺左葉切除と副甲状腺摘出術を施行した1例. 第36回日本内分泌外科学会総会. 久留米. 2024年5月.
7. 橋啓盛, 山口遵, 鶴田貴大, 渋谷幸見, 三浦隼, 新井信晃, 平田佳史, 須田一晴, 中里陽子, 長島鎮, 橋本浩平, 田中良太, 近藤晴彦: 悪性腫瘍による気道狭窄に対する気道ステント留置術の治療成績～術中・術後合併症への対策を含めて～. 第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢. 2024年5-6月.
8. 橋本浩平, 佐藤大, 成田圭吾, 三浦隼, 山口遵, 鶴田貴大, 平田佳史, 須田一晴, 橋啓盛, 田中良太, 中里陽子, 平野浩一, 近藤晴彦: 胸鎖関節発生の脂肪肉腫 複数科のチームで頸胸部境界に挑む. 第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢. 2024年5-6月.
9. 橋本浩平, 平田佳史, 渋谷幸見, 山口遵, 鶴田貴大, 三浦隼, 須田一晴, 橋啓盛, 田中良太, 近藤晴彦: 気管手術の質をいかに担保するか 3D モデルの活用. 第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢. 2024年5-6月.
10. 三浦隼, 山口遵, 鶴田貴大, 渋谷幸見, 新井信晃, 平田佳史, 須田一晴, 中里陽子, 長島鎮, 高橋陽子, 橋本浩平, 橋啓盛, 田中良太, 倉井大輔, 宮敏路, 平野浩一, 近藤晴彦: 肺癌手術における手術部位感染症に対する当院での取り組み. 第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢. 2024年5-6月.
11. 平田佳史, 橋本浩平, 山口遵, 鶴田貴大, 渋谷幸見, 三浦隼, 須田一晴, 橋啓盛, 田中良太, 近藤晴彦: 気管支・肺動脈ダブルスリーブ再建のトレーニングモデル. 第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢. 2024年6月.
12. 渋谷幸見, 橋本浩平, 山口遵, 鶴田貴大, 三浦隼,

- 新井信晃, 平田佳史, 中里陽子, 須田一晴, 長島鎮, 橋啓盛, 田中良太, 近藤晴彦: 完全胸腔鏡下での肺葉・区域・部分切除後の呼吸機能の比較. 第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢. 2024年6月.
13. 片平勇介, 平山俊希, 杉村裕志: 女性におけるまれな絨毛癌合併胸腺腫の1例. 第41回日本呼吸器外科学会学術集会. 軽井沢. 2024年6月.
 14. 内海凌, 岸本浩次, 田邊一成, 菅野瞳, 野口由香, 坂口碧, 柴山隆宏, 田中良太, 柴原純二: 経皮的肺針生検時にROSEを実施した孤立性線維性腫瘍の1例. 第65回日本臨床細胞学会総会春期大会. 大阪. 2024年6月.
 15. 田中良太, 藤原正親, 新井信晃, 中里陽子, 橋啓盛, 内海凌, 菅野瞳, 田邊一成, 岸本浩次, 柴原純二: 呼吸器細胞診新報告様式の運用の問題点. 第65回日本臨床細胞学会総会春期大会. 大阪. 2024年6月.
 16. 田中良太, 藤原正親, 新井信晃, 中里陽子, 橋啓盛, 内海凌, 菅野瞳, 田邊一成, 岸本浩次, 柴原純二: 核酸品質の視点からみた細胞診検体取扱. 第65回日本臨床細胞学会総会春期大会. 大阪. 2024年6月.
 17. 橋本浩平, 平田佳史, 渋谷幸見, 山口遵, 鶴田貴大, 三浦隼, 須田一晴, 橋啓盛, 田中良太, 近藤晴彦: ロボット支援気管支スリーブ切除における吻合の工夫3Dモデルを用いた検討. 第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 大阪. 2024年6月.
 18. 須田一晴, 山口遵, 鶴田貴大, 堀秀有, 伊藤未奈, 渋谷幸見, 平田佳史, 橋本浩平, 橋啓盛, 田中良太, 近藤晴彦: 重症びまん性肺炎患に併発した続発性気胸に対する局所麻酔下肺瘻閉鎖術. 第28回日本気胸・嚢胞性肺炎患学会総会. 札幌. 2024年8月.
 19. 松島一樹, 新井信晃, 中里陽子, 田中利明, 平野浩一: BRAF V600E陽性甲状腺癌に対してdabrafenibとtrametinibを投与し, 切除不能リンパ節転移の制御が可能になった1例. 第67回日本甲状腺学会学術集会. 横浜. 2024年10月.
 20. 新井信晃, 中里陽子, 須田一晴, 田中利明, 磯村杏耶, 藤原正親, 平野浩一: Nivolumabによる術前化学療法後に発症した無痛性甲状腺炎の1例. 第67回日本甲状腺学会学術集会. 横浜. 2024年10月.
 21. 矢野由希子, 筒井英光, 井口研子, 中里陽子, 菅間博: 甲状腺腫瘍に特化した国産NGSパネル検査開発にむけた取り組み. 第67回日本甲状腺学会学術集会. 横浜. 2024年10月.
 22. 伊藤未奈, 須田一晴, 山口遵, 堀秀有, 渋谷幸見, 橋本浩平, 橋啓盛, 田中良太, 近藤晴彦, 藤原正親: 稀な肺内孤立性線維性腫瘍の1例. 第65回日本肺癌学会学術集会. 横浜. 2024年10月.
 23. 橋本浩平, 中尾将之, 大塚崇, 植原良太, 石田寿人, 加藤大喜, 近藤晴彦, 奥村栄, 文敏景: 3Dモデルを用いた気管支形成トレーニング法の社会実装. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会. 金沢. 2024年11月.
 24. 中里陽子, 新井信晃, 橋啓盛, 相馬里子, 薄里美, 平井恵理, 高橋美雪, 田中良太, 菅間博: 甲状腺NGSパネル検査のための細胞診標本の調整. 第63回日本臨床細胞学会秋季大会. 千葉. 2024年11月.
 25. 塚本遥, 大塚崇, 山内良兼, 文敏景, 松隈治久, 橋本博史, 福田祐樹, 吉野一郎, 新谷康, 佐藤雅昭, 飯田智彦, 遠藤誠, 池田徳彦, 小山孝彦, 坂倉範昭, 近藤晴彦, 朝倉啓介, 千田雅之, 坂尾幸則, 川村雅文: 卵巣癌肺転移に対する外科的切除の成績 予後因子と臨床的意義の検討. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会. 金沢. 2024年11月.
 26. 矢野由希子, 筒井英光, 井口研子, 中里陽子, 菅間博: 甲状腺腫瘍関連遺伝子を標的とした国産NGSパネル検査システムを用いた穿刺吸引細胞診の遺伝子診断応用への試み. 第52回日本乳癌甲状腺超音波医学会学術集会. 札幌. 2024年11月.
 27. 田中良太: プレアナリシス段階における細胞診検体の取り扱いの最適化に向けて. 第63回日本臨床細胞学会秋期大会. 千葉. 2024年11月.
- ### 地方会・研究会
1. 橋本浩平, 加藤大喜, 一瀬淳二, 松浦陽介, 中尾将之, 奥村栄, 近藤晴彦, 大塚崇, 文敏景: 3Dモデルを用いた気管支スリーブ切除トレーニングの多施設前向き研究. 第78回手術手技研究会. 福岡. 2024年6月.
 2. 橋啓盛: 周術期肺癌におけるICの実情と課題. 中外製薬株式会社 社員研修会. 三鷹. 2024年6月.
 3. 田中良太: ゲノム診療時代における呼吸器細胞診の役割—最適な検体処理とLBCの活用に向けて—. 第63回東京都細胞検査士会学術研修会. 三鷹. 2024年6月.
 4. 中里陽子: 再発甲状腺乳頭癌に対するダブルフェニブ・トラメチニブ併用療法の経験. 第12回西東京臨床甲状腺研究会学術講演会. 東京. 2024年7月.
 5. 須田一晴: 肺がん検診で見逃しやすいう読影ポイント (AI読影の役立て方〜). 武蔵野市医師会肺がん健診読影講習会. 武蔵野市. 2024年9月.
 6. 須田一晴, 山口遵, 堀秀有, 伊藤未奈, 渋谷幸見, 平田佳史, 橋本浩平, 橋啓盛, 田中良太, 平野浩一, 近藤晴彦: Neo-Adjuvant8ICI+platinum doublet + 右上葉切除術 リンパ節郭清 Thoracic Surgeon Meeting“TAMA Edition”. 府中. 2024年9月.
 7. 高尾享花, 須田一晴, 山口遵, 堀秀有, 伊藤未奈, 渋谷幸見, 新井信晃, 中里陽子, 橋本浩平, 橋啓盛, 田中良太, 藤原正親, 近藤晴彦: 壁側胸膜発生のCalcifying fibrous tumorの一例. 第873回外科集談会. 東京. 2024年9月.
 8. 柳原啓輝, 布川寛樹, 中元康雄, 石田学, 佐田充, 高田佐織, 皿谷健, 藤原正親, 橋啓盛, 石井晴之: 胸腔鏡下の肺生検で肺葉内肺分画症と診断した健診発見の一例. 第186回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・第261回日本呼吸器学会関東地方会 合同学会. 東京. 2024年9月.
 9. 渡部啓太, 橋啓盛, 山口遵, 堀秀有, 伊藤未奈, 渋谷幸見, 須田一晴, 橋本浩平, 田中良太, 近藤晴彦: 経過観察中に感染を併発した縦隔原発気管支原性嚢胞の1例. 第196回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京. 2024年11月.
 10. 山口遵, 橋本浩平, 峯岸祥人, 稲葉雄亮, 伊藤未奈, 渋谷幸見, 柴山隆宏, 須田一晴, 橋啓盛, 田中良太, 藤原正親, 窪田博, 近藤晴彦: 心不全で発症した右房進展を伴う胸腺腫の一切除例. 第196回胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京. 2024年11月.
 11. 栗村采那, 中里陽子, 山口遵, 堀秀有, 伊藤未奈, 渋谷幸見, 新井信晃, 平田佳史, 須田一晴, 橋本浩平, 橋啓盛, 田中良太, 藤原正親, 近藤晴彦, 平野浩一: 甲状腺濾胞癌の頸頭部転移の1例. 第874回外科集談会. 東京. 2024年12月.
 12. 橋啓盛, 山口遵, 堀秀有, 伊藤未奈, 渋谷幸見, 須田一晴, 橋本浩平, 田中良太, 近藤晴彦: 治療に難渋した右上葉切除後遅発性気管支断端瘻の1例. 第18回多摩呼吸器外科医会. 三鷹. 2025年1月.
 13. 橋啓盛, 山口遵, 堀秀有, 伊藤未奈, 渋谷幸見, 須

田一晴, 橋本浩平, 田中良太, 近藤晴彦: 術前免疫化学療法後の手術経験. 第28回SKAT研究会. 熱海. 2025年3月.

14. 山口遵, 須田一晴, 堀秀有, 内田未奈, 渋谷幸見, 平田佳史, 橋本浩平, 橋啓盛, 田中良太, 近藤晴彦: ステープルに関連する出血トラブルの経験. 第32回日本呼吸器外科医会冬季学術集会. 山形. 2025年3月.

論文

1. Okuyama A^{1,2}, Mizutani T³, Tachibana K⁴, Higashi T^{2,5}, Ogawa A⁶(¹Graduate School of Nursing, St. Luke's International University, ²National Cancer Center Institute for Cancer Control, ³Department of Medical Oncology, Kyorin University Faculty of Medicine, ⁴Department of Thoracic and Thyroid Surgery, Kyorin University Faculty of Medicine, ⁵Department of Public Health, The University of Tokyo, ⁶Psycho-Oncology Division, Exploratory Oncology Research and Clinical Trial Center, National Cancer Center): Treatment Patterns and Postoperative Activities of Daily Living in Patients with Non-small Cell Lung Cancer: A Retrospective Study Using Nationwide Health Services Utilization Data in Japan. *Ann Surg Oncol.* 2024;31(5):3409-3416. doi: 10.1245/s10434-023-14798-1.
2. 青山稔, 中里陽子, 佐野友洋, 比企瑠璃子, 上嶋菜摘, 金田凌, 大谷桃香, 田中良太: 食用素材(グミ)を用いた結紮トレーナーの有用性の検討. *医学教育.* 2024; 55(5): 403-407.
3. Tamagawa S, Nakao M, Oikado K, Sato Y, Hashimoto K, Ichinose J, Matsuura Y, Okumura S, Sato Y, Mun M: Prognostic impact of ground-glass opacity components in lung cancer with lymph node metastasis. *Journal of Thoracic Disease.* 2024; 16(5): 2975-2982. doi: 10.21037/jtd-24-144.
4. Hashimoto K, Kato D, Ichinose J, Matsuura Y, Nakao M, Okumura S, Kondo H, Ohtsuka T, Mun M: A Prospective Study of a Training Program for Bronchial Sleeve Resection Using Operable 3D Models. *JTCVS techniques.* 2024; 27: 217-224. doi: 10.1016/j.xjtc.2024.07.003.
5. Tanaka R, Tsuboshita Y, Okodo M, Settsu R, Hashimoto K, Tachibana K, Tanabe K, Kishimoto K, Fujiwara M, Shibahara J: Artificial Intelligence Recognition Model Using Liquid-based Cytology Images to Discriminate Malignancy and Histological Types of Non-small-cell Lung Cancer. *Pathobiology.* 2025;92(1):52-62. doi: 10.1159/000541148.
6. Hirata Y, Hashimoto K, Tachibana K, Tanaka R, Kondo H: A 3-dimensional model for bronchial and arterial sleeve resection. *JTCVS techniques.* 2024; 29: 183-185. doi: 10.1016/j.xjtc.2024.10.012.
7. Mori S, Ohtsuka T, Hashimoto K, Fujii Y, Harada E, Shigemori R, Kato D, Shibazaki T, Shimoda M: Gene expression profiles in respiratory settings in rats under extracorporeal membrane oxygenation. *Journal of Thoracic Disease.* 2025; 17(1): 31-41. doi: 10.21037/jtd-24-1661.
8. Nguyen PNT, Ueda A, Katsume Y, Nonoguchi N,

Mohri T, Hirata Y, Kondo H, Watanabe K, Soejima K: A case of dilated cardiomyopathy successfully managing refractory electrical storm through sympathetic modulation. *J Cardiol Cases.* 2024. 31(3): 68-71. doi: 10.1016/j.jccase.2024.11.008.

9. Yamauchi Y, Sato M, Iwata T, Endo M, Ikeda N, Hashimoto H, Hato T, Suzuki H, Matsuguma H, Shintani Y, Kondo H, Oyama T, Azuma Y, Iida T, Sakakura N, Mun M, Asakura K, Ohtsuka T, Uehara H, Sakao Y: Survival after Lung Metastasectomy from Urothelial Carcinoma: A Multi-Institutional Database Study. *Cancers (Basel).* 2024;16(19):3333. doi: 10.3390/cancers16193333.
10. Saka H, Oki M, Yamauchi Y, Kitagawa C, Kada A, Saito AM, Kondo H, Kida H, Takahashi N, Bessho A, Okuda K, Miyazawa H: Talc slurry pleurodesis in patients with secondary intractable pneumothorax: A phase 2 study. *Respir Investig.* 2024; 62(2):277-283. doi: 10.1016/j.resinv.2024.01.005.

著書

1. 田中良太 (分担執筆): 第3章4.呼吸器および縦隔. 細胞診のベーシックサイエンスと臨床の実際. 坂本 穆彦 編集. 医学書院. 2024. p137-146.
2. 田中良太 (分担執筆): II章1. 細胞検体処理の総論, 4. Rapid on-site cytologic evaluation (ROSE). 呼吸器細胞診アトラス: 新たな国際判定基準運用の実際. 佐藤之俊, 廣島健三 編集. 南江堂. 2024. p38-41.

その他

1. 橋本浩平: 杏林大学研究奨励賞 共同研究助成 研究代表者. 2024年.
2. 須田一晴: 第12回呼吸器外科学会サマースクール 2024. インストラクター. 東京. 川崎. 2024年7月.

乳腺外科学教室

講演

1. 関大仁, 石坂欣大, 土屋あい, 牧野暁嗣, 清水健, 井本滋: Nomogramを用いた臨床的腋窩リンパ節転移陽性乳癌に対する術前化学療法後の腋窩個別化治療. 第124回日本外科学会定期学術集会. 名古屋. 2024年4月.
2. 井本滋: 「映像による私の手術手技」乳癌におけるラジオ波焼灼療法. 第124回日本外科学会定期学術集会講演. 名古屋. 2024年4月.
3. 井本滋: オリゴ転移乳癌における局所療法の意義について OLIGO-BC1からの考察. 第124回日本外科学会定期学術集会. 名古屋. 2024年4月.
4. Imoto S, Chiba T, Seki S, Ishizaka Y, Tsuchiya A, Kitaoka T: New targeted therapy on SOCS1-related immune-response in triple-negative breast cancer. Presented at AACR2024. U.S.A. April, 2024.
5. 土屋あい, 佐伯澄人, 高橋洋子, 尾辻和尊, 糸川昂平, 井本滋, 大野真司, 上野貴之, 丸山玲緒: 患者由来の転移性乳がん細胞より樹立したオルガノイドを用いた移植マウス実験モデルの構築と解析. 第33回日本がん転移学会学術集会総会. 奈良. 2024年6月.

6. 矢尾祥子, 横井繁周, 垣内寿枝子, 前田浩幸, 五井孝憲: 乳腺原発の粘液嚢胞腺癌の一例. 第49回日本外科系連合学会学術集会. 東京. 2024年6月.
7. 井本滋: 乳癌オリゴ転移に対する局所療法の意義について. 第49回日本外科系連合学会学術集会. 東京. 2024年6月.
8. 関大仁, 加藤真帆, 小宮貴子, 田村宣子, 素輪善弘, 雄谷純子, 高野淳治, 河手敬彦, 白石知大, 雑賀美帆: 乳癌患者の術式選択における shared decision making と支援体制の課題 (JOPBS学会班研究). 第32回日本乳癌学会総会. 仙台. 2024年7月.
9. 土屋あい, 佐伯澄人, 高橋洋子, 尾辻和尊, 糸川昂平, 井本滋, 大野真司, 上野貴之, 丸山玲緒: 患者由来オルガノイド移植マウスを用いた転移性乳がんの病態解明の試み. 第32回日本乳癌学会学術総会. 仙台. 2024年7月.
10. 矢尾祥子, 横井繁周, 垣内寿枝子, 前田浩幸, 五井孝憲: irAEにより pembrolizumab 継続困難であったが治療効果が得られた早期TNBCの一例. 第32回日本乳癌学会学術総会. 仙台. 2024年7月.
11. Seki H, Ogiya A, Nagura N, Shimo A, Narui K, Sasada S, Ishitobi M, Nogi H, Kondo N, Sakurai T, Yamauchi C, Mori H, Saiga M, Niikura N, Shien T: Prognosis of isolated locoregional recurrence after early breast cancer with immediate breast reconstruction surgery: A retrospective multi-institutional study; ESMO congress2024. Spain. September, 2024.
12. 関大仁, 渡邊法之, 名倉直美, 荻谷朗子, 志茂彩華, 笹田伸介, 植弘奈津恵, 辻和香子, 富田祥一, 突沖貴宏, 山内智香子, 神尾英則, 内田達也, 米田央后, 清水淑子, 白石知大, 今村三希子, 伊坂泰嗣, 奥野潤, 吉田敦: 乳房再建術後放射線治療の有無による術後合併症とHR-QOLの比較 (JOPBS学会班研究). 第12回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会. 金沢. 2024年10月.
13. 関大仁, 牧野暁嗣, 矢尾祥子, 土屋あい, 伊坂泰嗣, 井本滋: Nomogramを用いた手術可能な臨床的腋窩リンパ節転移陽性乳癌に対する術前化学療法後腋窩郭清省略の可能性. 第62回日本癌治療学会学術集会. 福岡. 2024年10月.
14. 井本滋: 乳癌オリゴ転移に対する局所療法の意義について. 第49回日本外科系連合学会学術集会シンポジウム. 2024年6月.
15. 井本滋, Wang K, Bi XW, 上野貴之, 高尾信太郎, Im SA, Im YH, Ahn SG, Lee JE, Park YH, 二村学, 戸井雅和, 大庭真梨, 北川雄光, 西山正彦: OLIGO-BC1サブセット解析から見た乳癌オリゴ転移再発における予後良好因子の検討. 第62回日本癌治療学会. 福岡. 2024年10月.
16. 矢尾祥子, 井本滋, 石坂欣大, 土屋あい, 関大仁, 伊坂泰嗣, 五井孝憲: ホルモン受容体陽性HER2陰性転移再発乳癌に対するCDK4/6阻害薬: 1剤又は2剤投与の検討. 第62回日本癌治療学会学術集会. 福岡. 2024年10月.
17. Seki H, Komiya T, Kato M, Tamura T, Sowa Y, Takano J, Isaka H, Nishida Y, Imoto S, Saiga M: Quality of life following total mastectomy, breast-conserving surgery, and immediate breast reconstruction in patients with breast cancer: a multicenter cross-sectional controlled study. San Antonio Breast Cancer Symposium 2024. U.S.A. December 2024.
1. Seki H, Ishiguro Y, Makino A, Yamaguchi K, Imoto S: Nomogram Predicting Axillary Lymph Node Dissection Omission After Neoadjuvant chemotherapy for node-positive breast cancer. *Anticancer Res.* 2024;44(11):5131-5138. DOI:10.21873/anticancer.17338.
2. Seki H, Sasada S, Shien T: Reply to the Letter to the editor "Does axillary lymph node recurrence breast cancer subtype information matter for prognosis estimation?". *Breast Cancer.* 2024;31(6):1183. doi: 10.1007/s12282-024-01629-8.
3. Sasada S, Nagura N, Shimo A, Ogiya A, Saiga M, Seki H, Mori H, Kondo N, Ishitobi M, Narui K, Nogi H, Yamauchi C, Sakurai T, Shien T: Impact of radiation therapy for breast cancer with involved surgical margin after immediate breast reconstruction: a multi-institutional observational study. *Eur J Surg Oncol.* 2024;50(6):108360. DOI:10.1016/j.ejso.2024.108360.
4. Seki H, Ogiya A, Nagura N, Shimo A, Narui K, Sasada S, Ishitobi M, Nogi H, Kondo N, Sakurai T, Yamauchi C, Mori H, Saiga M, Niikura N, Shien T: Prognosis of isolated locoregional recurrence after early breast cancer with immediate breast reconstruction surgery: A retrospective multi-institutional study. *Breast Cancer.* 2024;31(5):935-944. DOI:10.1007/s12282-024-01607-0.
5. Nakai T, Seki H, Makino A, Kadota Y, Kaburagi T, Okumura T, Karahashi T: Development of neuro-Behcet's disease in a patient with operable HER2-positive breast cancer during neoadjuvant chemotherapy: a case report. *Breast Dis.* 2024;43(1):223-229. DOI: 10.3233/BD-230026.
6. Kato S, Mori H, Saiga M, Watanabe S, Sasada S, Sasaki A, Ogiya A, Yamamoto M, Narui K, Takano J, Seki H, Nagura N, Ishitobi M, Shien T: Nipple-areolar complex malposition in breast reconstruction after nipple-sparing mastectomy: a multi-institutional retrospective observational study in Japan. *Breast Cancer.* 2024. 31(4):649-658. DOI: 10.1007/s12282-024-01578-2.
7. Nogi H, Ogiya A, Kondo N, Ishitobi M, Yamauchi C, Mori H, Shimo A, Narui K, Nagura N, Seki H, Sasada S, Sakurai T, Shien T: Impact of neoadjuvant chemotherapy on the safety and long-term outcomes of patients undergoing immediate breast reconstruction after mastectomy. *Breast Cancer.* y;31(3):507-518. 2024. DOI: 10.1007/s12282-024-01570-w.
8. Kojima R, Ishitobi M, Nagura N, Shimo A, Seki H, Ogiya A, Sakurai T, Seto Y, Sasada S, Oshiro C, Kato M, Kawate T, Kondo N, Shien T: Receptor discordance after nipple-sparing mastectomy. *Surg Pract Sci.* 2024;17:100239. DOI: 10.1016/j.sipas.2024.100239.
9. 関大仁: 遺伝性乳癌の診断と治療. *杏林医学誌.* 2024;55 (1): 21-23.
10. Yamamoto T, Takahashi A, Yoshizumi T, Ishihara S, Inomata M, Imoto S, Eguchi H, Ebata T, Otsuka M, Okuyama H, Kakeji Y, Kato T, Kamei

T, Saiki Y, Saito A, Shimizu H, Soga Y, Tajiri T, Nogi H, Hatano E, Hara H, Bitoh Y, Mizushima T, Minatoya K, Miyagawa S, Yamauchi H, Yoshino I, Baba H, Matsubara H, Hasegawa K, Taketomi A: 2023 National Clinical Database Annual Report by the Japan Surgical Society. Surg Today. 2025. 55(3):295-334. doi: 10.1007/s00595-024-02980-1.

11. Kuji S, Nozawa K, Toma S, Arai H, Imoto S, Kajiya H, Kitano A, Kodera Y, Saito R, Sakai R, Taketomi A, Nakayama R, Hiyama E, Futamura M, Matsui M, Yonemura M, Oya M, Suzuki N: Survey of healthcare professionals' awareness of appearance care for Japanese cancer patients and their institutions' appearance care systems: report from the Japan Society of Clinical Oncology. Int J Clin Oncol. 2025. 30(4):655-665. doi: 10.1007/s10147-024-02685-y.

著書

1. 井本滋, 千葉知宏 (分担執筆) : 総説2. Nippleの解剖・生理, nippleの疾患と診断の注意点. 好発部位で見る皮膚疾患アトラス. Visual Dermatology編集委員会編. Gakken. 2025:pp21-25.

その他

1. 関大仁 : 医療メルマガ「イシュラン」 Warm Doctor best 30入賞 2024年.
2. 関大仁 : 日経メディカル「日本人乳癌女性の健康関連QOLに術式が影響、乳房温存術や一次乳房再建で心理社会的幸福感が高い【SABCS 2024】」2024年12月.

小児外科学教室

講演

1. 渡邊佳子, 浮山越史 : 腸回転異常を伴わない新生児小腸捻転症の検討. 第60回日本周産期・新生児医学会. 大阪. 2024年7月.
2. 浮山越史 (講演) : 小児救急と小児外科. 第37回日本小児救急医学会学術集会. 東京. 2024年7月.
3. 渡邊佳子 : 小児外科領域. 乳幼児健診を中心とする小児科医のための研修会PartVII・第1回WEB開催. オンライン. 2024年9月.

論文

1. 浮山越史, 渡邊佳子 : 特集 教科書にない小児外科疾患の最新情報—国内外の文献・ガイドラインから—腸重積症. 小児外科. 56巻6号. 574-577. 2024.
2. 渡邊佳子 : 【乳幼児健診でよくある疑問・相談への対応】頭・筋骨格 膈「でべそ」「おへそが赤い」. 小児科. 65巻12号. 1284-1287. 2024.
3. 渡邊佳子, 浮山越史 : 【極・超低出生体重児の治療戦略】極低出生体重児の仙尾部奇形腫. 小児外科. 57巻1号. 91-93. 2025.

救急医学教室

講演

1. 海田賢彦, 山口芳裕 : 伝統と革新が融合した熱傷創管理 avec amour. 第50回日本熱傷学会総会・学術集会. 大阪. 2024年6月.

2. 加藤聡一郎, 海田賢彦, 山口芳裕 : 日本の重症熱傷診療が目指すべき連携システムのあり方を分析する. 第50回日本熱傷学会総会・学術集会. 大阪. 2024年6月.
3. 吉川慧, 海田賢彦, 山口芳裕 : 重症熱傷患者に対する感染管理. 第50回日本熱傷学会総会・学術集会. 大阪. 2024年6月.
4. 本田美奈子, 海田賢彦, 山口芳裕 : 杏林流チーム医療 熱傷ナースからの愛ある視点. 第50回日本熱傷学会総会・学術集会. 大阪. 2024年6月.
5. 稲田成作, 大畑徹也, 西野雅人, 加藤聡一郎, 細金直文, 山口芳裕 : L5横突起骨折の存在は大量輸血を必要とする不安定型骨盤輪骨折患者の予測に有用か. 第50回日本骨折治療学会学術集会. 仙台. 2024年6月.
6. 海田賢彦, 山口芳裕 : 三次搬送された小児熱傷患者の検討. 第37回日本小児救急医学会学術集会. 三鷹. 2024年7月.
7. 芳鐘一, 守永広征, 中村健人, 瀧瀬翔太, 西村裕隆, 堀野雅祥, 吉川慧, 海田賢彦, 山口芳裕 : ハイブリッドERシステムでCTによる原因検索が有用であった院外心肺停止患者の1例. 第52回日本救急医学会総会・学術集会. 仙台. 2024年10月.
8. 阿部正宗, 落合剛二, 辻野伸明, 池田慎平, 刑部洗, 荻野聡之, 海田賢彦, 山口芳裕 : フレイルチェストに対する観血的整復固定術が有用であった高齢者多発外傷の一例. 第52回日本救急医学会総会・学術集会. 仙台. 2024年10月.
9. 阿南英明, 梶野健太郎, 田邊晴山, 諸江雄太, 小谷聡司, 野口航, 世良俊樹, 海田賢彦, 矢口有乃, 大友康裕 : 救急医療基本法の制定に向けた取り組み. 第52回日本救急医学会総会・学術集会. 仙台. 2024年10月.
10. 假谷玲維, 稲田成作, 落合剛二, 田中佑也, 海田賢彦, 山口芳裕 : 痙攣により非外傷性に生じた仙骨U字型骨折の1例. 第52回日本救急医学会総会・学術集会. 仙台. 2024年10月.
11. 吉川慧, 海田賢彦, 堀野雅祥, 西村裕隆, 笹沢俊吉, 持田勇希, 加藤聡一郎, 山口芳裕 : III度熱中症患者におけるDIC発症に関連する因子の検討. 第52回日本救急医学会総会・学術集会. 仙台. 2024年10月.
12. Mochida Y : A case of early surgical escharotomy using intervascular temperature management is useful for major deep burn patient. The 83rd Annual Meeting of American Association for the Surgery of Trauma and Clinical Congress of Acute Care Surgery & The7th World Trauma Congress. USA. September. 2024.
13. 山口芳裕 : なぜ今CBRNEか～非対称兵器による軍事革命の進行～. 日本医療マネジメント学会 第21回九州・山口連合大会. 佐賀. 2024年12月.
14. 山口芳裕 : 明日にも役立つ災害医療対策～災害関連死を回避するために～. 第58回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会. 東京. 2025年1月.
15. 辻野伸明, 海田賢彦, 山口芳裕 : 小児熱傷患者における重症度判定について. 第33回日本熱傷学会関東地方会. 所沢. 2025年1月.
16. Yamaguchi Y : Medical preparedness, societal welfare, and shelter systems. Whole-of-Society Resilience Building, Preparation, and Response. Taiwan. March. 2025.
17. 瀧瀬翔太, 海田賢彦, 假谷玲維, 吉川慧, 持田勇希, 山口芳裕 : 集学的治療により救命し得たM1型UK株

A群溶血性レンサ球菌による敗血症性ショックの1例. 第52回日本集中治療医学会学術集会. 福岡. 2025年3月.

18. 池田慎平, 持田勇希, 海田賢彦, 山口芳裕: 大動脈弓部全置換術後31日目に上腸管膜動脈の遅発性 malperfusion を発症した Stanford A型大動脈解離の1例. 第52回日本集中治療医学会学術集会. 福岡. 2025年3月.
19. 中村健人, 荻野聡之, 假谷玲維, 辻野伸明, 持田勇希, 海田賢彦, 山口芳裕: 酸化マグネシウム服用による高マグネシウム血症で腸管壊死をきたした精神科長期入院患者の1例. 第52回日本集中治療医学会学術集会. 福岡. 2025年3月.

論文

1. 清水亮祐, 海田賢彦, 大津晃康, 清水裕介, 吉川慧, 山田賢治, 山口芳裕: 非好発地域において日本紅斑熱により敗血症性ショックを呈し診断に苦慮した1例. 日救急医学会誌. 2024; 45 (3) : 152-156.
2. Kato S^{1,2}, Inoue Y^{1,3}, Yamaguchi Y^{1,2} (¹The Tokyo 2020 Games City Operation Center, ²Department of Trauma and Critical Care Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine, ³Department of Trauma and Emergency Acute Medicine, Saitama Medical University International Medical Center) : Passing the baton of medical disaster preparedness advice from city medical supervisors of the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games to future host medical organisers. Br J Sports Med. 2024; 58 (15) : 811-813. DOI : 10.1136/bjsports-2024-108427.
3. Morinaga H^{1,2}, Sugawara Y^{1,3}, Kitagawa Y¹, Chen J^{1,4}, Yasuda N⁵, Ogata H¹, Yamaguchi Y², Kaneki M¹, Jeevendra Martyn JA¹, Yasuhara S¹ (¹Department of Anesthesiology, Critical Care & Pain Medicine, Massachusetts General Hospital, Shriners Hospitals for Children, & Harvard Medical School, ²Department of Trauma & Critical Care Medicine, Kyorin University, Faculty of Medicine, ³Department of Anesthesiology & Critical Care Medicine, Yokohama City University, Graduate School of Medicine, ⁴Department of Anesthesiology, The First Affiliated Hospital, Sun Yat-sen University, ⁵Okayama Healthcare Professional University) : Mito-kaede photoactivation and chase experiment for mitophagy: optimizing flux measurement via fluid exchange system. Biotechniques. 2024; 76 (8) : 381-393 . DOI : 10.1080/07366205.2024.2372955.
4. 石川駿, 海田賢彦, 田中佑也, 落合剛二, 山口芳裕: 寒冷曝露によりアナフィラキシーショックを呈した1例. 日救急医学会誌. 2025; 36 (2) : 52-56.
5. Mochida Y, Sekiguchi K, Nishimura H, Kaita H, Yamaguchi Y : A Novel Technique of Hemorrhage Control for an Inferior Vena Cava Injury From an Abdominal Stab Wound Using Two Balloon Occlusion Catheters : A Case Report. Cureus. 2025 .17(3):e81009. DOI: 10.7759/cureus.81009.

著書

1. 守永広征, 山口芳裕 (分担執筆) : 全身用・心臓用のダブルCアームを持つ最新鋭ハイブリットERの特徴とその実力. 月刊新医療. 51 (6) . エム・イー振興協会. 2024. 70-73.
2. 山口芳裕 (代表編集) : 改訂第2版 大規模イベント

医療・救護ガイドブック. 日本医師会, 東京都医師会 監修. 日本医師会救急災害医療対策委員会 編集. へるす出版. 2024.

3. 持田勇希 (分担執筆) : No.097 救急医にとっての“闘い”. 救急医学. 48 (7) . へるす出版. 2024. 880-881.
4. 山口芳裕 (分担執筆) : 【第二章 情報力】非対称兵器と平和ボケ. 国力研究 日本列島を, 強く豊かに. 高市早苗 編著. 産経新聞出版. 2024. 161-182.
5. 持田勇希, 山口芳裕 (分担執筆) : 【Acute Care Surgery入門】臓器別の治療戦略と手技 外傷性脾損傷. 臨床外科. 79 (12) . 医学書院. 2024. 1277-1284.
6. 山口芳裕 (監修) : 救えたはずの命 災害関連死から学ぶ. 防災教育DVD. 映学社. 2024.
7. 西村裕隆, 山口芳裕 (分担執筆) : 【16. 救急・中毒】熱中症. 臨床検査データブック2025-2026. 黒川清 監修. 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2025. 1014-1015.
8. 刑部洗, 山口芳裕 (分担執筆) : 【16. 救急・中毒】横紋筋融解症. 臨床検査データブック2025-2026. 黒川清 監修. 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2025. 1015-1016.

その他

1. 山口芳裕: 熱中症の危険性と注意点について(解説). NHK「NHKニュース7」. 2024年8月5日.
2. 山口芳裕: 災害医療派遣チームが医療救護訓練を実施, 東京が被災地となることも想定し今後について(コメント). 朝日新聞. 2024年11月17日.
3. 山口芳裕: 医師の働き方改革の影響を受ける中, 大規模な事故や災害時でもこれまで同様に円滑に対応できるように, 体制見直しの必要性について(コメント). 読売新聞. 2024年12月25日.
4. 山口芳裕: 東京DMATや医療現場の現状について話すとともに, 首都直下型地震の備えについて(コメント). 朝日新聞. 2025年3月30日.
5. 山口芳裕: 医療の限界が迫る中、厳しい医療判断が迫られた「入院調整本部」の真実(インタビュー). 1200日の闘い 東京都医師会・東京都、コロナ対策の記録. 東京都医師会 編集. 平凡社. 2025. 138-145.

脳神経外科学教室

口演

1. 中富浩文: 脳幹伝導路脳神経核機能解剖. 第38回日本微小脳神経外科解剖研究会. 札幌. 2024年4月.
2. 岡田啓, 小野田凌, 池田憲祐, 藤井照子, 吉田裕毅, 丸山啓介, 野口明男, 中富浩文: 当院救命センターにおける平均寿命を超えた高齢者SAHの転帰良好例の検討. 第37回日本老年脳神経外科学会. 秩父. 2024年4月.
3. 佐々木重嘉: 70歳以上の再発中枢神経系悪性リンパ腫における薬物治療の治療成績. 第37回日本老年脳神経外科学会. 秩父. 2024年4月.
4. 永根雄雄: PCNSL治療の現状と課題ーバレイキンプル治療経験を含めー. 第3回PCNSL Web Conference in Kanagawa. オンライン. 2024年4月.
5. 齋藤邦昭: 高精細トラクトグラフィを用いた手術シミュレーションと術中ナビゲーション. 第47回日本

- 脳神経CI学会総会. 長崎. 2024年4月.
6. 岡田啓, 中富浩文: バイパス手術のピットフォール. 第67回多摩脳神経外科懇話会. 東京. 2024年5月.
 7. 中富浩文: 難治性動脈瘤に対するtyrosine kinase阻害剤・難治性AVMに対するKRAS G12D阻害剤を用いた非臨床試験・臨床治験開発. フロンティアミーティング2024. 倉敷. 2024年5月.
 8. 齊藤邦昭: 脳腫瘍に関わるてんかん・けいれん対策について, ユーシービーてんかんセミナー. 東京. 2024年5月.
 9. 中富浩文: 頭蓋頸椎移行部から脳幹部病変の治療経験と工夫. 第39回日本脊髄外科学会. 大阪. 2024年6月.
 10. 齊藤邦昭: CUSAを用いたグリオーマ摘出～場面による至適な条件設定と手技について～. 第46回東京脳腫瘍治療懇話会. 東京. 2024年6月.
 11. 齊藤邦昭: 手技にこだわった神経腫瘍摘出術. 第33回脳神経外科手術と機器学会. 東京. 2024年7月.
 12. 齊藤邦昭: ヘッドマウントディスプレイを用いた外視鏡手術～外視鏡手術の限界を超えるための工夫～. 第33回脳神経外科手術と機器学会. 東京. 2024年7月.
 13. 中富浩文: 脳動静脈奇形手術に対する“見える化を駆使した機能温存手術”. 第33回脳神経外科手術と機器学会. 東京. 2024年7月.
 14. 中富浩文: 頭蓋底髄膜腫の手術適応・放射線治療適応・経過観察適応と我々の手術戦略. 第36回日本頭蓋底外科学会. 東京. 2024年7月.
 15. 中富浩文: 脳幹部海綿状血管腫に対する“見える化を駆使した機能温存手術”. 第36回日本頭蓋底外科学会. 東京. 2024年7月.
 16. 中富浩文: Current management of giant & large fisticiform aneurysms. The 8th FEN Sapporo Live Microneurosurgery Course. 札幌. 2024年7月.
 17. 中富浩文: Increased PDGFRB and NF-κB signaling caused by highly prevalent somatic mutations in intracranial aneurysms. 第38回日本脳神経外科国際学会フォーラム. 東京. 2024年7月.
 18. 中富浩文: NF2の手術適応と手術戦略. 第33回日本聴神経腫瘍研究会. 東京. 2024年7月.
 19. 中富浩文: Auditory brainstem implant(聴性脳幹インプラント)の手術適応と成績. 第33回日本聴神経腫瘍研究会. 東京. 2024年7月.
 20. 中富浩文: 聴神経腫瘍における止血, 剥離, レイヤーの展開. 第33回日本聴神経腫瘍研究会. 東京. 2024年7月.
 21. 齊藤邦昭: 外視鏡を用いた脳腫瘍手術～自験例約200例の経験から～. 第4回外視鏡手術研究会. 福岡. 2024年7月.
 22. Nagane M, Natsumeda M, Ohka F, Yamasaki F, Yonezawa H, Sasaki N, Yamaguchi S, Tateishi K, Narita Y, Kawai Y, Sugahara H, Kuroda J, Okuda T, Matsutani T, Kinoshita M, Tomita N, Hattori K, Muto J, Kitamura N, Kinoshita K, Mishima K: nterim analysis data from Multi-Center Retrospective Observational Study of Effectiveness, Safety, and Treatment Status of Tirabrutinib in 161 Japanese patients with Relapsed or Refractory Primary Central Nervous System Lymphoma. ROSETTA study. The 66th American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition. San Diego. CA. USA. 2024.12.8.
 23. Nagane M: A new Bruton's tyrosine kinase (BTK) inhibitor for primary CNS lymphoma. The 19th Annual Congress of the Asian Society for Neuro-Oncology. Singapore. 8.2024.
 24. 齊藤邦昭: Brain tumor surgery using a digital 3D exoscope with a head-mounted display. Asian Society for Neuro-Oncology annual meeting 2024. Singapore. 2024年8月.
 25. 中富浩文: Functional Preservation Surgery for High-Grade Cerebral Arteriovenous Malformations Utilizing Visualization Techniques. ソウル. 第17回日韓脳卒中の外科学会 (JKJC2024). 2024年9月.
 26. 中富浩文: Pathophysiology and Treatment of Large and Giant Fusiform and Dolichoectatic Aneurysms. ソウル. 第17回日韓脳卒中の外科学会 (JKJC2024). 2024年9月.
 27. Oyama R, Suzuki S, Okada K, Hayashi A, Tanabe K, Hasegawa Y, Sasagawa S, Maejima K, Shibahara J, Nakagawa H, Nakatomi H: Comparison of Spatial Transcriptomic Analysis Methods in Cerebrovascular Structural Abnormalities. RIKEN CBS 連携会議. 和光. 2024年9月.
 28. 齊藤邦昭: CUSAを用いた脳腫瘍摘出術～条件設定と手技の検討～. 第154回日本脳神経外科学会関東支部学術集会. 東京. 2024年9月.
 29. 久ヶ澤一葉: 悪性神経膠腫患者における術前の健康関連QoLと予後との関係. 第2回脳腫瘍支持療法研究学術集会. 東京. 2024年9月.
 30. 永根英雄: PCNSL治療の現状と課題ーベレキシブル治療経験を含めー. VELEXBRU Expert Seminar. 東京. 2024年10月.
 31. 齊藤邦昭: 再発膠芽腫に対する‘FLAIRectomy’の有効性と安全性. 第29回日本脳腫瘍の外科学会. 高知. 2024年10月.
 32. 齊藤邦昭: 外視鏡の特性を活かした悪性脳腫瘍の手術. 第29回日本脳腫瘍の外科学会. 高知. 2024年10月.
 33. 中富浩文: 発生母地, 血管構築, 神経伝導路走行に基づく脳腫瘍・脳血管疾患の手術戦略と手技. 第26 Skill-building Neurosurgical Conference. 札幌. 2024年10月.
 34. 永根英雄, 佐々木重嘉, 齊藤邦昭, 小林啓一, 久ヶ澤一葉, 小野田凌, 清水早紀, 中富浩文: 中枢神経系原発悪性リンパ腫のMTX基盤寛解導入療法非完全奏効例の臨床的特徴. 日本脳神経外科学会第83回学術総会. 横浜. 2024年10月.
 35. 中富浩文: High grade脳動静脈奇形に対する“見える化を駆使した機能温存手術”. 日本脳神経外科学会第83回学術総会. 横浜. 2024年10月.
 36. 中富浩文: 紡錘状脳動脈瘤の遺伝子解析と病態解明. 日本脳神経外科学会第83回学術総会. 横浜. 2024年10月.
 37. 佐々木重嘉: R-MPVで完全寛解が得られた初発中枢神経系悪性リンパ腫における早期寛解の意義. 日本脳神経外科学会第83回学術総会. 横浜. 2024年10月.
 38. 丸山啓介: 片側顔面痙攣に対する微小血管減圧術におけるDNAPモニタリングの有用性. 日本脳神経外科学会第83回学術総会. 横浜. 2024年10月.
 39. 齊藤邦昭: Stealth™ Tractographyについて. 第83回日本脳神経外科学会学術総会. 横浜. 2024年10月.

40. 岡田 啓, 藤井照子, 吉田裕毅, 丸山啓介, 野口明男, 中富浩文: もやもや病手術における3次元シミュレーションGRIDの有用性. 日本脳神経外科学会第83回学術総会. 横浜. 2024年10月.
41. 久ヶ澤一葉: 悪性神経膠腫再発によって変化する健康関連QoL. 日本脳神経外科学会第83回学術総会. 横浜. 2024年10月.
42. 齊藤邦昭: 外視鏡を用いた脳腫瘍手術の進化と今後の展望. 日本脳神経外科学会第83回学術総会. 横浜. 2024年10月.
43. 永根基雄, 佐々木重嘉, 小林啓一, 齊藤邦昭, 清水早紀, 中富浩文: 中枢神経系原発悪性リンパ腫の病態と治療開発. 第62回日本癌治療学会学術集会. 福岡. 2024年10月.
44. 中富浩文: 紡錘状脳動脈瘤の遺伝子解析と病態解明. 第67回日本脳循環代謝学会学術集会. 富山. 2024年11月.
45. 齊藤邦昭: グリオーマ手術における外視鏡を用いた5-ALA 術中蛍光診断の有用性. 第34回日本光線力学学会学術講演会. 京都. 2024年11月.
46. Oyama R, Ohta N, Sasagawa S, Hasegawa Y, Maejima K, Suzukki S, Okada K, Motoo Nagane M, Nakagawa H, Nakatomi H: CBS Retreat 2024. 御殿場. 2024年11月.
47. 小林啓一: 脳腫瘍. 令和6年度がん専門薬剤師集中教育講座. オンライン. 2024年11-12月.
48. Nagane M: Treatment Strategies for Primary CNS Lymphoma based on Guidelines in Japan. The 4th ONO International PCNSL Forum at SNO2024, USA. 2024.1.21.
49. Nagane M, Sasaki N, Saito K, Kobayashi K, Kugasawa K, Onoda R, Nakatomi H: Early complete response might not be an indicator of longer progression-free survival in newly-diagnosed primary central nervous system lymphoma with a complete response by MTX-based induction therapy. The 29th Annual Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology. USA. 2024.11.22.
50. 藤井照子: AIを用いた脳動脈瘤コイル塞栓術後の再発予測モデルの開発. 第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会. 熊本. 2024年11月.
51. 野口明男, 河野拓司, 永根基雄: 脳神経外科医における神経変性疾患. 第43回日本認知症学会学術集会. 郡山. 2024年11月.
52. 永根基雄, 佐々木重嘉, 齊藤邦昭, 小林啓一, 久ヶ澤一葉, 小野田凌, 清水早紀, 中富浩文: 中枢神経系原発悪性リンパ腫のMTX基盤寛解導入療法非完全奏効例の臨床的特徴. 第42回日本脳腫瘍学会学術集会. 志摩. 2024年12月.
53. 久ヶ澤一葉: 悪性神経膠腫患者における健康関連QoLと予後との関係. 第42回日本脳腫瘍学会学術集会. 志摩. 2024年12月.
54. 齊藤邦昭: 膠芽腫の予後と相関するDNAメチル化プロファイルとDNAメチル化バイオマーカーの同定. 第42回日本脳腫瘍学会学術集会. 志摩. 2024年12月.
55. 佐々木重嘉: R-MPVで完全寛解が得られた初発中枢神経系悪性リンパ腫における早期寛解の意義. 第42回日本脳腫瘍学会学術集会. 志摩. 2024年12月.
56. 齊藤邦昭: Stealth™ Tractographyを用いた脳腫瘍手術戦略. 第42回日本脳腫瘍学会学術集会. 志摩. 2024年12月.
57. 中富浩文: 発生母地, 血管構築, 神経伝導路走行に基づく脳腫瘍・脳血管疾患の手術戦略と手技. 脳神経外科手術セミナー. 福岡. 2024年12月.
58. 永根基雄: 神経膠腫の分類, 診断, 治療の現状-PET検査の意義は?. 第12回クリニカルPETフォーラム. オンライン. 2024年12月.
59. 齊藤邦昭: Combination therapy with Optune and bevacizumab. Tokyo Optune meeting 2025. 東京. 2025年2月.

論文

1. Yonezawa H, Narita Y, Nagane M, Mishima K, Terui Y, Arakawa Y, Asai K, Fukuhara N, Sugiyama K, Shinojima N, Aoi A, Nishikawa R: Three-year follow-up analysis of phase I/II study on tirabrutinib in patients with relapsed or refractory primary central nervous system lymphoma. *Neuro-Oncol Adv.* 2024 ;6(1):vdae037. doi: 10.1093/noonjnl/vdae037.
2. Nagane M: Preface for Brain Tumor Pathology vol. 41 issue 2 (Special issue for the 41st Annual Meeting of the Japan Society of Brain Tumor Pathology). *Brain Tumor Pathol.* 2024 ;41: 41-42. doi: 10.1007/s10014-024-00479-8
3. 佐々木重嘉, 永根基雄: 各種疾患 脳腫瘍 中枢神経系原発悪性リンパ腫の分子病態と治療. *Annual Review神経.* 2024巻. 70-176. 2024年.
4. 里見介史, 二階雪野, 長濱清隆, 佐々木重嘉, 齊藤邦昭, 小林啓一, 永根基雄, 柴原純二: DNAメチロームにより小児型びまん性高悪性度膠腫と診断された成人小脳膠腫の2例. *Brain Tumor Pathology.* 41巻Suppl. 147. 2024年.
5. 野澤隆志, 齊藤邦昭, 片山染貴, 水野千海, 今井成海, 眞田笑吉, 原章仁, 稲葉健太, 鹿野良幸, 小澤仁美, 影山英治, 村野祐司: 外視鏡手術から更なる進化を目指したヘッドマウントディスプレイによる開頭腫瘍摘出術の経験. *日本臨床工学技士会誌.* 82号. Page172. 2024年.
6. Nakatomi H: Association Between Intracranial Aneurysms and Genes. *No Shinkei Geka.* 2024. 52(5):924-930. doi: 10.11477/mf.1436205000.
7. Paran F, Oyama R, Khasawneh A, Ai T, Ismanto H, Sherif A, Saputri D, Ono C, Saita M, Takei S, Horiuchi Y, Yagi K, Matsura Y, Okazaki Y, Takahashi K, Daron M, Standley, Tabe Y, Naito T: BCR, not TCR, repertoire diversity is associated with favorable COVID-19 prognosis. *Immunol.* 2024 ;15:1405013. doi: 10.3389/fimmu.2024.1405013.
8. Motomura K, Sasaki K, Sugii N, Yamaguchi S, Inoue H, Oshima A, Tanaka K, Otani Y, Shirahata M, Shibahara I, Nagane M, Tsuzuki S, Matsutani T, Tsukamoto y, Kijima N, Asano K, Ohno M, Inoue A, Mineharu Y, Miyake K, Mitobe Y, Hanihara M, Kawanishi Y, Deguchi S, Saito M, Matsuda R, Ujifuku K, Arita H, Sato Y, Yamashita S, Yonezawa U, Yamaguchi J, Momii Y, Ogawa T, Kambe A, Ohba S, Fukai J, Saito N, Kinoshita K, Sumi K, Otani R, Uzuka T, Takebe N, Koizumi S, Saito R, Arakawa Y, Narita Y and the Members of Japan Clinical Oncology Group Brain Tumor Study Group (JCOG-BTSG): Cost of medical care for malignant brain tumors at hospitals in the Japan Clinical Oncology Group Brain-Tumor Study Group. *Jpn J Clin Oncol.* 2024 ;54(10):1123-

1131. doi: 10.1093/jjco/hyae116.
9. Hattori K, Makishima K, Suma S, Abe Y, Suehara Y, Sakamoto T, Kurita N, Ishii R, Matsuoka R, Matsuda M, Tsurubuchi T, Nishikawa R, Tanaka S, Mukasa A, Narita Y, Ichimura K, Nagane M, Takano S, Mathis BJ, Ishikawa E, Matsubara D, Chiba S, Sakata-Yanagimoto M : Association between microenvironment-related genes and prognosis of primary central nervous system lymphoma. *eJHaem*. 2024 Nov 14;5(6):1201-1214. doi: 10.1002/jha2.1046.
 10. Satomi K, Shibayama T, Hibiya T, Hayashi A, Nagahama K, Kato K, Nikai Y, Matsushita Y, Gomyo M, Yamagishi Y, Sasaki N, Saito K, Kobayashi K, Takeda A, Fujimoto S, Matsuo T, Takai K, Komori T, Tsuchiya K, Nagane M, Ichimura K, Shibahara J : MYB::QKI fusion-positive diffuse glioma of the cerebellum: A case report. *Neuropathology* . 2024 . doi: 10.1111/neup.13016. Epub.
 11. Kanamori M, Tsuzuki S, Shibahara I, Saito K, Shimoda Y, Tanaka K, Yamaguchi S, Natsumeda M, Matsutani T, Hanihara M, Nakada M, Kuroda JI, Matsuda M, Yoshimoto K, Yonezawa U, Sonoda Y, Takano K, Yonezawa H, Otani Y, Nakahara Y, Uchida M, Nonaka M, Mineharu Y, Kitamura Y, Yamashita S, Yamauchi T, Miyake Y, Deguchi S, Beppu T, Tamura K, Koizumi S, Hirose Y, Asano K, Hiruta R, Kinoshita M, Miyake K, Nakayama N, Inoue A, Ono T, Sasaki T, Akiyama Y, Fukami S, Yoshino A, Kawanishi Y, Asanome T, Yamaguchi T, Takahashi M, Yamasaki F, Arakawa Y, Narita Y : Impact of tumor-treating fields on the survival of Japanese patients with newly diagnosed glioblastoma : A multicenter, retrospective cohort study. *Neurooncol Adv* . 2024;6(1):vdae176. doi: 10.1093/noajnl/vdae176.
 12. Sakamoto H, Tashiro S, Takebayashi M, Matsuda K, Saito K, Kobayashi K, Nagane M, Shiokawa Y, Nakatomi H, Yamada S : Could video game-based physical rehabilitation substitute for conventional physiotherapy in patients with glioma? A proof-of-concept study. *Support Care Cancer*. 2024 ;33(1):52. doi: 10.1007/s00520-024-09111-z.
 13. Nagai J, Maruyama K, Okada K, Nakatomi H : Usefulness of three-dimensional computer graphics for the direct surgery of ruptured aneurysms in deep collateral arteries arising after indirect revascularization for moyamoya disease: report of two cases. *NMC Case Rep J*. 2024; 11: 363-369. doi: 10.2176/jns-nmc.2024-0161.
 14. Kinoshita M, Fushimi Y, Masumoto T, Sasaki K, Sekita T, Natsume A, Wakabayashi T, Komori T, Tsuzuki S, Muragaki Y, Motomura K, Saito R, Sato K, Beppu T, Takahashi M, Kuroda J, Sonoda Y, Kobayashi K, Mishima K, Koichi Mitsuya K, Yamasaki F, Inoue A, Matsutani T, Nakamura H, Yamaguchi S, Ishikawa E, Nakaya M, Tanaka S, Ujifuku K, Uchida H, Kanamori M, Otani R, Kijima N, Nishida N, Yashino A, Mineharu Y, Arakawa Y, Fukuda H, Narita Y, and Members of Japan Clinical Oncology Group Brain Tumor Study Group (JCOG-BTSG) : Image-based Re-evaluation of the JCOG0911 Study

Focusing on Tumor Volume and Survival, Disease Progression Diagnosis , and Radiomic Prognostication for Newly Diagnosed Glioblastoma. *Magn Redon Med Sci*. 2024. doi: 10.2463/mrms.mp.2024-0103. Online ahead of print.

15. 中島昌典, 吉寄彩織, 上月直樹, 澁谷裕彦, 岡田啓, 今大也, 中富浩文, 平野照之, 市川弥生子 : 齧歯を契機として感染性を疑う脳動脈瘤が顕在化した海綿静脈洞症候群の1例. *Journal of Japan Society of Neurological Emergencies & Critical Care*. 36 (2). 46-52. 2024.
16. Fukuda H, Hyohdoh Y, Kawada K, Sorimachi T, Suzuki K, Kurita H, Uezato M, Chin M, Okada K, Nakatomi H, Shiokawa Y, Ishikawa T, Kawamata T, Morioka J, Nakahara I, Shimamura N, Ohkuma H, Ichihara N, Ueba T, Ikawa F : Risk factors of short-term poor functional outcomes and long-term durability of ruptured large or giant intracranial aneurysms . *J Neurosurg* . 2025 ;142(6):1776-1785. doi: 10.3171/2024.8.JNS24894.

著 書

1. 齊藤邦昭 : *Stealth™ Tractography Clinical Report* トラクトグラフィ抽出方法とCSD法の有用性. 日本メドトロニック社 (リーフレット) . 2024年.
2. 齊藤邦昭 (分担執筆) : シミュレーションで学ぶ脳腫瘍手術のビットフォールと失敗回避方法~神経膠腫~. *医療用3Dワークステーションで学ぶ脳神経外科手術戦略シミュレーション*. 中外医学社. 266-276. 2024.

その他

1. 中富浩文 : 編集後記. *脳卒中の外科*. 52 (1) . 86. 2024.

心臓血管外科学教室

講 演

1. 遠藤英仁, 峯岸祥人, 稲葉雄亮, 高橋雄, 鬼塚裕美, 藤原正規, 菊池花子, 伊波功, 副島京子, 窪田博 : 多発性僧帽弁瘤による僧帽弁閉鎖不全を呈した特発性肺動脈性血圧症の1例. 第195回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 宇都宮. 2024年6月.
2. 稲葉雄亮 : 弁膜症治療の連携を再考する. 循環器領域弁膜症カンファレンスin北多摩~心腎代謝関連を意識した治療~. オンライン. 2024年5月.
3. 細井温 : 最新のガイドラインに基づく血管外科の診断と治療 間歇性跛行. 第52回日本血管外科学会総会 第38回日本血管外科学会教育セミナー. 別府. 2024年5月.
4. 峯岸祥人 : 急性大動脈解離の治療戦略. 大動脈解離の治療戦略. オンライン. 2024年10月.
5. 窪田博 : 会長講演. 第196回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京. 2024年11月.
6. 稲葉雄亮 : TEVERによる急性大動脈症候群および大動脈解離に対する当院の治療方法. 第196回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京. 2024年11月.
7. 高橋雄, 稲葉雄亮, 峯岸祥人, 遠藤英仁, 窪田博 : 右冠動脈大動脈起始異常を伴う大動脈弁狭窄症の1例. 第196回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京. 2024年11月.

8. 青山稔, 稲葉雄亮, 高橋雄, 峯岸祥人, 遠藤英仁, 窪田博: TF-TAVI急性大動脈解離StanfordA型に対して緊急上行大動脈および大動脈弁置換術を施行した一例. 東京. 2024年11月.
9. 稲葉雄亮: IgG4関連疾患に伴う冠動脈瘤に対する瘤切除および大伏在静脈でinterpositionを施行した一例. 第37回日本冠疾患学会学術集会. 東京. 2024年11月.

論文

1. Takahashi Y, Inaba Y, Tuchiya H, Minegishi S, Niino T, Endo H, Kubota H: Clinical Features of Cardiac Calcified Amorphous Tumor: A Narrative Review. *Cardiol Rev*. 2024. doi: 10.1097/CRD.0000000000000714. Online ahead of print.
2. Kubota H, Endo H, Minegishi S, Tuchiya H, Inaba Y, Takahashi Y, Shimazaki T, Kurai D, Nakazawa H, Ohura N: Mid-term results of a case series on branched xenopericardial roll graft replacement to treat aortic arch/arch graft infection. *Eur J Cardiothorac Surg*. 2024;66(5):eaae378. doi: 10.1093/ejcts/eaee378.
3. Johno T, Kawano H, Nagahama K, Kubota H, Hirano T: Acute Large Vessel Occlusion Caused by Giant Floating Aortic Thrombus. *Stroke*. 2024;55(4):e117-e118. doi: 10.1161/STROKEAHA.124.046708.
4. Chatani R, Yamashita Y, Hosoi Y, et al.: Edoxaban for 12 vs. 3 months in cancer-associated isolated distal deep vein thrombosis according to different doses: insights from the ONCO DVT study. *Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother*. 2024; 10(5): 422-431. doi: 10.1093/ehjcvp/pvae028.
5. Fujiki S, Yamaashita Y, Hosoi Y, et al.: Impact of Anemia on Clinical Outcomes of Patients With Cancer-Associated Isolated Distal Deep Vein Thrombosis Receiving Edoxaban - Insights From the ONCO DVT Study. *Circ J*. 2024. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0571. Online ahead of print.
6. Xiong W, Yamashita Y, Hosoi Y, et al.: Utility of the modified Ottawa score for identification of more preferable candidates of extended anticoagulation therapy in cancer-associated isolated distal deep vein thrombosis: insight from the ONCO DVT Study. *J Thromb Haemost*. 2024;22(12):3542-3551. doi: 10.1016/j.jtha.2024.09.003.
7. Ogihara Y, Yamashita Y, Hosoi Y, et al.: Clinical outcomes of cancer-associated isolated distal deep vein thrombosis: a comparison between asymptomatic and symptomatic thrombosis - findings from the ONCO DVT Study. *Res Pract Thromb Haemost*. 2025;9(2):102722. doi: 10.1016/j.rpth.2025.102722. eCollection 2025 Feb.
8. 窪田博: 一枚のシェーマ 分枝付き異種心膜ロールグラフトを用いた弓部大動脈置換術の第一例. 胸部外科. 2024. 77; 5. p356.

【令和5年度追加分】

1. Yamashita Y, Morimoto T, Hosoi Y, et al.: Edoxaban for 12 Months Versus 3 Months in Patients With Cancer With Isolated Distal Deep Vein Thrombosis (ONCO DVT Study): An Open-Label, Multicenter, Randomized Clinical Trial. *Circulation*. 2023 ;148(21):1665-1676. doi:

10.1161/CIRCULATIONAHA.123.066360.

2. Sueta D, Yamashita Y, Hosoi Y, et al.: The impact of renal function on clinical outcomes of patients with cancer-associated isolated distal deep vein thrombosis: Insights from the ONCO DVT study. *Thromb Res*. 2024; 235: 107-115. doi: 10.1016/j.thromres.2024.01.021.

著書

1. 細井温 (分担執筆) : 9章血管疾患. 4.下肢静脈瘤. 5.深部静脈血栓症. HEART nursing 2024年夏季増刊 (通巻502号) 病態・治療を押さえてケアの根拠に自信をプラス! Update! 循環器の病気図鑑. 河野隆志. メディカ出版. 2024. p192-199.
2. 遠藤英仁 (分担執筆) : 9章血管疾患1. 大動脈瘤. HEART nursing 2024年夏季増刊 (通巻502号) 病態・治療を押さえてケアの根拠に自信をプラス! Update! 循環器の病気図鑑. 河野隆志. メディカ出版. 2024. p172-178.
3. 峯岸祥人 (分担執筆) : 9章血管疾患 2.大動脈解離. HEART nursing 2024年夏季増刊 (通巻502号) 病態・治療を押さえてケアの根拠に自信をプラス! Update! 循環器の病気図鑑. 河野隆志. メディカ出版. 2024. p179-185.
4. Kubota H: Guest Editor; The series "Surgical Treatment of Arrhythmias" *Journal of Thoracic Disease*. AME Publishing Company. 2024;16(2): 1702-1714, 2024;16(5): 3461-3471, 2024;16(5): 3472-3483.
5. 窪田博 (企画 分担執筆) : Heart's selection 企画 「低侵襲心臓血管手術の最先端」. 月刊心臓 Shinzo. 日本医学出版. 2024年. 56巻10号. 927.
6. 窪田博 (分担執筆) : Heart's Up To Date 「循環器医が知っておくべき最新のエビデンス」. 心臓 Shinzo. 日本医学出版. 2025年. 57巻3号. P249-250.

整形外科学教室

講演

1. 高橋雅人: モニタリング脊椎脊髄病研修コース 運動系・感覚系モニタリング各論. 一般社団法人日本脊椎脊髄病学会第22回脊椎脊髄病研修コース. 横浜市. 2024年4月.
2. 竹内拓海: 脊椎疾患について-術後管理を中心に-. 杏林大学病棟看護師勉強会. 三鷹市. 2024年5月.
3. Hosogane N: Surgical strategy for adult spinal deformity. Ethnic difference of surgical treatment for adult spinal deformity. 97th Annual Meeting of JOA. Invited Lecture. Fukuoka. May, 2024.
4. 細金直文: 成人脊柱変形の治療戦略-骨粗鬆症椎体骨折も含めて-. 第26回関西脊椎グループ研究会. 守口市. 2024年6月.
5. 高橋雅人: ハイリスク脊椎脊髄手術における脊髄モニタリング. 知っておきたい, 整形外科疾患の最新の話Web Seminar. 武蔵野市. 2024年6月.
6. 竹内拓海: 当院における骨粗鬆症治療戦略-DEPS法の基礎から応用-. 帝人ヘルスケア社内講演会. 三鷹市. 2024年6月.
7. 細金直文: 脊椎外傷と医学的基礎知識. 後遺障害担当者2年目第1次研修医学講演会. 東京. 2024年6月.

8. 竹内拓海：胸髄腫瘍摘出後早期に後弯を生じた一例。Asahi Spine Forum. 東京. 2024年6月.
9. 細金直文：脊椎難治性疾患（脊柱変形・骨粗鬆症性椎体骨折）に対する当院の取り組み。Meet the Specialist. 立川市. 2024年7月.
10. 佐藤行紀：変形性膝関節症を防ぐ診断と治療～半月板・人体損傷を中心に～. ジクトルテープ75mg発売3周年記念講演会in三鷹. 調布市. 2024年8月.
11. 森井健司：骨軟部腫瘍をめぐる冒険-患者さんとともに、患者さんのために-. 弘前大学夏の研修会（第33回）. 弘前市. 2024年8月.
12. 高橋雅人：モニタリング電位の起源. 日本臨床神経生理学会第11回術中脳脊髄モニタリングセミナー. 枚方市, 守口市. 2024年8月.
13. 竹内拓海：Saccra PPSを用いたDISHに対するDEPS法-基礎研究による検証-. Saccra Summer Seminarセミナー. 東京. 2024年8月.
14. 細金直文：成人脊柱変形の治療戦略. 第4回Johoku Spine Surgery update Seminar. 東京. 2024年9月.
15. 竹内拓海：神経障害性疼痛を来す腰椎疾患. 第一三共社内講演会. 三鷹市. 2024年9月.
16. 森井健司：がん治療医が実践する緩和ケアと疼痛がん治療. がん治療に携わるあなたへ～緩和ケアと疼痛治療のすゝめ～. オンライン. 2024年10月.
17. 山岸賢一郎：始める、続ける骨粗鬆症治療～二次性骨折予防管理料の算定と骨粗鬆症治療連携～. 東大和市医師会学術講演会. 東大和市. 2024年10月.
18. 高橋雅人：医療安全管理. 令和6年度第2回リスクマネージメント講習会. 三鷹市. 2024年10月.
19. 竹内拓海：骨粗鬆症性椎体骨折の治療戦略-SEPS/DEPS法はどこまで有用か?-. 第31回日本脊椎脊髄神経手術手技学会学術集会. 宇都宮市. 2024年10月.
20. 竹内拓海：高齢者への脊椎固定術の工夫-合併症を減らすために-. 第59回脊髄障害医学会. 名護市. 2024年11月.
21. 細金直文：腰椎変性性疾患の治療 薬物治療から手術治療まで. 慢性疼痛診療Web講演会. オンライン. 2024年11月.
22. 森井健司：高齢者の骨軟部腫瘍-日々の診療から学んだこと-. 第17回金沢骨軟部腫瘍セミナー. 金沢市. 2024年11月.
23. 細金直文：側弯・腰曲がりと神経障害性疼痛の診断と治療. 北多摩南部医療圏 整形外科疾患webセミナー～健康寿命の延伸とQOL向上を目指して～. オンライン. 2024年12月.
24. 細金直文：成人脊柱変形の治療戦略. 第57回日本臨床整形外科学会関東ブロック研修会. 東京. 2025年1月.
25. 竹内拓海：Double Endplates Penetrating Screw (DEPS)法のknacks and pitfalls. Stryker 社内セミナー. 東京. 2025年2月.
26. 坂倉健吾：当院整形外科教室における各班の診療体制に関して. 第12回多摩地域の整形外科疾患を考える会. 三鷹市. 2025年2月.
27. 佐藤行紀：当院での人工膝関節置換術. 第12回多摩地域の整形外科疾患を考える会. 三鷹市. 2025年2月.
28. 細金直文：脊椎由来の神経障害性疼痛-診断から治療までの実践ガイド-. 西多摩整形外科医会講演会. 立川市. 2025年2月.
29. 細金直文：腰椎疾患の診断・治療. 第一三共社内講演会. 三鷹市. 2025年3月.

国際学会

1. Osman WS, Özden VE, Younis AS, Abdel A, Sener N, Morii T, Pator JM, Martson A, Mathis K: What percentage of patients are dissatisfied post-primary total hip and total knee arthroplasty? World Expert in Joint Arthroplasty. Istanbul. Republic of Türkiye. August. 2024.
2. Morii T, Ogura K, Sato K, Kawai A. Incidence and risk of surgical site infection/periprosthetic joint infection in tumor endoprosthesis—data from the nationwide bone tumor registry in Japan. 22nd International Society of Limb Salvage General Meeting 2024. Brisbane, Australia. October. 2024.
3. Morii T, Ogura K, Sato K, Kawai A. A survey research on the prevention/treatment strategy for surgical site infection/periprosthetic joint infection in megaprosthesis among orthopedic oncology specialists in Japan. 22nd International Society of Limb Salvage General Meeting 2024. Brisbane, Australia. October. 2024.
4. Hirozane T, Yamada T, Tajima T, Morii T, Hosogane N: IMMUNOHISTOCHEMICAL ANALYSIS OF NUCLEAR β -CATENIN IN BONE AND SOFT TISSUE TUMOR MICROARRAYS. Connective Tissue Oncology Society (CTOS). USA. November. 2024.

国内学会

1. 高橋雅人, 後迫宏紀, 和田簡一郎, 船場真裕, 田所伸朗, 中西一義, 重松英樹, 岩崎博, 谷口慎一郎, 安藤宗治, 川端茂徳, 今釜史郎, 松山幸弘, 吉田剛, 竹下克志: 脊髄モニタリング偽陰性の特徴と要因-JSSR脊髄モニタリング委員会9,572例の解析-. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
2. 竹内拓海, 諸井威彦, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 高見澤悠平, 河野仁, 宮本梓, 細金直文: 成人脊柱変形術後ロッド折損へのクロスリンクの影響. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
3. 諸井威彦, 佐野秀仁, 小西一斉, 五十嵐一峰, 大木紫, 市村正一, 細金直文: タブレットPCを用いた頸髄症に対する新たな上肢運動機能評価. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
4. 竹内拓海, 諸井威彦, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 高見澤悠平, 河野仁, 宮本梓, 細金直文: 成人脊柱変形術後患者の初回歩行開始時期に対するフレイルの影響. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
5. 竹内拓海, 諸井威彦, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 高見澤悠平, 河野仁, 細金直文: 有限要素法を用いたDouble endplates penetrating screw(DEPS)法の理想的な軌道の検証. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
6. 小西一斉, 竹内拓海, 諸井威彦, 佐野秀仁, 高橋雅人, 細金直文: 癌予後予測因子は脊椎インストゥルメンテーション手術における手術部位感染の予測に有用か?. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
7. 川野洋介, 山岸賢一郎, 細金直文: 骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKP施行後の長期成績. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.

8. 長谷川淳, 佐野秀仁, 陣内快史, 川野洋介, 諸井威彦, 辻将明, 小西一斉, 佐藤俊輔, 竹内拓海, 五十嵐一峰, 高橋雅人, 長谷川雅一, 山岸賢一郎, 佐々木茂, 市村正一, 細金直文: 90歳以上の超高齢者の骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKP. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
9. 山岸賢一郎, 川野洋介: 骨粗鬆症性椎体骨折に対して, 経椎弓根的にリン酸カルシウムペーストを椎体・椎体間充填した前方支柱再建の有用性. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
10. 有馬秀幸, 相澤俊峰, 池上章太, 石井賢, 井上玄, 今釜史郎, 上田明希, 大鳥精司, 新村千絵, 中川幸洋, 中島宏彰, 藤田順之, 藤田卓仙, 細金直文, 八木満, 山田浩司, 吉井俊貴, 渡邊慶, 種市洋, 筑田博隆, 中村雅也, 松山幸弘, 波呂浩孝, 金村徳相: JSSR-DB年次報告 脊椎脊髄手術の疫学調査(2022年度). 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
11. 井上玄, 村上栄一, 黒澤大輔, 小谷善久, 二階堂琢也, 若尾典充, 細金直文, 金村徳相: 仙腸関節固定デバイス適正使用基準から見た仙腸関節障害の病態・診断・治療. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
12. 吉井俊貴, 石井賢, 三原久範, 國府田正雄, 岩崎幹希, 根尾昌志, 細金直文, 金村徳相: 人工椎間板置換術2椎間使用の市販後調査. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
13. 有馬秀幸, 相澤俊峰, 池上章太, 石井賢, 井上玄, 今釜史郎, 上田明希, 大鳥精司, 新村千絵, 中川幸洋, 中島宏彰, 藤田順之, 藤田卓仙, 細金直文, 八木満, 山田浩司, 吉井俊貴, 渡邊慶, 種市洋, 筑田博隆, 中村雅也, 松山幸弘, 波呂浩孝, 金村徳相: 日本脊椎脊髄病学会データベース(JSSR-DB)の現状と将来への展望. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
14. 橋本淳, 川端茂徳, 吉田剛, 後迫宏紀, 安藤宗治, 和田簡一郎, 重松英樹, 岩崎博, 高橋雅人, 田所伸朗, 中西一義, 今釜史郎, 松山幸弘, 吉井俊貴, 竹下克志: 頸椎後縦靭帯骨化症手術における自発筋電図の発生率と発生タイミングの調査-前向き多施設研究-. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
15. 吉田剛, 後迫宏紀, 今釜史郎, 中島宏彰, 川端茂徳, 安藤宗治, 谷口慎一郎, 重松英樹, 山田圭, 岩崎博, 和田簡一郎, 高橋雅人, 松場真裕, 田所伸朗, 黒須健太, 松山幸弘: 後縦靭帯骨化症に対する術中脊髄モニタリング成績の経年的変化-JSSR脊椎モニタリング委員会多施設前向き研究-. 第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 横浜市. 2024年4月.
16. 渡邊隼人, 佐藤行紀, 細金直文: 内側開大式脛骨粗面下骨切り術と内側開大式高位脛骨骨切り術における膝蓋大腿関節の検討. 第3回日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation研究会. 高松市. 2024年4月.
17. 森井健司, 田島崇, 弘實透, 細金直文, 近江圭祐: AYA世代肉腫患者の診断告知時における緩和的介入目標の抽出-つらさの質問票による解析. 第6回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会. 東京. 2024年5月.
18. 小西一斉, 佐野秀仁, 諸井威彦, 竹内拓海, 高橋雅人, 細金直文: 癌予後予測因子である栄養・免疫・炎症マーカーは脊椎インストゥルメンテーション手術における手術部位感染の予測に有用か. 第97回日本整形外科学会学術総会. 福岡市. 2024年5月.
19. 弘實透, 山田哲司, 田島崇, 森井健司, 細金直文: 組織マイクロアレイを用いた骨・軟部腫瘍におけるWntシグナル活性の評価. 第97回日本整形外科学会学術総会. 福岡市. 2024年5月.
20. 出村論, 渡邊慶, 小谷俊明, 松村昭, 大和雄, 有馬秀幸, 竹内拓海, 高橋真治, 谷口優樹, 土肥透, 関庄二, 朝田智之, 大場悠己, 菅原亮, 竹下克志, 上田明希, 鈴木悟士, 細金直文: 脊柱変形治療の現状と未来展望-小児脊柱変形に対する装具治療の現状と未来-日本側彎症学会レジストリー・アウトカム委員会からの報告. 第97回日本整形外科学会学術総会. 福岡市. 2024年5月.
21. 森井健司, 田島崇, 弘實透, 小西一斉, 細金直文: 感染の診断に難渋した骨・軟部腫瘍手術部位感染. 第97回日本整形外科学会学術総会. 福岡市. 2024年5月.
22. 森井健司, 佐藤健二, 小倉浩一, 細金直文, 川井章: 下肢悪性骨・軟部腫瘍手術における感染の下肢機能への影響-全国骨・軟部腫瘍登録を用いた傾向スコアマッチング-. 第97回日本整形外科学会学術総会. 福岡市. 2024年5月.
23. 菅原亮, 出村論, 小谷俊明, 朝田智之, 松村昭, 渡邊慶, 高橋真治, 大和雄, 関庄二, 細金直文: 思春期特発性側彎症に対する装具治療の心理・QOL評価. 第97回日本整形外科学会学術総会. 福岡市. 2024年5月.
24. 川野洋介, 小西一斉, 久木元光, 諸井威彦, 竹内拓海, 高橋雅人, 日比谷孝志, 駒形嘉紀, 細金直文: SLEの治療中に生じた頸椎腫瘍の一例. 第73回多摩リウマチ研究会. 武蔵野市. 2024年6月.
25. 竹内拓海, 諸井威彦, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 高見澤悠平, 河野仁, 細金直文: 有限要素法を用いた Double endplates penetrating screw (DEPS) 法の理想的な軌道の検証-Short DEPS (S-DEPS)の有用性-. 第14回最小侵襲脊椎治療学会. 倉敷市. 2024年6月.
26. 竹内拓海, 山岸賢一郎, 諸井威彦, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 高見澤悠平, 河野仁, 細金直文: 有限要素法を用いた Groove entry technique - Double endplates penetrating screw (GET-DEPS) 法の固定力の検証. 第14回最小侵襲脊椎治療学会. 倉敷市. 2024年6月.
27. 井上玄, 村上栄一, 黒澤大輔, 小谷善久, 二階堂琢也, 若尾典充, 細金直文, 金村徳相: 本邦におけるSIJ適正使用基準の確立と今後の展望-仙腸関節固定デバイスの安全な普及のために. 第14回最小侵襲脊椎治療学会. 倉敷市. 2024年6月.
28. 道廣岳, 稲田成作, 阿部幹, 渡邊知宏, 西野雅人, 佐藤俊輔, 鈴木啓司, 大畑徹也, 丸野秀人, 長谷川雅一, 細金直文: 大腿骨転子部骨折手術治療時のラグスクルー挿入トルクは術後早期の歩行能力に影響する. 第50回日本骨折治療学会. 仙台市. 2024年6月.
29. 大畑徹也, 丸野秀人, 稲田成作, 小谷明弘, 市村正一, 細金直文: 後屈15度以上転位した大腿骨頸部骨折に対する観血的整復術と人工骨頭置換術における機能予後の比較. 第50回日本骨折治療学会. 仙台市. 2024年6月.
30. 根田知明, 稲田成作, 長慎太郎, 松隈卓徳, 安部学, 細金直文: 高齢者の橈骨遠位端開放粉碎骨折に対して distraction plate を使用した1症例. 第50回日本骨折治療学会. 仙台市. 2024年6月.
31. 稲田成作, 大畑徹也, 西野雅人, 加藤聡一郎, 細金直文, 山口芳裕: L5横突起骨折の存在は大量輸血を

- 必要とする不安定型骨盤輪骨折患者の予測に有用か。第50回日本骨折治療学会。仙台市。2024年6月。
32. 西野雅人, 稲田成作, 道廣岳, 大畑徹也, 丸野秀人, 細金直文: 大腿骨近位部骨折患者に対するロモソズマップとビスホスホネート製剤の治療成績比較。第50回日本骨折治療学会。仙台市。2024年6月。
 33. 渡邊知宏, 西野雅人, 稲田成作, 細金直文: 外弯変形を有する非定型大腿骨骨折に対する髓内釘挿入の工夫。第50回日本骨折治療学会。仙台市。2024年6月。
 34. 宇高徹, 田島崇, 森井健司, 小菅みず穂, 大塚弘毅, 細金直文: 肺腺癌骨転移に対する凍結療法および凍結化学療法。第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会。福井市。2024年7月。
 35. 森井健司, 佐藤健二, 小倉浩一, 川井章: 腫瘍型人工関節の感染対策-骨・軟部腫瘍専門医に対する実態調査からみた課題-。第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会。福井市。2024年7月。
 36. 弘實透, 田島崇, 小西一斉, 森井健司, 細金直文: 乳がん骨転移患者に対する多職種集学的介入の有効性の検討。第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会。福井市。2024年7月。
 37. 田島崇, 森井健司, 弘實透, 細金直文: 骨・軟部腫瘍初期診療における可溶性IL-2レセプター値の臨床的意義。第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会。福井市。2024年7月。
 38. 田島崇, 森井健司, 弘實透, 稲田成作, 細金直文: 悪性骨軟部腫瘍手術後晩期感染に対するCLAP (Continuous Local Antibiotics Perfusion)の使用経験。第47回日本骨・関節感染症学会。出雲市。2024年7月。
 39. 小西一斉, 竹内拓海, 川野洋介, 諸井威彦, 佐野秀仁, 高橋雅人, 細金直文: 癌予後予測因子である栄養・免疫・炎症マーカーは脊椎インストゥルメンテーション手術における手術部位感染の予測に有用か?。第47回日本骨・関節感染症学会。出雲市。2024年7月。
 40. 川野洋介, 渡邊泰伸, 諸井威彦, 小西一斉, 竹内拓海, 佐野秀仁, 高橋雅人, 河野仁, 長谷川雅一, 谷戸祥之, 細金直文: 除圧術追加による腰椎後方椎体間固定術(PLIF)後の上位隣接椎間障害への影響-傾向スコアマッチング法を用いた検討-。第12回JASA。金沢市。2024年8月。
 41. 竹内拓海, 諸井威彦, 川野洋介, 小西一斉, 高橋雅人, 細金直文: 脊柱変形を伴った腰部脊柱管狭窄症の手術加療-私はまずは除圧派です-。第33回日本脊椎インストゥルメンテーション学会。札幌市。2024年9月。
 42. 竹内拓海, 諸井威彦, 川野洋介, 小西一斉, 高橋雅人, 高見澤悠平, 河野仁, 細金直文: 成人脊柱変形術後ロッド折損へのクロスリンクの影響-クロスリンクはロッド折損リスクとなるか?-。第33回日本脊椎インストゥルメンテーション学会。札幌市。2024年9月。
 43. 竹内拓海, 高見澤悠平, 陣内快史, 川野洋介, 諸井威彦, 小西一斉, 高橋雅人, 長瀬美樹, 細金直文: 解剖体脊椎を用いたSEPS/DEPS法と従来法の固定強度の比較-DEPS法に最適なスクリュウ形状は?-。第33回日本脊椎インストゥルメンテーション学会。札幌市。2024年9月。
 44. 鶴狩育巳, 佐藤行紀, 渡邊隼人, 細金直文: 大腿骨幹部骨折変形治療後外傷性膝関節症に対し膝周囲骨切り術を施行した5症例。第73回東日本整形災害外科学会。箱根町。2024年9月。
 45. 安部一平, 井上功三朗, 森脇孝博, 小寺正純, 細金直文: Tapered wedge stemを用いた初回THAでのcortical hypertrophyに関する検討。第73回東日本整形災害外科学会。箱根町。2024年9月。
 46. 橋安津子, 河野仁, 中道清広, 渡邊泰伸, 片岡嗣和, 宮本梓, 竹内拓海, 細金直文: 脊椎後方固定術後の近位隣接椎間障害予防の工夫-有限要素法を用いた肋骨フックの有用性の検証-。第31回日本脊椎脊髄神経手術手技学会学術集会。宇都宮市。2024年10月。
 47. 竹内拓海, 高見澤悠平, 陣内快史, 川野洋介, 諸井威彦, 小西一斉, 高橋雅人, 長瀬美樹, 細金直文: 解剖体脊椎を用いたSEPS/DEPS法と従来法の固定強度の比較-最適なスクリュウ形状の検討-。第31回日本脊椎脊髄神経手術手技学会学術集会。宇都宮市。2024年10月。
 48. 竹内拓海, 諸井威彦, 小西一斉, 佐野秀仁, 高橋雅人, 高見澤悠平, 河野仁, 細金直文: 有限要素法を用いたDouble endplates penetrating screw (DEPS)法の理想的な軌道の検証-Straight and Short DEPS (S-DEPS)の有用性-。第31回日本脊椎脊髄神経手術手技学会学術集会。宇都宮市。2024年10月。
 49. 長谷川淳, 佐野秀仁, 陣内快史, 川野洋介, 諸井威彦, 辻将明, 小西一斉, 佐藤俊輔, 竹内拓海, 五十嵐一峰, 高橋雅人, 長谷川雅一, 山岸賢一郎, 佐々木茂, 市村正一, 細金直文: 90歳以上の超高齢者の骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKP。第26回日本骨粗鬆症学会。金沢市。2024年10月。
 50. 稲田成作, 西野雅人, 大畑徹也, 山岸賢一郎, 星亨, 細金直文: 2型糖尿病患者における大動脈弓石灰化と骨密度の関係。第26回日本骨粗鬆症学会。金沢市。2024年10月。
 51. 川野洋介, 山岸賢一郎, 細金直文: 骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKP施行後の長期成績。第26回日本骨粗鬆症学会。金沢市。2024年10月。
 52. 佐藤俊輔, 高橋雅人, 里見和彦, 大塚英昭, 竹内拓海, 長谷川淳, 市村正一, 細金直文: 頸椎腫瘍モデルによる頸髄麻痺の進行機序-行動学的評価と3D μ X線CT, 組織透明化標本による神経解剖学的検証-。第39回日本整形外科学会基礎学術集会。東京。2024年10月。
 53. 竹内拓海, 高見澤悠平, 陣内快史, 川野洋介, 諸井威彦, 小西一斉, 高橋雅人, 長瀬美樹, 細金直文: 解剖体脊椎を用いたSEPS/DEPS法と従来法の固定強度の比較-DEPS法に最適なスクリュウ形状は?-。第39回日本整形外科学会基礎学術集会。東京。2024年10月。
 54. 小西一斉, 鈴木伸弥, 中島剛, 佐野秀仁, 川野洋介, 諸井威彦, 竹内拓海, 高橋雅人, 大木紫, 細金直文: 二重行動シミュレーション練習と経頭蓋磁気刺激の併用は皮質脊髄路興奮を増大させる。第39回日本整形外科学会基礎学術集会。東京。2024年10月。
 55. 高橋雅人, 滝徳宗, 小川潤, 里見和彦, 細金直文: 脊髄モニタリング経頭蓋刺激運動誘発電位の起源と賦活化される経路。第39回日本整形外科学会基礎学術集会。東京。2024年10月。
 56. 橋安津子, 河野仁, 中道清広, 渡邊泰伸, 片岡嗣和, 宮本梓, 竹内拓海, 細金直文: 脊椎広板固定術後の近位隣接椎間障害予防の工夫-有限要素法を用いた肋骨フックの有用性の検証-。第39回日本整形外科学会基礎学術集会。東京。2024年10月。
 57. 藤井肇, 坂倉健吾, 佐々木茂: 腱板修復術後再断裂症例の臨床成績に関わる因子の検討。第51回日本肩関節学会。京都市。2024年10月。
 58. 坂倉健吾, 藤井肇, 佐々木茂, 細金直文: 広範囲腱

断裂に対するTriple row法を用いた腱板修復術の術後成績. 第51回日本肩関節学会. 京都市. 2024年10月.

59. 竹内拓海, 有馬秀幸, 朝田智之, 出村諭, 土肥透, 松村昭, 大場悠己, 菅原亮, 鈴木悟士, 高橋信治, 上田明希, 大和雄, 渡邊慶, 細金直文: JOANR/JSSR-DBを用いた2022年度の成人脊柱変形手術合併症調査-日本側彎症学会による報告-. 第58回日本側彎症学会学術集会. 福岡市. 2024年11月.
60. 竹内拓海, 高橋雅人, 橋安津子, 中道清広, 渡邊泰伸, 河野仁, 細金直文: 成人脊柱変形手術における術後ロッド長に関する検討-術後ロッド長は冠状面変形が強いほど短くなる-. 第58回日本側彎症学会学術集会. 福岡市. 2024年11月.
61. 小谷俊明, 朝田智之, 渡邊慶, 出村諭, 松村昭, 有馬秀幸, 大和雄, 竹内拓海, 高橋真治, 土肥透, 大場悠己, 関庄二, 菅原亮, 鈴木悟士, 上田明希, 細金直文: 思春期特発性側彎症器具治療における器具由来の心理的ストレスとその器具コンプライアンスへの影響. 第58回日本側彎症学会学術集会. 福岡市. 2024年11月.
62. 菅原亮, 出村諭, 小谷俊明, 朝田智之, 松村昭, 渡邊慶, 有馬秀幸, 大和雄, 竹内拓海, 高橋真治, 土肥透, 大場悠己, 関庄二, 鈴木悟士, 上田明希, 細金直文: 思春期特発性側彎症の器具治療における温度ロガー使用効果の検証. 第58回日本側彎症学会学術集会. 福岡市. 2024年11月.
63. 大場悠己, 渡邊慶, 朝田智之, 松村昭, 菅原亮, 高橋真治, 上田明希, 鈴木悟士, 土肥透, 竹内拓海, 有馬秀幸, 大和雄, 出村諭, 細金直文: 思春期特発性側彎症に対する側彎症特異的運動療法の治療効果: 系統的レビュー-日本側彎症学会による報告-. 第58回日本側彎症学会学術集会. 福岡市. 2024年11月.
64. 梶原仁斗, 川野洋介, 小西一斉, 諸井威彦, 竹内拓海, 高橋雅人, 細金直文: 脊髄腫瘍摘出術後に椎体骨折に伴う高度後弯変形を生じ治療に難渋した1例. 第53回杏林医学会総会. 三鷹市. 2024年11月.
65. 大島圭介, 稲田成作, 西野雅人, 田島崇, 森井健司, 藤原正親, 柴原純二, 細金直文: CRPが常に陰性であった慢性再発性多発性骨髄炎の1例. 第53回杏林医学会総会. 三鷹市. 2024年11月.
66. 諸井威彦, 竹内拓海, 川野洋介, 小西一斉, 高橋雅人, 細金直文: 骨脆弱性椎体骨折に対するDEPS法およびセメント注入型スクリュー併用した脊椎後方固定術. 第47回多摩脊椎・脊髄カンファレンス. 三鷹市. 2024年12月.
67. 鈴木啓司, 佐藤行紀: AKOを併用した鏡視下MMPRT修復術の治療成績 スーチャーアンカー(2本縫合糸付)法とプリアウト法の比較. 第2回日本膝関節学会. 宜野湾市. 2024年12月.
68. 佐藤行紀, 渡邊隼人, 小谷明弘, 細金直文: Mobile Bearing UKA術後下肢alignmentおよび関越面傾斜に関する因子の検討. 第2回日本膝関節学会. 宜野湾市. 2024年12月.
69. 吉田剛, 後迫宏紀, 黒須健太, 今釜史郎, 世木直喜, 川端茂徳, 安藤宗治, 谷口慎一郎, 重松英樹, 岩崎博, 和田簡一郎, 高橋雅人, 山本直也, 船場真裕, 田所伸朗, 山田圭, 中西一義, 藤原靖, 松山幸弘, 竹下克志: 脊髄腫瘍摘出手術における術中脊髄モニタリングの至適アラームポイントモニタリング委員会多施設前向き研究. 第46回日本脊髄機能診断学会. 仙台市. 2025年2月.
70. 船場真裕, 寒竹司, 吉田剛, 後迫宏紀, 川端茂徳,

重松英樹, 高谷恒徳, 山田圭, 和田簡一郎, 高橋雅人, 世木直喜, 安藤宗治, 山本直也, 岩崎博, 田所伸朗, 藤原靖, 中西一義, 今釜史郎, 松山幸弘, 竹下克志: 120例からみた頸椎固定術vs除圧術の比較-麻痺発生率とMEPアラーム精度の検証-. 第46回日本脊髄機能診断学会. 仙台市. 2025年2月.

71. 後迫宏紀, 吉田剛, 世木直喜, 安藤宗治, 岩崎博, 川端茂徳, 山田圭, 藤原靖, 和田簡一郎, 高橋雅人, 山本直也, 田所伸朗, 重松英樹, 船場真裕, 安田明正, 中西一義, 関庄二, 今釜史郎, 竹下克志, 松山幸弘: 腰椎手術における神経根障害予防を目的とした術中神経モニタリングの実施状況と今後の課題. 第46回日本脊髄機能診断学会. 仙台市. 2025年2月.
72. 森井健司, 岩田慎太郎, 山家健作, 岡本正則, 安藤厚生, 田中太晶, 西田淳: COVID-19パンデミック下の骨軟部腫瘍診療体制-専門施設への全国調査-. 第8回日本サルコーマ治療研究学会学術集会. 札幌市. 2025年2月.
73. 弘實透, 柴山隆宏, 田島崇, 長島文夫, 森井健司, 細金直文: 集学的治療が奏功した骨病変を伴った血管肉腫の1例. 第8回日本サルコーマ治療研究学会学術集会. 札幌市. 2025年2月.
74. 田島崇, 森井健司, 弘實透, 細金直文: CLAPの併用で感染を制御し肺癌の治療を再開し得た肺癌転移性骨腫瘍術後晩期感染の1例. 第8回日本サルコーマ治療研究学会学術集会. 札幌市. 2025年2月.
75. 佐藤行紀, 渡邊隼人, 小谷明弘, 細金直文: Mobile Bearing UKA術前外反ストレス撮影と術後アライメント変化量との相関. 第55回日本人工関節学会. 名古屋市. 2025年2月.
76. 竹内拓海, 諸井威彦, 川野洋介, 小西一斉, 高橋雅人, 細金直文: Whole body alignmentを考慮した脊椎手術(腰椎). 第65回関東整形災害外科学会. 東京. 2025年3月.
77. 梶原仁斗, 川野洋介, 小西一斉, 諸井威彦, 竹内拓海, 高橋雅人, 細金直文: 脊髄腫瘍摘出術後に椎体骨折に伴う高度後弯変形を生じ治療に難渋した1例. 第65回関東整形災害外科学会. 東京. 2025年3月.
78. 大島圭介, 稲田成作, 西野雅人, 田島崇, 森井健司, 細金直文: CRP値が常に陰性であった慢性再発性多発性骨髄炎の1例. 第65回関東整形災害外科学会. 東京. 2025年3月.

論文

英語原著論文

1. Mori T, Kobayashi E, Sato Y, Takenaka S, Endo M, Nakamura T, Morii T, Yoshida Y, Ueda T, Kawano H, Kawai A: What Are the Complication Rates and Factors Associated With Total Femur Replacement After Tumor Resection? Findings From the Japanese Musculoskeletal Oncology Group. Clin Orthop Relat Res. 2024;482(4):702-712. doi: 10.1097/CORR.0000000000002874.
2. Sato S, Takahashi M, Satomi K, Ohne H, Takeuchi T, Hasegawa A, Ichimura S, Hosogane N: Unveiling the natural history of paralysis in metastatic cervical spinal tumor: An experimental study. Brain Spine. 2024; 4:102842. doi: 10.1016/j.bas.2024.102842.
3. Osaka M, Kishino T, Shimamori N, Matsushima S, Yamasaki S, Ohtsuka K, Yasudo H, Morii T, Shibahara J, Watanabe T, Ohnishi H: Sonographic findings of malignant peripheral nerve sheath tumors – case series –. Laboratory Medicine International 2024. 3 (3), 74-83.

4. Konishi K, Sano H, Kawano Y, Moroi T, Takeuchi T, Takahashi M, Hosogane N: Factors related to surgical site infection in spinal instrumentation surgery: a retrospective study in Japan. *Asian Spine J.* 2024;18(6):822-828. DOI:10.31616/asj.2024.0274.
5. Hirozane T, Hashimoto M, Haque H, Arita Y, Mori T, Asano N, Nakayama R, Morii T, Hosogane N, Matsumoto M, Nakamura M, Jinzaki M: Development of Artificial Intelligence System for Distinguishing Malignant from Benign Soft-Tissue Tumors Using Contrast-Enhanced MR Images. *Oncology* 2024 :1-11. DOI:10.1159/00052228.
6. Passias PG, Mir JM, Dave P, Smith JS, Lafage R, Gum J, Line BG, Diebo B, Daniels AH, Hamilton DK, Buell TJ, Scheer JK, Eastlack RK, Mullin JP, Mundis GM, Hosogane N, Yagi M, Schoenfeld AJ, Uribe JS, Anand N, Mummaneni PV, Chou D, Klineberg EO, Kebaish KM, Lewis SJ, Gupta MC, Kim HJ, Hart RA, Lenke LG, Ames CP, Shaffrey CI, Schwab FJ, Lafage V, Hostin RA Jr, Bess S, Burton DC; International Spine Study Group: Factors Associated With the Maintenance of Cost-effectiveness at Five Years in Adult Spinal Deformity Corrective Surgery. *Spine (Phila Pa 1976).* 2024; 49(20):1401-1409. doi: 10.1097/BRS.0000000000004982.
7. Arima H, Yamato Y, Shibata Y, Oba H, Takahashi J, Watanabe K, Sugawara R, Takeshita K, Arai Y, Asada T, Demura S, Doi T, Matsumura A, Suzuki S, Takahashi S, Takeuchi T, Ueda H, Hosogane N: Validation of the Japanese version of the scoliosis research society-30 questionnaire for adult patients with spinal deformity. *J Orthop Sci.* 2024;S0949-2658(24) 00256-2. doi: 10.1016/j.jos.2024.11.002.
8. Passias PG, Tretiakov P, Onafowokan OO, Das A, Lafage R, Smith JS, Line BG, Nayak P, Diebo B, Daniels AH, Gum JL, Hamilton DK, Buell TJ, Soroceanu A, Scheer JK, Eastlack RK, Mullin JP, Schoenfeld AJ, Mundis GM, Hosogane N, Yagi M, Mummaneni PV, Chou D, Fu KM, Than KD, Anand N, Okonkwo DO, Wang MY, Klineberg E, Kebaish KM, Lewis S, Hostin R, Gupta M, Lenke L, Kim HJ, Ames CP, Shaffrey CI, Bess S, Schwab F, Lafage V, Burton D: When is staging complex adult spinal deformity advantageous? Identifying subsets of patients who benefit from staged interventions. *J Neurosurg Spine.* 2024;42(2):185-192. doi: 10.3171/2024.8.SPINE24365.
9. Tsuchiya K, Akisue T, Ehara S, Kawai A, Kawano H, Hiraga H, Hosono A, Hutani H, Morii T, Morioka H, Nishida Y, Oda Y, Ogose A, Shimose S, Yamaguchi T, Yamamoto T, Yoshida M: Japanese orthopaedic association (JOA) clinical practice guidelines on the management of malignant bone tumors - Secondary publication. *J Orthop Sci.* 2025 Jan;30(1):1-17. doi: 10.1016/j.jos.2023.11.007..
10. Oba H, Watanabe K, Asada T, Matsumura A, Sugawara R, Takahashi S, Ueda H, Suzuki S, Doi T, Takeuchi T, Arima H, Yamato Y, Demura S, Hosogane N: Effects of Physiotherapeutic Scoliosis-Specific Exercise for Adolescent Idiopathic Scoliosis Cobb Angle: A Systematic Review. *Spine Surg Relat Res.* 2024;9(2):120-129. doi: 10.22603/ssrr.2024-0191.
11. Onafowokan OO, Lafage R, Tretiakov P, Smith JS, Line BG, Diebo BG, Daniels AH, Gum JL, Protosaltis TS, Hamilton DK, Buell T, Soroceanu A, Scheer J, Eastlack RK, Mullin JP, Mundis G, Hosogane N, Yagi M, Anand N, Okonkwo DO, Wang MY, Klineberg EO, Kebaish KM, Lewis S, Hostin R, Gupta MC, Lenke LG, Kim HJ, Ames CP, Shaffrey CI, Bess S, Schwab FJ, Lafage V, Burton D, Passias PG; International Spine Study Group: Comparative Analysis of Outcomes in Adult Spinal Deformity Patients with Proximal Junctional Kyphosis or Failure Initially Fused to Upper Versus Lower Thoracic Spine. *J Clin Med.* 2024;13(24):7722. doi: 10.3390/jcm13247722.
12. Hirozane T, Sekita T, Kobayashi E, Mori T, Asano N, Uda T, Tajima T, Nakagawa R, Kikuta K, Yoshiyama A, Morioka H, Watanabe I, Anazawa U, Susa M, Horiuchi K, Suzuki Y, Morii T, Nakayama R: Clinical characteristics and outcomes of patients with chondroblastoma undergoing surgery with various adjuvant procedures: a retrospective study of 59 cases. *BMC surg.* 2025;25(1):40. doi: 10.1186/s12893-025-02782-3.
13. Takeuchi T, Takamizawa Y, Jinnai K, Kawano Y, Moroi T, Konishi K, Takahashi M, Nagase M, Hosogane N: Biomechanical comparison of pedicle screw fixation strength between traditional trajectory and the single and double endplates penetrating screw trajectories in cadaver spine. *Eur Spine J.* 2025 ;34(5):1907-1918. doi: 10.1007/s00586-025-08799-9.
14. Inanaga S, Shimizu M, Yanagisawa S, Hagiwara K, Kimura M. : Osteochondral Fracture of the Posterior Aspect of Lateral Femoral Condyle Presumably Caused by Tibia Pushing Up Against the Femur-A Case Report. *Case Rep Orthop.* 2025;2025:3610324. doi: 10.1155/cro/3610324.
15. Takeuchi T, Arima H, Asada T, Demura S, Doi T, Matsumura A, Oba H, Sugawara R, Suzuki S, Takahashi S, Ueda H, Yamato Y, Watanabe K, Hosogane N: Morbidity and Mortality of Adult Spinal Deformity Surgery Using the Japanese Orthopedic Association National Registry/Japanese Society for Spine Surgery and Related Research Database (JOANR/JSSR-DB). *SSRR.* 2025; advpub. doi: 10.22603/ssrr.2024-0289. Epub ahead of print.
16. Hiraga H, Machida R, Kawai A, Kunisada T, Yonemoto T, Endo M, Nishida Y, Nagano A, Ae K, Yoshida S, Asanuma K, Toguchida J, Furuta T, Nakayama R, Akisue T, Hiruma T, Morii T, Nishimura H, Hiraoka K, Takeyama M, Emori M, Tsukushi S, Hatano H, Kawashima H, Isu K, Tanaka K, Kataoka T, Fukuda H, Iwamoto Y, Ozaki T: Methotrexate, Doxorubicin, and Cisplatin Versus Methotrexate, Doxorubicin, and Cisplatin + Ifosfamide in poor responders to preoperative chemotherapy for newly diagnosed high-grade osteosarcoma (JCOG0905): A multicenter, open-label, randomized trial. *J Clin Oncol* 2025;43(16):1886-1897. doi: 10.1200/JCO-24-01281. Epub 26.

17. Nakamura T, Kobayashi E, Takenaka S, Endo M, Hayashi K, Nakata E, Ohshika S, Kawashima H, Horiuchi K, Nishida Y, Morii T: Predictive variables for intraoperative blood loss and surgical time in resection of malignant soft tissue tumors without reconstruction. *Jpn J Clin Oncol*. 2025. doi: 10.1093/jcco/hyaf030. Online ahead of print.
18. Hayashi K, Takenaka S, Ohshika S, Kawashima H, Endo M, Kobayashi E, Nakata E, Nakamura T, Horiuchi K, Hamada T, Nishida Y, Morii T: Comparative surgical invasiveness of internal fixation for pathological fractures in metastatic bone disease versus traumatic fractures: a quantitative analysis of operative time and blood loss. *Jpn J Clin Oncol*. 2025. doi: 10.1093/jcco/hyaf039. Online ahead of print.
19. Morii T, Ogura K, Sato K, Kawai A: Infection of surgery for bone and soft tissue sarcoma with biological reconstruction: Data from the Japanese nationwide bone tumor registry. *J Orthop Sci*. 2025;30(2):390-396. doi: 10.1016/j.jos.2024.04.006.

日本語論文

1. 橋安津子, 河野仁, 赤池侑樹, 高見澤悠平, 中道清広, 渡邊泰伸, 片岡嗣和, 竹内拓海, 細金直文: 肋骨フックは脊椎固定術における近位隣接椎間障害予防に有効か?有限要素法を用いた検証. *J Spine Res*. 2024; 15巻 (7) : 988-993.
2. 諸井威彦, 佐野秀仁, 小西一斉, 竹内拓海, 高橋雅人, 大木紫, 市村正一細金直文: タブレットPCを用いた頸髄症に対する新たな上肢の運動機能評価. *脊髄機能診断学* 2024; 45巻 : 32-36.
3. 高橋雅人, 後迫宏紀, 和田簡一郎, 船場真裕, 田所伸朗, 中西一義, 重松英樹, 橋本淳, 安田明正, 世木直喜, 中島宏彰, 岩崎博, 山田圭, 山本直也, 寒竹司, 藤原靖, 谷口慎一郎, 安藤宗治, 川端茂徳, 森戸伸治, 黒須健太, 荒川保雄, 高谷恒範, 小林和克, 今釜史郎, 松山幸弘, 吉田剛, 竹下克志: 脊髄モニタリング偽陰性の特徴と要因-JSSR脊髄モニタリング委員会9,572例の解析-. *脊髄機能診断学* 2024; 45巻 : 76-79.
4. 高橋雅人, 今釜史郎, 重松英樹, 船場真裕, 後迫宏紀, 中西一義, 町野正明, 谷口慎一郎, 藤原靖, 小林和克, 山本直也, 山田圭, 寒竹司, 岩崎博, 和田簡一郎, 田所伸朗, 安藤圭, 安田明正, 橋本淳, 森戸伸治, 黒須健太, 中島宏彰, 世木直喜, 荒川保雄, 高谷恒範, 川端茂徳, 安藤宗治, 松山幸弘, 竹下克志, 吉田剛: 腰仙椎手術における脊髄モニタリングの有効性 日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリング委員会6,196例の解析. *J Spine Res*. 2025; 16巻 (1) : 9-16.

総説・解説

1. 有馬秀幸, 相澤俊峰, 池上章太, 石井賢, 井上玄, 今釜史郎, 上田明希, 大鳥精司, 新村千絵, 中川幸洋, 中島宏彰, 藤田順之, 藤田卓仙, 細金直文, 八木満, 山田浩司, 吉井俊貴, 渡邊慶, 種市洋, 筑田博隆, 中村雅也, 松山幸弘, 波呂浩孝, 金村徳相: 【大規模レジストリーによる整形外科リアルワールドエビデンス構築】日本脊椎脊髄病学会データベース (JSSR-DB) の現状と将来への展望. *臨整外*. 2024; 59巻 (7) : 897-906.
2. 細金直文: 成人脊柱変形の病態と症状. *TMA医師と東京医師会を結ぶ会報誌*. 2024; 77巻 (8) : 603-

- 607.
3. Morii T, Tsuchiya H: A Nationwide Survey of Tumor Endoprosthesis Infection in Japan. History and Prospects. *MO Journal Europe*. 2024: 38-43.
4. Özden VE, Osman WS, Morii T, Pastor JCM, Abdelaal AM, Younis AS: What Percentage of Patients Are Dissatisfied Post-primary Total Hip and Total Knee Arthroplasty?. *J Arthroplasty*. 2025: 40(2S1):S55-S56. doi: 10.1016/j.arth.2024.10.081.
5. 森井健司, 松下和彦, 稲葉裕, 岡敬之, 篠崎智大, 立岩俊之, 正岡利紀, 小西一斉, 山田浩司, 山本謙吾, 市村正一: J-DOS現状報告. *日骨関節感染症誌*. 2025; 38巻 : 1-5.
6. 竹内拓海, 細金直文: DISH患者の脊椎骨折に対する手術の工夫 -Single or Double endplates penetrating screw (SEPS/DEPS) 法-. *脊椎脊髄ジャーナル*. 2025; 38巻 (2) : 91-96.

著書

1. 竹内拓海 (分担執筆): 最小侵襲手術における基本的手技 X線透視下経皮的椎弓根スクリュー挿入法. *新OS NEXUS No.11 最小侵襲脊椎外科*. 佐藤公治編集. メジカルビュー社. 2024. 178-183.
2. 森井健司 (分担執筆): 従来型 アルキル化薬 (そのほか) トラベクテジン. これだけは押さえておきたい がん薬物療法の薬抗がん剤 ホルモン剤 分子標的薬 免疫チェックポイント阻害薬 はや調ベノート2025・2026年版. 上野誠 編, 古瀬純司 監修. メディカ出版. 2025年. 274-275.

その他

1. 森井健司 (受賞): 令和6年 JOS (Journal of Orthopaedic Science) Best Paper Award. Takeshi Morii, Koichi Ogura, Kenji Sato, Akira Kawai. Incidence and risk of surgical site infection/periprosthetic joint infection in tumor endoprosthesis-data from the nationwide bone tumor registry in Japan. *J Orthop Sci*. 2024 Jul;29(4):1112-1118.

皮膚科学教室

講演

1. Tosti A, King B, Ko J, Senna MM, Ohyama M, Dutronc Y, Chen UF, Yu G, Smith S, Wu WS: Concurrent improvement in scalp hair and eyebrow or eyelash in regrowth in patients with severe alopecia areata treated with baricitinib. 13th World Congress of Hair Research. USA. Apr. 2024.
2. Somani N, King B, Shapiro J, Ohyama M, Egeberg A, Sinclair R, WU WS, Dutronc Y, Chen YF, Ding Y: Duration of concurrent episode of alopecia areata influences prognosis during treatment with baricitinib in patients with severe AA. 13th World Congress of Hair Research. USA. Apr. 2024.
3. Somani N, Senna MM, Mostaghimi A, Ohyama M, Sinclair R, Chiasserini C, Dutronc Y, Yu G, Kolodnick J: Long-term efficacy of baricitinib in alopecia areata: 3-year results from BRAVE-AA1 and BRACE-AA2. 13th World Congress of Hair

- Research. USA. Apr. 2024.
4. Iwasaki T, Kinoshita-Ise M, Ida T, Fukuyama M, Amagai M, Ohyama M: Three-dimensional ultrahigh frequency ultrasound visualized phase-specific microstructural changes in alopecia areata: an innovative modality facilitating pathophysiology-based treatment planning. 13th World Congress of Hair Research. Apr. 2024.
 5. Hayakawa R, Masahiro F, Tsukashima A, Ohyama M: Establishment of in vitro approach adopting trichogenic activation and three-dimensional reconstruction for improvement of biomarker expression levels in cultured human dermal papilla cells. 13th World Congress of Hair Research. USA. Apr. 2024.
 6. 下田由莉江：当教室発汗外来における診療の取り組み。第4回West Tokyo Sweat and Disease Web Seminar. オンライン。2024年4月。
 7. 大医学：脱毛症の診断と治療のポイントupdate. 第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会。宇都宮。2024年4月。
 8. 木下美咲：脱毛症を理解する～診断・病態・治療～。マルホ株式会社社内研修会。東京。2024年4月。
 9. 水川良子：PPP診療－皮膚科医の視点から－。掌蹠膿疱症セミナー。オンライン。2024年5月。
 10. 岩崎達朗, 木下美咲, 伊田泰一郎, 天谷雅行, 大医学：超高周波3D超音波装置による基底細胞癌3例の微細立体構造可視化の試み。第40回日本皮膚悪性腫瘍学会。宮崎。2024年5月。
 11. 宮川総一郎, 小林英資, 山崎好美, 下田由莉江, 野邊美月, 波田野冨佳, 木下美咲, 芝山隆宏, 下山田博明, 大医学：高齢男性の頭部に生じたポリオーマウイルス陰性combinedメルケル細胞癌の1例。第40回日本皮膚悪性腫瘍学会。宮崎。2024年5月。
 12. Shimoda Y, Mizukawa Y, Yamazaki Y, Kimishima M, Tsukashima A, Ohyama M: Identification of human sweat gland cell markers for immunohistological diagnosis of quired idiopathic generalized anhidrosis by comparing in vitro global gene expression profile with or without corticosteroid. 2024 Society for Investigative Dermatology Meeting. USA. May. 2024.
 13. 宜野座淳善, 福山雅大, 大医学：臨床的に基底細胞癌との鑑別を要したsolid cystic hidradenomaの1例。第911回日本皮膚科学会東京地方会。東京。2024年5月。
 14. 倉田麻衣子：乾癬における早期全身療法の意義－アプレミラストを中心に－。Otezla Expert Seminar. オンライン。2024年5月。
 15. Ohyama M: Current strategy for the management of severe alopecia areata in Japan. 20th Annual Meeting of the Korean Hair Research Society. Korea. May. 2024.
 16. Kinoshita-Ise M: Development of diagnostic techniques for hair loss diseases. 20th Annual Meeting of Korean Hair Research Society. Korea. May. 2024.
 17. 木下美咲：円形脱毛症の診断・治療アップデート。Pfizer Dermatology JAK Seminar in 山梨。山梨。2024年5月。
 18. 大医学：Real World Dataから考える重症円形脱毛症治療の考え方。円形脱毛症up to date. 第123回日本皮膚科学会総会。京都。2024年6月。
 19. 宮川総一郎, 小林英資, 下田由莉江, 倉田麻衣子, 大貫朋也, 吉森恵未, 若林典弘, 大医学：血漿交換療法後にヘパリン起因性血小板減少症を発症した水疱性類天疱瘡の2例。第123回日本皮膚科学会総会。京都。2024年6月。
 20. 大医学, Senna M, Sinclair R, Dutronec Y, Yu G, Murage M, 竹ノ内一雅, 井坂圭孝, King B: 重症円形脱毛症成人患者に対するバリシチニブの長期有効性: BRAVE-AA1/AA2試験104週データ。第123回日本皮膚科学会総会。京都。2024年6月。
 21. 木下美咲：円形脱毛症の新たな選択肢 リトレシチニブの可能性と位置づけ。第123回日本皮膚科学会総会。京都。2024年6月。
 22. 下田由莉江：発汗障害の診療～当教室発汗外来における取り組み。第123回日本皮膚科学会総会。京都。2024年6月。
 23. 下田由莉江, 水川良子, 山崎好美, 福山雅大, 野邊美月, 海永光洋, 大医学：自律神経障害の合併が疑われた全身性無汗症の兄弟例。第123回日本皮膚科学会総会。京都。2024年6月。
 24. 木下美咲：もう怖くない！脱毛症診断のコツ。第123回日本皮膚科学会総会。京都。2024年6月。
 25. 水川良子：薬疹とGVHD。日本皮膚科学会2024年度研修講習会。オンライン。2024年6月。
 26. 近藤憲太, 福山雅大, 下田由莉江, 水川良子, 大医学：4種の二次性腫瘍を合併した脂腺母斑の1例。第123回日本皮膚科学会総会。京都。2024年6月。
 27. 所千華子, 倉田麻衣子, 福山雅大, 木下美咲, 大医学：有茎性腫瘍を呈した乳房外Paget病の1例。第123回日本皮膚科学会総会。京都。2024年6月。
 28. Tziotzios C, Sinclair R, Lesiak A, Mehlis S, Kinoshita-Ise M, Tsianakas A, Luo X, Law EH, Wolk R, Sadrarhami M, Lejeune A: Efficacy of ritlecitinib in patients with alopecia areata by extent of hair loss at baseline: post hoc analysis of the phase 3 long-term ALLEGRO-LT study. Revolutionizing Alopecia Areata (RAA) Conference (part of Revolutionizing AA, Vitiligo, and Eczema [RAVE]). USA. Jun. 2024.
 29. Tziotzios C, Sinclair R, Lesiak A, Mehlis S, Kinoshita-Ise M, Tsianakas A, Luo X, Law EH, Wolk R, Sadrarhami M, Lejeune A: Efficacy of ritlecitinib in patients with alopecia areata by extent of hair loss at baseline: post hoc analysis of the phase 3 long-term ALLEGRO-LT study (encore). The 29th Annual Meeting of Chinese Society of Dermatology. China. Jun. 2024.
 30. 大医学, 木下美咲, 早川怜那, 福山雅大：急速進行性円形脱毛症に対するステロイドパルス療法予後予測スコアの長期予測における有用性の検討。第438回日本皮膚科学会北海道地方会・山本明美 旭川医科大学皮膚科学講座教授退任記念地方会。旭川。2024年6月。
 31. 大医学：データから見える重症円形脱毛症治療の実際。第50回皮膚かたち研究学会学術大会。那覇。2024年6月。
 32. 岩崎達朗, 木下美咲, 伊田泰一郎, 天谷雅行, 大医学：超高周波3D超音波を用いた基底細胞癌およびBowen病における立体構造の可視化と組織像との対比。第50回皮膚かたち研究学会学術大会。那覇。2024年6月。
 33. 高木雅哉, 木下美咲, 福山雅大, 青木宗一郎, 西山沙織, 三好真未, 山崎まさ子, 杉元崇紀, 尾郷正志,

- 大 山 学： デジ タ ル 画 像 の 二 値 化 解 析 に 基 づ い た 新 規 毛 髪 径 計 測 ア プ リ ケ ー シ ョ ン の 開 発。 第 50 回 皮 膚 ち ち 研 究 学 会 学 術 大 会。 那 覇。 2024 年 6 月。
34. 倉 田 麻 衣 子： 中 等 症 か ら 重 症 の 乾 癬 に 対 す る 全 身 療 法 ～ 薬 剤 選 択 の ポ イ ン ト ～。 乾 癬 治 療 Web セ ミ ナ ー in 八 王 子。 オ ン ラ イ ン。 2024 年 6 月。
 35. Taniguchi E, Imanishi H, Inui S, Ohyama M, Tsuruta D: A case of alopecia areata. The 14th Meeting of the German-Japanese Society of Dermatology. Gotenba. Jun. 2024.
 36. 大 山 学： Real World Data に 基 づ く 重 症 円 形 脱 毛 症 治 療 の ポ イ ン ト。 Alopecia Areata Expert Meeting. 神 戸。 2024 年 6 月。
 37. O'Connor C, Asfour L, Bokhari L, Cotsarelis G, Cotter C, Craiglow B, Cutlar L, Dhurat R, Dlova N, Doche I, Donovan J, Eisman S, Daniel Melo F, Harries M, Hordinsky M, Kazmi A, King B, Meah N, Ohyama M, Ovcharenko J, Pirmez R, Piraccini BM, Rudnicka L, Saceda-Corralo D, Shapiro J, Sinclair R, Smith B, Starace M, Vano-Galvan S, Liang KW, York K, McDonald I, Wall D: A global survey to assess practice of laboratory testing in alopecia areata by hair specialists. The 104th annual meeting of the British Dermatological Association. UK. Jul. 2024.
 38. 高 橋 良， 大 山 学： 共 同 研 究 施 設 の 現 状 と 展 望： 杏 林 大 学 大 学 院 医 学 研 究 科 共 同 研 究 施 設 フ ロ ー サ イ ト メ ト リ ー 部 門。 日 本 サ イ ト メ ト リ ー 学 会 第 34 回 学 術 集 会。 オ ン ラ イ ン。 2024 年 7 月。
 39. 大 山 学： 脱 毛 症 理 解 の た め の 基 礎 医 学 的 知 識 と 診 断 法。 第 48 回 日 本 小 児 皮 膚 科 学 会 学 術 大 会。 東 京。 2024 年 7 月。
 40. 大 山 学： 円 形 脱 毛 症 治 療 の 診 断 ・ 治 療 の ポ イ ン ト： 重 症 例 へ の 新 規 治 療 へ の 期 待 も 含 め て。 日 本 皮 膚 科 学 会 岩 手 地 方 会 学 術 大 会 第 407 回 例 会。 盛 岡。 2024 年 7 月。
 41. 水 川 良 子： ラ モ ト リ ギ ン に よ る 重 症 薬 疹 一 問 題 点， 不 適 正 使 用 を 含 め て。 第 21 回 日 本 う つ 病 学 会。 大 阪。 2024 年 7 月。
 42. 小 笠 原 渚， 大 山 学， 水 川 良 子： 汎 発 性 に 伝 染 性 軟 属 腫 を 生 じ デ ュ ビ ル マ プ で 改 善 を 認 め た ア ト ピ ー 性 皮 膚 炎 の 1 例。 第 912 回 日 本 皮 膚 科 学 会 東 京 地 方 会。 東 京。 2024 年 7 月。
 43. 下 田 由 莉 江： 発 汗 障 害 の 診 断 と マ ネ ジ メ ン ト に つ い て ～ 最 近 の 知 見 も 含 め て。 千 葉 県 皮 膚 科 医 会 学 術 講 演。 オ ン ラ イ ン。 2024 年 7 月。
 44. 大 山 学： Real World Data か ら み た 重 症 円 形 脱 毛 症 治 療 の ス ト ラ テ ギ ー。 Lilly Dermatology National Symposium. 東 京。 2024 年 7 月。
 45. 木 下 美 咲： 円 形 脱 毛 症 診 断 と 治 療 に お け る 近 年 の 進 歩。 第 56 回 日 本 医 学 教 育 学 会 大 会。 東 京。 2024 年 8 月。
 46. 大 山 学： Real World Data に 基 づ く 重 症 円 形 脱 毛 症 治 療 の ポ イ ン ト。 Alopecia Areata Expert Meeting. 東 京。 2024 年 8 月。
 47. 倉 田 麻 衣 子， 下 田 由 莉 江， 水 川 良 子， 大 山 学， 日 野 治 子： 膿 疱 性 乾 癬 を 疑 っ た 水 疱 性 類 天 疱 瘡 の 1 例。 第 39 回 日 本 乾 癬 学 会 学 術 大 会。 大 阪。 2024 年 8 月。
 48. Tziotzios C, Sinclair R, Lesiak A, Mehlis S, Kinoshita-Ise M, Tsianakas A, Luo X, Law EH, Wolk R, Sadrarhami M, Lejeune A: Efficacy of ritlecitinib in patients with alopecia areata by extent of hair loss at baseline: post hoc analysis of the phase 3 long-term ALLEGRO-LT study. The 8th Annual Meeting of Chinese Hair Research Society. China. Aug. 2024.
 49. 大 山 学： 臨 床 現 場 か ら の 疑 問 に 答 え る 重 症 円 形 脱 毛 症 に 対 す る パ リ シ チ ニ ブ 内 服 治 療 の ポ イ ン ト。 Lilly Alopecia Areata Web Conference. オ ン ラ イ ン。 2024 年 8 月。
 50. 木 下 美 咲： 円 形 脱 毛 症 病 態 ・ 診 断 ・ 治 療。 地 区 講 演 会 若 手 医 師 向 け 勉 強 会。 オ ン ラ イ ン。 2024 年 8 月。
 51. 大 山 学： 脱 毛 症 マ ネ ジ メ ン ト ア ッ プ デ ー ト： 毛 髪 外 来 で の 知 見 か ら。 Sapporo Dermatology Seminar. 札 幌 ・ オ ン ラ イ ン。 2024 年 8 月。
 52. 水 川 良 子： ア ト ピ ー 性 皮 膚 炎 か ら み る 発 汗， パ リ ア 機 能 の 重 要 性。 第 32 回 日 本 発 汗 学 会 総 会。 名 古 屋。 2024 年 8 月。
 53. 下 田 由 莉 江： 無 汗 症 の 疫 学， 診 断， 治 療 に つ い て。 第 32 回 日 本 発 汗 学 会 総 会。 オ ン ラ イ ン。 2024 年 8 月。
 54. 下 田 由 莉 江， 大 山 学， 山 崎 好 美， 海 永 光 洋， 水 川 良 子： 家 族 性 の 全 身 性 無 汗 症 と 考 え た 兄 弟 例。 第 32 回 日 本 発 汗 学 会 総 会。 オ ン ラ イ ン。 2024 年 8 月。
 55. 下 田 由 莉 江： 発 汗 障 害 の 関 与 す る 皮 膚 疾 患 ～ ア ト ピ ー 性 皮 膚 炎 を 含 め て。 第 25 回 皮 膚 合 同 カ ン フ ェ レ ン ス。 東 京。 2024 年 8 月。
 56. Ohyama M: Understanding alopecia areata's complex pathophysiology. Derm Summit Asia 2024. Tokyo. Aug. 2024.
 57. 倉 田 麻 衣 子： 専 門 医 専 門 医 に 紹 介 し て ほ し い 皮 膚 疾 患 ～ 帯 状 疱 疹， 湿 疹， 白 癬 を 中 心 に ～。 地 域 連 携 皮 膚 疾 患 セ ミ ナ ー in 北 多 摩 南 部。 武 蔵 野。 2024 年 9 月。
 58. 木 下 美 咲： 円 形 脱 毛 症 の 治 療 戦 略。 第 76 回 日 本 皮 膚 科 学 会 西 部 支 部 学 術 大 会。 徳 島。 2024 年 9 月。
 59. 井 坂 圭 孝， King B, Shapiro J, Senna M, 大 山 学， Dutronc Y, Lu N, Chiasserini C, Somani N, Piraccini BM: 重 症 円 形 脱 毛 症 に お け る パ リ シ チ ニ ブ 治 療 に よ る 頭 部 脱 毛 へ の 治 療 応 答 経 過 別 の 眉 毛 ・ 睫 毛 脱 毛 改 善 の タイ ミ ン グ。 第 76 回 日 本 皮 膚 科 学 会 西 部 支 部 学 術 大 会。 徳 島。 2024 年 9 月。
 60. 林 航， 木 下 美 咲， 福 山 雅 大， 大 山 学： Folliculitis decalvans and lichen planopilaris phenotypic spectrum と 考 え た 2 例 の 検 討。 第 76 回 日 本 皮 膚 科 学 会 西 部 支 部 学 術 大 会。 徳 島。 2024 年 9 月。
 61. 木 下 美 咲： 円 形 脱 毛 症 病 態 ・ 診 断 ・ 治 療。 Lilly AD/AA 全 国 Web 講 演 会。 オ ン ラ イ ン。 2024 年 9 月。
 62. Ohyama M: Anti-JAK and new options -JAK inhibitors and beyond for severe alopecia areata-. Second Barcelona Hair Meeting. Spain. Sep. 2024.
 63. 木 下 美 咲： 円 形 脱 毛 症 の 診 断 を 極 め る た め に。 第 88 回 日 本 皮 膚 科 学 会 東 部 支 部 学 術 大 会。 仙 台。 2024 年 9 月。
 64. 木 村 真 衣， 関 根 万 里， 石 井 則 久， 山 崎 正 規， 藤 沼 千 尋， 岩 澤 う つ ぎ， 水 川 良 子， 大 山 学： 多 磨 全 生 園 で の 2021-2023 年 の ハ ン セ ン 病 新 規 患 者 に つ い て。 第 88 回 日 本 皮 膚 科 学 会 東 部 支 部 学 術 大 会。 仙 台。 2024 年 9 月。
 65. 大 山 学： 円 形 脱 毛 症 診 断 ・ 治 療 ア ッ プ デ ー ト。 東 京 都 皮 膚 科 医 会 学 術 講 演 会。 東 京。 2024 年 9 月。
 66. 倉 田 麻 衣 子： 乾 癬 に お け る 経 口 剤 治 療 を 再 考 す る。 Psoriasis Web Seminar ～ ソ ー ティ ク ツ の 至 適 患 者 像 を 考 え る ～。 オ ン ラ イ ン。 2024 年 9 月。
 67. 大 山 学： 脱 毛 症 の し く み - か ゆ み と の 関 連 も 含 め て -。 皮 膚 の 日 市 民 公 開 講 座 「 頭 皮 も 髪 も ひ ふ の う ち！ ～ 頭 の か ゆ み と 上 手 に つ き あ う ～」。 日 本 経 済

- 新聞社イベント&セミナー. 東京. 2024年9月.
68. 水川良子: 中毒疹を考える. 三重皮膚科専門医会学術講演会. 津. 2024年10月.
 69. Ohyama M: Current status of the management of hair loss diseases in Japan. The 76th Autumn Meeting of The Korean Dermatological Association. Korea. Oct. 2024.
 70. 倉田麻衣子: 当科における乾癬治療について~イミリアの利点を考える~. West Tokyo Dermatology Update Seminar. オンライン. 2024年10月.
 71. 早川智, 早川純子, 早川順, 早川直, 村島温子, 藤尾圭志, 相澤志保子: 16世紀イングランド女王メアリー1世の想像妊娠はSLEに合併した早発卵巣不全(早発閉経)か?. 第52回日本臨床免疫学会総会. 東京. 2025年10月.
 72. 野邊美月, 木下美咲, 大山学: 外陰部に多発した軟毛嚢腫の例. 日本皮膚科学会第913回東京地方会. オンライン. 2024年10月.
 73. Senna M, Taylor S, Piraccini BM, Shapiro J, Somani N, Jedynak J, Ogwu S, Buchanan A, Craiglow B, Ohyama M: Characterizing Loss of Response Occurring in a Small Number of Patients During 3 Years of Long-Term Maintenance Therapy with Baricitinib 4-mg: Results From BRAVE-AA1 and -AA2 Trials. Fall Clinical Dermatology Conference. USA. Oct. 2024.
 74. King B, Senna M, Ohyama M, Sinclair R, Somani N, Dutrone Y, Lu N, Chen YF, Jedynak JP, Buchanan A, Piraccini BM: Evidence-based data on how long to treat to achieve treatment response with baricitinib in severe alopecia areata. Fall Clinical Dermatology Conference. USA. Oct. 2024.
 75. 下田由莉江: アトピー性皮膚炎の病態と発汗障害との関連性について. デュピクセント適応追加記念講演in多摩. 武蔵野. 2024年10月.
 76. 木下美咲: 円形脱毛症の診断と治療~ガイドラインを踏まえて~. Dermatology Winter Summit 2024. 札幌. 2024年10月.
 77. 水川良子: 全身療法のスウィッチ症例について リンゾック→デュピクセント. 第2回 Atopic Dermatitis Internet Live Seminar. 2024年10月.
 78. 大山学: 円形脱毛症診療のポイント: 基礎からアップデートまで. Pfizer Dermatology Seminar in Kobe. 神戸. 2024年10月.
 79. 大山学: 脱毛症診断アップデート. 第29回日本臨床毛髪学会学術集会. 千葉. 2024年11月.
 80. 倉田麻衣子: アトピー性皮膚炎に対するウバダシチニブ投与中に白斑が明瞭化した1例. 多摩皮膚科専門医会. 武蔵野. 2024年11月.
 81. 水川良子: 蕁麻疹 最新の話. 第6回多摩重症喘息治療研究会. 立川. 2024年11月.
 82. 大山学, King B, Senna M, Shapiro J, Dutrone Y, Kolodsick J, Liu C, Chiasserini C, Piraccini BM: 重症円形脱毛症成人患者に対するパリシチニブ投与減量後の結果: BRAVE-AA2試験152週時データ. 第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京. 2024年11月.
 83. 倉田麻衣子: 中堅医師のジレンマから脱却! 悩みを力に変えてキャリアアップを加速させよう. 第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京. 2024年11月.
 84. 木下美咲: 脱毛症診療のこれからを考える. 第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京. 2024年11月.
 85. 橋本萌詠美, 下田由莉江, 波田野冨佳, 薄井晃一, 北濱圭一郎, 磯村杏那, 大山学: シェーグレン症候群を合併し萎縮性結節性アミロイドーシスと考えた1例. 第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京. 2024年11月.
 86. 根本千紬, 岸本暢将, 大山学, 水川良子: 木村病の治療中に若年性側頭動脈炎を発症した高齢男性の1例. 第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京. 2024年11月.
 87. 木下美咲: 円形脱毛症診療でトリコスコピーを使いこなす!. 円形脱毛症疾患教育ウェビナー in November 2024. オンライン. 2024年11月.
 88. 大山学: 脱毛症診療アップデート: 杏林大学病院毛髪外来での知見をふまえて. 第75回日本皮膚科学会香川地方会. 高松. 2024年11月.
 89. 岩崎達朗, 木下美咲, 伊田泰一郎, 大山学: 超高周波3D超音波を用いた円形脱毛症の予後予測についての検討. 2024年度毛髪科学研究会学術ミーティング. オンライン. 2024年11月.
 90. 倉田麻衣子: 乾癬における内服療法について~アプレミラストの至適患者像を考える~. オテズラWEBセミナー. オンライン. 2024年12月.
 91. Hayakawa R, Takahashi R, Fukuyama M, Tsukashima A, Kimishima M, Yamazaki Y, Ohyama M: Discovery of human dermal papilla cell surface markers for living cell isolation using a novel culture condition with WNT and FGF activation. The 49th annual meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Nagoya. Dec. 2024.
 92. Iwasaki T, Kinoshita-Ise M, Ida T, Amagai M, Ohyama M: Three-dimensional ultra-high frequency ultrasound non-invasively visualizes pathological changes predicting the prognosis of alopecia areata. The 49th annual meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Nagoya. Dec. 2024.
 93. Takahashi R, Kinoshita-Ise M, Yamazaki Y, Fukuyama M, Ohyama M: Consistent PD-1 increase in cytotoxic T cell subsets suggests treatment-resistancy in rapidly progressive alopecia areata. The 49th annual meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Nagoya. Dec. 2024.
 94. 大山学: 円形脱毛症治療のガイドラインを読み解く. ファイザーWEB講演会. オンライン. 2024年12月.
 95. 山内優美, 野邊美月, 木下美咲, 木村俊彦, 大山学: 一絨毛膜二羊膜双胎1児死亡後の生存児に認めた先天性皮膚欠損症の1例. 第914回日本皮膚科学会東京地方会. オンライン. 2024年12月.
 96. 久保斐嵩, 小林英資, 宜野座淳善, 小嶋幸一郎, 須並英二, 藤岡正親, 柴原純二, 大山学, 水川良子: 多発する脂腺系腫瘍を契機に診断し得たMuir-Torre症候群の1例. 第914回日本皮膚科学会東京地方会. オンライン. 2024年12月.
 97. 工藤愛巳, 野邊美月, 倉田麻衣子, 水川良子, 大山学: アトピー性皮膚炎に対するウバダシチニブ投与中に尋常性白斑が明瞭化した1例. 第54回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会. 郡山. 2024年12月.
 98. 羽尾まり子, 岩崎達朗, 木下美咲, 下田由莉江, 大

- 山学：IgG4関連疾患患者に生じた spiny keratodermaの1例。第54回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会。郡山。2024年12月。
99. 大山学：全頭型円形脱毛症とその鑑別：病態への考察を加えて。第54回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会。郡山。2024年12月。
100. 水川良子：Ashy dermatosisiを再考する。第54回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会。郡山。2024年12月。
101. 水川良子：最新の診療ガイドラインからみる重症薬疹の鑑別診断。第54回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会。郡山。2024年12月。
102. 水川良子：医薬品副作用被害救済制度—その重要性和皮膚科医の役割—。第10回重症薬疹診療拠点病院認定に係る講習会。郡山。2024年12月。
103. 木下美咲：これからの脱毛症診療～アップデートの知識とともに～。第2回栃木県臨床皮膚科医会講演会。オンライン。2025年1月。
104. 木下美咲：円形脱毛症の治療。「円形脱毛症」に関するアドバイザー会議(マルホ)。東京。2025年1月。
105. 水川良子：結節性痒疹の治療は変わったか。第19回多摩東地区スキンケアセミナー。武蔵野。2025年1月。
106. 倉田麻衣子：当科における乾癬の全身療法について～ビメキズマブの至適患者像とは～。Psoriasis Expert Seminar。オンライン。2025年2月。
107. 皆川風, 林航, 倉田麻衣子, 大山学：皮膚骨腫を合併したepisodic eosinophilic dermatitis of the faceの1例。第915回日本皮膚科学会東京地方会。オンライン。2025年2月。
108. 大山学：円形脱毛症診療のポイント：基礎からアップデートまで。Dermatology Seminar in 福岡。福岡。2025年2月。
109. 倉田麻衣子：乾癬バイオ製剤の適正使用～IL-17阻害薬とIL-23阻害薬の使い分け～。乾癬バイオ製剤の適正使用を考えるWeb Seminar。オンライン。2025年3月。
110. 下田由莉江：多汗症の診断プロセスと治療について。第54回江東区医師会皮膚科医会学術講演会。東京。2025年3月。
111. Passeron T, Soung J, Kwon O, Saceda-Corrado D, Lynde C, Lockshin B, Dutronc Y, Colvin S, Denning K, Das T, Ohyama M: Baricitinib Provides significant hair regrowth in adolescents with severe alopecia areata: 36-week efficacy and safety results from a phase 3 randomized, controlled trial. *The 2025 American Academy of Dermatology. USA. Mar. 2025.*
112. Senna M, Figueras I, Kinoshita-Ise M, Hanna S, Wu W, Wajsbrot D, Woodworth D, Wolk R, Chaudhry A, Lejeune A, Tran H: Long-term efficacy and safety of ritlecitinib in adults and adolescents with alopecia areata (AA): 3-year results from the ALLEGRO-LT phase 3, open-label study. *The 2025 American Academy of Dermatology. USA. Mar. 2025.*
113. 木下傑, 高橋未来, 中沢陽介, 尾郷正志, 原田和俊, 大山学, 新山史朗, 坪井良治：自家毛球部毛根鞘細胞を用いた男性型・女性型脱毛症治療の効果予測マーカーの探索。第24回日本再生医療学会総会。横浜。2025年3月。
114. 早川怜那, 福山雅大, 高橋良, 塚島明希, 山崎好美, 君嶋桃子, 大山学：生きたヒト毛乳頭細胞の効率的な分離を可能にする細胞表面マーカー同定の試み。第24回日本再生医療学会総会。横浜。2025年3月。
115. Ohyama M: Attempts to optimize materials for human hair follicle regeneration. 2025 32nd KSID Annual Meeting. Korea. Mar. 2025.

論文

- 小笠原渚, 福山雅大, 山崎好美, 佐藤洋平, 大山学：局所的に癬痕性脱毛斑を呈した尋常性天疱瘡の1例。臨皮。2024；78（4）：307-313。DOI：10.11477/mf.1412207243。
- Fukunaga K, Tsukagoshi E, Nakamura R, Matsunaga K, Ozeki T, Watanabe H, Hasegawa A, Hama N, Kurata M, Mizukawa Y, Watanabe Y, Yamaguchi Y, Niihara H, Morita E, Asada H, Abe R, Saito Y, Mushiroda T: Association of HLA-A*11:01, HLA-B*39:01, and HLA-B*56:03 with salazosulfapyridine-induced cutaneous adverse drug reactions. *J Allergy Clin Immunol Pract.* 2024; 12(5): 1355-1358. DOI: 10.1016/j.jaip.2024.02.041.
- 木下美咲：【達人が教える!"あと一步"をスッキリ治す皮膚科診療テクニック】円形脱毛症治療の"あと一步"病期別治療攻略法。Derma. 2024; 348: 145-152.
- 小笠原渚, 福山雅大, 佐藤洋平, 小西里沙, 市村裕輝, 水川良子, 沖山奈緒子, 大山学：背部の皮疹の性状から抗SAE抗体を検出した皮膚筋炎の1例。臨皮。2024；78（7）：477-481。DOI：10.11477/mf.1412207335。
- Iwasaki T, Shimoda-Komatsu Y, Yagihashi K, Ida Y, Shimoyamada H, Fukuda T, Ohyama M: A case of chromomycosis due to *Cladosporium halotolerans*: Successful identification of previously unreported pathogen with a molecular approach. *J Dermatol.* 2024; 51(6): e220-e222. DOI: 10.1111/1346-8138.17125.
- 下田由莉江, 大山学：脱毛症と汗腺疾患の接点 免疫学的特権破綻の観点から。発汗学。2024；31（1）：21-23。
- 根本千紬, 下田由莉江, 小林英資, 佐藤洋平, 大山学, 水川良子：薬剤性過敏症候群の経過中に皮疹の再燃とウイルスの持続再活性化を認め橋本病を発症した1例。臨皮。2024；78（8）：550-556。DOI：10.11477/mf.1412207353。
- Takahashi R, Kinoshita-Ise M, Yamazaki Y, Fukuyama M, Ohyama M: Increase in CD8+ Effector Memory T Cells Re-Expressing CD45RA Correlates with Intractability of Severe Alopecia Areata. *J Invest Dermatol.* 2024; 144(7): 1654-1657. e7. DOI: 10.1016/j.jid.2024.01.006.
- 下田由莉江：【汗と皮膚】特発性後天性全身性無汗症 炎症性と非炎症性2つのサブタイプ。皮膚科。2024；6（3）：211-215。
- 大山学, 伊藤泰介, 天羽康之, 乾重樹, 今西久幹, 植木理恵, 内山真樹, 小原宏哉, 木下美咲, 大日輝記, 夏秋洋平, 林良太, 原田和俊, 福山雅大, 水芦政人, 下村裕：日本皮膚科学会ガイドライン 円形脱毛症診療ガイドライン2024。日皮会誌。2024；134（10）：2491-2526。DOI：10.14924/dermatol.134.2491。
- 波田野冨佳, 下田由莉江, 山崎好美, 大山学：出産後に自覚した鱗状毛包性角化症(土肥)の1例。臨皮。2024；78（11）：841-846。DOI：10.11477/mf.1412207416。

12. Shiohara T, Mizukawa Y: The Neglected Beneficial Role of Sweat in Atopic Dermatitis Is Spotlighted at Last. *J Invest Dermatol*. 2024; 144(10): 2114-2116. DOI: 10.1016/j.jid.2024.05.003.
13. Mostaghimi A, Ko J, Tosti A, McMichael A, Ohyama M, Ito T, Dutronc Y, Ball S, Yu G, Murage M, Chen YF, Chiasserini C, Wollenberg A: Concordance between clinician-reported and patient-reported outcomes of eyebrow and eyelash hair loss in patients with severe alopecia areata: Results from BRAVE-AA1 and BRAVE-AA2 studies. *J Am Acad Dermatol*. 2024; 91 (4): 729-732. DOI: 10.1016/j.jaad.2024.05.077.
14. Kojima M, Mieno H, Ueta M, Nakata M, Teramukai S, Sunaga Y, Ochiai H, Iijima M, Kokaze A, Watanabe H, Kurosawa M, Azukizawa H, Asada H, Watanabe Y, Yamaguchi Y, Aihara M, Ikezawa Z, Mizukawa Y, Ohyama M, Shiohara T, Hama N, Abe R, Hashizume H, Nakajima S, Nomura T, Kabashima K, Tohyama M, Hashimoto K, Takahashi H, Niihara H, Morita E, Sueki H, Kinoshita S, Sotozono C: Improvement of the Ocular Prognosis of Stevens-Johnson Syndrome and Toxic Epidermal Necrolysis: A National Survey in Japan. *Am J Ophthalmol*. 2024; 267: 50-60. DOI: 10.1016/j.ajo.2024.05.011.
15. 大 山 学 : 新 ・ 皮 膚 科 セ ミ ナ リ ウ ム 図 で 理 解 す る 皮 膚 付 属 器 : 毛 包 ・ 脂 腺 ・ 汗 腺 . 日 皮 会 誌 . 2024 ; 134 (13) : 3267-3295 . DOI : 10.14924/dermatol.134.3267.
16. 下 田 由 莉 江 , 大 山 学 , 山 崎 好 美 , 海 永 光 洋 , 水 川 良 子 : 家 族 性 全 身 性 無 汗 症 ま た は 特 発 性 後 天 性 全 身 性 無 汗 症 の 家 族 内 発 症 と 考 え た 兄 弟 例 . 発 汗 学 . 2024 ; 31 (2) : 42-44.
17. 水 川 良 子 : 【 Update 今 の 薬 疹 を 知 る 】 DIHS (薬 剤 性 過 敏 症 症 候 群) で 有 用 な 臨 床 指 標 と ス コ ア DDS ス コ ア と AIP ス コ ア . *Derma*. 2024 ; 355 : 7-13.
18. Hama N, Aoki S, Chen CB, Hasegawa A, Ogawa Y, Vocanson M, Asada H, Chu CY, Lan CE, Dodiuk-Gad RP, Fujiyama T, Hsieh TS, Ito K, Jerschow E, Mizukawa Y, Nakajima S, Nakamura K, Nicolas JF, Satoh TK, Shiohara T, Takahashi H, Tohyama M, Ueda T, Ura K, Watanabe H, Yamaguchi Y, Nordmann TM, Chung WH, Naisbitt D, Pincelli C, Pichler WJ, French LE, Phillips E, Abe R: Recent progress in Stevens-Johnson syndrome/toxic epidermal necrolysis: diagnostic criteria, pathogenesis and treatment. *Br J Dermatol*. 2024; 192(1): 9-18. DOI: 10.1093/bjd/ljae321.
19. Fukuyama M, Kinoshita-Ise M, Ohyama M: Long-term outcomes of intravenous corticosteroid pulse therapy for rapidly progressive alopecia areata: A single-center retrospective analysis of 106 cases and usefulness evaluation of a scoring system originally designed for half-year efficacy prediction for extended periods. *J Dermatol*. 2025; 52(1): 112-121. DOI: 10.1111/1346-8138.17506.
20. Kinoshita-Ise M, Ida T, Iwasaki T, Iwazaki H, Yokota K, Taguchi H, Ohyama M: Validity and Advantages of Three-Dimensional High-Frequency Ultrasound in Dermatological Evaluation. *Diagnostics*. 2025; 15(2): 223. DOI: 10.3390/diagnostics15020223.
21. Tziotzios C, Sinclair R, Lesiak A, Mehlis S, Kinoshita-Ise M, Tsianakas A, Luo X, Law EH, Ishowo-Adejumo R, Wolk R, Sadrarhami M, Lejeune A: Long-term safety and efficacy of ritilecitinib in adults and adolescents with alopecia areata and at least 25% scalp hair loss: Results from the ALLEGRO-LT phase 3, open-label study. *J Eur Acad Dermatol Venereol*. 2025; 39(6): 1152-1162. DOI: 10.1111/jdv.20526.
22. King B, Ohyama M, Senna M, Shapiro J, Dutronc Y, Durand F, Liu C, Yu G, Kolodsick J, Chiasserini C, Somani N, Piraccini BM: Outcomes of down-titration in patients with severe scalp alopecia areata initially treated with baricitinib 4-mg: Week 152 data from BRAVE-AA2. *J Am Acad Dermatol*. 2025; 92(2): 299-306. DOI: 10.1016/j.jaad.2024.09.072.
23. Mizukawa Y, Hama N, Niihara H, Miyagawa F, Hashizume H, Tohyama M, Takahashi H, Watanabe H, Ohyama M, Yamaguchi Y, Kawamura T, Nomura T, Kabashima K, Sueki H, Morita E, Abe R, Asada H: Guidelines for the management of drug-induced hypersensitivity syndrome 2023. *J Dermatol*. 2025; 52(3): e189-e209. DOI: 10.1111/1346-8138.17609.

著 書

- 倉 田 麻 衣 子 , 水 川 良 子 (分 担 執 筆) : 小 児 の 薬 疹 と SJS/TEN, DIHS. 最 新 ガ イ ド ラ イ ン 準 拠 小 児 科 診 断 ・ 治 療 指 針 改 訂 第 3 版 . 加 藤 元 博 総 編 集 . 中 山 書 店 . p.415-418.
- 大 山 学 (分 担 執 筆) : 発 毛 ・ 脱 毛 の 機 序 第 一 章 脱 毛 症 ・ ム ダ 毛 脱 毛 ・ に き び の 治 療 . 最 新 美 容 皮 膚 科 大 系 . 宮 地 良 樹 , 宮 田 成 章 編 集 . 中 山 書 店 . 2024 . p.31-41.
- 大 山 学 (分 担 執 筆) : ト リ コ チ ロ マ ニ ア . 皮 膚 疾 患 最 新 の 治 療 2025-2026 . 高 橋 健 造 , 佐 伯 秀 久 編 集 . 南 江 堂 . 2024 . p. 287.
- 大 山 学 , 村 木 良 一 (分 担 執 筆) : 皮 膚 用 薬 (臨 床 解 説) . 治 療 薬 マ ニ ュ ア ル 2025 . 矢 崎 義 雄 監 修 . 医 学 書 院 . 2025 . p. 2093-2180.
- 大 山 学 (責 任 編 集 分 担 執 筆) : 皮 膚 疾 患 . 今 日 の 診 断 指 針 第 9 版 . 永 井 良 三 総 編 集 . 医 学 書 院 . 2025 . p.1468-1554.
- 下 田 由 莉 江 (分 担 執 筆) : 発 汗 障 害 . 今 日 の 治 療 指 針 第 9 版 . 長 井 良 三 総 編 集 . 医 学 書 院 . 2025 . p.1550-1552.

そ の 他

- 大 山 学 : 円 形 脱 毛 症 の JAK 阻 害 薬 の 治 療 . ド ク タ ー サ ロ ン . 68 (7) . 19-24 . 2024 .
- 大 山 学 : 2024 年 毛 髪 科 学 研 究 会 学 術 ミ ー テ ィ ン グ 主 催 . オ ン ラ イ ン . 2024 年 11 月 .
- 大 山 学 : 質 疑 応 答 ・ 小 児 皮 膚 科 領 域 の JAK 阻 害 薬 の 使 い 方 (特 に 円 形 脱 毛 症) に つ い て 教 え て く だ さ い . 日 小 児 皮 膚 会 誌 . 2025 ; 44 (1) : 51-52 .

形 成 外 科 学 教 室

講 演

- 成 田 圭 吾 , 北 幸 紘 , 多 久 嶋 亮 彦 : 陳 旧 性 顔 面 神 經 麻 痺 に 対 す る 新 た な 動 的 再 建 : 下 眼 瞼 へ の 広 背 筋 移 植 . 第 67 回 日 本 形 成 外 科 学 会 総 会 ・ 学 術 集 会 . 神 戸 . 2024

- 年4月.
2. 杉洋平, 尾崎峰, 多久嶋亮彦: 外傷性眼球陥凹に対する肋軟骨移植術における眼窩内容積の変化に関する検討. 第67回日本形成外科学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 3. 清水咲樹, 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也, 多久嶋亮彦: モノエタノールアミノレイン酸塩を用いた静脈奇形に対する硬化療法における投与形態による病変縮小率の比較検討. 第67回日本形成外科学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 4. 草間峻, 岩科裕己, 尾崎峰, 大島直也, 多久嶋亮彦: 当科で脈管奇形に対しシロリムス内服治療を行った22症例についての検討. 第67回日本形成外科学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 5. 長坂優香, 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也, 多久嶋亮彦: 脈管奇形に対するモノエタノールアミノレイン酸塩を用いた硬化療法後の肉眼的血尿の検討. 第67回日本形成外科学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 6. 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也, 多久嶋亮彦: 静脈奇形治療の現状と未来. 第67回日本形成外科学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 7. 白石知大: 乳房インプラントおよび組織拡張器周囲被膜組織のCA-9免疫染色. 第67回日本形成外科学会総会・学術集会. 神戸. 2024年4月.
 8. 加賀谷優: EPIFIX®の臨床的効果と今後の可能性. 第3回日本フットケア・足病医学会 関東・甲信越地方会. 大宮. 2024年4月.
 9. Ohura N, Nakayama D, Takushima A.: Investigation of the Wound Healing Effects of NPWTi-d. Comparison with Conventional NPWT. Free paper Session: Devices & Interventions 1 34TH CONFERENCE OF THE EUROPIAN WOUND MANAGEMENT ASSOCIATION - EWMA2024. United Kingdom. 2nd May 2024.
 10. Ohura N: Revisiting clinical efficacy of autologous platelet-rich plasma gel in patients with hard-to-heal diabetic foot ulcers in a multi-center study in Japan. -PRP Clinical trial in Japan- Free paper Session: Devices & Interventions 2. 34TH CONFERENCE OF THE EUROPIAN WOUND MANAGEMENT ASSOCIATION -EWMA2024. United Kingdom. 3rd May 2024.
 11. Ohura N, Terashi H.: The current state of DFU/CLTI in Japan. The Japanese Society for Foot Care and Podiatric Medicine and the medical system. Symposia43 Foot Care. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京. 2024年5月.
 12. 大浦紀彦: 透析患者のCLTI治療. 透析カンファレンス2024. 東京. 2024年5月.
 13. 大浦紀彦: 抹消動脈疾患の最新医工学 難治性創傷に対するヒト羊膜使用組織治癒促進材料 (EpiFix®) の使用経験. 日本医工学治療学会第40回学術大会. 名古屋. 2024年5月.
 14. 成田圭吾, 北幸紘, 屋宜佑利香, 中山大輔, 多久嶋亮彦: 後期高齢者の放射線性下顎骨壊死に対して早期に根治手術を施行した1例. 第48回日本頭頸部癌学会. 浜松. 2024年6月.
 15. 草間峻, 尾崎峰, 岩科裕己, 多久嶋亮彦: 当科でKlippel-Trenaunay症候群に対しシロリムスを内服による加療を行った症例についての検討. 第44回日本静脈学会総会. 軽井沢. 2024年6月.
 16. 尾崎峰, 岩科裕己: 静脈奇形に対する硬化療法の現状と保険収載に向けた活動. 第44回日本静脈学会総会. 軽井沢. 2024年6月.
 17. 岩科裕己, 尾崎峰, 大島直也, 多久嶋亮彦: 舌静脈奇形に対する部分切除術と硬化療法の術後創部合併症に関する検討. 第44回日本静脈学会総会. 軽井沢. 2024年6月.
 18. 大浦紀彦: 知識で治そう「褥瘡」メカニズム・対策・治療法. 千葉県福祉ふれあいプラザ介護実習センター. 令和6年度専門職研修. オンライン. 2024年7月.
 19. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 硬膜内・側頭骨内腫瘍に関連する顔面神経麻痺に対する当科の治療戦略. 第47回日本顔面神経学会. 東京. 2024年7月.
 20. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 内視鏡下血管採取システムを用いた単一皮膚切開からの腓腹神経採取. 第47回日本顔面神経学会. 東京. 2024年7月.
 21. 多久嶋亮彦, 成田圭吾: ボツリヌス毒素の使い方. 第47回日本顔面神経学会. 東京. 2024年7月.
 22. 中山大輔, 成田圭吾, 白石知大, 多久嶋亮彦: 病的共同運動に対する眼輪筋減量術のアプローチ. 第47回日本顔面神経学会. 東京. 2024年7月.
 23. 古川稔樹, 尾崎峰, 奈良誠之, 岩科裕己, 多久嶋亮彦: 血管腫摘出術における保険診療点数について. 第20回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 新潟. 2024年7月.
 24. 松谷瞳, 尾崎峰, 岩科裕己, 多久嶋亮彦: 術前MRI検査を用いた治療効果に相関する静脈奇形の分類の試み. 第20回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 新潟. 2024年7月.
 25. 大川由季, 尾崎峰, 長坂優香, 岩科裕己, 大島直也, 多久嶋亮彦: 静脈奇形症例における初回治療法の選択についての検討. 第20回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 新潟. 2024年7月.
 26. 白水夏実, 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也, 多久嶋亮彦: 動静脈奇形に対する経静脈塞栓術後の合併症により頻回な医療処置が必要になった症例に関する検討. 第20回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 新潟. 2024年7月.
 27. 尾崎峰: 外科療法. 第15回血管腫・血管奇形講習会. 新潟. 2024年7月.
 28. 尾崎峰, 岩科裕己, 大島直也: 当科におけるシロリムス内服療法のこれまでとこれからの展望. 第20回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 新潟. 2024年7月.
 29. 松谷瞳, 尾崎峰, 岩科裕己, 多久嶋亮彦: 術前MRI検査を用いた治療効果に相関する静脈奇形の分類の試み. 第20回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 新潟. 2024年7月.
 30. 尾崎峰: 静脈奇形に対するオルダミン®の薬事承認に向けた医師主導治験とその後. 第20回日本血管腫血管奇形学会学術集会. 新潟. 2024年7月.
 31. 関大仁, 白石知大ら: 乳癌患者の術式選択におけるshared decision makingと支援体制の課題 (JOPBS学会班研究). 第32回日本乳癌学会総会. 仙台. 2024年7月.
 32. 大浦紀彦: デブリードマン/症例検討. 東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 プライマリケア看護学領域. 東京. 2024年8月.
 33. Ohura N, Morishige Y, Nakayama D: The efficacy of distal bypass using microsurgical technique for patients with CLTI. The 27th Annual Meeting and The 12th Triennial Congress of the Indonesian Association of Plastic Reconstructive and

- Aesthetic Surgeons (InaPRAS). Indonesia. 2024/Aug/28.
34. Ohura N, Morishige Y, Nakayama D, : Free flap transfer in patients with diabetic foot ulcers.: Technique for overcoming congestion. The 27th Annual Meeting and The 12th Triennial Congress of the Indonesian Association of Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgeons (InaPRAS). Indonesia. 2024/Aug/29.
 35. 大浦紀彦：虚血肢（CLTI）における創傷治療について。虚血肢勉強会。岸和田。2024年9月。
 36. Narita K, Kimura T, Takushima A: AI-driven 3D video analysis in facial palsy: validity of facial angles for the assessment of the spontaneous smile. Plastic Surgery The Meeting 2024. U.S.A. September. 2024.
 37. 尾崎峰, 大島直也, 岩科裕己, 多久嶋亮彦：整容性の改善を目的としたbox型眼窩骨切り術。第47回日本美容外科学会総会。東京。2024年9月。
 38. Matsutani H, Shiraishi T, Kita Y, Fujimoto AH, Takushima A : Efficacy of proximal medial branch in DIEP flap for breast reconstruction using Hartrampf zone IV. American Society of Plastic Surgeons Plastic Surgery The Meeting 24. U.S.A. 2024年9月。
 39. 大浦紀彦：糖尿病の合併症を知ろう 糖尿病の足病変 自分の足を観察しよう。第1回外来糖尿病教室 糖尿病と足 大切な足を守るために。三鷹。2024年10月。
 40. 大浦紀彦：透析クリニックでの創処置の目的、効果、意味を知ろう。JOYFUL online 講演会。オンライン。2024年10月。
 41. 大浦紀彦：糖尿病性足潰瘍と静脈性潰瘍に対する組織治癒促進用材料の有効性。第65回日本脈管学会学術総会。東京。2024年10月。
 42. 尾崎峰, 野村正, 金子剛：静脈奇形に対する硬化剤の医師主導治験。第33回日本形成外科学会基礎学術集会。東京。2024年10月。
 43. 屋宜佑利香, 白石知大, 今村三希子, 多久嶋亮彦：スムーズラウンド型SBIを用いた乳房再建におけるIMF位置の変化。第12回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会。金沢。2024年10月。
 44. 白石知大：整容性・安全性を考慮した人工物乳房再建。第12回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会。金沢。2024年10月。
 45. 白石知大：BIA-ALCLの最新情報。第12回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会。金沢。2024年10月。
 46. 白石知大, 屋宜佑利香, 今村三希子, 多久嶋亮彦：スムーズタイプSBIを用いた下垂乳房再建の持続性。第12回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会。金沢。2024年10月。
 47. 今村三希子, 白石知大, 多久嶋亮彦：慢性透析患者に人工物による両側乳房再建手術を行った1例。第12回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会。金沢。2024年10月。
 48. 素輪善弘, 白石知大 他：乳房再建を検討する乳癌患者に対するDAを用いたSDMの効果：クラスターランダム化比較試験。第12回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会。金沢。2024年10月。
 49. 秋田新介, 白石知大 他：Electronic Patient Reported Outcome と治療者入力を統合した乳癌術後QOL データベースの構築。第12回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会。金沢。2024年10月。
 50. 関大仁, 白石知大 他：乳房再建と放射線治療の今：照射方法・時期、エキスパンダー/インプラントの種類での違い、合併症。乳房再建術後放射線治療の有無による術後合併症とHR-QOLの比較（JOPBS学会班研究）。第12回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会。金沢。2024年10月。
 51. 大浦紀彦, 中山大輔：縦隔炎・胸骨骨髄炎治療のアルゴリズムと効果的なNPWTの使用について。第77回日本胸部外科学会定期学術集会。金沢。2024年11月。
 52. 大浦紀彦：最新の褥瘡治療。横浜南共済病院地域医療支援病院研修会。オンライン。2024年11月。
 53. 大浦紀彦, 松谷瞳, 古川稔樹, 藤本アベリーノ, 斉藤啓太：静脈性潰瘍管理の標準化 形成外科の視点から。第5回日本フットケア足病・医学会学術集会。神戸。2024年11月。
 54. 大浦紀彦, 森重侑樹, 松谷瞳, 古川稔樹, 藤本アベリーノ, 斉藤啓太：大切断の適応基準：みんなで作ろう大切断の適応基準「創傷からみた一次大切断の適応」。第5回日本フットケア足病・医学会学術集会。神戸。2024年11月。
 55. 大浦紀彦, 山田憲嗣, 宮西七海, 西辻凌輔, 倉橋絢也：NFTを使ったスマートコントラクトによるsEDCシステムの構築。第5回日本フットケア足病・医学会学術集会。神戸。2024年11月。
 56. 大浦紀彦, 松谷瞳, 古川稔樹, 藤本アベリーノ, 斉藤啓太：外来中心の創傷治療で期待する役割 形成外科医の立場から。第5回日本フットケア足病・医学会。神戸。2024年11月。
 57. 成田圭吾, 北幸紘, 岩科裕己, 白石知大, 多久嶋亮彦：内視鏡下血管採取システムを用いた単一皮膚切開からの腓腹神経採取。第51回日本マイクロサージャリー学会学術集会。奈良。2024年11月。
 58. 尾崎峰, 今村三希子, 中山大輔, 屋宜佑利香, 多久嶋亮彦：炭酸ガスレーザーを用いた病変切除後の醜状瘢痕。第45回日本レーザー医学会総会。京都。2024年11月。
 59. Chen YS, 尾崎峰, 長坂優香, 多久嶋亮彦：レックリングハウゼン病に併発した眼窩壁骨欠損に対して硬性再建を行った3例。第42回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会。東京。2024年11月。
 60. 松谷瞳, 岩科裕己, 尾崎峰：耳介動脈静脈奇形(AVM)切除後の耳介再建について。第7回日本耳介再建学会。札幌。2024年11月。
 61. 加賀谷優：Wound hygiene（創傷衛生）における「Cleanse（洗浄）」の重要性と可能性。第21回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会。東京。2024年11月。
 62. 加賀谷優, 東野琢也：上顎全摘後腹直筋皮弁再建における筋・脂肪容積と容積分布の経時的変化。第42回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会。東京。2024年11月。
 63. 加賀谷優, 河野暉, 鈴木愛弓, 大西文夫：足部・下腿難治性創傷に対する創外固定を用いた再建手術～術後の必然的な安全性, 形態可変でリハビリまで。第5回日本フットケア・足病医学会年次学術集会。神戸。2024年11月。
 64. 大浦紀彦, 山田憲嗣, 宮西七海, 西辻凌輔, 倉橋絢也：NFTを使ったスマートコントラクトによるSelf-management Electronic Data Capture。第34回日本シミュレーション外科学会。福岡。2024年12月。

65. 大浦紀彦:TIMERS R;regeneration 生体医療材料. 東京医療保健大学. 東京. 2024年12月.
66. 大浦紀彦:糖尿病性足潰瘍と静脈性潰瘍に対する組織治癒促進用材料 EpiFix®の使用経験. EPIFIX board meeting. オンライン. 2024年12月.
67. 齊藤啓太, 牧内泰文, 成田圭吾, 多久嶋亮彦:前皮神経絞扼症候群 (ACNES: Anterior Cutaneous Nerve Entrapment Syndrome) の1例. 第308回関東形成外科学会東京地方会. 東京. 2024年12月.
68. 大浦紀彦:褥瘡治療の最前線. 第28回日本病態栄養学会年次学術集会年次学術集会. 京都. 2025年1月.
69. 成田圭吾, 多久嶋亮彦:頭頸部腫瘍切除に伴う顔面神経欠損, 表情筋欠損に対する再建. 第34回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会. 東京. 2025年1月.
70. 加賀谷優:足部/下腿難治性潰瘍・壊疽に対するホフマン3創外固定を用いた遊離皮弁再建手術. 第35回東京大学医学部形成外科学教室同門学術集会(最優秀演題賞). 東京. 2025年1月.
71. 加賀谷優:足部/下腿難治性潰瘍・壊疽に対するホフマン3創外固定を用いた遊離皮弁再建手術. 第38回日本四肢再建・創外固定学会学術集会. 富士. 2025年2月.
72. 大浦紀彦:ヒト羊膜使用 組織治癒促進用材料 EpiFix® の使用経験. エピフィックス (EpiFix) 適正使用講習会・ブラッシュアップセミナー. オンライン. 2025年3月.
73. 大浦紀彦, 鬼塚彩由美, 牧内泰文, 長坂優香, 石本智也, 竹治秀:透析患者における足創傷とリハビリテーションについて 形成外科医の立場から. 第15回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会. 横浜. 2025年3月.
74. Ohura N: Mid-term recurrence rates and post-operative complications using flap reconstruction for pressure injury. Free paper Session: Pressure Ulcer. 35TH CONFERENCE OF THE EUROPIAN WOUND MANAGEMENT ASSOCIATION - EWMA2025. Spain. March 2025.
75. 尾崎峰, 岩科裕己, 松谷瞳, 大島直也, 野村正, 加地展之:当科における静脈奇形に対する硬化療法の基本手技. 第30回日本形成外科手術手技学会. 名古屋. 2025年3月.
5. 宮本明, 高木友誠, 久原亮二, 福田正浩, 大浦紀彦, 山内靖隆:【膝下領域血管拡張困難症例の次の一手】当院における血行再建困難な包括的高度慢性下肢虚血例に対する Percutaneous Deep Venous Arterialization(pDVA)の手技と成績(解説). 日本フットケア・足病医学会誌. 5巻3号. Page152-158. 2024.
6. Iida O, Takahara M, Ohura N, Hata Y, Kodama A, Soga Y, Yamaoka T, Higuchi Y, Azuma N: WARRIORS Investigators. Editor's Choice-Impact of Infrapopliteal Revascularisation Establishing In Line Flow in the Wound in Patients with Chronic Limb Threatening Ischaemia. Eur J Vasc Endovasc Surg. 2024;68(5):631-638. doi: 10.1016/j.ejvs.2024.07.024.
7. Kubota H, Endo H, Minegishi S, Tsuchiya H, Inaba Y, Takahashi Y, Shimasaki T, Kurai D, Nakazawa H, Ohura N: Mid-term results of a case series on branched xenopericardial roll graft replacement to treat aortic arch/arch graft infection. Eur J Cardiothorac Surg. 2024;66(5):ezae378. doi: 10.1093/ejcts/ezae378.
8. 大浦紀彦, 加賀谷優, 松谷瞳, 長坂優香, Fujimoto AH, 木下幹雄, 高木友誠, 山内靖隆, 宮本明:【下肢切断を知る】はじめに 緩和医療と下肢を温存するための代替療法(解説). PEPARS. 218号. Page11-18. 2025.
9. Takagi T, Miyamoto A, Ohura N, Yamauchi Y: Percutaneous Deep Venous Arterialization by Balloon Angioplasty without Stent Implantation for Patients with Chronic Limb-Threatening Ischemia Undergoing Hemodialysis: A Retrospective Cohort, Single-Center, Single-Arm Study. Cardiovasc Intervent Radiol. 2025 ;48(2):244-250. doi: 10.1007/s00270-024-03871-1.
10. 大浦紀彦, 山内靖隆, 高木友誠, 福田正浩, 松谷瞳, 藤本アベリーノ, 長坂優香, 宮本明:レオカーナによる治療の実際～創傷治療の立場から～. 日本アフレーシス学会雑誌. vol44(1). 32-36. 2025.
11. 大浦紀彦:糖尿病最前線 糖尿病足と透析足の日常的フットケア. ベんちのーと. 137号. P7. 2025年.
12. 海野早織, 成田圭吾, 辻直子:【乳房の美容手術 私の治療戦略】CAL法による豊胸術. PEPARS. 212号. 52-59. 2024.
13. 成田圭吾, 多久嶋亮彦:硬膜内・側頭骨内腫瘍に関連する顔面神経麻痺に対する当科の治療戦略. Facial N Res Jpn. 44巻. 1-3. 2024.
14. 成田圭吾, 多久嶋亮彦:腓腹神経採取における内視鏡下血管採取システム (Vasoview Hemopro 2) の使用経験. Facial N Res Jpn. 44巻. 11-12. 2024.
15. Kimura T, Narita K, Oyamada K, Ogura M, Ito T, Okada T, Takushima A: Fine-tuning on AI-driven Video Analysis through Machine Learning; development of an automated evaluation tool of facial palsy. Plast Reconstr Surg. 2024. doi: 10.1097/PRS.0000000000011924. Online ahead of print.
16. Kagaya Y, Takada T, Akagi K, Ozaki M, Ohura N: Bidirectional pressure-induced penetrating necrotizing compartment syndrome in the forearm and surgical reconstruction using a two-lobed latissimus dorsi musculocutaneous flap in nonfunctional hand scenarios: a report of two

論文

1. 大浦紀彦, 松谷瞳, 草間峻, 長坂優香, 藤本アベリーノ, 古川稔樹, 舟橋紗耶華, 木下幹雄:透析患者のCLTI(包括的高度慢性下肢虚血)治療(解説). 日本透析医会雑誌. 39巻1号. Page104-110. 2024.
2. Ohura N, Kimura C, Ando H: Efficacy of autologous platelet-rich plasma gel in patients with hard-to-heal diabetic foot ulcers: a multicentre study in Japan. J Wound Care. 2024 ;33(7):484-494. doi: 10.12968/jowc.2023.0088.
3. 大浦紀彦, 中山大輔, 多久嶋亮彦:【それぞれの創傷治癒】軀幹 縦隔部大血管周囲の感染のための創傷治癒(解説). 形成外科67巻増刊. Page S159-S163. 2024.
4. 大浦紀彦, 久原亮二, 中山大輔, 長坂優香, 草間峻, Chen YS, 松井孝太郎, 加賀谷優, 舟橋紗耶華, 木下幹雄, 宮本明:膝下領域血管拡張困難症例の次の一手 CLTIに対する高気圧酸素療法 (hyperbaric oxygen therapy: HBOT). 日本フットケア・足病医学会誌. 5(3). 169-174. 2024.

cases. *J Surg Case Rep.* 2024;2024(9):rjae582. doi: 10.1093/jscr/rjae582.

17. Nomura T, Ozaki M, Osuga K, Kurita M, Hayashi A, Yuzuriha S, Aramaki-Hattori N, Hikosaka M, Nozaki T, Ozeki M, Ochi J, Akiyama S, Kakei Y, Miyakoda K, Kashiwagi N, Yasuda T, Iwashina Y, Kaneko T, Terashi H, Harii K: Post-Hoc Analysis of a Multicenter Clinical Trial: Correlation of Coagulation Factor Changes and MRI-Defined Treatment Outcomes After Sclerotherapy for Venous Malformations. *J Clin Med.* 2025;14(3):905. doi: 10.3390/jcm14030905.
18. Ozaki M, Nomura T, Osuga K, Kurita M, Hayashi A, Yuzuriha S, Aramaki-Hattori N, Hikosaka M, Nozaki T, Ozeki M, Ochi J, Akiyama S, Kakei Y, Miyakoda K, Kashiwagi N, Yasuda T, Iwashina Y, Kaneko T, Kamibeppu K, Soejima T, Harii K: Effect and safety of ethanalamine oleate in sclerotherapy in patients with difficult-to-resect venous malformations: A multicenter, single-arm study. *PLoS One.* 2025;20(1): e0303130. doi: 10.1371/journal.pone.0303130.
19. 尾崎峰, 赤木健一郎, 岩科裕己, 大島直也: 脈管奇形に対する手術治療 近年のわれわれの工夫. *脈管学.* 64巻 (2号). 27-33. 2024.
20. 岩科裕己, 尾崎峰, 大島直也: 【血管腫・脈管奇形の長期治療経過】遊離皮弁により再建した動静脈奇形切除術の長期治療経過. *形成外科.* 67巻 (5号). 476-485. 2024.
21. 草間峻, 岩科裕己, 尾崎峰, 松谷瞳, 大島直也, 多久嶋亮彦: 当科で脈管奇形に対しシロリムス内服治療を行った22例についての検討. *形成外科.* 68巻. 186-192. 2025.
22. Murakami R, Shiraishi T, Imamura M, Takushima A, Suga H: Scar Healing after Breast Reconstruction: A Five-year Follow-Up in Asian Patients. *Journal of Plastic and Reconstructive Surgery.* 2024; 4(1): 20-25. doi: 10.53045/jprs.2024-0013.
23. Matsutani H, Shiraishi T, Kita Y, Fujimoto AH, Takushima A: Effectiveness of the proximal medial branch in DIEP flaps for breast reconstruction using Hartrampf zone IV. *Journal of Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery.* 2024; 96:168-174. doi: 10.1016/j.bjps.2024.07.025.
24. Shiraishi T, Suga H, Tsuji N, Harii K, Takushima A: Nipple Malposition after Nipple-sparing Mastectomy with Implant-based Reconstruction: Understanding Its Occurrence and Prevention. *Journal of Plastic and Reconstructive Surgery.* 2024; 3(2):53-63. doi: 10.53045/jprs.2023-0026.
25. Tomioka Y, Okazaki M, Matsutani H, Ohba J, Miyakuni A: Dual-plane lift-and-hold technique for brow ptosis in young patients with facial paralysis. *Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery.* 2024. 93: 203-209. doi: 10.1016/j.bjps.2024.04.005.
26. Makiuchi Y, et al: Metatarsal Transfer for Atypical Phenotype of Foot Polydactyly: A Case Report. *Journal of Plastic and Reconstructive Surgery.* 2024. 4(1): 41-45. doi: 10.53045/jprs.2023-0070.
27. 屋宜佑利香, 岩科裕己, 多久嶋亮彦: 【一般外科医として押さえておくべき外来処置と小手術】動物咬

創の治療. *手術.* 78巻13号. 1993-1999. 2024.

著書

1. 尾崎峰(編著): 形成外科特有の手術手技, 先天異常に対する手術, 美容外科の手術と治療. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編. メディカ出版. 2024. 12-43, 69-83, 220-223, 295-296.
2. 白石知大(分担執筆): 第3章3 乳房再建. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 154-171.
3. 白石知大(分担執筆): 第3章6 顔面神経麻痺. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 187-190.
4. 白石知大(分担執筆): IV手術法1人工物[1]expander-implant. 美しく仕上げる乳癌手術乳房再建のコツ. 森弘樹, 座波久光 編著. 文光堂. 2025. 128-132.
5. 今村三希子(分担執筆): 第2章6 ケロイド・肥厚性瘢痕の治療. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 132-133.
6. 今村三希子(分担執筆): 第2章7 瘢痕拘縮の手術. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 134-136.
7. 今村三希子(分担執筆): 第5章3 眼瞼下垂症の手術. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 248-252.
8. 今村三希子(分担執筆): 第5章5 各疾患に用いられるレーザー治療. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 256-263.
9. 加賀谷優(分担執筆): 第5章1 褥瘡の治療と手術. 改訂2版 超入門 形成外科美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 230-234.
10. 加賀谷優(分担執筆): 第5章2 下腿難治性潰瘍の治療と手術. 改訂2版 超入門 形成外科美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 235-247.
11. 岩科裕己(分担執筆): 第2章4手の外傷と治療と手術. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 114-127.
12. 岩科裕己(分担執筆): 第2章5その他の外傷の手術. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 128-131.
13. 岩科裕己(分担執筆): 第3章1腫瘍切除術. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 138-150.
14. 岩科裕己(分担執筆): 第3章2眼瞼部腫瘍切除と再建. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 151-153.
15. 岩科裕己(分担執筆): 第5章7血管奇形に対する治療と手術. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 270-274.
16. 大島直也(分担執筆): 第2章3顔面骨骨折の手術. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 98-113.
17. 大島直也(分担執筆): 第5章6顎変形症の手術. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 264-269.
18. 中山大輔(分担執筆): 第1章4局所皮弁術・有茎皮弁術. 改訂2版 超入門形成外科美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 44-49.
19. 中山大輔(分担執筆): 第1章5遊離皮弁術. 改訂2版 超入門形成外科美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 50-68.

20. 松谷瞳（分担執筆）：第4章 先天異常に対する手術1唇裂・口蓋裂の手術. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 192-199.
21. 松谷瞳（分担執筆）：第4章 先天異常に対する手術2四肢の先天異常の手術. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 200-206.
22. 松谷瞳（分担執筆）：第4章 先天異常に対する手術3耳介の先天異常の手術. 改訂2版 超入門 形成外科・美容外科手術. 尾崎峰 編著. メディカ出版. 2024. 207-219.

その他

1. 大浦紀彦：最新の糖尿病治療. 学会主催. AAA case study club zoom webinar, 45th. オンライン. 2024年4月4日.
2. 大浦紀彦：爪白癬. 学会主催. AAA case study club zoom webinar, 46th. オンライン. 2024年5月9日.
3. 大浦紀彦：米国の足病医から学ぶ-バイオメカニクスの観点から-. 学会主催. AAA case study club zoom webinar, 47th. オンライン. 2024年6月6日.
4. 大浦紀彦：足の外科医から学ぶ. 学会主催. AAA case study club zoom webinar, 48th. オンライン. 2024年7月4日.
5. 大浦紀彦：CLTI症例検討会 困難な症例にどう立ち向かうか. 学会主催. AAA case study club zoom webinar, 49th. オンライン. 2024年8月8日.
6. 大浦紀彦：小児の足と靴を考える. 学会主催. AAA case study club zoom webinar, 50th. オンライン. 2024年9月12日.
7. 大浦紀彦：終末期のケア イマドコの使い方. 学会主催. AAA case study club zoom webinar, 51th. オンライン. 2024年10月3日.
8. 大浦紀彦：医療AIについて学ぼう「深層学習AIの医療応用事例について」. 学会主催. AAA case study club zoom webinar, 52th. オンライン. 2024年11月7日.
9. 大浦紀彦：NPWTi-d・NPWTを使って難治性創傷を治療しよう. 学会主催. AAA case study club zoom webinar, 53th. オンライン. 2024年12月5日.
10. 大浦紀彦：感染制御のための軟膏治療：カデキソマーヨウ素について. 学会主催. AAA case study club zoom webinar, 54th. オンライン. 2025年1月16日.
11. 大浦紀彦：コンタクトレイヤーとwound hygiene こんな創傷がなおるんだ?. 学会主催. AAA case study club zoom webinar, 55th. オンライン. 2025年2月6日.
12. 大浦紀彦：医療情報を取得する新しい仕組み 医療Dxを推進するための手段. 学会主催. AAA case study club zoom webinar, 56th. オンライン. 2025年3月6日.
13. 福岡大太朗：特許 ASC【発明の名称】頭皮若しくは皮膚の改質, 創傷治癒, または毛髪に用いられるための医薬組成物. 韓国. 特許番号：KR10-2755876 (Jan 13, 2025)
14. 福岡大太朗：特許 飽和脂肪酸【発明の名称】増毛, 頭皮若しくは皮膚の改質, 創傷治癒, 骨形成促進, または毛髪に用いられるための医薬組成物. オーストラリア. 特許番号：AU 2018396512(Sep 26, 2024). 中国. 特許番号：ZL 201880050803.4(Oct 11, 2024). カナダ. Granted (特許査定) (Feb 6, 2025)
15. 福岡大太朗：特許 ピオグリタゾン【発明の名称】毛

髪改善のための組成物. 中国. 特許番号：ZL 202180025987.0(Apr 19, 2024)

16. 屋宜佑利香, 大浦紀彦：EpiFix[®]使用における入院から退院後のケアについて. TIMERS難治性潰瘍の新治療戦略. 2024.
17. 白石知大：BIA-ALCLの概略. 日本乳房オンコプラステックサージャリー学会2024年度乳房再建用エキスパンダー/インプラント講習会. オンライン. 2024年4月.
18. 白石知大：外傷・先天異常に対する使用・BIA-ALCLの概略. 日本形成外学会2024年度乳房増大用エキスパンダー/インプラント講習会. オンライン. 2024年4月.
19. 白石知大：「より美しく, 自信に満ちた私になるために」～アピアランスケアとしての乳房再建を考える～「乳房再建術（自家組織を中心として）」. BC Venus Forum Vol.2 in東京・銀座. 東京. 2024年11月.
20. 岩科裕己：形成外科医の視点から見た「血管腫・血管奇形」. NPO法人日本血管腫・血管奇形患者支援の会主催第32回医療講演会. 東京. 2024年11月.
21. 中村正人, 東信良, 飯田修, 大浦紀彦, 小林修三, 寺師浩人, 横井宏佳：令和6年度次世代医療機器・再生医療等製品評価指標作成事業. 包括的高度慢性下肢虚血用医療機器審査WG報告書. 厚労省. 2025年3月.

泌尿器科学教室

講演

1. 福原浩：転移性前立腺癌 がんゲノム医療, ウイルス療法. WAKAYAMA前立腺がんセミナー. 和歌山. 2024年4月.
2. 佐々木賢一, 竹島雄太, 岩井美和子, 福原浩, 久米春喜, 藤堂具紀：腎細胞癌に対する第三世代がん治療用ヘルペスウイルス (G47Δ) と免疫チェックポイント阻害薬併用療法の開発. 第111回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2024年4月.
3. 多武保光宏：Cutting edge of stone surgery - 改訂ガイドラインにみる尿路結石手術治療の選択 -. 第111回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2024年4月.
4. 多武保光宏, 梅田諒太, 関美沙希, 西島郁乃, 富田良啓, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 宮川仁平, 中村雄, 金城真実, 福原浩：高齢患者におけるロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘術の安全性. 第111回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2024年4月.
5. 金城真実, 梅田諒太, 関美沙希, 西島郁乃, 富田良啓, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 宮川仁平, 中村雄, 多武保光宏, 福原浩：未治療女性OAB患者におけるミラベクロンとピベグロンのランダム化比較試験. 第111回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2024年4月.
6. 金城真実：「Let's reconsider the TVM surgery!」 Prolapse Repair Surgery for the elderly patients~ Our style in TVM surgery~. 第111回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2024年4月.
7. 中村雄, 梅田諒太, 関美沙希, 西島郁乃, 富田良啓, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 宮川仁平, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩：poor risk腎細胞癌におけるIO-IO併用療法とIO-TKI併用療法の比較検討. 第111回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2024年4月.

8. 宮川仁平, 梅田諒太, 関美沙希, 西島郁乃, 富田良啓, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩: mHSPCに対するupfront abirateroneの有効性と予後因子の検討. 第111回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2024年4月.
9. 北村盾二, 梅田諒太, 関美沙希, 西島郁乃, 富田良啓, 鮫島未央, 舛田一樹, 宮川仁平, 中村雄, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩: 当院における転移性尿路上皮癌に対するavelumab維持療法の使用経験. 第111回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2024年4月.
10. 桶川隆嗣, 中村雄, 多武保光宏, 福原浩, 吉野智子: 転移性尿路上皮癌に対する血中循環腫瘍細胞および血中循環腫瘍DNA検査の臨床的有用性(第2報). 第111回日本泌尿器科学会総会. 横浜. 2024年4月.
11. 宮川仁平: 尿路上皮癌の最新の話題. Urology Conference in 八王子. オンライン. 2024年4月.
12. Sasaki K, Takeshima Y, Iwai M, Fukuhara H, Kume H, Todo T: Efficacy of third-generation oncolytic herpes virus G47Δ combined with immune checkpoint inhibitors in renal cell carcinoma models. The 27th American Society of Gene & Cell Therapy Annual Meeting. USA. May. 2024.
13. 菊地茉莉, 中村雄, 大塚弘毅, 北村盾二, 宮川仁平, 滝智彦, 道津千春, 原田和沙, 小倉航, 田嶋敦, 桶川隆嗣, 市川弥生子, 福原浩, 大西宏明: 転移性去勢抵抗性前立腺癌におけるコンパニオン診断薬の治療効果と遺伝性腫瘍診療の実態. 第30回日本遺伝性腫瘍学会学術集会. 仙台. 2024年5月.
14. 金城真実: 女性下部尿路診療～Up To Date～. 甲信越泌尿器疾患セミナー. 甲府. 2024年5月.
15. 金城真実: 高齢骨盤臓器脱患者に対するUphold型TVM手術の有用性の検討. 第37回日本老年泌尿器科学会. 和歌山. 2024年5月.
16. 多武保光宏: 高齢患者における泌尿器癌診療. 第12回高齢者診療マスタークラス. オンライン. 2024年5月.
17. 福原浩: 「ロボット支援腎摘除術」腎盂癌に対するロボット支援腎尿管全摘除術. 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会・第9回ロボット支援手術ビデオ講習会. オンライン. 2024年6月.
18. 中村雄: 複雑化する腎癌薬物療法1st lineを臨床経験をもとに整理する. RCC Web Seminar for Next Generation. 東京. 2024年6月.
19. 金城真実, 岡野圭剛, 上野志穂, 須永風由子, 坂本貴優, 紀伊寿彦, 鮫島未央, 北村盾二, 宮川仁平, 中村雄, 多武保光宏, 福原浩: ロボット支援腹腔鏡下仙骨腫固定術のメリットとデメリット. 第49回日本外科系連合学会. 東京. 2024年6月.
20. 金城真実: 女性下部尿路診療～Up To Date～. LUTS Expert Meeting in Tokyo. 東京. 2024年6月.
21. Kinjo M: The impact on physical performance, muscle strength, and skeletal muscle mass in patients undergoing pelvic organ prolapse surgery. IUGA 49th Annual Meeting. Singapore. June. 2024.
22. 須永風由子, 中村雄, 上野志穂, 岡野圭剛, 坂本貴優, 紀伊寿彦, 鮫島未央, 北村盾二, 宮川仁平, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩, 二階雪野, 柴山隆宏, 柴原純二: ペンブロリズマブおよび放射線療法が奏功した膀胱clear cell adenocarcinomaの1例. 第644回日本泌尿器科学会東京地方会. 東京. 2024年6月.
23. 宮川仁平: プーフイゴの臨床経験と有効性について. 第4回NUFIGO講演会 in TAMA. オンライン. 2024年6月.
24. 福原浩: 前立腺癌 ホルモン療法から遺伝子治療まで. 第13回OPCSG研究会. 大阪. 2024年7月.
25. 日尾清太郎, 須河内昭成, Sena Usta, 田中晋, 福原浩, 内橋俊大, 藤堂具紀: 口腔・食道重複癌に対する第三世代がん治療用ヘルペスウイルスの低侵襲投与法の有用性と安全性. 第30回日本遺伝子治療学会学術集会. 横浜. 2024年7月.
26. 多武保光宏: 改定ガイドラインから見る上部尿路結石症に対する外科的治療. 第160回多摩泌尿器科医会講演会. 立川. 2024年7月.
27. 北村盾二: 当院における転移性尿路上皮癌に対するバベンチオ療法の使用経験. 多摩地区GUセミナー2024～患者目線での治療戦略を考える～. オンライン. 2024年7月.
28. 金城真実: 女性過活動膀胱に対する薬物療法～Up to Date～. 第12回多摩女性骨盤底勉強会. 武蔵野. 2024年7月.
29. 金城真実: 女性OAB診療～女性患者さんのココロをつかもう～. 静岡泌尿器科医会講演会. 静岡. 2024年7月.
30. Homma Y: Asian Guidelines. The 5th Meeting of International Conference on Interstitial Cystitis in Japan. Kyoto. August. 2024.
31. 金城真実: 高齢骨盤臓器脱患者に対するUphold型TVM手術の有用性の検討. 第26回日本女性骨盤底医学会. 横浜. 2024年8月.
32. 中村雄: 実臨床から考える 腎癌一次療法の治療戦略. 多摩泌尿器癌Webセミナー. オンライン. 2024年8月.
33. 金城真実, 北村盾二, 宮川仁平, 中村雄, 多武保光宏, 福原浩: 女性過活動膀胱患者におけるビベグロンの精神症状への影響. 第31回日本排尿機能学会. 郡山. 2024年9月.
34. 金城真実: 婦人科手術後の排尿トラブル. 第31回日本排尿機能学会. 郡山. 2024年9月.
35. 金城真実: 女性泌尿器科手術における性機能評価. 日本性機能学会第34回学術総会. 東京. 2024年9月.
36. 金城真実, 丹波光子, 宮川仁平, 中村雄, 多武保光宏, 福原浩: 高齢者における骨盤臓器脱治療～いくつかになってもQOL向上を目指して～. 第89回日本泌尿器科学会東部総会. 山形. 2024年10月.
37. 坂本貴優, 中村雄, 福原浩, 金城真実, 多武保光宏, 宮川仁平, 北村盾二, 鮫島未央, 紀伊寿彦, 須永風由子, 岡野圭剛, 上野志穂: 当院におけるnmCRPCに対するダロルタミド療法の治療成績. 第89回日本泌尿器科学会東部総会. 山形. 2024年10月.
38. 藤本清秀, 湯浅健, 多武保光宏, 矢野晶大, 井上裕太, 山崎俊成, 山本勇人, 伊藤直樹, 内筒玲奈人, 阿部崇重, 舛森直哉, 宇野雅博, 廣瀬紘一, 中野智吉, 西山博之: 筋層浸潤性尿路上皮がん患者に対するニボルマブ術後補助療法の観察研究(中間報告). 第62回日本癌治療学会学術集会. 福岡. 2024年10月.
39. 中村雄: 当院におけるnmCRPCに対するニューベクオの治療成績. 前立腺癌治療 UP TO DATE～Area Web conference in TAMA～. オンライン. 2024年10月.
40. 金城真実: 女性泌尿器科診療～Up To Date～. 第34回新潟排尿障害セミナー. 新潟. 2024年10月.
41. Kinjo M, Tanba M, Miyakawa J, Nakamura Y, Tambo M, Fukuhara H: Long term impact on

- physical performance, muscle strength, and skeletal muscle mass in patients undergoing pelvic organ prolapse surgery. *International continence society*. Spain. October. 2024.
42. 金城真実：女性OAB治療のポイント～保存治療を中心に～. ベタニスWEBシンポジウム. オンライン. 2024年10月.
 43. 福原浩：転移性前立腺癌に対する新しい試み～がんゲノム医療、ウイルス療法～. *First Line of Urological Treatment～泌尿器科治療の最前線～*. 東京. 2024年11月.
 44. 佐々木賢一, 竹島雄太, 岩井美和子, 福原浩, 久米春喜, 藤堂具紀：腎細胞がんに対する抗がんヘルペスG47Δと免疫チェックポイント阻害薬の併用療法に関する検討. 第2回日本ウイルス療法学会学術集会. 東京. 2024年11月.
 45. 多武保光宏, 坂本貴優, 紀伊寿彦, 鮫島未央, 北村盾二, 宮川仁平, 中村雄, 金城真実, 福原浩：困難症例に対する軟性・硬性尿管鏡の治療戦略—結石治療の基本. 第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. 千葉. 2024年11月.
 46. 多武保光宏, 須永風由子, 坂本貴優, 紀伊寿彦, 鮫島未央, 北村盾二, 宮川仁平, 中村雄, 金城真実, 福原浩：80歳代の膀胱癌患者に対するロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術の安全性. 第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. 千葉. 2024年11月.
 47. 宮川仁平：EVの有効性と安全性～副作用マネジメントを中心に～. *PADCEV Expert Meeting in Tama*. 武蔵野. 2024年11月.
 48. 宮川仁平：mCSPCに対するTriplet治療の初期経験～副作用対策と最適症例に関する検討～. *Next Generation Conference in TAMA*. オンライン. 2024年11月.
 49. 金城真実：腹圧性尿失禁の手術治療. 第8回杏林大学医学部付属病院 医療連携フォーラム. 三鷹. 2024年11月.
 50. 福原浩：がんウイルス療法. 第22回世田谷区医師会医学会. 東京. 2024年12月.
 51. 岡野圭剛, 中村雄, 上野志徳, 須永風由子, 坂本貴優, 紀伊寿彦, 鮫島未央, 北村盾二, 宮川仁平, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩, 宮内亮輔, 小野澤志郎：超選択的動脈塞栓術が有効であった非虚血性持続勃起症の一例. 第645回日本泌尿器科学会東京地方会. 東京. 2024年12月.
 52. 金城真実：女性下部尿路診療～Up To Date～. 排尿障害WEBセミナー. オンライン. 2024年12月.
 53. 中村雄：泌尿器疾患についての最近の知見. *Enzalutamide Premium Symposium in 多摩*. 調布. 2025年1月.
 54. 金城真実：痛みを伴う女性泌尿器科疾患の診断と治療. *アルフレッサ泌尿器科疾患研修会*. オンライン. 2025年1月.
 55. 金城真実, 宮川仁平, 中村雄, 多武保光宏, 本間之夫, 福原浩：当院におけるIC/BPS患者の臨床的特長. 第24回日本間質性膀胱炎研究会. 奈良. 2025年1月.
 56. 福原浩：杏林大学における腎癌の薬物療法と認定制度を踏まえたロボット腎摘手術. *信州RCC Seminar*. 松本. 2025年2月.
 57. 加藤司顕：前立腺肥大症と過活動膀胱患者での使用薬剤の選択. 2024年度第10回地域医療連携セミナー. 東京. 2025年2月.
 58. 加藤司顕：前立腺肥大症と過活動膀胱における使用薬剤の選択. 排尿障害Webセミナー. 東京. 2025年2月.
 59. 中村雄：RCC 1st lineの治療選択～CABO+NIVOの選択のポイントを抑える～. *Urological Tumor Expert Seminar*. 東京. 2025年2月.
 60. 中村雄：RCC 1st lineの治療選択～CABO+NIVOの選択のポイントを抑える～. 実臨床とEBMに基づく腎癌薬物療法Up to Date. オンライン. 2025年2月.
 61. 岡野圭剛, 中村雄, 上野志徳, 須永風由子, 坂本貴優, 紀伊寿彦, 鮫島未央, 北村盾二, 宮川仁平, 金城真実, 多武保光宏, 福原浩, 宮内亮輔, 小野澤志郎：超選択的動脈塞栓術が有効であった非虚血性持続勃起症の一例. 第33回Young Urologist Congress. 東京. 2025年2月.
 62. 福原浩：前立腺癌についてあれこれ. 三鷹市医師会. 三鷹. 2025年3月.
 63. 金城真実：女性下部尿路診療最前線. LUTS治療を考える会. 船橋. 2025年3月.
 64. 金城真実：高齢女性に対する過活動膀胱治療のコツ～保存治療を中心に～. 高齢者疾患セミナー全国WEB講演会. オンライン. 2025年3月.
 65. 金城真実：女性泌尿器科診療のトリセツ～骨盤臓器脱を中心に～. 第32回福岡排尿障害研究会. 福岡. 2025年3月.

論文

1. Takeuchi T, Hattori-Kato M, Okuno Y, Nomiya A, Fukuhara H, Zaitzu M, Azuma T : A Genome-Wide Association Study of Prostate Cancer Susceptibility Using Occupational and Environmental Factors as Confounding Factors. *Cureus* . 2024 ; 16(1) : e52926 . DOI: 10.7759/cureus.52926. eCollection 2024 Jan.
2. Yamada Y, Fujii Y, Kakutani S, Kimura N, Sugimoto K, Hakozaiki Y, Sugihara T, Takeshima Y, Kawai T, Nakamura M, Kamei J, Taguchi S, Akiyama Y, Sato Y, Yamada D, Urabe F, Miyazaki H, Enomoto Y, Fukuhara H, Nakagawa T, Fujimura T, Kume H : Development of risk-score model in patients with negative surgical margin after robot-assisted radical prostatectomy. *Sci Rep*. 2024; 14(1): 7607. DOI: 10.1038/s41598-024-58279-1.
3. Higashihara E, Harada T, Fukuhara H : Juxtaglomerular apparatus-mediated homeostatic mechanisms: therapeutic implication for chronic kidney disease . *Expert Opin Pharmacother* . 2024 ; 25(7) : 819-832 . DOI: 10.1080/14656566.2024.2357188. Epub 2024 May 22.
4. Inoue T, Tanaka H, Masuda T, Iba A, Tambo M, Okada S, Hou T, Takazawa R, Izaki H, Hamamoto S, Fujisawa M : Japanese survey of perioperative complications and ureteral stricture after ureteroscopy with laser lithotripsy for upper urinary tract stones in multicenter collaborative study. *Int J Urol* . 2024 ; 31(7) : 795-801. DOI: 10.1111/iju.15466. Epub 2024 Apr 15.
5. Miyakawa J, Yamada Y, Hakozaiki Y, Makino K, Kamei J, Taguchi S, Kawai T, Akiyama Y, Yamada D, Kume H : Comparison of PDD-TURBT alone versus white light TURBT plus intravesical BCG therapy: A propensity-score matching study. *Photodiagnosis Photodyn Ther*. 2024; 48: 104254. DOI: 10.1016/j.pdpdt.2024.104254. Epub 2024

Jun 18.

6. Sugawara K, Taguchi S, Gonoï W, Hanaoka S, Shiomi S, Kishitani K, Uemura Y, Akamatsu N, Inui S, Tanaka K, Yagi K, Kawai T, Nakagawa T, Fukuhara H, Abe O, Kume H, Gonzalez MC, Prado CM, Seto Y : Integrated impact of multiple body composition parameters on overall survival in gastrointestinal or genitourinary cancers: A descriptive cohort study. *JPEN J Parenter Enteral Nutr.* 2024 ; 48(6) : 746-755. DOI: 10.1002/jpen.2666. Epub 2024 Jul 2.
7. Oshina T, Yamada Y, Fujimura T, Taguchi S, Akiyama Y, Kamei J, Kaneko T, Kawai T, Obinata D, Yamada D, Fukuhara H, Nakagawa T, Takahashi S, Kume H : Oncologic and Functional Outcomes of Salvage Robot-Assisted Radical Prostatectomy: Report of the First 10 Cases. *Curr Oncol.* 2024 ; 31(8) : 4762-4768. DOI: 10.3390/curroncol31080356.
8. Noda M, Taguchi S, Shiraishi K, Fujimura T, Naito A, Kawai T, Kamei J, Akiyama Y, Yamada Y, Sato Y, Yamada D, Nakagawa T, Yamashita H, Nakagawa K, Abe O, Fukuhara H, Kume H : Six-year outcomes of robot-assisted radical prostatectomy versus volumetric modulated arc therapy for localized prostate cancer: A propensity score-matched analysis. *Strahlenther Onkol.* 2024 ; 200(8) : 676-683. DOI: 10.1007/s00066-023-02192-5. Epub 2024 Jan 5.
9. Homma Y, Akiyama Y, Kim JH, Chuang YC, Jeong SJ, Meng E, Kitta T, Jhang JF, Furuta A, Lee KS, Maeda D : Definition Change and Update of Clinical Guidelines for Interstitial Cystitis and Bladder Pain Syndrome. *Low Urin Tract Symptoms.* 2024 ; 16(5) : e12532. DOI: 10.1111/luts.12532.
10. Nagase M, Ando H, Beppu Y, Kurihara H, Oki S, Kubo F, Yamamoto K, Nagase T, Kaname S, Akimoto Y, Fukuhara H, Sakai T, Hirose S, Nakamura N : Glomerular Endothelial Cell Receptor ADGRF5 and the Integrity of the Glomerular Filtration Barrier. *J Am Soc Nephrol.* 2024 ; 35(10) : 1366-1380. DOI: 10.1681/ASN.000000000000427. Epub 2024 Jun 6.
11. Kato T, Matsumoto R, Yokomizo A, Tohi Y, Fukuhara H, Fujii Y, Mori K, Sato T, Inokuchi J, Hashine K, Sakamoto S, Kinoshita H, Inoue K, Tanikawa T, Utsumi T, Goto T, Hara I, Okuno H, Takehi Y, Sugimoto M : Outcomes of active surveillance for Japanese patients with prostate cancer (PRIAS-JAPAN). *BJU Int.* 2024 ; 134(4) : 652-658. DOI: 10.1111/bju.16436. Epub 2024 Jun 17.
12. Horie M, Akiyama Y, Katoh H, Taguchi S, Nakamura M, Mizuguchi K, Ito Y, Matsushita T, Ushiku T, Ishikawa S, Goto A, Kume H, Homma Y, Maeda D : APRIL/BAFF upregulation is associated with clonal B-cell expansion in Hunner-type interstitial cystitis. *J Pathol.* 2024 ; 264(4) : 383-395. DOI: 10.1002/path.6353. Epub 2024 Oct 3.
13. Higashihara E, Matsukawa M, Jiang H : Change in kidney volume growth rate and renal outcomes of tolvaptan treatment in autosomal dominant polycystic kidney disease: post-hoc analysis of TEMPO 3:4 trial. *Clin Exp Nephrol.* 2025 ; 29(5) : 638-649. DOI: 10.1007/s10157-024-02589-1. Epub 2025 Jan 2.
14. Niimi A, Akiyama Y, Tomonori Y, Furuta A, Matsuo T, Tomoe H, Kakizaki H, Matsukawa Y, Ogawa T, Mitsui T, Masumori N, Inamura S, Enomoto Y, Nomiya A, Maeda D, Igawa Y, Kume H, Homma Y : Clinical manifestations of interstitial cystitis and bladder pain syndrome: Analysis of a patient registry in Japan. *Int J Urol.* 2025 ; 32(1) : 103-109. DOI: 10.1111/iju.15603. Epub 2024 Oct 18.
15. Taguchi S, Kawai T, Ambe Y, Kishitani K, Noda M, Kaneko T, Miyakawa J, Nakamura Y, Hoshina H, Obinata D, Yamaguchi K, Kakutani S, Furuya Y, Sato Y, Adachi Y, Sugimoto K, Sato K, Tabata M, Tanaka T, Nara K, Uemura Y, Kamei J, Akiyama Y, Sato Y, Yamada Y, et al. : Physical, but not laboratory, treatment-related adverse events are associated with favorable outcomes of enfortumab vedotin for advanced urothelial carcinoma: A landmark analysis. *Int J Urol.* 2025 ; 32(3) : 270-276. DOI: 10.1111/iju.15640. Epub 2024 Nov 22.
16. Yajima S, Hata S, Masumori N, Matsuoka Y, Sawada A, Miki J, Tambo M, Kobayashi Y, Matsuda A, Nakane K, Kobayashi T, Tanaka H, Yamaguchi N, Kaneko G, Miller R, Seto T, Ito H, Kikuchi E : Patient preferences for post-radical cystectomy treatment in muscle-invasive bladder cancer: A discrete choice experiment in Japan. *Int J Urol.* 2025. DOI: 10.1111/iju.70032. Online ahead of print.

著書

1. 金城真実 (分担執筆) : 過活動膀胱 併用療法 B3刺
激薬 + 抗コリン薬(解説). これ一冊でパーフェク
ト! 泌尿器科薬物療法2024 37巻特別号. 久米春喜,
関戸哲都利, 中川徹 編集. 医学図書出版. 2024.
226-229.
2. 多武保光宏, 福原浩 (分担執筆) : 筋層浸潤性膀胱
癌、転移癌 ニボルマブ、アベルマブ. これ一冊でパー
フェクト! 泌尿器科薬物療法2024 37巻特別号.
久米春喜, 関戸哲都利, 中川徹 編集. 医学図書出版.
2024. 81-86.
3. 金城真実 (分担執筆) : 女性泌尿器科 腹圧性尿失禁
(解説). 薬の使い方がすぐわかる 泌尿器科処方ガイ
ド 臨床泌尿器科78巻4号. 大家基嗣, 近藤幸尋, 小
島祥敬 編集. 医学書院. 2024. 80-82.
4. 金城真実 (分担執筆) : 女性泌尿器科 骨盤臓器脱 腹
圧性尿失禁. 薬の使い方がすぐわかる 泌尿器科処
方ガイド 臨床泌尿器科78巻4号. 大家基嗣, 近藤幸
尋, 小島祥敬 編集. 医学書院. 2024. 83-84.
5. 金城真実 (分担執筆) : 女性下部尿路診療のトリセ
ツ(解説). 練馬区医師会だより674号. 2024. 5-9.
6. 金城真実 (分担執筆) : TVM手術を再考する 高齢者
に対する臓器脱修復術. 日本排尿機能学会誌 34巻2
号. 日本排尿機能学会. 2024. 488-491.
7. 金城真実 (作成委員) : 女性下部尿路症状診療ガイ
ドライン第2版. リッチヒルメディカル. 2024.
8. 本間之夫 (分担執筆, 編集) : 最近の記事から 医師
の警戒心でAIの安全性を防御することの限界.
Urology Today 第31巻 第1号. 河邊香月, 本間之夫,
後藤百万, 塚本泰司, 富田善彦, 那須保友, 野々村

祝夫, 馬場志郎, 原勲, 吉田正貴 編集. アステラス製薬株式会社. 2024. 62-63.

9. 本間之夫 (分担執筆, 編集): Editor's Comment. *Urology Today* 第31巻 第1号. 河邊香月, 本間之夫, 後藤百万, 塚本泰司, 富田善彦, 那須保友, 野々村祝夫, 馬場志郎, 原勲, 吉田正貴 編集. アステラス製薬株式会社. 2024. 66-67.
10. 本間之夫 (分担執筆, 編集): 特集 間質性膀胱炎・膀胱痛症候群-症状と病態. *Urology Today* 第31巻 第2号. 河邊香月, 本間之夫, 後藤百万, 塚本泰司, 富田善彦, 那須保友, 野々村祝夫, 馬場志郎, 原勲, 吉田正貴 編集. アステラス製薬株式会社. 2025. 25-42.
11. 本間之夫 (分担執筆, 編集): 最近の記事から 運動のための時間とやる気-外科医向けの5つのヒント. *Urology Today* 第31巻 第2号. 河邊香月, 本間之夫, 後藤百万, 塚本泰司, 富田善彦, 那須保友, 野々村祝夫, 馬場志郎, 原勲, 吉田正貴 編集. アステラス製薬株式会社. 2025. 74-75.
12. 本間之夫 (分担執筆, 編集): Editor's Comment. *Urology Today* 第31巻 第2号. 河邊香月, 本間之夫, 後藤百万, 塚本泰司, 富田善彦, 那須保友, 野々村祝夫, 馬場志郎, 原勲, 吉田正貴 編集. アステラス製薬株式会社. 2025. 80-81.
13. 多武保光宏 (分担執筆): 思春期医療に向き合う 苦手意識からの脱却 思春期の泌尿器科疾患 (男性). *小児内科* 56巻 第9号. 「小児内科」編集委員会 編集. 東京医学社. 2024. 1405-1408.
14. 多武保光宏, 福原浩 (分担執筆): 膀胱癌 高リスク筋層非浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘除術. *日本臨牀* 82巻増刊9. 日本臨牀社. 2024. 191-195.
15. 竹島雄太, 福原浩 (分担執筆): 1. 前立腺がんのウイルス療法～臨床応用に向けて～. *Precision Medicine* 7巻3号. 北隆館. 2024. 176-181.

報告書

1. 本間之夫: 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) 間質性膀胱炎ガイドラインに関する研究 (令和5年度) 総括研究報告書: 総括研究報告

眼科学教室業績

講演

1. 井上真, 伊東裕二, 厚東隆志: 焦点深度拡張型眼内レンズの眼底視認性の検討. 第128回日本眼科学会総会. 東京. 2024年4月.
2. 大原裕美, 武内潤, 横井匡, 中島康介, 水野雅春, 石田友香, 厚東隆志, 井上真: 網膜芽細胞腫治療後の網膜剥離に対し硝子体手術を行った3例. 第128回日本眼科学会総会. 東京. 2024年4月.
3. 慶野博: 眼所見とmolecular signatureに基づいた特発性ぶどう膜炎の新たな分類の可能性. 第128回日本眼科学会総会. 東京. 2024年4月.
4. 黄利穎, 慶野博, 中山真紀子, 林勇海, 長堀克哉, 齋藤翔子, 安藤良将, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: 杏林アイセンターにおける小児および若年性ぶどう膜炎の疾患分類. 第128回日本眼科学会総会. 東京. 2024年4月.
5. 厚東隆志: 進化するグリスハーバー硝子体手術を快適に. 第128回日本眼科学会総会. 東京. 2024年4月.
6. 田中禎規, 厚東隆志, 水野雅春, 中島康介, 石田友

香, 武内潤, 横井匡, 井上真: 裂孔原性網膜剥離に対するシリコーンオイル長期留置眼の経過. 第128回日本眼科学会総会. 東京. 2024年4月.

7. 水野雅春, 厚東隆志, 中島康介, 石田友香, 井上真: バックフラッシュ針の吸引量と硝子体手術装置の灌流量に関する研究. 第128回日本眼科学会総会. 東京. 2024年4月.
8. 横井匡, 大原裕美, 武内潤, 中島康介, 水野雅春, 石田友香, 厚東隆志, 井上真: 脈絡膜コロボーマに合併した網膜剥離の硝子体手術. 第128回日本眼科学会総会. 東京. 2024年4月.
9. 渡邊裕斗, 本庄純一郎, 湧川空子, 橋谷臨, 田中公二, 片岡恵子, 中山真紀子, 山本亜希子, 加藤寛, 板垣可奈子, 向井亮, 宮良安宣, 寺尾信宏, 丸子一朗, 長谷川泰司, 河合萌子, 丸子留佳, 若月優, 中川直哉, 森隆三郎, 飯田知弘, 古泉英貴, 石龍鉄樹, 岡田アナベルあやめ: One-year outcomes of faricimab switching in age-related macular degeneration. 第128回日本眼科学会総会. 東京. 2024年4月.
10. 片岡恵子: AMD, パキコロイド疾患における読影のコツ. 第128回日本眼科学会総会. 東京. 2024年4月.
11. 片岡恵子: 画像検査から迫る黄斑新生血管の病態と低侵襲診断法の確立. 第29回ROHTO AWARD 受賞記念講演会. 東京. 2024年4月.
12. 厚東隆志: 硝子体手術のあれこれを定量化してみる. 名古屋大学眼科講演会. 名古屋市. 2024年4月.
13. 厚東隆志: DME治療における新しい選択肢. The 7th VR Network. 東京. 2024年4月.
14. Mizuno M, Koto T, Nakajima K, Ishida T, Inoue M: Aspiration and Infusion Volumes of Back-flush Vitrectomy Instruments. ARVO. USA. May. 2024.
15. Keino H, Nagahori K, Hayashi I, Ando Y, Saito S, Watanabe T, Nakayama M, Okada AA: Demographics and clinical outcomes in IWOS criteria-diagnosed ocular sarcoidosis versus idiopathic uveitis with similar ocular manifestations. ARVO. USA. May. 2024.
16. Koto T, Hirakata A, Inoue M: Quantitative evaluation of vitreous forceps characteristics and their effect on the retinal surface. XXXIV Meeting of the Club Jules Gonin. Spain. May. 2024.
17. Shinoda K, Matsumoto S, Miyake Y, Inoue M, Hirakata A: Monitoring local retinal function during vitreous surgery by intraoperative focal macular electroretinogram. XXXIV Meeting of the Club Jules Gonin. Spain. May. 2024.
18. 井上真: 3D Heads-upを用いた網膜硝子体手術. 第5回西多摩Ophthalmic Conference. 立川市. 2024年5月.
19. 片岡恵子: 女性医師&研究者としての歩み～なりたいたい自分ってありますか?～. 第8回NORSの会 (Nara Ophthalmic Research Symposium). 橿原市. 2024年5月.
20. 片岡恵子: 黄斑疾患における読影のコツ～加齢黄斑変性を中心に～. 眼底画像読影セミナー. オンライン. 2024年5月.
21. 厚東隆志: 強度近視の黄斑円孔・網膜剥離. 第6回日本近視学会総会. 東京. 2024年5月.
22. 平形明人: 糖尿病網膜症について. 千寿製薬社外講師勉強会. 東京. 2024年5月.
23. 福井正樹: 大は小を兼ねる!?!最適な治療法とは?.

- 14th Eye Center Summit. 東京. 2024年5月.
24. 山田昌和：アイフレイルの概念，セルフチェックの重要性と課題. 第97回日本産業衛生学会. 広島市. 2024年5月.
 25. 渡辺龍之介，山本雅，久須見有美，福井正樹，山田昌和：辺縁角膜潰瘍を契機に診断されたANCA関連血管炎の3例. 第14回東京多摩眼科連携セミナー. 三鷹市. 2024年5月.
 26. 秋富ひとみ，鈴木由美，富田茜，満川忠宏，西巻勇汰，玉田俊介，斎藤駿，福嶋啓太，吉岡達也，大原有紗，山田昌和：磁気共鳴画像を用いた壮年期健康者の眼球と眼窩形状の評価. 第80回日本弱視斜視学会総会. 浜松市. 2024年6月.
 27. 井上真：網膜硝子体手術アップデート. 道南眼科集談会. 函館市. 2024年6月.
 28. 井上真：症例から学ぶ網膜硝子体手術. 東大眼科茶話会. 東京. 2024年6月.
 29. 井上真：杏林アイセンターでのVRフェロー教育と病診連携. Future On Eyes. 名古屋市. 2024年6月.
 30. 井上真：網膜硝子体手術の現状と未来. Next Generation Ophthalmology Web Seminar. 大阪市. 2024年6月.
 31. 井上真：眼科医療の最前線「網膜硝子体領域の最先端手術」. 第133回慶應生涯教育研究セミナー. 東京. 2024年6月.
 32. 井上真：Heads-up手術アップデート. 第25回愛知眼科アカデミー. 名古屋市. 2024年6月.
 33. 井上真：症例から学ぶ黄斑疾患への手術戦略. 第32回奈良県黄斑疾患研究会. 奈良市. 2024年6月.
 34. 市川喜理，福井正樹，黄俐穎，長堀克哉，慶野博，山田昌和：B群溶血性レンサ球菌による内因性眼内炎を生じた未治療糖尿病の1例. 第30回日本糖尿病眼学会総会. 東京. 2024年6月.
 35. 大原裕美，武内潤，横井匡，中島康介，水野雅春，石田友香，厚東隆志，井上真：増殖性糖尿病網膜症の牽引性網膜剥離に対する25ゲージと27ゲージ硝子体手術の比較. 第30回日本糖尿病眼学会総会. 東京. 2024年6月.
 36. 武内潤，大原裕美，横井匡，中島康介，水野雅春，石田友香，厚東隆志，井上真：糖尿病網膜症の重症度判定における画像鮮明化ソフトウェアの有用性の検討. 第30回日本糖尿病眼学会総会. 東京. 2024年6月.
 37. 熊谷真里子，松木奈央子，山田健司，津田麻祐子，野地将，久須見有美，渡邊交世：仰臥位が困難のため術者が立位で白内障手術を施行した1例. 第39回JSCRS学術総会. 福岡市. 2024年6月.
 38. 厚東隆志：術前抗VEGF：しない派. 第30回日本糖尿病眼学会総会. 東京. 2024年6月.
 39. 北善幸：明日から活かせる！緑内障の診断と治療のポイント. 多摩地区緑内障勉強会AYR2024. オンライン. 2024年6月.
 40. 慶野博：小児ぶどう膜炎のマネージメント. 第49回日本小児眼科学会総会. 浜松市. 2024年6月.
 41. 厚東隆志：糖尿病網膜症診療 最新の薬物治療から手術加療まで. 小金井市北多摩南部保健医療圏糖尿病医療連携講演会. 小金井市. 2024年6月.
 42. 厚東隆志：網膜剥離 強膜バックリング手術. 硝子体手術ビデオセミナー. 東京. 2024年6月.
 43. 厚東隆志：コロボーマに合併する裂孔原性網膜剥離. 硝子体手術ビデオセミナー. 東京. 2024年6月.
 44. 厚東隆志：“リサーチマインド”が支える硝子体手術の捉え方. 第13回ALCON Seminar. 札幌市. 2024年6月.
 45. 福井正樹：円錐角膜とその治療. 第12回MILDの会. オンライン. 2024年6月.
 46. Inoue M: Image sharpening Technology with Ngenuity 1.5 3D Visualization System. APRIS 2024. Korea. July. 2024.
 47. Kataoka K: Predictive Factors of Persistent Subretinal Fluid in Acute-phase CSC. 11th International Symposium APRIS 2024. Korea. July. 2024.
 48. 井上真：近視と硝子体手術. 姫路市近視医療の会 2024. オンライン. 2024年7月.
 49. 井上真：DMEを中心に 外科的アプローチ. 旭川 Retina Forum. 旭川市. 2024年7月.
 50. 岡田アナベルあやめ：Border diseases：メディカルレチナとぶどう膜炎の境界に存在している疾患. 慶應義塾大学医学部眼科学教室カンファレンス. 東京. 2024年7月.
 51. 角田麻里，福井正樹，中山真紀子，長堀克哉，山本雅，久須見有美，慶野博，岡田アナベルあやめ，山田昌和：白内障術後に難治性ノカルジア眼内炎を生じた1例. 眼感染・炎症・アレルギー学会2024 in札幌. 札幌市. 2024年7月.
 52. 北善幸：緑内障治療の最近の話題. 城西眼科連携の会. 東京. 2024年7月.
 53. 厚東隆志：黄斑手術の最前線. 第24回神奈川眼科セミナー. オンライン. 2024年7月.
 54. 重安千花，山田昌和，角田麻里，久須見有美，福井正樹：コンタクトレンズの装用と中断・中止に関するウェブ調査. 第66回日本コンタクトレンズ学会. 東京. 2024年7月.
 55. 長堀克哉，慶野博，中山真紀子，齋藤翔子，岡田アナベルあやめ：CDK阻害剤AS2863619による実験的自己免疫性ぶどう膜炎の炎症抑制効果. 第57回日本眼炎症学会. 札幌市. 2024年7月.
 56. 野地悠太，中尾新太郎，片岡恵子：ファリシマブ硝子体内注射に伴う眼内炎症および閉塞性血管炎を生じた1例. 第40回日本眼循環学会. 郡山市. 2024年7月.
 57. 渡邊裕斗，片岡恵子，熊谷真理子，黄俐穎，山本亜希子，岡田アナベルあやめ：パキコロイド新生血管症に対する半量光線力学療法後の黄斑新生血管の変化. 第40回日本眼循環学会. 郡山市. 2024年7月.
 58. 井上真：朝顔症候群に続発する網膜剥離. Japan Macula Club 2024. 蒲都市. 2024年8月.
 59. 片岡恵子：脈絡膜血管の謎. 第4回Physician Scientists' Meeting. オンライン. 2024年8月.
 60. 片岡恵子：加齢黄斑変性の治療戦略2024. 東北網膜先端医療セミナー. 仙台市. 2024年8月.
 61. 片岡恵子：多職種連携を黄斑疾患から考える. 眼科における多職種連携を考える会. オンライン. 2024年8月.
 62. 慶野博：ベージェット病ぶどう膜炎におけるインフリキシマブのBest Use. BiologicsのBest Useを考える会. 東京. 2024年8月.
 63. 厚東隆志：どう治療する？黄斑手術の最前線. 眼科臨床実践講座2025. 東京. 2024年8月.
 64. 岡田アナベルあやめ：Border diseases：メディカルレチナとぶどう膜炎の境界に存在している疾患. 第

- 42回道北眼科集談会. 旭川市. 2024年8月.
65. Fukui M: Corneal Transplantation and Eye Bank in Japan. World Eye Bank Symposium 2024. Indonesia. September. 2024.
 66. Inoue M, Koto T: Quality of image of grating placed in model eye viewed through wavefront shaping extended depth of focus intraocular lens. Euretina. Spain. September. 2024.
 67. 尾形真樹, 厚東隆志, 利根川美香, 青木貴郁, 平形明人: 中心視野欠損のある患者の移動時の視覚探索に遮光眼鏡フレームの構造が与える影響. 第32回視覚障害リハビリテーション研究発表大会. 東京. 2024年9月.
 68. 慶野博: 小児非感染性ぶどう膜炎の診断と治療. 第7回ライフサイクルに応じたリウマチ膠原病治療研究会. 川崎市. 2024年9月.
 69. 厚東隆志: 硝子体サーजनを目指す人への白内障手術教育. 第28回眼科手術の寺子屋. 東京. 2024年9月.
 70. 平形明人: 糖尿病網膜症診療の現状. 第24回糖尿病患者の眼科と内科の診療連携を考える会. オンライン. 2024年9月.
 71. 平形明人: 眼底の正常と異常. 東京大学大学院農学生命科学研究科 応用動物科学専攻・応用生命化学専攻 修士課程 2024年度SP期集中講義「正常と異常の生命科学」. 東京. 2024年9月.
 72. 矢田長洋: 水晶体再建術併用流出路再建術(眼内法)施行眼に対する縮瞳による隅角開大効果. 第35回日本緑内障学会. 姫路市. 2024年9月.
 73. 山田昌和: 生体染色で角結膜上皮を診る. ドライアイ研究会eラーニング2024秋. 東京. 2024年9月.
 74. Inoue M: Inner retinotomy for retinal detachment in eyes with X-linked retinoschisis. Pan Ophthalmologica Online. October. 2024.
 75. Inoue M: Bridging suture for iris capture after intrascleral fixation of IOL. 28th Advanced Vitrectomy Course. Tokyo. October. 2024.
 76. Inoue M: Inner retinotomy for retinal detachment in eyes with X-liked retinoschisis. 28th Advanced Vitrectomy Course. Tokyo. October. 2024.
 77. Inoue M: Retinal detachment associated with choroidal coloboma. 28th Advanced Vitrectomy Course. Tokyo. October. 2024.
 78. Takeuchi J, Ohara H, Yokoi T, Nakajima K, Mizuno M, Ishida T, Koto T, Inoue M: Investigation of the image-enhanced algorithm for diagnosing diabetic retinopathy severity. American Academy of Ophthalmology. USA. October. 2024.
 79. 井上真: 小児網膜疾患への外科的アプローチ. 第38回千葉県眼科懇話会. 千葉市. 2024年10月.
 80. 片岡恵子: 加齢黄斑変性の治療戦略2024. 第2回アイを語ろう. 宇部市. 2024年10月.
 81. 片岡恵子: eAMDにおけるOCTの読影のコツ. 中外eセミナー on Ophthalmology. オンライン. 2024年10月.
 82. 片岡恵子: 新生血管型加齢黄斑変性の診療ガイドライン. PLUS CHUGAI 新ガイドライン解説セミナー. オンライン. 2024年10月.
 83. 片岡恵子: 新生血管型加齢黄斑変性の診療ガイドラインに則した抗VEGF薬治療. OCT Update Seminar 2024. 仙台市. 2024年10月.
 84. 川原美久, 片岡恵子, 熊谷真理子, 岡田アナベルあやめ, 平形明人, 三宅養三: 羞明を主訴とした片側性網膜機能障害の1例. 第67回東京多摩地区眼科集談会. 三鷹市. 2024年10月.
 85. 平形明人: 眼科診療アップデート-眼底疾患を中心に-. 武蔵野徳洲会病院講演会. 西東京市. 2024年10月.
 86. 齋藤翔子, 慶野博, 高崎一朗, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: Circulating microRNA alterations in serum during the development of experimental autoimmune uveoretinitis. 第52回日本臨床免疫学会総会. 東京. 2024年10月.
 87. 鈴木由美: 内斜視の手術(発症年齢による手術適応・手術時期を中心に). 第46回城北地区眼科医会学術講演会. 東京. 2024年10月.
 88. 山田昌和: アイフレイルって何?と聞かれたら. 静岡県眼科医会眼科医療従事者講習会. 静岡市. 2024年10月.
 89. Inoue M: Retinal detachment in pediatric cases. The 12th PCV Summit. China. November. 2024.
 90. Inoue M: Digital-assisted vitrectomy for myopic traction maculopathy. Surgical Options in High Myopia. 17th Congress of the Asia-Pacific Vitreo-Retina Society. Singapore. November. 2024.
 91. Kanai A, Yokoi T, Inoue M: Characteristics and Surgical Outcome of Coats Disease treated by Vitrectomy. 17th Congress of the Asia-Pacific Vitreo-Retina Society. Singapore. November. 2024.
 92. Kataoka K: Changing the nAMD game plan with faricimab dual inhibition, drying and durability. 17th Congress of the Asia-Pacific Vitreo-Retina Society. Singapore. November. 2024.
 93. Kataoka K, Hashiya N, Honjyo J, Miyara Y, Okada AA, Tanaka K: Efficacy of switching to aflibercept 8 mg in refractory nAMD. 17th Congress of the Asia-Pacific Vitreo-Retina Society. Singapore. November. 2024.
 94. Kataoka K, Okada AA, Honjyo J, Hashiya N, Tanaka K, Miyara Y: Japan AMD Research Consortium (JARC): Efficacy of switching to aflibercept 8 mg in refractory nAMD. 17th Congress of the Asia-Pacific Vitreo-Retina Society. Singapore. November. 2024.
 95. Koto T: Management of Recurrent MHRD/MH in High Myopia. 17th Congress of Asia-Pacific Vitreo-Retina Society. Singapore. November. 2024.
 96. Lu X, Kataoka K, Ko R, Kumagai M, Okada AA, Yamamoto A: The increase of intraocular pressure (IOP) 30 minutes after intravitreal injection of 50 μ l and 70 μ l volumes. 17th Congress of the Asia-Pacific Vitreo-Retina Society. Singapore. November. 2024.
 97. Okada AA: Gender-based differences in work styles and career satisfaction in the retina subspecialty in Japan. 17th Congress of the Asia-Pacific Vitreo-Retina Society. Singapore. November. 2024.
 98. Yokoi T, Mizuno M, Koto T, Inoue M: Surgical outcome of vitrectomy for morning glory disc anomaly. 17th Congress of Asia-Pacific Vitreo-Retina Society. Singapore. November. 2024.

99. Keino H: Unlocking Uveitis: Integrating Imaging in Uveitis Practice Fundus Fluorescein Angiography (FFA): Role in Uveitis. IUSG INFLAMMATIO 2024. Shingapore. November. 2024.
100. Okada AA: Imaging in the management of Vogt-Koyanagi-Harada disease. IUSG INFLAMMATIO 2024. Singapore. November. 2024.
101. 井上真: 網膜硝子体外科的アプローチ最前線. 第1回埼玉臨床フォーラム. 川越市. 2024年11月.
102. 井上真: 患者と術者に負担が少ない硝子体手術. 2024年 Orange Eye Seminar. 松山市. 2024年11月.
103. 大原裕美, 石田友香, 鳥飼智彦, 武内潤, 横井匡, 水野雅春, 厚東隆志, 井上真: 黄斑剥離を伴う裂孔原性網膜剥離の術後視機能とOCT enface所見の検討. 第78回日本臨床眼科学会. 京都市. 2024年11月.
104. 小野浩一, 川崎良, 平塚義宗, 山田昌和: 眼科医のための臨床疫学研究デザイン塾6: 研究成果を臨床・社会に還元する. 第78回日本臨床眼科学会. 京都市. 2024年11月.
105. 角田麻理, 重安千花, 久須見有美, 福井正樹, 山田昌和: ソフトコンタクトレンズ装用者の中断・中止に関するウェブ調査. 第78回日本臨床眼科学会. 京都市. 2024年11月.
106. 片岡恵子, 本庄純一郎, 橋谷臨, 田中公二, 宮良安宣, 渡邊裕斗, 山本亜希子, 加藤寛, 板垣加奈子, 向井亮, 丸子一朗, 長谷川泰司, 河合萌子, 丸子留佳, 中井郁華, 中川直哉, 若月優, 湧川空子, 寺尾信宏, 眞榮平茉莉奈, 古泉英貴, 森隆三郎, 飯田知弘, 石龍鉄樹, 岡田アナベルあやめ: 治療抵抗性加齢黄斑変性における aflibercept 8mg への短期的な切り替え効果. 第78回日本臨床眼科学会. 京都市. 2024年11月.
107. 片岡恵子: 新しい「新生血管型加齢黄斑変性の診療ガイドライン」をやさしく解説. 第78回日本臨床眼科学会. 京都市. 2024年11月.
108. 厚東隆志: 超広角眼底画像ケースカンファレンス Vol.3. ～ここまで見える! 解る! ～. 第78回日本臨床眼科学会. 京都市. 2024年11月.
109. 佐藤尚人, 向後二郎, 米田一仁, 大澤俊介, 寺島浩子, 平形明人: 硝子体手術クエスチョンバンク もっと見える黄斑前膜編. 第78回日本臨床眼科学会. 京都市. 2024年11月.
110. 中野聡子, 外丸靖浩, 高瀬博, 望月學, 杉田直, Direct Strip PCR臨床研究グループ (岡田アナベルあやめ): 「Direct Strip PCR」感染性ぶどう膜炎多項目迅速PCR 14・5 キット医師主導臨床性能試験. 第78回日本臨床眼科学会. 京都市. 2024年11月.
111. 野地将, 重安千花, 鈴木由美, 角田麻里, 山本雅, 久須見有美, 福井正樹, 山田昌和: Ankyloblepharon-ectodermal defects-cleft lip/palate (AEC) syndromeの1例. 第78回日本臨床眼科学会. 京都市. 2024年11月.
112. 盧錫恩, 慶野博, 黄俐穎, 中山真紀子, 林勇海, 長堀克哉, 齋藤翔子, 角田麻里, 安藤良将, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: 小児, および若年者における間質性腎炎ぶどう膜炎(TINU)症候群の臨床像の検討. 第78回日本臨床眼科学会. 京都市. 2024年11月.
113. 渡辺龍之介, 山本雅, 久須見有美, 福井正樹, 山田昌和: 辺縁角膜潰瘍を契機に診断されたANCA関連血管炎の3例. 第78回日本臨床眼科学会. 京都市. 2024年11月.
114. 片岡恵子: 加齢黄斑変性の治療戦略2024. 南勢黄斑セミナー. 伊勢市. 2024年11月.
115. 片岡恵子: 丸わかり「新生血管型加齢黄斑変性の診療ガイドライン」. 第26回西東京眼科フォーラム. 武蔵野市. 2024年11月.
116. 片岡恵子: おさえておきたい「新生血管型加齢黄斑変性の診療ガイドライン」. ノバルティスウェブセミナー-AMD Guideline -Basic-. オンライン. 2024年11月.
117. 片岡恵子: 新生血管型加齢黄斑変性の診療ガイドラインからみるアイリーア8mgへの期待. EYLEA 8mg 発売記念講演会 in 多摩. オンライン. 2024年11月.
118. 慶野博: 小児非感染性ぶどう膜炎の診断と治療. 第1回栃の木眼科カンファレンス. 宇都宮市. 2024年11月.
119. 鈴木由美: 当科における斜視診療. 第26回西東京眼科フォーラム. 三鷹市. 2024年11月.
120. 田中禎規, 渡辺敏樹, 林勇海, 慶野博: 医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患に伴う鼻性視神経症の1例. 第62回日本神経眼科学会総会. 金沢市. 2024年11月.
121. 平形明人: 術者の経験から, 知っておきたい眼底疾患と手術合併症. 第13回帝京川崎眼科病診連携の会. 川崎市. 2024年11月.
122. 福井正樹: 角膜移植って縫わないの?～最新の角膜移植～. 第8回杏林大学医学部付属病院医療連携フォーラム. 三鷹市. 2024年11月.
123. Inoue M: Clinical impact of heads-up surgery for macular diseases. The 15th Dalian International Ophthalmology Forum 2024. China. December. 2024.
124. Koto T, Inoue M: Outcomes of Reoperation for Unclosed Macular Holes: A Retrospective Analysis. The 4th Asia Retina Congress. Korea. December. 2024.
125. 井上真: エビデンスが示す新時代に向けたデバイスの方向性. 第63回日本網膜硝子体学会総会. 大阪市. 2024年12月.
126. 大原裕美, 石田友香, 鳥飼智彦, 武内潤, 横井匡, 水野雅春, 厚東隆志, 井上真: 黄斑剥離を伴う裂孔原性網膜剥離の網膜復位術後視機能の検討. 第63回日本網膜硝子体学会総会. 大阪市. 2024年12月.
127. 大場万優, 前田稜太, 野口裕貴, 新井瑞穂, 井上達也, 井上麻衣子, 厚東隆志, 井上真, 門之園一明: 術後早期眼内炎の硝子体術後の視力予後に相関する因子の検討. 第63回日本網膜硝子体学会総会. 大阪市. 2024年12月.
128. 岡田アナベルあやめ: Women retina from the US perspective” Symposium on Women in Retina Around the World. 第63回日本網膜硝子体学会総会. 大阪市. 2024年12月.
129. 片岡恵子: パキコロイド疾患: パキコロイド新生血管症・ポリープ状脈絡膜血管症. 第63回日本網膜硝子体学会総会. 大阪市. 2024年12月.
130. 片岡恵子: 新しい加齢黄斑変性ガイドライン～治療編～. 第63回日本網膜硝子体学会総会. 大阪市. 2024年12月.
131. 武内潤, 鳥飼智彦, 大原裕美, 横井匡, 水野雅春, 石田友香, 井上達也, 厚東隆志, 門之園一明, 井上真: 早期発症の術後眼内炎に対する硝子体手術後の視力予後因子の検討. 第63回日本網膜硝子体学会総会. 大阪市. 2024年12月.

132. 鳥飼智彦, 大原裕美, 武内潤, 横井匡, 水野雅春, 厚東隆志, 井上真: 黄斑円孔における近視の割合の変化. 第63回日本網膜硝子体学会総会. 大阪市. 2024年12月.
133. 橋谷臨, 田中公二, 宮良安宣, 加藤寛, 渡邊裕斗, 丸子一朗, 向井亮, 片岡恵子, 岡田アナベルあやめ, 石龍鉄樹, 古泉英貴, 森隆三郎, 飯田知弘: 未治療の新生血管型加齢黄斑変性における aflibercept 8mgの短期成績. 第63回日本網膜硝子体学会総会. 大阪市. 2024年12月.
134. 盧錫恩, 片岡恵子, 熊谷真理子, 山本亜希子, 黄俐穎, 岡田アナベルあやめ: Intraocular pressure after intravitreal injection of 50 μ l and 70 μ l volumes. 第63回日本網膜硝子体学会総会. 大阪市. 2024年12月.
135. 片岡恵子: ガイドラインに沿った加齢黄斑変性の診断と治療. 第1回浜松眼科集談会. 浜松市. 2024年12月.
136. 片岡恵子: 脈絡膜血管の謎. 第8回網膜橋渡し研究会. 大阪市. 2024年12月.
137. 片岡恵子: 新ガイドラインに即した新生血管型AMD治療2024. 第22回葛飾眼科病診懇話会. オンライン. 2024年12月.
138. 片岡恵子: 新生血管型加齢黄斑変性の診療ガイドラインの改訂で何が変わった?. 新生血管型加齢黄斑変性の診療ガイドラインセミナー in TAMA. オンライン. 2024年12月.
139. 片岡恵子: 実臨床におけるアイリーア8mgの有用性と安全性. EYLEA 8mg発売記念講演会. オンライン. 2024年12月.
140. 片岡恵子: ~ガイドラインに基づいた日常診療~. NOVARTIS AMD Web seminar『ガイドライン改訂をどう捉えるか?』. オンライン. 2024年12月.
141. 清水悠多, 畑中裕司, 慶野博: 前眼部OCT画像のテクスチャ特徴を用いたぶどう膜炎の前房細胞グレードの推定. 第5回日本眼科AI学会総会. 博多市. 2024年12月.
142. 中野勝太, 畑中裕司, 慶野博: 超広角眼底画像における無灌流領域の自動抽出. 第5回日本眼科AI学会総会. 博多市. 2024年12月.
143. 福井正樹: 角膜 実質疾患~手術適応を見極めろ. 第48回COST. オンライン. 2024年12月.
144. Inoue M: Retinal detachment associated with choroidal coloboma. Cairo Retina Meeting. Egypt. January. 2025.
145. Inoue M: Inner retinotomy for retinal detachment in eyes with X-linked retinoschisis. Cairo Retina Meeting. Egypt. January. 2025.
146. Inoue M: Intraocular foreign body. Retinaws. Cairo Retina Meeting. Egypt. January. 2025.
147. 井上真: PDR手術におけるUnity VCSの有用性. 第10回若手DR研究会. 那覇市. 2025年1月.
148. 井上真: 網膜症に対する手術治療(レーザーを含む). 第59回糖尿病学の進歩. 那覇市. 2025年1月.
149. 片岡恵子: ガイドラインに沿った加齢黄斑変性の診断と治療. SENJU Ophthalmic Seminar in Niigata 2025. 新潟市. 2025年1月.
150. 北善幸: 高齢化社会における緑内障治療. グラナテックWebカンファレンス. オンライン. 2025年1月.
151. Inoue M: Appearance in epiretinal proliferation in intraoperative OCT images during vitrectomy for degenerative lamellar macular holes. Vail Vitrectomy 2025. USA. February. 2025.
152. 井上真: 症例から学ぶ網膜硝子体手術. Deep Dive Surgical Seminar. 新潟市. 2025年2月.
153. 片岡恵子: ガイドラインに沿った加齢黄斑変性の診断と治療. 埼玉県眼科教育講演会. さいたま市. 2025年2月.
154. 片岡恵子: AMDの画像所見. AMD Education Seminar. AP. 東京. 2025年2月.
155. 川原美久, 福井正樹, 角田麻理, 久須見有美, 山田昌和: 冷凍保存角膜による強角膜移植後早期に上皮化を得た1例. 第49回日本角膜学会. 高野町. 2025年2月.
156. 久須見有美, 角田麻理, 福井正樹, 重安千花, 藤井かんな, 山田昌和: 杏林アイセンターにおけるアカントアメーバ角膜炎の動向. 第49回日本角膜学会. 高野町. 2025年2月.
157. 福井正樹, 川原美久, 角田麻理, 久須見有美, 山田昌和: デスメ膜角膜内皮移植術(DMEK)の移植片作成. 第49回日本角膜学会. 高野町. 2025年2月.
158. 北善幸: 緑内障治療用インプラント挿入術のトラブルシューティング. 28th Tokyo Glaucoma Retina Joint Conference. オンライン. 2025年2月.
159. 鈴木由美: 斜視診療アップデート. 第1回城西連携会. 東京. 2025年2月.
160. 平形明人: 糖尿病網膜症のアップデート. 城西眼科連携会. 東京. 2025年2月.
161. Inoue M: Surgical management of VHL. 13th Annual Vit-Buckle Society Meeting. USA. March. 2025.
162. Inoue M: Hydro-dissection technique for persistent macular holes; intraoperative OCT findings. FujiRetina 2025. Tokyo. March. 2025.
163. Kataoka K: Unilateral photophobia with no structural abnormalities in a middle-aged male. FujiRetina 2025. Tokyo. March. 2025.
164. Kawahara M, Kataoka K, Kumagai M, Okada AA, Hirakata A, Miyake Y: Unilateral retinal bipolar cell dysfunction with photophobia. FujiRetina 2025. Tokyo. March. 2025.
165. Koto T, Fukui M, Yamada M, Inoue M: Simultaneous Vitrectomy and DSAEK for Proliferative Vitreoretinopathy with Corneal Opacification. FujiRetina 2025. Tokyo. March. 2025.
166. Koto T: Retinaws. FujiRetina 2025. Tokyo. March. 2025.
167. Lu X, Kataoka K, Kumagai M, Ko R, Yamamoto A, Okada AA: The increase of intraocular pressure (iop) 30 minutes after intravitreal injection of 50 μ l and 70 μ l volumes. FujiRetina 2025. Tokyo. March. 2025.
168. Okada AA: Initial treatment of VKH disease: a tale of two countries. FujiRetina 2025. Tokyo. March. 2025.
169. Tanaka S, Koto T, Ishida T, Takeuchi J, Yokoi T, Ohara H, Torikai T, Inoue M: Outcomes of Reoperation for Unclosed Macular Holes: A Retrospective Analysis. FujiRetina 2025. Tokyo. March. 2025.
170. 片岡恵子: 新ガイドラインに基づいた診療のポイント. 第4回近畿アイNext. 大阪市. 2025年3月.

171. 慶野博：ぶどう膜炎診療における病診連携のポイント。HCV・眼疾患コラボレーションセミナー。武蔵野市。2025年3月。
172. 厚東隆志：PVR手術の輪状縮結 巻く?巻かない?。第5回網膜HOPEの会。オンライン。2025年3月。
173. 山田昌和：ご存じですか?アイフレイルと眼科検診。東入間医師会 第19回市民公開講座。三芳町。2025年3月。

論文

- Akune Y, Kawasaki R, Goto R, Tamura H, Hiratsuka Y, Yamada M: Cost-effectiveness of AI-based diabetic retinopathy screening in nationwide health checkups and diabetes management in Japan: A modeling study. *Diabetes Res Clin Pract.* 2025 Mar;221:112015. doi: 10.1016/j.diabres.2025.112015. Epub ahead of print.
- Branford JA, Bodaghi B, Ferreira LB, McCluskey PJ, Thorne JE, Matthews JM: International Study Group for Systemic Immunomodulatory Drug Treatment of Non-Infectious Uveitis; Smith JR. (including Keino H.) Use of immunomodulatory treatment for non-infectious uveitis: an International Ocular Inflammation Society report of real-world practice *Br J Ophthalmol.* 2024 Nov 1; 109(4):482-489. doi: 10.1136/bjo-2024-326239.
- Fukuyama H, Ishikawa H, Gomi F; Japan-Retinal Detachment Registry Group (Hirakata A): Impact of drainage retinotomy on surgical outcomes of retinal detachment: insights from the Japan-Retinal Detachment Registry. *Sci Rep.* 2024 Apr 2;14(1):7795. doi: 10.1038/s41598-024-58453-5.
- Hatakeyama C, Kataoka K, Yoshikawa Y, Nakayama M, Yamamoto A, Okada AA: Factors predictive of persistent subretinal fluid in acute central serous chorioretinopathy. *Retina.* 2025 Mar 1;45(3):548-554. doi: 10.1097/IAE.0000000000004343.
- Hayashi I, Keino H, Nakayama M, Ando Y, Watanabe T, Okada AA.: Demographic Features, Diagnoses and Real-World Clinical Management of Uveitis in Japan. *Ocul Immunol Inflamm.* 2025 Jan 10; 1-9. doi: 10.1080/09273948.2024.2449179.
- Ishikawa T, Nishimura K, Okamoto N, Akamine K, Inoue N, Irabu H, Kato K, Keino H, Kojima M, Kubo H, Maruyama K, Mizuta M, Shabana K, Shimizu M, Sugita Y, Takakuwa Y, Takanashi S, Takase H, Umebayashi H, Umezawa N, Yamanishi S, Yamazaki K, Yashiro M, Yasumi T, Mori M: Efficacy and safety of tumor necrosis factor inhibitors for systemic juvenile idiopathic arthritis: A systematic review. *Mod Rheumatol.* 2024 Dec 25;35(1):174-184. doi: 10.1093/mr/roae050.
- Ichikawa K, Tomita A, Suzuki Y, Hosoda S, Koto T, Inoue M: Isolated posterior capsule rupture secondary to blunt ocular trauma: Case presentation and literature review. *Int J Surg Case Rep.* 2024 Sep;122:110116. doi: 10.1016/j.ijscr.2024.110116.
- Inoda S, Takahashi H, Maruyama-Inoue M, Ikeda S, Sekiryu T, Itagaki K, Matsumoto H, Mukai R, Nagai Y, Ohnaka M, Kusuhara S, Miki A, Okada AA, Nakayama M, Nishiguchi KM, Takeuchi J, Mori R, Tanaka K, Honda S, Kohno T, Koizumi H, Miyara Y, Inoue Y, Takana H, Iida T, Maruko I, Hayashi A, Ueda-Consolvo T, Yanagi Y: Incidence and risk factors of intraocular inflammation following brolocizumab treatment in Japan; a multicenter AMD study. *Retina.* 2024 Apr 1;44(4):714-722. doi: 10.1097/IAE.0000000000004009.
- Inoue M: Retinal detachments associated with choroidal colobomas. *Taiwan Journal of Ophthalmology.* January 27, 2025. doi: 10.4103/tjo.TJO-D-24-00097. Online ahead of print.
- Inoue M, Itoh Y, Bissen-Miyajima H, Koto T: Retinal Image Quality Through an Operating Microscope With Wavefront Shaping Extended Depth of Focus Intraocular Lens in Model Eye. *Am J Ophthalmol.* 2024 Sep;265:117-126. doi: 10.1016/j.ajo.2024.04.028.
- Kanai A, Takeuchi J, Koto T, Inoue M: Combined Treatment with Inverted Internal Limiting Membrane Flap and Subretinal Injection of Balanced Salt Solution to Repair Chronic Macular Holes. *J Vitreoretin Dis.* 2024 Oct 7;24741264241278434. doi: 10.1177/24741264241278434. Online ahead of print.
- Kita Y, Holló G, Yoshikawa Y, Ishida T: Optic disc melanocytoma: Progressive size reduction and increase of vessel density. *Indian Journal of Ophthalmology-Case Reports.* 2024 Oct-Dec; 4(4): 996-997. doi: 10.4103/IJO.IJO_1394_24.
- Lu X, Yokoi T, Kataoka K, Inoue M: Inverted internal limiting membrane flap combined with subretinal viscoelastic injection for large or chronic macular holes. *Am J Ophthalmol Case Rep.* 2024; 36:102100. doi: 10.1016/j.ajoc.2024.102100.
- Mizuno M, Koto T, Nakajima K, Ishida T, Inoue M: Factors affecting aspiration volumes of back-flush needles and infusion volumes of vitrectomy device. *Retina.* 2025 Mar 1;45(3):478-485. doi: 10.1097/IAE.0000000000004326.
- Mukai R, Kataoka K, Tanaka K, Miyara Y, Maruko I, Nakayama M, Watanabe Y, Yamamoto A, Wakatsuki Y, Onoe H, Wakugawa S, Terao N, Hasegawa T, Kawai M, Maruko R, Itagaki K, Honjo J, Okada AA, Mori R, Koizumi H, Iida T, Sekiryu T: One-year outcomes and safety assessment of faricimab in treatment-naïve patients with neovascular age-related macular degeneration: A Japanese multicenter study. *Sci Rep.* 2024 May 22;14(1):11681. doi: 10.1038/s41598-024-62559-1.
- Nakajima K, Takeuchi J, Yokoi T, Mizuno M, Koto T, Ishida T, Ozawa H, Inoue M: Clarity of surgical field displayed on 3D monitor with local dimming technology during heads-up surgery. *Jpn J Ophthalmol.* 2025 Apr 29. doi: 10.1007/s10384-025-01202-6. Online ahead of print.
- Nishimura K, Ishikawa T, Okamoto N, Akamine K, Inoue N, Irabu H, Kato K, Keino H, Kojima M, Kubo H, Maruyama K, Mizuta M, Shabana K,

- Shimizu M, Sugita Y, Takakuwa Y, Takanashi S, Takase H, Umebayashi H, Umezawa N, Yamanishi S, Yamazaki K, Yashiro M, Yasumi T, Mori M: Efficacy and safety of tumor necrosis factor inhibitors for systemic juvenile idiopathic arthritis: A systematic review. *Mod Rheumatol*. 2024 Dec 25;35(1):167-173. doi: 10.1093/mr/roae046.
18. Ohara H, Torikai T, Takeuchi J, Yokoi T, Koto T, Inoue M: Comparison of 27-Gauge to 25-Gauge Vitrectomy in Patients with Tractional Retinal Detachment Associated with Proliferative Diabetic Retinopathy. *J Clin Med*. 2025 Apr 7;14(7):2533. doi: 10.3390/jcm14072533.
 19. Ota H, Kataoka K, Asai K, Takeuchi J, Nakano Y, Nakamura K, Todoroki T, Nishiguchi KM: Five-year outcomes of treat and extend regimen using intravitreal aflibercept injection for treatment-naïve age-related macular degeneration. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol*. 2024; 262(11):3483-3491. doi: 10.1007/s00417-024-06519-5.
 20. Sajiki AF, Kataoka K, Takeuchi J, Ota H, Nakano Y, Horiguchi E, Kaneko H, Terasaki H, Ito Y, Nishiguchi KM: Clinical utility of swept-source optical coherence tomography angiography for the diagnosis of exudative maculopathy. *Jpn J Ophthalmol*. 2024; 68(6):614-620. doi: 10.1007/s10384-024-01115-w.
 21. Saito S, Kusumi Y, Takano Y, Fukui M, Yamada M: Effects of ethylenediaminetetraacetic acid chelation for calcific band keratopathy on corneal topography assessed by fourier harmonic analysis. *Jpn J Ophthalmol*. 2025 Mar;69(2):182-187. doi: 10.1007/s10384-025-01160-z.
 22. Shimizu H, Tanaka H, Tazaki A, Yamada K, Suzumura A, Ota J, Ushio-Watanabe N, Zheng H, Kataoka K, Hara H, Nishikawa Y, Yasukawa T, Suzuma K, Terasaki H, Nishiguchi KM, Kato M, Toyokuni S, Kaneko H: Silicone oil, an intraocular surgical adjuvant, induces retinal ferroptosis. *Free Radic Biol Med*. 2025; 228:33-43. doi: 10.1016/j.freeradbiomed.2024.12.039.
 23. Shimura M, Oh H, Ueda T, Kitano S, Mitamura Y, Sato J, Iwasaki K, Hirakata A: YOSEMITE and RHINE Investigators. Efficacy, durability, and safety of faricimab with extended dosing up to every 16 weeks in diabetic macular edema: 2-year results from the Japan subgroup of the phase 3 YOSEMITE trial. *Jpn J Ophthalmol*. 2024 Sep;68(5):511-522. doi: 10.1007/s10384-024-01078-y.
 24. Shimura M, Hirano T, Tsuiki E, Takamura Y, Morizane Y, Akiyama K, Yamamoto K, Hikichi T, Koto T, Kinoshita T, Kusuhara S, Yoshida S, Sakamoto SI, Kimura K, Sugimoto M, Kida T, Mitamura Y, Takatsuna Y, Washio N, Osaka R, Ueda T, Minamoto A, Kogo J, Okamoto F, Enaida H, Sakanishi Y, Nagaoka T, Gomi F, Sasaki M, Terasaki H, Iwase T, Tatsumi T, Nishi K, Shinoda K, Ueda S, Ueda-Consolvo T, Nakashizuka H, Murata T, Kitano S, Sakamoto T: J-CREST STREAT-DME 2 Study Group: Alteration of treatment choices and the visual prognosis for diabetic macular edema in the era of anti-vascular endothelial growth factor drugs: Analysis of the STREAT-DME 2 Study. *Retina*. 2025 Feb 1;45(2):335-344. doi: 10.1097/IAE.0000000000004301.
 25. Suzuki Y, Aoki T, Tomita A, Mitsukawa T, Hama Y, Yamada M: Slanted and standard recession procedures for convergence insufficiency-type intermittent exotropia in children: a retrospective cohort study comparing surgical outcomes. *Clin Ophthalmol*. 2024 Aug 30;18:2453-2460. doi: 10.2147/OPTH.S471172.
 26. Takeuchi J, Ohara H, Yokoi T, Koto T, Inoue M: Investigations on whether image-sharpening algorithm can improve the determination of severity of diabetic retinopathy in ultra-widefield fundus photographs. *Sci Rep*. 2025 Apr 2;15(1):11351. doi: 10.1038/s41598-025-92270-8.
 27. Wong TY, Haskova Z, Asik K, Baumal CR, Csaky KG, Eter N, Ives JA, Jaffe GJ, Korobelnik JF, Lin H, Murata T, Ruamviboonsuk P, Schlottmann PG, Seres AI, Silverman D, Sun X, Tang Y, Wells JA, Yoon YH, Wykoff CC: YOSEMITE and RHINE Investigators: Faricimab Treat-and-Extend for Diabetic Macular Edema: Two-Year Results from the Randomized Phase 3 YOSEMITE and RHINE Trials. *Ophthalmology*. 2024 Jun;131(6):708-723. doi: 10.1016/j.ophtha.2023.12.026.
 28. Yoshikawa Y, Takeuchi J, Takahashi A, Mizuno M, Ishida T, Koto T, Inoue M: Association Between Arch-Shaped Hypo-Autofluorescent Lesions Detected Using Fundus Autofluorescence and Postoperative Hypotony. *J Clin Med*. 2024 Oct 20;13(20):6264. doi: 10.3390/jcm13206264.
 29. Yoshikawa Y, Sakaki Y, Shinoda K, Kataoka K: Safety and Effectiveness of Intravitreal Brolucizumab Injection in Combination With Sub-Tenon's Capsule Triamcinolone Acetonide Injection for Polypoidal Choroidal Vasculopathy During the Loading Phase. *Cureus*. 2024; 16(5):e59481. doi: 10.7759/cureus.59481.
 30. Zhang, L, Rojas-Carabali W, Choo SS, Thng ZX, Lim YH, Lee B, Jun SW, Patnaik G, Biswas J, Agarwal A, Testi I, Mahajan S, Kempen JH, Smith JR, McCluskey P, Kon OM, Nguyen QD, Pavesio C, Gupta V, Agrawal R, for the Collaborative Ocular Tuberculosis Study (COTS) Group (including Okada AA): Validation of the online collaborative ocular tuberculosis study calculator for tubercular uveitis. *JAMA Ophthalmol*. 2024 Dec 1;142(12):1140-1148. doi: 10.1001/jamaophthalmol.2024.4567.
 31. 安藤伸朗, 大越貴志子, 山下英俊, 今泉寛子, 岡田 アナベルあやめ, 益原奈美, 今本量久: 定年後のみんな, どう働いているの?. *日本の眼科*. 2024; 95: 960-975.
 32. 片岡恵子: 眼科医の手引 加齢黄斑変性の診断におけるAIの応用. *日本の眼科*. 2024; 95(7): 948-949.
 33. 片岡恵子: 網膜硝子体1 視力良好例でも加齢黄斑変性の疑いがある患者の対処法. *眼科*. 2024; 66(11): 1239-1242.
 34. 厚東隆志: 白内障・屈折矯正 眼内レンズ強膜内固定後の支持部の露出例への対処法. *眼科*. 2024; 66(11): 1172-1173.
 35. 片岡恵子: 抗VEGF療法の実際(1). あたらしい眼科. 2025; 42(1): 49-54.

36. 武内潤, 厚東隆志: 増殖膜処理のピットフォール. あたらしい眼科. 2024; 41(8): 909-913.
37. 片岡恵子: 新生血管型加齢黄斑変性(3型MNV)と網膜静脈分枝閉塞症. 眼科グラフィック. 2025; 14(1): 46-50.
38. 慶野博: ぶどう膜炎と全身疾患. 臨床眼科. 2025; 9(2): 92-199.
39. 齋藤翔子, 岡田アナベルあやめ: 喫煙と加齢黄斑変性・ぶどう膜炎. 臨床眼科. 2024; 78: 1477-1482.
40. 鈴木由美: 眼底所見と虐待. 小児外科. 2024; 56(11): 1097-1101.
41. 大家義則, 西田希, 重安千花, 川崎良, 山田昌和, 西田幸二: 無虹彩症の診療ガイドラインの使用状況調査. 日本眼科学会雑誌. 2024; 128(4): 311-319.
42. 山田昌和, 平塚義宗, 鹿野由利子, 加藤圭一, 杉山和久, 辻川明孝: ウェブ調査によるアイフレイルチェックリストの検証. 日本眼科学会雑誌. 2024; 28: 66-472.

著書

1. 井上真(編集): 眼科グラフィック2024増刊. メディカ出版. 2024.
2. 大原裕美(分担執筆): 網膜硝子体手術 基本と応用, トラブル&リカバリーがわかる!. 眼科グラフィック2024増刊. 井上真 編集. メディカ出版. 2024. 74-80.
3. 片岡恵子(分担執筆): 光線力学療法(PDT)におけるトラブル&リカバリー. 眼科グラフィック2024増刊. 井上真 編集. メディカ出版. 2024. 107-111.
4. 厚東隆志(分担執筆): 強膜バックリング手術におけるトラブル&リカバリー. 眼科グラフィック2024増刊. 井上真 編集. メディカ出版. 2024. 95-99.
5. 北善幸(分担執筆): ステロイド眼合併症. 最新の臨床WEB. 谷戸正樹 編集. 南江堂. 2024 <https://www.rinsho.net/top>
6. 慶野博(分担執筆): サイトメガロウイルス網膜炎. 眼科疾患最新の治療2025-2027. 辻川昭孝 編集. 南江堂. 2024. 245.
7. 長堀克哉, 厚東隆志(分担執筆): 転移性眼内炎. 眼科疾患最新の治療2025-2027. 白石敦, 辻川明孝 編集. 南江堂. 2024年
8. 山田昌和(分担執筆): 羞明(まぶしい). 眼科疾患最新の治療2025-2027. 白石敦, 辻川明孝 編集. 南江堂. 2024. 61-62.
9. 慶野博(分担執筆): COVID19感染, ワクチン接種後の網膜血管障害 網膜循環疾患コンプリートガイド 眼科診療エクセル6. 白石敦, 辻川昭孝 編集. 中山書店. 2024. 219-222.
10. 厚東隆志(分担執筆): 黄斑上膜・黄斑円孔. 今日の治療指針 第9版. 永井良三 総編集. 医学書院. 2025. 1580.
11. 平形明人(分担執筆): 視神経乳頭小窩・視神経乳頭小窩黄斑症. 眼科診療ガイド第2版. 根木昭 監修. 文光堂. 2024. 486-487.
12. 福井正樹(分担執筆): 放射線角膜炎. 眼科診療ガイド第2版. 根木昭 監修. 文光堂. 2024. 205-206.
13. 福井正樹(分担執筆): 硬化性角膜炎. 眼科診療ガイド第2版. 根木昭 監修. 文光堂. 2024. 206-207.
14. 福井正樹(分担執筆): 角膜軟化症. 眼科診療ガイド第2版. 根木昭 監修. 文光堂. 2024. 207-208.
15. 福井正樹(分担執筆): 角膜パンスス. 眼科診療ガイド第2版. 根木昭監修. 文光堂. 2024. 208-209.

報告書

1. 山田昌和, 重安千花, 久須見有美: 分担研究報告書「前眼部形成異常の診療ガイドラインの普及・啓発活動」, 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))「前眼部難病の標準的診断基準およびガイドライン作成に関する研究」. 2024.

その他

1. 片岡恵子: 画像検査から迫る黄斑新生血管の病態と低侵襲診断法の確立. 第29回ROHTO AWARD受賞. 2024年4月.
2. 日本網膜硝子体学会 硝子体内注射時の抗菌薬ワーキンググループ(喜田照代, 秋山英雄, 安川力, 辻川明孝, 岡田アナベルあやめ): VEGF阻害薬の硝子体内注射前後における抗菌薬点眼処方について. 日本網膜硝子体学会. <https://www.jrvs.jp/>. 2024年4月.
3. 山田昌和: 40歳からできる目の老化・見えにくさ対策. NHK朝イチ. NHKテレビ. 2024年4月.
4. Okada AA: Internet podcast “A chat with Anat” interview of Annabelle A Okada and Ian Pearce on “Pachychoroid: current concepts on clinical features and pathogenesis” <https://podcasts.apple.com/gb/podcast/pachychoroid-current-concepts-on-clinical-features/id1593370487?i=1000661558029>. July. 2024.
5. 井上真: 「シリーズ眼科診療 昭和から令和への進歩 第12回網膜剝離, 網膜裂孔」日経ラジオ. 2024年7月.
6. 山田昌和: 目の日焼けにご用心. NHKニュースウオッチ9. NHKテレビ. 2024年7月.
7. 山田昌和: 紫外線から子どもの目を守る. 聖教新聞. 2024年8月.
8. 山田昌和: ドライアイを防ぐために. 中学保健ニュース. 2024年10月.
9. 山田昌和: アイフレイル. 健康カプセル. ゲンキの時間. TBSテレビ. 2024年10月.
10. 山田昌和: 見えにくさ, 病気のサインかも. 朝日新聞. 2024年10月.
11. 山田昌和: 目の悩み, 放置していない? アイフレイル予防で元気な老後を. 朝日新聞. 2024年12月.
12. 厚東隆志: 眼科手術のパラダイムシフト. 座談会. あたらしい眼科. 第42巻3号. 2025年.
13. 山田昌和: 目の健康寿命を延ばす! アイフレイル対策. メディPR 2025春号. 2025年3月.

耳鼻咽喉科学教室

講演

1. 竹江咲紀, 増田正次, 村上諄, 濱之上泰裕, 齋藤伸夫, 坂本龍太郎, 奥羽謙, 齋川智弘, 阿部陽夏, 齋藤康一郎: 耳管機能検査バルサルバ法における耳管機能判定不能耳を減らす方法の探索. 第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会. 大阪市. 2024年5月.
2. 菊地瞬, 森野常太郎, 鴻信義, 小島博己, 齋藤康一郎: 細胞シートを用いた家兔の副鼻腔における粘膜再生の試み. 第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会. 大阪市. 2024年5月.

3. 齋藤康一郎：外科的気道確保一術式と管理一。第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会。大阪市。2024年5月。
4. 菊地瞬：アレルギー性鼻炎の最近の話題。第23回南関東耳鼻咽喉科・頭頸部講習会。東京。2024年5月。
5. Saito K, Watanabe I, Miyamoto M, Mato S, Naoi T, Nakagawa H: Phonosurgical Paradigm to Manage Vocal Pathology is Shifting toward Office from OR. The Voice Foundation 53th Annual Symposium. USA. May 2025.
6. 齋藤康一郎：眼科医にも伝えたい音声障害に対する現代的な治療一ORからOfficeへ一。第14回東京多摩眼科連携セミナー。三鷹市。2024年5月。
7. Saito K, Naoi T, Watanabe I, Mato S, Nakagawa H: Therapeutic paradigm of vocal pathology is moving toward office from OR. 7th Congress of European ORL-HNS. Ireland. June 2024.
8. 増田正次：難聴と認知症。杏林大学公開講演会。三鷹市。2024年6月。
9. 雪野広樹, 唐帆健浩, 坂本龍太郎, 河名紗季, 齋藤康一郎：当科における壊死性筋膜炎症例の検討。第86回日本耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会。福井市。2024年6月。
10. 河名紗季, 雪野広樹, 坂本龍太郎, 唐帆健浩, 齋藤康一郎：頸椎プレートの食道穿孔に対する単純縫縮後、食道狭窄をきたし内視鏡的な食道拡張術を施行した1症例。第86回日本耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会。福井市。2024年6月。
11. 菊地瞬：好酸球性副鼻腔炎における地域連携の大切さ。第4回領域を超えたアレルギー疾患へのアプローチ。東京。2024年7月。
12. 池田哲也：「あなたの知らない口腔のポテンシャル」～経管栄養や絶食の患者にこそ口腔粘膜刺激が必要！～。口腔ケアWEBセミナー。オンライン。2024年7月。
13. 池田哲也, 関博志, 小野元彰, 里見貴史, 吉敷智和, 十文字菜穂, 金城真美, 長島文夫, 湯本愛実, 手塚里奈, 村田裕康, 川端孝典, 齋藤康一郎：高齢者における垂直的咬合の欠失と術後合併症発生率の関連性について。日本外科代謝栄養学会第61回学術集会。大阪市。2024年7月。
14. 池田哲也：一般歯科で行う周術期口腔管理。ワンデー(1D)配信歯科セミナー。オンライン。2024年8月。
15. 菊地瞬：好酸球性副鼻腔炎における地域連携の大切さ。東京都西部地区耳鼻咽喉科診療の病診連携を考える。東京。2024年9月。
16. 池田哲也：あなたの知らない口腔のポテンシャル～経管栄養や絶食の患者こそ口腔粘膜刺激が必要！～。口腔ケアセミナー。東京。2024年9月。
17. 原野桃太郎, 横井秀格, 池田哲也, 菊地瞬, 猪股浩平, 内藤翔司, 田中栞, 齋藤康一郎：歯原性上顎洞嚢胞からの発症が示唆された上顎洞癌の1例。第63回日本鼻科学会総会・学術講演会。東京。2024年9月。
18. 猪股浩平, 横井秀格, 菊地瞬, 内藤翔司, 田中栞, 齋藤康一郎：血瘤腫瘍から右上顎洞原発悪性黒色主の診断が得られた1例。第63回日本鼻科学会総会・学術講演会。東京。2024年9月。
19. 菊地瞬, 猪股浩平, 内藤翔司, 田中栞, 横井秀格：専攻医が耳鼻咽喉科頭頸部外科の専門領域を決定する際の因子についての検討。第63回日本鼻科学会総会・学術講演会。東京。2024年9月。
20. 齋藤康一郎：耳鼻咽喉科医の診る咽頭違和感と慢性咳嗽。第26回日本咳嗽学会学術講演会。金沢市。2024年9月。
21. 齋藤康一郎：当院における音声障害に対する治療方針up-to-date。第22回音声・嚥下・呼吸の座談会。オンライン。2024年9月。
22. 村上諄, 増田正次, 濱之上泰裕, 齋藤伸夫, 坂本龍太郎, 松田雄大, 小野修平, 尾川昌孝, 木村泰彰, 阿部陽夏, 齋藤智弘, 深山善子, 守田雅弘, 齋藤康一郎：音響耳管法が有する器質的通過性の評価能についての検討。第34回日本耳科学会総会・学術講演会。名古屋市。2024年10月。
23. 竹江咲紀, 増田正次, 村上諄, 濱之上泰裕, 齋藤伸夫, 坂本龍太郎, 阿部陽夏, 齋藤智弘, 牧野元紀, 深山善子, 齋藤康一郎：耳管機能検査装置を用いたバルサルバ法の定量性と判定不能耳に対する評価法の検討。第34回日本耳科学会総会・学術講演会。名古屋市。2024年10月。
24. 牧野元紀, 濱之上泰裕, 増田正次, 齋藤伸夫, 村上諄, 竹江咲紀, 齋藤康一郎：急性乳様突起炎ではなく実際は自己免疫性好中球減少症を伴う外耳炎後耳周囲膿瘍であった症例。第34回日本耳科学会総会・学術講演会。名古屋市。2024年10月。
25. 伊豆原久枝, 宮本真, 直井友樹, 齋藤康一郎：特発性声門下狭窄の妊婦に対しグリーンレーザー焼灼とトリウムシノロンアセトニド局注が有効だった1例。第75回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会。仙台市。2024年10月。
26. 間藤翔悟, 石毛美代子, 直井友樹, 小黒亮史, 中川秀樹, 齋藤康一郎：薬物療法が無効であった難治性の喉頭肉芽腫に対する音声治療の効果。第69回日本音声言語医学会総会・学術講演会。東京。2024年10月。
27. 増田正次：難聴と認知症。ケアネット・新川中原学習会。三鷹市。2024年11月。
28. Saito K: Relatively Advanced RRP could be Managed By Office-Based Surgical Procedures Under Precise Mapping of The Disease. 36th International Papillomavirus Conference 2024. Scotland. November 2024.
29. 池田哲也, 里見貴史, 手塚里奈, 三木貴仁, 齋藤康一郎：薬剤関連顎骨壊死(MRONJ)に対して外科的治療を行った症例の生命予後について。第69回日本口腔外科学会総会・学術大会。横浜市。2024年11月。
30. 増田正次：難聴と認知症。令和6年度三鷹市傾聴ボランティア第2回スキルアップ研修会。三鷹市。2024年12月。
31. 池田哲也：口腔内環境と健康長寿。口腔内環境の評価方法について。第58回日本成人病学会学術集会。東京。2025年1月。
32. 佐藤大, 齋藤康一郎：舌喉頭全摘術後に常食摂取が可能となった1症例。第34回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会。東京。2025年1月。
33. 雪野広樹, 唐帆健浩, 佐藤大, 齋藤康一郎：耳下腺分泌がんに対してエヌトレクチニブ投与中急激な病態進行を来した1例。第34回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会。東京。2025年1月。
34. 池田哲也：歯の喪失はフレイル・サルコペニアの入り口！～周術期だけでなく普段から口腔管理を～。第40回日本栄養治療学会学術講演会。横浜。2025年2月。
35. 池田哲也：歯の欠失はフレイルの入口～全身状態を表す口の中～。東京。2025年2月。

36. 菊地瞬：鼻副鼻腔疾患の治療。第13回北多摩西部耳鼻咽喉科医会勉強会。東京。2025年2月。
37. 池田哲也：『歯科医院経営にもプラスに作用！？骨代謝抑制剤を投与されている骨粗鬆症患者さんへの正しい歯科的な対応』。骨粗鬆症診療を考える会。オンライン。2025年2月。
38. Ikeda T: An Innovative Oral Management Procedure to Reduce Postoperative Complications. The 38th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association – Japan Chapter. USA. February. 2025.
39. 小黒亮史，篠田有美恵，田中栞，直井友樹，間藤翔悟，中川秀樹，齋藤康一郎：当院での喉頭乳頭腫に対する治療戦略－Office-based surgeryを中心に－。第37回日本喉頭科学会総会・学術講演会。福島市。2025年3月。
40. 池田哲也：医院経営に直接影響！する？～かかりつけの患者さんがもしも手術を受けることになったら～。令和6年度東京都周術期口腔ケア導入推進事業 第2回導入コース研修。オンライン。2025年3月。
41. 池田哲也，里見貴史，手塚里奈，三木貴仁，齋藤康一郎：抗血栓療法を受けている患者の抜歯後出血の検討～抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン2020年版をふまえて～。第34回有病者歯科医療学会学術大会。東京。オンライン。2025年3月。
42. 菊地瞬：好酸球性副鼻腔炎における地域連携の大切さ。上気道・下気道疾患の病診連携を考える会。オンライン。2025年3月。

論文

1. 伊豆原久枝，宮本真，齋藤康一郎：声門後部癒着症の再癒着に対し，外来レーザー治療が奏功した一例。喉頭。36巻1号。48-52。2024。
2. 宮本真，齋藤康一郎，中川秀樹：新生児，乳児における嘔声症例の検討。音声言語医学。65巻3号。123-128。2024。
3. 齋藤康一郎：【外来ではじめよう！音声・発話・嚥下のトレーニング】トレーニングをはじめるための基礎知識 加齢による音声・構音の変化。JHONS。40巻11号。1351-1353。2024。
4. 濱之上泰裕，増田正次：【てこずった症例・難治症例にどう対応するか】耳領域 急性乳様突起炎との鑑別が困難であった自己免疫性好中球減少症を伴う外耳炎の1症例。JOHNS。40巻9号。924-926。2024。
5. 菊地瞬：【内視鏡下鼻副鼻腔手術－基本とコツで上手くなる】内視鏡の使い分け，画面の取り方。耳喉頭。96巻13号。1095-1098。2024。
6. 菊地瞬：【TEES】TEESを学ぶ 内視鏡操作の基本と応用 ESSから学ぶ。JOHNS。40巻12号。1472-1474。2024。
7. 池田哲也，横井秀格：鼻科診療の論点－異なる立場の対話とディベーター異なる診療科の立場から 歯性上顎洞炎の対応 歯科医の立場から。JOHNS。41巻2号。159-164。2024。
8. 常泉美佳，菊地瞬，森恵莉，小島博己，鴻信義：急性浸潤性副鼻腔真菌症から内頸動脈浸潤に至り適切な手術療法を選択できた1例。耳鼻咽喉科展望。67巻4号。205-210。2024。
9. 齋藤康一郎：【顕微鏡下喉頭微細手術】マイクロフラップ法 声帯結節・ポリープ様声帯・声帯ポリープ。耳喉頭。97巻1号。12-17。2025。
10. 宮本真，齋藤康一郎，中川秀樹：小児喉頭における披裂喉頭蓋ヒダの長さに関する検討。喉頭。36巻2号。182-185。2024。
11. 宮本真，奥羽讓，齋藤康一郎：小児患者における抜管後の喉頭内視鏡所見についての検討。小児耳鼻咽喉科。45巻2号。139-144。2024。
12. 山寄茉理子，山口恵吾，宋吉和，西尾南紗，雪本めぐみ，小林千絵，松島実穂，田嶋敦，谷垣伸治，小林陽一，宮本真，齋藤康一郎：妊娠中に呼吸器症状の増悪を認めた特発性声門下狭窄に対して内視鏡治療を施行した1例。東京産婦人科学会誌。73巻4号。860-865。2024。
13. 宮本真，奥羽讓，齋藤康一郎，中川秀樹：当科小児気道外来における喉頭軟弱症例の検討 疫学と，特にΩ型喉頭蓋との関係について。日本気管食道学会会報。75巻3号。211-216。2024。

著書

1. 齋藤康一郎（分担執筆）：内視鏡感染防御。耳鼻咽喉科医のための診療ガイドライン 活用マニュアル。大森孝一，丹生健一，柿木章伸 編集。中山書店。2024。317-320。
2. 齋藤康一郎（分担執筆）：喉頭ストロボスコーピー。新編 声の検査法。日本音声言語医学会 編集。医歯薬出版。2024。96-104。
3. 齋藤康一郎（分担執筆）：咽頭・扁桃炎，急性喉頭蓋炎。感染症 最新治療。舘田一博，大毛宏喜，石井誠 編集。南江堂。2024。2025-2027。
4. 齋藤康一郎（分担執筆）：構音・言語障害。今日の治療指針 2025年版。福井次矢，高木誠，小室一成 編集。医学書院。2024。1587-1589。
5. 齋藤康一郎（分担執筆）：気道・食道異物。今日の診断指針 第9版。永井良三 編集。医学書院。2024。1620-1622。
6. 池田哲也（分担執筆）：抜歯後の併発症を回避するための秘策。続・日常臨床のレベルアップ&ヒント 67選。北村和夫 編集。デンタルダイヤモンド社。2024。184-188。
7. 池田哲也：Dd診断力ですと 口腔内全域に認められた難治性の粘膜炎。デンタルダイヤモンド2024年6月号。デンタルダイヤモンド社。2024。15-16。

産科婦人科学教室

講演

1. 森定徹：生涯研修プログラム「CINの管理」CINの最適な管理法とは。第76回日本産科婦人科学会学術講演会。東京。2024年4月。
2. 森定徹：子宮頸がん検診・HPVワクチン普及推進委員会企画～どうなる？日本の子宮頸がん検診～HPV検査単独法による子宮頸がん検診の導入について～現状と課題～。第76回日本産科婦人科学会学術講演会。東京。2024年4月。
3. 森定徹：産婦人科診療ガイドライン 2023解説講習会（婦人科外来編）。第76回日本産科婦人科学会学術講演会。東京。2024年4月。
4. 大坪翔，澁谷裕美，三ツ矢紫音，島田智子，渡邊百恵，百村麻衣，松本浩範，森定徹，小林陽一：当院における進行・再発子宮体癌に対するレンパチニブ＋ペムプロリズマブ併用療法の使用経験と有害事象に関する検討。第76回日本産科婦人科学会学術講演会。東京。2024年4月。
5. 田嶋敦，竹森聖，石川美佳，西尾南紗，宋吉和，山

- 口恵吾, 小林千絵, 松島実穂, 谷垣伸治, 小林陽一: 当院におけるPGT-A後妊娠の周産期合併症についての検討. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京. 2024年4月.
6. 石川美佳, 谷垣伸治, 浅井和貴, 小島康嗣, 高屋敷瑞穂, 谷川珠美子, 竹森聖, 戸田友美, 小林千絵, 松島実穂, 田嶋敦, 小林陽一: どのような子宮筋腫を妊娠前に介入するべきか?~筋腫合併妊娠の後方視的検討~. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京. 2024年4月.
 7. 高屋敷瑞穂, 谷垣伸治, 小島康嗣, 浅井和貴, 石川美佳, 谷川珠美子, 雪本めぐみ, 戸田友美, 小林千絵, 松島実穂, 田嶋敦, 小林陽一: 当院におけるSLE合併妊娠の周産期予後の検討. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京. 2024年4月.
 8. 山口恵吾, 松島実穂, 徳丸友美, 宋吉和, 西尾南沙, 雪本めぐみ, 小林千絵, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: 一卵性二絨毛膜二羊膜双胎における臨床的検討. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京. 2024年4月.
 9. 渡邊百恵, 森定徹, 澁谷裕美, 大坪翔, 三ツ矢紫音, 島田智子, 百村麻衣, 松本浩範, 谷垣伸治, 小林陽一: 当院における卵巣癌・卵管癌・腹腔癌に対するHRD検査施行症例の検討. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京. 2024年4月.
 10. 小島康嗣, 谷垣伸治, 山口恵吾, 三ツ矢紫音, 島田智子, 高屋敷瑞穂, 佐藤泰紀, 田嶋敦, 小林陽一: VR教材を用いた鉗子分娩の手法獲得への取り組み. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京. 2024年4月.
 11. 澁谷裕美, 渡邊百恵, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 当院における早期子宮体癌に対する低侵襲手術についての後方視的検討. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京. 2024年4月.
 12. 浅野史男, 百村麻衣, 須田綾子, 春名佑美, 茂木紀子, 澁谷裕美, 松本浩範, 森定徹, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一: CA125はプラチナ感受性再発卵巣癌における維持療法の選択に有用か?. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京. 2024年4月.
 13. 阪口響子, 松本浩範, 金村彰香, 内海裕太郎, 尾坂真, 對馬可菜, 渡邊百恵, 澁谷裕美, 百村麻衣, 森定徹, 谷垣伸治, 小林陽一: 高齢者子宮頸がんにおける放射線治療についての検討. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京. 2024年4月.
 14. Tanigaki S, Kobayashi C, Sou Y, Ishikawa M, Takayashiki M, Nishio N, Tanikawa S, Yukimoto M, Toda Y, Matsushima M, Tajima A, Kobayashi Y: The significance of foster care and adoption in preconception care (PCC). The 28th AFOG. Korea. May. 2024.
 15. 谷垣伸治: 産婦人科診療ガイドライン産科編2023, 気になる新しい記載とその利用. 埼玉県産婦人科医会西ブロック【学術講演会】. オンライン. 2024年5月.
 16. 小林陽一: 更年期をうまく乗り切るには~先ずは知ることから始めましょう~. 東村山市市民講座. 東村山市. 2024年5月.
 17. 山崎茉莉子, 山口恵吾, 宋吉和, 西尾南沙, 雪本めぐみ, 小林千絵, 松島実穂, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一, 宮本真, 齋藤康一郎: 妊娠中に増悪した特発性声門下狭窄に対して内視鏡レーザー焼灼術及びステロイド局注両方を施行した1例. 第409回東京産科婦人科学会. 東京. 2024年5月.
 18. 谷垣伸治: 産科無二の機能温存手術~帝王切開における縫合と癒着の新見地~. 第40回日本産婦人科感染症学会学術集会. 東京. 2024年5月.
 19. 佐々木美緒, 竹脇史絵, 恩田智子, 久場起志, 七条裕孝, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 島田智子, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一, 安田和基: 妊娠早期に診断された妊娠糖尿病(GDM)の特徴と妊娠分娩転帰についての検討. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京. 2024年5月.
 20. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 浅野史男, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: CTガイド下生検がmy Choice TM診断システム結果に寄与した腹膜癌の1例. 第30回日本遺伝性腫瘍学会. 仙台. 2024年5月.
 21. 浅野史男, 百村麻衣, 森定徹, 林玲匡, 田邊一成, 市川美雄, 大河戸光章, 藤原正親, 柴原純二, 小林陽一: HPV関連原発不明癌の1例. 第65回日本臨床細胞学会春期大会. 大阪. 2024年6月.
 22. 鈴木瞳, 岸本浩次, 田邊一成, 野口由香, 内海凌, 坂口碧, 長濱清隆, 百村麻衣, 小林陽一, 柴原純二: 尿細胞診に異型細胞が出現した子宮頸部胃型HPV非依存性腺癌の2例. 第65回日本臨床細胞学会春期大会. 大阪. 2024年6月.
 23. 森定徹, 寺本勝寛, 端晶彦, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: HPV検査を用いた子宮頸がん検診を検証するCITRUSスタディの最終報告. 第65回日本臨床細胞学会春期大会. 大阪. 2024年6月.
 24. 小林陽一: 「子宮体がん治療ガイドライン2023年度版」を読む. WCAMワークショップ. オンライン. 2024年6月.
 25. 石原瑠子, 宋吉和, 井上美帆, 山口恵吾, 西尾南沙, 雪本めぐみ, 小林千絵, 松島実穂, 田嶋敦, 山下博, 谷垣伸治, 小林陽一: 二絨毛膜二羊膜双胎一児子宮内胎児死亡例にPRESを呈した一例. 第147回関東連合産科婦人科学会学術集会. 東京. 2024年6月.
 26. 三浦めぐみ, 渡邊百恵, 大坪翔, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 再発子宮体癌に対しレンパチニブ・ペムブロリズマブ併用療法中にirAE脳炎を来した1例. 第147回関東連合産科婦人科学会学術集会. 東京. 2024年6月.
 27. 小林陽一: 子宮体がん治療ガイドライン2023年度版改定のポイント. 第147回関東連合産科婦人科学会学術集会. 東京. 2024年6月.
 28. 高屋敷瑞穂, 田嶋敦, 秋吉真理子, 菅原由貴, 小島康嗣, 浅井和貴, 石川美佳, 谷川珠美子, 戸田友美, 谷垣伸治, 小林陽一: 妊娠23週での子宮内胎児死亡に対し、嵌頓子宮を非観血的整復して経産分娩に至った1例. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会. 横浜. 2024年7月.
 29. 石川美佳, 田嶋敦, 高屋敷瑞穂, 戸田友美, 小林千絵, 松島実穂, 谷垣伸治, 小林陽一: 妊娠中に肺動脈性肺高血圧症を発症した2例. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪. 2024年7月.
 30. Tanigaki S: Strategy and Clinical Evidence in Adhesion Prevention for Obstetrics Surgery part-1 Tops. Baxter Isea (India & Southeast Asia) regional hemostasis workshop in obstetrics and gynecology surgery. Malaysia. June. 2024.
 31. Tanigaki S: Strategy and Clinical Evidence in Adhesion Prevention for Obstetrics Surgery part-2 Tops. Baxter Isea (India & Southeast Asia) regional hemostasis workshop in obstetrics and gynecology surgery. Malaysia. June. 2024.
 32. Tanigaki S: Strategy and Clinical Evidence in Adhesion Prevention for Obstetrics Surgery.

- Baxter Isea (India & Southeast Asia) regional hemostasis workshop in obstetrics and gynecology surgery. Malaysia. June. 2024.
33. 谷垣伸治, 小林千絵, 宋吉和, 島田智子, 小林陽一, 杉本公平, 白石絵莉子, 白井千晶, 前沢忠志, 森洋文, 鈴木直: プレコンセプションケアにおける里親・養子縁組制度. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪. 2024年7月.
 34. 谷垣伸治: 専門医試験について. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪. 2024年7月.
 35. 森定徹: 教育プログラム, トピックス「HPV検査の導入を想定したわが国の子宮頸がん検診について」. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 鹿児島. 2024年7月.
 36. 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔: HPV検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか?, HPV検査を子宮頸がん検診に組込む際の検査判定施設の充足状況. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 鹿児島. 2024年7月.
 37. 渡邊百恵: 進行膀胱癌に対する化学療法後に子宮頸部胃型腺癌の膀胱転移と診断された1例. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 鹿児島. 2024年7月.
 38. 浅井和貴, 松本浩範, 森定徹, 阪口響子, 島田智子, 尾坂真, 澁谷裕美, 百村麻衣, 小林陽一: 当院における子宮体部癌育肉腫の臨床病理学的検討. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 鹿児島. 2024年7月.
 39. 浅野史男, 百村麻衣, 長濱清隆, 澁谷裕美, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 宮内膜巨細胞癌の2例. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 鹿児島. 2024年7月.
 40. 鈴木史郎, 宇佐美知香, 竹原和宏, 渡利英道, 西尾真, 馬場長, 西尾浩, 平良祐介, 小林陽一, 上浦洋司, 園田顕三, 堀江弘二, 加藤眞吾, 丸子武史, 山本景子, 井上耕平, Yamada K, Lorusso D, 長谷川幸清: 高リスク局所進行子宮頸がん患者を対象としたKEYNOTE-A18の日本人部分集団解析. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 鹿児島. 2024年7月.
 41. 森定徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: 指針に基づくHPV検査単独法の導入までの経緯とその実施要件. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 鹿児島. 2024年7月.
 42. 谷垣伸治: 妊娠における生理的変化と検査値異常について. 第9回内科プロバイダーコースbasic. オンライン. 2024年7月.
 43. 宋吉和, 田嶋敦, 山口恵吾, 西尾南紗, 雪本めぐみ, 小林千絵, 松島実穂, 谷垣伸治, 小林陽一: 高CK血症, 低IgG血症を認め周産期心筋症を発症した筋強直性ジストロフィー合併妊娠の1例: 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪. 2024年7月.
 44. 菊地茉莉, 谷垣伸治, 小林千絵, 松島実穂, 田嶋敦, 大荷満生, 小倉航, 滝智彦, 大西宏明, 市川弥生子: 臨床的に診断・治療されていた家族性高コレステロール血症例へのプレコンセプションケア. 第48回日本遺伝カウンセリング学会学術集会. 東京. 2024年8月.
 45. 小林陽一, 石田愛美, 渡邊百恵, 浅野史男, 百村麻衣, 森定徹 (優秀演題賞ノミネート講演): 子宮内膜由来の培養細胞に対する通導散の効果. 第43回産婦人科漢方研究会. 福岡. 2024年9月.
 46. Sakaguchi K, Tanigaki S, Kobayashi C, Shimada T, So Y, Ishikawa M, Tanikawa S, Yukimoto M, Matsushima M, Tashima A, Kobayashi Y: Preconception Care Outpatient at Our Hospital. The 23rd FAOPS. Korea. September. 2024.
 47. 金城真美, 丹波光子, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一, 福原浩: 絆で治して魅せる～女性における手術合併症としての排尿障害～婦人科術後の排尿トラブル～子宮全摘後～. 第31回日本排尿機能障害学会. 郡山. 2024年9月.
 48. 造賀浩美, 山口恵吾, 森定徹, 岩佐美歩, 木内健士郎, 宋吉和, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一: 子宮頸がん加療中に急性巣状細菌性腎炎を来した2例. 第410回東京産科婦人科学会. 東京. 2024年9月.
 49. 小林陽一: 子宮体がん治療ガイドライン2023解説. 雲南省医学会第14回産婦人科分会. 中華人民共和国. 2024年9月.
 50. 森定徹: Sentinel lymph node navigation surgery for gynecological cancer /Cervical cancer screening in Japan. 雲南省医学会第14回産婦人科分会. 中華人民共和国. 2024年9月.
 51. Tajima A, Takayashiki M, Tanigaki S, Kobayashi Y: A case of gastroschisis with reversible reversed flow of umbilical artery, thought to be due to compression of the umbilical cord. The 34th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology. Hungary. September 2024.
 52. Takayashiki M, Tajima A, Tanigaki S, Kobayashi Y: Devices for Assessing the Correctness of Preoperative Diagnosis in Vasa previa. The 34th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology. Hungary. September 2024.
 53. 森定徹: 各領域のトピックス, わが国の子宮頸がん検診の状況と現在の課題. 第32回日本がん検診・診断学会. 東京. 2024年9月.
 54. 岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違い克服へ, 職域検診用精度管理項目とチェックリストの作成. 第32回日本がん検診・診断学会. 東京. 2024年9月.
 55. Tanigaki S, Kobayashi C, Sakaguchi K, Kikuchi M, Yanagida C, Murata A, Sudou E, Ishikawa M, Aasano F, Matsushima M, Tajima A, Ichikawa Y, Kobayashi Y: Preconception care Knowing yourself is the first care in perinatal yourself. 日本人類遺伝学会第69回大会. 札幌. 2024年10月.
 56. 三ツ矢紫音, 三沢昭彦, 井上美帆, 尾坂真, 佐藤泰紀, 長内喜代乃, 岩本香保理, 小林陽一, 鈴木淳: 審査腹腔鏡が診断・治療に寄与した卵巣原発悪性リンパ腫の1例. JSAWI 2024. 淡路. 2024年10月.
 57. 崎亜嵯子, 澁谷裕美, 大坪翔, 渡邊百恵, 松本浩範, 百村麻衣, 森定徹, 北濱圭一郎, 長濱清隆, 柴原純二, 小林陽一: 子宮体癌との鑑別が困難であった交換膜を原発とする腹膜癌の1例. JSAWI 2024. 淡路. 2024年10月.
 58. 森定徹, 寺本勝寛, 端晶彦, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: HPV検診を検証するRCTにおけるHPV陽性・細胞診陰性例について. 第33回日本婦人科がん検診学会学術講演会. 弘前. 2024年10月.
 59. 穂積史也, 島田智子, 田嶋敦, 造賀浩美, 縣博也, 阪口響子, 石川美佳, 戸田由美, 松島実穂, 谷垣伸治, 小林陽一: 診断後の妊娠経過により異なる分娩方法に至った前置血管の2例. 第148回関東連合産科婦人科学会学術集会. 松本. 2024年10月.
 60. 高橋堯, 浅野史男, 百村麻衣, 数藤衣里加, 崎亜嵯

- 子, 浅井和貴, 山口恵吾, 大坪翔, 澁谷裕美, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一 (優秀演題賞候補): 婦人科がんにおける **Oncologic emergency** の検討. 第148回関東連合産科婦人科学会学術集会. 松本. 2024年10月.
61. 田嶋敦, 菊地茉莉, 松島実穂, 滝智彦, 大西宏明, 市川弥生子, 谷垣伸治, 小林陽一: **A case of Emanuel syndrome diagnosed prenatally following NIPT at a non-certified facility.** 日本人類遺伝学会第69回大会. 札幌. 2024年10月.
 62. 谷垣伸治: **プレコンセプションケアとは.** 東京産婦人科医会, 保険者機能を推進する会女性の健康研究会共催プレコンセプションケアセミナー. 東京. 2024年11月.
 63. 栗林加奈子, 谷垣伸治, 細井健一郎, 阪口響子, 高屋敷瑞穂, 小林千絵, 田嶋敦, 成田雅美, 小林陽一: **サイトメガロウイルスの経母乳感染予防のためのプロトコール作成からみえた課題.** 第17回日本早産学会学術集会. 倉敷. 2024年11月.
 64. 伊藤路奈, 春名佑美, 小島康嗣, 谷川珠美子, 小林千絵, 西ヶ谷順子, 柳本茂久, 森定徹, 小林陽一: **知的障害のある思春期女性の月経異常に行政介入が必要であった一例.** 第39回日本女性医学学会学術集会. 宇都宮. 2024年11月.
 65. 小島康嗣, 小林千絵, 谷川珠美子, 春名佑美, 伊藤路奈, 西ヶ谷順子, 柳本茂久, 森定徹, 小林陽一: **当院の女性ヘルスケア専門外来における, がんサバイバーに対する骨粗鬆症予防への取り組み.** 第39回日本女性医学学会学術集会. 宇都宮. 2024年11月.
 66. 森定徹, 小島康嗣, 谷川珠美子, 春名佑美, 小林千絵, 伊藤路奈, 西ヶ谷順子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 柳本茂久, 小林陽一: **当院における子宮筋腫に対する術前のレルゴリクス投与症例の検討.** 第39回日本女性医学学会学術集会. 宇都宮. 2024年11月.
 67. 谷川珠美子, 石川美佳, 雪本めぐみ, 片山紗弥, 池田紗耶佳, 橋本志歩, 松島実穂, 安藤索, 谷垣伸治, 小林陽一: **若年性子宮体癌に対しART導入に難渋し再発を繰り返したが妊娠に至った1例.** 第69回生殖医学会学術講演会. 名古屋. 2024年11月.
 68. 敷藤衣里加, 谷垣伸治, 小林千絵, 小林陽一: **当院におけるプレコンセプションケア外来.** 第53回杏林医学会. 三鷹. 2024年11月.
 69. 森定徹: **細胞診専門医セミナー, 子宮頸がん検診プログラムの精度管理における精密検査のあり方, 婦人科医の立場から.** 第63回日本臨床細胞学会秋期大会. 幕張. 2024年11月.
 70. 森定徹: **精度管理アドバイザー講習会, HPV検査単独法の検診プログラムの精度管理について.** 第63回日本臨床細胞学会秋期大会. 幕張. 2024年11月.
 71. 森定徹, 寺本勝寛, 端晶彦, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: **HPV検査単独法におけるHPV陽性者のトリアージとしての細胞診.** 第63回日本臨床細胞学会秋期大会. 幕張. 2024年11月.
 72. 宮川由佳, 浅野史男, 百村麻衣, 菅野瞳, 田邊一成, 柴山隆宏, 長濱清隆, 森定徹, 柴原純一, 小林陽一: **卵巣悪性プレナー腫瘍の1例.** 第63回日本臨床細胞学会秋期大会. 2024年11月.
 73. 谷垣伸治: **東京都の妊産婦重症例.** 第17回京都産婦人科救急診療研究会. 京都. 2024年11月.
 74. 尾坂真, 江上由里香, 野口翠, 村田英一郎, 森定徹, 小林陽一, 鈴木淳: **婦人科腫瘍との鑑別に捺印細胞診が一助となったMSRCTの1例.** 第63回日本臨床細胞学会秋期大会. 2024年11月.
 75. 谷垣伸治: **助産師の行う超音波検査.** 東京母性衛生学会チーム医療推進助産師研修. 東京. 2024年11月.
 76. 菊地茉莉, 大塚弘毅, 森定徹, 百村麻衣, 田嶋敦, 小倉航, 柳田千佳子, 村田彩音, 市川弥生子, 滝智彦, 小林陽一, 大西宏明: **当院における進行卵巣癌症例における遺伝子異常とゲノム医療ーがんゲノムプロファイリング (CGP) 検査症例の経験からー.** 第71回日本臨床検査医学会学術集会. 大阪. 2024年11月.
 77. Kobayashi Y: **Biomarkers and personalized treatment approaches in ovarian cancer: HRD and beyond.** ASGO 2024. Indonesia. November. 2024.
 78. Morisada T, Asano F, Osaka M, Watanabe M, Tajima A, Tanigaki S, Kobayashi Y: **Analysis of antitumor effects of metformin on cell line of ovarian clear cell carcinoma.** ASGO 2024. Indonesia. November. 2024.
 79. Asano F, Momomura M, Shibuya H, Matsumoto H, Morisada T, Kobayashi Y: **HPV-related squamous cell carcinoma of unknown primary: A case report.** ASGO 2024. Indonesia. November. 2024.
 80. Saika A, Saitoh E, Morisada T, Aoki D: **Development of Manual for the Management of HPV Primary Screening in Japan.** ASGO 2024. Indonesia. November. 2024.
 81. 谷垣伸治, 古庄知己, 浅野史男, 石川美佳, 雪本めぐみ, 北村亜也, 小林千絵, 田嶋敦, 小林陽一: **セリプロロール漸増投与は血管型エーラス・ダンロス症候群の周産期管理に未来を拓く (JEFA賞受賞).** 第5回エーラス・ダンロス症候群研究会. オンライン. 2024年11月.
 82. 森定徹: **HPV検査単独法による子宮頸がん検診について.** 第32回埼玉県子宮がん検診セミナー. さいたま. 2024年12月.
 83. 宮川由佳, 谷垣伸治, 戸田友美, 北村亜也, 小林千絵, 松島実穂, 田嶋敦, 小林陽一: **当院における卵子提供妊娠から見た課題.** 第411回東京産科婦人科学会例会並びに第48回東京産婦人科医会との合同研修会. 東京. 2024年12月.
 84. 谷垣伸治: **これからの産科診療ー母子免疫とプレ&インターコンセプションケア.** 第35回横浜市西部地域産婦人科研究会. 横浜. 2024年12月.
 85. 谷垣伸治: **母子免疫の実際ーアプリスボから広がる赤ちゃんの健康ー.** 日本周産期・新生児医学会第43回周産期シンポジウム. 東京. 2025年1月.
 86. 森定徹: **HPV検査の導入を見据えた子宮頸がん検診. 熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会子宮がん検診従事者講習会.** 熊本. 2025年1月.
 87. 渡邊百恵, 小林陽一, 石田愛美, 浅野史男, 澁谷裕美, 百村麻衣, 森定徹: **通導散は子宮内膜症由来の培養細胞における活性酸素の発生を抑制する.** 第46回日本エンドメトリオーシス学会. 大津. 2025年1月.
 88. 森定徹: **HPV検査単独法による子宮頸がん検診について.** 志木市健康づくり市民公開講座. 志木. 2025年2月.
 89. 森定徹: **子宮頸がん検診HPV検査単独法の検討とその課題.** 山梨県子宮がん検診従事者講習会. 甲府. 2025年2月.
 90. 小林陽一: **HPVワクチンの現状と今後の展望.** 第3回産婦人科医のためのワクチン講習会. 福井. 2025年2月.

91. 森定徹：わが国におけるHPV検査単独法による子宮頸がん検診．鳥取県令和6年度子宮がん検診従事者講習会．倉吉．2025年2月．
92. 浅井和貴，浅野史男，百村麻衣，三浦めぐみ，高橋堇，澁谷裕美，松本浩範，森定徹，谷垣伸治，小林陽一：高齢者におけるプラチナ製剤感受性再発卵巣癌患者に対するオラパリブの使用経験．第412回東京産科婦人科学会．東京．2025年2月．
93. 谷垣伸治：リエゾンのための新PEACE登録・使用マニュアル．令和6年度第3回災害時小児周産期リエゾン技能維持研修プログラム．東京．2025年2月．
94. 小林陽一：婦人科がんにおける腫瘍循環器学の重要性．日中婦人科学術ライブ講義．オンライン．2025年3月．

論文

1. Seino M, Nagase S, Tokunaga H, Yamagami W, Kobayashi Y, Tabata T, Kaneuchi M, Hirashima Y, Niikura H, Yoshino K, Takehara K, Baba T, Katabuchi H, Mikami M: Japan society of Gynecologic Oncology 2022 guidelines for uterine cervical neoplasm treatment. *J Gynecol Oncol* 2024 ; 35(1):e15. doi:10.3802/jgo.2024.35.e15
2. Nagaoka K, Suemitsu T, Kawai K, Suzuki T, Mori T, Tajima A, Suzuki M, Ohara M: Gitelman syndrome and in vitro fertilization-embryo transfer: advancing preconception care in nephrology. *CEN Case Rep*. 2024;13(6):484-488. doi: 10.1007/s13730-024-00872-4.
3. 谷垣伸治，菊地茉莉，石川美佳，雪本めぐみ，松島実穂，田嶋敦，小林陽一：染色体異常／形態異常妊娠・分娩の既往のある女性の妊娠．*周産期医*．2024；54(4)：413-417.
4. 森定徹：【子宮頸がん撲滅へ向けた戦略-ワクチンと検診の新たなトレンドは?】子宮頸がん検診，子宮頸がん検診の現状と今後の方向性．*臨床婦産*．2024；78(6)：539-544．DOI:10.11477/mf.1409211280.2024.6.
5. Nishio E, Ishitani K, Arimoto T, Igarashi T, Ishikawa T, Iwase A, Ogawa M, Ozawa N, Kajiyama H, Kawasaki K, Kudo R, Kumakiri J, Komura H, Komai K, Sato S, Shinohara K, Takahashi T, Tanaka K, Tanebe K, Deguchi M, Tozawa-Ono A, Nakashima A, Nakatsuka M, Hayakawa S, Hirata T, Fukuhara R, Miyakuni Y, Miyazaki H, Morisada T, Kuwabara Y, Takenaka M, Shozu M, Sugiura-Ogasawara M, Maeda T, Yokoyama Y, Fujii T: Guideline for gynecological practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2023 edition. *J Obstet Gynaecol Res*. 2024 ;50(7):1073-1094. doi: 10.1111/jog.15950.
6. Kadooka M, Suemitsu T, Ashimoto K, Takesawa A, Matsui H, Otsuka I, Tajima A: Validation of the IOTA ADNEX Model Among Japanese Women Performed by Gynecology Trainees and Ultrasound Specialists: A Retrospective Diagnostic Accuracy Study. *J Ultrasound Med*. 2024;43(10):1857-1868. doi: 10.1002/jum.16517.
7. 小林陽一：遺伝性卵巣がんの診断と治療．*杏林医会誌*．2024；55(1)：25-27.
8. 柿崎未萌，西尾南紗，徳丸友美，山口恵吾，宋吉和，雪本めぐみ，小林千絵，松島実穂，田嶋敦，谷垣伸治，小林陽一：妊娠中に頭痛と頻回の嘔吐を認め、海綿状血管奇形と診断された1例．*東京産婦会誌*．2024；73(2)：246-250.
9. 岩佐美歩，石川美佳，高屋敷瑞穂，谷川珠美子，竹森聖，戸田友美，小林千絵，松島実穂，田嶋敦，谷垣伸治，小林陽一：コロナ禍により診断と治療開始までに時間を要し，急激に敗血症性ショックに至った妊婦の1例．*東京産婦会誌*．2024；73(2)：325-330.
10. 堂園溪，菊池友明，久保谷託也，東眞，酒井謙，小山典宏，小林陽一：腹腔鏡手術中に偶然発見された高分化乳頭状中皮腫（WDPMT）の1例．*産婦実際*．2024；73(6)：631-635.
11. 秋吉真理子，澁谷裕美，大坪翔，三ツ矢紫音，島田智子，渡邊百恵，百村麻衣，松本浩範，森定徹，小林陽一，長濱清隆，柴原純二：DOAC内服中に多発脳梗塞を発症し，Trousseau症候群と診断された子宮体癌の1例．*東京産婦会誌*．2024；73(3)：506-511.
12. 御影杏菜，竹森聖，谷垣伸治，崎亜嗟子，三ツ矢紫音，西尾南沙，藤麻真理子，佐藤泰紀，北村亜也，松島実穂，田嶋敦，小林陽一：死胎児症候群に対し抗DIC療法を含む集学的治療により生児を得た二絨毛膜二羊膜双胎の1例．*東京産婦会誌*．2024；73(3)：550-554.
13. Asano F, Morisada T, Momomura M, Shibuya H, Matsumoto H, Kobayashi Y: Prognostic factors in uterine sarcoma based on the tumor size stratification: A retrospective study. *Cureus*. 16(7). e65819. DOI 10.7759/cureus.65819.
14. Kasuga Y, Tanigaki S, Seo K, Harada A, Kuwabara Y, Ishioka S, Tanaka M: Obstetric outcomes of transabdominal cerclage: A retrospective observational study in Japan. *J Obstet Gynaecol Res* 2024 ;50(10):1835-1840. doi: 10.1111/jog.16063. Epub
15. Takemori S, Morisada T, Osaka M, Watanabe M, Tajima A, Tanigaki S, Kobayashi Y: Assessing the antitumor effects of metformin on ovarian clear cell carcinoma. *Hum Cell* 2024;37(5):1462-1474. doi: 10.1007/s13577-024-01116-4. Epub
16. 宮崎典子，三沢昭彦，浅井和貴，對馬可菜，井上慶子，長内喜代乃，木村英三，小林陽一，鈴木淳：産褥期の鬱と貧血に対する人参養榮湯の治療効果の検討．*日女性医会誌*2024；31(4)：652-659.
17. Mikami M, Tanabe K, Imanichi T, Ikeda M, Hirasawa T, Yasaka M, Machida H, Yoshida H, Hasegawa M, Shimada M, Kato T, Kitamura S, Kato H, Fujii T, Kobayashi Y, Suzuki N, Tanaka K, Murakami I, Katahira T, Hayashi C, Matsuo K: Comprehensive serum glycopeptide spectral analysis to identify early-stage epithelial ovarian cancer. *Sci Rep*. 2024. ;14(1):20000. https://doi.org/10.1038/s41598-024-70228-6. 2024.
18. Hasegawa K, Takahashi S, Ushijima K, Okadome M, Yonemori K, Yokota H, Vergote I, Monk JB, Tewari KS, Fujiwara K, Li J, Jamil S, Paccaly A, Takehara K, Usami T, Aoki Y, Suzuki N, Kobayashi Y, Yoshida Y, Watari H, Seebach F, Lowy I, Mathias M, Fury GM, Oaknin A: Cemiplimab monotherapy in Japanese patients with recurrent or metastatic cervical cancer. *Cancer Med*. 2024;13(18):e70236. doi: 10.1002/cam4.70236.
19. Tanigaki S, Batra A, Chan TF, Kang JH, Lam SK, Lim TY, Mayya R, Abdul Ghani NA, Walker G: Adhesion barriers in gynecological surgeries

- and cesarean section: An Asia-Pacific expert panel consensus recommendation. *International Journal of Gynecology & Obstetrics* 2025;168(2): 436-448. doi: 10.1002/ijgo.15903. Epub
20. 谷垣伸治, 小林千絵, 阪口響子, 小林陽一: 性に関する問題 妊娠と避妊—プレコンセプションケアを含めて. *小児内科*. 2024; 56(9): 1395-1399.
 21. 小林陽一, 渡部洋: 第76回日本婦人科学会学術講演会. 革新的技術の統合がもたらす婦人科がん治療の未来. レビュー. *日産婦会誌*. 2024; 76: 901-906.
 22. Kanemura A, Morisada T, Momomura M, Asano F, Shibuya H, Matsumoto H, Nagahama K, Shibahara J, Kobayashi Y: A case of carcinosarcoma of the peritoneum with serous tubal intraepithelial carcinoma. *Case Rep Obstet Gynecol*. 2024;2024:1907965. doi: 10.1155/2024/1907965. eCollection 2024.
 23. Morisada T: Latest findings in chemotherapy. *J Obstet Gynaecol Res*. 2024;50 Suppl 1:79-83. doi: 10.1111/jog.16028.
 24. 数藤衣里加, 浅野史男, 百村麻衣, 阪口響子, 高屋敷瑞穂, 富岡紀子, 澁谷裕美, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: レンパチニブ+ペンプロリズマブ療法により完全寛解を維持している再発子宮体癌の1例. *東京産婦会誌*. 2024; 73(4): 834-840.
 25. 山寄菜理子, 山口恵吾, 宋吉和, 西尾南紗, 雪本めぐみ, 小林千絵, 松島実穂, 田嶋敦, 谷垣伸治, 小林陽一, 宮本真, 齋藤康一郎: 妊娠中に呼吸器症状の増悪を認めた特発性声門下狭窄に対して内視鏡治療を施行した1例. *東京産婦会誌*. 2024; 73(4): 860-865.
 26. 大高理生, 末光徳匡, 門岡みずほ, 三木詩織, 佐々木亜希子, 土肥聡, 田嶋敦: 出生前検査および遺伝カウンセリングに関する保健師向けセミナーについて, 教育効果と実態調査. *日本遺伝カウンセリング会誌*. 2024; 45: 281-288.
 27. 谷垣伸治, 阪口響子, 松島実穂, 田嶋敦: 母体・胎児編 超音波診断 K.母体超音波検査 緊急時のPOCUS. *周産期医*. 2024; 54増刊号: 238-242.
 28. 森定徹: CINの管理 CINの最適な管理法とは. *日産婦会誌*. 2024; 76(12): 1804-1808.
 29. 谷垣伸治: プレコンセプションケアWG活動報告. *TAOGニュース*. 2025; 1月号: 3-4.
 30. Kakuwa T, Ichinose Y, Rikitake R, Ishii T, Nagase S, Kobayashi Y, Kaneuchi M, Tokunaga H, Seino M, Kajiyama H, Takekuma M, Tabata T, Terai Y, Terao Y, Morisada T, Watari H, Yamamoto Y, Kawata A, Higashi T: Quqlity indicators for endometrial cancer care in Japan. *J Gynecol Oncol*. 2025. doi: 10.3802/jgo.2025.36.e77. Online ahead of print.
 31. Watanabe M, Kobayashi Y, Ishida M, Tajima A, Tanigaki S, Morisada T: Azurocidin is associated with dienogest-resistance in ovarian endometriotic cysts. *Reprod sci*. 2025;32(3):702-715. doi: 10.1007/s43032-025-01795-w. Epub
 32. Kobayashi Y, Asai-Sato M, Kuji S, Yamaguchi K, Suzuki N, Yoshida Y: Awareness and attitude toward cardio-oncology among Japanese gynecologic oncologists in managing patients with endometrial cancer: The Japanese Gynecologic Oncology Group (JGOG) questionnaire surveys. *J Obstet Gynaecol Res*. 2025;51(2):e16225. doi: 10.1111/jog.16225.
 33. Miyamoto M, Tajima A, Naoi T, Koshihara M, Motoyasu A: Idiopathic Subglottic Stenosis During Pregnancy: Successful Treatment With Green Laser Ablation and Steroid Injection. *Cureus*. 2025;17(2):e79788. doi: 10.7759/cureus.79788.
 34. 谷垣伸治: セリプロロール漸増投与は血管型エーラス・ダンロス症候群の周産期管理に未来を拓く. つばさ. 2025; 18: 18-19.
 35. 谷垣伸治, 高屋敷瑞穂, 小林千絵: FGR・SGA児のトピックス, 産科, 分娩中の管理. *周産期医*. 2025; 55(2): 184-187.
 36. Shibuya H, Kobayashi Y, Watanabe M, Momomura M, Matsumoto H, Morisada T: The Prognostic Value of Maximum Standardized Uptake Value (SUVmax) of 18F-FDG PET/CT for Risk Stratification and Outcome Prediction in Endometrial Cancer: A Retrospective Analysis. *Cureus*. 2025 ;17(3): e80109. doi:10.7759/cureus.80109.
 37. 森定徹, 青木大輔: 【科学的根拠に基づくがん検診 UPDATE 2025】子宮頸がん検診, 子宮頸部細胞診単独法とHPV検査単独法. *医学のあゆみ*. 2025; 292(12). 978-984.
 38. 澁谷裕美, 渡邊百恵, 大坪翔, 山口恵吾, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一: 当院における子宮内膜異型増殖症・早期子宮体癌に対するロボット支援腹腔鏡下手術についての後方視的検討 BMIによる比較検討. *杏林医会誌*. 2025; 56(1): 3-9.
- 令和5年度追加分**
1. 岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定徹, 齋藤英子: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み, 子宮頸がん検診を例に. *日本がん検診・診断学会誌*. 2024; 31(3): 35-41.
- 著書**
1. 谷垣伸治: 産科危機の出血. 専門医を目指す 周産期診療ワークブック. 日本周産期・新生児医学会, 周産期診療ワークブック作成委員会 編. メジカルビュー社. 2024. 141-146.
 2. 谷垣伸治: 弛緩出血 (IVR含む). 専門医を目指す 周産期診療ワークブック. 日本周産期・新生児医学会, 周産期診療ワークブック作成委員会 編. メジカルビュー社. 2024. 147-151.
 3. 谷垣伸治: 子宮内反. 専門医を目指す 周産期診療ワークブック. 日本周産期・新生児医学会, 周産期診療ワークブック作成委員会 編. メジカルビュー社. 2024. 152-156.
 4. 谷垣伸治: 産道損傷1) 子宮破裂. 専門医を目指す 周産期診療ワークブック. 日本周産期・新生児医学会, 周産期診療ワークブック作成委員会 編. メジカルビュー社. 2024. 157-159.
 5. 谷垣伸治: sFlt-1/PlGF比. 臨床検査ガイド. 大西宏明, Medical Practice編集委員会 編. 文光堂. 2024. 437-439.
 6. 谷垣伸治: 超音波診断. 新版 助産師業務要覧第4版 II 実践編 2025年版. 福井トシ子, 井本寛子 編. 日本看護出版協会. 2025. 262-273.
- その他**
1. 谷垣伸治: ハンズオンセミナー2. インストラクター. 日本産科婦人科学会. 2024年4月.
 2. 谷垣伸治: 杏林祭. 大塚製薬と三鷹市との合同企画.

プレコンセプションケア。2024年10月。

3. 谷垣伸治, 石川紀子: 一体験してみようー(超音波・分娩介助・機械分娩など) 助産師・若手医師を対象としたハンズオン。第65回日本母性衛生学会学術集会。宮崎。2024年10月。
4. 谷垣伸治: タスクフォース。杏林大学第34回指導医講習会。三鷹市。2024年11月, 12月。
5. 谷垣伸治: インストラクター。国立成育医療センターALSO成育コース。東京。2025年1月。
6. 谷垣伸治: さいたま市立高砂小学校第5学年理科特別授業。さいたま。2025年1月。
7. 谷垣伸治: 押上小学校第5学年理科特別授業。東京。2027年2月。
8. 谷垣伸治: インストラクター。JCIMELS。ベーシック慶應コース。東京。2025年2月。

放射線医学教室

講演

1. 横山健一: AIを用いた胸部画像診断支援の実際。第188回城西胸部画像研究会 特別講演。三鷹市。2024年4月。
2. 五明美穂, 土屋一洋, 片瀬七朗, 福島啓太, 吉岡達也, 横山健一: ASLを用いた非造影MRDSAによる富血性頭蓋内腫瘍の評価。第47回CI学会総会。長崎。2024年4月。
3. Tsuchiya K, Gomyo M, Taniguchi T: Atrophic changes of the brain in multiple sclerosis assessed by AI-based white matter lesion analysis and morphometry of MR imaging data. The 62nd Annual Meeting of the American Society of Neuroradiology. USA. May-June. 2024.
4. 宮内亮輔, 小野澤志郎, 黒木一典, 林宏隆, 関里和: A case of residual hepatic artery aneurysm embolization with a direct puncture technique and NLE. 第53回日本IVR学会総会。和歌山。2024年5月。
5. Gomyo M, Tsuchiya K: Clinical Impact of Arterial Spin Labeling-based Non-contrast MR Digital Subtraction Angiography on Cerebral Diseases. The 10th Frontiers of Neuroimaging Symposium & JKTH Meeting. Korea. June. 2024.
6. 五明美穂: 専門家でなくてもココだけは知ってほしい最近の話題: 神経領域: 第461回日本医学放射線学会関東地方会定期大会。東京。2024年6月。
7. 渡邊正中: 腎泌尿器, 後腹膜臓器。吉祥寺画像診断セミナー。東京。2024年6月。
8. 竹下祐平, 横山健一: 健康な成人男性に発症した非結核性抗酸菌感染による耳下部リンパ節炎の1例。第461回日本医学放射線学会関東地方会定期大会。東京。2024年6月。
9. 原田巽矢, 須山淳平, 高島一, 林宏享, 竹下祐平, 片瀬七朗, 横山健一: FDG-PET/CTが診断に有用であった再発性多発軟骨炎の二症例。第101回日本核医学会関東甲信越地方会。柏。2024年7月。
10. 吉村悠介, 須山淳平, 白川佑也, 宮田咲, 海老根昂平, 河田宗之, 茂手木弘美, 中西章仁: ドパミントランスポーターシンチグラフィにおける解剖学的標準化処理がSBRに与える影響。第101回日本核医学会関東甲信越地方会。柏。2024年7月。
11. 宮内亮輔, 小野澤志郎: Target Coil基本と症例を通して学ぶ有用性。第35回関東IVR研究会。東京。2024年7月。
12. 宮内亮輔, 小野澤志郎, 安達卓哉, 栗原拓哉: CTガントリのチルトによる生検針の金属アーチファクト低減とその検証実験の報告。第9回穿刺ドレナージ研究会。東京。2024年7月。
13. 林宏享, 宮内亮輔, 小野澤志郎, 伊藤美奈, 橘啓盛, 須田一晴: CTガイド下生検後による気管支動脈損傷に対してBAEを施行した1例。第35回関東IVR研究会。東京。2024年7月。
14. 土屋一洋: 頭部の3D-TOF MRAをさらに有効なものに。Special Online Seminar (Siemens Healthineers)。オンライン。2024年8月。
15. 五明美穂: Deep learningで引き出す頭部領域における高精細CTの実力。Global Standard CT Symposium 2024。東京。2024年8月。
16. Miyauchi R, Onozawa S: GI bleeding-Controversies and Solutions. Interventional Radiology Society of Australasia Annual Scientific Meeting 2024. New Zealand. August, 2024.
17. 横山健一: AIを用いた胸部X線診断の現状と課題。三鷹市医師会胸部X線読影講習会 特別講演。三鷹市。2024年9月。
18. 横山健一: 胸部画像診断におけるAIを用いた診断支援。バイエル講演会 特別講演。東京。2024年9月。
19. Tsuchiya K, Gomyo M, Yokoyama K: Application of the MR bone imaging to carotid plaque imaging: initial experience. The 47th Annual Meeting of the European Society of Neuroradiology. France. September. 2024.
20. 土生奈菜子, 片瀬七朗, 土屋一洋, 羽田伊知郎, 高橋昌兵, 倉山亮太, 五明美穂, 渡邊正中, 岩元香保里, 横山健一: 頭部MRIで類似した頭蓋内動脈の蛇行を示したMenkes病の2例。第60回日本医学放射線学会秋季臨床大会。福岡。2024年10月。
21. 白川佑也, 海老根昂平, 河田宗之, 茂手木弘美, 須山淳平: 生理的集積の高い臓器における病変検出能の評価: Deep Learning Reconstruction 技術の有用性。第21回Tokyo PET Imaging Conference。オンライン。2024年10月。
22. 矢嶋竜征, 安達卓哉, 中西章仁, 河野浩之, 五明美穂: 急性期脳梗塞診断におけるCT perfusion撮影時の体動によるアーチファクトが病巣検出精度に与える影響。第40回日本診療放射線技師学術大会。宜野湾。2024年10月。
23. 土屋一洋: 脳腫瘍のadvanced MR imagingの最近のトピックス。第40回多摩脳腫瘍研究会。三鷹。2024年11月。
24. 土生奈菜子, 片瀬七朗, 土屋一洋, 五明美穂, 渡邊正中, 岩元香保里, 横山健一: 頭部MRIで類似した頭蓋内動脈の蛇行を示したMenkes病の2例。第53回杏林医学会総会。三鷹。2024年11月。
25. 須山淳平: 当院の日常臨床のFDG-PET/CT検査で気づいていること。第44回日本核医学技術学会総会学術大会。横浜。2024年11月。
26. 林宏享, 片瀬七朗, 竹下祐平, 高島一, 鶴田貴大, 平田佳史, 須田一晴, 藤原正親, 下山田博明, 横山健一: 出血性梗塞を合併した肺葉外肺分画症の一例。第52回断層映像研究会。軽井沢町。2024年11月。
27. 土屋一洋: ASLの基礎と最近の進歩。第609回NR懇話会。東京。2024年12月。

28. 横山健一：AI技術で変わる胸部単純写真読影：臨床医のための読影支援システム活用法。小金井市国分寺市医師会合同学術講演会 特別講演。小金井市。2025年1月。
29. 片瀬七朗：AI技術で変わる胸部画像診断：臨床医のための胸部単純写真読影支援システムの現状。第58回日本成人病(生活習慣病)学会。東京。2025年1月。
30. 柳澤香奈, 白川佑也, 安達優子, 坂口幸翼, 安達卓哉, 河田宗之, 茂手木弘美, 須山淳平：PET/CTにおけるCT画質の検討：PET/CTは診断用CTとして使用可能か?。第102回日本核医学会関東甲信越地方会。東京。2025年1月。
31. 宮内亮輔, 小野澤志郎, 黒木一典：非外傷性気管支動脈瘤破裂による後縦隔血腫に対しTAEで治療した1例。第36回関東IVR研究会。東京。2025年1月。
32. 土屋一洋：片側の基底核と視床病変。第611回NR懇話会。東京。2025年2月。
33. 土屋一洋, 五明美穂, 横山健一, 小原真：ss-pCASL法による天幕上髄膜腫の内頸動脈系と外頸動脈系からの血流の分離描出。第54回日本神経放射線学会。京都。2025年2月。
34. 片瀬七朗：AI技術を用いた画像診断支援システムの現状-当院の使用経験を踏まえて-。第40回多摩画像医学カンファレンス。東京。2025年2月。
35. 土屋一洋, 五明美穂, 横山健一, 小原真：sspCASL法による天幕上髄膜腫の内頸動脈系と外頸動脈系からの血流の分離描出。第54回日本神経放射線学会。京都。2025年2月。
36. 渡邊正中：膀胱がんガイドライン (VI-RADS) の臨床応用とその展望。第44回日本画像医学会。東京。2025年2月。
37. 五明美穂, 土屋一洋, 片瀬七朗, 横山健一：Deep learning reconstructionを用いた高分解能MR angiographyの画質および描出能評価。第48回日本脳神経CI学会総会。東京。2025年3月。
38. 安達卓哉, 矢嶋竜征, 坂口幸翼, 河野浩之, 五明美穂, 平野照之：急性期脳梗塞患者における体動補正とベイズ推定を併用したCTP解析は体動の影響を受けるか。STROKE2025。大阪。2025年3月。

論 文

1. Katase S^{1,2}, Tsuchiya K^{1,2}, Habu N^{1,2}, Hada I³, Takahashi S³, Kurayama R³, Gomyo M¹, Watanabe M^{1,2}, Iwamoto K^{1,2}, Yokoyama K^{1,2} (1Department of Radiology, Kyorin University, Faculty of Medicine, 2Department of Radiology, Kyorin University Suginami Hospital, 3Department of Pediatrics, Kyorin University Suginami Hospital) : Two cases of Menkes Disease with similar intracranial arterial tortuosity on brain Magnetic resonance imaging. *Cureus*. 2024; 16(11): e74280. doi:10.7759/cureus.74280.
2. 五明美穂, 土屋一洋 (杏林大学放射線科) : 「動脈解離再考!今こそ全身の動脈解離を網羅する」序説。臨床画像。40(9):1045. 2024.
3. 五明美穂, 土屋一洋 (杏林大学放射線科) : 「脳血管障害」(“経過観察”の画像診断:ホントに著変ありません?)。画像診断。44巻13号:1256-1265. 2024.
4. 土生奈菜子, 五明美穂 : 【画像検査を使いこなす-放射線科医からの贈り物】(第II部)症候学に応じた画像検査の選択 その他 手足のしびれ。日本医師会雑誌。153巻特別1. 190-193. 2024.
5. Satomi K, Shibayama T, Hibiya T, Hayashi A, Nagahama K, Kato K, Nikai Y, Matsushita Y, Gomyo M, Yamagishi Y, Sasaki N, Saito K, Kobayashi K, Takeda A, Fujimoto S, Matsuo T, Takai K, Komori T, Tsuchiya K, Nagane M, Ichimura K, Shibahara J: MYB::QKI fusion-positive diffuse glioma of the cerebellum: a case report. *Neuropathology*. 2024; doi:10.1111/neup.13016. Online ahead of print.
6. Saito M, Kawano H, Adachi T, Gomyo M, Yokoyama K, Shiokawa Y, Hirano T: The Presence of a Ghost Infarct Core Is Associated With Fast Core Growth in Acute Ischemic Stroke. *Eur Stroke J*. 2024 :23969873241289320. doi:10.1177/23969873241289320. Online ahead of print.
7. 五明美穂 : Deep Learningで引き出す頭部領域における高精細CTの実力。INNERVISION。39巻11号。6-7. 2024.
8. 五明美穂, 土屋一洋 : 【頭部MRIをさらに有効にする撮像オプション】杏林大学編。臨床画像。40巻4号。496-507. 2024. doi:10.18885/CI.0000001643.
9. 山中雄太, 馬場亮, 野口正晴, 早川雄貴, 下野万結子, 森下洋平, 竹下祐平, 尾尻博也 : 舌癌術後CTにおいて舌下腺組織が再発病変と類似の所見を示した1例。臨床放射線。2024; 69(3): 415-418. doi : 10.18888/rp.0000002689.
10. 竹下祐平, 土屋一洋 : 【永久保存版!眼科の画像診断】眼球・眼窩 眼窩の腫瘍(1)-視神経・視神経鞘由来の腫瘍-。臨床画像。2024;40(12): 1415-1422. doi : 10.18885/CI.0000001903.
11. Egi R, Fukushima K, Matsusaka Y, Yamane T, Seto A, Matsunari I, Nakajima Y, Nakano S, Kuji I: Cardiac Sympathetic Nerve Function in Patients with Severe Aortic Stenosis Prior and After Transcatheter Aortic Valve Implantation: Evaluation by 5-Year Risk Model. *Annals of nuclear cardiology*. 2024;10(1):6-15. doi: 10.17996/anc.23-00008.
12. Nikai Y¹, Satomi K¹, Saito K², Gomyo M³, Matsushita Y¹, Kato K¹, Nagahama K¹, Isomura A¹, Hayashi A¹, Yamagishi Y², Sasaki N², Kobayashi K², Tsuchiya K³, Nagane M², Ichimura K¹, Shibahara J¹(¹Department of Pathology, Kyorin University Faculty of Medicine, ²Department of Neurosurgery, Kyorin University Faculty of Medicine, ³Department of Radiology, Kyorin University Faculty of Medicine): Glioblastoma, IDH-wildtype manifesting as intracranial hemorrhage: A case report highlighting the clinical utility of digital polymerase chain reaction in integrated diagnoses. *Neuropathology*. 2025. doi:10.1111/neup.13025. Online ahead of print.
13. Miwa R, Saito M, Kawano H, Honda Y, Gomyo M, Hirano T: A Case of Bony Stroke Involving a Vertebral Artery Detected by Dynamic Three-dimensional Computed Tomography Angiography. *Intern Med*. 2025;64(6):921-923. doi:10.2169/internalmedicine.4141-24.
14. 五明美穂, 土屋一洋 : 読影のお作法-連続スライスで追う中枢神経系疾患の診断-脳出血。臨床画像。41巻3号。246-257. 2025.
15. Gomyo M, Tsuchiya K, Yokoyama K: MR Bone Imaging of the Brain Region: Fundamentals and

Clinical Applications. Neurographics. 2025;15(1):9-18. doi: 10.3174/ng.2300035.

- Gomyo M, Tsuchiya K, Yokoyama K: Noninvasive dynamic vascular imaging: arterial spin labeling-based noncontrast magnetic resonance digital subtraction angiography for cerebral disease diagnoses. Jpn J Radiol. 2025; doi:10.1007/s11604-025-01758-w. Online ahead of print.
- Egi R, Matsusaka Y, Watanabe K, Seto A, Matsunari I, Arai T, Nakano S, Kuji I: Single-center analysis of cardiac amyloidosis using 99m Tc-HMDP imaging for diagnosis and evaluation after tafamidis treatment. Nucl Med Commun. 2025;46(1):38-46. doi: 10.1097/MNM.0000000000001922.

著書

- 宮内亮輔, 小野澤志郎, 黒木一典: 動静脈奇形の分類やコンセプト, およびType IIにおける治療方法について. 画像診断. 鶴野裕稀 編集. メディカルビュー社. 2025. 476-484.
- 宮内亮輔, 小野澤志郎: Triple coaxial system-Carnelian HF/Carnelian Marvelの規格とマイクロカテーテル使用のtips. Radfan. 原田晃 編集. 株式会社メディカルアイ. 2024. 24-27.

その他

- 横山健一: AIを用いた胸部X線診断の現状と課題. 三鷹医人往来(三鷹医師会報). 2024年. 46巻6号. 9-16.
- 須山淳平, 川本雅美, 長尾充展, 鈴木正彦: 症例クイズ 出題編(第926回 放射線診療研究会報告). 臨床核医学. 2024年. 57(5). P66-69.
- 須山淳平, 川本雅美, 長尾充展, 鈴木正彦: 症例クイズ 解答編(第926回 放射線診療研究会報告). 臨床核医学. 2024年. 57(6). P82-85.

放射線腫瘍学教室

講演

- 小林なお, 長井美由紀, 榎本裕美, 水野将人, 高木正人, 荻宿郁美, 田中和子, 森倉美佐子, 伊東あゆみ, 江原威: 婦人科癌小線源治療における診療体制の構築の初期経験. 小線源治療部会第26回学術大会. 高崎市. 2024年5月.
- 江原威: 悪性腫瘍による狭窄・閉塞症状に対する放射線治療. 第29回日本緩和医療学会学術大会第37回日本サイコロジ学会総会. 神戸市. 2024年6月.
- 高橋重雄, 岸徳子, 今野伸樹, 中村匡希, 萩原靖倫, 久保亘輝, 小宮山貴史, 北本佳住,
- 辻野佳世子, 小久保雅樹, 高仲強, 江原威, 塩山善之, 澁谷景子, 大西洋, 早川和重,
- 永田靖, 松尾幸憲, 木村智樹: JROSG23-3局所進行肺癌に対する根治的放射線治療の実態調査. 第65回日本肺癌学会学術集会. 横浜市. 2024年10月.
- 木村智樹, 永田靖, 原田英幸, 林真也, 松尾幸憲, 高仲強, 小久保雅樹, 高山賢二, 大西洋, 平川浩一, 塩山善之, 江原威: JROSG10-1: 中枢側に存在するIA期非小細胞肺癌に対するSBRT第I相試験. 日本放射線腫瘍学会第37回学術大会. 横浜市. 2024年11月.
- 大久保悠, 高橋健夫, 中村直樹, 鹿間直人, 中島香織, 西村岳, 江原威, 角田貴代美, 和田健太郎, 三

輪弥沙子: 緩和照射を普及させるための好事例集の作成(院内・院外連携促進のTips集). 日本放射線腫瘍学会第37回学術大会. 横浜市. 2024年11月.

論文

- Saito T, Shikama N, Takahashi T, Nakamura N, Mori T, Nakajima K, Koizumi M, Sekii S, Ebara T¹, Kiyohara H, Higuchi K, Yorozu A, Nishimura T, Ejima Y, Harada H, Araki N, Miwa M, Yamada K, Kawamoto T, Imano N, Heianna J, Nozaki M, Wada Y, Ohkubo Y, Uchida N, Watanabe M, Kosugi T, Miyazawa K, Yasuda S, Onishi H (¹Department of Radiation Oncology, Kyorin University School of Medicine): Quality of palliative radiotherapy assessed using quality indicators: a multicenter survey. J Radiat Res. 2024 ;65(4):532-539. doi: 10.1093/jrr/rrae048.

麻酔科学教室

講演

- 萬知子: 中心静脈カテーテル安全管理の長い道のり. Anesthesia Seminar. 浜松. 2024年4月.
- 萬知子: パルスオキシメータ前の昔話とパルスオキシメータ出現後のビットフォール. 第35回日本臨床モニター学会. 足利. 2024年5月.
- 中澤春政: 杏林大学医学部付属病院における侵襲的手技時の安全な鎮静管理体制構築への取り組み. 第35回日本臨床モニター学会. 足利. 2024年5月.
- 中澤春政: 大学付属病院における麻酔薬の選択. ムンディファーマセミナー. オンライン. 2024年5月.
- 渡辺英伸, 中澤春政, 徳嶺譲芳, 萬知子: 超音波ガイド輪状甲状間膜穿刺法と触知穿刺法及び切開法の比較: 豚喉頭を用いたシミュレーション研究. 日本麻酔科学会第71回学術集会. 神戸. 2024年6月.
- 徳嶺譲芳, 萬知子, 森山潔, 鈴木晃子: 中心静脈穿刺の機械的合併症の防止対策: 15年の取り組みとその成果. 日本麻酔科学会第71回学術集会. 神戸. 2024年6月.
- 中澤春政: Sustainable Acute Pain Serviceを目指して. 日本麻酔科学会第71回学術集会. 神戸. 2024年6月.
- 中澤春政: 麻酔科医が行う経胸壁心エコーのすゝめ. 日本麻酔科学会第71回学術集会. 神戸. 2024年6月.
- 関博志: 術前問診票はもっと活用できる 麻酔管理に特化した電子問診・自動リスク評価システムの活用. 日本麻酔科学会第71回学術集会. 神戸. 2024年6月.
- 森山潔: 最新の麻酔ワークステーションの構造とトラブル. 日本麻酔科学会第71回学術集会. 神戸. 2024年6月.
- 徳嶺譲芳: 中心静脈穿刺 イイ刺し方って何?. 第48回リザーバー&ポート研究会. 盛岡. 2024年6月.
- 渡辺英伸, 中澤春政, 徳嶺譲芳, 萬知子: 新規開発の針による超音波ガイド輪状甲状間膜穿刺法と市販品による触知穿刺法及び切開法の比較: 豚喉頭を用いたシミュレーション研究. 第7回気道管理学会. 札幌. 2024年7月.
- 渡辺邦太郎, 澤田龍治, 徳嶺譲芳, 鎮西美栄子: 下歯槽神経ブロックのための超音波ガイド口腔外ア

- ブローチの解剖学的検証. 日本ペインクリニック学会第回学術集会. 宇都宮. 2024年7月.
14. 澤田龍治, 渡辺邦太郎, 徳嶺譲芳, 鎮西美栄子: 脊髄炎を併発した帯状疱疹関連痛に対して一時的脊髄刺激療法が有効であった1症例. 日本ペインクリニック学会第58回学術集会. 宇都宮. 2024年7月18日-20日.
 15. 中澤春政: Kyorin Acute Pain Serviceの現状と今後の展望. 第4回日本術後痛学会・日本ペインクリニック学会第回学術集会. 宇都宮. 2024年7月.
 16. 関博志: 糖尿病患者の周術期管理. 日本専門医機構認定講習麻酔科領域講習(リフレッシャー)・ベージック(e-Learning配信). 2024年8月.
 17. 渡辺英伸, 井上貴博, 元山宏展, 森山潔: 重症筋無力症に対するロボット支援下拡大胸腺全摘術の術後に呼吸不全となり再挿管となった一例. 日本集中治療医学会第8回関東甲信越支部学術集会. 東京. 2024年8月.
 18. 安藤直朗, 森山潔, 小谷真理子, 中澤春政, 神保一平, 元山宏展, 渡辺英伸, 荒井知子: 家族が延命拒否の意向を示し, 信頼関係構築に難渋したピッカースタッフ脳幹脳炎の症例. 日本集中治療医学会第8回関東甲信越支部学術集会. 東京. 2024年8月.
 19. 元山宏展, 森山潔, 小谷真理子, 中澤春政, 神保一平, 安藤直朗, 渡辺英伸: 咯血をきたした成人Fontan循環患者に対し多診療科の合同カンファレンスで治療方針を決定した一例. 日本集中治療医学会第8回関東甲信越支部学術集会. 東京. 2024年8月.
 20. 平田幹雄, 阿部美月, 関博志, 井上貴博, 萬知子: 手術操作による腫瘍内容の漏出が原因と考えられる一過性の血圧低下と, れに続く高血圧と頰脈の遷延を来した褐色細胞腫の一例. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部会第64回学術集会. 東京. 2024年9月.
 21. 大國萌子, 瀬沼徳波, 秋澤千尋, 竹内徳子, 徳嶺譲芳, 萬知子: TOF比が回復したにも関わらず, 抜管後に舌根沈下が起きた眼咽頭型筋ジストロフィーの麻酔経験. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部会第64回学術集会. 東京. 2024年9月.
 22. 瀬沼徳波, 田村梨佳, 朽名佳代子, 徳嶺譲芳, 森山潔, 萬知子: 重症熱傷瘢痕患者の末梢静脈路確保困難に対してMidline catheterが有用だった1例. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部会第64回学術集会. 東京. 2024年9月.
 23. 田村梨佳, 平田幹雄, 腰原未沙, 本保晃, 徳嶺譲芳, 萬知子: 挿管困難が予想された高度肥満患者の意識下挿管で, リドカインネブライザーによる表面麻酔が奏功した1症例. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部会第64回学術集会. 東京. 2024年9月.
 24. 関博志: 全身麻酔薬 どう選びどう使う?. 関東甲信越・東京支部第64回合同学術集会 2024年度関東甲信越・東京支部周術期管理チームセミナー. 東京. 2024年9月.
 25. 澤田龍治: 当院のペインクリニック外来の現状と今後に向けて. みんなで考える痛み診療Web Seminar. オンライン. 2024年9月9日.
 26. 中澤春政: 心臓外科手術術後痛管理の理想と現実. 第29回日本心臓血管麻酔学会. 広島. 2024年9月.
 27. 萬知子: 患者のためのシームレスな周術期管理ー医療器具の観点から. 第37回札幌麻酔科カンファレンス. 札幌. 2024年10月.
 28. 関博志: 杏林大学病院における周術期管理ーシームレスで質の高い周術期医療を目指してー. 東京科学大学ミニシンポジウム「多施設で周術期のこと考えよう!」. 東京. 2024年10月.
 29. Nakazawa H: International Forum: Anesthesia for the Global Burden of Cancer. ASA annual meeting 4024. USA. 2024, Sep.
 30. 安藤直朗: 最新のモニタリング機器を別の視点からみてみようーHPIの便利な使い方ー. 首都圏循環管理セミナー. 東京. 2024年.
 31. 中澤春政: 麻酔科医による経胸壁心エコー. 富山大学セミナー. 富山. 2024年11月.
 32. Nakazawa H: Airway management during procedure sedation in non-operating room: Japanese perspectives. Korianesthesia 2024. Republic of Korea. 2024 Nov.
 33. 阿部美月, 安藤直朗, 小谷真理子, 森山潔: ICUで緊急処置の際に使用した1%クロロヘキシジナルコールが電気メス使用時に引火し熱傷が発生した1症例. 第53回杏林医学会総会. 三鷹. 2024年11月.
 34. 本保晃, 関博志, 萬知子: 術前の口腔機能低下と術後合併症発生リスクとの関連に関する研究. 第53回杏林医学会総会. 三鷹. 2024年11月.
 35. 鶴澤康二: がん細胞グリコカリックスの腫瘍免疫逃避に対する役割. 第53回杏林医学会総会. 三鷹. 2024年11月.
 36. 中澤春政: 麻酔科医が診る経胸壁心エコーで麻酔管理をより安全に!. 臨床麻酔学会第44回大会. 東京. 2024年11月.
 37. 中澤春政: 麻酔科医が行う経胸壁心エコーのすゝめ. 臨床麻酔学会第44回大会. 東京. 2024年11月.
 38. 徳嶺譲芳, 中澤春政, 森山潔, 萬知子: カテーテル先端位置の調節に苦慮した左内頸静脈カテーテルの1例. 臨床麻酔学会第44回大会. 東京. 2024年11月.
 39. 鶴澤康二: 術中の輸液管理戦略はどこへ向かおうとしているのか. 誤解された HES130 (Voluven®)の未来... 第44回日本臨床麻酔学会. 東京. 2024年11月.
 40. 門馬将太郎, 渡辺邦太郎, 中澤春政, 森山潔, 徳嶺譲芳, 萬知子: 難治性心室頻拍に対する星状神経節ブロック: 症例報告. 日本臨床麻酔学会第44回大会. 東京. 2024年11月.
 41. 本保晃: 全方向的アプローチで教育を行う杏林大学麻酔科研修プログラム. 臨床麻酔学会第44回大会. 東京. 2024年11月.
 42. 徳嶺譲芳: PICCプラクティショナーコースとは何か?. 第19回医療の質・安全学会学術集会. 横浜. 2024年11月.
 43. 中澤春政: 血液粘弾性検査ROTEMの活用: 実践編. ROTEM-guide PBM Seminar. オンライン. 2024年12月.
 44. 中澤春政: 非麻酔科医による手術室外の鎮静管理を安全にするための5STEP. 第12回群馬麻酔セミナー. 前橋. 2025年1月.
 45. 関博志: 内科医が知っておくべき麻酔科的視点. 第19回JHNセミナー 1日で分かる! 内科医のための術前評価. オンライン. 2025年2月.
 46. Nakazawa H: Anesthetic management of supraglottic devices in elderly patients. The 37th Annual meeting of the Japan Society for Geriatric anesthesia. Nikko. Feb. 2025.
 47. 徳嶺譲芳: 「センスが無いは, 素晴らしい! 超音波ガイド血管確保の理論と技術」中心静脈穿刺合併症

を「0」にするwith Live シミュレーション. 奈良県画像診断IVR研究会. オンライン. 2025年1月.

48. 徳嶺讓芳: シミュレーションコースの改善と質向上を目指して: 受講者の需要を満たせていますか?. 第20回医学シミュレーション学会学術集会. 新潟. 2025年2月.
49. 徳嶺讓芳, 本保晃: PICC Education Course. 第20回医学シミュレーション学会学術集会. 新潟. 2025年2月.
50. 関博志: 周術期の見えない力: 歯科と医科の連携が患者を守る. 令和6年度東京都周術期口腔ケア推進事業第2回導入コース研修. オンライン. 2025年3月.
51. 中澤春政: 麻酔科医による経胸壁心エコー. 京都大学セミナー. 京都. 2025年3月.

論文

1. Sawa T¹, Moriyama K, Kinoshita M. (¹University Hospital, Kyoto Prefectural University of Medicine, ²Department of Anesthesiology, Kyoto Prefectural University of Medicine): Current status of bacteriophage therapy for severe bacterial infections. *J Intensive Care*. 2024;12(1):44. doi: 10.1186/s40560-024-00759-7.
2. Junya O¹, Jumpei F², Kinoshita M¹, Sudo K¹, Kawaguchi K¹, Inoue K³, Naito Y¹, Moriyama K, Nakamura T², Iwano H², Sawa T¹. (¹Department of Anesthesiology, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine, ²Laboratory of Veterinary Biochemistry, School of Veterinary Medicine, Rakuno Gakuen University, Japan, ³Division of Critical Care Medicine, University Hospital, Kyoto Prefectural University of Medicine): Effects of the combination of anti-PcrV antibody and bacteriophage therapy in a mouse model of *Pseudomonas aeruginosa* pneumonia. *Microbiol Spectr*. 2024; 12(12): e0178124. DOI: 10.1128/spectrum.01781-24. Online ahead of print.
3. 関博志: 周術期管理センター運用の実際. *日臨麻会誌*. 44(3): 312-22, 2024.
4. Tokumine J, Moriyama K, Yorozu T: Variation in the amount of leakage containing inhalational anaesthetics in the breathing circuits of anaesthesia machines (Correspondence). *Anaesthesia*. 2024;79(9):1003-1004. DOI: 10.1111/anae.16364.
5. Tokumine J, Moriyama K, Yorozu T: Clues for diagnosing misplaced central venous catheter in the right ascending lumbar vein during right femoral venous access. *World J Clin Cases*. 2024; 12(24):5473-5475. DOI: 10.12998/wjcc.v12.i24.5473.
6. 元山宏展, 中澤春政: 手術室を超えたレミフェンタニルの効果と役割. *臨床麻酔*. 48(6): 735-742. 2024.
7. Saito Y, Takeuchi H¹, Tokumine J, Sawada R, Watanabe K, Yorozu T (¹Department of Surgery): Ultrasound-guided peripheral nerve blocks for anteriorcutaneous nerve entrapment syndrome after robot-assisted gastrectomy: A case report. *World J Gastrointest Surg*. 2024;16(8): 2719-2723. DOI: 10.4240/wjgs.v16.i8.2719.
8. 中澤春政, 飯島毅彦: 術中輸液に関する基礎知識とその進化. *外科と代謝・栄養*. 58(4). 97-103. 2024.
9. 足立智, 中澤春政: 心臓血管外科手術における至適な輸血療法. *臨床麻酔*. 48(8). 911-920. 2024.
10. Watanabe K, Tokumine J, Nagase M¹, Sawada R, Kinjo S², Yorozu T. (¹Department of Anatomy, ²Department of Anesthesia and Perioperative Care, University of California, San Francisco): A new and simplified extraoral approach for inferior alveolar nerve block: a cadaveric study and clinical case reports. *J Anesth* 2024;38(6):806-810. DOI: 10.1007/s00540-024-03396-4.
11. Motoyama H, Tokumine J, Saito Y, Moriyama K, Yorozu T: Ultrasound-guided radial vein cannulation for general anesthesia in cases with difficult peripheral venous access: a report of two cases. *JA Clinical Reports*. 2024;10(1):58. DOI: 10.1186/s40981-024-00743-y.
12. Tokumine J, Moriyama K, Yorozu T: Influence of Arm Abduction on Ipsilateral Internal Jugular Vein Misplacement During Ultrasound-Guided Subclavian Venous Catheterization. *Crit Care Med*. 2024; 52(12):e646-e647. DOI: 10.1097/CCM.00000000000006410
13. Tokumine J, Fujimaki K¹, Moriyama K, Yorozu T (¹Sakakibara Heart Institute): Workflow for treating inadvertent arterial placement of the central venous catheter. *J Geriatr Cardiol*. 2024; 21(11): 1096-1098. DOI: 10.26599/1671-5411.2024.11.006.
14. 中澤春政: 術式・患者ごとの術後鎮痛を学ぶ～この患者, 同管管理する?なにを申し送る?. *オペナーシング*. 40(1): 47-63. 2025.
15. Tokumine J, Yorozu T, Moriyama K, Suzuki T¹, Okada C². (¹Department of Patient Safety Management, ²Division of Biological Function Research): Outcome-based simulation training for ultrasound-guided central venous catheter placement: clinical impact on preventing mechanical complications. *BMC Med Educ*. 2025; 25(1):131. DOI: 10.1186/s12909-025-06739-1.
16. 中澤春政, 森山潔, 萬知子: 心臓血管手術大量出血時におけるフィブリノゲン濃縮製剤の適用外使用基準とその遵守率について. *体液代謝管理研究会*. 40(1). 9-12. 2024.
17. 武田純三: 印象記第27回日本医療ガス学会学術大会. *臨床麻酔*. 2025;49(1): 69-70.
18. 中澤春政: 「始めよう Basic Research! -臨床から基礎, そして基礎から臨床へ-」によせて. *日臨麻会誌*. 45(1): 51. 20205.
19. Watanabe H, Nakazawa H, Tokumine J, Yorozu T: Real-time vs. static ultrasound-guided needle cricothyroidotomy: a randomized crossover simulation trial. *Sci Rep*. 2025;15(1): 8112. doi: 10.1038/s41598-025-92684-4. 2025.

著書

1. 関博志(分担執筆): 第9章合併症のある妊婦の集学的管理 3母体の基礎疾患【血液疾患】16.総論, 17.貧血. *周産期麻酔科学*. 日本周産期麻酔科学会編. 中外医学社. 2024年. 429-431.
2. 本保晃(分担執筆): 第9章合併症のある妊婦の集学的管理 3母体の基礎疾患【血液疾患】18.血小板減少症. *周産期麻酔科学*. 日本周産期麻酔科学会編. 中外医学社. 2024年. 432-433.

3. 中澤春政(分担執筆):1章気道リスク評価と気道管理ガイドライン 3.JSA airway management guideline 2014. 山蔭道明 監修. 気道管理大全. 中外医学社. 2024年. 11-17.
4. 本保晃, 中澤春政, 萬知子(分担執筆): 第1章小手術・低侵襲手術の基礎知識 10. 静脈麻酔・鎮静. 診断と治療社. 産科と婦人科. 92巻増刊号. 2025年. 68-75.
5. 本保晃, 鶴澤康二(分担執筆): 麻酔科研修ノート改訂第4版. 第11章全身麻酔の導入・維持・覚醒 05. 上手な覚醒のやり方. 稲田英一, 内田寛治, 山内正憲, 山浦健 編集. 診断と治療社. 2024年. 413-416.
6. 関博志(分担執筆): 第2章術前回診と術前管理 04. 術前使用薬. 麻酔科研修ノート改訂第4版. 稲田英一, 内田寛治, 山内正憲, 山浦健 編集. 診断と治療社. 2024年. 54-62.
7. 関博志(分担執筆): 第4章そのほかの術中管理に使用する薬剤 E抗糖尿病薬, F抗アレルギー薬(抗ヒスタミン薬), G気管支拡張薬, H利尿薬, I制吐薬. オペネーシング2025年春期増刊超パワーアップ版! 手術失の薬剤114. 武田純三 編集. MCメディカ出版. 2025年. 188-206.

その他

1. 渡辺邦太郎, 澤田龍治: ハンズオンワークショップインストラクター. 実技4初心者コース体幹(澤田). 実技8ブラッシュアップコース腹部(澤田). 実技7ブラッシュアップコース(渡辺). 日本区域麻酔学会第11回学術集会. 仙台. 2024年4月.
2. 徳嶺譲芳: 第172回CVC指導者養成コース. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2024年4月.
3. 徳嶺譲芳: 第260回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2024年4月.
4. 中澤春政, 本保晃: 気道管理ハンズオンセミナー インストラクター. 第7回気道管理学会. 札幌. 2024年7月.
5. 渡辺英伸, 中澤春政, 徳嶺譲芳, 萬知子: 優秀演題: 新規開発の針による超音波ガイド輪状甲状間膜穿刺法と市販品による触知穿刺法及び切開法の比較: 豚喉頭を用いたシミュレーション研究. 第7回気道管理学会. 札幌. 2024年7月.
6. 神保一平, 本保晃: アブレーション中の気道管理ハンズオンセミナー インストラクター. 第70回日本不整脈心電学会学術大会. 金沢. 2024年7月.
7. 徳嶺譲芳: エコーハンズオンセミナー(PICC). 都立広尾病院. 東京. 2024年9月.
8. 徳嶺譲芳: 第5回PICCプラクティショナーコース. 日本医学シミュレーション学会. 東京. 2024年9月.
9. コーディネーター兼インストラクター 渡辺邦太郎, インストラクター 室内健志, 本保晃, 安藤直朗, 澤田龍治: 多摩神経ブロックハンズオンセミナー. 東京. 2024年9月.
10. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下PICC手技ハンズオントレーニング. 日本ベクトン・ディッキンソン株式会社. 東京. 2024年10月.
11. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下PICC手技ハンズオントレーニング. 日本ベクトン・ディッキンソン株式会社. 東京. 2024年10月.
12. 徳嶺譲芳: PICC実践セミナー. 第52回日本歯科麻酔学会総会・学術集会. 新潟. 2024年10月.
13. 徳嶺譲芳: 第174回CVC指導者養成コース. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2024年10月.

14. 徳嶺譲芳: 第266回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2024年10月.
15. 徳嶺譲芳: 第268回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2024年10月.
16. 徳嶺譲芳: 第176回CVC指導者養成コース. 日本医学シミュレーション学会. 群馬大学医学部附属病院. オンライン. 2024年12月.
17. 徳嶺譲芳, 本保晃: 第180回CVC指導者養成コース. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2024年12月.
18. 徳嶺譲芳: 第272回CVC実践セミナー. 日本医学シミュレーション学会. オンライン. 2024年12月.

臨床検査医学教室

講演

1. 堀口彩花, 井田陽子, 奥山貴洋, 本間慎太郎, 高木愛美, 田村千尋, 小倉航, 伊藤彩花, 鈴木美音, 山田夏妃, 荒木光二, 米谷正太, 大西宏明: 帝王切開後の骨盤内腫瘍から *Metamycoplasma hominis* を分離した一症例. 第35回臨床微生物迅速診断研究会. 三鷹市. 2024年6月.
2. 山田夏妃, 田村千尋, 井田陽子, 奥山貴洋, 本間慎太郎, 高木愛美, 小倉航, 伊藤彩花, 鈴木美音, 荒木光二, 宮城博幸, 米谷正太, 大西宏明: 抗がん化学療法中の患者の血液培養から *Campylobacter fetus* が分離された一例. 第35回臨床微生物迅速診断研究会. 三鷹市. 2024年6月.
3. 宇高徹, 田島崇, 森井健司, 小菅みず穂, 大塚弘毅, 細金直文: 肺腺癌骨転移に対する凍結療法および凍結化学療法の検討. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 福井. 2024年7月.
4. 岡田清吾, 酒井愛子, 杉山真也, 大西佑治, 安戸裕貴, 元永貴大, 深野玲司, 鰐石貴子, 長谷川俊史: 川崎病冠動脈炎憎悪における中膜平滑筋水腫性疎開性変化の関与. 第60回日本小児循環器学会総会・学術集会. 福岡. 2024年7月.
5. 大西佑治, 岡田清吾, 岸博子, 元永貴大, 安戸裕貴, 宮本達雄, 小林誠, 長谷川俊史: 定量的プロテオミクスを用いた川崎病冠動脈病変予測マーカーの探索. 第60回日本小児循環器学会総会・学術集会. 福岡. 2024年7月.
6. 加藤庸介, 坂本大典, 大西宏明, 緒方清行, 滝智彦: 自動血球分析装置XR-1000のNE-FSC(好中球の前方散乱光強度)の有用性について. 第25回日本検査血液学会学術集会. 広島. 2024年7月.
7. Ohtsuka K: Genetic Testing of Lung Cancer in Japan. The 18th Congress of Asian Society for Clinical Pathology and Laboratory Medicine. Korea. September. 2024.
8. 菊地茉莉, 谷垣伸治, 小林千絵, 松島実穂, 田嶋敦, 大荷満生, 小倉航, 滝智彦, 大西宏明, 市川弥生子: 臨床上に診断・治療されていた家族性高コレステロール血症例へのプレコンセプションケア. 第48回日本カウンセリング学会学術集会. 東京. 2024年8月4日.
9. 金子奈央, 本山拓也, 石井隆浩, 宮城博幸, 大西宏明: 検体検査搬送装置の更新に伴う検査室のレイアウト変更がもたらした検査業務の効率化. 第41回私立医科大学臨床検査技師会学術研修会. 東京. 2024年10月.

10. 立元香帆, 忠岡太慶, 奥田奈央, 南島俊徳, 佐藤範英, 有賀俊之, 米山真以子, 川野詳子, 大島友佳, 村上日菜, 五百尾望美, 宮城博幸, 大西宏明: 4つの弁に肥厚を認めた, 非細菌性血栓性心内膜炎の一例. 第41回私立医科大学臨床検査技師会学術研修会. 東京. 2024年10月.
11. 安戸裕貴, : 「食物アレルギーを極める」 ビシリン (7Sグロブリン) のN末タンパク (ペプチド). 第61回日本小児アレルギー学会学術集会. 名古屋. 2024年11月.
12. 芝崎翔平, 瀬井依子, 原島敬一郎, 大西宏明, 坂田好美, 岸野智則: 頭部前方位姿勢を診断する定性的視覚判定法の精度. 第53回杏林医学会総会. 三鷹市. 2024年11月.
13. 芝崎翔平, 岸野智則, 瀬井依子, 原島敬一郎, 坂田好美, 宮城博幸, 松島早月, 山崎聡子, 大塚弘毅, 安戸裕貴, 渡邊卓, 大西宏明: 副神経とその周囲から「肩こり」を考える 超音波検査による検討. 第71回日本臨床検査医学会学術集会. 大阪. 2024年11月.
14. 瀬井依子, 岸野智則, 芝崎翔平, 原島敬一郎, 坂田好美, 宮城博幸, 松島早月, 山崎聡子, 大塚弘毅, 安戸裕貴, 渡邊卓, 大西宏明: 生理的下腿浮腫の性差と静脈血流の関与 超音波による検討. 第71回日本臨床検査医学会学術集会. 大阪. 2024年11月.
15. 小林賢子, 松島早月, 渡邊卓, 大西宏明: 8q24に異常を有するNB-4細胞株におけるMYCの解析. 第71回日本臨床検査医学会学術集会. 大阪. 2024年11月.
16. 菊地茉莉, 大塚弘毅, 森定徹, 百村麻衣, 田嶋敦, 小倉航, 柳田千佳子, 村田彩音, 市川弥生子, 滝智彦, 小林陽一, 大西宏明: 当院における進行卵巣癌症例における遺伝子異常とゲノム医療 がんプロファイリング検査症例の経験. 第71回日本臨床検査医学会学術集会. 大阪. 2024年11月.
17. 本山拓也, 宮城博幸, 山口芳裕, 渡邊卓, 大西宏明: 新規抗精神病薬ラシドン塩酸塩のLC/MS/MSによる生体試料濃度測定法の構築と過量服薬患者での検討. 第71回日本臨床検査医学会学術集会. 大阪. 2024年11月.
18. 安戸裕貴, 山本貴和子, 福家辰樹, 大矢幸弘, 御厨真幸, 荻野文敏, 山崎聡子, 岸野智則, 渡邊卓, 大西宏明: 環境中におけるクルミタンパクとクルミアレルギーJugr1感作との関連性. 第71回日本臨床検査医学会学術集会. 大阪. 2024年11月.
19. 安戸裕貴: ナッツアレルギー. 第12回千葉県食物アレルギー研究会. 千葉. 2024年11月.
20. 鈴木美音, 宮城博幸, 山崎聡子, 安戸裕貴, 大西宏明: 血液培養からCandida Haemuloniiが分離された一症例. 第71回日本臨床検査医学会学術集会. 大阪. 2024年11月.
21. 朝比奈彩, 松下弘道, 上養義典, 北澤淳一, 深澤千寿美, 藤田孝, 松下一之, 横田浩充, 下田勝二, 堀田多恵子, 大西宏明: ポストパンデミックの臨床検査体制-2023年全国アンケート調査報告. 第71回日本臨床検査医学会学術集会. 大阪. 2024年12月.

論文

1. Osaka M¹, Kishino T^{1,2,3}, Shimamori N¹, Matsushima S², Yamasaki S^{1,2}, Ohtsuka K^{1,2}, Yasudo H^{1,2}, Morii T⁴, Shibahara J⁵, Watanabe T⁶, Ohnishi H^{1,2} (1Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital; 2Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine; 3Department of Clinical Engineering, Kyorin University Faculty of Health Sciences; 4Department of Orthopaedic Surgery, Kyorin University School of Medicine; 5Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine; 6President, Kyorin University): Sonographic findings of malignant peripheral nerve sheath tumors - case series -. *Laboratory Medicine International*. 2024; 3(3): 74-83. https://doi.org/10.51041/lmi.3.3_74
2. 安戸裕貴 (杏林大学医学部臨床検査医学): ナッツアレルギー どのように対処すべきか?. *子どもの健康科学*. 25巻2号. 29-34. 2024
3. Okada S^{1,2}, Sakai A³, Ohnishi Y¹, Yasudo H⁴, Motonaga T¹, Fukano R^{1,2}, Waniishi T¹, Sugiyama M³, Hasegawa S^{1,2} (1Department of Pediatrics, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, 2Research Institute for Cell Design Medical Science, Yamaguchi University, 3Department of Viral Pathogenesis and Controls, National Center for Global Health and Medicine, 4Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Necrotic Change of Tunica Media Plays a Key Role in the Development of Coronary Artery Lesions in Kawasaki Disease. *Circ J*. 2024;88(10):1709-1714. DOI: 10.1253/circj.CJ-24-0295.
4. Kabashima S¹, Hanada Yamamoto, K¹, Miyaji Y¹, Endo Kram Y¹, Shimada M¹, Hirai S¹, Ogita H¹, Kiguchi T¹, Inuzuka Y¹, Toyokuni K¹, Irahara M¹, Ishikawa F¹, Sato M¹, Saito-Abe M¹, Yasudo H¹, Fukuie T¹, Nomura I¹, Dunn Galvin A² and Ohya Y¹ (1Allergy Center, National center for Child Health and Development, 2School of Applied Psychology, Unbrersity College Cork): Japanese version of the food allergy quality of life questionnaire 10: An easy-to-use instrument. *World Allergy Organ J*. 2024;17(11):100979. DOI: 10.1016/j.waojou.2024.100979.
5. 高木愛美¹, 米谷正太², 井田陽子¹, 荒木光二¹, 宮城博幸¹, 春日啓介³, 皿谷健³, 大西宏明^{1,4} (1杏林大学医学部付属病院臨床検査部, 2杏林大学保健学部臨床検査技術学科, 3杏林大学大学院医学研究科・呼吸器内科学, 4杏林大学医学部臨床検査医学): Gram染色像でかすがい連結を認めたSchizophyllum communeによるアレルギー性気管支肺真菌症の1例. *医学検査*. 73巻4号. 869-874. 2024.
6. Kato Y¹, Sakamoto D², Ohnishi H², Taki T¹ (1Department of Medical Technology, Kyorin University Faculty of Health Sciences, 2Department of Laboratory Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine): Detection of decreased granules in neutrophils by automated hematology analyzers XR-1000 and UniCel DxH 800. *Lab Med*. 2024; 55(6): 768-775. DOI: 10.1093/labmed/lmae047.
7. 大西宏明 (杏林大学医学部臨床検査医学): 【自信がもてる! 血管へのアプローチ-採血と静脈路確保】 Step up! 採血 採血管の順序はどうするのが正解?. *Medical Technology*. 52巻13号. 1456-1458. 2024.
8. 山崎聡子 (杏林大学医学部臨床検査医学): 【自信がもてる! 血管へのアプローチ-採血と静脈路確保】 静脈路確保と関連業務 成分採血. *Medical Technology*. 52巻13号. 1481-1484. 2024.
9. 山崎聡子 (杏林大学医学部臨床検査医学): 【自信がもてる! 血管へのアプローチ-採血と静脈路確保】 静脈路確保と関連業務 成分採血にかかわる業務成分採血装置の接続と操作. *Medical Technology*.

52巻13号. 1485-1490. 2024.

10. 安戸裕貴 (杏林大学医学部臨床検査医学) : 【小児のアレルギー疾患をめぐる話題】食物アレルギーにおける特異的IgE測定の意義と限界. アレルギーの臨床. 44巻14号. 1151-1155. 2024.
11. Shibasaki S¹, Kishino T², Sei Y¹, Harashima K¹, Sakata K², Ohnishi H³, Watanabe T⁴ (1Department of Medical Technology, Kyorin University Faculty of Health Sciences; 2Department of Clinical Engineering, Kyorin University Faculty of Health Sciences; 3Department of Laboratory Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine; 4President, Kyorin University): Impact of structural factors around the accessory nerve on the pathogenesis of essential neck and upper-back stiffness: a sonographic investigation. Clin Physiol Funct Imaging . 2025; 45 (1): e12917. DOI: 10.1111/cpf.12917.
12. Shibasaki S¹, Kishino T², Sei Y¹, Harashima K¹, Sakata K², Ohnishi H³, Watanabe T⁴ (1Department of Medical Technology, Kyorin University Faculty of Health Sciences; 2Department of Clinical Engineering, Kyorin University Faculty of Health Sciences; 3Department of Laboratory Medicine, Kyorin University Faculty of Medicine; 4Kyorin University): Validity of a qualitative visual method for diagnosing forward head posture. Musculoskelet Sci Pract. 2025; 76: 103282, doi: 10.1016/j.msksp.2025.103282.2025. Epub ahead of print.

著書

1. 安戸裕貴 (分担執筆) : 気管支喘息(小児科) 今日の臨床サポート. 渡辺博 監修. エルセビア・ジャパン 2024
<https://clinicalsup.jp/jpoc/contentpage.aspx?diseaseid=1591>
2. 大塚弘毅, 大西宏明 (分担執筆) : 9.遺伝子検査・染色体検査 がんゲノムプロファイリング検査. 臨床検査ガイド. 大西宏明, 矢崎義雄, 小池和彦, 小室一成, 須永眞司, 山内敏正 編集. 文光堂. 2024. 1076-1080.
3. 安戸裕貴 (分担執筆) : 5.感染症検査.Bウイルス.16. ヒトパルボウイルスB19. 臨床検査ガイド. 大西宏明, 矢崎義雄, 小池和彦, 小室一成, 須永眞司, 山内敏正 編集. 文光堂. 2024. 812-813.
4. 安戸裕貴 (分担執筆) : 5.感染症検査.Bウイルス.31. マイコプラズマ. 臨床検査ガイド. 大西宏明, 矢崎義雄, 小池和彦, 小室一成, 須永眞司, 山内敏正 編集. 文光堂. 2024. 873-876.
5. 大西宏明 (分担執筆) : 8.遺伝学的検査. 保険適用される遺伝学的検査. 臨床検査データブック 2025-2026. 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2025. 756-757.
6. 大西宏明 (分担執筆) : 14.小児疾患. 小児の呼吸器感染症. 臨床検査データブック 2025-2026. 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2025. 1008.
7. 大西宏明 (分担執筆) : 14.小児疾患. 小児の嘔吐症・下痢症. 臨床検査データブック 2025-2026. 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2025. 1008.
8. 大西宏明 (分担執筆) : 14.小児疾患. 小児の発疹性疾患(感染症). 臨床検査データブック 2025-2026. 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2025.

1009.

9. 大西宏明 (分担執筆) : 14.小児疾患. 小児の意識障害・痙攣. 臨床検査データブック 2025-2026. 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2025. 1009-1010.
10. 大西宏明 (分担執筆) : 第5章支持療法, 小児血液疾患に対する輸血療法. 小児血液疾患診療マニュアル. 山本将平, 康勝好 編著. 中外医学者. 2025. 165-172.
11. 安戸裕貴 (分担執筆) : 咽頭結膜熱 今日の臨床サポート. 五十嵐隆 監修. エルセビア・ジャパン. 2025.
<https://clinicalsup.jp/jpoc/contentpage.aspx?diseaseid=2223>

その他

1. 大西宏明 : 臨床検査ガイド2025年改訂にあたって. 臨床検査ガイド. 大西宏明, 矢崎義雄, 小池和彦, 小室一成, 須永眞司, 山内敏正 編集. 文光堂. 2024. 12.
2. 大西宏明 : 2025-2026年版/編集者の序. 臨床検査データブック 2025-2026. 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2025. 3.

予防医学教室

講演

1. 徳永健吾, 塚平俊久, 間部克裕, 鈴木秀和, 下山克, 杉本光繁, 沖本忠義, 松井英則, 柴山恵吾, 太田浩良, 村上和成, 加藤元嗣, 林原絵美子 : 日本における *Non-Helicobacter pylori Helicobacter* 属菌感染の実態調査～中間報告. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会. 倉敷. 2024年6月.
2. 鈴木仁人, 青木沙恵, 松井英則, 徳永健吾, 塚平俊久, 武田章, 南條宗八, 北沢尚子, 珍田大輔, 佐々木誠人, 鈴木秀和, 柴山恵吾, 間部克裕, 見理剛, 林原絵美子 : ヒト・動物の胃在位NHPHとそのゲノム多様性. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会. 倉敷. 2024年6月.
3. 松井英則, 鈴木仁人, 青木沙恵, 柴山恵吾, 徳永健吾, 鈴木秀和, 間部克裕, 見理剛, 林原絵美子 : NHPH感染検査のプロトコール. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会. 倉敷. 2024年6月.
4. 徳永健吾, 沖本忠義, 柴山恵吾, 安藤貴志, 小野尚子, 佐々木誠人, 珍田大輔, 磯本一, 浅岡大介, 岩本淳一, 中島滋美, 小林寅喆, 竹内啓晃, 林俊治, 横田憲治, 横田伸一, 林原絵美子, 村上和成, 大崎敬子 : わが国におけるWebアンケートフォームを用いた「*H. pylori*診断と治療」の実態調査. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会. 倉敷. 2024年6月.
5. 岩田英里, 杉本光繁, 森英毅, 正岡健洋, 佐野正弥, 浅岡大介, 水野滋章, 栗原直人, 永原章仁, 榎信廣, 伊藤慎芳, 嶋田裕慈, 徳永健吾, 鈴木秀和, 河合隆, 高橋信一 : 東京都内多施設共同調査での高齢者における *Helicobacter pylori* 除菌率の変化の傾向. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会. 倉敷. 2024年6月.
6. 徳永健吾 : 血中アミノ酸測定とメタボリックシンドロームに関する最近知見. 第65回日本人間ドック・予防医療学会学術大会. 横浜市. 2024年9月.
7. Osaki T, Yokota K, Hayashi S, Yokota S, Takeuchi H, Rimbara E, Ojima H, Sato T, Yonezawa H, Shibayama K, Tokunaga K, Kamiya S, Murakami

- K, Kato M and Toshiro S : Establishment of a reference panel of *Helicobacter pylori* strains for antimicrobial susceptibility testing . 22nd Campylobacter Helicobacter & Related Organisms (CHRO). Australia. October. 2024.
8. Tokunaga K, Okimoto T, Ando T, Sasaki M, Ono S, Kobayashi I, Shibayama K, Chinda D, Nakajima S, Osaki T, Rimbara E, Sugiyama T, Kato M and Kazunari Murakami K : Antimicrobial-resistant *Helicobacter pylori* in Japan: Report of nationwide surveillance for 2018-2020. 22nd Campylobacter Helicobacter & Related Organisms (CHRO). Australia. October. 2024.
9. Osaki T, Hojo F, Tokunaga K: Role of anti-*Helicobacter pylori* antibodies and gastric microbiota in mother-to-child transmission of *H. pylori*. 22nd Campylobacter Helicobacter & Related Organisms (CHRO). Australia. October. 2024.
10. 徳永健吾：昔「鳥肌」，今「鳥肌」．新たな（に）胃病変を考える会（ミニレクチャー）．神戸．2024年10月．
11. 徳永健吾，石井さなえ，今井龍一，三好佐和子，大崎敬子： *Helicobacter suis* 感染症の新規疾患発現に関する研究～パーキンソン病の病態に及ぼす影響～中間報告．第53回杏林医学会総会．三鷹市．2024年11月．
12. 徳永健吾：What's NHPH?～胃疾患は新たなステージへ．第52回日本潰瘍学会．新宿．2025年2月．

論文

1. Vale F F, Roberts R J, HpGP Research Network(Including Tokunaga K), Kobayashi I, Camargo M C, Rabkin C S: Gene content, phage cycle regulation model and prophage inactivation disclosed by prophage genomics in the *Helicobacter pylori* Genome Project. Gut Microbes. 2024. 16(1): 2379440 . DOI:10.1080/19490976.2024.2379440.
2. Iwata E, Sugimoto M, Asaoka D, Hojo M, Ito M, Kitazawa N, Kurihara N, Masaoka T, Mizuno S, Mori H, Nagahara A, Niikura R, Ohkusa T, Sano M, Shimada Y, Suzuki H, Takeuchi Y, Tanaka A, Tokunaga K, Ueda K, Sakaki N, Takahashi S, Kawai T: Characteristics of *Helicobacter pylori* Eradication Therapy in Patients 80 Years or Older Living in a Metropolitan Area: A Multicenter Retrospective Study . Helicobacter . 2024. 29(4) :e13125.. DOI:10.1111/hel.13125.
3. Oguri N, Miyoshi J, Nishinarita Y, Wada H, Nemoto N, Hibi N, Kawamura N, Miyoshi S, Lee STM, Matsuura M, Osaki T, Hisamatsu T: Akkermansia muciniphila in the small intestine improves liver fibrosis in a murine liver cirrhosis model. NPJ Biofilms Microbiomes. 2024 ; 10(1) : 81. DOI: 10.1038/s41522-024-00564-y.
4. 徳永健吾，三好佐和子，井田陽介，神保陽子，大野亜希子，久松理一：「胃炎の京都分類」の使い方 NHPH感染と *H. pylori*感染による鳥肌胃炎の違いは．臨床消化器内科：39(12):1587-1592. 2024.
5. 徳永健吾，塚平俊久，間部克裕，鈴木秀和，下山克，杉本光繁，沖本忠義，松井英則，柴山恵吾，太田浩良，村上和成，加藤元嗣，林原絵美子：日本における Non-*Helicobacter pylori Helicobacter* 属菌感染

の実態調査～中間報告．日本ヘリコバクター学会誌．25(2)．60-62. 2024.

報告書

- 徳永健吾：ヘリコバクター属菌の薬剤耐性の対策に資する研究．令和5年度厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）分担研究報告書．2024.
- 徳永健吾：胃MALTリンパ腫における *H. suis* および胃内 microbiome の病態解析．基盤研究(C)（一般）科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書．2024.
- 徳永健吾：ヘリコバクター感染の診断法開発と感染実態，感染病態に寄与する因子の解明．AMED新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 令和5年度成果績報告書．2024.
- 三好佐和子：唾液微生物叢と生活習慣病の関連についての包括的 microbiome 解析による検討．若手科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書．2024.

その他

- 徳永健吾：ピロリ菌から始まった予防医学への道．第36回杏林大学医学部同窓会全国支部長・代議員懇話会．東京．2024年10月．
- 三好佐和子：人間ドックにおける随時尿推定食塩摂取量と自己記入式簡易食事調査票を用いた減塩指導の有用性．日本人間ドック学会2024年度学術委託研究承認（継続）．

臨床感染症学教室

講演

- 倉井大輔：成人のRSウイルス感染症．第64回日本呼吸器学会学術講演会．横浜．2024年4月．
- 倉井大輔，Papi A, Feldman RG, Antonelli-Incalzi R, Steenackers K, Lee DG, Ison MG, Fissette L, David MP, Marechal C, Van Der Wielen M, Kostanyan L, Hulstrom V: 呼吸器合胞体ウイルス (RSV) 膜融合前型F蛋白質ワクチン (RSVPreF3 OA) の心肺疾患をもつ高齢者における有効性 (アンコール演題)．第64回日本呼吸器学会学術講演会．横浜．2024年4月．
- 倉井大輔：外来診療における抗菌薬の使い方 2024（成人のワクチンも含めて）．調布市医師会学術講演会．調布．2024年4月．
- 倉井大輔：外来診療で求められる抗菌薬の適正使用．外来感染対策向上加算対応 杉並保健所・杉並区医師会・杏林大学杉並病院共催 令和6年度第1回感染対策カンファレンス．東京．2024年5月．
- 西圭史，嶋崎鉄兵：医師，薬剤師目線で求められる診断につながる迅速検査．第35回臨床微生物迅速診断研究会総会．三鷹．2024年6月．
- Shimasaki T, Uchima K, Kojima H, Otsu A, Kurai D : Comparison of stool versus clinical culture for Carbapenemase-producing Enterobacterales (CPE) in a tertiary care hospital. 第98回日本感染症学会学術講演会・第72回日本化学療法学会総会合同学会．神戸．2024年6月．
- 大津晃康，内間耕，兒島裕樹，嶋崎鉄兵，倉井大輔：黄色ブドウ球菌と連鎖球菌心内膜炎における持続菌血症合併頻度の比較．第98回日本感染症学会学術講

演会・第72回日本化学療法学会総会合同学会。神戸。2024年6月。

8. 兒島裕樹, 内間耕, 大津晃康, 嶋崎鉄兵, 倉井大輔: 当院における, 過去10年間のカンジダ真菌血症に対するミカファンギン感受性の検討。第98回日本感染症学会学術講演会・第72回日本化学療法学会総会合同学会。神戸。2024年6月。
9. 内間耕, 兒島裕樹, 大津晃康, 嶋崎鉄兵, 倉井大輔: 血液培養より酵母様真菌を認め, *Cryptococcus* 真菌血症の診断に至った8例の臨床的検討。第98回日本感染症学会学術講演会・第72回日本化学療法学会総会合同学会。神戸。2024年6月。
10. 佐田充, 麻生純平, 中本啓太郎, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 木村博一: RSV B におけるF蛋白の分子進化による細胞受容体への結合の影響。第98回日本感染症学会学術講演会・第72回日本化学療法学会総会合同学会。神戸。2024年6月。
11. 大津晃康: 成人症例。2024年度EBICPセミナー。オンライン。2024年7月。
12. 吉田博昭, 福川尚克, 高橋陽子, 種岡貴子, 倉井大輔: 脳神経外科における手術部位感染複数発生事例への対応。第39回日本環境感染学会総会・学術集会。京都。2024年7月。
13. 倉井大輔: 大学病院で問題となりやすい麻疹患者対応<事例から学ぶ>。第39回日本環境感染学会総会・学術集会。京都。2024年7月。
14. 倉井大輔: 成人のRSウイルス感染症。第45回トラベラーズワクチンフォーラム研修会。オンライン。2024年9月。
15. 倉井大輔: 国内の高齢者に対するRSウイルス感染症の疾病負荷。呼吸器感染症ワクチン研究会2024。東京。2024年10月。
16. 嶋崎鉄兵, 内間耕, 山本興幸, 兒島裕樹, 大津晃康, 倉井大輔: *Clostridium butyricum* 菌血症12例の臨床的背景とプロバイオティクス使用状況の検討。第73回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第71回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会。東京。2024年10月。
17. 大津晃康, 内間耕, 山本興幸, 兒島裕樹, 嶋崎鉄兵, 倉井大輔: *Mycobacterium mageritense* による頸部リンパ節炎を生じた成人2例。第73回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第71回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会。東京。2024年10月。
18. 兒島裕樹, 内間耕, 山本興幸, 大津晃康, 嶋崎鉄兵, 倉井大輔: *Enterococcus faecium* と同定されアンピシリン感性和と判断された菌血症11例の臨床的検討。第73回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第71回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会。東京。2024年10月。
19. 山本興幸, 内間耕, 兒島裕樹, 大津晃康, 嶋崎鉄兵, 倉井大輔: 診断・治療に難渋した右前腕の菌腫 (Mycetoma) 型ノカルジア感染症の1例。第73回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第71回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会。東京。2024年10月。
20. 内間耕, 山本興幸, 兒島裕樹, 大津晃康, 嶋崎鉄兵, 倉井大輔: 栄養要求性連鎖球菌による感染性心内膜炎の臨床的検討。第73回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第71回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会。東京。2024年10月。
21. 倉井大輔: 成人のRSVワクチン。第71回日本ウイルス学会学術集会。名古屋。2024年11月。

22. 倉井大輔: 感染症科医の抗菌薬処方: 疑義照会の事例も含め。杏林大学病院薬業連携講演会。オンライン。2024年11月。
23. 嶋崎鉄兵: 抗菌薬の適正使用について。厚生連高岡病院 研修医臨床教育レクチャー。高岡。2024年12月。
24. 倉井大輔: 成人のRSV感染症~高齢者及び妊婦を対象としたRSVワクチンの登場。第28回SRL感染症フォーラム。東京。2024年12月。
25. 倉井大輔: 急性呼吸器感染症の外來診療で困った時の対応~インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症を中心に~。地域医療連携を考える~感染症治療の観点から~(杉並区・中野区地域医療連携講演会)。東京。2025年1月。
26. 嶋崎鉄兵: やっかいな耐性菌, 複雑化する治療薬, 変わらない感染診療の原則。府中市医師会・多摩府中保健所・多摩総合医療センター・東京都立小児総合医療センター共催 感染症科医が, いま伝えたい薬剤耐性菌対策(AMR対策セミナー)。オンライン。2025年1月。
27. 倉井大輔: 2025年版・クリニックの診療で問題となる感染症と感染対策: 令和6年度診療報酬改定から考える外來感染対策向上加算と抗菌薬の適正使用。武蔵野市医師会学術講演会。オンライン。2025年1月。
28. 倉井大輔: 成人のRSV感染症。第36回日本臨床微生物学会総会・学術集会。名古屋。2025年1月。
29. 大津晃康: 当院における感染症治療について。第111回Tokyo Infection Conference。オンライン。2025年2月。

論文

1. 清水亮祐, 海田賢彦, 大津晃康, 清水裕介, 吉川慧, 山田賢治, 山口芳裕: 非好発地域において日本紅斑熱により敗血症性ショックを呈し診断に苦慮した1例。日本救急医学会関東地方会雑誌。45巻3号。152-156。2024。
2. 倉井大輔: 高齢者に対するRSVワクチン接種。Modern Media。70巻9号。271-278。2024。
3. Mizukami A, Preckler V, Verelst F, Matsuki T, Ho Y, Kurai D, Molnar D: Cost-effectiveness analysis of respiratory syncytial virus vaccination with the adjuvanted prefusion F protein vaccine (RSVPreF3 OA) for adults ≥60 years old in Japan. Expert Rev Vaccines。2024;23(1):986-996。doi: 10.1080/14760584.2024.2410898。Epub 2024 Oct 30。
4. Kubota H, Endo H, Minegishi S, Tsuchiya H, Inaba Y, Takahashi Y, Shimasaki T, Kurai D, Nakazawa H, Ohura N: Mid-term results of a case series on branched xenopericardial roll graft replacement to treat aortic arch/arch graft infection. Eur J Cardiothorac Surg。2024;66(5):ezae378。doi: 10.1093/ejcts/ezae378。
5. 倉井大輔: 成人のRSウイルスワクチン。日本内科学会雑誌。113巻11号。2077-2083。2024。
6. 倉井大輔: 成人のRSウイルス感染症。パムサジャーナル。37巻1号。33-35。2025。

著書

1. 倉井大輔 (分担執筆): Chapter7 RSウイルス感染症の予防・診断・治療 A 高齢者。インフルエンザ・COVID-19・RSV 診療ガイド 2024-25。菅谷憲夫編集。日本医事新報社。2024。126-138。

- 嶋崎鉄兵 (分担執筆) : 1 感染症診療の原則. 感染症診療の掟. 岡本耕 編集. 中外医学社. 2024. 1-8.
- 嶋崎鉄兵 (分担執筆・編) : 1 感染症診療の原則: 抗菌薬は解熱薬ではない. レジデントノート Vol.26 No.8. 羊土社. 2024. 1302-1308.
- Branch Joel, 嶋崎鉄兵 (訳・編) : 4 発熱患者の身体診察 これだけは見逃さない. レジデントノート Vol.26 No.8. 羊土社. 2024. 1325-1338.
- 大津晃康 (分担執筆) : 7 発熱のみの場合. レジデントノート Vol.26 No.8. 嶋崎鉄兵 編集. 羊土社. 2024. 1451-1458.
- 嶋崎鉄兵 (分担執筆): 感染性関節炎の診断と治療. medicina Vol.61 No.9. 岸本暢将 企画. 医学書院. 2024. 1450-1454.
- 嶋崎鉄兵 (分担執筆) : 3 淋菌, クラミジア: 疫学, 臨床像, 診断と治療のポイント. Hospitalist Vol.11 No.4. 織田錬太郎, 野木真将, 清田雅智 編集. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2024. 855-860.
- 倉井大輔 (分担執筆) : V 各疾患 ウイルス性肺炎 RSウイルス, インフルエンザ, ヒトメタニューモ, 水痘など. 呼吸器疾患ペディア 日本医師会雑誌 153巻・特別号(2). 高橋和久 監修. 日本医師会. 2024. 139-141.
- 倉井大輔 (分担執筆) : 5 感染症検査 D-アラビニトール・エンドトキシン・β-D-グルカン 《(1→3)-β-D-グルカン》. 臨床検査データブック2025-2026. 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2025. 594. 656-657.

その他

- 倉井大輔: 疾病負荷のデータが待たれる、高齢者のRSV感染症. 日経メディカル. 2024年7月.

総合医療学教室

講演

- Asahi Y, Kawaguchi S, Ogawa K, Kyoku K, Hirabuki K, Suda T, Hata N, Shibata S, Hasegawa H, Matsuda T: A case of perforation of sigmoid colon caused by anisakiasis. The 37th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter. Sapporo. May 2024.
- Inoue R, Ogawa K, Hata N, Kyoku K, Kawaguchi S, Hirabuki K, Suda T, Shibata S, Hasegawa H, Matsuda T: External Pudendal Artery Injury After Saddle Trauma Without Pelvic Fracture. The 37th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter. Sapporo. May 2024.
- Fukui S, Okada M, Shinozaki T, Suzuki T, Nakai T, Ozawa H, Tamaki H, Kishimoto M, Hasegawa H, Matsuda T, Marrugo J, Tedeschi SK, Choi HK, Solomon DH: POS0036 BODY WEIGHT CHANGES AND TARGET SERUM URATE LEVEL: A LONGITUDINAL ANALYSES OF 63,493 PARTICIPANTS USING A LARGE ANNUAL MEDICAL EXAMINATION DATABASE IN JAPAN. EULAR 2024 meeting. Austria. June 2024.
- 須田智也: 黄色ブドウ球菌ファージ投与による感染創への治療効果. 第47回日本骨・関節感染症学会. 出雲. 2024年7月.

- 田中真由子, 松田剛明, 金子拓矢, 須田智也, 丹治保典, 花輪智子. 尿路感染症由来の多剤耐性大腸菌が形成するBiofilmの構造. 第38回日本バイオフィーム学会学術集会. 大阪. 2024年7月.
- 田中真由子, 須田智也, 近藤恒平, Azam AH, Le NM, 八代龍, 丹治保典, 氣駕恒太郎, 松田剛明, 花輪智子: 尿路感染症による血流感染から分離されたESBL産生大腸菌の遺伝学的性質. 第97回日本細菌学会総会. 札幌. 2024年8月.
- 田中真由子, 花輪智子, 金子拓矢, 須田智也, 丹治保典, 松田剛明: 尿路感染症由来のESBL産生大腸菌が形成するバイオフィームに対するファージの影響. ファージ研究会・日本ファージセラピー研究会2024年度合同研究会. さいたま. 2024年9月.
- 長谷川浩: 高齢者救急について 我々高齢者専門家は何をすべきなのか?. 第76回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京. 2024年9月.
- 川竹博史, 平吹一訓, 朝日雄大, 井上亮太郎, 森脇謙次, 藤岡舞, 平岡修, 須釜一博, 曲継超, 川口翔平, 畑典孝, 須田智也, 井坂葵, 柴田茂貴, 長谷川浩, 松田剛明: Walk inで来院した急性大動脈瘤解離患者の臨床的特徴に関する研究. 第52回日本救急医学学会総会・学術集会. 仙台市. 2024年10月.
- 平岡修, 須田智也, 朝日雄大, 井上亮太郎, 森脇謙次, 川竹博史, 藤岡舞, 須釜一博, 曲継超, 平吹一訓, 川口翔平, 畑典孝, 井坂葵, 柴田茂貴, 長谷川浩, 松田剛明: 帯状疱疹治療開始後に中枢神経症状を呈した3例. 第52回日本救急医学学会総会・学術集会. 仙台市. 2024年10月.
- 花輪智子, 田中真由子, 米谷正太, 近藤恒平, 氣駕恒太郎, 松田剛明: 尿路感染症で血流感染をひきおこしたESBL産生大腸菌の遺伝型と病原因子の保有. 第73回日本感染症学会東日本地方学術集会・第71回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会. 東京. 2024年10月.
- Fukui S, Inker L, Santacroce L, Giles J, Liao K, Bathon J, Solomon D: Kidney Function in Rheumatoid Arthritis: Estimating Glomerular Filtration Rate Using Creatinine versus Cystatin C in a Secondary Analysis of the TARGET Trial. ACR (American College of Rheumatology) Convergence 2024. USA. November 2024.
- Fukui S, Tawakol A, Winkelmayr W, Santacroce L, Giles J, Liao K, Bathon J, Solomon D: Association Between Vascular Inflammation and Kidney Function in Patients with Rheumatoid Arthritis: Secondary Analysis of TARGET Trial. ACR (American College of Rheumatology) Convergence 2024. Washington DC. USA. November 2024.
- 金子拓矢, 花輪智子, 須田智也, 松田剛明: 蛍光顕微鏡を用いたESBL産生大腸菌が形成するバイオフィームの測定. 第53回杏林医学会総会. 三鷹市. 2024年11月.
- 須田智也: 救急外来でのDisposition決定とケア移行. 救急・総合診療スキルアップセミナー. 立川市. 2024年11月.
- 須釜一博: 施設間医療連携により早期診断した水痘・帯状疱疹ウイルス髄膜炎の症例. 救急・総合診療スキルアップセミナー. 立川市. 2024年11月.
- Isaka A, Asahi Y, Inoue R, Fujioka M, Kawatake H, Hiraoka S, Sugama K, Kyoku K, Moriwaki K, Hirabuki K, Kawaguchi S, Hata N, Suda T, Kikuchi H, Soejima K, Sunami E, Hasegawa H,

Matsuda T: A case of colon Cancer Surgery in a Patient with Pulmonary Hypertension. The 38th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter. USA. February. 2025.

18. Moriwaki K, Kawaguchi S, Asahi Y, Inoue R, Fujioka M, Kawatake H, Hiraoka S, Sugama K, Kyoku K, Hirabuki K, Hata N, Suda T, Isaka A, Shibata S, Hasegawa H, Matsuda T: Two Cases of Obturator Hernia Treated with interval laparoscopic Transabdominal Preperitoneal Repair (TAPP) After Manual or Spontaneous Reduction. The 38th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter. USA. February. 2025.
19. Sugama K: A study on the Clinical Characteristics of Acute Aortic Dissection Patients Who Arrived as Walk-in. The 38th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter. USA. February. 2025.
20. 長谷川浩：高齢者救急について。日本老年医学会東京大学上廣死生学・応用倫理講座2024年度シンポジウム。東京。2025年3月。
21. 花輪 智子, 松田 剛明：多剤耐性菌治療に対するフェージ療法の現状と課題。日本薬学会第145年会。福岡。2025年3月。

論文

1. Kataoka K, Nishizaki Y, Shimizu T, Yamamoto Y, Shikino K, Nojima M, Nagasaki K, Fukui S, Nishiguchi S, Katayama K, Kurihara M, Ueda R, Kobayashi H, Tokuda Y: Hospital Use of a Web-Based Clinical Knowledge Support System and In-Training Examination Performance Among Postgraduate Resident Physicians in Japan: Nationwide Observational Study. *JMIR Med Educ.* 2024;10:e52207. doi: 10.2196/52207.
2. Kawaguchi S, Onozawa S, Momose H, Matsuki R, Kogure M, Suzuki Y, Sakamoto H: Rescue of outflow block of the remnant left liver after extended right hemihepatectomy for resection of a tumor in the caudate lobe. *Glob Health Med.* 2024;6(3):222-224. doi: 10.35772/ghm.2023.01105.
3. Fukui S, Shimizu T, Nishizaki Y, Shikino K, Yamamoto Y, Kobayashi H, Tokuda Y: The Utility of Wearable Cameras in Developing Examination Questions and Answers on Physical Examinations: Preliminary Study. *JMIR Med Educ.* 2024;10:e53193. doi: 10.2196/53193.
4. Marrugo J, Santacroce LM, Paudel ML, Fukui S, Turchin A, Tedeschi SK, Solomon DH: Gout risk in adults with pre-diabetes initiating metformin. *Ann Rheum Dis.* 2024;83(10):1368-1374. doi: 10.1136/ard-2024-225652.
5. Nishiguchi S, Nishizaki Y, Hamaguchi M, Goto A, Inamori M, Shikino K, Shinozaki T, Kataoka K, Shimizu T, Yamamoto Y, Fukui S, Kobayashi H, Tokuda Y: Experience of caring for patients with COVID-19 and educational achievement among Japanese resident physicians: a nationwide survey with general medicine in-training examination. *BMC Med Educ.* 2024;24(1):1125. doi: 10.1186/s12909-024-06085-8.
6. Nakayama Y, Nagata W, Takeuchi Y, Fukui S, Fujita Y, Hosokawa Y, Ueno M, Ono K, Sumitomo S, Tabuchi Y, Nakanishi Y, Saito S, Ikeuchi H, Kawamori K, Sofue H, Doi G, Minami R, Hirota T, Minegishi K, Maeshima K, Motoyama R, Nakamura S, Suzuki S, Nishioka N, Wada TT, Onishi A, Nishimura K, Watanabe R, Yanai R, Kida T, Nishiwaki H, Yajima N, Kaneko Y, Tanaka E, Kawahito Y, Harigai M: Systematic review and meta-analysis for the 2024 update of the Japan College of Rheumatology clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol.* 2024;34(6):1079-1094. doi: 10.1093/mr/roae049.
7. Shikino K, Nishizaki Y, Kataoka K, Nojima M, Shimizu T, Yamamoto Y, Fukui S, Nagasaki K, Yokokawa D, Kobayashi H, Tokuda Y: Association between physicians' maldistribution and core clinical competency of resident physicians: a nationwide cross-sectional study. *BMJ Open.* 2024;14(10):e083184. doi: 10.1136/bmjopen-2023-083184.
8. Marrugo J, Santacroce LM, Paudel ML, Fukui S, Tedeschi SK, Solomon DH: Longitudinal analysis of serum urate in prediabetic phase. *Rheumatology (Oxford).* 2024;63(11):2976-2980. doi: 10.1093/rheumatology/keae439.
9. Yokokawa D, Shikino K, Nishizaki Y, Fukui S, Tokuda Y: Evaluation of a Computer-Based Morphological Analysis Method for Free-Text Responses in the General Medicine In-Training Examination: Algorithm Validation Study. *JMIR Med Educ.* 2024;10:e52068. doi: 10.2196/52068.
10. Fukui S, Winkelmayr WC, Tedeschi SK, Marrugo J, Guan H, Harrold L, Litman HJ, Shinozaki T, Solomon DH: Disease activity of rheumatoid arthritis and kidney function decline: a large prospective registry study. *Ann Rheum Dis.* 2025;84(2):201-209. doi: 10.1136/ard-2024-226156.
11. Fukui S, Tawakol A, Winkelmayr WC, Santacroce LM, Giles JT, Liao KP, Bathon JM, Solomon DH: No association between vascular inflammation and estimated glomerular filtration rate in patients with rheumatoid arthritis: secondary analysis of the TARGET trial. *Scand J Rheumatol.* 2025: doi: 10.1080/03009742.2025.2455878. Epub ahead of print.
12. Ito T, Fukui S, Nagase FN, Yamaguchi T, Oda N, Inokuchi H, Suda M, Takizawa N, Suyama Y, Rokutanda R, Nomura A, Uechi E, Haji Y, Tamaki H: A feasible treatment strategy for tapering subcutaneous tocilizumab in giant cell arteritis: a 24-month multi-center retrospective study. *Rheumatol Int.* 2025;45(3):45. doi: 10.1007/s00296-025-05796-5.
13. 真弓俊彦, 矢口有乃, 横田裕行, 長島公之, 細川秀一, 伊藤重彦, 丸藤哲, 澤村匡史, 長谷川浩, 下山理史, 河野元嗣, 曾我幸弘, 浜野淳, 井川誠一郎, 小豆畑丈夫, 浅香えみ子, 柴山志穂美, 新田國夫, 佐野けさ美, 川村佐和子, 山田雅子, 内田芳明, 鈴木裕也, 赤沼康弘, 加納繁照, 会田薫子, 新井隆男, 石上雄一郎, 石川秀樹, 稲葉基高, 井上淑恵, 梶本心太郎, 熊田恵介, 山下寿, 太田祥一, 長門直, 矢口有乃, 成松英智, 小倉眞治: 高齢者救急問題の現状とその対応策についての提言2024(解説). *日本救急医学会雑誌.* 2025;36巻2号: 63-81.

14. Nagase FN, Fukui S, Takizawa N, Yamaguchi T, Oda N, Inokuchi H, Ito T, Watanabe M, Suda M, Haji Y, Suyama Y, Rokutanda R, Minoda M, Nomura A, Uechi E, Tamaki H: Tocilizumab (TCZ) for Giant Cell Arteritis: Clinical Outcomes Following Relapses and TCZ Discontinuation Due to Adverse Events. *J Rheumatol*. 2025;52(3):270-279. doi: 10.3899/jrheum.2024-0612.
15. Suzuki T, Fukui S, Shinozaki T, Asano T, Yoshida T, Aoki J, Mizuno A: Lipid Profiles After Changes in Alcohol Consumption Among Adults Undergoing Annual Checkups. *JAMA Netw Open*. 2025;8(3):e250583. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2025.0583.
16. Fukui S, Okada M, Shinozaki T, Suzuki T, Nakai T, Ozawa H, Tamaki H, Kishimoto M, Hasegawa H, Matsuda T, Marrugo J, Tedeschi SK, Choi HK, Solomon DH: Weight Reduction and Target Serum Urate Level: A Longitudinal Study of Annual Medical Examination. *Arthritis Rheumatol*. 2025;77(3):346-355. doi: 10.1002/art.43027.
17. Tanaka M, Hanawa T, Suda T, Tanji Y, Minh LN, Kondo K, Azam AH, Kiga K, Yonetani S, Yashiro R, Ohmori T, Matsuda T: Comparative analysis of virulence-associated genes in ESBL-producing *Escherichia coli* isolates from bloodstream and urinary tract infections. *Front Microbiol*. 2025;16:1571121. doi: org/10.3389/fmicb.2025.1571121.
18. Hirabuki K, Hata N, Fukuie M, Suzuki R, Suda T, Uechi T, Hirasawa A, Sugawara J, Matsuda T, Shibata S: Changes in Left Ventricular Function Assessed by 3D Echocardiography During Severe Central Hypovolemia in Healthy Humans. *Echocardiography*. 2025;42(3):e70128. doi: 10.1111/echo.70128.
19. Nakai T, Fukui S, Ozawa H, Kitada A, Okada M, Kishimoto M: Management of pregnant with rheumatoid arthritis: Preconception care, pregnancy and lactation strategies, and maternal-fetal outcomes. *Best Pract Res Clin Rheumatol*. 2025;39(1):102022. doi: 10.1016/j.berh.2024.102022.

著書

1. 長谷川浩(分担執筆): 疾患と検査15高齢者疾患 認知症(アルツハイマー型認知症、(脳)血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症). 臨床検査データブック2025-2026. 黒川清, 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2025. p.1012
2. 長谷川浩(分担執筆): 疾患と検査15高齢者疾患 サルコペニア/ロコモティブシンドローム/フレイル. 臨床検査データブック2025-2026. 黒川清, 春日雅人, 北村聖, 大西宏明 編集. 医学書院. 2025. p.1013

報告書

1. 長谷川浩: 動的・静的脳画像, 心拍変動を用いた新たな軽度認知機能低下高齢者の安全運転支援開発 2024年度. 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金). 研究代表者実施状況報告書.

その他

1. 長谷川浩: マイあさ!健康ライフ. 1) 冬に増える病気とは, 2) かぜ・感染症予防?, 3) 危険!ヒートショック, 4) ヒートショックを防ぐには, 5) 高齢者が気を付けること. NHKラジオ第1. 2024年11月12月.

2. 長谷川浩: きょうの健康. 入浴中の事故 急増する冬こそ注意. NHK Eテレ. 2024年12月.
3. 須田智也: 『築古住宅では特に注意!入浴でのヒートショックを防ぐカギは「寒暖差と血圧」にあり. ポイントを医師が解説』. FNN プライムオンライン. 2025年1月.
4. 花輪智子: シンポジウムの概要「日本におけるバクテリオファージの医薬品としての道筋」. 薬事日報 第130005号. 2025年3月.

リハビリテーション医学教室

講演

1. 山田深: フレイルと体力. 第10回杏林医学会市民公開フォーラム. 三鷹市. 2024年5月.
2. 山田深: 介護保険サービス以外にできること～ミドル世代の社会資源～: 障害像とリハビリテーション. 世田谷区つなぐツナガル障害支援. 東京. 2024年6月.
3. Tashiro S, Momma H, Yamada S: Applying Mission X program as self-training / diversional program in the university hospital. Mission X, train like an astronaut, International meeting 2024. Online. June. 2024.
4. 坂本勇斗, 田代祥一, 竹林万由子, 佐々木重嘉, 齊藤邦昭, 小林啓一, 永根基雄, 山田深: 神経膠腫患者におけるビデオゲームを用いたリハビリテーション. 第2回脳腫瘍支持療法研究学術集会. 東京. 2024年9月.
5. 佐々木優樹, 池田光代, 團裕菜, 佐々木重嘉, 齊藤邦昭, 小林啓一, 永根基雄, 山田深: 自発性低下に対する外的補助手段を病棟でのADLの自立に繋げた膠芽腫の一症例. 第2回脳腫瘍支持療法研究学術集会. 東京. 2024年9月.
6. Tashiro S, Zhang L, Yamada S, Tsuji T: Disaster Rehabilitation for Spinal Cord Injury. International Spinal Cord Society 2024. Belgium. September. 2024.
7. 田代祥一: 脊髄損傷の再生医療とリハビリテーション—さらなる治療戦略—. 第6回日本再生医療とリハビリテーション学会. さいたま市. 2024年10月.
8. 田代祥一: 脊髄再生医療領域におけるリハビリテーション医療の重要性. 第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 岡山市. 2024年11月.
9. 田代祥一: 脊髄損傷リハビリテーションの基礎研究の最前線. 第59回日本脊髄障害医学会. 名護市. 2024年11月.
10. 宮田沙弥, 池田光代, 田代祥一, 山田深: 急性期脳卒中中片麻痺に対するスパイダースプリントの効果について. 第58回日本作業療法学会. 札幌市. 2024年11月.
11. 佐久間大輝, 池田光代, 田代祥一, 山田深: 悪性神経膠腫患者への復職支援 コミュニケーション障害に対する代償手段の獲得を目指した介入. 第58回日本作業療法学会. 札幌市. 2024年11月.
12. 山田深: 介護保険サービス以外にできること～ミドル世代の社会資源～: 障害像とリハビリテーション. 世田谷区つなぐツナガル障害支援. 東京. 2024年12月.
13. Miyata S, Ikeda M, Tashiro S, Hirano T, Yamada

S: Effects of Spider Sprint Therapy on Paralysis in an Acute Stroke Patient. 12th Korea-Japan Joint Stroke Conference. Osaka. March. 2025.

14. Murata H, Tashiro S, Sakamoto H, Takebayashi M, Nakanishi R, Hirano T, Yamada S: The Impact of Energy Deficit on Activity of Daily Living in Elderly Patients with Acute Stroke. 12th Korea-Japan Joint Stroke Conference. Osaka. March. 2025.
15. Tashiro S, Takemi M, Yamada S, Tsuji S: Synchronized Application of Focal Precision tACS and Closed-loop NMES for Chronic Stroke Hand Paresis. 12th Korea-Japan Joint Stroke Conference. Osaka. March. 2025.
16. 田代祥一:再生医療とリハビリテーションのカップリングの効果. 第24回日本再生医療学会. 横浜市. 2025年3月.

論文

1. 山田深:宇宙環境が運動器・循環器系に及ぼす影響とその予防方法. 理学療法ジャーナル2024; 58(10): 1138-1141. DOI: 10.11477/mf.1551203614
2. 中野英顕, 植村修, 山田深, 田代祥一:完全麻痺に対する再生医療とリハビリテーション治療. 総合リハビリテーション. 2024; 52(11): 1163-1171. DOI: 10.11477/mf.1552203260
3. Umemori S, Ogawa M, Yamada S, Komatsu M, Oikawa E, Okamoto Y, Katoh M, Shirasaka T, Abiko K, Moriizumi S, Matsuo Y, Tohyama H, Mukaino M: Development of a Conversion Table Linking Functional Independence Measure Scores to International Classification of Functioning, Disability, and Health Qualifiers: Insights from a Survey of Healthcare Professionals. Healthcare. 2024. 12(8): 831. DOI: 10.3390/healthcare12080831.
4. 山田深:フレイルと体力. 杏林医学会雑誌. 2024; 55(4): 119-121.
5. Tashiro S, Takemi M, Yamada S, Tsuji S: Synchronized Application of Closed-loop NMES and Precision tACS in Post-Stroke Hand Rehabilitation: a Protocol of Neurorehabilitation Trial. Therapeutic Advances in Chronic Disease. 2024;15:20406223241297397. DOI: 10.1177/20406223241297397.
6. Masuda M, Tobita K, Goda A, Fujisawa D, Takeuchi S, Koyama K, Tashiro S, Yamada S, Soejima K, Kohno T: Knowledge of Illness Trajectory and Symptoms of Heart Failure in Patients with Acute Coronary Syndrome. J Card Fail. 2024. :S1071-9164(24)00968-0. DOI: 10.1016/j.cardfail.2024.11.013. Online ahead of print.
7. Sakamoto H, Tashiro S, Takebayashi M, Matsuda K, Saito K, Kobayashi K, Nagane M, Shiokawa Y, Nakatomi H, Yamada S: Could video game-based physical rehabilitation substitute for conventional physiotherapy in patients with glioma? A proof-of-concept study. Support Care Cancer.2024. 33(1): 52. DOI: 10.1007/s00520-024-09111-z.
8. Zhang L, Wang F, Tashiro S, Liu PJ: Effects of Dietary Approaches and Exercise Interventions on Gestational Diabetes Mellitus: A Systematic Review and Bayesian Network Meta-analysis.

Adv Nutr. 2024; 15(12): 100330. DOI: 10.1016/j.advnut.2024.100330. Epub 2024 Oct 29.

9. Ikeda M, Tashiro S, Harada Y, Ishita K, Masuda A, Hirano T, Yamada S: Effects of Prone Posture Maneuver to Ameliorate Pusher Behavior in Acute Stroke: A Retrospective Study. J. Clin. Med. 2024.13(24): 7805. DOI: 10.3390/jcm13247805.
10. Zhang L, Yamada S, Nagoshi N, Shinozaki M, Tsuji T, Nakamura M, Okano H, Tashiro S: Combination therapy with rehabilitation improves motor recovery in animal models of spinal cord injury A systematic review and Meta-analysis. Annals of Physical and Rehabilitation Medicine. 2025;68(3):101911. DOI: 10.1016/j.rehab.2024.101911. Epub.
11. 田代祥一:脳卒中機能障害評価法 (Stroke Impairment Assessment Set; SIAS). リハビリナース. 2025; 18(1): 11-14.
12. Fuseya H, Tashiro S, Takahashi O, Kobayashi Y, Tsuji T, Mizuno K: Somatosensory-Evoked Potentials and Clinical Assessments of Sensory Function Over Time in Patients with Subacute Stroke. Neural Plast. 2025: 2025:7939662. DOI: 10.1155/np/7939662. eCollection 2025.
13. Tashiro S. Editorial: Brain stimulation methods in human motor neuroscience. Front Hum Neurosci. 2024; 18:1532408. DOI: 10.3389/fnhum.2024.1532408. eCollection 2024.

脳卒中医学教室

講演

学会発表

1. Kawano H: TCD: How to do it and how to interpret the results. CSI Focus LAA&PFO 2024. 東京. 2024年4月.
2. Kawano H, Sakurai A, Johno T, Kawatake A, Yamamichi A, Saito M, Nakanishi K, Honda Y, Unno Y, Hirano T: The clinical outcome of patients with cancer-related in-hospital onset stroke. ESOC2024. Switzerland. May. 2024.
3. 河野浩之, 藤本茂, 高野利実, 辻哲也, 成田善孝, 塩川芳昭, 平野照之: Stroke Oncology腫瘍脳卒中学の課題 (日本脳卒中学会Stroke Oncology PTの取り組み). 第9回日本がんサポーターケア学会学術集会. さいたま. 2024年5月.
4. 河野浩之: 左心耳閉鎖術. 第65回日本神経学会学術大会. 東京. 2024年5月.
5. 河野浩之: 脳卒中急性期診療. 第65回日本神経学会学術大会. 東京. 2024年5月.
6. 平野照之: 脳梗塞急性期治療の最前線. 第65回日本神経学会学術大会. 東京. 2024年6月.
7. 海野佳子: 片頭痛と緊張型頭痛は異なる疾患であり, 同一線上の疾患ではない~Yesの立場から~. 第65回日本神経学会学術大会. 東京. 2024年6月.
8. 吉野尚隆, 中西郁, 川竹彩音, 本田有子, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之: がん加療中に発症したstroke mimicsに対し, rt-PA静注療法を行った1例. 第65回日本神経学会学術大会. 東京. 2024年6月.
9. 坂口未希子, 大貫颯, 川竹彩音, 中西郁, 本田有子,

- 河野浩之, 海野佳子, 平野照之: 頭蓋外内頸動脈攣縮による若年性脳梗塞の1例. 第65回日本神経学会学術大会. 東京. 2024年6月.
10. 織田優万, 山道惇, 本田有子, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之: 脳静脈洞血栓症を契機にBasedow病と診断した1例. 第65回日本神経学会学術大会. 東京. 2024年6月.
 11. 平野照之: 脳梗塞と抗FXIa薬. 第46回日本血栓止血学会学術大会. 金沢. 2024年6月.
 12. 河野浩之, 藤本茂, 高野利実, 辻哲也, 成田善孝, 塩川芳昭, 平野照之: Stroke Oncology (腫瘍脳卒中). 第29回日本緩和医療学会学術大会/第37回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会. 神戸. 2024年6月.
 13. 平野照之: 令和の脳卒中を識る. 第43回日本脳神経超音波学会/第27回日本栓子検出と治療学会. 浦安. 2024年6月.
 14. 河野浩之: 癌に伴う脳梗塞における抗血栓療法への最適な選択は?. 第43回日本脳神経超音波学会総会/第27回日本栓子検出と治療学会. 浦安. 2024年6月.
 15. 平野照之: 抗凝固療法の現在と未来. 第43回日本脳神経超音波学会/第27回日本栓子検出と治療学会. 浦安. 2024年6月.
 16. 河野浩之: がん関連血栓症の病態と診断. 第43回日本脳神経超音波学会総会/第27回日本栓子検出と治療学会. 浦安. 2024年6月.
 17. 河野浩之, 藤本茂, 高野利実, 辻哲也, 成田善孝, 塩川芳昭, 平野照之: がん脳卒中. 第7回日本腫瘍循環器学会学術集会. 姫路. 2024年8月.
 18. 平野照之: アルテプラゼと虚血再灌流障害. 第42回The Mt.Fuji Workshop on CVD. 札幌. 2024年8月.
 19. 河野浩之: 脳卒中に対する内科治療. 第18回東京脳卒中の血管内治療セミナー. 東京. 2024年9月.
 20. Hirano T: Thrombolysis for minor stroke. De we need to treat? Asia Pacific Stroke Conference 2024. Australia. September. 2024.
 21. Saito M, Kawano H, Adachi T, Gomyo M, Yokoyama K, Shiokawa Y, Hirano T: The presence of a ghost infarct core is associated with fast core growth in acute ischemic stroke. Asia Pacific Stroke Conference 2024. Australia. September. 2024.
 22. Kawano H, Sakurai A, Takizawa Y, Toyota R, Miwa R, Onuki H, Kawatake A, Yamamichi A, Saito M, Nakanishi K, Tsuji E, Tomari S, Honda Y, Unno Y, Uchida M, Hirano T: Long-term effect of reorganization of in-hospital stroke code, a seven-year experience in a university hospital. Asia Pacific Stroke Conference 2024. Australia. September. 2024.
 23. Kawano H: A patient with previous ischemic stroke and precancerous condition prior to approval of PFO closure. CSI Asia Pacific 2024. Thailand. October. 2024.
 24. Hirano T: CON: Selecting patients for thrombectomy with advanced imaging. 16th World Stroke Congress. UAE. October. 2024.
 25. 平野照之: World Stroke OrganizationとAsia Pacific Stroke Organizationへの日本の貢献. 第42回日本神経治療学会学術集会. 浦安. 2024年11月.
 26. 河野浩之, 櫻井亜由美, 瀧澤祐騎, 豊田里沙, 三輪怜央菜, 大貫颯, 川竹彩音, 山道惇, 齋藤幹人, 中西郁, 辻栄作, 泊晋也, 本田有子, 海野佳子, 内田真由美, 平野照之: 院内発症脳卒中初期対応体制整備の長期的効果. 第42回日本神経治療学会学術集会. 浦安. 2024年11月.
 27. 海野佳子: 頭痛と女性特有の合併症および身体状況. 第52回日本頭痛学会総会. 横浜. 12月.
 28. 城野喬史, 海野佳子, 辻栄作, 本田有子, 河野浩之: 頭痛の発作状況の問診が診断に至る重要な手がかりとなった一例. 第52回日本頭痛学会総会. 横浜. 2024年12月.
 29. Kawano H, Sakurai A, Johno T, Kawatake A, Yamamichi A, Saito M, Nakanishi K, Honda Y, Unno Y, Hirano T: Outcomes of patients with in-hospital onset stroke and cancer is similar to those without cancer. International Stroke Conference 2025, USA. February. 2025.
 30. 平野照之: 急性期脳卒中治療の歩みと今日的課題. STROKE 2025. 大阪. 2025年3月.
 31. 河野浩之, 藤本茂, 高野利実, 辻哲也, 成田善孝, 塩川芳昭, 平野照之: がん脳卒中. プロジェクトチームでの取り組み. STROKE2025. 大阪. 2025年3月.
 32. 大川博之, 河野浩之, 辻栄作, 泊晋哉, 本田有子, 海野佳子, 平野照之: PFO閉鎖実施後の抗血栓療法中止は可能か. STROKE2025. 大阪. 2025年3月.
 33. 栗林加奈子, 河野浩之, 大川博之, 中西郁, 辻栄作, 泊晋哉, 本田有子, 海野佳子, 平野照之: PFO閉鎖術後の潜在性癌. STROKE2025. 大阪. 2025年3月.
 34. 平野照之: 脳梗塞急性期治療は更新されるか. STROKE 2025. 大阪. 2025年3月.
 35. 河野浩之: 初公開!Amplatzer™ PFOオクルーダー Japan PMS 3年データ. STROKE2025. 大阪. 2025年3月.
 36. 川竹彩音, 河野浩之, 豊田里沙, 三輪怜央菜, 山道惇, 齋藤幹人, 中西郁, 泊晋哉, 辻栄作, 本田有子, 海野佳子, 平野照之: 子宮腺筋症合併脳梗塞の3例. STROKE2025. 大阪. 2025年3月.
 37. 大貫颯, 河野浩之, 泊晋哉, 辻栄作, 本田有子, 海野佳子, 平野照之: DWI陰性TIA症例におけるCT灌流画像は有用か. STROKE2025. 大阪. 2025年3月.
 38. 安達卓哉, 矢嶋竜征, 坂口幸翼, 河野浩之, 五明美穂, 平野照之: 急性期脳梗塞患者の体動補正とベイズ推定を併用したCTP解析は体動の影響をうけるか? STROKE2025. 大阪. 2025年3月.
 39. Hirano T: Deepening friendship for the future. 12th Korea-Japan Joint Stroke Conference. Osaka. March. 2025.
 40. 河野浩之, 櫻井亜由美, 瀧澤祐騎, 豊田里沙, 三輪怜央菜, 大貫颯, 川竹彩音, 山道惇, 齋藤幹人, 中西郁, 辻栄作, 泊晋哉, 本田有子, 海野佳子, 内田真由美, 平野照之: 院内発症脳梗塞患者の転帰: 活動性が合併の有無による比較. STROKE2025. 大阪. 2025年3月.
 41. 河野浩之: 急性期脳梗塞診療におけるCT灌流画像の活用. 第48回日本脳神経CI学会総会. 東京. 2025年3月.
- 講演会・研究会
1. 泊晋哉: 日豪 脳卒中診療の比較. 脳卒中診療Up To Date. オンライン. 2024年4月.
 2. 平野照之: 脳卒中治療ガイドライン2023とその先を

- 識る．阿蘇都市連携Web講演会～脳卒中ネットワーク～．オンライン．2024年4月．
3. 河野浩之：PFO閉鎖は原因不明の脳梗塞再発予防になりうるか．M3 Web講演会．オンライン．2024年5月．
 4. 平野照之：脳卒中とてんかんの深い関係．第11回佐賀てんかん診療連携会．オンライン．2024年6月．
 5. 河野浩之：潜因性脳梗塞を考える．Stroke Specialist Onlineサロン．オンライン．2024年6月．
 6. 海野佳子：頭痛を知る-頭痛の疫学．Headache Master School Japan 2024．HMSJ2024 Spring Semester Hiroshima．広島．2024年6月．
 7. 河野浩之：潜因性脳梗塞の診断と閉鎖術の適応．Brain Heart地域連携PFO閉鎖セミナー．東京．2024年6月．
 8. 海野佳子：頻度の高い頭痛の診断と治療．大塚製薬株式会社メディカルワークショップ．オンライン．2024年7月．
 9. 本田有子：抗凝固療法中の中和剤導入のタイミング．Experience Sharing Symposium．オンライン．2024年7月．
 10. 海野佳子：気づいてあげたい あなたの周りの片頭痛．医療関係者のための片頭痛ケアセミナー．北見．2024年7月．
 11. 平野照之：脳卒中レジリエンス．脳卒中トータルケアセミナー2024．オンライン．2024年8月．
 12. 平野照之：脳卒中と循環器のガイドラインアップデート．第42回The Mt.Fuji Workshop on CVD．札幌．2024年8月．
 13. 三輪怜央菜，齋藤幹人，河野浩之，中西郁，本田有子，海野佳子，平野照之：椎骨動脈の走行異常と舌骨による椎骨動脈への機械的刺激が原因となった潜因性脳梗塞．第83回三鷹ニューロ研究会．三鷹．2024年9月．
 14. 吉崎彩織，海永光洋，北尾英毅，内堀歩，平野照之，鍵渡洋樹，池田憲祐，丸山啓，中富浩文，市川弥生子：T2*強調画像で微小出血所見に乏しく脳生検で脳アミロイド血管症関連炎症と診断した79歳男性例．第83回三鷹ニューロ研究会．三鷹．2024年9月．
 15. 河野浩之：PFOスクリーニング検査の重要性と実際．Amplatzer PFO occlude Imaigng workshop．福岡．2024年9月．
 16. Hirano T：T-FLAVOR. U.S. - Japan Brain Research Cooperative Program (BRCP) 2024 Networking Session. Osaka. September. 2024.
 17. 平野照之：令和の脳卒中を識る．ストップ!NO卒中プロジェクト支部講演会in石川．金沢．2024年9月．
 18. 平野照之：アクティブシニアのためのDOAC活用術．第15回脳血管山峰会研究会．熊本．2024年10月．
 19. 河野浩之：脳卒中を広く捉える．第15回脳血管山峰会研究会．熊本．2024年10月．
 20. 平野照之：令和の脳卒中を識る．埼玉西部脳神経セミナー．所沢．2024年11月．
 21. 河野浩之：がん脳卒中～Stroke Oncologyを考える～．Bridge web seminar．オンライン．2024年11月．
 22. 海野佳子：急性期治療：急性期治療薬の戦略的選択．Headache Master School Japan 2024．HMSJ2024 Autumnal Semester Kita Tohoku．秋田．2024年11月．
 23. 平野照之：令和の脳卒中連携医療．第20回Kochi Strokeフォーラム．高知・オンライン．2024年11月．
 24. 海野佳子：知っているようで知らない?!片頭痛のおはなし．脳疾患トータルケアセミナー．三島．2024年12月．
 25. 河野浩之：潜因性脳梗塞と経皮的卵円孔開存閉鎖術の新たなエビデンス．E-casebook．オンライン．2024年12月．
 26. 河野浩之：Stroke Oncologyに関する学会共同の取り組みの現在地～脳卒中診療医の立場から～．第2回Stroke Oncology研究会．東京．2024年12月．
 27. 河野浩之：がん患者の奇異性脳塞栓症診療について．第2回Stroke Oncology研究会．東京．2024年12月．
 28. 泊晋哉：がん関連脳梗塞に対する抗血栓療法開始前の出血合併症リスクの評価に関する検討．第2回Stroke Oncology研究会．東京．2024年12月．
 29. 平野照之：脳卒中の治療，内科の立場から．令和6年度脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業（厚生労働省事業）脳卒中「市民公開講座」．三鷹．2025年3月．
 30. 河野浩之：脳卒中後てんかん．UCB社内勉強会．東京．2025年3月．
 31. 平野照之：病期に応じた抗凝固薬の使い方．抗血栓療法Webセミナー．オンライン．2025年3月．

論 文

1. Johno T, Kawano H, Nagahama K, Kubota H, Hirano T: Acute Large Vessel Occlusion Caused by Giant Floating Aortic Thrombus. *Stroke*. 2024; 55(4): e117-118. DOI: 10.1161/STROKEAHA.124.046708.
2. Honda Y, Kawano H, Fujita S, Hirano T : Dynamic 3D CT Angiography can Detect Swallowing and Head-Rotation-Induced Location Inversion Between the Carotid Artery and Hyoid Bone in Asymptomatic Carotid Artery Stenosis. *J Clin Neurol*. 2024. 20(4): 450-452. doi: 10.3988/jcn.2023.0423.
3. Hirano T, Ma H¹, Delcourt C², Kleinig T³, Yan B⁴, Suwanwela NC⁵, Venketasubramanian N⁶ (1¹Monash University, 2²The University of New South Wales, 3³University of Adelaide, 4⁴University of Melbourne, 5⁵King Chulalongkorn Memorial Hospital, 6⁶Raffles Hospital): Asia Pacific Stroke Conference 2024: Transcending Borders. *Cerebrovasc Dis*. 2024. 53(Suppl 1). 3-4. doi: 10.1159/000540746.
4. Sakai C^{1,2}, Sakai N^{2,3}, Peterson C⁴, Ohta T², Oishi H⁵, Fujinaka T⁶, Matsumaru Y⁷, Ishii A¹, Imamura H⁸, Yoshimura S⁹, Izumi T¹⁰, Satow T¹¹, Ito Y¹², Sugiu K¹³, Shigeru Miyachi S¹⁴, Hirano T, Kagimura T¹⁵, Kaneko N⁴, Tateshima S⁴ (1¹Kyoto University, 2²Kobe City Medical Center General Hospital, 3³Seijinkai Shimizu Hospital, 4⁴Ronald Reagan UCLA Medical Center, 5⁵Juntendo University, 6⁶National Osaka Hospital, 7⁷Tsukuba University, 8⁸National Cerebral and Cardiovascular Center, 9⁹Hyogo Medical University, 10¹⁰Nagoya University, 11¹¹Kindai University, 12¹²Shinrakuen Hospital, 13¹³Okayama University, 14¹⁴Aichi Medical University, 15¹⁵Foundation for Biomedical Research and Innovation) : Investigator-initiated clinical trial of stabilizer device: A novel intracranial exchange guidewire for neuroendovascular treatments .

- Interventional Neuroradiology.* 2024. doi: 10.1177/15910199241262851. Online ahead of print.
- Miwa R, Saito M, Kawano H, Honda Y, Gomyo M, Hirano T: Bony Stroke Involving a Vertebral Artery Detected by Dynamic Three-dimensional Computed Tomography Angiography. *Intern Med.* 2025; 64(6): 921-923. doi: 10.2169/internalmedicine.4141-24. Epub
 - Akagi T¹, Hara H², Kanazawa H³, Fukui S⁴, Hashimoto Y⁵, Iguchi Y⁶, Iwama T⁷, Kataoka H⁸, Kawamura A⁹, Kawano H, Oki K¹⁰, Yamagami H¹¹; PFO Japan PMS Investigators⁹ (1Okayama University, 2Toho University Ohashi Medical Center, 3Keio University School of Medicine, 4Fujita Health University, 5Saiseikai Kumamoto Hospital, 6Jikei University School of Medicine, 7Gifu Municipal Hospital, 8National Cerebral and Cardiovascular Center, 9International University of Health and Welfare Narita Hospital, 10Tokyo Saiseikai Central Hospital, 11NHO Osaka National Hospital): Real-World Patent Foramen Ovale (PFO) Closure in Japan- 30-Day Clinical Outcomes From the Amplatzer™ PFO Occluder Japan Post-Marketing Surveillance Study. *Circ J.* 2024; 88(9): 1391-1397. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0080.
 - Ohara N¹, Imamura H², Satow T³, Yamagami H⁴, Yoshimura S⁵, Horie N⁶, Ishii A⁷, Fujinaka T⁸, Matsumoto Y⁹, Tsumoto T¹⁰, Kohyama S¹¹, Matsumaru Y⁴, Iihara K², Kuwayama N¹², Hirano T, Ito Y¹³, Yamamoto H², Nagai Y¹⁴, Sakai C¹⁴, Sakai N^{1,15}, for the VS-01 trial investigators(1Kobe City Medical Center General Hospital, 2National Cerebral and Cardiovascular Center, 3Kindai University, 4University of Tsukuba, 5Hyogo Medical University, 6Hiroshima University, 7Juntendo University, 8National Hospital Organization Osaka Medical Center, 9Tohoku University Hospital, 10Showa University Fujigaoka Hospital, 11Saitama Medical University International Medical Center, 12University of Toyama, 13Shinrakuen Hospital, 14Kyoto University Hospital, 15Seijinkai Shimizu Hospital): Multicenter clinical trial evaluating the safety and efficacy of mechanical thrombectomy using the Versi Retriever. *JNIS.* 2025; jnis-2024-022207. doi: 10.1136/jnis-2024-022207. Online ahead of print.
 - Saito M, Kawano H, Adachi T, Gomyo M, Yokoyama K, Shiokawa Y¹, Hirano T. (1Fuji Brain Institute and Hospital) : The presence of a ghost infarct core is associated with fast core growth in acute ischemic stroke. *Eur Stroke J.* 2024;23969873241289320. doi: 10.1177/23969873241289320. Online ahead of print.
 - Okazaki S^{1,2}, Yamamoto H³, Asakura K³, Omae K³, Maeda H³, Tanaka K³, Yamamoto S¹, Hirano T, Iguchi Y⁴, Sakaguchi M⁵, Koga M³, Ihara M³, Toyoda K³, Noguchi R³, Sakai N⁶, Yamagami H^{1,7} (1Osaka National Hospital, 2Osaka University, 3National Cerebral and Cardiovascular Center, 4Jikei University School of Medicine, 5Osaka General Medical Center, 6Seijinkai Shimizu Hospital, 7University of Tsukuba): Optimal Antithrombotic Therapy in Ischemic Stroke Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation and Atherothrombosis: Study Protocol for a Randomized Controlled Trial. *Front Neurol.* 2024;15:1468523. doi: 10.3389/fneur.2024.1468523. eCollection 2024.
 - Aoki J¹, Suzuki K¹, Sakamoto Y¹, Matsumaru Y², Takeuchi M³, Morimoto M⁴, Kanazawa R⁵, Takayama Y⁶, Kamiya Y⁷, Shigeta K⁸, Okubo S⁷, Hayakawa M², Ishii N⁹, Koguchi Y¹⁰, Takigawa T¹¹, Inoue M¹², Naito H¹³, Ota T¹⁴, Hirano T, Kato N¹⁵, Ueda T¹⁶, Iguchi Y¹⁷, Akaji K¹⁸, Tsuruta W¹⁹, Miki K²⁰, Fujimoto S²¹, Higashida T⁵, Iwasaki M⁴, Kanamaru T¹, Saito T¹, Katano T¹, Kutsuna A¹, Nishiyama Y¹, Otsuka T¹, Kimura K¹, for the SKIP study Investigators (1Nippon Medical School, 2University of Tsukuba, 3Seisho Hospital, 4Yokohama Shintoshin Neurosurgery Hospital, 5Nagareyama Central Hospital, 6Akiyama Neurosurgical Hospital, 7NTT Medical Center Tokyo, 8NHO Disaster Medical Center, 9New Tokyo Hospital, 10Chiba Emergency Medical Center, 11Dokkyo Medical University Saitama Medical Center, 12National Center for Global Health and Medicine, 13Funabashi Municipal Medical Center, 14Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, 15Mito Medical Center, 16St. Marianna University Toyoko Hospital, 17Jikei University School of Medicine, 18Mihara Memorial Hospital, 19Toranomon Hospital, 20Tokyo Medical and Dental University, 21Jichi Medical University) : High plasma BNP concentration associates with clinical outcome after mechanical thrombectomy: Post hoc analysis of SKIP. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 2024; 33(11). 107943. doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2024.107943. Epub
 - Ikeda M, Tashiro S¹, Harada Y, Ishita K, Masuda A, Hirano T, Yamada S (1Keio University School of Medicine): Effects of Prone Posture Maneuver to Ameliorate Pusher Behavior in Acute Stroke: A Retrospective Study. *J. Clin. Med.* 2024; 13(24). 7805. doi: 10.3390/jcm13247805.
 - Shimada D, Miyawaki S, Nakanishi K, Jono T, Maruoka H, Kawai T, Harada Y, Kono T, Komatsubara K, Nakauchi J, Matsumoto Y, Okada K, Dofuku S, Hongo H, Mitsui J, Teranishi Y, Ohara K, Ishigami D, Sakai Y, Kawano H, Noguchi A, Nakatomi H, Saito N, Hirano T, Shiokawa Y: RNF213 p. Arg4810Lys (c.14429G>A) is associated with extracranial arterial stenosis. *Brain Commun.* 2025; 7(1): fcfa049. doi: 10.1093/braincomms/fcaf049. eCollection 2025.
 - 平野照之: 新しい学際領域の発展Stroke Oncology 腫瘍脳卒中学. 日本臨牀. 82(増刊2) 腫瘍循環器学. 521-526. 2024.
 - 河野浩之, 塩川芳昭¹(1富士脳障害研究所附属病院): 診断・治療 脳梗塞の治療. 日本臨床. 82(増刊2) 腫瘍循環器学. 391-395. 2024.
 - 河野浩之: MRI・MRAのよみ方. *BRAIN NURSING.* 40(5). 730-734. 2024.
 - 平野照之: 脳梗塞の最新治療(第2回) テネクテプラーゼ. *Thrombosis Medicine.* 14(3). 224-229. 2024.

- 河野浩之：脳卒中に対する内科治療。TSNETS 2024. 191-250. 2024.
- 平野照之：脳卒中治療の近未来予想図 近未来の抗血栓療法 脳卒中治療薬の開発最新事情。神経治療学。41(3)。284-287. 2024.
- 河野浩之，平野照之：Vertebral artery stump syndromeの病態。臨床神経。64(11)。822-823. 2024.
- 原毅¹，角田亘¹，阿志賀太郎¹，大山直紀²，五味幸寛¹，竹川英宏³，平野照之，和田邦泰⁴，益子貴史⁵，藤本茂⁵（¹国際医療福祉大学，²川崎医科大学，³獨協医科大学，⁴熊本市民病院，⁵自治医科大学）：脳卒中急性期リハビリテーションにおける併存症と危険因子の頻度～多施設での前向き登録研究～。脳卒中。46(6)。406-414. 2024.
- 河野浩之：がん関連脳血栓症における抗血栓療法。脳神経内科。101(6)。713-718. 2024.
- 河野浩之：Stroke oncologyーがんと脳卒中ー。腫瘍内科。34(6)。589-594. 2024.
- 河野浩之。Stroke Oncology. JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION. 34(2)。148-154. 2025.
- 山道惇，平野照之：集中治療における血管疾患・合併症の管理 周術期脳卒中の治療，管理，留意点。ICUとCCU。49(3)。161-167. 2025.

著書

- 河野浩之（分担執筆）：凝血学的異常，自己免疫異常，炎症，悪性腫瘍に伴う脳梗塞。脳梗塞診療読本第4版。豊田一則 編集。中外医学社。394-412. 2024.
- 平野照之（分担執筆）：脳卒中の予防（高血圧，高脂血症 他）。脳神経外科学レビュー2025-'26。荒井一，若林俊彦 監修。総合医学社。128-134. 2024.
- 河野浩之（分担執筆）：院内発症がん関連脳卒中への取り組み。腫瘍脳卒中学。Stroke Oncology研究会監修。中外医学社。2025。126-132.
- 平野照之（分担執筆）：脳動脈解離 Cerebral artery dissection. 今日の治療指針2025年版・私はこう治療している。福井次矢，高木誠，小室一成 総編集。医学書院。2025。928-929.

その他

- 平野照之：日本脳卒中協会 東京都支部だより。JSA news. No77(17)。2024年6月。
- 平野照之：「あさいち」体験者が伝えます 脳卒中のこと。NHK総合テレビ。2024年7月。
- 海野佳子：頭痛をこじらせないための工夫 医師の立場から。市民公開講座 みんなで考えよう“頭痛退散！”Let's all think together how to relieve from headaches. 第52回日本頭痛学会総会。横浜。2024年12月。
- 平野照之：科学研究費助成事業 基盤研究(C)2019-2023. 脳機能局在を考慮した虚血コア判定システムの開発：研究成果報告書。
- 本田有子：科学研究費助成事業 基盤研究(C) 頸部回旋時嚙下運動負荷4次元CT血管造影から迫る舌骨関連脳梗塞の病態解明。(令和5年度)。
- 河野浩之：科学研究費助成事業 基盤研究(C) 灌流画像と症状持続時間を組み合わせた新たなTIA診断システムの開発(令和6-8年度)。

講演

- 三枝七都子：「地域共生社会」におけるケア実践のフィールドワーク。第50回日本保健医療社会学会大会。船橋。2024年5月。
- 関口進一郎：小児科専門医試験受験出願指導のポイント。日本小児科学会主催第33回小児科医のための臨床研修指導医講習会。大阪。2024年7月。
- 関口進一郎：指導医のありかた。日本小児科学会主催第33回小児科医のための臨床研修指導医講習会。大阪。2024年7月。
- 関口進一郎：小児科専門医試験の概況と受験出願指導における注意点。第23回日本小児医学教育研究会。東京。2024年12月。
- 関口進一郎：医療者教育の基本。日本小児科学会主催第34回小児科医のための臨床研修指導医講習会。船橋。2025年1月。
- 関口進一郎：指導医のありかた。日本小児科学会主催第34回小児科医のための臨床研修指導医講習会。船橋。2025年1月。
- 森秀明：腹部エコーマスター講座(STEP1：ビギナー向けセミナー)。アスリードセミナー。オンライン。2024年8月-9月。
- 森秀明：肝臓。超音波スクリーニング研修講演会2024東京。東京。2024年12月。
- 森秀明：腹部エコーマスター講座(STEP2：アドバンスドセミナー)。アスリードセミナー。オンライン。2025年2月-4月。
- 富田泰彦：認知症とその予防について。東久留米市介護福祉課主催令和6年度認知症講演会。東久留米市。2025年3月。

論文

- 森秀明：母体・胎児編 超音波診断 K.母体超音波検査 肝臓，胆嚢，腎臓。周産期医学。54巻増刊号：220-226. 2024.

著書

- 森秀明（分担執筆）：第1章 2超音波検査の概要。杏林大学ICIBD直伝！IBD腸管エコーマニユアル。久松理一，三好潤 編集。南江堂。2024。5-15.

その他

- 関口進一郎：杏林大学医学部附属病院第34回指導医養成ワークショップ。チーフタスクフォース。三鷹。2024年11月，12月。
- 関口進一郎：共用試験臨床実習後OSCE外部評価者。大阪医科薬科大学。2024年7月。
- 関口進一郎：共用試験臨床実習前OSCE外部評価者（医療面接ステーション）。筑波大学。2024年8月。
- 関口進一郎：共用試験臨床実習前OSCE。機構主催追・再試験。外部評価者（医療面接ステーション）。東京慈恵会医科大学。2024年10月。
- 関口進一郎：共用試験臨床実習前OSCE外部評価者（腹部診察ステーション）。鳥取大学。2024年11月。
- 関口進一郎：共用試験臨床実習前OSCE外部評価者（腹部診察ステーション）。国際医療福祉大学。2025年2月。
- 富田泰彦：第10回自衛隊中央病院指導医講習会。タスクフォース。東京。2024年11月。

講演

1. 長瀬美樹：食塩感受性高血圧の腎線維化におけるメカノチャネルPiezo2の役割。公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団第36回助成研究発表会。東京。2024年7月。
2. 長瀬美樹：腎糸球体とメカノセンサー。生理研研究会「上皮イオン環境とその変化が支える細胞機能」。岡崎。2024年8月。
3. Yamauchi H, Oishi A, Muto T, Nakayama A, Nishimura K, Kurikawa K, Yoshida M, Kudo R, Nagase M, Maenosono R, Kawachi A, Mukohyama J, Ajiro M, Yano S, Yoshimi A: BRET-based biosensors for PPP2R5A/B56α, a cancer-associated B regulatory subunit of protein phosphatase 2A. The 83rd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 福岡。2024年9月。
4. 大庭梨菜, 大石篤郎, 上野仁之, 神崎剛, 坪井伸夫, 横尾隆, 長瀬美樹：糖尿病性腎症におけるメカノセンサー分子Piezo2の発現増加と細胞外基質産生。第46回日本高血圧学会総会。博多。2024年10月。
5. 荻野聡之, 吉川慧, 長瀬敬, 三上香織, 長瀬美樹：第46回総会HR企画：Hypertension Researchの発展を目指して。第46回日本高血圧学会総会。博多。2024年10月。
6. 長瀬美樹：高血圧合併症：腎症。第46回日本高血圧学会総会。オンライン。2024年10月-11月。
7. Yamauchi H, Oishi A, Muto T, Nakayama A, Nishimura K, Kurikawa K, Yoshida M, Takasaki T, Kudo R, Koizumi M, Izumi T, Nagase M, Shinohara N, Hanzawa M, Sakumoto M, Nishino T, Maenosono R, Kawachi A, Mukohyama J, Ajiro M, Yano S, Yoshimi A: BRET-based biosensors for PPP2R5A/B56α, a cancer-associated B regulatory subunit of protein phosphatase 2A. The 86th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology. 京都。2024年10月。
8. 吉川慧, 長瀬美樹：腎線維化モデルにおけるメカノセンサーPiezo2の役割。令和6年度第53回杏林医学会総会。三鷹市。2024年11月。
9. 三上香織, 田中佑也, 長瀬美樹：腎糸球体ポドサイトにおけるメカノセンサー蛋白Piezo1の機能的役割の解明。第28回日本心血管内分泌代謝学会学術総会。博多。2024年12月。
10. 長瀬美樹：肉眼解剖学教室におけるご遺体を用いた教育・研究・サージカルトレーニングの倫理。APPW2025。千葉。2025年3月。
11. 長瀬美樹：改めて医学教育における実習とは—実習中心の解剖学の立場から。APPW2025。千葉。2025年3月。
12. Ueno H, Nagase M: Functional analysis of Myo10 in foot process formation in glomerular epithelial cells. APPW2025。千葉。2025年3月。
13. Oishi A, Kusama K, Ueno H, Yoshimi A, Nakane D, Shintake J, Nagase M: The novel fusion of different fields by the application of bioluminescent protein to soft robotics. APPW2025。千葉。2025年3月。
14. Sakuma M, Okada N, Oishi A, Ueno H, Matsumura G, Yamamoto T, Nagase M: A case of a duplicated inferior vena cava with other venous anomalies, discovered in the gross anatomy lab. APPW2025。千葉。2025年3月。

論文

1. Nagase T, Nagase M: Piezo ion channels: long-sought-after mechanosensors mediating hypertension and hypertensive nephropathy. *Hypertens Res.* 2024; 47(10):2786-2799. DOI: 10.1038/s41440-024-01820-6.
 2. Nagase M, Ando H, Beppu Y, Kurihara H, Oki S, Kubo F, Yamamoto K, Nagase T, Kaname S, Akimoto Y, Fukuhara H, Sakai T, Hirose S, Nakamura N: Glomerular Endothelial Cell Receptor Adhesion G-Protein-Coupled Receptor F5 (ADGRF5) and the Integrity of the Glomerular Filtration Barrier. *J Am Soc Nephrol.* 2024; 35(10):1366-1380. DOI: 10.1681/ASN.000000000000427.
 3. Tanaka Y, Farkhondeh A, Yang W, Ueno H, Noda M, Hirokawa N: Kinesin-1 mediates proper ER folding of the Cav1.2 channel and maintains mouse glucose homeostasis. *EMBO Rep.* 2024 25(11):4777-4802. DOI: 10.1038/s44319-024-00246-y.
 4. Watanabe K, Tokumine J, Nagase M, Matsumura G, Sawada R, Kinjo S, Yorozu T: A new and simplified extraoral approach for inferior alveolar nerve block: a cadaveric study and clinical case reports. *J Anesth.* 2024; 38(6):806-10. DOI: 10.1007/s00540-024-03396-4.
 5. Kusama K, Oishi A, Ueno H, Yoshimi A, Nagase M, Shintake J: Electrically driven, bioluminescent compliant devices for soft robotics. *ACS Appl Mater Interfaces.* 2025; 17(7): 11248-11258. DOI: 10.1021/acscami.4c18209.
- ## 著書
1. 長瀬美樹（分担執筆）：尿中好中球ゼラチナーゼ結合性リポカリン（NGAL）、尿中L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）。臨床検査ガイド 2025年改訂版。大西宏明 編集。Medical Practice編集委員会 編集。文光堂。2024。995-998。
 2. 松村讓児（著者）：薬局 2024年9月増刊号（Vol.75, No.11）西洋医学×東洋医学 解剖整理で学ぶくすりの効きどころ。南山堂。2024。
 3. 松村讓児（編著）：イラスト口腔顔面解剖学。松村讓児, 島田和幸 編著。中外医学社。2024。
 4. 松村讓児（監修）：病気がみえる8 腎・泌尿器 第4版。メディックメディア。2024。
 5. 長瀬美樹（分担執筆）：高血圧症の9割は原因が特定できない本態性である。糸球体濾過膜が障害されると蛋白尿, 糸球体硬化が生じる。カラー図解 人体の細胞生物学【改訂第2版】。坂井建雄, 石崎泰樹 編集。日本医事新報社。2025。260-263。
 6. 松村讓児（分担執筆）：4 骨, 骨の連結。5 骨格筋。6 筋膜。7 血管。8 リンパ系とリンパ筋。9 神経解剖学総論。プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系第4版。坂井建雄, 松村讓児 監訳。医学書院。2025。40-107。
 7. 松村讓児（分担執筆）：第8章呼吸器系。Crosslink basicリハビリテーションテキスト 解剖学。小澤一史, 坂井建雄, 飯島典生 編集。株式会社メジカルビュー社。2025。305-332。
 8. 松村讓児（分担執筆）：7 血液・免疫, 8 内分泌。カラー図解 人体の正常構造と機能 VII血液・免疫・内分泌 改訂第5版。坂井建雄, 河原克雅 総編集。日本医事新報社。2025。482-573。
 9. 松村讓児（監修）：病気がみえる4 呼吸器 第4版。

メディックメディア. 2025.

10. 松村讓兒 (監修) : 病気がみえる1 消化器 第7版. メディックメディア. 2025.
11. 松村讓兒 (分担執筆) : 単元2 第3章 動物のからだのつくりとはらたき. 令和7年度中学校 新編 新しい科学2. 永原裕子, 西原寛, 梶田隆章 著作代表. 東京書籍. 2025. 127-146.
12. 松村讓兒 (分担執筆) : 単元3 生命の連続性. 令和7年度中学校 新編 新しい科学3. 永原裕子, 西原寛, 梶田隆章 著作代表. 東京書籍. 2025. 72-125.

その他

1. 中村信大, 長瀬美樹 : 腎臓の血液ろ過フィルターを正常に保つタンパク質を発見—腎疾患における糸球体障害の発症機序解明へ新たな糸口. <https://www.titech.ac.jp/news/2024/069494>. 2024年6月. Press Release
2. 荻野聡之 : 第15回 Hypertension Research Award 最優秀賞. 対象論文 Roles of the mechanosensitive ion channel Piezol in the renal podocyte injury of experimental hypertensive nephropathy. Ogino S, Yoshikawa K, Nagase T, Mikami K, Nagase M. Hypertens Res. 2024; 47(3):747-759. 第46回日本高血圧学会総会. 博多. 2024年10月.
3. Nagase M : Best of ASN Journals. 対象論文 : Nagase M, Ando H, Beppu Y, Kurihara H, Oki S, Kubo F, Yamamoto K, Nagase T, Kaname S, Akimoto Y, Fukuhara H, Sakai T, Hirose S, Nakamura N: Glomerular Endothelial Cell Receptor Adhesion G-Protein-Coupled Receptor F5 (ADGRF5) and the Integrity of the Glomerular Filtration Barrier. J Am Soc Nephrol. 2024; 35(10):1366-80. DOI: 10.1681/ASN.0000000000000427. ASN Kidney Week. San Diego. October, 2024.

顕微解剖学教室

講演

1. 寺本直弥, 前澤善朗, 山口彩乃, 金子ひより, 南塚拓也, 加藤尚也, 井出真太郎, 井出佳奈, 北本匠, 越坂理也, 遠藤裕介, 秋元義弘, 横手幸太郎 : 腎糸球体ポドサイトの転写因子Tcf21は糸球体内皮細胞の保護により糖尿病関連腎臓病の進行を抑制する. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京. 2024年5月.
2. 寺本直弥, 前澤善朗, 山口彩乃, 金子ひより, 南塚拓也, 加藤尚也, 井出真太郎, 井出佳奈, 北本匠, 越坂理也, 遠藤裕介, 秋元義弘, 横手幸太郎 : 腎糸球体ポドサイトの転写因子Tcf21は糖尿病状態においてポドサイトと内皮細胞のクロストークに関与し、糖尿病関連腎臓病に保護的となる. 第97回日本内分泌学会学術総会. 横浜. 2024年6月.
3. 秋元義弘 : 免疫電子顕微鏡法. 第34回顕微鏡サマースクール. 東京. 2024年8月.
4. 宮東昭彦 : 学術画像の取り扱いと画像解析による数値化の基礎. 第49回組織細胞化学講習会. 仙台. 2024年8月.
5. 下島雪菜, 志田直樹, 中島康太, 高橋勝彦, 秋元義弘, 中島元夫, 入村達郎, 東伸昭 : ヘパラーゼが結腸癌細胞由来細胞外小胞の細胞内取り込みに与える影響. 第68回日本薬学会関東支部大会. 新潟.

2024年9月.

6. 寺本直弥, 前澤善朗, 野牛勇佑, 佐藤哲太, 山口彩乃, 井出真太郎, 井出佳奈, 遠藤裕介, 秋元義弘, 横手幸太郎 : 腎症1 腎糸球体ポドサイトの転写因子Tcf21は糸球体内皮細胞の保護により糖尿病関連腎臓病の進行を抑制する. 第39回日本糖尿病合併症学会. つくば. 2024年10月.
7. 秋元義弘 : 糖質の組織細胞化学研究の展開. 第65回日本組織細胞化学学会学術集会. 前橋. 2024年10月.
8. 菅原大介, 秋元義弘, 川上速人 : ムチンバリア構築におけるdeep crypt cellの多様性の意義の検討. 第97回日本生化学会大会. 横浜. 2024年11月.
9. 菅原大介, 秋元義弘, 川上速人 : Histological characterization of a goblet cell subpopulation, deep crypt secretory cells, in the mouse colon; their contribution to establishing region-dependent mucin glycosylation. APPW2025(第130回日本解剖学会/第102回日本生理学会/第98回日本薬理学会合同大会). 千葉. 2025年3月.
10. 瀧上周, 石川由姫, 加藤璃子, 松永彩, 早川純理, 宮東昭彦, 堀口幸太郎, 長谷川瑠美 : ラット鼻中隔前部の呼吸上皮における神経線維の電子顕微鏡観察. Electron microscopic observation of intraepithelial nerve fibers in the anterior respiratory mucosa of rat nasal septum. APPW25 (第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会). 千葉. 2025年3月.

令和4年度追加分

1. 志田直樹, 山本陽香, 中島康太, 下島雪菜, 高橋勝彦, 秋元義弘, 中島元夫, 入村達郎, 東伸昭 : ヘパラーゼがマウス結腸癌細胞由来細胞外小胞に与える影響. GlycoTOKYO 2023. 横浜. 2023年12月.

論文

1. Nagase M^{1, 2}, Ando H³, Beppu Y³, Kurihara H^{2, 4}, Oki S³, Kubo F³, Yamamoto K³, Nagase T⁵, Kaname S⁶, Akimoto Y⁷, Fukuhara H⁸, Sakai T², Hirose S³, Nakamura N³ (¹Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Anatomy and Life Structure, Juntendo University School of Medicine, ³School of Life Science and Technology, Tokyo Institute of Technology, ⁴Department of Physical Therapy, Faculty of Health Science, Aino University, ⁵Kunitachi Aoyagi Tachikawa Geriatric Health Services Facility, ⁶Department of Nephrology and Rheumatology, Kyorin University School of Medicine, ⁷Department of Microscopic Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ⁸Department of Urology, Kyorin University School of Medicine): Glomerular endothelial cell receptor adhesion g-protein-coupled receptor F5 (ADGRF5) and the integrity of the glomerular filtration barrier. J Am Soc Nephrol. 2024; 35(10):1366-1380. DOI: 10.1681/ASN.0000000000000427.
2. Ota N¹, Hirose H², Yamazaki Y³, Kato H⁴, Ikeo K⁵, Sekiguchi J⁶, Matsubara S⁶, Kawakami H⁷, Shiojiri N^{8,9} (¹Graduate School of Science and Technology, Shizuoka University, ²Department of Biology, Faculty of Science, Shizuoka University, ³Department of Biology, Faculty of Science, University of Toyama, ⁴Department of Science Education, Faculty of Education, Shizuoka University, ⁵DNA Data Analysis Laboratory,

National Institute of Genetics, ⁶Laboratory for Electron Microscopy and Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ⁷Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ⁸Graduate School of Science and Technology, Shizuoka University, ⁹Department of Biology, Faculty of Science, Shizuoka University): Comparative study on a unique architecture of the brook lamprey liver and that of the hagfish and banded houndshark liver. *Cell Tissue Res.* 2024; 398(2): 93-110. doi: 10.1007/s00441-024-03917-3.

著書

- 川上速人, 松村讓児 (監訳): ガードナー/ハイアット組織学 第4版 アトラスとテキスト. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2024.
- 川上速人 (翻訳): 第1章 組織学の研究方法入門. ガードナー/ハイアット組織学 第4版 アトラスとテキスト. 川上速人, 松村讓児監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2024. 1-6.
- 川上速人 (翻訳): 第2章 細胞生物学. ガードナー/ハイアット組織学 第4版 アトラスとテキスト. 川上速人, 松村讓児監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2024. 7-38.
- 川上速人 (翻訳): 第3章 上皮と腺. ガードナー/ハイアット組織学 第4版 アトラスとテキスト. 川上速人, 松村讓児監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2024. 39-66.
- 秋元義弘 (翻訳): 第4章 結合組織. ガードナー/ハイアット組織学 第4版 アトラスとテキスト. 川上速人, 松村讓児監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2024. 67-93.
- 菅原大介 (翻訳): 第6章 血液と造血. ガードナー/ハイアット組織学 第4版 アトラスとテキスト. 川上速人, 松村讓児監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2024. 125-151.
- 菅原大介 (翻訳): 第10章 リンパ (免疫) 組織. ガードナー/ハイアット組織学 第4版 アトラスとテキスト. 川上速人, 松村讓児監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2024. 245-281.
- 秋元義弘 (翻訳): 第12章 外皮. ガードナー/ハイアット組織学 第4版 アトラスとテキスト. 川上速人, 松村讓児監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2024. 315-338.
- 川上速人 (翻訳): 第14章 消化器系 I. ガードナー/ハイアット組織学 第4版 アトラスとテキスト. 川上速人, 松村讓児監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2024. 363-398.
- 宮東昭彦 (翻訳): 第18章 女性生殖器系. ガードナー/ハイアット組織学 第4版 アトラスとテキスト. 川上速人, 松村讓児監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2024. 501-537.
- 宮東昭彦 (翻訳): 第19章 男性生殖器系. ガードナー/ハイアット組織学 第4版 アトラスとテキスト. 川上速人, 松村讓児監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2024. 539-568.
- 川上速人 (翻訳): 付録A 見間違いやすい組織標本例. ガードナー/ハイアット組織学 第4版 アトラスとテキスト. 川上速人, 松村讓児監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2024. 597-615.
- 宮東昭彦, 秋元義弘: 学術画像の取り扱いと画像解析による数値化の基礎. 組織細胞化学2024. 日本組織細胞化学会編. 学際企画. 2024. 123-130.

その他

- 塚野萌美, 秋元義弘: 実技講習 包埋後免疫電顕法. 第34回顕微鏡サマースクール. 東京. 2024年8月.
- 秋元義弘: 2024年度日本組織細胞化学会賞 (高松賞). 糖質の組織細胞化学研究の展開. 第65回日本組織細胞化学会学術集会. 前橋. 2024年10月.
- 岸野日咲¹, 飯塚悠太¹, 木村理沙乃¹, 三上香織², 大石篤郎², 上野仁之², 宮東昭彦³, 秋元義弘³, 松村讓児², 長瀬美樹² (¹杏林大学医学部3年, ²杏林大学医学部肉眼解剖学, ³杏林大学医学部顕微解剖学): ピロリドン固定による柔軟性を組織学的に解明するーホルマリン固定との比較観察ー. (令和5年度 第13回学生リサーチ賞 受賞報告) 杏林医学会雑誌. 55(4): s27-28, 2024.

統合生理学教室

講演

- 鈴木伸弥, 中島剛, 小宮山伴与志, 大木紫: 身体運動の自動操縦とその神経機序. 第176回日本体力医学会関東地方会. 多摩市. 2024年7月.
- 小西一斉, 鈴木伸弥, 中島剛, 佐野秀仁, 川野洋介, 諸井威彦, 竹内拓海, 高橋雅人, 大木紫, 細金直文: 二重行動シミュレーション練習と経頭蓋磁気刺激の併用は皮質脊髄路興奮を増大させる. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会. 東京. 2024年10月.
- 麦山真純, 渋谷寛美, 齋藤明子, 山路野百合, 江藤千里, 渋谷賢: 看護師による侵襲的処置の教育プログラムに関する研究: スコーピングレビュー. 第12回日本シミュレーション医療教育学会学術大会. 東温市. 2024年11月.
- 八木淳一, 小林靖: 末梢感覚神経の痒み符号化に関する電気生理学的考察. 第33回国際かゆみシンポジウム. 東京. 2024年11月.
- 大木紫: Plastic Changes Observed in the Corticospinal Pathway Controlling Upper Limb Movements in Humans. APPW2025. 千葉市. 2025年3月.
- 大木紫: Plastic Changes Observed in the Corticospinal Pathway Controlling Upper Limb Movements in Humans. 東京科学大学国際シンポジウム. 東京. 2025年3月.

論文

- Shibuya H, Saito A, Mugiyama M, Yamaji N, Eto C, Shibuya S: Education programs for invasive procedures involving nurses: A scoping review. *Open J Nurs.* 2024; 14: 200-224. DOI: 10.4236/ojn.2024.145015
- Shibuya S, Ohki Y: Body ownership and tactile processing: effects of bilateral rubber hand illusion on tactile temporal order judgment. *Iperception.* 2024; 15(6):1-13. DOI: 10.1177/20416695241308146.
- Watanabe H, Shibuya S, Masuda Y, Sugi T, Saito K, Nagashima K: Spatial and temporal patterns of brain neural activity mediating human thermal sensations. *Neuroscience.* 2025; 564: 260-270. DOI: 10.1016/j.neuroscience.2024.11.045
- Shibuya S, Ohki Y: Body ownership and the motor system: rapid facilitation of embodied fake hand movement on actual movement execution. *Eur J*

Neurosci. 2025; 61(5):e70035. doi: 10.1111/ejn.70035.

5. 大木 紫：神経科学の知見を利用したニューロリハビリテーションの開発。杏林医学会雑誌。Vol.55 (4). 2024. 129-133.

病態生理学教室

講演

1. 寺田さとみ, 市川弥生子, 富樫尚彦, 高橋祐二, 徳重真一, 内堀歩, 松田俊一, 濱田雅, 長谷川一子, 辻省次, 宇川義一, 寺尾安生：リーチング時の眼の役割：小脳変性患者と健常者の比較より。第65回日本神経学会学術大会。東京。2024年5月。
2. Atsumi T, Ide M, Chakrabarty M, Terao Y: Anxiety-Mediated Neural Response to Fear Enhances Sensory Hyperresponsiveness in Autism Spectrum Disorders. INSAR2024 (International Society for Autism Research). Australia. May. 2024.
3. Mishima T, Komano K, Tabaru M, Kofuji T, Fujiwara T, Saito A, Ugawa Y, Terao Y: Low-intensity repetitive pulsed ultrasound stimulation suppresses neural activity via effects on astrocytes. FENS Forum 2024. Austria. June. 2024.
4. Fujiwara T, Kofuji T, Mishima T, Furukawa T: The analysis for the OXT-DA interaction causing social recognition deficit in syntaxin1A KO. FENS Forum 2024. Austria. June. 2024.
5. 三嶋竜弥, 駒野賢太, 中原麻梨江, 小藤剛史, 宇川義一, 寺尾安生：低強度パルス超音波の反復刺激はアストロサイトへの作用を介して神経活動を抑制する。NEURO2024。福岡。2024年7月。
6. 小藤剛史, 三嶋竜弥, 藤原智徳, 齋藤綾子, 寺尾安生：グリア細胞でのシンタキシン1B欠損が海馬神経細胞でのGABA系シナプス伝達異常を引き起こす。NEURO2024。福岡。2024年7月。
7. 藤原智徳, 小藤剛史, 三嶋竜弥, 齋藤綾子, 古川敏基, 寺尾安生：2STX1A KOにおける社会認知の障害に関わるOXT-DA相互作用。NEURO2024。福岡。2024年7月。
8. 渥美剛史, 井手正和, 寺尾安生：自閉スペクトラム症における背景ノイズによる時間分解能の変化と定型発達者への四連発磁気刺激(QPS)が与える効果。NEURO2024。福岡。2024年7月。
9. 須賀圭, 山本-土方幸子, 寺尾安生, 丑丸真：オルガネラストレス下におけるER-Golgi SNAREの発現とBAPPプロセシングの神経系細胞での比較検討。NEURO2024。福岡。2024年7月。
10. 渥美剛史, 伊藤晴香, 井手正和, 寺尾安生：自閉スペクトラム症における背景ノイズによる時間分解能の変化と定型発達者への四連発磁気刺激が与える効果。第18回日本自閉症学研究会。福岡。2024年7月。
11. 寺尾安生：トウレット症候群の衝動性眼球運動。第38回日本大脳基底核研究会。東京。2024年8月。
12. Terao Y: Transcutaneous auricular vagal nerve stimulation (taVNS). ICCN2024. Indonesia. Aug. 2024.
13. Terao Y: Effects of STN DBS on eye movements. ICCN2024. Indonesia. Aug. 2024.
14. Mishima T: In vitro experiment: astrocyte activation requisite for long-lasting suppression of neural activity. ICCN2024. Indonesia. Aug. 2024.
15. 渥美剛史, 井手正和, 近藤鮎子, 熊仁美, 松島佳苗：発達障害における感覚の問題への支援：メカニズムに基づいた実践と展望。日本心理学会第88回大会。熊本。2024年9月。
16. ハディ平和, 大久保寛, 寺尾安生, 多氣昌生, 鈴木敬久, 岸岡翔馬, 岡本真由美, 湯浅薫：電磁界ばく露により生じる繰り返しパルス音のモデル化とその聴覚特性解析。日本音響学会第152回研究発表会。大阪。2024年9月。
17. 大久保寛, ハディ平和, 寺尾安生, 多氣昌生, 畑純一, 上田麻理, 鈴木敬久：高周波パルス電磁界ばく露による聴覚的効果に関する実験的検証システムの開発。日本音響学会第152回研究発表会。大阪。2024年9月。
18. 寺田さとみ, 市川弥生子, 富樫尚彦, 徳重真一, 内堀歩, 高橋祐二, 松田俊一, 濱田雅, 長谷川一子, 宇川義一, 辻省次, 寺尾安生：遺伝性脊髄小脳変性症とパーキンソン病における眼・指運動協調の時間空間的特徴の相違。第54回日本臨床神経生理学会。札幌。2024年10月。
19. 徳重真一, 寺尾安生, 内尾直裕, 辻省次, 湯本真人：脳磁図で発作焦点を同定しえた、てんかんによる失語発作の一例。第54回日本臨床神経生理学会学術大会。札幌。2024年10月。
20. 渥美剛史, 伊藤晴香, 上田明音, 井手正和, 寺尾安生：Similarity of Visual and Tactile Temporal Order Judgment in Noisy Environments between Individuals with and without Autism Spectrum Disorders. 学術変革領域研究(A)「クオリア構造学」2024年度領域会議。三浦。2024年10-11月。
21. Nakayama T, Yamane T, Ekimoto T, Inoue M, Ikezaki K, Sekiguchi H, Kuramochi M, Terao Y, Judai K, Saito M, Ikeguchi M, Sasaki YC：チューブリン二量体の量子スケール分子運動解析。第97回日本生化学会大会。横浜。2024年11月。
22. Terao Y, Ito D, Fisicaro F, Mishima T, Inomata-Terada S, Yuasa K, Ugawa Y: What mechanisms underlie transcranial ultrasound stimulation? Speculations from human MEP studies. The 6th International Brain Stimulation Conference. Kobe. February. 2025.

論文

1. Shin J, Matsumoto M, Maniruzzaman M, Hasan MAM, Hirooka K, Hagihara Y, Kotsuki N, Inomata-Terada S, Terao Y, Kobayashi S: Classification of Hand-Movement Disabilities in Parkinson's Disease Using a Motion-Capture Device and Machine Learning. IEEE Access. 2024; 12: 52466-52479. DOI: 10.1109/ACCESS.2024.3386367.
2. Numata A, Terao Y, Sugawara K, Ugawa Y, Furubayashi T: Differences in the movement phase condition and sensory inputs on temporal synchronization and continuation during bilateral foot-tapping tasks. Front Hum Neurosci. 2025; 19: 1518230. DOI: 10.3389/fnhum.2025.1518230. eCollection 2025.

3. Kaneko A, Atsumi T, Ide M: Temporal resolution relates to sensory hyperreactivity independently of stimulus detection sensitivity in individuals with autism spectrum disorder. *Perception*. 2024; 53(9): 585-596. DOI: 10.1177/03010066241259729.
4. 渥美剛史, 井手正和, 寺尾安生: 自閉スペクトラム症の感覚過敏と時間認知特性. *脳神経内科*. 2024; 100(6): 618-626.
5. 寺田さとみ, 宇川義一: Stiff person syndromeの診断と治療. *Video Journal of MD*. 2024; 3(1): 33-37.
6. 寺田さとみ: 視覚の腹側経路と背側経路. *脳神経内科*. 2024; 101(3): 259-265.
7. Nakayama T, Singh AK, Fukutomi T, Nori, Uchida N, Terao Y, Hamada H, Muraoka T, Muthusamy E, Kundu TK, Akagawa K: Activator of KAT3 Histone Acetyltransferase Family Ameliorates a Neurodevelopmental Disorder Phenotype in the Syntaxin 1A Ablated Mouse Model. *Cell Rep*. 2024; 43(4): 114101. DOI: 10.1016/j.celrep.2024.114101.

著書

1. 寺尾安生: 解剖生理がわかる脳と神経をめぐる旅. メジカルビュー社. 2024.
2. 渥美剛史, 井手正和 (分担執筆): 感覚研究はどのようにASDの理解と支援に役立つか. こころの科学. 日本評論社. 2024. 235号. 71-76.

報告書

1. 岡本真由美, 寺尾安生: 総務省委託研究 高周波パルス電磁界による生体作用に関する研究. 令和5年度研究報告書.

代謝生化学教室

講演

1. 山本隆史, 後藤田貴也: キヌレン酸代謝系酵素が糖代謝に及ぼす影響の検討. 日本動脈硬化学会総会・学術集会. 神戸. 2024年7月.

論文

1. Yamamoto T, Iizuka Y, Izumi-Yamamoto K, Shirota M, Mori N, Tahara Y, Fujita T, Gotoda T: Overexpression of Slc22a18 facilitates fat accumulation in mice. *Biochem Biophys Res Commun*. 2024. 712-713. 149922. doi: 10.1016/j.bbrc.2024.149922.

細胞生化学教室

講演

1. 青柳共太, 西脇知世乃, 中道洋子, 山下俊一, 神吉智丈, 今泉美佳: Imeglimin preserves mitochondrial quality control to restore insulin secretion and suppress apoptotic cell death in pancreatic b-cells of *db/db* mice. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京. 2024年5月.
2. 青柳共太, 西脇知世乃, 中道洋子, 今泉美佳: 膵β細胞におけるマイトファジーにはBNIP3とNixが関与する. 2024年度日本生化学会関東支部例会. 東京. 2024年6月.

3. 青柳共太, 西脇知世乃, 中道洋子, 今泉美佳: 膵β細胞におけるマイトファジーにはBNIP3とNixが関与する. 第76回日本細胞生物学会大会. つくば. 2024年7月.
4. 青柳共太, 西脇知世乃, 中道洋子, 今泉美佳: 膵β細胞におけるマイトファジーにはBNIP3とNixが関与する. *Neuro2024*. 福岡. 2024年7月.
5. Goto N, Shoji H, Nishikawa M, Takamiya Y, Kurashina T, Ageta-Ishihara N, Ohara-Imaizumi M, Morioka Y, Sasakura H, Takeuchi K, Miyakawa T, Kinoshita M: *Sept7^{+/+}* mice exhibit partial lethality, low body weight, heat avoidance delay, and social dominance. *Neuro2024*. 福岡. 2024年7月.
6. 青柳共太: イメグリミンによる膵β細胞のミトコンドリア品質改善. *Imeglimin Expert Summit*. オンライン. 2024年10月.
7. 今泉美佳: インスリン極性分泌のメカニズム. APPW2025 第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会 合同大会 シンポジウム. 千葉. 2025年3月.

論文

1. Aoyagi K, Nishiwaki C, Nakamichi Y, Yamashita SI¹, Kanki T, Ohara-Imaizumi M (Department of Cellular Physiology, ¹Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata): Imeglimin mitigates the accumulation of dysfunctional mitochondria to restore insulin secretion and suppress apoptosis of pancreatic b-cells from *db/db* mice. *Sci Rep*. 2024. vol.14(1): 6178. doi: 10.1038/s41598-024-56769-w.
2. 今泉美佳, 青柳共太: 2相性インスリン開口分泌のメカニズム. *Diabetes Journal* 糖尿病と代謝. 51(2). 44-52. 2024.
3. 今泉美佳: イメージングによるインスリン分泌機構の解明. *杏林医学会雑誌*. 55(1). 7-13. 2024.
4. 今泉美佳: 2相性インスリン開口放出の分子機構 Molecular mechanism of biphasic insulin exocytosis. *日本臨牀83増刊号*2. 96-101. 2025.

薬理学教室

口演

1. 深田俊幸, 原貴史, 田村朋則, 田中弦, 寺嶋優臣, 濱村賢吾, 吉田優哉, 葛西祐介, 布村一人, 木村徹, 藤代瞳, 中山雄太, 梅山拓巳, 野口綾香, 中井靖乃, 吉開会美, 松永直哉, 大戸茂弘, Knutson M, 今川洋, 浜地格: 金属トランスポーターZIP14を阻害する化合物の同定と創薬に向けた研究. 日本薬学会第145回年会. 福岡. 2025年3月.
2. Suehiro JI: Endothelial LAT1 inhibition normalized tumor vasculature by upregulating CTH expression. 日本血管生物医学会特別集会. 東京. 2025年2月.
3. Suehiro JI, Kimura T, Fukutomi T, Naito H, Kanki Y, Wada Y, Kubota Y, Takakura N, Sakurai H. Endothelial LAT1 inhibition improved the tumor microenvironment via normalization of tumor vasculature. *CVMW2024*心血管代謝週間 第32回日本血管生物医学会. 東京. 2024年12月.
4. 福中彩子, 田中弦, 木村徹, HENGPHASAPTORN

K, 重田育照, 深田俊幸, 藤谷与士夫: ZIP13は脂肪細胞内の亜鉛と鉄の制御を介して脂肪分解を調節する. 第97回日本生化学会大会. 横浜. 2024年11月.

5. 福中彩子, 田中弦, 木村徹, HENGPHASAPTORN K, 重田育照, 綿田裕孝, 深田俊幸, 藤谷与士夫: 金属トランスポーターZIP13は脂肪細胞内の亜鉛と鉄のバランスにより脂肪分解を制御する. メタルバイオサイエンス研究会2024. 熊本. 2024年10月.
6. 福中彩子, 田中弦, 木村徹, HENGPHASAPTORN K, 重田育照, 綿田裕孝, 深田俊幸, 藤谷与士夫: 金属トランスポーターZIP13は脂肪細胞内の亜鉛と鉄のバランスにより脂肪分解を制御する. 第35回日本微量元素学会学術集会. 所沢. 2024年9月.
7. 福中彩子, 田中弦, 木村徹, Kowitz HENGPHASAPTORN, 重田育照, 綿田裕孝, 深田俊幸, 藤谷与士夫: 金属トランスポーターZIP13は脂肪細胞内の亜鉛と鉄のバランスにより脂肪分解を制御する. 第22回生体機能研究会. 前橋. 2024年9月.

論文

1. Suehiro JI, Kimura T, Fukutomi T, ¹Naito H, ²Kanki Y, ³Wada Y, ⁴Kubota Y, ⁵Takakura N, Sakurai H(¹Kanazawa University, ²University of Tsukuba, ³The University of Tokyo, ⁴Keio University, ⁵Osaka University): Endothelial cell-specific LAT1 ablation normalizes tumor vasculature. JCI Insight. 2024. 9(18). e171371. doi: 10.1172/jci.insight.171371.
2. ¹Nakayama T, ²Singh AK, Fukutomi T, ³Uchida N, ¹Terao Y, ⁴Hamada H, ³Muraoka T, ²Muthusamy E, ²Kundu TK, ¹Akagawa K (¹Department of Medical Physiology, Kyorin University School of Medicine, ²Jawaharlal Nehru Centre for Advanced Scientific Research, ³Tokyo University of Agriculture and Technology, ⁴Okayama University of Science): Activator of KAT3 histone acetyltransferase family ameliorates a neurodevelopmental disorder phenotype in the syntaxin 1A ablated mouse model. Cell Rep. 2024. 43(4). 114101. doi: 10.1016/j.celrep.2024.114101.
3. ¹Fukunaka A, Tanaka G, ²Kimura T, ³Hengphasatporn K, ¹ ⁴Saito D, ⁵Shigeta M, ¹Shibata H, ⁶Ichinose T, ⁷ ⁸Abe I, ⁹ ¹⁰Shimura M, ¹Sato T, ¹Nakagawa Y, ¹Horii T, ¹Hatada I, ⁸Kajimura S, ⁵Kiyonari H, Sakurai H, ³Shigeta Y, ⁴Watada H, ¹¹Fukada T, ¹Fujitani Y(¹Gunma University, ²Josai University, ³University of Tsukuba, ⁴Juntendo University, ⁵RIKEN Center for Biosystems Dynamics Research, ⁶Toray Research Center, ⁷Oita University, ⁸Beth Israel Deaconess Medical Center and Harvard Medical School, ⁹Research Institute National Center for Global Health and Medicine, ¹⁰RIKEN Spring-8 Center, ¹¹Tokushima Bunri University): ZIP13 regulates lipid metabolism by changing intracellular iron and zinc balance. bioRxiv, <https://doi.org/10.1101/2024.07.03.601606>, 2024.

病理学教室

講演

1. 宮川総一郎, 小林英資, 山崎好美, 下田由莉江, 野邊美月, 波田野冨佳, 木下美咲, 柴山隆宏, 下山田

博明, 大山学: 高齢男性の頭部に生じたポリオーマウイルス陰性複合型メルケル細胞癌の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 宮崎. 2024年4月.

2. 津端しおり, 關里和, 友近瞬, 榎藤興一, 柴山隆宏, 川村直弘, 阪本良弘, 柴原純二, 森秀明, 久松理一: 腹部超音波検査で診断しえた胆嚢軸捻転症の2症例. 日本超音波医学会 第79回学術集会. 横浜市. 2024年5月.
3. 馬場智尚, 喜舎場朝雄, 西本優子, 藤原正親: 症例検討会(オーガナイザー 皿谷健), 症例2. 第64回日本呼吸器学会学術講演会. 横浜市. 2024年4月.
4. 伴光直人, 高田佐織, 柴山隆宏, 里見介史, 藤原正親, 石田学, 佐田充, 中本啓太郎, 皿谷健, 石井晴之: びまん性の小葉中心性すりガラス陰影を伴う呼吸器/関節症状で発症し気管支鏡で石灰化を証明した異所性肺石灰化症の1例. 第188回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会. 東京. 2024年4月.
5. 柴原純二: 脳腫瘍の診断: WHO分類2021後の新たな知見. 第12回日本脳腫瘍学会Webinar講演会. オンライン. 2024年5月.
6. 新井信晃, 中里陽子, 鳥羽麻友子, 石本麻衣, 田中利明, 磯村杏耶, 林玲匡, 藤原正親, 三ツ間智也, 平野浩一: AFTNとPHPTの希少な合併症例に対し甲状腺左葉切除と副甲状腺摘出術を施行した1例. 第36回日本内分泌外科学会総会. 久留米市. 2024年5月.
7. 中里陽子, 新井信晃, 鳥羽麻友子, 三ツ間智也, 石本麻衣, 田中利明, 磯村杏耶, 藤原正親, 平野浩一: 当科で経験した甲状腺疾患による気道狭窄症例の検討. 第36回日本内分泌外科学会総会. 久留米市. 2024年5月.
8. Satomi K, Nikai Y, Nagahama K, Yamagishi Y, Sasaki S, Saito K, Kobayashi K, Nagane M, Shibahara J: Two adult cerebellar cases of pediatric-type diffuse high-grade glioma diagnosed by DNA methylome. 第42回脳腫瘍病理学会. 呉. 2024年5月.
9. 里見介史: 胎児性腫瘍. 第42回脳腫瘍病理学会. 呉. 2024年5月.
10. 里見介史: 臨床病理検討会CP1-1. 第42回脳腫瘍病理学会. 呉. 2024年5月.
11. 里見介史: 臨床病理検討会CP1-2. 第42回脳腫瘍病理学会. 呉. 2024年5月.
12. 里見介史, 二階雪野, 長濱清隆, 佐々木重嘉, 齋藤邦昭, 小林啓一, 永根基雄, 柴原純二. DNAメチロームにより小児型びまん性高悪性度膠腫と診断された成人小脳膠腫の2例. 第42回日本脳腫瘍病理学会. 呉. 2024年5月.
13. 市村幸一: My Quest~若手研究者へのメッセージ~. 第42回日本脳腫瘍病理学会. 呉市. 2024年5月.
14. Ichimura K: Central diagnosis of pediatric brain tumors in Japan Children's Cancer Group. SIOP Asia 2024. Yokohama. June. 2024.
15. 遠藤英仁, 峯岸祥人, 稲葉雄亮, 高橋雄, 鬼塚裕美, 藤原正親, 菊池華子, 伊波巧, 副島京子, 窪田博: 多発性僧帽弁瘤による僧帽弁閉鎖不全症を呈した特発性肺動脈性高血圧症の1例. 第195回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 宇都宮市. 2024年6月.
16. 浅野史男, 百村麻衣, 森定徹, 林玲匡, 田邊一成, 市川美雄, 大河戸光章, 藤原正親, 柴原純二, 小林陽一: HPV関連原発不明癌の1例. 第65回日本臨床細胞学会総会春期大会. 大阪市. 2024年6月.
17. 田中良太, 藤原正親, 新井信晃, 中里陽子, 橋啓盛,

- 内海凌，菅野瞳，田邊一成，岸本浩次，柴原純二：核酸品質の視点からみた細胞診検体取扱い 肺がんゲノム診療における細胞検体の取扱い 核酸品質の視点から今考えること。第65回日本臨床細胞学会総会春期大会。大阪市。2024年6月。
18. 田中良太，藤原正親，新井信晃，中里陽子，橘啓盛，内海凌，菅野瞳，田邊一成，岸本浩次，柴原純二：呼吸器細胞診新報告様式の運用の問題点 WHOの呼吸器細胞診新報告様式 肺がん診療におけるメリットと今後の課題。第65回日本臨床細胞学会総会春期大会。大阪市。2024年6月。
 19. 野口由香，岸本浩次，田邊一成，菅野瞳，内海凌，坂口碧，里見介史，永根基雄，柴原純二：成人の小脳に発生したAngiocentric gliomaの一例。第65回日本臨床細胞学会総会春期大会。大阪市。2024年6月。
 20. 内海凌，岸本浩次，田邊一成，菅野瞳，野口由香，坂口碧，柴山隆宏，田中良太，柴原純二：経皮的肺針生検時にROSEを実施した孤立性線維性腫瘍の1例。第65回日本臨床細胞学会総会春期大会。大阪市。2024年6月。
 21. 内田直洋，鍛冶諒介，壽美竜太郎，白川貴大，望月もえぎ，平塚智也，宮本尚彦，大野亜希子，久松理一，日比谷孝志，磯村杏耶，藤原正親，柴原純二：胃結晶蓄積性組織球症から発症した胃MALTリンパ腫の一例。第118回日本消化器内視鏡学会関東支部例会。東京。2024年6月。
 22. 鍵渡宝，小島洋平，井手麻友美，鶴見賢直，大木亜津子，竹内弘久，日比谷孝志，二階雪野，長濱清隆，柴原純二，阿部展次：胃癌幽門側胃切除術RY再建後十二指腸断端陽性例に対して十二指腸追加切除を行った1例。第872回外科集談会。東京。2024年6月。
 23. 里見介史：DNAメチル化プロファイルによる脳腫瘍分類～何を，何のために分類するのか？～。医学会連合基礎部会第3回Rising Starリトリート。函館。2024年6月。
 24. 里見介史：脳腫瘍のゲノム・エピゲノム-形態診断からAI診断まで。京都脳腫瘍セミナー。大阪。2024年6月。
 25. 渡邊百恵，澁谷裕美，百村麻衣，松本浩範，森定徹，北濱圭一郎，柴山隆宏，日比谷孝志，長濱清隆，藤原正親，柴原純二，小林陽一：進行膀胱癌に対する化学療法後に子宮頸部胃型腺癌の膀胱転移と診断された1例。第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会。鹿児島市。2024年7月。
 26. 山田貴大，権藤興一，江藤晃一郎，荻本直堯，川本翔，神林孔明，落合一成，日比谷孝志，林玲匡，土岐真朗，柴原純二，久松理一：脾内に多発性腫瘍を呈した脾悪性リンパ腫の1例。第55回日本脾臓学会大会。宇都宮市。2024年7月。
 27. 市村幸一：脳腫瘍の分子診断と治療応用。第43回宮崎脳腫瘍研究会。宮崎市。2024年7月。
 28. 大貫朋也，辻野千聖，桑原彩子，小林誠，雨宮咲織，関雅史，吉森恵未，日比谷孝志，柴原純二，佐藤範英，高山信之：形質細胞腫瘍に対する自家末梢血幹細胞移植後に二次性急性リンパ芽球性白血病を発症した1例。第21回日本血液学会関東甲信越地方会。箱根町。2024年7月。
 29. Ichimura K: All About Genetics in CNSGCT. ASNO (Asian Society for Neuro-Oncology) 2024. Singapore. August. 2024.
 30. 里見介史：脳腫瘍統合診断におけるWHO2021のpros and cons. 脳腫瘍の基礎シンポジウム。東京。2024年8月。
 31. 江藤晃一郎，権藤興一，荻本直堯，山田貴大，川本翔，神林孔明，落合一成，渡邊俊介，柴山隆宏，林玲匡，土岐真朗，柴原純二，大森鉄平，久松理一：超音波内視鏡下組織採取が診断に有用であった同時性多発脾管癌の1例。日本消化器病学会関東支部第381回例会。東京。2024年9月。
 32. 柳原啓輝，布川寛樹，中元康雄，石田学，佐田充，高田佐織，皿谷健，藤原正親，橘啓盛，石井晴之：胸腔鏡下の肺生検で肺葉内肺分画症と診断した健診発見の一例。第186回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・第261回日本呼吸器学会関東地方会合同学会。東京。2024年9月。
 33. 宮本彩子，川上貴久，國友理恵，鮎澤信宏，川嶋聡子，池谷紀子，岸本暢將，磯村杏耶，長濱清隆，駒形嘉紀：IgG4関連腎臓病に膜性腎症とIgA腎症の合併が疑われた一例。第54回日本腎臓学会東部学術大会。宇都宮市。2024年9月。
 34. 山本陣，鮎澤信宏，川嶋聡子，池谷紀子，川上貴久，岸本暢將，磯村杏耶，長濱清隆，駒形嘉紀：Light chain proximal tubulopathy (LCPT) の合併が考慮されたAL アミロイドーシスの1例。第54回日本腎臓学会東部学術大会。宇都宮市。2024年9月。
 35. 小澤萌枝，川井有紀，三橋洋，山口慧，長山尚平，田中翔平，安部えりこ，坂早苗，磯村杏耶，長濱清隆，岩本彩雄，田村功一：紅麹サプリメント摂取後にFanconi症候群を発症した1例。第54回日本腎臓学会東部学術大会。宇都宮市。2024年9月。
 36. 星野幹，谷高百合奈，綿田水月，正田若菜，久山環，磯村杏耶，長濱清隆，高橋大栄：BJP- κ 型多発性骨髄腫に対して化学療法導入後にLight chain deposition diseaseによるネフローゼ症候群を発症した一例。第54回日本腎臓学会東部学術大会。宇都宮市。2024年9月。
 37. 西田秀範，池下佳秀，宮崎貴規，平井俊行，藤井徹郎，長濱清隆：IgM陽性形質細胞を伴った尿細管間質性腎炎 (IgMPC-TIN) が疑われた一例。第54回日本腎臓学会東部学術大会。宇都宮市。2024年9月。
 38. 谷高百合奈，正田若菜，綿田水月，星野幹，久山環，磯村杏耶，長濱清隆，高橋大栄：紅麹コレステヘルプに関連した腎機能障害4症例の臨床経過。第54回日本腎臓学会東部学術大会。宇都宮市。2024年9月。
 39. 仲村憲人，大谷恵，長濱清隆，長友彰子，吉田鈴，岡井一弘，佐々木幹人，鈴木綾香，平澤卓，安藝昇太，田中啓之：新型コロナウイルス (COVID-19) 感染後にサルコイドーシスを発症した1例。第54回日本腎臓学会東部学術大会。宇都宮市。2024年9月。
 40. 大谷恵，長濱清隆，長友彰子，吉田鈴，岡井一弘，佐々木幹人，鈴木綾香，平澤卓，安藝昇太，田中啓之：クローン病合併IgA腎症に対して扁桃摘出およびステロイドパルス療法を実施し腎機能改善を認めた一例。第54回日本腎臓学会東部学術大会。宇都宮市。2024年9月。
 41. 伊藤未奈，須田一晴，山口遵，堀秀有，渋谷幸見，橋本浩平，橘啓盛，田中良太，近藤晴彦，藤原正親：稀な肺内孤立性線維性腫瘍の1例。第65回日本肺癌学会学術集会。横浜市。2024年10月。
 42. 雨宮咲織，小林誠，佐藤範英，吉森恵未，大貫朋也，藤原正親，三井達也，久松理一，高山信之：アザシチジン投与後に血液学的所見とともに消化器症状の改善がみられた腸管ペーチェット病合併MDS。第86回日本血液学会学術集会。京都市。2024年10月。
 43. 関雅史，桑原彩子，小林誠，佐藤範英，藤原正親，高山信之：シクロスポリンが奏効した高齢者自己免疫性好中球減少症。第86回日本血液学会学術集会。

- 京都市. 2024年10月.
44. 増田萌, 桑原彩子, 関雅史, 小林誠, 佐藤範英, 日比谷孝志, 柴原純二, 高山信之: 節性辺縁帯リンパ腫に対するペンダムスチン+リツキシマブ療法後にPRCAを発症し自然寛解した1例. 第86回日本血液学会学術集会. 京都市. 2024年10月.
 45. 大貫朋也, 吉森恵未, 小林誠, 佐藤範英, 日比谷孝志, 柴原純二, 吉敷智和, 須並英二, 高山信之: 小腸穿孔を合併するも腹腔ドレナージにて加療し, 自家移植を施行し得た単形性上皮向性腸管T細胞リンパ腫. 第86回日本血液学会学術集会. 京都市. 2024年10月.
 46. 市村幸一: わが国における脳腫瘍の分子診断の現状と展望. 第83回日本脳神経外科学会学術総会. 横浜市. 2024年10月.
 47. Hayashi A, Funakoshi S, Shibayama T, Shibata T, Sakamoto Y, Shibahara J: A Case of Differentiating Pancreatic Cancer from Bile Duct Cancer: Identification of Novel Diagnostic Markers for Precise Differentiation. The 76th Annual Fall Meeting of the Korean Society of Pathologists. Korea. November. 2024.
 48. 林玲匡, 土岐 真朗, 菅野瞳, 田邊一成, 岸本浩次, 田中良太, 柴原純二: 臨床像・組織診の対比を中心とした膵癌の細胞診におけるポイントとその限界. 第63回日本臨床細胞診学会秋期大会. 千葉市. 2024年11月.
 49. 宮川由佳, 浅野史男, 百村麻衣, 菅野瞳, 田邊一成, 柴山隆宏, 長濱清隆, 森定徹, 柴原純二, 小林陽一: 卵巣悪性ブレンナー腫瘍の1例. 第63回日本臨床細胞診学会秋期大会. 千葉市. 2024年11月.
 50. 山口遵, 橋本浩平, 峯岸祥人, 稲葉雄亮, 伊藤未奈, 渋谷幸見, 柴山隆宏, 須田一晴, 橋啓盛, 田中良太, 藤原正親, 窪田博, 近藤晴彦: 心不全で発症した右房進展を伴う胸腺腫の一切除例. 第196回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京. 2024年11月.
 51. 田中良太, 藤原正親, 新井信晃, 中里陽子, 橋啓盛, 枝千春, 菅野瞳, 田邊一成, 岸本浩次, 柴原純二: 肺癌における細胞診検体を用いた遺伝子パネル検査の現状 プレアナリシス段階における細胞診検体の取り扱いの最適化に向けて. 第63回日本臨床細胞診学会秋期大会. 千葉市. 2024年11月.
 52. 里見介史: 脳腫瘍. 第63回日本臨床細胞学会秋期大会. 千葉. 2024年11月.
 53. 坂口碧, 岸本浩次, 田邊一成, 鈴木瞳, 野口由香, 北濱圭一郎, 日比谷孝志, 林玲匡, 長濱清隆, 藤原正親, 柴原純二: 濾胞性リンパ腫の細胞診判定基準の検討. 第63回日本臨床細胞学会秋期大会. 千葉市. 2024年11月.
 54. 田邊一成, 岸本浩次, 鈴木瞳, 枝千春, 野口由香, 日比谷孝志, 長濱清隆, 柴原純二: 細胞診材料が判定に有用であった外陰部の乳房外Paget病の2例. 第63回日本臨床細胞学会秋期大会. 千葉市. 2024年11月.
 55. 田邊一成, 岸本浩次, 鈴木瞳, 枝千春, 野口由香, 北濱圭一郎, 村田翔平, 長濱清隆, 柴原純二: HPV関連腺癌の細胞集塊の大きさに関する検討. 第63回日本臨床細胞学会秋期大会. 千葉市. 2024年11月.
 56. 市村幸一: 脳腫瘍の分子診断の現状と課題. 第40回多摩脳腫瘍研究会. 三鷹市. 2024年11月.
 57. 池田慶人, 池谷紀子, 木村直仁, 吉崎彩織, 海永光洋, 徳重真一, 加藤憲一郎, 磯村杏耶, 川嶋聡子, 川上貴久, 岸本暢将, 市川弥生子, 藤原正親, 柴原

純二, 駒形嘉紀: Focal myositisの臨床像を呈した抗ARS抗体陽性の1例. 第34回日本リウマチ学会関東支部学術集会. 東京. 2024年12月.

58. 里見介史, 柴山隆宏, 村田翔平, 林玲匡, 磯村杏耶, 松下裕子, 鬼塚裕美, 日比谷孝志, 長濱清隆, 久ヶ澤一葉, 佐々木重嘉, 齊藤邦昭, 小林啓一, 五明美穂, 土屋一洋, 永根基雄, 市村幸一, 柴原純二: 扁平上皮分化を呈する脈絡叢癌の一例-DNAメチル化分類のピットフォールか?-. 第42回脳腫瘍学会. 三重. 2024年12月.

論文

【和文】

1. 里見介史, 野口由香, 田邊一成, 柴原純二: 脳腫瘍術中迅速細胞診のピットフォール. 病理と臨床. 2024. 42(10). 1016-1023.
2. 林玲匡: 進歩する病理学 空間オミクス解析とは. 消化器病学サイエンス. 2024. 8 (2) . 92-96.
3. 林玲匡: 分子病理 (腫瘍内系統樹解析) からみた膵癌の多様性. 胆と膵. 2024. 45 (7) . 729-734.
4. 秋吉真理子, 澁谷裕美, 大坪翔, 三ツ矢紫音, 島田智子, 渡邊百恵, 百村麻衣, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一, 長濱清隆, 柴原純二: DOAC内服中に多発脳梗塞を発症し, Trousseau症候群と診断された子宮体癌の1例. 東京産科婦人科学会会誌. 2024. 73(3). 506-511.
5. 敷藤衣里加, 浅野史男, 百村麻衣, 阪口響子, 高屋敷瑞穂, 富岡紀子, 澁谷裕美, 松本浩範, 森定徹, 小林陽一, 長濱清隆, 藤原正親: レンパチニブ+ペムプロリズマブ療法により完全寛解を維持している再発子宮体癌の1例. 東京産科婦人科学会会誌. 2024. 73(4). 834-040.
6. 小島洋平, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 長濱清隆, 日比谷孝志, 柴原純二, 阿部展次: 【十二指腸・小腸疾患アトラス】腫瘍, 腫瘍様病変 リンパ増殖性病変 濾胞性リンパ腫. 消化器内視鏡. 2024. 36(4). 476-477. DOI:10.24479/endo.0000001318.
7. 井手麻友美, 小島洋平, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 北濱圭一郎, 柴原純二, 阿部展次: 【十二指腸・小腸疾患アトラス】腫瘍, 腫瘍様病変 粘膜下腫瘍/粘膜下腫瘍様病変 十二指腸GIST. 消化器内視鏡. 2024. 36(4). 522-523.

【英文】

1. Kitahama K, Shigematsu Y, Amori G, Sugawara E, Yonese J, Shibahara J, Takeuchi K, Inamura K: RAS Family Gene Mutations, Clinicopathological Features, and Spread Patterns of Inverted Urothelial Papilloma of the Bladder. *Am J Surg Pathol.* 2024;48(4):458-464. doi: 10.1097/PAS.0000000000002171.
2. Masui K, Onizuka H, Muragaki Y, Kawamata T, Kurata A, Komori T: Intratumoral heterogeneity of CDKN2A deletions in IDH-mutant astrocytoma. *Brain Tumor Pathol.* 2024;41(2):92-95. doi: 10.1007/s10014-024-00484-x.
3. Masui K, Onizuka H, Muragaki Y, Kawamata T, Kurata A, Komori T: Progression of long-term "untreated" oligodendroglioma cases: possible contribution of genomic instability. *Brain Tumor Pathol.* 2025;42(2):43-47. doi: 10.1007/s10014-025-00497-0. Epub.
4. Abbasi S, Matsui-Masai M, Yasui F, Hayashi A, Tockary TA, Mochida Y, Akinaga S, Kohara M, Kataoka K, Uchida S: Carrier-free mRNA vaccine

- induces robust immunity against SARS-CoV-2 in mice and non-human primates without systemic reactogenicity. *Mol Ther.* 2024;32(5):1266-1283. doi: 10.1016/j.ymthe.2024.03.022.
5. Abe E, Suzuki M, Ichimura K, Arakawa A, Satomi K, Ogino I, Hara T, Iwamuro H, Ohara Y, Kondo A: Implications of DNA Methylation Classification in Diagnosing Ependymoma. *World Neurosurg.* 2024;185:e1019-e1029. doi: 10.1016/j.wneu.2024.03.013.
 6. Shibayama T, Hayashi A, Nagahama K, Hibiya T, Shibuya H, Kobayashi Y, Shibahara J: Ovarian Sex Cord Tumor Harboring FUS::CREM Fusion : An Ovarian Counterpart of Inflammatory and Nested Testicular Sex Cord Tumor?. *Am J Surg Pathol.* 2024;48(6):773-775. doi: 10.1097/PAS.0000000000002180.
 7. Nemoto N, Inami T, Onozawa S, Kohno T, Nagahama K, Soejima K, Hisamatsu T: A case report of limitation of transcatheter hepatic arterial embolization for hereditary hemorrhagic telangiectasia type 2 with pulmonary arterial hypertension. *Int J Surg Case Rep.* 2024;119:109634. doi: 10.1016/j.ijscr.2024.109634.
 8. Kato K, Yamashita K, Dobashi A, Togashi Y, Baba S, Ae K, Matsumoto S, Takeuchi K: Novel THBS1::IGF1R fusion in myopericytic tumour. *Histopathology.* 2024 ;85(1):197-201. doi: 10.1111/his.15186.
 9. Shibayama T, Hayashi A, Toki M, Kitahama K, Ho YJ, Kato K, Yamada T, Kawamoto S, Kambayashi K, Ochiai K, Gondo K, Okano N, Melchor JP, Iacobuzio-Donahue CA, Sakamoto Y, Hisamatsu T, Shibahara J: Combination immunohistochemistry for CK5/6, p63, GATA6, and HNF4a predicts clinical outcome in treatment-naïve pancreatic ductal adenocarcinoma. *Sci Rep.* 2024;14(1):15598. doi: 10.1038/s41598-024-65900-w.
 10. Hanyu T, Ishibashi R, Kitamura K, Nishida N, Yuba Y, Honjo G, Satomi K, Ichimura K, Shibahara J, Sawada T, Ishimori T, Takebe N, Hashikata H, Toda H: Intraventricular pituitaryoma: illustrative case. *J Neurosurg Case Lessons.* 2024;8(9):CASE24247. doi: 10.3171/CASE24247. Print 2024 Aug 26.
 11. Sekino Y, Sonoda Y, Shibahara I, Mizusawa J, Sasaki K, Sekita T, Ichikawa M, Igaki H, Kinoshita M, Kumabe T, Shibahara J, Ichimura K, Arakawa Y, Fukuda H: Brain Tumor Study Group (BTSG) of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG); Narita Y: Protocol digest of a phase III randomized trial of gross total resection versus possible resection of fluid-attenuated inversion recovery-hyperintense lesion on MRI for newly diagnosed supratentorial glioblastoma: JCOG2209 (FLAMINGO). *Jpn J Clin Oncol.* 2024; 55(1):75-79. doi: 10.1093/jjco/hyae130.
 12. Shibayama T, Hayashi A, Ab Osamura A, Onizuka H, Masui K, Murakami K, Yamamoto T, Nagashima Y, Takeda M, Kurata A: An Autopsy Case of Fulminant Systemic Infection of *Clostridium perfringens* With a Diverse Role of Toxins in a Healthy Patient. *Case Rep Pathol.* 2024;2024:9213132. doi: 10.1155/2024/9213132.
 13. Shibayama T, Hayasi A, Abe N, Ohki A, Satomi K, Shibahara J: Gastric mesenchymal tumor with gastroblastoma-like features harboring PTCH1::GLI2 fusion. *Virchows Arch.* 2024;485(3):563-567. doi: 10.1007/s00428-024-03812-w.
 14. Inoue S, Takami H, Tanaka S, Nomura M, Takayanagi S, Saito Y, Kikuta S, Kondo K, Matsuura R, Ikemura M, Yamazawa S, Matsutani M, Nishikawa R, Matsushita Y, Ichimura K, Saito N: Nasal immature teratoma in an elderly patient: Clinicopathological and epigenetic analogies with central nervous system counterparts, alongside genomic divergences. *Neuropathology.* 2024. doi: 10.1111/neup.13008. Online ahead of print.
 15. Niwa H, Kato T, Hasegawa T, Kuwabara K, Ohka F, Hirato J, Sasaki S, Ichimura K, Yoshioka T, Naito T, Mizuno A, Kageyama A, Oishi H, Saito R: Recurrent symptomatic intracranial hemorrhage in high-grade astrocytoma with piloid features: illustrative case. *J Neurosurg Case Lessons.* 2024;8(15):CASE24395. doi: 10.3171/CASE24395.
 16. Imoto R, Otani Y, Fujii K, Ishida J, Hirano S, Kemmotsu N, Suruga Y, Mizuta R, Kegoya Y, Inoue Y, Umeda T, Hokama M, Washio K, Yanai H, Tanaka S, Satomi K, Ichimura K, Date I: Tectal glioma: clinical, radiological, and pathological features, and the importance of molecular analysis. *Brain Tumor Pathol.* 2024. doi: 10.1007/s10014-024-00494-9. Online ahead of print.
 17. Nakano Y, Nobusawa S, Sato-Otsubo A, Nakashima T, Suzuki H, Yamasaki K, Shirakura T, Inoue T, Okuno T, Kato M, Ichimura K, Sakamoto H: TCF3::BEND2 in paediatric supratentorial tumour with carcinoma-like epithelial features classifying as MN1-altered astroblastoma by DNA methylation profiling. *Neuropathol Appl Neurobiol.* 2024 ;50(5):e13011. doi: 10.1111/nan.13011.
 18. Yajima H, Takayanagi S, Takami H, Tanaka S, Nomura M, Satomi K, Ikemura M, Nobusawa S, Saito R, Kondo A, Saito N: Novel case of ependymoma-like tumor with mesenchymal differentiation harboring ZFTA::RELA fusion in an adult. *Brain Tumor Pathol.* 2024;41(3-4):139-144. doi: 10.1007/s10014-024-00489-6.
 19. Honma H, Tateishi K, Iwashita H, Miyake Y, Tsujimoto S, Hayashi H, Ohgaki F, Nakano Y, Ichimura K, Yamanaka S, Kato M, Fujii S, Ito S, Yokoo H, Yamamoto T: Primary intracranial sarcoma associated with DICER1 mutant: a case report and preclinical investigation. *Brain Tumor Pathol.* 2024. doi: 10.1007/s10014-024-00495-8. Online ahead of print.
 20. Satomi K, Shibayama T, Hibiya T, Hayashi A, Nagahama K, Kato K, Nikai Y, Matsushita Y, Gomyo M, Yamagishi Y, Sasaki N, Saito K, Kobayashi K, Takeda A, Fujimoto S, Matsuo T, Takai K, Komori T, Tsuchiya K, Nagane M, Ichimura K, Shibahara J: MYB::QKI fusion-positive diffuse glioma of the cerebellum: A case report. *Neuropathology.* 2024. doi:

- 10.1111/neup.13016. Online ahead of print.
21. Hattori K, Makishima K, Suma S, Abe Y, Suehara Y, Sakamoto T, Kurita N, Ishii R, Matsuoka R, Matsuda M, Tsurubuchi T, Nishikawa R, Tanaka S, Mukasa A, Narita Y, Ichimura K, Nagane M, Takano S, Mathis BJ, Ishikawa E, Matsubara D, Chiba S, Sakata-Yanagimoto M: Association between microenvironment-related genes and prognosis of primary central nervous system lymphoma. *EJHaem*. 2024;5(6):1201-1214. doi: 10.1002/jha2.1046.
 22. Yamaguchi N, Wu YG, Ravetch E, Takahashi M, Khan AG, Hayashi A, Mei W, Hsu D, Umeda S, de Stanchina E, Lorenz IC, Iacobuzio-Donahue CA, Tavazoie SF: A Targetable Secreted Neural Protein Drives Pancreatic Cancer Metastatic Colonization and HIF1 α Nuclear Retention. *Cancer Discov*. 2024;14(12):2489-2508. doi: 10.1158/2159-8290.CD-23-1323.
 23. Ozeki Y, Honda-Kitahara M, Yanagisawa S, Takahashi M, Ohno M, Miyakita Y, Kikuchi M, Nakano T, Hosoya T, Sugino H, Satomi K, Yoshida A, Igaki H, Kubo Y, Ichimura K, Suzuki H, Masutomi K, Kondo A, Narita Y: Early progressive disease within 2 years in isocitrate dehydrogenase (IDH)-mutant astrocytoma may indicate radiation necrosis. *Jpn J Clin Oncol*. 2024 doi: 10.1093/jjco/hyae151. Online ahead of print.
 24. Nikai Y, Satomi K, Saito K, Gomyo M, Matsushita Y, Kato K, Nagahama K, Isomura A, Hayashi A, Yamagishi Y, Sasaki N, Kobayashi K, Tsuchiya K, Nagane M, Ichimura K, Shibahara J: Glioblastoma, IDH-wildtype manifesting as intracranial hemorrhage: A case report highlighting the clinical utility of digital polymerase chain reaction in integrated diagnoses. *Neuropathology*. 2025. doi: 10.1111/neup.13025. Online ahead of print.
 25. Oba R, Ueno H, Oishi A, Nagahama K, Kanzaki G, Tsuboi N, Yokoo T, Nagase M: Upregulation of Piezo2 and increased extracellular matrix protein in diabetic kidney disease mice. *Hypertens Res*. 2025;48(4):1514-1528. doi: 10.1038/s41440-024-02082-y. Epub.
 26. Mullen KM, Hong J, Attiyeh MA, Hayashi A, Sakamoto H, Kohutek ZA, McIntyre CA, Zhang H, Makohon-Moore AP, Zucker A, Wood LD, Myers MA, Arnold BJ, Zaccaria S, Chou JF, Capanu M, Socci ND, Raphael BJ, Iacobuzio-Donahue CA: The Evolutionary Forest of Pancreatic Cancer. *Cancer Discov*. 2025;15(2):329-345. doi: 10.1158/2159-8290.CD-23-1541.
 27. Kawai Y, Ozawa M, Isomura A, Mitsushashi H, Yamaguchi S, Nagayama S, Tanaka S, Abe E, Saka S, Nagahama K, Iwamoto T, Tamura K: A case of Fanconi syndrome that developed following a year of consumption of a red yeast rice supplement. *CEN Case Rep*. 2025;14(1):95-102. doi: 10.1007/s13730-024-00913-y.
 28. Ohmoto A, Kitahama K, Shigematsu Y, Hayashi N, Yonese J, Inamura K, Takahashi S: Genomic features of bladder neuroendocrine carcinoma with composite histology. *Histol Histopathol*. 2025;18887. doi: 10.14670/HH-18-887.
 29. Hiraide T, Tsuda N, Momoi M, Shinya Y, Sano M, Fukuda K, Shibahara J, Kuramoto J, Kanai Y, Kosaki K, Hakamata Y, Kataoka M: CXCL12/CXCR4 pathway as a novel therapeutic target for RNF213-associated pulmonary arterial hypertension. *Sci Rep*. 2024 Nov;14(1):26604. doi: 10.1038/s41598-024-77388-5.
 30. Masui K, Onizuka H, Muragaki Y, Kawamata T, Nagashima Y, Kurata A, Komori T: Integrated assessment of malignancy in IDH-mutant astrocytoma with p16 and methylthioadenosine phosphorylase immunohistochemistry. *Neuropathology*. 2025 ;45(1):66-75. doi: 10.1111/neup.13005.
 31. Tanaka R, Tsuboshita Y, Okodo M, Settsu R, Hashimoto K, Tachibana K, Tanabe K, Kishimoto K, Fujiwara M, Shibahara J: Artificial Intelligence Recognition Model Using Liquid-Based Cytology Images to Discriminate Malignancy and Histological Types of Non-Small-Cell Lung Cancer. *Pathobiology*. 2025;92(1):52-62. doi: 10.1159/000541148.
- その他**
1. 久松理一, 三好潤, 三上洋平, 林玲匡: これからの消化器病学研究に必要な新しい研究テクニック (対談). *消化器病学サイエンス*. 2024. 8 (2) . 61-69.
- 感染症学教室**
- 講演**
1. 渡瀬桃子, 寺島楽, 河野天音, 須藤直樹, 関根靖彦: ユビキノン生合成系遺伝子変異株におけるsRNAの新規機能の解析. 第20回21世紀大腸菌研究会. 宮崎. 2024年6月.
 2. 豊島治, 松崎潤太郎, 太田浩良, 大崎敬子, 下山克: *Helicobacter pylori* 感染の診断と治療のガイドライン改訂版: 診断. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会. 岡山. 2024年6月.
 3. 北条史, 大崎敬子: PMA-PCRによるピロリ菌VBNCの評価. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会. 岡山. 2024年6月.
 4. 徳永健吾, 沖本忠義, 柴山恵吾, 安藤貴志, 小野尚子, 佐々木誠人, 珍田大輔, 磯本一, 浅岡大輔, 岩本淳一, 中島滋美, 小林寅吉, 竹内啓晃, 林俊治, 横田憲治, 横田伸一, 林原絵美子, 村上和成, 大崎敬子: わが国におけるWebアンケートフォームを用いた「*H. pylori* 診断と治療」の実態調査. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会. 岡山. 2024年6月.
 5. 大崎敬子, 北条史, 岡健太郎, 蔵田訓, 高橋志達, 三戸部治郎, 神谷茂: *Helicobacter pylori* 母子感染モデルの水平感染効率の検討. 第97回日本細菌学会総会. 札幌. 2024年8月.
 6. 須藤直樹, 岡田信彦, 三戸部治郎: 腸管出血性大腸菌の病原性調節遺伝子の発現を制御する小分子RNAの網羅的解析. 第97回日本細菌学会総会. 札幌. 2024年8月.
 7. 山本章治, 李健一, 窪村亜希子, 伊豫田淳, 明田幸宏, 相川智宏, 岡村雅史, 北条史, 大崎敬子, 三戸部治郎: *Campylobacter jejuni* の phase variation によって生じるバリエーションを安定化したライブラリーの作製と評価. 第97回日本細菌学会総会. 札幌.

2024年8月.

8. 北条史, 三戸部治郎, 神谷茂, 大崎敬子: PMA-PCRによるピロリ菌VBNCの評価. 第97回日本細菌学会総会. 札幌. 2024年8月.
9. Osaki T, Hojo F, Tokunaga K: Role of anti-*Helicobacter pylori* antibodies and gastric microbiota in mother-to-child transmission of *H. pylori*. 22nd Campylobacter Helicobacter & Related Organisms (CHRO). Australia. October. 2024.
10. Osaki T, Yokota K, Hayashi S, Yokota S, Takeuchi H, Rimbara E, Ojima H, Sato T, Yonezawa H, Shibayama K, Tokunaga T, Kamiya S, Murakami K, Kato M and Toshiro S: Establishment of a reference panel of *Helicobacter pylori* strains for antimicrobial susceptibility testing. 22nd Campylobacter Helicobacter & Related Organisms (CHRO). Australia. October. 2024.
11. Tokunaga K, Okimoto T, Ando T, Sasaki M, Ono S, Kobayashi I, Shibayama K, Chinda D, Nakajima S, Osaki T, Rimbara E, Sugiyama T, Kato M, Murakami K: Antimicrobial-resistant *Helicobacter pylori* in Japan: Report of nationwide surveillance for 2018-2020. 22nd Campylobacter Helicobacter & Related Organisms (CHRO). Australia. October. 2024.
12. Imai R, Komaki S, Settsu R, Obara A, Shimada A, Osaki T, Ishii HS: Chronic nasal inflammation induces dysbiosis of the nose and gut microbiota, 14th Mind-Body Interface International Symposium. Taiwan. October. 2024.
13. 徳永健吾, 三好佐和子, 井田陽介, 林原絵美子, 大崎敬子, 神保陽子, 大野亜希子, 久松理一: 昔「鳥肌」, 今「鳥肌」. 新たな(に)胃病変を考える会. 神戸. 2024年10月.
14. 徳永健吾, 石井さなえ, 今井龍一, 三好佐和子, 大崎敬子: *Helicobacter suis* 感染症の新規疾患発現に関する研究~パーキンソン病の病態に及ぼす影響~中間報告. 第53回杏林医学会総会. 三鷹市. 2024年11月.
15. 今井龍一(指導教員: 大崎敬子): 慢性鼻腔炎症に誘発される鼻腔・腸内細菌叢のディスバイオーシス. 第53回杏林医学会総会. 三鷹市. 2024年11月.
16. 今井龍一, 小牧すずほ, 大崎敬子, 石井さなえ: 慢性鼻腔炎症に誘発される鼻腔細菌叢・腸内細菌叢のディスバイオーシス. 第58回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会. 藤沢市. 2025年1月.
17. 北条史, 大崎敬子: 無菌マウス体内における *Helicobacter pylori* の生態と形態について. 第58回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会. 藤沢市. 2025年1月.
18. 大崎敬子: *Helicobacter pylori* と Gut microbiota 基本と最近の話題, 日本ヘリコバクター学会第9回教育講演会. オンライン. 2025年3月.

論文

1. Banerjee S¹, Halder P¹, Das S¹, Maiti S², Withey J³, Mitobe J, Chowdhury G¹, Kitahara K⁴, Miyoshi S⁴, Mukhopadhyay A. K¹, Dutta S¹, Koley H¹(¹ICMR-National Institute of Cholera and Enteric Diseases, ²University of Missouri, Columbia, ³Wayne State University School of Medicine, ⁴Okayama University): Trivalent outer membrane vesicles-based combination vaccine candidate induces protective immunity against

Campylobacter and invasive non-typhoidal Salmonella in adult mice. Med Microbiol. Immunol. 2024 ; vol.213(1): 21. doi: 10.1007/s00430-024-00805-z.

2. Vale FF¹, Roberts RJ¹, HpGP Research Network(including Osaki T)², Kobayashi I^{3,4}, Camargo MC⁵, Rabkin CS⁶: (¹Universidade de Lisboa, ²New England Biolabs,³Hosei University,⁴University of Tokyo, ⁵National Institute for Basic Biology, ⁶National Cancer Institute): Gene content, phage cycle regulation model and prophage inactivation disclosed by prophage genomics in the *Helicobacter pylori* Genome Project. Gut Microbes. 2024 ; 16(1):2379440. doi: 10.1080/19490976.2379440.
3. Oguri N¹, Miyoshi J¹, Nishinarita Y¹, Wada H¹, Nemoto N¹, Hibi N¹, Kawamura N¹, Miyoshi S², Lee TMS³, Matsuura M¹, Osaki T, Hisamatsu T¹. (¹Department of Gastroenterology and Hepatology, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Preventive Medicine, Kyorin University School of Medicine,³Kansas State University): *Akkermansia muciniphila* in the small intestine improves liver fibrosis in a murine liver cirrhosis model. NPJ Biofilms Microbiomes. 2024 ; 10 (1) : 81. doi: 10.1038/s41522-024-00564-y.
4. Hasegawa-Ishii S¹, Komaki S¹, Asano H¹, Imai R¹, Osaki T (¹Pathology Research Team, Faculty of Health Sciences, Kyorin University): Chronic nasal inflammation early in life induces transient and long-term dysbiosis of gut microbiota in mice. Brain Behav Immun Health. 2024; 41: 100848. doi:10.1016/j.bbih. 100848.

著書

1. 大崎敬子(分担執筆): *H. pylori* 感染の診断と治療のガイドライン2024改訂版. 日本ヘリコバクター学会ガイドライン作成委員会. 先端医学社. 2024.

その他

1. Koley H, Maiti S, Das S, Mukherjee A, Mishra D, Debnath A, Mukhopadhyay A.K, Withey J, Mitobe J. Shigella vaccine development at ICMR-NIRBI: Leading Multidimensional approaches. India. December. 2024.

衛生学公衆衛生学教室

講演

1. 岡田浩幸, 竹内正樹, 吉田正雄, 荻原悠太, 水木信久, 岡田栄一: 素材別のソフトコンタクトレンズの返品率による患者満足度の客観的評価 第2報. 第66回日本コンタクトレンズ学会総会. 東京. 2024年7月.
2. Shirato K, Kasuga K, Ogasawara J, Takanari J, Ishii H, Kizaki T, Karita K: Anti-inflammatory effect of ETAS®50 via inhibition of NLRP3 inflammasome formation in macrophages. The 32nd Annual Meeting of International Congress on Nutrition and Integrative Medicine (ICNIM2024). Sapporo. July. 2024.
3. 小笠原準悦, 白土健: ライチフルーツ表皮由来の低分子化ポリフェノール複合体である Oligonol® は

- 3T3-L1脂肪細胞の中性脂肪の蓄積を抑制する. 第57回北海道学校保健学会. 札幌市. 2024年10月.
- 春日啓介, 白土健, 石井晴之: ヒト末梢血単核球と *C. acnes* の共培養による肉芽腫様細胞凝集塊の形成とシロリムスの作用: 肺サルコイドーシス患者と健常者の比較検討. 第5回シロリムス新作用研究会. 新潟市. 2024年10月.
 - 荻田香苗, 吉田正雄, 荻田慎一: 東京都におけるCOVID-19制限措置期間の大気中微小粒子状成分濃度と循環器疾患救急患者数の変動. 第89回日本健康学会総会. 東京. 2024年10月.
 - 高橋恭子, 宮澤麻友子, 尾東智花, 原和永, 小畑瞳, 大江絵理, 山田義憲, 小山加代, 好本裕平, 吉田正雄: 療養型病院入院患者における耳垢栓塞の割合とその関連要因. 第12回日本慢性期リハビリテーション学会. 横浜市. 2024年11月.
 - 鈴木裕, 島谷昌明, 藤澤聡郎, 高橋幸治, 吉田正雄, 伊佐山浩通, 田中篤: 肝内結石全国調査WG. 厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」肝内結石・硬化性胆管炎分科会. 東京. 2025年1月.
 - 吉田正雄: 武蔵村山病院「医の倫理研修」講演会. 武蔵村山市. 2025年2月.
 - 荻田慎一, 大塚弘毅, 白土健, 吉田正雄, 荻田香苗: DNA修復機能部分欠損メダカでのマイクロプラスチック曝露による病理増悪効果の検討. 第95回日本衛生学会学術総会. さいたま市. 2025年3月.
 - 白土健, 荻田慎一, 吉田正雄, 荻田香苗: ナノプラスチック曝露によるマウス腹腔滲出マクロファージの脂肪滴形成. 第95回日本衛生学会学術総会. さいたま市. 2025年3月.

論文

- Funakoshi S^{1,2}, Suzuki Y^{1,2}, Yoshida M, Momose H^{1,2}, Matsuki R^{1,2}, Kogure M^{1,2}, Abe N², Sunami E², Sakamoto Y^{1,2} (1Department of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Kyorin University Hospital, 2Department of General and Gastroenterological Surgery, Kyorin University School of Medicine). Advantage of post-operative inflammatory status after laparoscopic distal pancreatectomy. *Dig Surg*. 2024; 41(5-6): 213-223. Doi: 10.1159/000541449.
- Suzuki Y¹, Yoshida M, Fujisawa T², Shimatani M³, Tsuyuguchi T⁴, Mori T, Tazuma S⁵, Isayama H², Tanaka A⁶ (1Department of Gastroenterological Surgery, Kyorin University Suginami Hospital, 2Graduate School of Medicine, Juntendo University, 3Kansai Medical University Medical Center, 4Chiba Prefectural Sawara Hospital, 5JR Hiroshima Hospital, 6Teikyo University School of Medicine): Assessing outcomes and complications of secondary hepatolithiasis after choledochostomy: A nationwide survey in Japan. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*. 2024; 31(10): 716-725. Doi: 10.1002/jhbp.12061.
- Okada H^{1,2}, Yoshida M, Takeuchi M¹, Okada E², Mizuki N¹ (1Yokohama City University Graduate School of Medicine, 2Okada Eye Clinic): The relationship between contact lens ultraviolet light transmittance and myopia progression: a large-scale retrospective cohort study. *Precis Clin Med*. 2024; 7(4): pbae022. Doi: 10.1093/pcmedi/pbae022.
- Suzuki Y^{1,2}, Yoshida M, Goto A², Yamazaki A^{2,3},

Arai T⁵, Yoshida T^{2,3}, Kagiwata T², Funakoshi S^{2,3}, Kudo S^{2,3}, Kawaguchi S^{2,3}, Hasui N^{2,3}, Momose H^{2,3}, Matsuki R^{2,3}, Kogure M^{2,3}, Nakazato T⁵, Sakata H⁶, Hata S⁴, Mori T², Sakamoto Y^{2,3} (1Department of Gastroenterological Surgery, Kyorin University Suginami Hospital, 2Department of General and Gastroenterological Surgery, Kyorin University School of Medicine, 3Department of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Kyorin University Hospital, 4Showa General Hospital, 5Tokyo Metropolitan Institute for Geriatrics and Gerontology, 6Kanto Rosai Hospital) Development and validation of a nomogram to predict the need for bailout procedure in laparoscopic cholecystectomy: A multicenter study of 1,898 cases. *Surgery*. 2025; 182: 109324. Doi: 10.1016/j.surg.2025.109324. Online ahead of print.

- 岡田浩幸^{1,2}, 竹内正樹², 吉田正雄, 萩原悠太¹, 水木信久², 岡田栄一¹ (1岡田眼科, 2横浜市立大学): タイプ別のソフトコンタクトレンズの返品率による患者満足度の客観的評価 第1報. *日本コンタクトレンズ学会誌*. 66. 3号. 131-135. 2024.
- 大嶋翔¹, 遠山沙央理¹, 松田大¹, 高橋恭子¹, 宮澤麻友子¹, 山田義憲¹, 川崎卓也¹, 大塚敏男¹, 好本祐平¹, 吉田正雄 (1埼玉回生病院): 遷延性意識障害が回復し自宅退院可能となった1症例の報告【第2報】—言語療法と多職種連携を行って—. *全日本病院学会誌*. 35(1). 1-4. 2024.
- Razavi A^{1,2}, Raei M¹, Shirato K (1Mazandaran University of Medical Sciences, 2Tehran University of Medical Science): Association of IFNAR2 and TYK2 with COVID-19 pathology: current and future. *Frontiers in Immunology*. 2024; 15: 1462628. Doi: 10.3389/fimmu.2024.1462628.

著書

- 荻田香苗: 適切な換気方法. 中学保健体育-中学生のための学習支援コンテンツ (電子メディア). 大日本図書. 2024.
- 吉田正雄 (分担執筆): 第1回メディックメディア第119回医師国試模試2024 (電子メディア). *メディックメディア*. 2024.
- 吉田正雄 (分担執筆): 第2回メディックメディア第119回医師国試模試2024 (電子メディア). *メディックメディア*. 2024.
- 吉田正雄 (分担執筆): 第3回メディックメディア第119回医師国試模試2024 (電子メディア). *メディックメディア*. 2024.
- 吉田正雄 (分担執筆): 第118回医師国家試験解説. *メディックメディア*. 2024.
- 吉田正雄 (分担執筆): 学生生活サポートガイド-性感染症 (STD)・薬物・飲酒・喫煙-. 中央大学学生手帳2024. 中央大学. 2024. 88-92.
- 吉田正雄 (分担執筆): 第71回臨床検査技師国家試験問題 (令和7年2月19日実施). 厚生労働省. 2025.

報告書

- Himeno S, Kairta K, Iwasawa S, Sobue T, Nakayama S, Matsui T, et.al (Food Safety Commission of Japan): Cadmium (3rd Ed.) Chemicals and Contaminants. Risk Assessment Reports. *Food Safety*. 12(3). 2024.

2. 荻田香苗, 荻田慎一 (分担) : メチル水銀曝露による健康影響および環境負荷に関するレビュー ; 「水俣病に関する総合的研究 (重金属等による健康影響に関する総合的研究)」。令和6年度環境省委託業務報告書。2025。1-53.

その他

1. 荻田香苗 : サーバント型リーダーの育成から考えるDE&I社会の進展。日本健康学会誌。2024 ; 90(6)。1-2.

法医学教室

講演

1. 山田真嗣, 武市敏明, 吉田昌記, 高篠智, 桐生京佳, 北村修 : 法医剖検例における Thymus and Activation-Regulated Chemokine の測定意義。第108次日本法医学会学術全国集会。岡山。2024年6月。
2. 山田千歩, 奈良明奈, 小酒井友, 陶山愛美, 吉田昌記, 岩原香織, 高木徹也 : 血液培養によって原因菌が特定されたイヌ咬傷の剖検例。第108次日本法医学会学術全国集会。岡山。2024年6月。
3. 桐生京佳, 武市敏明, 高篠智, 吉田昌記, 山田真嗣, 高橋かすみ, 北村修 : 左冠動脈肺動脈起始症による乳児突然死の剖検例。第108次日本法医学会学術全国集会。岡山。2024年6月。
4. 奈良明奈, 山田千歩, 小酒井友, 陶山愛美, 吉田昌記, 岩原香織, 高木徹也 : 経口摂取によるシアン中毒死にもかかわらず検視時の簡易検査で陰性を示した剖検例。第108次日本法医学会学術全国集会。岡山。2024年6月。
5. 吉田昌記, 武市敏明, 高篠智, 桐生京佳, 山田真嗣, 高橋かすみ, 奈良明奈, 岩原香織, 高木徹也, 北村修 : 分光測色計により設定した遺体皮膚の基準色とスキントーン・カラースケールにより測定した遺体皮膚色の相関。第108次日本法医学会学術全国集会。岡山。2024年6月。
6. 吉田昌記, 高篠智, 武市敏明, 桐生京佳, 山田真嗣, 高橋かすみ, 山田千歩, 奈良明奈, 岩原香織, 高木徹也, 北村修 : 弾性包帯を用いて作製した簡易人工皮膚による遺体修復の試み。第20回警察歯科医会全国大会。山口。2024年8月。
7. 武市敏明, 山田真嗣, 吉田昌記, 高篠智, 桐生京佳, 北村修 : 自殺事例の海馬歯状回門におけるアストロサイトの形態変化。第93回日本法医学会学術関東地方集会。成田。2024年10月。
8. 山田千歩, 奈良明奈, 小酒井友, 陶山愛美, 吉田昌記, 岩原香織, 高木徹也 : 貨物船倉内における急性二酸化炭素中毒死の剖検例。第25回日本法医学会学術北日本地方集会。山形。2024年11月。
9. 吉田昌記, 高篠智, 武市敏明, 山田真嗣, 氣賀澤秀明, 桐生京佳, 北村修 : 継続的虐待行為と暴言により自殺教唆事件に至った剖検例。第9回日本子ども虐待防止歯科研究会・学術大会。東京。2024年12月。

論文

1. Yamada A^{1,2}, Kiryu K¹, Takashino S¹, Yoshida M¹, Takeichi T¹, Kitamura O¹, (¹Department of Legal Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Dermatology, Jichi Medical University Saitama Medical Center) : Diagnostic value of serum thymus and activation-

regulated chemokine (TARC) in fatal asthma. *Forensic Sci Int.* 2024 ;365:112276. doi: 10.1016/j.forsciint.2024.112276. Epub 2024 Oct 29.

2. Yamada A, Kiryu K, Takashino S, Yoshida M, Takeichi T, Kitamura O, (Department of Legal Medicine, Kyorin University School of Medicine) : Blue toe syndrome-systemic cholesterol crystal embolism secondary to cardiovascular procedures: a forensic autopsy report of two cases. *Forensic Sci Med Pathol.* 2024 . doi: 10.1007/s12024-024-00917-1. Online ahead of print.
3. 奈良明奈¹, 山田千歩¹, 小酒井友¹, 陶山愛美¹, 吉田昌記^{1,2}, 岩原香織^{1,3}, 高木徹也^{1,3} (¹東北医薬大 医法医学, ²杏林大 医法医学, ³日本歯大 生命歯 齒科法医学) : 青酸の予試験で陰性を示した青酸中毒の1剖検例。法医学の実際と研究。67巻。95-100。2024年。
4. 山田千歩¹, 奈良明奈¹, 小酒井友¹, 陶山愛美¹, 吉田昌記^{1,2}, 岩原香織^{1,3}, 高木徹也^{1,3} (¹東北医薬大 医法医学, ²杏林大 医法医学, ³日本歯大 生命歯 齒科法医学) : 下垂体卒中によって発生した交通死亡事故の剖検例。法医学の実際と研究。67巻。101-106。2024年。
5. 山田千歩¹, 奈良明奈¹, 小酒井友¹, 陶山愛美¹, 吉田昌記^{1,2}, 岩原香織^{1,3}, 高木徹也^{1,3} (¹東北医薬大 医法医学, ²杏林大 医法医学, ³日本歯大 生命歯 齒科法医学) : 気管原発腺様嚢胞癌を基盤とした細菌性肺炎で死亡した高齢女性の剖検例。法医学の実際と研究。67巻。107-112。2024年。

共同研究施設RI部門

学会発表

1. Fujiwara T, Kofuji T, Mishima T, Furukawa T: The analysis for the OXT-DA interaction causing social recognition deficit in syntaxin1A KO. *FENS Forum 2024. Austria. June 2024.*
2. Mishima T, Komano K, Tabaru M, Kofuji T, Fujiwara T, Saito A, Ugawa Y, Terao Y: Low-intensity repetitive pulsed ultrasound stimulation suppresses neural activity via effects on astrocytes. *FENS Forum 2024. Austria. June 2024.*
3. 小藤剛史, 三嶋竜弥, 藤原智徳, 齋藤綾子, 寺尾安生 : グリア細胞でのシntaxin1B欠損が海馬神経細胞でのGABA系シナプス伝達異常を引き起こす。 *NEURO2024. 福岡。2024年7月。*
4. 三嶋竜弥, 駒野賢太, 田原麻梨江, 小藤剛史, 宇川義一, 寺尾安生 : 低強度パルス超音波の反復刺激はアストロサイトへの作用を介して神経活動を抑制する。 *NEURO2024. 福岡。2024年7月。*
5. 藤原智徳, 小藤剛史, 三嶋竜弥, 齋藤綾子, 古川敏基, 寺尾安生 : STX1A KOにおける社会認知の障害に関わるOXT-DA相互作用。 *NEURO2024. 福岡。2024年7月。*

共同研究施設フローサイトメトリ部門

講演

1. 小賀厚徳, 高橋良: 私と時間と日本サイトメトリー学会と. 第34回日本サイトメトリー学会学術集会. オンライン. 2024年7月.
2. 高橋良: 共同研究施設の現状と展望. 第34回日本サイトメトリー学会学術集会. オンライン. 2024年7月.
3. Takahashi R, Kinoshita-Ise M, Sato Y, Kimishima M, Ohyama M: Consistent PD-1 decrease in cytotoxic T cell subsets suggests treatment-resistancy in rapidly progressive alopecia areata. The 49th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Nagoya. December, 2024.
4. Hayakawa R, Takahashi R, Fukuyama M, Tsukashima A, Kimishima M, Yamazaki Y, Ohyama M: Discovery of human dermal papilla cell surface markers for living cell isolation using a novel culture condition with WNT and FGF activation. The 49th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Nagoya. December, 2024.

報告書

1. 高橋良: T細胞プロファイルを指標とした経口JAK阻害薬の治療効果予測因子の確立. 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)実施状況報告書(研究実施状況報告書).

その他

1. 高橋良: BD FACSMelodyセルソーター 使い方講座. YouTube.2024. (限定公開).

共同研究施設実験動物施設部門

講演

1. 北条史, 大崎敬子: PMA-PCRによるピロリ菌VBNCの評価. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会. 倉敷. 2024年6月.
2. 北条史, 三戸部治郎, 神谷茂, 大崎敬子: PMA-PCRによるピロリ菌VBNCの評価. 第97回日本細菌学会総会. 札幌. 2024年8月.
3. 北条史, 大崎敬子: 無菌マウス体内における *Helicobacter pylori* の生態と形態について. 第58回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会. 藤沢. 2025年1月.

その他

1. 北条史: NHK総合あしたのトリセツショー「胃のお悩み改善! 胃もたれ・胃痛・胸やけ・胃がんSP」. 出演 2024年9月26日放送.
2. 北条史: 佐々木正五賞 受賞. 第58回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会. 藤沢. 2025年1月.

生物学教室

講演

1. Hirai K: The mitotic spindle drives diploidization of haploid chromosome complements in *Drosophila* fertilized and parthenogenetic embryos. International Congress of Entomology

2024. Kyoto. August. 2024.

2. Kato K, Nozaki E, Awasaki T: What triggers dedifferentiation and proliferation of glial cells at the onset of *Drosophila* metamorphosis. The 20th biennial European *Drosophila* Neurobiology Conference, NeuroFly 2024. United Kingdom. September. 2024
3. Awasaki T, Sato S, Orihara-Ono M, Ushimaru M, Kato K, Ichikawa Y: Analysis of the *Drosophila pollux* ortholog of TBC1D4, a gene associated with increased risk of type 2 diabetes in Inuit. 15th Japan *Drosophila* Research Conference (JDRRC15). Sendai. September. 2024.
4. 栗崎健: グリーンランドイヌイトからショウジョウバエの食戦略について考える. 第23回「認識と形成」研究会. 鳥羽. 2024年11月
5. 平井和之, 澤村京一: ショウジョウバエのELYSは受精卵における雌雄前核の並置に必要である. 第47回日本分子生物学会年会. 福岡. 2024年11月.

論文

1. Omiya H, Onuma M, Awasaki T, Kamimura, Y, Sawamura K: Genital coupling and copulatory wounding in the *Drosophila rufa* species complex: comparison with the *D. auraria* species complex (Diptera: Drosophilidae). Biological Journal of the Linnean Society. 2024, 143blae093. doi: 10.1093/biolinnean/blae093.

物理学教室

著書

1. Khan FA, 大谷宗久, 田中良太, 小島洋平: (医療VRコンテンツ)超音波プローブ操作. ジョリーグッド社. <https://jollygood.co.jp/>. 2025年.
2. Khan FA, Ohtani M, Tanaka R, Fujii H: Musculoskeletal Ultrasound - Part 2 [VR Clinical Training]. JollyGood Japan. <https://jollygood.co.jp/>. 2025.

化学教室

講演

1. 須賀圭, 山本-土方幸子, 寺尾安生, 丑丸真: オルガネラストレス下におけるER-Golgi SNAREの発現とBAPPプロセシングの神経系細胞での比較検討. 第67回日本神経化学学会大会. 福岡. 2024年7月.
2. 山本-土方幸子, 須賀圭, 丑丸真: 発現ベクターに挿入した遺伝子に生じる異常スプライシング. 第47回日本分子生物学会. 福岡. 2024年11月.

英語学教室

講演

1. 黒田航: 英単語の発音と綴りの, HDPを使った教師なしパターン抽出. 日本認知科学会第41回大会. 東京. 2024年9月.

2. Kuroda K: In search of efficient, parsing-free encodings of word structure: efficacy comparison among n -grams, skippy n -grams and extended skippy n -grams on noun classification. *In Proceedings of the 31st Annual Meeting of Natural Language Processing Association*. 長崎. 2025年3月.

著 書

1. 黒田航 (分担執筆) : 第2節自然言語処理による専門用語の構成解析:医療用語を例に. 自然言語処理の導入と活用事例. 技術情報協会. 2024. 297-309.

その他

1. Khan FA, Ohtani M, Tanaka R, Fujii H: Musculoskeletal Ultrasound - Part 2 [VR Clinical Training]. Kyorin University Hospital / JollyGood Japan. <https://jollygood.co.jp/>. March. 2025.